

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Dictionary of the Practical Use of Okinawan

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮良, 信詳, Miyara, Shinsho メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003210

うちなーぐち活用辞典

宮良信詳

はじめに

『うちなーぐち活用辞典』は、沖縄語による表現やその理解を支えている慣用的な用法に慣れ親しむことを目的とする手引書である。沖縄語は1千年以上にわたって琉球列島において先祖代々受け継がれてきた言語であるが、いったいどのような言語的位置づけが適切なのか、どのようなしくみをもつ言語なのかについては、本書とは姉妹書の『うちなーぐち しくみと解説』（沖縄時事出版、2019年）において詳しく解説している。そのしくみと解説に基づき、普段の暮らし、行事、伝統的なものの見方考え方、遊び、伝説、時事問題とかを題材にし、文脈・場面を取り込んだ豊富な例文から語法が楽しく学びとれるように工夫されている。沖縄語の表記については、巻末の附録における解説を参照していただきたい。

「しまくとぅばの日」県条例（2006年）の施行以来、沖縄語の復興に県民は大きな関心を寄せている。2013年に県が実施した調査報告によると、県民の90.2%がしまくとぅばに親しみをもち、86.7%が子供たちに使えるようになるのを望んでいる。しかしながら、沖縄語の活性化には規範的かつ実用的な文法解説や語法を扱った本格的な書が必要とされるが、文法解説については上記の姉妹書が一応の役目は果たしていると考えている。さらに、そのしくみに基づいたうえで、ことばによる表現のしかたを理解し、活用する手助けとなる実用書があれば、沖縄語を幅広く順序立ててきちんと学ぶことができるようになる。

八重山石垣島四箇に生まれ育った執筆者にとって、沖縄語は母語ではないので、周りのたくさんの方々からのご協力をあおいでいる。なかでも、^{なふあ}‘那覇んちゅ’の稲嶺千恵さんには言語資料提供者になっていただき、その献身的な手助けが実に数年にわたって続いた。こちらが望む内容以上にいつも豊かな発想力で生活感溢れる例文で対応していただき、充実した時間を過ごした。2014年秋からは、生粋の^{すい}‘首里んちゅ’の玉那覇朝子さんに、文例の綿密な最終チェックを引き受けていただいた。いつも場面に適切な表現に細心の注意を払っていただき、例文の向上に多大な貢献をしている。沖縄語の普及に必要な書の制作に協力するという、お二方の深い理解と情熱無くしては到底完成することができなかつたことは言うまでもない。以上のような経緯は別として、それでも内容に何らかの不備があるとすれば、当然ながら責任はすべて執筆・編集者にあることも明らかにしておきたい。

それから、沖縄語について何かを調べたり考えたりするうえで、随時参考にしてきたのが『沖縄語辞典』（国立国語研究所編、1963年）なのだが、この度も随分とその恩恵に浴している。また、沖縄言語研究センター編『那覇の方言I』並びに『那覇の方言』（1994年）から多くの例を参考にさせていただいていることも特記しなければならない。

最後に、本辞典が沖縄語学習の手引書として、今後大いに活用されることを願ってやまない。

2021年 啓 蝨 ^{むしうどろく} 執筆・編集者 宮良信詳

本辞典について

この手引書は、基本的に首里・那覇で話されている沖縄語に基づくが、首里のことばにおける「だ／でい／どう／で／ど」が那覇ではすべて「ら／り／る／れ／ろ」となるので、その両者を区別するという点では首里のことばの方に従っている。さらに、動詞の現在形に関して、首里ではどちらかと言えば「とうゆん」(取る)が好まれる傾向にあるが、「とういん(厳密には、とうゐん)」も遣われている。その丁寧表現は、首里や那覇では「とういびーん」「とうやびーん」のようになり、その語尾は「～ゆん」ではなく、「～いん」になっている。それで、簡素化のため、本書では原則として「～ゆん」よりも「～いん」が多用されているが、「～ゆん」も適時採用している。例えば、動詞語根「ういー」(酔)のように末尾が同一母音連続iiの場合には、その現在形「～いん」では「ういーいん」のように同一母音の3連続になるので、それが普通の談話速度では3拍の「ういーん」になってしまい、語根と続く「～いん」の切れ目が明示的ではない。そのような時には、2拍の語根「ういー」に2拍の語尾「～ゆん」を加えた4拍の「ういーゆん」(酔う)の方を採用するようにしている。

また、尊敬表現になると、首里では「とうみしえーん」(お持ちになる)だが、那覇やその他の地域ではどちらかと言えば「とういみしえーん」の方が一般的である。さらに、首里における「あけじゅ」「はべる」「っゆん」は、那覇やその他の地域では「あーけーじゅー」(トンボ)、「はーべーるー」(蝶)、「いーん」(言う)の方が一般的に広く遣われているので、広域性のある方を採用するようにはしている。以上を考慮すると、純粋な那覇ことばにも純粋な首里のことばにはなっていない場合もある。地域独自の伝統的なことばが危機的な状況にあるなかで、明確な地域差が失われ始めているのも現在の姿である。このような地域差については、学習を重ねて自分のものとして身に付けていくなかで、読者の個々の判断でどちらかを選択することで自然に対処できるものだと考えている。また、首里・那覇からかなり離れた地域の沖縄語の場合には、その地域独特の表現形式に置き換えたりして活用することもできるはずである。

例文の内容や表現については、その数の多さからいくらかでも時間をかけることができるという状況でもないので、いろいろと至らない部分が出てくることは覚悟するところであるが、その点は斟酌していただきたい。本辞典を愛用していただけるのであれば、沖縄語のしくみやその語法だけでなく、沖縄語の精神世界や、沖縄の暮らしや文化の深い理解にもどこかでつながっていくものと信じている。

本辞典における見出し語表示については、できるかぎり最小の意味単位(形態素)で区切ることによって、同根から派生された語をひとまとめできるように配列している。しかしながら、例文の読みやすさを考慮して、その例文中ではそのような小さな区切りはやめて、仮名で語や句を単位として表記するようにしている。



注意事項

1 用例の見出しについて

大見出しの語は、ゴシック体にし、動詞/名詞、形容詞、副詞別に編成されている。動詞については、現在形（～いん、～ゆん、～ゆん、～ん）で表示する。その過去形（～たん、～だん、～ちゃん、～ぢゃん）、否定形（～らん、～ん）、並列形式（～てい、～でい、～ち、～ぢ）の表示は、次の通りである。

【活】 あがたん、あがらん、あがてい

ここでの並列形式とは、「食べて」における「て」に対応する形式のことである。名詞の場合も、直接関連する情報があれば、【活】で追加される。

動詞/名詞の場合、同一語根から派生される小見出しの語については、最初の字は引っ込めて、小さ目のゴシック体で表示する。大小の見出しは、可能であれば最小の意味単位（形態素）で分割する。一方、形容詞については、一律に現在形は（～さん）、過去形は（～さたん）、現在否定形は（～こーねーん）のようになるため、あえて意味単位ごとの表示はしない。副詞についても、意味単位ごとの表示はしない。

～AにおけるAは接尾辞、A～におけるAは接頭辞である。例えば、～ぐわー〈指小辞〉における‘ぐわー’は接尾辞だが、あち～〈暑、熱、厚〉における‘あち’は接頭辞である。

2 用例について

用例は平叙文か、疑問文か、感嘆文なのかをそれぞれピリオド「。」、疑問符「?」、感嘆符「!」で区別し（附録の3.5.14節を参照）、語句の区切りは「、」で表示する。用例の和訳は、（ ）内で示されるが、（ ）の後にくるのがピリオド「。」か句点「、」なのかによって、原則として、文訳か否かが区別される。

【例】 ていーだぬ あがいん。（太陽が上がる）。

【例】 あかていーだ（夕日）、あかじなー（十円玉）...

さらに、(*)は続く用例が容認されないことを表す。(=)は言い換え表現を表すが、その和訳はしない。

関連する事例を取り上げる際には、語句は(,)で、文は(;)で区切る。

【参】 ちまぐー（豚・牛・馬の下関節）、こーとう（鳥・犬・猫のつま先）

【参】 みーやー やくとう、あかあかーとう そーん（新築だから、とても輝いている）；ちらん ふいち やいかんとーん（顔も輝いている）

目次

はじめに	i
本辞典について	iii
注意事項	v
1 用例の見出しについて	v
2 用例について	v
動詞・名詞編	3
あ	3
い	15
う	29
え	53
お	55
か、が	57
き、ぎ	81
く、ぐ	85
け、げ	109
こ、ご	113
くわ、ぐわ	115
つくわ、ぐわ	119
くい、ぐい	121
くえ、ぐえ	123
さ	125
し、じ	135
す	157
そ	165
た、だ	169
ち、ぢ	181
っち	193
てい、でい	195
とう	201
て、で	213
と	215

な	.217
に	.227
ぬ	.235
ね	.243
の	.245
は、ば	.247
ひ、び	.259
ふ、ぶ	.261
べ	.273
ほ、ぼ	.275
ふぁ	.277
ふい	.279
ふえ	.295
ば、び、ぶ、ぺ、ぽ	.299
ま	.301
み	.313
む	.321
め	.331
も	.333
や	.335
っや	.345
ゐ	.347
ゆ	.349
よ	.357
ら	.359
り	.361
る	.363
ろ	.365
わ	.367
うい	.375
をう	.377
を	.381
っわ	.383
っうい	.385
っうえ	.387
ん	.389
っん	.395
形容詞編	401
あ	.401

い	.403
う	.405
お	.407
か、が	.409
き、ぎ	.411
く、ぐ	.413
こ、ご	.417
さ	.419
し、じ	.421
す	.423
そ	.425
た、だ	.427
ち、ぢ	.429
っち	.431
てい、でい	.433
とう、どう	.435
ちゆ	.437
な	.439
に	.441
ぬ	.443
は	.445
ひ	.447
ふ、ぶ	.449
ふい	.451
ふえ	.453
ま	.455
み	.457
む	.459
や	.461
ゆ	.463
よ	.465
ら	.467
わ	.469
うい	.471
をう	.473
っうい	.475
ん	.477
っん	.479

副詞編	483
あ	.483
い	.485
う	.487
か、が	.489
き、ぎ	.491
く、ぐ	.493
け、げ	.495
くわ、ぐわ	.497
くい、ぐい	.499
くえ、ぐえ	.501
さ	.503
し	.505
す	.507
そ	.509
た、だ	.511
ち、ぢ	.513
て、で	.515
とう	.517
ちゃ	.519
ちゅ	.521
な	.523
に	.525
ぬ	.527
は、ば	.529
ひ、び、び	.531
っぴ	.533
ぶ	.535
ふい	.537
ふえ	.539
ま	.541
み	.543
め	.545
も	.547
や	.549
ゆ	.551
よ	.553
わ	.555
うえ	.557
ん	.559
っん	.561

附録.....	.563
1 沖縄語の拍.....	.563
2 沖縄語の表記法（要約）.....	.563
3 沖縄語の表記法（解説）.....	.565
3.1 表記法の必要性について.....	.565
3.2 沖縄語の本表記法について.....	.566
3.3 「沖縄語」とは？.....	.566
3.4 本表記法の目的.....	.566
3.5 仮名表記法の解説.....	.567
参考文献.....	.573

動詞・名詞編

あ

あーいん 〈合う〉【活】あーたん、あーらん、あーてい 【例】さんみのー あーとーみ？(計算は合っているか)。っやー ふいさとう あーいみ？(あなたの足と合うか)。あんだむんとう ふいじゆる みじえー あーらん。(油で炒めたものと冷たい水は合わない)。【参】新しくは「あたいん」も使う。

あーけーじゅー 〈トンボ、蜻蛉〉【参】たーまー (鬼やんま)。

あーすん 〈1合わす、2混ぜる〉【活】あーちゃん、あーさん、あーち 【例】すーじぐわーをうてい あったに っちゆぬ とうんぢていちゃーに ちぶる あーち たいぬ むのー がーな などーたん どー。(路地で急に人が跳び出してきて頭をぶつけて二人はたんこぶができていたよ)。じかん あーすん。(時間を合わせる)。ちら あーすん。(顔を合わせる)。っちゆとう あーすん。(人と対面させる)。うし あーすん。(牛と牛を戦わす)。ありとー ちらん あーさらん。(彼とは顔も合わせられない)。チャンネル あーすん。(チャンネルを合わせる)。あーし ぢん のーいん。(裏付きの着物を縫う)。くりっし あーしえー。(これで和えなさい)。ちん あーすん。(試着する)。

あい、あいこー 〈蟻〉【例】くわーし ほういねー、あいこーぬ あちまていちゃーに みみん くーらりーん どー。(お菓子を散らかすと、蟻が集まってきて耳もかまれるよ)。あいぬ むっちっんぢん ふいなゆん どー。

(蟻が持つて行くだけで減るんだよ、少しだからといって油断は禁物)。

あか 〈(頭髪、衣服、船底の) 汚れ〉【例】からじ／ちんぬ あかー (=ゆぐれー) うていとーみ？(髪／衣服の汚れは落ちているか)。あかーくむん。(船底の汚れを汲み出す)。【参】ふいんぐ(垢)、いりち(鱗、頭のふけ)。

あか 〈赤〉【例】あかていーだ(夕日)、あかじなー(十円玉)、あかぢらー(赤ら顔)、あかんぐわ(赤ん坊)、あかんーちゃ(赤土)、あかまーみー(あずき)、あかな(紫蘇)、あかがーら(赤瓦)、あかさび(赤錆び)、あかうし(茶色の牛)、あかぎー(赤毛)、あかばなー(ハイビスカス)、あかんみ(赤嶺)。

あかむん 〈赤くなる、果実が色づく〉【活】あかだん、あかまん、あかてい 【例】マンゴーぬ／くにぶぬ あかむん。(マンゴーが／ミカンが色づく)。さきっし ちらぬ あかむん。(酒で顔が赤くなる)。

あがいん 〈1上がる、2上達する、悪い方に優れる3終わる〉【活】あがたん、あがらん、あがてい 【例】1ていーだぬ あがいん。(太陽が上がる)。にーぬ あがいん。(値が上がる)。あれー あがやー などーん。(あの人は出世している)。2うでいぬ／じーぬ あがいん。(腕が／字が上達する)。うた あがらすん。(歌を上達させる)。ありやか なーふいん あがいん。(あれよりさらに悪い)。ぬすどうやか あがったむん。(泥棒よりもさらに悪い者)。あまぬ うやー っくわやか なーふいん あがったむ

ん やん どー。(あの親は子よりもなおさらひどいよ、=なーふいん ちじどう やん どー)。3なー あみん あがとーん。(もう雨も上がっている)。なー っくわ なしあがていー? (もう子づくりは終わったの=っくわ ちゆくいしえー なー うっさ なー?)。かちあがとーみ? (書き終わっているか)。いー、かちあがとーん どー。(はい、書き終わっているよ)。しくち あがたん。(仕事終わった)。ちゅーぬ まちえー あがとーん。(今日の市場は終わっている)。ちゅーや なー あちねー あがとーん。(今日はもう商売は終わっている)。ていんぷらーん とーふん あがとーん どー。(テンプラも豆腐も揚がっているよ)。

あが い ていーだ 〈昇る太陽〉【例】あがいていーだ くまー (昇る太陽に組する者、日和見)、=みーさ かばさー (新しいのを嗅ぐ者、日和見)。あがいていーだどう をうがむる、さがいていーだー をうがまんでー いらっとーしが あがいていーだ をうがまー なてー ならん どー。(昇る太陽こそ拝む、落日は拝まないとはいわれているが、勢いのある人ばかりをとりいる人になってはいけないよ)。

あが やー 〈偉い人〉【例】うみはまていびんちよーしわどう あとあとー あがやー なたい たかでいまーとうやー ないん どー。(一生懸命勉強して将来偉くなって高給取りになるんだよ)。

あかがいん 〈明るくなる〉【活】あかがたん、あかがらん、あかがてい 【例】ゆーん あきてい あかがとーくとう、ふえーくなー うきれー。(夜も明けて明るくなっているの、早く起きなさい)。【参】みーやー やくとう、あかあかーとう そーん やー (新築だから、とても輝いているね); ちらん ふいちゃいかんとーん (顔も輝いている)。

あかがい 〈灯火、明るいところ〉【例】あかがい ちきれー。(灯りをつけなさい)。【参】くらしん (暗闇)、まっくらしん (真っ暗闇)。

あかがらすん 〈明るくする〉【活】あかがら

ちゃん、あかがらさん、あかがらち 【例】あかがらしえー。(明るくしなさい、=あかがい ちきれー)。

あかすん 〈開ける、明かす〉【活】あかちゃん、あかさん、あかち 【例】むぬ あかしえー (謎解き)。うぬ はく/ふくる/段ボール あかしえー。(その箱/袋/段ボールを開けなさい)。たびぬ やどうをうてい やーじしーさーににんだらんたくとう、ゆー あかしかんていー さん。(旅の宿で慣れなくて眠れなかったの、夜明けを待つのにうんざりした)。【参】ゆーぬ あきーしぬ したたか にーさんねー すたん (夜が明けの遅いような気がしていた); したたか にりとーたっさー (とても嫌になっていた); ちむ あきれー (心を開きなさい)。

あがた 〈あちら〉【例】まーんかい うちゆが? あがたんかい うちよーけー。(どこに置くの。あちらに置いておけ)。

あがち 〈ヤンバルクイナ〉【例】「やんばるくいな」んでいち しけーんかい ゆー しらっとーる とういぬ をうしが、うちなーぐちしえー 「あがち」んでいどう いちよーる。うちなーむのー むる うちなーなーんかい のーしびちー あらに? (「ヤンバルクイナ」という世界に知られた鳥がいるが、沖縄語では「アガチ」といっている。沖縄のものはすべて沖縄語名にすべきではないのか)。

あがちゅん 〈1よく働く、2はかどる〉【活】あがちゃん、あがかん、あがち 【例】1あれー ゆー あがちゃー やっさー やー。(あいつは働き者だね)。2しくちえー/びんちよーや ちゃーが? あがちよーみ? (仕事は/勉強はどうだ。はかどっているか)。しくちえー むる あがかん さー。(仕事はまったくはかどらないよ)。しゅくだいん びんちよーん あがかん ねー やー。(宿題も勉強もしないとねえ)。ぬー しみていん ぬーんかいん あがかん。(何をさせてもどうにもはかどらない)。

あかちち 〈夜明け、暁〉【例】あかちちうき（夜明け起床）、ふえーうき（早起き）。【参】ゆーあきがた（ほのかに明るくなってくる頃）。

あがとー 〈あんな遠く〉【例】なちじんぐしこー あがとー やくとう ふえーくなー っんぢらんとー ならん てー。（今帰仁城はあんな遠いので早く出発しないといけない）。なちじんぐしこー うがとーんかい あてーさやー。にじかん かかとーっさ。（今帰仁城はそんな遠くにあったんだね。2時間かかっているよ）。あがとーから ちゃん なー？（あんなに遠くから来たの）。あがとーから ちゅーるばー む？（あんなに遠くから来るのか）。

あがねーいん 〈節約する〉【活】あがねーたん、あがねーらん、あがねーてい【例】あがねー じょーじ ないわどう やーむちやー ないん どー。（儉約家になれば家計のやりくりもできるよ）。もーきーし やかー あがねーり／くめーきり よー。（儲けることよりは節約しなさいよ）。もーきらぢ やか あがねーり。（もうけようとするより節約しなさい）。もーきら、もーきら そーし やか あがねーり。（もうけようとするより節約しなさい）。【参】もーきらぢ=もーきらんでい すし（もうけようすること）、もーきらぢ そーん（もうけようとしている）、くめーきーん（つつましくする）。

あがみーん 〈敬う〉【活】あがみたん、あがみらん、あがみてい【例】しんしーん どうしん むぬ っちゅんでい うむとーてい、っちゅあがみぬ ねーらん／たらーん。（先生も友人も同じ人と思っていて、人を敬うところがない／足りない）。

あがらすん 〈揚げる〉【活】あがらちゃん、あがらさん、あがらち【例】さーたーあんだぎー あがらすん。（サターアングギーを揚げる）。あがらさー（揚げ物）。

あがらすん 〈完成させる〉【活】あがらちゃん、あがらさん、あがらち【例】ていがめー／

ぐじょーや かしあがらちゃん どー。（手紙は書き終えたよ）。パン やちあがらちゃん どー。（パンを焼きあげたよ）。

あぎ 〈陸〉【例】あぎがーみー（陸亀）、うみがーみー（海亀）。るーぐーぬ えーむん、あぎぬ えーむん（龍宮からの品揃え【例、いゆ、くーぶ、けー】や陸からの品揃え）。とーほー あぎぬ しし やさ。ちゅふあーら かめー。（豆腐は陸の肉【蛋白質】だよ。たくさん食べなさい）。うみぬ ふりむんや いゆ やしが、あぎぬ ふりむんや ういきが どー。（海の愚か者は魚だが、陸の愚か者は男だよ）。

あきーん 〈開く〉【活】あきたん、あきらん、あきてい【例】しゅむち あきーん／くーいん。（本を開く／閉じる）。

あぎまーすん 〈せきたてる〉【活】あぎまーちゃん、あぎまーさん、あぎまーち【例】ふえーくなー ふえーくなーっし ちゃー あぎまーさってい むぬかんげーん ならん。（早く早くといつもせきたてられて考える余裕もない）。でいっか でいっか さーに あぎまーしえー。あちやー ないん どー。（さあさあとせきたてなさい。明日になってしまうよ）。あぎまーすなけー。あわていーる なーか よーんなー やさ。（せきたてないで。急ぐなかでも心は落ち着けてだよ）。なーだなー なーだなーっし あぎまーさんけー。ゆくん につかないさ。（まだかまだかとせきたてないでよ。よけい遅くなるよ）。

あきま どうし 〈新年〉【例】くじゅんみーかんげーっし くいみそーち いっぺーにふえーでーびる。あきまどうしん ゆたさるぐとう うにげーさびーん。（昨年もお世話になりました、大変ありがとうございます。新年もよろしくお願い致します）。

あこーくろー 〈夕暮れ、薄暮〉【例】あこーくろー ないねー ちむ わさわさっし いすぢ やーんかい けーいぶしく ないん。（薄

暮になると心が落ち着かなくなって急いで家に帰りたくなる)。【参】ふいー (1日の区分名称)。

あさ 〈朝〉 【例】みーぐち やくとう、あさがりー ちちょーさ。(最初の商いなので、朝から縁起が良いよ)。あさやちや あみんでいいらっとうしが。(朝焼けは雨だと言われているが)。

あさ なー 〈朝寝坊〉 【例】ふにぬ っういーぬ あさなーや すーかじんかい あたてい みーくふあたん。(船の上の朝寝坊は潮風にあたって目が覚めた)。

あさ んなーら 〈朝っぱら〉 【例】そーぐわちねー ういなごー あさんなーらから っちゆぬ やーんかい いちゆる むのー あらん。(正月には女性は朝早くから他所の家に行くものではない)。あさんなーらから／あかちちなーらから／していみていなーらから あーはなしぬ あたん。(朝早くから／夜明けから／早朝から良い話があった)。あさんなーらから まやーぬ やなあび そーん。(朝っぱらから猫が嫌な鳴き声をしている)。っちゆぬ やーんかい あさんなーらから ちー?(他所の家に朝早くから来たの)。

あさぐいん 〈勝手にかき回す〉【活】あさぐたん、あさぐらん、あさぐてい 【例】たーがうり あさぐたが?(だれがそれを勝手にかき回したか)。っちゆぬ むん あさぐやー(他人のものを勝手にかき回す者)。あれー ていーぐしえー ねーんしが、っちゆぬ むん ぬーんくいん むんみじらさー なやーに どうーかっていーっし あさぐいくとう、ちー ちきり よー。あまんかい かじみとーけー(あの人は盗癖はないが、他人のものを何でももの珍しくして自分勝手にかき回すので気をつけなさいよ。あそこにしまっておきなさい)。あさぐやーや しかん さりーん／ちらーりーん／みっくわさ さりーん。(あら探する者は好かれない／嫌われる／憎まれる)。みーみーくーじー むる っちゆぬ むん あさぐら あさぐら そーる っちゆ(あれこれすべて他人

のものをかき回そうとする者)。ちむ あさぐやー(心を探り出そうとする者)。あれー また わん ちむ あさぐてい(あれはまた私の心を探って)。ちむ くじやー(他人の心を探り回す者)、=っちゆ わじらさー(人を怒らせる者)。あれー ちむ くじやー どー。わた くじ むにー さってい よー。んーだん ふーなー そーけー。(あれは人の心を探り回す奴だよ。嫌な言葉を浴びせられてね。見ないふりをしておけ)。

あし 〈足〉 【例】あしどうみ(入構禁止、*「ふいさどうみ」とは言わない)。あしふいさ いりらさん どー。(足一歩も入れさせないぞ)。いちゆる とうくる いちゆる とうくる むる うーやー からからーっし あし まちぶい そーっさー。(行くところ行くところすべて追いかけて来てじゃましてくるよ)。あしげーし(その場に残っている人の精気を本人に戻すこと、*「ふいさげーし」とは言わない、=くまんかい ぬくとーる しー ぬーしんかい むどうすん)。すーこーん うわてい っんまから いっちやいっんぢたい そーる うちやくぬ あしげーし。(=まぶいげーし、まぶいわかし) さびーくとう、なー めーめーぬ ぬーしんかい けーしみていくいみそーり よー。(焼香も終わってそこから出たり入ったりするお客の精気戻しをしますので、各人のもとに戻させてくださいね)。ちゅーる かーじ っちゆぬ やーんぢ あびやーあびやーっし いりわいさーに やーん むる みんぐわち、あれー くらちくいみそーんな。あしどうみっし くいみそーり よー。(来るたびに他所の家で大声を出して口論して家をかき乱して、あの人は来させなさらぬで出入り禁止にしてください)。ちまぐーんかいどう ぐすみちぬ うほーく いっちょーくとう ちまぐーぬ ましやさ。(豚足の下関節に軟骨が多く入っているので、下関節が良い)。【参】ちまぐー(豚・牛・馬の下関節)、こーとう(鳥・犬・猫のつま先)、ふいさ。

あし ていびち 〈足手足 (豚足の料理名)〉

【例】あしていびち ちゆくいくとう っわーびさ こーてい くーわ。(‘あしていびち’をつくるから豚足を買ってきなさい)。

あし 〈汗〉 【例】あし はやー (汗かき)。あ

しみじ はらち はたらちゆん。(汗水を流して働く)。じんてい いーしえー、あしはいみじはいっし もーきーる むんどう やる。(お金というのは汗水を流して稼ぐものだ)。うやぬ あしはい みじはいっし もーきたる じん やくとう、あたらさっし じん ちかり よー。(親が汗水を流して稼いだお金なので、大切にお金を使いなさいよ)。

あしがちゆん 〈あせる〉【活】あしがちゃん、

あしがかん、あしがち 【例】あしがチャーとーまじゅーん たびん ならん。(せっかちとは一緒に旅もできない)。んな あしがちっしまっちょーくとうとう、あわていれー。(みんなやきもきして待っているの、急ぎなさい)。ちゃっさ あしがち さんてーまん ないるぐとうどう ないる。あわていーるなーかぬ よーんなー やさ。(いくらあせったとしてもなるようにしかならない。急いでいても心は落ち着けてゆっくりすべきだよ)。

あじけー 〈シャコガイ〉 【例】うちなーを

うてー やなむんばれー すんてい あじけーふかんかい にかーち うじょーんかい さぎらったい、いしがちぬ っういーにん うかっとーん。(沖縄では魔除けとしてシャコガイを外に向けて門に下げられたり、石垣の上にも置かれている)。

あしぶん 〈遊ぶ〉【活】あしだん、あしばん、

あしでい 【例】やー かけほーらーっし/かけほーてい あしでい あっちょーん。(家を放り捨てて遊んでばかりいる)。

あしび 〈遊び〉 【例】びんちょーん わじやん あしびがなーどう ないる。(勉強も仕事も息抜きが必要だ)。っちょー あしびん

でいきらちどう むぬぐとー なてい いちゆる。(人は遊びもしてこそ物事は成就する)。しゆむち はんぶん あしび はんぶんっしどう むぬぐとー かないる。(勉強も遊びもしてこそ物事は適う)。あしびぬ ちゆらさー にんじゆぬ すなわい やくとう、たーんかいん やていん くいー かきり よー。(歌踊りのにぎわいは人数がそろってのことなので、誰にでも声をかけなさいよ)。

あしぶ 〈あせも〉 【例】んかしえー あしぶ

っんぢーねー、ごーやーぬ ふあーとうかふーちばー ゆーんかい ちきてい、うりさーに しーねー あしぼー かりたん。(昔はあせもが出たら、ゴーヤーの葉とかヨモギを湯につけて、それで擦るとあせもは萎んだ)。

あじまー 〈交差するところ、交差すること〉

【例】あぬ あじまーから ふいぢやいんかい まがてい、あんしから 200メートルびけーちゃー まっしーぐー いちーねー、にぢりんかい まがてい ふいぢやいむていー などーさ。やくとう、みー ぐるぐる さんていん しぐ わかいさ。(あの交差点から左に曲がってそれから200メートルぐらいまっすぐ行ったら右に曲がって左手になっているよ。だから、戸惑わずにすぐわかるよ)。あじまーから にぢりんかい まがいーねー ふいぢやいぬ しぐ いっちやかい (ぐわー) やさ(交差点から右に曲がったら、左手のすぐそこだよ)。あじまーをうてー かかいむん ばれーぬ ないん。(交差点では霊払いができる)。

あじまー むすび 〈十字結び〉 【例】ぐ

しち みーちっし まぎく あじまーむすび しえーる げーんっし まぶやーぐみ すん。ぐしちぬ ふあー ていーちさーに くーく むしでーる さんぐわー ちゆくてい、くわっちーぬ っういーんかい うちきてい むんぬき すん。(ススキ3本で大きく十字結びをした「げーん」で「まぶやー込め」をする。ススキの葉1つで小さく結んである「さん」を作って、御馳走の上に添えて魔除けにする)。**【参】**げー

ん(ススキを束ねて、葉の先を折り曲げて結んで作ったお祓い用のもの)、まぶやーぐみ=まぶいぐみ(落とした魂を込めること)、さん(お供えの上に添える魔除け用のもの)。

あたい 〈くらい、程度〉【例】うぬ あたえー ちゃーん ねーびらん どー。(それ位はなんでもありませんよ、=どういたしまして)。

あたいん 〈あたる〉【活】あたたん、あたらん、あたてい【例】あん いー かん いーっし ちびとう くちぬ あたらん。(あれを言ったりこれを言ったりしてつじつまが合わない)。あつたー たいや ゆー あたとーさ。(あの二人は相性が良いね)。さんみのー あたとーみ? さんみん ぼっペーや ねーらに? さんみん あーし すみ?(計算はあっているか。計算間違いがないか。計算合わせをするか)。ちゅー かでーしがどう あたがやー?(今日食べたのがあつたのかね)。たからくじん うほーく。(なー) / うほーく (ねーん) / だてーん (なー) こーいねー、たーち みーちえー あたいが すが やー?(宝くじもたくさん買えば、2つ3つは当たるのかねえ)。どうーくる あん いやーに どうーあたい そーん どー。(自分でそう言って自省しているよ)。ちむ / うち / どうーあたい そーん どー。(自分のことだと思って自省しているよ)。ちゅー あたえー しえー をうらに?(ひとに強くあたってはいないか)。ちゅー ちゃっさ はなし しん わかいる むのー あらん。 どうーぬ っういーんかい あたていどう わかいる。(人はいくら話してもわかるものではない。自分の身の上にもふりかかってこそわかる)。
【参】あーいん。

あち〜〈暑、熱、厚〉【例】あちさん(暑い、熱い、厚い)からの接頭辞化。

あち ぐに 〈暑い地域〉【例】うちなーや あちぐに なてい あかー ちーるー おーるーぬ はなぬ さちかんてい あんし いるぬ ちゅらさる やー。(沖縄は暑い地方なの

で、赤色、黄色、青色の花が咲き誇って、なんと色がきれいなことよ)。
【参】ふいーぐに(寒い地域)。

あち ぶつたらー 〈厚着〉【例】あんすかなー あちぶつたらー ちち、っんぢゅぢぐり こーねーらに?(あんなに厚着して、動きににくいか)。

あちかいん 〈1あつかう、2こき使う〉【活】あちかたん、あちからん、あちかてい【例】くれー ちゃーっし あちかいが?(これはどのようにして扱うのか)。みーぐるま なてい あちかいよーぬ / あちけーぬ わからん。(新車なのであつかい方がわからない)。どうく まく とうなむん なてい っちゅんかい あちかりーっさ。(あまりにもお人好しなので、人にこき使われるんだよ)。なまー っちゅんかい あちかーつとーん。(今は人にこき使われている)。ぬーんくいん うーうーっし ちちゅくとう っちゅんかい あちかーりーっさ。(何でもはいはいと聞くので、人にこき使われるんだよ)。どうく ちりてい あちけーぐりさん / あちけーぐりー どー。(頭が良すぎて使いにくい)。

あちまいん 〈集まる〉【活】あちまたん、あちまらん、あちまてい【例】ちゅーや すりーぬ あくとう すりーじゅりー めんそーりよー。(今日は集まりがあるのでご一緒にいらっしやいね)。

あちやー 〈明日〉【例】あちやーん ふいーや あんでい うむてー ならん どー。(明日があると思っはいけないよ)。

あちゅん 〈明く、開く、空く〉【活】あちやん、あかん、あち【例】はしるぬ あちゅん。(戸が開く)。やーぬ あちゅん。(家が空く)。たーん をうらん。あちやー / からやー などーん。(誰もいない。空き家になっているよ)。ふたぬ ふいぢやい まーし しん あかん むのー、っういーんかい ふいっばいねー あちゅさ。(蓋が左回りにしても開かないものは上に引っ張ると開くよ)。

あちらすん 〈食べ物をおぼめる〉【活】あちらちゃん、あちらさん、あちらち 【例】ちぬーぬカレー あちらち かむん。(昨日のカレーをおぼめて食べる)。なちえー むのー あちらち うちきとーかんねー、しーてい かまらん ないん どー。(夏は食べ物はおぼめておかないと、腐って食べられなくなるよ)。

あちりーん 〈熱くなる〉【活】あちりたん、あちりらん、あちりてい 【例】ちゅーしゃじょーぬ くるまんかい むどういねー、くるまぬ あちりてい ふあーふあーっし まーん さーらん、ぬいん ならん。(駐車場の車に戻ると、車が熱くなってぢりぢりしてどこもおぼれない、乗るのもできない)。

あちれーゆん 〈注文して仕立てる〉【活】あちれーたん、あちれーらん、あちれーてい 【例】あちれーむん(注文して仕立てたもの)。ぼさーぢん あちれーり。(芭蕉布の着物を注文して仕立てなさい)。びんがたぢのー あちれーていー?(紅型の着物は注文したか)。

あつく すん 〈(上から目線でお)叱りつける、怒鳴る〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】しゃちよーんかい うすまさ あつくむっく さってい よー。(社長にさんざん怒鳴られてねえ)。じゅんさんかい/しーじゃかたんかい/しんしーんかい/いさんかい うすまさ あつくむっく さった さー。(警官に/目上の人に/先生に/医者にさんざん叱りつけられたよ)。いさんかい あびらってい あつく さったん。(医者に怒鳴られて叱りつけられた)。

あつた〜〈急〉【例】っやーや っちゆぬ みみぬ すばんぢ あつたあびーっし たましぬぎたっさー。(おまえは人の耳の側で急に大声を出してびっくりしたよ)。なま やーんかい けーいんちどう そーたしが、あつたぶいっし かさん ねーらん、じゃーふえー そーっさー。(今家に帰ろうとしていたが、急に雨が降って傘もない、困っているよ)。あいえ

ーなー! ちゅーや あさから ていーだ くわらくわら そーたくとう うーどうから しんたくむんから ふかんかい ふちやしが/ふちえーしが、あつたぶいっし なまから やーんかい むどうりわどう ないん。(しまった!)

今日は朝から太陽がカンカン照っていたので、布団も洗濯物も外に干したが/干してあるが、急に雨が降ってこれから家に戻らないといけなひ。あつたわれー(急な笑い)、あつたなち(急に泣くこと)。

あつた ばじょー 〈ちらっと見の良さ、見かけ〉【例】あれー あつたばじょーどう やん どー。っんまー ぬていどう しらりーる、っちよー ふいらていどう しらりーる。(あいつは見かけだけだよ、馬は乗ってこそわかるし、人はつき合ってこそわかる)。あつたばじょーや ちゅらさー あしが。(みかけはきれいなのだが)。くぬ ないむのー まーさぎさー やたしが[かーぎぬぐとう まーさが あがやーんでい うむたしが]、あつたばじょーどう やっさー。(この果物はおいしそうだったが、見かけが良いだけだよ)。くぬ ないむのー ばじょーや ねーらんしが、かみーねー まーさん/かだくとう まーさたん どー。(この果物は見かけの良さはなひが、食べるとおいしい/食べたらいしかったよ)。

あつたみ 〈精肉〉【例】ぶた あつたみ(豚肉)、=っわーぬ なまじし(豚の精肉)。ちぬ あつたみ(牛肉)、=うしぬ なまじし(牛の精肉)。やま あつたみ(イノシシの肉)。【参】ふいーじゃーぬ なまじし(山羊の精肉)。

あつたる 〈大事な、大切な〉【例】あいゑーなー、あつたる んーす していてー ならん どー。(あれあれ、大切な味噌を捨ててはひけなひよ)。あつたる わらび をうらん なしみてい なー。(大事な子を失くしてしまつてね)。あつたる どうじ ふいんがちやる ばー なー? じゃーふえー そーさ やー。(大事な妻を逃がしたのか。困ったことになつたね)。あつたる どうじ をうらん なしみて

い なー？(大事な妻を居なくしてしまったのか)。うんちえーぬ ふあーびけー とうやーに ぐちえー むる していてい、なまぬ わかむんぬちやーや あったる かみむぬん むる していーん どー。(空心菜の葉だけ取って茎をみんな捨てて、今時の若者たちは大切な食べ物をみんな捨ててしまうよ)。あったる じん ねーん などーさ／うとうち ねーらん どー／うとうちえーさ やー。(大切なお金が無くなっているよ／を落としてしまっているよ／を落としてしまったんだね)。

あっちゅん <動きまわる、動く、歩く>【活】

あっちゅん、あっかん、あっち 【例】とうちーぬ やんでいてい あっかん などーん。(時計が壊れて動かなくなっている)。うみ あっちやー (漁師)、はる あっちやー (耕作人)。なまー まー あっちよーが？(今は仕事は何をしているの)。あっちんしえーみ？(お元気でいらっしやいますか)。やー かしほーらーっし／かしほーてい あしでい あっちよーん。(家を放ったらかして遊びまわっている)。わーやなぐち いち あっちゅる ぐとーん。(私の悪口を言いふらしてるようだ)。あっからん あっちっし (嫌々ながら歩いて)。あっちゅみ？(元気か)。

あっぺーる／うっぺーる／くっぺーる

<あの／その／この大きさ> 【例】っやーや くっぺーる いし ちやーっし むっちちやが？(あなたはこの大きさの石をどのようにして持って来たか)。あっぺーる いゆ くわーち、いくたい しんかっし かだが？(あの大きさの魚を釣って、何人の仲間で食べたの)。

あてい <思慮、目当て> 【例】あてい なし

むん なてい ぬーん わからん。(幼稚な者で何もわからない)。わんねー どうーちゅいむんどう やん どー。たーん をうらん。いちちよーてーまん ぬーぬ あていん ねーらん。(私は独り者だよ。誰もいない。生きていても何の当てもない)。しくちえー ぬーが

しーぶさら？ なーだ あていぬ ねーらん。(仕事はいったい何をしたいのかまだ定まっていない)。

あていーん <当てる>【活】あていたん、あ

ていらん、あていてい 【例】あれー くるまんかい あていらったん。ちゅーあたえー しえー をうらに？(あの人は車にぶつけられた。強い衝突をしていないね)。くるまんかい くわーさったん／とうばさったん。(車に轢かれた／ぶっ飛ばされた)。

あていげーふー／あていんぷー／あ

びれー ちごー (ぬ っちゅ) <あてずっぽう> 【例】あれー あていげーふー／あていんぷーどう やん どー。あびれー ちやーがな ないんでい うむとーる はじ やさ。(あの人はあてずっぽうだよ。口に出せばどうにかなると思っっているはずだよ)。

あとう しーちゅん <後ずさりする>

【活】～しーちゃん、～しーかん、～しーち 【例】みー やますくとう くさーんかい しーけー。(目を痛めるので後ろに寄りなさい)。

あとう しーちやー <後ずさり>【活】あとう

しーちやー すん <後ずさりする> 【例】あんし ちかさをうてい テレビ んーぢーねー、みー やますくとう くさーんかい しーけー。(あんなに近くからテレビを観ると、目を痛めるので後ろに寄りなさい)。

あとうない あとうない <後ろにひっ

こむこと> 【例】あとうないあとうない さー (引っ込みじあん)。あとうないあとうない びけーっし っちゅぬ くさー などーくとう たーん わからんてーさ やー。(引っ込んでばかりで人の後ろにひっこんでいるから誰もわからなかったんだね)。あれー めーないないさー やくとう、わんから わんから そーん。(あれは出たがりやで、人前にばかりいる)。

あとうまさい がふー <後の方の幸運

こそ勝る> 【参】「あとうふーぬ まーふー」(後に来る方がまことの幸運)。

あばさー、あばし 〈おてんば、針千本〉

【例】ありんかい ちかしーねー／ちかしえーから、むる はっぶがすん どー。(あの人に聞かせたら、すべて暴露してしまうよ) ありんかえー ぬーん ちかさらん どー (あの人には何も聞かせられないよ)、したたか あーばーさーばー／ゆんたかー／はっぶがさー／いちえーならぬっちゆ どー (大変なおしゃべりだよ)。あばさーや ふいりぐささー あしが、だしぬ あてい あじくーたー どー やー。(針千本は生臭さはあるが、ダシが効いておいしいよね)。【参】ふいりむさー (芋虫)、ふいりほーいん (やたら尻をする)、さんさなー (おてんば)。

あびーん 〈大声をだす、声をかける、しゃべる、家畜が鳴く〉【活】あびたん、あびらん、あびてい 【例】うた あびーん。(歌を歌う)、うた さー (歌手)。ちゃー あびーるびけーやさんぐとう、たーんかいん わかいるぐとう はなさんだれー ならん どー。(怒鳴ってばかりではなくて、誰にでも解るように話さないといけないよ)。ちゃー うさがみそーりよーんち たんかーぬ っちゆ あびていっち【えーじっし】 とうらさん なー?(お茶をお召し上がりになりませんかとお向かいの人に声をかけてきてくれないか)。いっとうちえー くーよーんち あびていっち とうらさん なー?(ちょっと来ないかと声をかけて来てくれないか)。っやーさーに いふいぐわー あびていっち とうらしえー。(あなたから少し言ってきてちょうだい)。ゆーあきどうーしー／ゆなかさなか まーぬ いんぐわーが やら わからんしが、ワウワウっし あびとーたん。(夜が明けるまで／真夜中どこの犬かは知らないが、遠吠えをしていた)。あふいらーぬ クワックワックワッーっし あびとーたん。(あひるが鳴いていた)。っわーぬ ブギーブギーブギーっし やなあびー そーん。(豚が嫌な鳴き声をあげている)。っやーや むぬ かでー にんてー しーしー しーねー、っわーぬ ぐとう

くえーいん どー。(お前は食べては寝たり

していると、豚のように太るよ)。あびーる いのー くーらん。(吠える犬は噛みつかない)。【参】動物の鳴き声については、「なちゅん」もある。

あびー くるすん 〈大声を出して痛めつける〉【活】～くるちゃん、～くるさん、～くるち 【例】あんすかなー あびーくるしーねー ちむちますん どー。(そんなに大声を出して痛めつけると気持ちを萎縮させるよ)。

あふあげーりーん 〈気持ちを萎縮させる〉

【活】あふあげーりたん、あふあげーりらん、あふあげーりてい 【例】ありが はなしえー どうく ふりゆんたくぬ ちゅーさぬ あふあげーりーん。(あの人の話はあまりにもおしゃべりが度を超して嫌になる)。

あふあなちゅん 〈寝るの卑語〉【活】あふ

あなちゃん、あふあなかん、あふあなち 【例】しーじゃがたんかい 「っんまなかい あふあなちよーけー」んでい いーねー、ぐぶりーないん どー。(先輩方に「そこに寝転がっていなさい」と言っては失礼になる)。をうたとーんねー そーん どー。っやーや あまなかい いふえー あふあなちよーけー。(疲れているようだね。あなたはあそこに少し寝転がっていなさい)。

あふいー 〈兄さん(平民)〉 【例】いったー

あふいーや／やっちーや ちゃー そーが?(あなたのうちのお兄さんはどうしているか)。いったー あふいーや／やっちーや／しーじゃー やから やさ。(あなたの家の兄さんはりっぱだね)。

あふいらー 〈アヒル〉 【例】あぬ ういな

ぐぬ あっちよー よー、ちべー あふいらーぬ あっちゅんねー すさ。(あの女性の歩き方よ、お尻はアヒルの歩くようだ)。ちびまぎー あふいらーぬ ゆたゆた あっちよーん。(尻の大きなアヒルがよたよた歩いているよ)。

あふえーいん 〈(気が) 抜けて水っぽくな

る〉【活】あふえーたん、あふえーらん、あふえーてい 【例】うぬ さけー／すーや あふえーとーん。(この酒は水っぽくなっている)。あふあむん(味がうすいもの)、あふあさん(味がうすくなる)。くぬ しろー あふあさぬ、んーすぬ たらーんねー すん どー。(この汁は味がうすくて、味噌が足りないようだよ)。

あまいん 〈余る〉【活】あまたん、あまらん、あまてい 【例】ゆー あまい しみそーちやるんでい いーしえー まーちよーんでいらくとう やん。(天国に召されたというのは亡くなっているということです)。うやふあーふじえー ゆー あまい しみそーちやしが、うやふあーふじぬ めんしえーる ぐそーや かーまー あらん、あみだいぬ しちやんでいどう いらっとうーくとう ちむしからーさー すな よー やー。(先祖は天国に召されたが、先祖のいらっしやるあの世は縁台の下と言われているので、むなしい思いはしないでよ、「ぐそー」を参照)。ななじゅー あまてい くぬ あわり すん。(70歳を過ぎて、この辛さを味わう)。はたち あまれー どうーっし はたらき よー。(20歳を過ぎたら自分で働きなさいよ)。るくじゅー かさにてい、ひやく はたち。(還暦を迎えて、120歳の願をたてる)。くれー あまやー やしが、あとうまさいがふーんでいん あくとう、うり むっちいけー。(これは余り物なのだが、後のものに勝り果報ってこともあるので、これを持って行きなさい)。ぬくやー(残り物)。

あますん 〈元気が有り余っている〉【活】あまちゃん、あまさん、あまち 【例】わらべー ゆー あますくとう、うとうすえー ちゃーんならん。(子どもは元気があり過ぎて、お年寄りはどうにもならない)。あますな けー。(悪ふざけするな)。わらびんちやーぬ どうくから あまちよーん。(子どもたちが度が過ぎた悪ふざけをしている)。わらび あましみらんけー。(子どもを悪ふざけさせないで)。どうくから あまちぢゅーさぬ。(あまりにも悪ふざけ

が過ぎて)。あまさー(落ち着きのない子)。ちーぬみんぐわー ていーぬ みーゆる くれーから あまち ふしがらん。(乳飲み子は手足の発育する頃合いから手に負えなくてどうしようもない)。

あまみ／あまん ゆー 〈大昔〉【例】天帝から遣わされた女神の「あまみく／あまみきよ」と男神の「しにりく／しにりきよ」がおいでなさった大昔の時代のこと。

あまぐわし 〈ぜんざい〉【例】あまぐわしんかえー だーぐぬ いっちょーん。(ぜんざいにはだんごが入っている)。

あまじゃき 〈酢〉【例】ういぐわーぬ えーむんかえー あまじゃけー かかさらん。(キュウリの和え物には酢は欠かせない)。いーらーんかい ささりーねー、しぐ あまじゃきさーに あれーながすん。(クラゲに刺されたら、すぐ酢で洗い流す)。

あや 〈綾、模様〉【例】あれー むしるぬ あやぬ ぐとーる っちゅどう やくとう、たーがん いふいぬ ふいーくしん かちみらん どー。(あの人はムシロの綾のような几帳面な人だから、誰も少しの欠点もつかめないよ)。

あやー 〈お母さん(士族)〉【例】あやめー(士族のお母さんを敬って言う時に使う)【参】たーりー。

あやめー くさめー 〈まつわりついてじやますること〉【例】うーやーからからーっし(人の後ろから付いて来て)。ちび うーやー(人の後ろからついて来る者)。うーていくえー(人の後ろから付いてきて食事まですること)。っちゅぬ めーんかい しりしりーっし あっちん ならん。(人の前にすり寄って来て、動きもできない)。

あやかーいん 〈あやかる〉【活】あやかーたん、あやかーらん、あやかーてい

あやかーらすん 〈あやからす〉【活】あやかーらちゃん、あやかーらさん、あやかーらち
【例】かじまやー すーぢ あやかいん。(97歳のお祝いをあやかる)。とーかち すーぢ あやかたん。(88歳のお祝いをあやかった)。わったーにん あやからちくいみそーり。(私たちにもあやからしてください)。

あやまいん 〈あやまちをする〉【活】あやまたん、あやまらん、あやまてい 【例】あやまてい ていー やまちやしが、なーだ のーてーをうらん。(過って手をケガしたが、まだ治ってはいない)。

あやまい 〈(道徳的な)あやまち〉 【例】ちやーる あやまいぬ あてい っんぢやさったが やー。(どういふあやまちがあつて、表沙汰にされたのかなあ)。

あらがーいん 〈口論する、議論する〉【活】あらがーたん、あらがーらん、あらがーてい
【例】あん やん、かん やんっし あらがーてい ていーちん さだまらん。(ああだ、こうだと議論して一つも決まらない)。あらがーていはなしぬ さだまらん。(言い争つて話が決まらない)。

あらげーいん 〈大きくなり過ぎる〉【活】あらげーたん、あらげーらん、あらげーてい 【例】むじゆくえー どうく あらげーとーしえーまーこーねーん どー。(農作物はあまりにも大きくなり過ぎているのはおいしくない)。あらげーい むのー まーこーねーん。(大きくなり過ぎるのはおいしくない)。

あらむん 〈粗末な食べ物〉 【例】あらむん じょーぐーや どうーがんぢゅーさん。(粗食する者は健康だ)。

あり 〈あれ、あの入〉 【例】ありが むぬん わーむん、わーむぬん ありが むん。(あの入の物も私の物、私の物もあの入の物)。

あわていーん 〈急ぐ〉【活】あわていたん、あわていらん、あわていてい 【例】あわてい

ーる なーか よーん なー。(急いでいても冷静に)。あわていーる なーか うていちち。(急いでいても落ち着きを保て)。

あわていー はーていー 〈急いでいるさま〉 【例】あわていーはーていー っんぢやしが、につか などーさ。(急いで出たが、遅刻している)。

あわり 〈苦勞〉 【例】いくさねー んな だんだんぬ あわりっし しぬぢちゃん。(戦争ではみんなさんざん苦勞をしてしのいできた)。

あん 〈ある〉 【例】あいにどう くばめーゆる。(有るときにこそ節約する)。あれー あいぐえー、ねーんだれー ねーんくらし っやーや いちまでい すが?(有れば有るだけ食べ、無ければ無いままの暮らしをあなたはいつまでするのか)。

あんしー かんしー すん 〈あれこれ試行する〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】あんしー かんしー さしが、ならんたっさー。(あれこれ試したが、できなかつたよ)。あんしー かんしー やくとう、なー わかてい くいみそーれー。(話した通りですから、解ってくださいね)。

あんぢゅん 〈焼く、あたためる〉【活】あんとん、あんだん、あんてい 【例】しちぐわちーや ぐそーぬ そーぐわち やくとう、ぶちだんぬ めーをうてい うちかび あんてい っくわっんまがぬちやーんかい あしぢや むたする とうくるん あたんでい。(盆はあの世の正月なので、仏壇の前で内紙を焼いて子や孫に下駄を持たせるところもあつたつて)。ふいーばーちさーに いちやぐわー あんてい かま。(火鉢でスルメでも焼いて食べようか)。あみ しちやーに むち あんてい かま。(網を敷いて餅を焼いて食べようか)。ていー あんぢゅん。(炭などで手を温める)。

あんだ 〈油、脂〉

あんだ がーき 〈肉を長いこと食べていないこと〉 【例】ちかぐろー あんだがーき そーくとう、あしていびちんでー ちゅくていかまな。(近頃肉はごぶさたなので、‘あしていびち’でも作って食べよう)。

あんだ ぐち 〈お世辞〉 【例】みーぬ めーをうてい ふみらっていん うっさー ねーん。あんだぐちんかいどう ちかりーる。(目の前でほめられても嬉しくない。お世辞にしか聞こえない)。あんだぐちっし あんだもーきさん。(お世辞でボロ儲けした)。

あんでいーん 〈こぼれる〉【活】あんでいたん、あんでいらん、あんでいてい

あんだすん 〈こぼす〉【活】あんだちゃん、あ

んださん、あんだち 【例】とーりていん さけー くーてんぐわーどう あんでいーん。(倒れても酒は少しだけしかこぼれない)。コーヒーぬ あんでいらあんでいら そーん。(コーヒーがあふれそうになっている)。ちゃーや あんださんぐとう いりり。(お茶はこぼさずに入れなさい)。

あんべー 〈あんばい、気分〉 【例】なまー いっぺー めー あんべー そーん。(今はとても心地よい気分だ)。

あんまー 〈お母さん(平民)〉 【例】あやー／たーり (お母さん／お父さん(士族))。【参】すー／あんまー。

い

～い 〈時、から(理由)〉 【例】 わらび そー
いに (子どものときに)。あちさいに／あちさ
るうちに うさがみそーれー。(あったかいう
ちにお召し上がりください。＝ふいじゅらん
まーどう うさがみそーれー。(冷めないうち
に召し上がってください))。っちゅびれーん
さんとー ならん あい やー。(人付き合い
もしないとならないからねえ)。ぶだいんかい
っんぢーるむんぬ、ちらん ちゅくらんとー
ならん あい やー。(舞台に立つのだから、
顔も化粧しないといけないからねえ)。

いーけーりーん 〈中味がすっかりこぼれ
る〉【活】 いーけーりたん、いーけーりらん、い
ーけーりてい 【例】 くーてんぬ くとうしえー
いーけーりらん とうっくいぐわー ちゅく
たん。(ちょっとしたことではこぼれない徳利を
作った)。さき／みじ いーけーらすん。(酒/
水をこぼす)。なーんかい うちえーたる は
ーちぬ うふかじさーに いーけーりてい ん
ーちゃん さにん ねーん などーたん。(庭
に置いてあった鉢が台風ですっかりこぼれて土
も種もなくなっていた)。

いーけーらすん 〈中味をすっかりこぼす〉
【活】 いーけーらちゃん、いーけーさん、いーけ
ーらち 【例】 ちーさーに くでい いってー
る いらむのー なー いふえー ふいるさる
とうくまんかい うちきらんねー いーけー
らすん どー。(つるべで汲んで入れてある容
れ物はもう少し広いところに置かないとすっか
りこぼしてしまうよ)。かたはらんかい なさ
んねー きっっちゃきっし むる いーけーらす

ん どー。(側に寄せないとつまずいてこぼし
てしまうよ)。ちゅーかーや うちんかい な
さんねー むる いーけーらすん どー。(や
かんは内側に寄せないとみんなこぼしてしま
うよ)。

いーち 〈息〉 【例】 どうく いちゅなさぬ
いーちん あくびん ならんさ。(とても忙
しくて息もできない、＝いーち ふえーふえー
そーさ＝いーち ふちよーさ)。ひこーきぬ
っんぢたちんかい かきあーすんでいち う
みちとう はーえーっし ちゃくとう、したた
か いーち ふちよーっさ／ふえーふえー そ
ーっさ。(飛行機の出発に間に合わずとって
思いきり走って来たので、すごく息切れしてい
る)。くえーとーる っちよー どうーぬ っ
んぶさくとう、いふいぐわー あっちん いー
ち ふちゅん。(太っている人は体が重いので
少し歩いても息切れする)。

いーち げーい 〈息抜き、息つき〉 【例】
まるけーていなーや いーちげーいん さんね
ー どうー むたん どー。(時々は息抜きもし
ないと体がもたないよ)。っういーぢよーる
とうちに ふいぢやいぬ ていーぬ めーんか
い まっしぐ ぬびとーる ばすねー、どうー
ぬ にぢり はんぶんや うちやがとーくとう
いーちげーいぬ しーやしく ないん。にぢ
りぬ ていーぬ ぬびとーる ばすん めぬ
ぐとう ないん。(泳いでいるときに左の手が
まっすぐ前に伸びている際には、体の右半分
は浮き上がっているの息つきをしやすくなっ
ている。右の手が伸びている際も同様である)。

いーち ながー 〈息が長い者〉 【例】くーさいに、びんだれーんかい みじ いりやーに ちら ちきてい たーがが いーちながー やら んでいる すーぶ すたん。(子どもの頃、洗面器に水を入れて顔を浸けて誰が息が長いかという勝負したものだ)。

いーち までいー すん 〈窒息する〉 【例】エレベーターんかい ぬらりーる かぢり っちゅぬ いっちちーねー いーばーしー ちゃーっし いーちまでいー すんねー やたん。(エレベーターに乗れるだけ人が入って来たら窮屈で窒息しそうだった)。

いーち みー 〈空気孔〉 【例】うんたまぎるーや ちくさじんかい っわーってい、すいぬ りんぐむいぬ りんぬ ふあーぬ しちゃんかい くわっくいてい、やんばるだき くんかい くーてい いーちみーさーに いーち そーたんでい。(ウンタマギルは巡査に追われて、首里の蓮小堀の蓮の葉の下に隠れて、山原竹を口に加えて、空気孔で息をしていた)。

いーちゅ 〈絹〉 【例】いーちゅさーに ちゅくらっとーる ちのー でーだかー やしが、ちちよーるぐとうん ねーん、いち なたいん みーむんぬ ぐとう かわらん、でーぬ ぐとう あっさ やー。(絹で作られた着物は高値だが、着ている感じがなくて、いつになっても新品のように変わらなくて、値段通りだね)。

いーび 〈指〉 【例】ていーふいさんかえー うふいーび、さしいーび、なかいーび、なーなしいーび／ならしいーび、いーびんぐわーぬ あん。(手足には、親指、人差し指、中指、薬指、小指がある)。あんすかー ゆぐりん さん いーび やくとう、ぬいぐすい とうてい きじんかい ならち ぬいるくとう、ならしいーびんでい いーん。(そんなに汚れもしない指なので、塗り薬を取って傷にならして塗るので、‘ならし’指と言う)。とうーぬ いーべー ゐん たけー ねーらん。(十の指は同じ丈ではない、十人十色)。うちなーんちよー いーび

ちかてい ふいーふいー ふち えーじ そーたん。(沖縄の人は指を使って指笛を吹いて合図をしていた)。ふいっちー いーび ならしーねー、ぶったらー ないん どー。(いつも指を鳴らしてばかりいると、太く腫れてしまうよ)。いーびや まーんかい をうーりーがんでい いーねー、うちんかいどう まがいくとう、ちよーでーや たげーに かなさ しーよー やー。(指はどこに折れるのかというと、内(=家)に曲がるので、兄弟姉妹はお互いに仲良くしなさいよ)。

いーび なぎー／いーびがにー 〈指輪〉 【例】にーびち しーねー、ふいぢやいぬ なーなしいーびんかい いーびなぎー さすん。(結婚すると、左の薬指に指輪をはめる)。

いーび ぬち 〈指差し〉 【例】っちゅんかい いーびぬち さりーる くとー しえー ならん どー。(人から指を差されることはしてはいけないよ)。

いーび ばん 〈拇印〉 【例】はんこ わしやーに いーびばん やていん ないんでいち どう うむたしが、とうーらんたくとう やーんかい けーらんとー ならん なたん。(印鑑を忘れて拇印でも何とかかなと思ったが、だめだったので家に帰らないといけなくなった)。

いーび ばんち 〈つま弾き〉 【例】ギターや いーびばんち すしが、さんしのー いーびばんちえー さん。(ギターはつま弾きをするが、三線はつま弾きはしない)。

いーび をうーい すん 〈指を数える〉 【例】わったー やーにんじょー みーやーぬ とうじまい いーびをうーい そーてい まち かんていー そーん。(私の家族一同は新しい家の完成を指を数えて待ち遠しくしている)。

いーび んぐわー 〈小指〉 【例】ちかぐるー あんすかー 「ぶーさー」 さん なたーしが、いーびんぐわーや さしいーびねー まきーしが、うふいーびねー かちゅん。(近頃はそれほど「ぶーさー」をしなくなっているが、小指は人指し指には負けるが、親指には勝つ)。
【参】ぶーさー (沖縄式のじゃんけん。親指は人

差し指に勝ち、人差し指は小指に勝ち、小指は親指に勝つ)。

いーふえー 〈位牌〉 【例】いーふえー だちやー/いーふえー むちすく/ぐわんす むちやー (位牌を受け継ぐ者)。ちやくし、じなんぬ いくさんかい さったくとう/とうらったくとう わったー いーふえーむちやーや さんなん やん。(長男、次男が戦争の犠牲になったので、私のうちの位牌を継ぐ者は三男だ)。いーふえーや うやふあーふじぬ なーふだ やてい、なーふだぬ くさーんかえー まーちやる とうしちちとう ふいーぬ かかっとうん。(位牌は祖先の名札であり、その裏には亡くなった年月と日が書かれている)。

いーふえー なー 〈戒名〉 【例】いーふえーなーや うやから めーたる なー とうーするくとうん あらー、ふとうちから うりてい ちよーる なー うぬまま ちかてい とうーする くとうん あん。(戒名は親からもらった名前を使うこともあれば、仏様からいただいた名前をそのまま使うこともある)。

いーらー 〈くらげ、かつおのえぼし〉 【例】うちなーぬ なちぬ うめー いーらーぬ うふさくとう、いーらーんかい ささったる ばす ねー、あまじゃき くんちやきてい どうく あれーながすん。(沖縄の夏の海はくらげが多いが、くらげに刺されたときには、酢をひっかけて毒を洗い流す)。

いーん 〈言う〉 【活】いちゃん、いらん、いち 【例】いーしどう かかいるくとう、まじえーっやーがどう っしとうらし よー。(言い出した人にあたるべきなので、まずはあなたがしてくださいね)。

いー あーすん 〈相談する〉 【例】をうとうぬ けーていっち いーあーちから (ちゅーごーっしから) やー。(夫が帰ってきて相談してからだね)。

いー あーし 〈相談〉 【例】をうとうぬ けーていっち いーあーしえーしから やー。

(夫が帰ってきて相談をしてからだね)。【参】ちゅーごー。

いー くじーん 〈皮肉を言う〉 【例】みみ くじたい、はな くじたい すしえー そーじどうやくとう しむしが、いーくじやーや っちゅぬ くくる やまち、しえー ならん。(耳をほじくったり、鼻をほじくったりするのは掃除なのでよいが、皮肉を言うのは人の心を傷つけてしまい、してはいけない)。あれー いっぺー いーくじやー やくとう、ちかんふーなーっし、どうーちゅいむにー しみとーけー。(あの人はよく皮肉を言うので、聞かんふりして、言わせておけ)。【参】わたくじむにー (皮肉のこと)、どうーちゅいむにー (独り言)。

いー けーしげーし すん 〈何度もくり返して言う〉 【例】あぬ くとうびけー いーけーしげーしっし ちちぶしこー ねーらん。(同じことばかり何度もくり返して聞きたくもない)。

いー がーえー 〈言い争い〉 【例】ちよーでーぐふわさ っし、ちら あーする かーじ いーがーえー そーん。(兄弟姉妹の仲が悪くて、顔を合わせるごとに口論している)。

いー っくわ 〈言い過ぎ〉 【例】いーっくわ いーぶすこー ちちのーち くいみそーり。(言い過ぎ、言い足りないことは聞き直してください)。

いー しぢーん 〈言い過ぎる〉 【例】あれー ちやー むぬ いーぬ うふさぬ、いーしぢとーん。「くとうば じんぢけー」んち あくとう、いーしぢらんぐとう ちちしみらんとーならん。(あの人はいつもことばが多くて、言い過ぎている。「くとうば じんぢけー」(ことばはお金同様に大切に使いなさい)なので言い過ぎないように慎まないといけない)。【参】くぐにーゆん (慎む)。

いー たていーん 〈大げさに言う〉 【例】にーん ふあーん ねーん むんぬ、ぬーん あらんくとう うっさ まぎく なち いーたていーん。(根も葉もないことなのに、何でもないことをそんなに大きく言いふらす)。【参】い

ー たていーん＝いー ふいるぎーん。

いー ちーん〈ののしる〉【例】ちちゆぬ
めーをうてい どうしんかい いーちらって
い わじとーん。(人前で友人にののしられて
怒っている)。

いー ちきーん〈命令する〉【例】ちちゆ
んかい いーちきらってい っんぢゆちゆしや
か いーちきららんでいん どうーくる かん
げーてい する むん やん。(人に命令され
て動くよりも命令されなくても自分で考えてす
るものだ)。

いー だてい〈大げさ〉【例】いーだたー
(大げさな人)、いーだたーさん(大げさである)。
ありが はなしえー ちゃー うふむにーびけ
ーっし いーだたーさん どー やー。(あの
人の話はいつもほらを吹くばかりで大げさだよ
ね)。

いー ながしながし すん〈口ばかりで
実行に移さない〉【活】～さん、～さん、～っし
【例】あちゃー けーすさんでい いやーに い
ーながしながし などーん。(明日返すよと言
って口ばかりで実行に移さないでいる)。【参
】なーなー などーん やー(延び延びになっ
ているよ)。

いー ならーすん〈言って教える〉【活】～
ならーちゃん、～ならーさん、～ならーち 【例】
わらべー ならーし むんどう やる。くーさ
る ばすから いーならーち ふどうっわーし
よー。(子どもは教えていくものだ。小さい頃
から言って教えて育てなさいよ)。

いー ぬくすん〈言い残す〉【例】いーぬ
くし しーぬくしぬ あれー、あとうから た
れーてい うさぎやびーさ。(言い残し、仕残し
があれば、後で補足して差上げますから)。

いひー あはー〈談笑できるさま〉【例】
あったーや おーいる とうちん あがやー?
いち んーちん いひーあはーっし っうい
ーりきぎさ そーん やー。(あの人たちはけ
んかするときもあるのかね。いつ見ても談笑し
て楽しそうだね)。

いー ほーいん〈言い放つ〉【活】～ほーた

ん、～ほーらん、～ほーてい【例】なまぬ だい
じんぬちゃーや いーぶさかっていー いーほ
ーてい innanかい ぬらーってい やみてい
いちゆしん あとー たたん。(今時の大臣は
勝手なことを言い放って皆からたたかれて辞め
ていくのも後をたたない)。

いー ぶさ かっていー〈言い放題〉

【例】「ちなぬ あまえー ちかーりーしが、く
とうばぬ あまえー ちかーらん」でいぬ く
がにくとうばんかいん あるぐとう、いーぶさ
かっていー あびーねー、ちなやかん ちぢど
う ないん どー。(「綱の余りは使えるが、こ
とぼの余りは使えない」という格言にもあるよ
うに言いたい放題すると、綱よりも劣ってしま
うよ)。

いー ぶん〈言い分〉【例】っやー いー
ぶのー うっさどう やる め?(あなたの言
い分はそれだけなのか、～うっさ なー?/～
うっぴ なー?)。

いー みんぐわすん〈言いまぎらわす〉

【活】～みんぐわちゃん、～みんぐわさん、～みん
ぐわち 【例】あん いー、かん いーっし い
ーみんぐわさってい/きじやーさってい、ちゃ
ー なていいちゆる ばー がやー?(ああ言
いこう言いして言い紛らわされて/かき回され
てどうなって行くのかねえ)。

いー むどうすん〈解消する〉【活】～むど

うちゃん、～むどうさん、～むどうち 【例】じえ
ーさのー ゆじらっていん、ぐわんそー むた
んでい いちやくとう、あとうちぢ いーむど
うさったん。(財産は譲られても、仏壇は継承し
ないと言ったら、跡継ぎは解消された)。にーび
ち すが やーんでい うむいる ちちゆぬ
をうたしが、かんげーよーぬ あーらんとく
とう いーむどうちゃん。(結婚しようかと思
う人がいたが、考え方が合わなかったので破棄し
た)。

いー やんぢゆん〈言い損なう〉【活】～や

んたん、～やんだん、～やんでい 【例】いーやん
たらー、ちちのーちとうらしえー。(言い損なっ
たら、聞き直してとってくれ)。

いー よー 〈言い方〉 【例】いーよーぬ
あれー ちちよーん あいどう すくとう、む
ぬ いーよーや ちー ちきり よー。ありが
わじとーしえー、っやーが むぬいー たな
りぬ ねーん てーさ。(ものの言い方があれ
ば聞き方もあるというから、ものの言い方には
気をつけなさいよ。あの人が怒っているのはあ
なたのものの言い様がまずかったんだね)。

い くとうば 〈言い伝え〉 【例】うふっち
ゆ なていから っちゆ びれー するくとう
ないねー、ありくり ちむ まゆい する
くとうん あくとう、んかしんちゆぬ いくと
うばぬ かなさ ちむに すみてい いちち
いかな。(社会人になってから人付き合いする
ことになる、あれこれ心が迷うこともあるの
で、先祖の言い伝えの有り難さを心に留めて生
きて行こう)。

いちゃい はんちゃい 〈ああ言ったり、こ
う言ったり〉 【例】あん いーねー かん
いーっし あれー いちゃいはんちゃいびけー
っし、ぬーんでい いちが をうら むさっ
とう わからん。(ああ言えばこう言ってあの
人は言い返してばかりいて、何と言っているの
かまったく分からない)。あれー いぢりぬ ね
ーんくとう、ちゃー いちゃいはんちゃいびけ
ー そーん。(あの人は意気地がないので、いつ
も言い返してばかりいる)。

いちえー はんちえー 〈口答え〉 【例】
あん いーねー、かん いーっし いちえーは
んちえー すん。(ああ言えばこう言って口答
えする)。

いーん 〈入る〉【活】いっちゃん、いらん、い
っち 【例】っんまがぬちゃー、そー いら
よー やー。(孫たちよ、良い子になるんだよ)。
みーぬ いらー、くび をうーりり。(成熟すれ
ば自然と我は引っ込むものだ、=実れば首を垂
れる稲穂かな)。

いっちゃん っんぢたい すん 〈出たり
入ったりする〉 【例】わん じのー あんし
いっちゃん っんぢたいぬ うふさる。(私

のお金はなんと出たり入ったり [語順が逆にな
る]するのが多いことか)。

いーん 〈要る〉【活】いっちゃん、いらん、い
っち 【例】っやー いらー、あーれー/むっち
いけー。(あなたが要るなら、もらいなさい/
持って行きなさい)。いらんだらー、っんまか
い うちきとーけー。(要らないなら、そこに置
いておきなさい)。【参】あーてーる じん む
る ちかてい ねーらん (もらったお金をすべ
て使ってしまった); っやー いらゆー やれ
ー あーれー (あなたが必要だったら、もらい
なさい)。

いく〜〈幾〉 【例】いくち (いくつ)、いくた
い (幾人)、いくけーん (幾度、何回)、いっか
(何日)。ちゅーや うちなーぐゆみしえー い
っか などーが? (今日は陰暦では何日になっ
ているのか)。っやー とうしえー いくち
などーが? (あなたの歳はいくつになっている
の)。

いくさ 〈戦争〉 【例】ういなごー いくさぬ
さちばいんでい いーしえー、なま でーじ
な くとう ないっさ やーんでい とうち
(=ぬちがかやー ない とうち)、ういなご
ー ういきがやかん ふりぢからぬ っんぢー
んでい くとう やん。(女は戦争の先走り
というのは、今に大変なことになるというとき
(=命がけになるとき)、女は男よりもバカ力
が出るということだ)。

いくさぐわー しえー 〈戦ごっこ〉 【例】
いくさ あとー ういきがわらびんちゃーぬ
あしべー いくさぐわーしえーぬ ふえーとー
たん。(戦後は男の子たちの遊びは戦争ごっこ
が流行っていた)。

いぐますん 〈計画する〉【活】いぐまちゃ
ん、いぐまさん、いぐまち 【例】くとうしえ
ー ぬーがな いぐまちよーる くとうぬ あ
み? (今年は何か企画していることがあるか)。
ちゃーっし ぬー すんでい いぐまちよー

が？(どのようにして何をするかと計画しているか)。ぬー いぐまちょーが？(何を計画しているか)。うまちーぬくとぅ いぐまちょーみ？(祭りのことを計画しているか)。

いぐまし 〈企画、事業〉 【例】うちなーぐち
ふいるみーる いぐましぬ いちかー かな
なじ はな さちゆる とぅちぬ ちゅーん。
(沖縄語を広める事業がいつかは必ず実るとき
が来る)。

いさとうー 〈カマキリ〉 【例】あぬ うい
なぐんかい ぬーんでいん いーねー、みーん
とぅじゃ なてい いさとうーぬぐとぅっし
んかてい ちゅーん。(あの女性に何かでも
言うと、目も鉾のようにしてカマキリのように
向かってくる)。

いさみーん 〈励ます〉【活】いさみたん、い
さみらん、いさみてい 【例】うんな ばすねー
ぬらんぐとぅ、いさみていどぅ とぅらす
る。(そんなときには叱らないで励ましてやる
ものだ)。

いし 〈石〉

いし かぶい じょー 〈石積みの門〉
【例】じょーぬ にぢり ふいぢやいんかい ま
ぎいし ちでい うっちやきてい ちゅくらっ
とーる いしかぶいじょーぬ なまん なかぐ
しくをうてー んーだりーん。(門の左右に大
きな石を積んで置いて造られている石積みの門
が現在でも中城では見られる)。

いし がんとうー 〈石敢當〉 【例】みちぬ
ちちあたいる とぅくまんかい いしがんと
ー たていーやーに、やなむん ばれー すん。
(道が突き当たるところに石敢當を立てて、邪気
払いをする)。

いし きじやい 〈石段〉 【例】くぬ うて
いらまでー ひゃーくはちだんぬ いしきじや
い ぬぶらんとーならん。(このお寺までは1
08段の石段を登らないといけない)。

いし ぐー 〈細かい砂利〉 【例】なーぢゆ
くいんかい いしぐー ちかいねー、あみぬ

ふていん じゃかじゃかん さん、きーくさん
みーぐりく なてい、んーちん ちゅらく
ないん。(庭造りに砂利を使うと、雨が降っても
じめじめしない、雑草も生えにくくなって、見
た目にも美しくなる)。

いし くびり 〈石ころの小さな小道〉 【例】
なまー いしくびりぬ ねーん なてい くん
ちりーん ならん などーん。(現在は石ころの
小道がなくなって近道もできなくなっている)。
むらぬ いしくびり んぞ ちりてい ぬぶい
しが、なーふいん いしくびり あらわ。(村の
石ころ小道をあの人を連れて登るが、もっと石
ころ道があれば)。

いし じょー 〈石門〉 【例】うちなーぬ
ぐしくんかえー ちびらーしく いしぢみ さ
とーる いしじょーぬ あん。(沖縄の城に
は見事に石積みされた門がある)。

いし ぢ 〈礎石〉 【例】いくさをうてい
ぬち うとぅちやる っちゅぬちやーや いち
まんぬ いしぢんかい まちらとーん。(戦
争で命を落とした人々は糸満の礎石に祀られて
いる)。**【参】**いくさんかいどぅ ぬち とぅら
ったる。(戦争で命を奪われた)。

いし なーぐー 〈小石遊び〉 【例】んか
しぬ ういなぐわらびぬ あしびんかい、たま
ぐわー あたいぬ いし いちち ゆかんかい
ふいるぎやーに はじめー ていーち っう
いーんかい あぎてい、あがとーる っうえー
だに ていーちなー ふいるてい、うていてい
ちゅーる いしん すくてい する あしび
やしが、くんどー たーちなー、また みーち、
しめーねー ゆーちまでい すん。うりから、
ていーぬ わたんかい いちち うちきやーに
っういーんかい なぎてい ていーぬ なー
んかい うきとぅたる いし またん なぎて
い ちゃっさ すくいーすが、んでい
る あしび やたん。(昔の女の子の遊びに、石玉を
5つ床に拵げて初めは1つ上に上げて、上がっ
ている間に1つずつ拾って、落ちてくる石も受
け止める遊びだが、今度は2つ、次に3つ、終
いには4つまでする。それから、手の中に5つ

置いて、上に投げて手の甲に乗せることができた石をまたも投げて、いくつ受け止めることができたか、という遊びだった。

いし みち 〈石畳道〉 【例】んかしぬ すいぬ みちえー いしみち やてい、にーや かたみてい くるまー とうーらんたん。(昔の首里の道は石畳道で、荷物は担いで車は通らなかった)。

いしえー 〈くわしいこと〉 【例】ぬーんち あん なたが、いしえーに はなち んーでー。(どうしてそうなったのか、くわしく話してみなさい)。いーぬ レントゲンあらたみぬ はなし いしえーに ちちゃん。(胃にレントゲン検査の説明をくわしく聞いた)。いしえーや うぬとうち なていから わかいさ。(仔細はそのときになってから分かるよ)。

いそーさ すん 〈嬉しがる〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】みーやー ちゆくたい、にーびち さい、つくわっんまが もーきたる ばすねー、っちょー ふしがらん あたい いそーさ すん。(新築したり、結婚したり、子や孫をもうけたときには人はこのうえなく嬉しがる)。「参」うっさくわったー すん(嬉しがる)、っういーりきさ すん(喜ぶ)。

いた ぢり 〈板切れ〉 【例】んかしぬ わらびんちゃーや まーくいーから いたぢり とうめーてい ちゃーに くるまぐわー ちゆくたい やーぐわー ちゆくたいっし あしだん。(昔の子どもたちはあちらこちらから板切れを探して来て車を作ったり家を作ったりして遊んだ)。

いち 〈1〉 【例】いちめー(1枚)、にんめー(2枚)、さんめー(3枚)、ゆんめー(4枚)、ぐんめー(5枚)、るくめー(6枚)、ななめー(7枚)、はちめー(8枚)、きゅーめー(9枚)、じゅーめー(10枚)。いっす(一升)、にす(二升)。

いち で一じ 〈大変困ったこと〉 【例】てーしちな むん やーんかい わしやーに ひ

こーき どうでいあとうから なー いちでーじ なたんでい どうまんぐいたん。(大切なものを家に忘れて飛行機が飛んだ後で大変なことになったとうろたえた)。

いち ばん どうい 〈一番鶏〉 【例】やーむちむんぬ ういなごー あかちちぬ いちばんどういぬ なちぐいーさーに うくさってい、うぬ なちぐいーぬ とうちーがーい などーたん。(一家を支える働き者の女性は暁の一番鶏の鳴き声に起こされて、その鳴き声が時計代わりになっていた)。

いち ぶん 〈独力で〉 【例】わったー くわいしゃー たー ていーん かからん、どうー いちぶんさーにどう っし ちょーん どー。(私たちの会社は誰の手にもかからず、独力でやって来ている)。わったー ちねーや どうー いちぶんさーにどう やーや むっちょー。(私の家庭は自分たちだけの力で家事をしている)。

いち 〈池〉 【例】なーんかい っちゆぬ ちゆくてーる むのー 「いち」んでい いち、あみぬ たまてい なんくる でいきとーる むのー 「くむい」んでい いちよーん。(庭に人が造ってあるものは「いち(池)」と言って、雨がたまって自然にできているものは「くむい(沼)」と言っている)。

いち 〈いつ〉 【例】いち すが?/いち ちゅーが?/いち いちゅが?(いつするか/いつ来るか/いつ行くか)。いちいちまでいん かなさっし くいみそーり よー。(いつまでもかわいがってくださいね)。いちまでいん あたらさ しー よー やー。(いつまでもそれを大切にしてください)。

いぢ 〈勇氣、根氣、怒り〉 【例】いぢやー/いぢ ちらー/いぢ ちりやー(勇氣がある者)。いぢぬ あん。(勇氣がある)。いぢ っんぢやしえー。(勇氣を出しなさい)。いぢ ちーん。(勇氣を出す)。あれー いぢ ちりとーん どー。(あの人は勇氣があるよ)。わかさる とう

ちえー どうーてーしん むちゆしが、はっくじゅー なてい からー いぢしどう どうーや むっちょーる。いぢ していーねー、なーたびんかい どー。(若いときには体でも持つが、8、90なってからは根気で体を持っているものだ。根気を捨てたら、もうあの世への旅だよ)。いぢぬ っんぢらー ていー ふいき、ていーぬ っんぢらー いぢ ふいき。(腹が立ったら手を引き、手が出たら怒りを静めなさい)。

いちか 〈いつか〉 【例】いちか まーがなをうてい またん いちやいぶさっさ やー。(いつかどこかで又会いたいね)。

いちちゅん 〈生きる〉【活】いちちゃん、いちかん、いちち 【例】うやぬ いちちよーる っうえーだー うやぬ いーしえー ちちゆしどう うやぬ こー やる。(親が生きている間は親の言うことを聞くのが親孝行だ)。ありが しーや いちちよーる かぢり はれーうーさんさ。(あの人の負債は生きている間には払えないよ)。

いち ぢむ 〈人間としての心〉 【例】ちちゅびれーや いちぢむぬ でーいち どー。(人付き合いは心が第一だよ)。いちぢむ むっちょーてい うんなくとうん ゆー ないる、ふいるまさっさ やー。(人の心をもっていてそんなことがよく出来るものだ、不思議だね)。

いちからん いちち すん 〈苦しい生き方をする〉 【例】とうじぬ をうらん なていから めーがめーなち いちからん いちちそーっさー。(妻がいなくなってから来る日も来る日も苦しい生き方をしているよ)。

いち はじ 〈大恥〉 【例】とうしぢり スーパーから うほーく こーてい、レジをうてい じん はらいんでい さくとう、じんいりー むっちえーねーんしぬ わかてい、いちかは ちちゃん。(年末スーパーからたくさん買って、レジでお金を払おうとしたら、財布を持ってないことが分かってとても大恥をかいた)。いち はじ かしどう っやーや わかいさ。(大

恥かいてからお前はわかるよ)。【参】はじ ちやー (恥をかいてばかりいる者)、ばち かんじやー (罰あたりの者)。

いち まぶい 〈生き霊〉 【例】さた しーねー、いちまぶいぬ ゆてい ちゅーん どー。(噂をすると生き霊が寄ってくるよ)。

いちみとう とうーみー 〈一生涯〉 【例】ありが しえーる しーや みみたき くいーとーくとう、いちみとうとうーみーや けーしえーうーさん どー。(あの人が抱えている負債は耳丈を越えているので、一生涯返せないよ)。

いち むし/いち むん 〈動物〉 【例】いちむしえー っくわ なち ふどうっわーすしが、きーくさー ふどうっわーすしえー さん。(動物は子を産んで育てるが、植物は育てることはしない)。

いちかすん 〈生かす〉【活】いちかちゃん、いちかさん、いちかち 【例】どうしから めーたる みじらさる らんぬはなー いっとうちえー かりーがーたー なたしが、ゆー ていー いってい いちかちゃん。(友人からもらった珍しい蘭の花は一時は枯れそうになったが、よく手入れして生かした)。【参】いちきーん (生かす)とも言う。

いちまん 〈糸満〉 【例】いちまん ういなごー ゆー はたらちやー やてい ういきが まさいんでい いらっどーる。(糸満女性は働き者で男勝りと言われている)。

いぢり 〈意気地、気力〉 【例】いぢり むん(しっかりしている者)。あれー いぢりむちやくとう、ふえーりっしん する はじ。(あの人は気力があるので、早く成功するだろう)。いぢり むたんとー、ぬーん ならん どー。(しっかりしないと何も出来ないよ)。いぢり むっちどう ぬーぐとうん ないん。(気力をもってこそ何事も成る)。なまぬ わらびんちやーや いぢりぬ たらーん。(今時の子どもたちは生きる力が足りない、=ちむよーさん)。いぢりぬ ねーん やー。あれー しかまくと

うーどう やる。(意気地がないね。あいつは見栄っ張りだ)。

いちん 〈意見〉 【例】あれー あびらしえー からー いちんぬ ちゅーさぬ やー。(あの人はいったん言わせてしまうと意見をよく言うね)。

いちゃーすん 〈引き逢わす、帳尻を合わせる〉【活】いちゃーちゃん、いちゃーさん、いちゃーち 【例】ありが さた さくとう いちゃーさってーさ やー。(あの人の噂したら引き逢わされたんだね)。みーとうんだー むんぬ あていどう いちゃーさつとーる。(夫婦は縁があって引き逢わされている)。わかさる とうちえー ていまーん いきらさたくとう、いりめーとう っんぢりめー いちゃーすんでいち しーいっぺー そーたん。(若いときは手間賃も少なかったので、収入と支出を帳尻合わせするのに苦労していた)。

いちゃいん 〈出逢う〉【活】いちゃたん、いちゃらん、いちゃてい 【例】たー いちえーが ちやが?(誰に逢いに来たのか)。いちゃりば ちょーでー、ぬー ふいだていぬ あが?(出逢えば兄弟姉妹、何の隔てがあるものか)。さーていー? わん ていーや いんちやさぬ なーだ いちゃてー をうらん。(触ったか? 私の手は短くてまだ届いていない)。

いちえー かんていー すん 〈逢えないままにいる、長さが足りない〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】ありが やーんかい いくけーん っんぢん をうらん、ありんかい いくけーん でんわしん ありからー かかていくーんくとう、うぬまーまー なてい いちえーかんていー そーん。(あの人は家に何度行っても居ないので、いくら電話してもあの人はかかって来ない、そのままになって逢えないままにいる)。でんきぬ コードぬ いんちやさぬ、さしくみんかい いちえーかんていー そーん。(電気コードの短くて、差し込みに届かない)。くえーてい わた しみーる バンド

ぬ いちえーかんていー そーん。(太ってお腹をしめるバンドが届かなくなっている)。

いちえー ぐりー/いちえー ぐらー 〈逢にくい人〉 【例】あれー いちゅなさる っちゅ なてい いちえーぐりー どー。(あの人は忙しい人なので逢にくい人だよ)。

いちえー はんすん 〈逢いそびれる〉【活】～はんちゃん、～はんさん、～はんち 【例】あれー いちゅなさる っちゅ なてい、いちえーはんちゃん。(あの人は忙しい人なので、逢いそびれた)。

いちゃさ すん 〈惜しむ〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】っちゅぬ くとうんかい ちかいる じのー いちゃさ する むのー あらん。(人のことに使うお金は惜しむべきではない)。

いちゃ がらすー 〈イカの塩漬け〉 【例】いちゃがらすーや いちゃぬ まーすぢきー やしが、からすぐわーとう むぬむん とーふぬ っういーんかい ぬしてい かみーねー まーさん。(「いちゃがらすー」はイカの塩漬けだが、「からすぐわー(小魚の塩漬け)」と同じもので、豆腐の上に乗せて食べるとおいしい)。

いちゃんだ 〈ただ、無料〉 【例】んーぢゅしえー いちゃんだ やさ。ふいないる むのーあらんくとう、 ちゃっさ やていん んーでー。(見るのはただだよ。減るものでもないの、いくらでも見なさい)。いちゃんだくわっちー あとうぬ あんまさ。(ただのごちそうは後が怖い)。

いちゃんだ うい 〈捨て売り〉 【例】どうく ないぢゅーさぬ、いちゃんだうい やていん さねー ならんくとう、じゃーふえー やさ。(あまりにもでき過ぎて、捨て売りでもしないとならないので、困ったことだね)。

いちゃんだ がみ 〈ただ食い〉 【例】ぐすーじぬ ある とうくま まーていあっちくわっちー いちゃんだがみ そーん。(お祝

いの場をまわり歩いてご馳走をただ食いしている)。

いちゃんだ ぢけー 〈ただで使うこと〉
【例】 どうーぬ むのー くめーきてい すしが、 っちゆぬ くるま かとーてい いちゃんだぢけーっし くるまぬ あんだん いってーをうらんさ。(自分のものは儉約するのに、人の車を借りてもただ使いして車のガソリンも入れてない)。

いちゃんだ むぬ 〈ただの物〉 【例】 いちゃんだむのー に一だかさんでい やまとうをうてー いらっとうしが、 うちなーをうてー けーすしえー じぬん むぬん あらん、 にふえーどーんでいる ちむどう やる。(ただの物は高くつくとも内地では言われているが、沖縄では返すのはお金でも物でもない、ありがとうという気持ちでしかない)。

いちゆく 〈従兄弟〉 【例】 ありとう わんとー いちゆく やしが、 とうしん あぬむん。(あのひと私は従兄弟だが、歳も同じだ)。

いちゆた 〈ちょっとした間〉 【例】 いさぬ やーんかい いちゆる めーに いちゆたぬ はんし そーきわどう やる。(病院に行く前に応急措置をやっておかないといけない)。
【参】 はんし (一時的な処置)。

いちゆび 〈イチゴ〉 【例】 いちゆびぬ かんとうしえー とうらんぐとう くーりみじんかい ちきていから かみーねー まーく かまりーんでい いちよーしが。(イチゴのへたは取らないで氷水に浸してから食べるとおいしく食べられると言っているが)。

いちゃー かじ 〈出逢いの悪霊〉 【例】 いちゃーかじ あたてい、 どうーざわい はだざわい そーん。(悪霊に出逢って、体が痛くてじんましんが出ている)。
【参】 っわーばぐとう さくとう、 っやーまでい さーい うきとうしえー (余計なことをしたので、あなたに不都合を招いている)。

いちゆん 〈行く〉 【活】 っんぢやん、 いかん、 っんぢ

いち しぢとーん 〈行き過ぎる〉 【例】 っやー むのー どうくから いちしぢとーん どー。(あなたのすることはあまりにも行き過ぎているよ)。

いち むどうい 〈往復〉 【例】 しくちんかい くだってい まーにん いからん、 めーなち しくちとう やーとう いちむどういびけー そーん。(仕事に縛られてどこにも行けなくて、毎日仕事と家の往復ばかりしている)。

いちゆんてー いかんてー すん 〈行くと言ってみたり行かないと言ってみたりする〉
【例】 いちゆんてー いかんてー っし、 あんいー かんいー すくとう、 いみくじ わからん。(行くと言ってみたり行かないと言ってみたりあれこれ言うので、訳がわからない)。

【参】 「いちゆんでい いちやい いかんでい いちやい すん」も同義。

いちゃー ちげー 〈行き違い〉 【例】 ありとー ぬーが やら いちゃーちげーぬ あてい ちゃーしん いちゃーららん。(あのひととはどうしたものか行き違いがあって、どうしても逢えない)。
っやーとう わんとー かんげーぬ いちゃーちげー そーん やー。(あなたと私は考えが合わないね)。

いっさん 〈走って〉 【例】 いっさん なてい/いっさんばーえーっし いけー (一目散に走って行きなさい)。

いっそー 〈普段〉 【例】 いっそーや あねー いらんむんぬ、 ぬーんち ちゆーや あん いちよーが? (普段はそんなこと言わないのに、どうして今日はそう言っているの)。

いっそー ちやー 〈普段着〉 【例】 くぬ ハワイぬ ムームーや ふいるびるーとうっし いっぺー ちーやっさくとう、 いっそーちやー じょーとうー やん。(このハワイのムームーはゆったりして着やすいので、普段着に良い)。
【参】 やーからー ちやー (普段着)。

いっそー なーでいー／ちび なーでいー 〈残らず〉【例】なー けーいる じぶん やくとう、でいか いっそーなーでいー／ちびなーでいー しじみてい けーらな。(もう帰る時間だから、残らず片付けて帰るか)。

いったー はらー 〈あなたたちの側〉【例】わったーめーや あったに まっくーるー なやーに うふあみぬ うていとーたしが、いったーはらーや あめー ふとーていー? (私たちの前は急に真っ黒くなって大雨が降っていたが、あなたたちの側は雨は降っていたか)。わったーめーや あかがてー をうしが、いったーはらーや まっくーるー なてい かたぶえー しえー をうらん がやー? (私たちの前は明るくなっているが、あなたたちの側は真っ黒くなって片降りしてはいないか)。

いっとうがよー 〈おはじき〉【例】んか しょういなぐわらびぬ あしびんかい いっとうがよー ちかてい、はんちやー あしび、いくち あが んでいーる かじあてい あしび、ていーぬ わたから ていーぬ なーんかい うちけーてい っういーんかい あぎやーに すくいる あしびぬ あたん。(昔の女の子の遊びにおはじきを使って、はじく遊び、いくつあるかという数当て遊び、手のひらから手の甲へ置き換えて上にあげて驚掴みする遊びがあった)。

いっとうち 〈片時〉【例】ぐまわらばーからー いっとうちん みーはなさらん みーくーげーちょーん ならん どー。(幼児からは片時も目がはなせない、まばたきさえもできないよ)。

いとういん 〈嫌がる〉【活】いとうたん、いとうらん、いとうてい 【例】ういきがー たーやていん ちゅらかーぎー まし さーに、やなかーぎー いとうてい ーだんふーな

すんでい いーしが、んかしくとうばんかえー 「かーげー かーどう やる」んでいん あん。(男性は誰でも美人を好んで、不美人を嫌がって見ないふりするというが、昔から言い古された言葉に「容貌は皮一枚」というのもある)。

いなか んちゅ 〈田舎(出身の)者〉【例】いなかんちよー たんかーまんかー むる とうーぬ やーにんじゅぬ ぐとう ふいれーすくとう、すい なーふあとー ちがてい っちゅびれー しーやっさん。(田舎出身の人は隣り近所と自分の家族のように付き合うので、首里那覇とは違って付き合いやすい)。

いなむどうち 〈猪料理〉【例】いなむどうちえー やまじし ちかていぬ くわっちー やたしが、なまー っわーじし ちかとーん。(「いなむどうち」は猪を使う料理だったが、現在は豚肉を使っている)。

いばいん 〈威張る〉【例】ぬーぬ いばいん くるとうぬ あいが すら、あぬ いばやーや ちゅーばーふーなー そーん。(いったい何の威張ることができるのか、あの威張っている者は虚勢を張っている)。

いば〜〈狭〉【例】いばさん(狭い)の接頭辞化(宮良 2019a:161-163 頁を参照)。

いば どうくる 〈密集している所〉【例】なーふあぬ まちぐわーや いち っんぢやんてーまん いばどうくる やさ やー。(那覇の市場はいつ行っても混雑しているね)。あつたーや うっさきーぬ うふやーにんじゅ なたーてい あんし いばどうくるんかい しまとーん やー。(あの人たちはあんなに大家族なのにあんなに窮屈にして住んでいるね)。
【参】 っちゅぬ みっちやかーん そーる とうくる (人がいっばいいる所)。

いばいぬ みー 〈狭苦しいところ〉【例】いくさ ゆーや がまぬ いばいぬみーんかい ふうーたいん っちゅぬちやーん くわっく

いとたん。(戦時中は洞窟の狭苦しいところに兵隊も民間人も隠れていた)。MRI っし やんめーしらび すんでいち いばいぬみーんかい いりらってい、どうーぬ つんぢゆからん なてい つんまから つんぢらりーがすらんでいち ちむ だくだく そーたん。(MRIで検査をするといつて狭苦しいところに入れられて、身動きできなくなってそこからいったい出られるのかと胸がどきどきしていた)。

いま 〈新鮮なもの、現世〉 【例】いまいゆ(新鮮な魚)、いまむん(新鮮な動物性のもの)、いまゆー(現世)。いまでー ぐわんす(3世代までの元祖)。【参】なかぬ ゆー(4世代~20世代の世、=なかでー ぐわんす)、さち ゆー(20世代以上も前の世、=つういでー ぐわんす)。

いみ 〈夢〉 【例】みーくーていからー ちゆけーんちょーん いめー みしらん どー。ぬーがな いーぶさるくとー ねーやびらん がやー?(亡くなってから一度も夢は見させてくれないよ。何か言いたいことはないのかねえ)。

いみ あき 〈忌み明け〉 【例】いみあけー さんにん かかいくとう、うぬ つうえーだー うゆうえー さい、やー ぢゆくい さい、やーうーちー さい しえー ならんでい。(忌み明けは3年かかるので、その間はお祝いしたり、家を築いたり、引っ越しをしたりしてはいけないうって)。

いみーん 〈催促する〉【活】いみたん、いみらん、いみてい 【例】ふえーたいぬ アメリカーたーや うちなーから ふえーくなー つんぢてい いけーんでい いみらっとーん。(軍人のアメリカ人たちは沖縄から早く出て行けと催促されている)。ふえーくなー わん どうじっし とうらしよーんでい あーいる かーじ いみらっとーん。(早く私を妻にしてと出会うごとに催促されている)。かとーる じん ふえーくなー けーしえーんち どうしから

いみらっとーん。(借りているお金を早く返してと友人から催促されている)。

いみ すん 〈量が増す〉【活】~さん、~さん、~っし 【例】くみんかい つんむ いったい、まーみんでー まんちきーねー くみぬ いみすん。(米に芋を入れたり、豆などを混ぜると米の量が増す)。くぬ スプレーや ちゆばちなかい うほーく つんぢていちゆーくとう いめーさん。(このスプレーや一度に多く出て来るので無駄が出る)。わらびぬ うふさる とうくろー あちびーぐわー ちゆくてい かましーねー くめー いみ すん。(子どもの多いところは粥をつくって食べさせると米の量が増す)。

いめんしえーん 〈いらっしやる〉【活】いめんそーちゃん、いめんそーらん、いめんそーち

いめんしえーびーん 〈いらっしやる〉【活】いめんしえーびたん、いめんしえーびらん、いめんしえーびてい 【例】うんじょー やまとうんかい いち めんしえーびーが?(あなた様は本土にいついらっしやいますか)。をうとー やーんかい いめんしえーびーみ?(ご主人はいらっしやいますか)。いめんしえーびり。(いらっしやいませ)。【参】うけーいみしえーびーん なー?(お帰りになりますか)。

いゆ 〈魚〉 【例】いちまのー をうとー いゆとうやー、とうじえー いゆうやー そーたん。(糸満の人は夫は魚捕り、妻は魚売りをしていた)。うちなーぬ いゆんでい いーねー、ぐるくん などーん。(沖縄の魚というとグルクンです)。いゆまちん やしえーまちん ちちやるくとー あしが、しまちんでい いしえー ちちやる くとー ねーらん。(魚市場も野菜市場も聞いたことはあるが、肉市場というの聞いたことはない)。

いゆぬ みー 〈魚の目〉 【例】ふいさぬ うらんかい いゆぬみーぬ つんぢやーに

あっちぐりさっさー。(足の裏に魚の目が出来て歩きにくい)。

いらーすん 〈一時立て替えて貸す〉【活】いらーちゃん、いらーさん、いらーち

いらいん 〈一時立て替えて借りる〉【活】いらたん、いららん、いらてい 【例】んかしえー たんかーまんかーとー ちゆい たしきだしき っし、んーす、まーす、そーゆー、くみ、あんだいふえー わきていとうらする くとうんかい 「いらーすん」でい いちよーたん。(昔は隣近所と助け合って、味噌、塩、醤油、米、油を少量分けて与えることに「いらーすん」と言っていた)。

いらな 〈鎌〉 【例】うちなーぐゆみぬ しちぐわち しちにちねー、うやふあーふじんかい うんけーねー めんそーり よーんちぬ うんちけー かきーが、ほーちん いらなん むっち うふあかんかい そーじしーが いちゆん。(陰暦の7月7日には、ご先祖様にお盆の入りにはいらっしやってくださいねとのご案内をしに、ほうきも鎌も持ってお墓に掃除に行く)。

いらぶん 〈選ぶ〉【活】いらだん、いらぼん、いらでい 【例】うちなーからー オリンピックんかい いくたい いらばとーが?(沖縄からはオリンピックに何人選ばれているか)。

いらび ぬくし/いらび ぬくさー 〈選び残し〉 【例】なま じぶのー いらびぬくさーぬどう あくとう、あちやー こーいしえー まし やさ。(今時分は選び残しの物しかないのです、明日買う方がいいよ)。

いらび っんぢやすん 〈選び出す〉 【例】ないむんとうか やしえー こーいねー、じよーとーから いらびっんぢやすん。(果物や野菜を買うときは、よい物だけを選び出す)。

いりーん 〈入れる〉【活】いったん、いりらん、いってい 【例】っういーぬ っちゆぬちやーが どうーぬ いちやるくとう しえー とうらさんくとう、ふだ いりーが いちゆる

っちゆぬ たった いきらくなてい ちよーん。(代議士たちが自分の言ったことをしてくれないので、投票に行く人がだんだん少なくなってきている)。ちやー いってーくとう、ゆく(い)みそーれー。(お茶を入れてあるので、休憩しなさい)。

いり けーいん 〈入れ替える〉【活】いりけーたん、いりけーらん、いりけーてい 【例】ぐまなーびんかい いっちよーるむん まぎなーびんかい いりけーれー。(小さい鍋に入っている物を大きい鍋に入れ替えなさい)。はなぴーぴー そーるむんぬ、んだ! あちこーこーとう いりけーら。なまー ゆー あちりとーさ。(鼻づまりしているのに、どれ! 暖かいのと入れ替えよう。今はよく暖まっているよ)。

いり けーらすん 〈入れ替えさせる〉【活】いりけーちゃん、いりけーさん、いりけーち 【例】うほーく にらとーくとう、しえーしん っし(=いりけーらち) かみ よー。(たくさん煮てあるので、お代わりして食べてね)。

いりち 〈鱗、ふけ〉 【例】いゆぬ いりち(魚のうるこ)。ちぶる あらてい いりち とうしえー。(頭を洗ってふけを落とせ)。

いりちゆん 〈炒める〉【活】いりちゃん、いりかん、いりち 【例】やーきたら やー。しぐなま いりちゆくとう いふえー まっちょーき よー。(お腹すいたでしょう。今すぐ炒めるから待っていなさいよ)。そーみのー いりちー?(そうめん炒めたか)。そーみん いりちー/いりちやー(そうめん炒め)。くーぶ いりちー/いりちやー(昆布炒め)。まーみなーちゃんぶるー(もやし炒め)。

いりめー 〈収入〉 【例】とうしじりに ちーてー、いりめー 55まんゑん、っんぢふあ 50まんゑんでい らしめ あたん。(年度末収支決算については、収入55万円、支出50万円という報告があった)。

いりゆー 〈必要〉 【例】っやー いりゆー

やらー、むっち いけー。(あなたが必要なら、持って行きなさい)。

いりむくー 〈入り婿〉 【例】いりむくーや
やまとうぬ なれー やてい、うちなーをう
てー やしないんぐわー ちーかーから／まが
らから とういん。(入り婿は本土の慣わしで、
沖縄では養子は血族から／親類から取る)。

いりわい 〈口論〉 【例】いりわい すん(口
論する)。

いる 〈色、血色〉 【例】めー いちやたる
とうちねー いるぬがー そーたしが、なまね
ー いるん っんぢてい まし などーさ や
ー。(前に出逢ったときには青白かったが、今で
は血色も出て良くなっているね)。

いらー 〈好色者〉 【例】あれー ぬーんち
(=ちゃー やくとう) いらーんでい いらっ
とーが?(あの人はどういうわけで好色者と言
われているのか)。【参】いる じち(色好き)。

いる かし 〈いろいろ〉 【例】いったー
なーや はなぬ いるかし さちよーてい い
っぺー あからくわーら そーくとう、なーぬ
きーくさん めんそーれーんち っういーり
きさ そーんねー やん やー。(あなたの家
の庭は花がいろいろ咲いていてとてもきれいな
ので、庭の草木もいらっしやいとって喜んで
いるようだね)。

いる そー もーそー 〈驚いて顔色が青く
なるさま〉 【例】あつたに じてんしゃぬ
とうんぢていちゃーに たまし ぬぎてい いる
そーもーそー などーたん。(急に自転車が
飛び出してきて驚いて顔色が青くなっていた)。

いる ぶり 〈好色(女性にのみ用いる)〉

【例】ういきがんでいーる いちむんや うい
なぐびけー とうめーてい あっちょーしが、
ういなごー いるぐとうんかい あっちえー
ならん どーんでいーる ならーしぬ あん。
あん やくとう、いるぶりや ういなぐびけー
んかい ちかーりーるくとう などーがやー?
(男という生き物は女だけを探し歩いているが、
女は色事には走ってはならないという慣しがあ
る。それで、「いるぶり」は女性にだけ使われる
ことになっているのかねえ)。いるぶらー=う
いきがぶらー(男好き)。

いるみー わかすん 〈選り分ける〉【活】
いるみーわかちゃん、いるみーわかさん、いる
みーわかち 【例】あれー っちゅ いるみー
わかち、たーとうん たーとうん どうしえー
さん どー。(あの人は人を選り分けて、誰と
でも友人になることはしないよ)。

いれーいん 〈答える〉 【例】ふいじふいん
とー する ばすねー、ちかーりーるくとう
いれーり よー。(返事するときには、聞こえる
ように答えなさいよ)。いれーはんちやい す
ん。(返答する)。

いん 〈犬〉 【例】えーそーぬ あたらん っち
ゆぬちゃーんかい うちなーをうてー いんと
う まやー んでいいち、ちら あーしねー
かんなじ いりわいぬ うくりーん。(相性が
合わない人たちを沖縄では犬と猫と言って、顔
を合わすと必ず口論が起こる)。いん ちかな
てい ていー くわーりーん。(犬を飼って手
を噛まれる)。

う

うい 〈ウリ〉【例】ういぐわーや どうーぬ
にち どういん。(キュウリは体の熱をとる)。
ういぐわー かみーねー、どうーぬ にち さ
ぎーん。(キュウリを食べると、体の熱を下げる)。

ういん 〈売る〉【活】うたん、うらん、うてい
【例】むぬ ういん。(物売る)。

うららん ぬー 〈見切り品〉【例】うらら
んぬー ういる じぶんに あーち、こーいが
ちゅーる っちゅん をうん。(見切り品を
売る頃に合わせて、買いに来る人もいる)。

ういん 〈織る〉【活】うたん、うらん、うてい
【例】んかしぬ あんまーたーや どうーくる
ぬぬ うてい どうーぬ ちのー ちゅくて
い ちちよーたんでい。なまー うんなくとう
ないる っちゅぬ いきらく なてい まぎ
じん っんぢやちどう うちなーぢぬん こー
らりーる。(昔のお母さんたちは自分で布を織
って自分の着物を作って着ていたんだって。現
在はそんなことができる人が少なくなって大金
を出してしか沖縄で織った着物も買えない)。

うーいん 〈追う、従う〉【活】うーたん、うー
らん、うーてい【例】「くとうば じんぢけー」
やくとう、ちゃー やなぐちびけー しーねー、
くとうば うーてい うぬ とぅーい ないく
とう、ゆー ちちしみ よー。「ことばはお金
のように大切に使うもの」だから、いつも悪い
言葉を使うと、ことばを追ってその通りになる
ので、よく慎みなさいよ)。うや うーてい な
まー いさ などーん。(親に従って現在は医

者になっている)。「くち うーいん」でいる
いくとうばぬ あくとう、ちゃー ゐーくとう
かたり よー。「言葉の通りになる」という
言い伝えもあるので、いつも良いことを話しな
さいよ)。じん に っわーっどーん。(借金に追
われている)。ちゃー ちもー っわーっどー
んねー すん。(いつも心は追われているよう
な気がする、心は落ち着かない)【参】っわー
りーん(追われる)、っわーっどーん(追われて
いる)の音変化に注意。

うーえー くーえー すん 〈追いつ追わ
れつする〉【例】マラソンぬ ゴールまんぐ
らー ちーねー、たいぬ むんさーに うーえ
ーくーえーっし んーちよーる っちゅぬちや
ーん ちむわさわさーっし いっペー みーむ
ん やたん。(マラソンのゴールあたりに来た
ら、二人の者で追いつ追われつして観客もはら
はらしてとても見応えがあった)。

うーいん 〈負う〉【活】うーたん、うーらん、
うーてい【例】っちゅんかい ちみ うーら
さってい わーまでいん やっけーな くとう
やさ。(人に罪を負わさせられて私までも厄介
なことになっているよ)。

うーく 〈奥〉【例】わたくさー どうーく
る うーくんかい かじみやーに なまー ま
ーが やら わからん などーっさ。(へそく
りを自分で奥に大切にしまっておいて今は何処
かわからなくなっている)。かーま うーくん
かい いっちよーしから とぅていくいれー。
(ずうっと奥に入れてあるのから取ってくれ)。

うーく ばー 〈奥歯〉 【例】うーくばーや
あとうあとう みーる はー やてい、みー
ていちゅーる ばすねー ふしがらん あたい
やむん。(奥歯は最後に生える歯なので、生え
てくるときには我慢できないほど痛む)。

うーくい 〈お送り〉 【例】しちぐわちーぬ
みっちゃみーに うやふあーふじ うーくい
すん。(お盆の三日目に先祖様をお送りする)。

うーぐとう 〈ありがたいこと、うれしいこ
と〉 【例】しっちょーるーから ぢー こー
たくとう、でーん さぎていとうらち うーぐ
とう やん。(知り合いから土地を買ったので、
価格も下げてくれて嬉しいことだ)。

うーさり あーさり すん 〈ぺこぺ
こする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】っ
ういーぬ っちゅんかえー うーさりあーさり
すしが、しちゃんかえー いばいほーとーん。
(上司にはぺこぺこするするが、下には威張り散
らかしている)。

うーし 〈白〉 【例】んかしえー むちぐみ
ふいちやい とーふまーみ ふいちやい する
くとうんかえー うーしえー ゆー ちかど
ーたしが、なまー ちかーらん なてい、どう
ーぬ ていー ちかいる くとうん たった
いきらく なてい ぬーがな しからーしく
などーっさ。(昔は餅米を挽いたり、大豆を挽い
たりすることに白をよく使っていたが、今は使
われなくなって、自分の手を使うことも少なく
なって何となく寂しくなっている)。

うーしーん 〈負わせる、疑う〉【活】うーし
たん、うーしらん、うーしてい 【例】ぬすどう
さんでいち うーしらってい くさみちよー
たん。(盗んだといって疑われて激怒していた)。
っちよー うーしんな けー。(他人を疑うな)。
っちゅ うーしやー (人を疑う者)。

うーすん 〈負わす〉【活】うーちゃん、うーさ
ん、うーち 【例】っちゅ うーしえー さん

ぐとう ななけのー あまくま とうめーしや
んでいーる んかしんちゅぬ ならーしぬ あ
ん。(他人に負わせないで七回あちらこちらを
探すことだよという昔の人の教えがある)。

うーちるがいん 〈すっかり浸透する、すっ
かり連なる〉【活】うーちるがたん、うーちるが
らん、うーちるがてい 【例】プキットゥんかい
いっどーたる ぺんぬ インクぬ うーちる
がてい じゃーふえー なたん。(ポケットに
入っていたペンのインクが浸透して困ってしま
った)。

うーちりばんた 〈断崖絶壁〉 【例】うー
ちりばんたとうっし ゆー しらっどーしえー
くんぢゃんぬ かやうちばんたとう ふいど
うみさちとう うんなぬ まんぎもー やん。
(断崖絶壁として知られているのに、国頭の茅打
ちばんたと辺戸岬と恩納の万座毛である)。

うーとーとう すん 〈お祈りする〉【活】～
さん、～さん、～っし 【例】めーあさ うちやと
ー すんでいち ていー うさーち うーとー
とうすん。(毎朝お茶を供えて手を合わせてお
祈りする)。

うーばんばらー すん 〈がらんとして
いる〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】あつた
ー やーや うーばんばらーっし とうんどー
やーぬ ぐとう やさ。(あの家はがらんとし
ていて倉庫のようだ)。

うーび 〈帯〉 【例】うーべー ういきがぬ
しみーたしが、はたらちやー ういなぐぬ う
ーび とうっし みるさーうーびぬ あたん。
(帯は男性が締めたが、女性労働者の帯としてミ
ンサー帯があった)。

うーふあ 〈おんぶ〉 【例】しーじゃぬちや
ーんかい うーふあ さつてい っくわむやー
さつたくと、わんにん うっとうぬちやー
うーふあ しーぶさたん。(兄弟におんぶさ

れて子守りされたので、私も弟妹をおんぶしたかった)。

うーふぁ すん 〈おぶる〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】うや うーふぁさーに くるまんかい ぬしてい いさぬやーまでい そーてい いちゆる しがたー ちゅらさん。あっちゆる くとう ないるまでー うやぬ っくわ うーふぁ そーしが、うやぬ あっからんないねー っくわぬ うや うーふぁ すんでいーるくとう ないる ばー やさ やー。(親をおぶって車に乗せて病院で連れて行く姿は感慨深い。歩けるようになるまでは親が子をおぶるが、親が歩けなくなれば子が親をおぶることになるわけだねえ)。

うーふー 〈敬語〉 【例】あんどー やるんでいーる ばすねー しーじゃんかえー 「うー」んでいいち、ゆばりーねー 「ふー」んでいいち いれーする くとうから、「うーふー」やうやめーくとうば などーん。(肯定するときには目上には「うー」と言い、呼びかけられると「ふー」と返事することから、「うーふー」は敬い表現になっている)。

うーまくー、うーまく 〈腕白、しっかり者〉 【例】わらびぬ うーまくーんでい いーしえー いぢりむち やてい わらびらーさー あしが、ゆー むんならーし さねーならん。(子どもの腕白は元気者で子どもらしさはあるが、よくしつけないといけない)。あれー ちゃー むぬいー いきらさー あしが、うーまく やてい ぬーんくいーん ないん。(あの人は言葉数は少ないが、しっかり者で何でもできる)。【参】ちかんぬー (人の言うことを聞かない者)。

うかきぶしえー 〈お治めになること〉 【例】いしなぐぬ いしぬ うふしー なるまでいん うかきぶしえーみしよーり、わー うしゅがなし。(石取り遊びの石が大岩になるまでもお治めください、我が君よ)。うかきじま (領地)。

うかじやい かび 〈祭壇に供える紙〉

【例】しるー、ちーるー、あかーぬ うかじやいかび、たんとう くぶ、くにぶ、そーぐわちもち うさぎてい、どーうーがんじゅーさ をうがむん。(白、黄、赤色のお供え用の紙、炭と昆布、ミカン、正月のお餅を供えて、健康を祈る)。

うかぢ 〈おかげ〉 【例】やぐさみむん やくとう、うんじゅが とうんじやくっし とうらちやる うかぢに ぬち もーきやびたん。(独り者なので、あなたが看病してくれたおかげで、命拾いをしました)。

うかっとうー 〈うっかり者〉 【例】ちゅとうぬ やくすくぐとう ちゃー わしたん、わしたんっし えーていからぬ でんわぬ ちゃんでい いちやくとうどう わかたんでい。あれー はていうかっとうー どー。(人との約束事をいつも忘れた、忘れたとして相手からの電話が来たと言ったのでわかったって。あの人はひどいうっかり者だよ)。

うかみがなしー 〈神様〉 【例】ニライカナイぬ うかみがなしーや かーまかーま うみぬ はていから めんしえーん。(ニライカナイの神様は、はるか遠い海の果てからいらっしやる)。

うきーん 〈浮かべる〉【活】うかちゃん、うかさん、うかち 【例】きーぬ ふぁーさーに ふに ちゅくてい、みじんかい うきてい あしだん。(木の葉で舟を作って、水に浮かべて遊んだ)。ながりゆる みじに さくらばな うきてい、いるぢゅらさ あていどう すくていん ちやる。(琉歌：流れる水に桜花を浮かべ、あまりにも色美しくてすくってみた)。

うきーん 〈起きる〉【活】うきたん、うきらん、うきてい 【例】うきていん にんていん っやーくとうびけー かんげーとーん。(寝ても覚めてもあなたのことばかり考えている)。
うきじやま にじやま 〈起きぬけ〉 【例】あつたに でんわぬ なてい、うきじやまにじ

やまぬ くとう やてい ぬー などーが す
ら、ちゃーっし ふいんとー しえー しみが
すら わからんたん。(突然電話が鳴って、起
きぬけのことでいったいどうなっているのか、
いったいどのようにして返答したらいいのか分
からなかった)。

うき にんぢ 〈床についたまま起きること〉
【例】ゆながた うきにんぢ そーたくとう、
ちゅーや どうー あんまさっし めー あん
べー あらん。(一晩中床についたまま起きて
いたので、今日は体調不良ですっきりしない)。

うきーん 〈受ける、引き受ける〉【活】うきた
ん、うきらん、うきてい 【例】とうじ なてい
とうらし んでいーる くとうば うきてい、
しくちん やみてい にーびちぬ しこーいむ
こーい そーん。(妻になってくれとの言葉を受
けて、仕事も辞めて結婚の準備をしている)。
ありが しくちえー わんが うきてい さび
ーさ／すさ。(あの人の仕事は私が引き受けて
しますよ／するよ)。

うき とういん 〈取得した〉【活】うきとう
たん、うきとうらん、うきとうてい 【例】だい
がく っんぢてい しんしーぬ くわんさち
うきとうたん。(大学を出て先生の資格を取得
した)。

うき とうみーん 〈受け止める〉【活】うき
とうみたん、うきとうみらん、うきとうみてい
【例】きーぬ さちんかい などーる、んどーる
ばんしるー とういるたみに、きー をうー
てい うていていちゅーし うきとうみたん。
(木の先になっている、熟れたグワバを採るた
めに、木を揺すって落ちてくるのを受け止めた)。

うき どうい 〈領収書〉【例】むぬ こ
ーたい、じん はらたい さるばすねー、うき
どうい めーてい かくぐそーかんねー あと
うから じゃーふえー ないん どー。(物を
買ったり、支払いした時には、領収書もらっ
て保管しておかないと後で困ることになるよ)。
【参】かくぐすん(書類を大切に保管する)、た
ぶいん(食べ物やお金を貯える)。

うきにん 〈保証人〉【例】っちゅぬ うき
にん ないしやかん っんまぬ ちび くじー
しえー まし。(保証人になるよりも馬のお尻
をほじくる方がいい)。

うき ふいんとー 〈受け答え〉【例】っち
ゅとう うきふいんとー そーていどう そー
むのー みーていちゅーさ。(人とことばのか
けひきをしてこそ本物は見えてくる)。うきふ
いんとー するばすねー、ゆー かんげーてい
いれーり よー。(受け応えする際には、よく
考えて答えなさいよ)。

うき むち 〈受け持ち〉【例】くんどうぬ
うきむちぬ しんしーぬ なーや ぬーんで
い いーが?(今度の受け持ちの先生の名前は
何て言うの)。

うきんじゅ はいんじゅ 〈受水走水〉
【例】うちなーをうてー うきんじゅはいんじ
ゅんぢ っんにぬ はじみてい ちゅくらった
ん。(沖縄では受水走水で稲が初めて作られた)。

うくいん 〈送る〉【活】うくたん、うくらん、
うくてい 【例】なまぬ ゆーや ていがみ、は
がち うくいしやかー メールさーに とうい
けー ないるぐとう などーん。(現代の世の
中は手紙や葉書を送るよりはメールでやりとり
できるようになっている)。
【参】ぐじょー(手紙)とも言う。

うぐしく 〈首里城〉【例】うぐしくんかえ
ー うむんだしーうどうん、くがにうどうん
でーぬ あてい、ふかにん いくちん ちけーみ
ちぬ ちがとーる うじょーぬ あしが、うむ
むちぬ かないるぐとう ちゅくらっとうん。
(首里城には御百浦添御殿、黄金御殿などがあ
って、他にもいくつも使い道が違ふ御門があ
るが、目的に合うように建造されている)。

うくすん 〈起こす〉【活】うくちゃん、うくさ
ん、うくち 【例】めーなち していみてー そ
ーみなーぬ ちゅらさる たかぶぎんかい う
くさっとうん。(毎日早朝はメジロの美しい甲
高いさえずに起こされている)。

うくすん 〈興す〉【活】うくちゃん、うくさん、うくち【例】みーくに ういむん ちゆくていむら うくすん。(新商品を作って村を興す)。

うくりーん 〈初めて起こる〉【活】うくりたん、うくららん、うくりてい【例】くぬ ゆーや ぬーぬが うくりーらー わからん。(この世の中はいったい何が起こるか判らない)。いち やていん しけーぬ まーがなをうてい いくさぬ うくりとーん。(いつでも世界のどこかで戦争が起こっている)。

うぐりーん 〈再発する〉【活】うぐりたん、うぐららん、うぐりてい【例】あれー むちやんめーぬ またん うぐりとーんでい いーっさー。(あの人は持病がまたもぶり返したと言っているよ)。

うくりーん 〈遅れる〉【活】うくりたん、うくららん、うくりてい【例】うくりてい(=にっか なてい) ぐぶりー さびたん。(遅れてすみません)。

うくでい 〈神人〉【例】なーむんちゅーむんちゅーんかえー をうないうくでい、ういきーうくでいぬ をうてい うまちーぬ ぢしちすん。(どの門中にも女性の神人、男性の神人がいて祭りの儀式をする)。

うけー (めー) 〈お粥〉【例】どうーぬ あんまさ そーる ばすねー くちにーさくとう、うけー やれー かみやっさん。(体調がすぐれないときには食欲もないので、お粥なら食べやすい)。

うこー 〈お線香〉【例】うちなーや うやふあーふじ あがみーる なれーぬ あてい、「うこーどう こーこー」んでいーる くとうばぬ あん。(沖縄は祖先を敬う習慣があって、「お線香をあげるのが孝行」という言葉がある)。

うこーる 〈香炉〉【例】うちなーをうてー っくわっんまがぬ さけーいるたみに ぶち

だんぬ うこーろー まぎまぎーとう うちきしえー ましんでい いらっとーん。(沖縄では子孫が繁栄させるために仏壇の香炉は大きくして置くと良いと言われている)。

うぐわん 〈祈願〉【例】なーちねーぢねーやーにんじゅぬ ふしうぐわん する たみにすいぬ うていら みぐてい にんとうーぬ うぐわん すん。(各家庭で家族の無事息災を願うために首里のお寺をまわって年頭の祈願をする)。ちちゅにんぢのー いちちよーるかぢれー うぐわんぐとうぬ うふく なていちゅーん。(人間は生きている限りは祈願することが増えてくる)。**【参】**うがん(拝所、うたき<御嶽>よりは小さい)、をうがむん(拝む)。

うぐわん ぐとう 〈願い事〉【例】やーにんじゅんかい ぬーがな さーいぬ あたる ばすねー、うぐわんぐとう する くとうん あん。(家族に何か障りがあったときには、願い事をすることもある)。

うぐわん じゅ 〈拝所〉【例】いしぬ すばんかい くばとうか まーにぬ つういーらっとうーる とうくるんかい 「いび」んでい いち、「うたき」んでいん いーしが、うぐわん じよー むらぬつちゅぬちやーが をうがむん とうくる やてい 「むらでー」んでいん いーん。(石の側にとか、クバとかクロツグが植えられているところに「いび」と言って、御嶽とも言うが、拝所は村人が拝むところで「むらでー」とも言う)。

うぐわん ぶとうち 〈結願のお礼参り〉【例】うちなーぐゆみぬ しわーしぬ にじゅーゆっかー みふいーぬがなしーめーぬ うていぬんかい ぬぶ(い)みしえーる ふいー やくとう、うぐわんぶとうち などーてい くんとうしぬ つうえーだぬ しでいがふー すん。(旧暦の12月24日は火の神様が昇天なさる日なので、結願のお礼参りになっていて今年一年間の感謝をする)。**【参】**みふいーぬがなしーめー=ふいぬかんがなしーめー(火の神)。

うさーいん 〈合わさる〉【活】うさーたん、う

さーらん、うさーてい 【例】 しーとうぬちゃーぬ いきらく なていちやくとう、たーちぬ がっこーぬ ていーちんかい うさーたん。(生徒たちが少なくなって来たので、2つの学校が合併した)。

うさーすん 〈合わす、抱かせる〉【活】 うさーちゃん、うさーさん、うさーち 【例】 っちょー じゃーふえー ないねー、 あきさみよー っし うかみんかい 「たしきていくいみそーりよー」っし ていー うさーすん。(人は困ってしまうと、大変だといって神様に「助けてください」と手を合わす)。たーちとう みーち うさーち ちゃっさ(ない)が?(2と3を合わすといくつか)。かー うみーる ばすねー、ぬーさわいん ねーらんくとう にがてい、かがん たーち うさーち かーんかい いったい うみーんでい。(井戸を埋める際には、何の障りもないように、鏡を2つ合わせて井戸に入れて埋めるって)。

うさーりーん 〈襲われる〉【活】 うさーりたん、うさーりらん、うさーりてい 【例】 ゆすぐにをうてい いふーな っちゆんかい うさーりらってい じんかに むる けーとうらったんでい。(外国で悪い人に襲われて有り金をすっかり奪われたって)。

うさがいん 〈いただく〉【活】 うさがたん、うさがらん、うさがてい 【例】 あちさるうちに うさがみそーれー。(温かいうちに召し上がれ)。あちさるうちに うさがみしえーびり。(温かいうちにお召し上がり下さい)。

うさきー(なー) 〈そんなにたくさん〉【例】 うさきーなーぬ っちゆぬ まーから あちまていちゃが やー?(そんなにたくさんの人が何処から集まって来たのかねえ)。「うさきーぬ こーいむんっし たーがが かむら?」「いん まやーん をういびーしえー。」(「そんなにたくさんのお買い物をしていったい誰が食べるのか」「犬も猫もいますから」)。

うさぢ 〈ウサギ〉 【例】 うさぢえー かなさ っし ちかなえー すしが、かめー さん。(ウサギはペットとして飼うが、食用にはしない)。

うさんでー 〈供え物をさげたもの〉 【例】 「うさんでー さびら」んでいち ぶちだんから さぎてい、んなっし かむん。「お下げします」と言ってお壇からお下げして、みんなで食べる)。

うし 〈牛〉

うし おーらしえー 〈闘牛〉 【例】 ちなぬ うしおーらしえーや うしとう うしどう あーち くんちすーぶ すしが、ゆすぐにをうてー っちゆぬ うし まかち すーぶぬ ちちゆん。(沖縄の闘牛は牛と牛を対面させて力勝負をするが、外国では人が牛を負かして決着がつく)。

うしぬ しし 〈牛肉〉 【例】 んかしえー うしぬ ししんかい 「ちぬあつたみ」んでい いちよーたん。(昔は牛の肉に「ちぬあつたみ」と言っていた)。なまぬ っちょー うしぬ しし ゆー かどーん。(現代人は牛肉をよく食べている)。

うしぬ ちー 〈牛乳〉 【例】 うしぬ ちーぬみーねー、ふにぬ ちゆーく ないん。(牛乳を飲むと骨が強くなる)。

うしーまーしー 〈順々にまわすこと〉 【例】 みじ ぶすくねー うしーまーしーっし バケツさーに みじ はくぶたん。(水不足にはバケツで順々に水をまわして運んだものだ)。

うしーみー 〈清明祭〉 【例】 うしーみーや うちなーぐゆみぬ さんぐわちに うはかぬめーに あちまてい、うさんみじゆーばく うさぎてい、やーにんじゆぬ からだがんじゆーさ にがいん。(清明祭には旧暦3月にお墓の前に集まって、重箱料理をお供えして、家族の健康を祈る)。

うじーん 〈恐れをなす、怖じる〉【活】 うじたん、うじらん、うじてい 【例】 ぬー すんでい

いちん はじみから うじーねー ぬーん
ならん。(何をするにしても最初から恐れをな
すと何もできない)。よぼーちゅーしゃ さん
とー ならんしが、はーい ささりーし うじ
てい なーだ いかん。(予防接種をしないと
いけないが、針を刺されるのを恐れてまだ行か
ない)。

うじーちーん 〈すっかり怖じ気づく〉【活】
うじーちたん、うじーちらん、うじーちてい
【例】やま あっちょーる ばすに みーぬ め
ーんかい あったに くまぬ っんぢていちゃ
くとう、うじーちてい なー うちくわーって
い しぬさやーんでい うむたん。(山中を歩
いているときに目の前に急に熊サが出て来たの
で、すっかり怖じ気づいてもう喰われて死ぬん
だと思った)。

うしえーいん 〈ばかにする〉【活】うしえー
たん、うしえーらん、うしえーてい 【例】なま
ぬ じでーや めーやかにん なーすくぶんす
くぶんさーに っちゅ うしえーいる くどー
ねーらん などーん。(現代は以前よりも各
自の職業で人をばかにすることはなくなってい
る)。

うし〜〈押し〉

うし くるばーしえー すん 〈混雑で押
し合いする〉【活】〜さん、〜さん、〜っし 【例】
みーむん んーぢゅんち かんげーらん あ
たいぬ っちゅぬ をうてい、うしくるばーし
えーっし ふいさん くんぴらってい くつん
ぬぎてい ふしがらんたん。(見物するとい
って考えられないほどの人がいて、混雑の押し
合いで足も踏まれて靴も脱げて大変だった)。

うし くみーん 〈押しえつける〉【活】〜く
みたん、〜くみらん、〜くみてい 【例】っちゅぬ
ちじ うしくみーしん ならん、っちゅんか
い ちじ うしくみらっていん ならん。(人
の頭頂を押しえつけてもいけない、人に押しえ
つけられてもいけない)。

うし けーすん 〈押し返す〉【活】〜けーち
ゃん、〜けーさん、〜けーち 【例】むぬ うし

ちきてい こーれーこーれー する っちゅん
かい こーらんでい いやーに うしけーちゃ
ん。(物を押しつけて買いなさい買いなさいす
る人に買わないといって押し返した)。

うし けーらすん 〈突き飛ばす〉【活】〜け
ーらちゃん、〜けーらさん、〜けーらち 【例】あ
わていてい じてんしゃ はらしーねー ばっ
ペーてい っちゅ うしけーらする ぼーん
あくとう ちー ちぎり よー。(急いで自転
車を走らせるとあやまって人を突き倒すことも
あるので気をつけなさいよ)。

うし ちーん 〈ちょん切る、押しきる〉【活】〜
ちっちゃん、〜ちらん、〜ちっち 【例】っやー
からじ んーちやく うしちっち くーわ。
(あなたの頭髪を短く切ってきてなさい)。たーが
ぬーんでい いらわん、どうーぬ するくと
ー、うしちっち いちゆる っちゅ やん。(誰
が何と言おうとも、自分のすることは押し切っ
て行く人だ)。

うし ちきーん 〈押しつける〉【活】〜ちき
たん、〜ちきらん、〜ちきてい 【例】どうーや
ふいんぎまーい さーに っちゅんかい うし
ちきーん。(自分は逃げ回って人に押しつける)。

うし ぬきーん 〈押しのける〉【活】〜ぬき
たん、〜ぬきらん、〜ぬきてい 【例】っちゅぬ
ゐーくちえー うきてい、ちむ ふがんと
う、やなくとー うしぬきてい ちむぢゅーく
むちゅし やん。(人の誠実なことばは受け
て、納得しないこと、不快なことばは押しのけ
て気持ちを強くもつべきだ)。

うし まーすん 〈きりっと締める〉【活】〜
まーちゃん、〜まーさん、〜まーち 【例】さーじ
ん、うーびん うしまーち、ぶでーんかい っ
んぢたん。(はちまきも、帯もきりっと締めて、
舞台上上がった)。ちなふいちぬ なーや ち
な うしまーち ちゅくいん。(綱引きの縄は
縄をしっかりと締めて作る)。

うし まぎーん 〈負かす〉【活】〜まぎた
ん、〜まぎらん、〜まぎてい 【例】るーちゅーや
やまとうーんかい うしまぎらってい、16
11にん あまみ とうらったん。(琉球は大

和の人々に屈服させられて、1611年に奄美を手放した)。

うし ゆしーん 〈押し寄せる〉【活】～ゆしたん、～ゆしらん、～ゆしてい 【例】しがりなみぬ うしゆしてい やーん、くるまん、ある うっさ むる ながちゃん。(津波が押し寄せて家も車もあるものすべて流した)。

うし っんぢやすん 〈押し出す〉【活】～っんぢやちゃん、～っんぢやさん、～っんぢやち 【例】はみがきぬ ぬくやー うしっんぢやち ある うっさ しぶてい ちかたん。(歯磨きの残りを押し出して最後まで絞って使った)。

うし とーすん 〈押し通す〉【活】～とーちゃん、～とーさん、～とーち 【例】ちゃー どうーぬ いちんびけー うしとーしーねー、たーん ちかん ないん。(いつも自分の意見ばかり押し通すと、誰も聞かなくなる)。

うし んちゅん 〈押し込む〉【活】～んちゃん、～んかん、～んち 【例】まーみなー ふくるんかい いーる うっさ いらーんち じんぶん っんぢやち うほーく うしんちよーる わかういなぐぬ をうたん。(もやしを袋に入るだけ入れようと知恵を出してたくさん押し込んでいた若い女性がいた)。

うしざし 〈かんざしの種類〉 【例】んかしぬ ういきいがー じーふあーとう うしざしん でい いちよーし たーち ぐー なち さち ちゃん。(向かいの男性はかんざしと「うしざし」と言っているのを2つ対にして差した)。

うしでーく 〈白太鼓〉 【例】むらまちりを うてい ぬーるぬ うしでーく たたち、からだ だがんじゅーさ あんしから ゆがふー ながいん。(村祭りにおいて祝女が白太鼓をたたいて、健康と世果報を祈る)。

うじみーん 〈埋める〉【活】うじみたん、うじみらん、うじみてい 【例】くぬ しーぬ しちゃんかい くがにぬ まがたまぬ うじみらっとーたんでい。(この岩の下に黄金の勾玉が埋められていたって)。

うしる 〈おつゆ〉 【例】「うんじょー うしるん うさがみしえーみ?」「わんねー しろー しむさ」「あなたはおつゆもいただきますか」「わたしはおつゆは要らないよ」。ちゃー いちゅなさぬ、うしるぢきーさーに しまちよーん。(いつも忙しくてご飯に汁をかけて済ませている)。

うしる くぶー 〈後頭頸部〉 【例】がっぱやー (後頭部の突起が大きい者)。わんねー うしるくぶーんかいん みーぬ あん どー。(私は後頭頸部にも目はあるよ)。ちーぬ たかさる たっくいー やてい うしるくぶーぬ くふあとーん。(高血圧の家系なので後頭頸部が凝っている)。**【参】**くし がっぱい(後頭部)。

うじゃさー 〈おじさん〉 【例】うじゃさーや いくたいや をうしが、うばまーや ちゅいどう をうくどう、をういみぬ ていがねーさーぬ いきらさぬ、じゃーふえー などーん。(おじさんは何人かはいるが、お婆さんは一人しかいないので、年中行事の手伝いする人が少なくて、困っている)。

うじゅますん 〈目を醒させる〉【活】うじゅまちゃん、うじゅまさん、うじゅまち 【例】わんが まぎく はな ふいやーに、にんとーる っちゅぬちやー うじゅまち ねーらん。(私が大きなくしゃみをして、寝ている人たちを目を覚まさせてしまった)。ぬーぬ うじゅましん さんぐとう やー うちりよー さっとーん。(何の警告もなしに引っ越しを強制されている)。

うじゅむん 〈目を醒す〉【活】うじゅだん、うじゅまん、うじゅでい 【例】めー あさぬぬ じぶんに うじゅまーに しぐ コーヒーから ぬむん。(毎朝同じ時刻に目をさましてまずはコーヒーを飲む)。かんないぬ わりない さくとう、にんとーる わらびん うじゅでいねーらん。(雷が割れるように鳴るので、寝ている子も目を覚ましてしまった)。

うじゅみ 〈はずみ、きっかけ〉 【例】はじめー たいっし しんじんとう はなし そー たしが、むんどーふいんどー なてい、あとうぬ うじゅめー ていーねーい ふいさねーいぬ おーえー なたん。(はじめは二人で静かに話をしていたが、口論になって、最後には手出し足蹴りのけんかになった)。

うしんちー 〈着物の前の端を腰巻きの紐の内側に押し込むこと〉 【例】うーべー ちかーんくとう、ちんぬ はっばらんぐとう ちんぬ めーぬ はた くしまちぬ をうーんかい うしんちゆる ちーかたんかい 「うしんちー」んでい いーん。(帯は使わないので、着物が前に開かないように着物の前の端を腰巻きの紐に押し込む着付けを「うしんちー」と言う)。
【参】をうー (結ぶための紐)、ういーるー (よって作ったヒモ)。

うすめー 〈おじいさん(平民)〉 【例】はーめー (平民のおばあさん)。

うすりーん 〈敬う〉【活】うすりたん、うすりらん、うすりてい 【例】しんしーや しーとうぬ ちゃーんかい うすりらりーわどう やる。(先生は生徒たちに尊敬されないといけない)。
うすり 〈敬いの気持ち、畏れ〉 【例】どうーくる じんもーき さんまどー、じんぬ うすれー わからん。(自分でお金儲けをするまではお金のありがたさはわからない)。うやんかいぬ うすりん っちゅんかいぬ うすりん たらーん。(親への尊敬も他人への尊ぶ気持ちも足りない)。

うすあかがい 〈薄明かり〉 【例】していみてい るくじ やていん なまー うすあかがいどう そーる。(早朝6時でも今は薄明かりになっている)。

うすく 〈あこう〉 【例】「うすく」んでいーる きーや まぎきー なてい うぬ みーや かまりーんでい いーしが、かだるくとーねーらん。「あこう」という木は大木になって

その実は食べられるというが、食べたことはない)。

うすでー 〈お祝儀〉 【例】うすでーや ちゃぬ あたい いりれー しむがやー?(お祝儀はどれほど入れればよいのかね)。
【参】こーでのー ちゃっさ しえー しむがやー?(香典はいくらにしたらよいのかねえ)。

うすん 〈押す〉【活】うちゃん、うさん、うち 【例】じんくわぬブザー うち えーじすん。(玄関のブザーを押して合図する)。んかしぬ でんわー いーびさーに ぼんごー まーちよーたしが、なまー いーびさーに よーんぐわー うすん。(昔の電話は指で番号を回していたが、現在は指で軽く押す)。んかしえー いんかん うするびけーどう やたしが、ちかぐろー いんかんがーいに なーぬしぬ かちん しむるくとうん あん。(昔は印鑑押すだけだったが、近頃は本人が署名してもよいこともある)。

うすいん 〈かぶせる、抱く〉【活】うすたん、うすらん、うすてい 【例】ふえーぬ いーくとう なーびぬ ふた うすとーけー。(ハエがはいるので鍋のふたを被せておきなさい)。とういぐわーや しでいーるまでい くーが うすいん。(小鳥はふ化するまで卵を抱く)。

うすばすん 〈伏せる〉【活】うすばちゃん、うすばさん、うすばち 【例】まかいどーぐ あらたるあとー、ふーちんさーに すすやーに、うすばちよーけー。(食器を洗った後は、フキンで拭いて、伏せておきなさい)。まかいどーぐ あらたるあとー、みじ ちーるたみに うすばすん。(食器を洗った後は、水切りのために伏せておく)。

うた 〈歌〉 【例】うちなーぐちぬ うた ちゅくてい わらびんちゃーかい うたーすん。(沖縄語の歌をつかって子どもたちに歌わせる)。
うた さー 〈歌手〉 【例】あれー めーぬーでいー むっちょーくとう、うたさー な

いしえー ましえー あらに？(あの人はいい声をしているので、歌手になればいいんじゃないか)。

うた さんしん 〈歌三線〉【例】ふえーさる うた やれー うたさんしんさーに ふいやみかさって、よーんなーぬ うた やれーちむ なたやく なさりーん。(速い歌であれば歌三線で元気づけられて、ゆっくりとした歌であれば心が穏やかにされる)。

うだーすん 〈おどす、どなりつける〉【活】うだーちゃん、うだーさん、うだーち 【例】ちちゅ うだーち じんかに どういる くとーたーがが ならーちゃら？(人をおどしてお金を取ることをいったい誰が教えたのか)。

うたき 〈御嶽〉【例】うたきをうてい どうーがんぢゅーさ にがいる うぐわんっし ちよーん。(御嶽で健康を願う祈りをして来ている)。うたきんかい いーるばすねー ちゃぬよーな わきぬ あてい ちゃーびたんでい えーさち すし やんでい。(御嶽に入るときにはどのような理由で来ましたという挨拶をすべきだって)。

うたとくくる 〈お二人様〉【例】くまんかい めんしえーる うたとくくろー まーから やみしえーがやー？(ここにいらっしゃるお二人様はどこからいらしゃったのですか)。

うたびみしえーん 〈いただく〉【活】うたびみそーちゃん、うたびみそーらん、うたびみそーち 【例】ひゃーくまでい ながぬち んーちゃんていち くーじから ぐふーび うたびみそーちゃん。(百歳まで長生きしたということで官庁からごほうびをいただいた)。ぢーち やしち ちゅらさ かばさ しみらち うたびみしえーびり。(土地、屋敷を清らかに香ばしくなさってください)。

うち〜〈すっかり、まるごと(強調)〉【例】をうたとーたくとう、もーふ うちかんでい にんたん。(疲れていたの、毛布をまるごと掛け

て寝た)。あちこーこー とーふ うちくわやーに ぬーでいー やちゃん。(熱々の豆腐をまるごと口に入れて喉を焼いた)。しまん むらん ちちゅん むる うちかわてい いちゅしが、ちちゅぬ くくるまでー かわてー ならん。(地域も村も人もみんなすっかり変わっていくが、人の心までは変わってはならない)。むる うちばちゃん。(全部すっかりさばいた、たいらげた)。わかういなぐんかい うちふりとーん。(若い娘にすっかり惚れでいる)。しくちん うちなすん。(仕事もすっかり終える)。

うち 〈内、家の中〉【例】「ちゃーびら さい」「あい、ちー？(あい、ちえーさ やー) うちんかい いれー」「ごめんください」「ああ、来たのか(ああ、来たんだね)。中にお入り)。どうーぬ ちねーうちぬ くとう ちちゅんかい いーる くとー するむのー あらん。(自分の家庭のことを他人に言うものではない)。

うちーん 〈映る、移る〉【活】うちたん、うちらん、うちてい 【例】なーふあんかえー あまくまから うちていちよーる ちちゅぬちゃーぬ うふさん。(那覇にはあちらこちらから移住ってきている人たちが多)【参】うちゅすん(映す、移す)。

うち かび 〈紙銭、あの世の紙幣〉【例】うちかべー かみふとうきんかい うさぎーる ぐそーぬ じん やてい、うり あんてい うちぬんかい とうどうきーん。(うちかびは神仏に供えるあの世の紙幣で、それを燃やして天上に届ける)。

うちきーん 〈置く〉【活】うちきたん、うちきらん、うちきてい 【例】ちかいねー むと うぬ とうくまんかい うちきとーき よー。(使ったら元の場所に置いておきなさいよ)。

うちくむん 〈雨が屋内に降り込む〉【活】うちくだん、うちくまん、うちくでい 【例】まど う みちーっし わしてい あみぬ ちゅらー

さ うちくどーたん。(窓を閉めるのを忘れて雨がすっかり屋内に降り込んでいた)。

うちけー さりやー 〈使いつ走り〉

【例】しくちばをうてー っういーぬむんぬ うちけーさりやー さっとーん。(職場では上司の使いつ走りされている)。

うちちゅー (ぬ) めー／とーとー がなしーめー 〈お月様〉

【例】うちちゅーぬめーや たーが ぬー さがんでい いーる くとうまでい ぬーんくいーん みゆんかきみそーちよーん。(お月様は誰が何をしたかということまで何もかもご覧になっていらっしやる)。

うちなー ぐち 〈沖縄語〉

【例】うちなーぐち わしーねー、どーぬ うやぬ ちらん わしーん。(沖縄語を忘れてら、自分の親の顔も忘れる)。

うちなー ゆー 〈沖縄世〉

【例】ふえーばん なていから やまとう ゆー なたしが、いちかー かなじ わした うちなー ゆー とういむどうち みしらな。(廃藩置県になってから大和の世になったが、いつか必ず私たちの沖縄世を取り戻してみせよう)。うちなー ゆー とういむどうするたみねー、ぬーやかん うぐわんすゆじりぬ うちなーぬ くとうば とういむどうさんだれー ならん。(沖縄世を取り戻すためには、何よりも伝統的な沖縄のことばを取り戻さないといけない)。

うちながにー 〈肩ロース〉

【例】うちながにーや やふあてーんっし まーさくとう、まるけーていなーや かどーん。(ロースは柔らかくて美味しいので、時々食べている)。

うちなすん 〈済ます〉

【活】うちなちゃん、うちなさん、うちなち 【例】めんきよしよー あらたみーしえー うちなちえーん。(免許証を更新するのはすっかり済んでいる)。しちぐわちむんぬ しこーいむこーい なー うちなち

やみ?(お盆の準備はもう済ませたか)。なー っやーや しくちえー うちなちー? でいっか けーら。(もうあなたは仕事はすませたか。それでは帰ろう)。**【参】**うちないん (済む)。

うちやいん 〈似合う〉

【活】うちやたん、うちやらん、うちやてい 【例】まっかーらー セーターや っやーんかい いっぺー うちやとーん やー。(赤いセーターはあなたに似合っているね)。あぬ っちよー かーぎん じんぶぬん うちやとーん。(あの人は容姿も賢明さもよく釣り合っている)。たきふどうぬ ゆー うちやとーん。(容姿端麗である[男性にのみ用いる])。くぬ ちのー っやーんかい ゆー うちやとーん。(この服はあなたによく似合っている)。

うちやたい かなたい すん

〈たがいによく似合う〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】かーぎしがたん じんぶぬん ちむん うちやたいかなたい そーん。(容姿から賢明さ、心やさしさに至るまでも釣り合っている)。あぬ みーとうんだー うちやたいかなたいっし やー。あん ぐとーるーや いきらさん どー。(あの夫婦はよくお似合いだ。ああいうのは少ないよ)。

うちやーすん 〈打ち合わす、協力する〉

【活】うちやーちゃん、うちやーさん、うちやーち 【例】ちむ うちやーちくいみっそーり。(御協力ください)。

うちやがいん 〈見違える〉

【活】うちやがたん、うちやがらん、うちやがてい 【例】だんばち さくとう、まーぬ たー やがやーんでい うむたさ、あんし うちやがとーしえー。(散髪をしたので、何処の誰なのかと思ったよ、とても見違えているよ)。

うちやぎーん 〈上に向く〉

【活】うちやぎたん、うちやぎらん、うちやぎてい 【例】しゃしん ぬぢゆる ばすねー うとうげーや うちやぎーんな よー。(写真をとる時には顎はひ

きなさいよ)。はーうちやげーや うた じょーじ やんでい。(反り歯の者は歌が上手だとさ)。しきん うしえーてい たかうちやぎ そーしが、みー いらー、くび をうーりりんちどう ある。(世間をバカにして偉ぶっているが、稲の穂は実をつける程に首を垂れるってものだ)。

うちやとー みんとー 〈お茶とお水のお供え〉【例】わったー あんまーや めーあさ うちやとーみんとー すし わしーんでい くとー ねーらんたん。(母親は毎朝お茶とお水をお供えすることを忘れることはなかった)。

うちや ふかしえー 〈お茶会〉【例】やんめーん まし なたくとう、どうしぬちやーゆばーに うちやふかしえーっし いひーあはーさーに わらいかんでい いっぺー っういーりきさたん。(病気も快復したので、友人を呼んでお茶会をして談笑し笑い転げてとても楽しかった)。「参】ちゃー わかしえー (茶会)。

うちやく 〈お客〉【例】うちやくぬ みちゆく めんそーちよーん どー。(お客が三人様いらっしやっていますよ)。

うちゆくいー 〈ふろしぎ〉【例】うちゆくいーや ちゃぬよーな むぬ やていん ちちまりーくとう、ちけーかっていぬ ゆたさん。(風呂敷はどのようなものでも包めるので、便利である)。うちゆくいーや いくけーん たくばりーくとう、くーく なち むちやっさん。(風呂敷は何回も折り畳めるので、小さくして持ち易い)。

うちゆすん 〈映す、移す〉【活】うちゆちゃん、うちゆさん、うちゆち 【例】くむいぬ みじんかい うちちゆーめーぬ うちとーん。(池の水にお月様が映っている)。はなしちえー っちゆんかい うちゆしーねー まし なた いちゆーんでい くとう やさ。(風邪は人に移すとよくなってくるんだってさ)。けーう

ちんかい いっちょーし なーびんかい うちゆち あられー。(皿に入れてあるのを鍋に移して洗いなさい)。

うちゆん 〈打つ〉【活】うちやん、うたん、うち 【例】えいさーをうてー かに うっちやい、てーく うっちやいっし ふえーし たていーん。(エイサーでは鉦をたたいたり、太鼓をたたいたりして囃子をとる)。

うちゆん 〈浮く〉【活】うちやん、うかん、うち 【例】まみじやかー うすみじえー ゆーうちゆしえー ぬーんでいちが やら わかいみ?(真水よりは潮水はよく浮くのはいったいどうしてなの分かるか)。

うちえー かねー すん 〈兼ね備える〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】っやーやかーぎん じんぶぬん うちえーかねーっし いったー うやー ゆー なちえーさ。(あなたは器量も知恵も兼備してあなたの親はよく産んでくれたね)。

うちえーいみしえーん 〈おいで遊ばす〉【活】うちえーいみそーちゃん、うちえーいみそーらん、うちえーいみそーち 【例】んかしえーすいぐしくんかえー うしゆがなしーめーぬ うちえーいみそーちゃん。(昔は首里城に国王がおいで遊ばされた)。

うちり びー 〈おき火、赤く熱した炭火〉【例】んかしえー うちりびーさーに あいろんかきたい、ちゃー ふかちやい、むち やちやい そーたん。(昔はおき火でアイロンをかけた、お茶を沸かしたり、餅を焼いたりしていた)。

うていーん 〈落ちる〉【活】うていたん、うていらん、うていてい 【例】かーらんかい うていらんぐとう、ゆだ ちちみてい あっちゃん。(川に落ちないように枝をつかんで歩いた)。ていんから うていていちゆーる ていんしーさーに ちゃー ふかしーねー あまってーん ぐわーっし まーさたんでい。(天から落ちて

くる天水でお茶を沸かすと甘みがあっておいしかったって)。

うてい しじみ 〈没落〉【例】にんぢんぬ
うていしじめー はかららん。(人の没落は予測できない)。

うていらー くわー さがらー くわー すん 〈物欲しそうにする〉【活】～さん、～さん、～っし【例】あぬ いんぐわーや ぬーしぬ むぬ かどーる ばすに ちゃー すばんかい ちゃーに うていらーくわーさがらーくわー そーん。(あの犬は飼い主がものを食べているときにずうっと側に来て者欲しそうにしている)。

うっか 〈負債〉【例】うっか かんてい までー、みーぐるま こーたい、みーやー ちゆくたえー しーぶしこー ねーらん。(負債を抱え込んでまでは、新車を買ったり、新築をしたりはしたくはない)【参】しー(負債)。

うっか ばれー 〈負債払い〉【例】なげーむっちょーたる うっかばれー うわてい うみなーく なたん。(長いこと抱え込んでいた負債払い終わってほっとしている)。

うっけーりーん 〈転ぶ、反転する〉【活】うっけーりたん、うっけーりらん、うっけーりてい【例】てつぼーっし ちゆふあーら うっけーりてい ちんし かかじたさ。(鉄棒で大きく反転して膝を擦りむいたよ)。うっけーりてい めーちんたー さん。(転んで顔面を打った)。

うっけーらすん 〈ひっくり返す〉【活】うっけーらちゃん、うっけーらさん、うっけーらち【例】みーがー うっけーらち んーだやー。(まぶたをひっくり返して見ようね)。くくち むちゃーや あったに みー うっけーらすくとう うとうるさん。(てんかん持ちは急に目をひっくり返すので怖い)。

うっくるぶん 〈転倒する〉【活】うっくるだん、うっくるばん、うっくるでい【例】うっさ

ぬ たかぐつ くでい うっくるぶん どー。(そんな高いヒールをはいて転倒するよ)。

うっさ～〈嬉しさ〉【例】うっさん(嬉しい)の名詞形。

うっさ くわったー すん 〈有頂天になる〉【活】～さん、～さん、～っし【例】たちちにいちぶさ そーたる ハワイんかい いちゆくとう、うっさくわったーそーん。(来月念願のハワイに行くので、嬉しくてしようがない)【参】いそーさ すん(楽しむ)、っういーりきさ すん(楽しむ)。

うっさ ふくらさ すん 〈非常に嬉しい〉【活】～さん、～さん、～っし【例】うちなーぐち ふいるみらやーんでいーる っちゆぬちゃーぬ うふく なたい うっさふくらさ そーん。(沖縄語を普及しようという人たちが多くなって嬉しい)。

うったー 〈その人たち〉【例】うったーや わじゃとう うくらちょーさ やー。(その人たちは故意に遅らせているね)。

うっちやかいん 〈よりかかる、頼る〉【活】うっちやかたん、うっちやからん、うっちやかてい【例】うぬ まーちえー にーぐさり そーくとう、うっちやかいねー うかーさん どー。(その松は根腐れしているので、よっかかかると危ないよ)。なー いっとうちえー うぬまま うっちやかとーき よー。(もういつときそのまま寄りかかっていなさいよ)。あんし うっちやかいーねー なんぢ やくとう、いふいぐわー はなりれー。(あんなに寄りかかっては難儀なので、少し離れなさい)。あれー むぬしりん やい ぬーん じょーじ やくとう、わんねー ありんかい うっちやかとーん。(あの人は物知りで何でも上手なので、私はあの人を頼っている)。

うっちゃんぎーん 〈放り出す、置き去りにする〉【活】うっちゃんぎたん、うっちゃんぎらん、うっちゃんぎてい【例】とうしぢりぬ

そーじ さくとう、なんにぬん ちかーんしぬ
 っんぢていっち うむちっち むる うっち
 ゃんぎたん。(年末の掃除をしたら、何年も使わ
 ないのが出てきて思い切って全部捨てた)。っ
 くわ うっちゃんぎてい やーさ しみてー
 ならん。なまー うってーらってい ちみ な
 いん。(子どもを放り出してひもじい思いをさ
 せてはいけない。今では訴えられて罪になる)。
 やーぬしくちん ぬーん さん、うっちゃんぎ
 やーに あしでい あっちょーん。(家業も何も
 しないで、放り捨てて遊び歩いている)。うれー
 ゆーちらん ねーらんくとう、うっちゃんぎ
 れー。(それは何の役にも立たないので、放り捨
 てなさい)。うっチャギほーりー すん。(放り
 出したままにする、ふいんじむん〈ならず者〉)。

うっちえーいん 〈裏返る〉【活】うっちえ
 ーたん、うっちえーらん、うっちえーてい 【例】
 ちんぬ くびぬ うっちえーとーくとう のー
 しえー。(襟が裏返っているので直しなさい)。
 あさに さーに どうまんぐいてい っんぢて
 い ちよーくとう、ちぬん うっちえーてい
 ちちよーたん。(朝寝してびっくりして出てき
 ているので、服も裏返って着ていた)。

うっちえーすん 〈裏返す〉【活】うっちえ
 ーちゃん、うっちえーさん、うっちえーち 【参】
 「うらげーすん」とも言う。

うっちえー ふいっちえー すん 〈しき
 りにひっくり返る〉【活】～さん、～さん、～っし
 【例】ありが はなしえー うっちえーふいっ
 ちえーっし ぬーんでい いちよーが むる
 わからん。(あの人の話はしきりにひっくり返
 って何と言っているのかまったく分からない)。
 みーぐふあいっし にんだらんくとう うっち
 えーふいっちえーびけー そーたん。(目が覚
 めて眠れないので、しきりに寝返ってばかりい
 た)。

うっちん 〈ウコン〉 【例】うっちのー ち
 む まむいる くすい やてい、さき ぬだる
 あとうとうか、くたんでいとーる ばすに ぬ

みーねー まし やんでい。(ウコンは肝臓を
 護る薬で、酒を飲んだ後とか、疲れている時に
 飲んだら、良いつて)。

うっちんぎーん 〈うつぶせる、伏せる〉【活】
 うっちんぎたん、うっちんきらん、うっちんぎ
 てい 【例】まかえー うっちんきれー。(お椀は
 伏せなさい)。うっちんちゆん 〈うつむく〉、う
 っちんちゃん、うっちんかん、うっちんち。か
 たうむい そーる っちゆぬめー やくとう、
 むぬん いーうーさん なやーに うっちんち
 よーたん。(片思いしている人の前ではものも
 言えなくてうつむいていた)。

うっちんとうー 〈うつぶせ〉【活】～さん、～
 さん、～っし 【例】あれー はじかさー やて
 い、っちゆぬ めーんぢえー むぬん いーう
 ーさん、うっちんとうーびけー そーん。(あの
 人は恥ずかしがりやで、人前ではものも言えな
 くて、うつむいてばかりいる)。めーや あかん
 ぐわー うっちんとうー なてい にんしーし
 どう ましんでい いらっとーたしが、なまー
 ましえー あらんでい いらっとーん。(以
 前は赤ん坊うつぶせになって寝かすのがいいと
 言われていたが、現在はよくないと言われている)。

うってーいん 〈訴える〉【活】うってーた
 ん、うってーてい 【例】やなくとう しーねー
 うってーらりーん どー。(悪いところをす
 ると訴えられるよ)。

うっとう 〈年下、弟妹〉 【例】わんにんか
 えー ういなぐうっとうぬ たい、ういきがう
 っとうぬ ちゆい をうん。(私には妹が二人、
 弟が一人いる)。

うっとう しーじゃ 〈年下年上、兄弟姉妹〉
 【例】なまー うっとうしーじゃぬ いきらく
 なてい、っちゆいんぐわぬ うふく などー
 ーん。(現在は兄弟姉妹が少なくなって。一人っ子
 が多くなっている)。

うっとう まき 〈おとみづわり〉【活】=う
 っとうみーよーがり、しーまき 【例】ちーぬ
 みんぐわぬ をうるとうち っくわ むちーね

一、さちに っんまりたる くわー うっとう
まき さーに むぬ かまん なたい、ふんで
ーさい すん。(乳飲み子がいる時に子を宿す
と、先に生まれた子は「おとみづわり」してご
飯を食べなくなったり、甘えたりする)。【参】
「うっとうみーやーがり」とも言う。

うっとう をうない <(兄から見た)妹>
【活】うっとう ういきー <(兄から見た)弟>
【例】うっとうをうなえー かなさしが、うっとう
ういきーや しぐ おーえーていーえー す
ん。(兄から見た)妹はかわいいが、(兄から見た)
弟はすぐけんかになる)。

うっとう んぐわ <末っ子> 【例】まーぬ
うっとうんぐわ やていん、ふんでーむん
やん。(どこの末っ子も甘えん坊だ)。

うっとうばすん <吹き飛ばす> 【活】うっ
とうばちゃん、うっとうばさん、うっとうばち
【例】ちゅーや かじぬ ちゅーさくとう、しん
たくむん ふしーねー うっとうばさりーん
どー。(今日は風が強いので、洗濯物を干すと吹
き飛ばされるよ)。

うっぴ <それだけの大きさ> 【例】あいこー
や うっぴぐわーどう そーしが、「あいぬ
むっちん ふいなゆん」でいぬ いくとうばぬ
あん どー。(蟻はこんなに小さいが、「蟻が
持っても減る」という教訓もある)。

うっぴぐわー <それっぽち> 【例】うっぴ
ぐわーぬ くつ やしが、うふっちゆぬ むん
やかー でーぬ たかさん。(それっぽちの
靴だが、大人のものよりは値段が高い)。

うっぴなー <そんなに大きな> 【例】うっ
ぴなー そーる ふいさまぎーぬ じんとー
をういどう すた がやー?(そんなに大きな
足をした人が本当に居たのかねえ)。

うっぺーる <そんなに大きな> 【例】うっ
ぺーる そーる しーぬ しがりなみさーに
ながさってい ちよーてーさ やー。(そんな
に大きな岩が津波で流されてきているんだね)。

うていちち <落ち着き、沈着さ> 【例】と

うしえー わかさー あしが、うていちちよー
くとう いっぺー ちむ ふぢよーさ。(歳は
若いけど、落ち着いているのでとても満足して
いる)。【参】うていちちゆん(落ち着く)、あー
ちちゆん(居つく)。

うでい まっくわ <腕枕> 【例】わらび
ぬ くーさるばすねー わんうでい まっくわ
しみてい んかしばなし ちかすたん。(子
供の小さい頃は私の腕枕をさせて昔話を聞かせ
た)。たげーに じよーぬ ある うちえー う
でいまっくわ っしくいとーたしが、なまー
どうーぬ ていーっし ていーまっくわ そー
ん。(お互いに熱があるうちは腕枕をしてもら
っていたが、今は自分の手で手枕をしている)。

うていら めー <拝所参り、お寺参り>
【例】あきまどうし ないねー、やーにんじゆぬ
からだがあふー うにげーしーが うていらめ
ー すん。(新年になると、家族の健康をお願い
しに拝所参りをする)。

うとう <音、便り、評判> 【例】をうどうい
そーる っちよー さんしんぬ うとうぬ
ちかりーねー、もーいぶしく なてい ちむぬ
わさわさー すんでい。(踊りをしている人
は三線の音色が耳に入ってくると踊りたくなっ
て心が騒ぐって)。あれー うとうさたん ね
ーらんしが、ちゃー そー がやー?(あの人は
便りもないが、どうしているのかねえ)。っ
やー うとう ちち、いっぺー うっさ そー
ん。(あなたの便りを聞いて喜んで)。い
ったーや しまぬくとうば ふいるみーんでい
ち たしままでい うとう たっちよーん ど
ー。(あなた達は地域のことばを普及すること
で他の村でも評判だよ)。あまぬ ういなぐん
ぐわー かーぎぬ ちゆらさんでいち うとう
だかさん どー。(あそこの家の女の子は美人
だと有名だよ)。

うとういむち <接待、おもてなし> 【例】
あれー どうーぬ しくち やかにん しゃち

よーぬ うとういむち すんち いちゆなさん。(あの人は自分の仕事よりも社長のお世話するのに忙しい)。

うどうきーん 〈商売で失敗する〉【活】うど
うきたん、うどうきらん、うどうきてい 【例】
なまー もーきぐりく なてい あちねーさー
ぬ うどうきてい まちやーぬ みちとーる
とうくまぬ うふさん。(現在は儲けにくくな
って商売人が失敗して店を閉めているところ
が多い)。

うとうげー なんどうるー 〈顎がツ
ルツルしている者、髭のない者〉 【例】ふい
ぢもーんかい うとうげーなんどうるーんでい
いーん。(髭のない人に顎がツルツルして
いる者と言う)。

うとうすん 〈移す〉【活】うとうちゃん、う
とうさん、うとうち 【例】なーびんかい いっ
ちよーる むん けーうちんかい うとうしえ
ー。(鍋に入っているものを皿に移しなさい)。

うとうすん 〈落とす〉【活】うとうちゃん、う
とうさん、うとうち 【例】しるむぬんかい い
るぬ ちちよーたくとう、かるきさーに うと
うちゃん。(白い生地の色がついたので、漂白剤
で落とした)。

うとうし むん 〈落とし物〉 【例】うとう
しむん かめーいる くとうん あしが、ど
うーなーん うとうしむん する くとうん あ
ん。(落とし物をさがすこともあるが、自分も落
とし物をすることもある)。

うとうち あがち 〈優劣、浮沈〉 【例】っ
ちよー ちむぬ うとうちあがちぬ あくと
う、やなどうい しえー ならん どー。(人は
心の浮き沈みがあるので、悪くってはいいな
いよ)。

うどうるちゅん 〈驚く〉【活】うどうるち
ゃん、うどうるかん、うどうるち 【例】っ
ちゅ うどうるかち わーがどう うどうるちや
る。(人を驚かして驚いたのは私だった)。

うどうるかすん 〈驚かす〉【活】うどうる
かちゃん、うどうるかさん、うどうるかち 【例】
さっこーび そーいねー、あったに 「わっ!
んでい うどうるかしーねー とうまいんでい
いらっとーん。(しゃっくりしていれば、急に
「わっ!」と驚かすと止まると言われている)。

うとうるさ むん 〈恐ろしいもの〉 【例】
うとうるさむんや みーぶさむん。(怖いもの
は見たがるもの)。んかしえー ねー、かん
ない、くわじ、たーりーや うとうるさむん や
たん。(昔は地震、雷、火事、親父は怖いもの
だった)。

う〜〈中称の指示詞〉

う なぎー 〈それぐらいの長さ〉 【例】「ち
やぬ あたいぬ はぶ やたが?」「うなぎー
やたん どー。」「どのぐらいのハブだったか」
「それ位の長さだったよ」。うなぎー ぬばちえ
ーる からじ やてい ぢーんかい ちちゆる
あたい やたん どー。(そのぐらいの長さ
伸ばしている髪で地面に着くほどだったよ)。

う なげー 〈そんなに長く〉 【例】っやー
や ごじぬ やくすく やる むんぬ、よんじ
っぶん うくりてい うなげー っちゅ また
すん なー?(あなたは5時の約束なのに、4
0分も遅れてそんなに長く人を待たすのか)。

うぬ／くぬ／あぬ ひやー 〈そいつ／こ
いつ／あいつ〉

うぬ／くぬ／あぬ よー 〈その／この／
あのような〉

うふいなー 〈それだけの〉 【例】いっペー
まぎいゆんでい うむとーたしが、うふいな
ーぬ いゆ やていー?(とても大きな魚だと
思っていたが、それぐらいの魚だったのか)。

うふいなー なーぬ 〈そんなに大きな〉
【例】はっさびよー!／あきさみよー!／あいえ
ーなー! うふいなーなーぬ いゆ くわーち
ちえーさ やー。(何と、そんなに大きな魚を釣
ってきたんだね)。

うんにー 〈その時〉 【例】うんにーから
んな うみたっちよーてい しまくとうば ぶ

いるみーるくとう なたんてい。(その時から、みんな奮い立ってしまくとうばを普及することになったって)。

うはち 〈お初〉 【例】なーだ たーがん ていー ちきてー ねーらん うさぎむぬんかい うはちんてい いーん。(まだ誰も手を付けてはないお供え物をお初と言う)。

うびーん 〈憶える〉【活】うびたん、うびらん、うびてい 【例】あちまい いちが やたら うびてーをうらん。(集まりは何日だったか憶えてはいない)。

うびー 〈記憶〉 【例】あぬ っちょー まーがなをうてい んーちやる うびーぬ あしが、ななじゅーないねー むぬ うびーぬ わっさぬ、っちゆぬ なーぬ っんぢてい くーん。(あのひとはどこかで見た覚えがあるが、70歳になると記憶力がなくなって、人の名前が出て来ない)。ちゆけーん ちちーねー いちまていん わしらん、むぬ うびーぬ ちゆーさる っちゆ やん どー。(一度聞いたらいつまでも忘れない、記憶力のある方だよ)。

うび っんぢやすん 〈思い出す〉 【例】ちかぐろー っちゆぬ なーぬ しごー うびっんぢやさらん などーてい、ちゃーがなっし うびっんぢやする ぐとう そーん。(近頃は人の名が思い出せなくなっていて、どうにかして思い出すようにしている)。いーじまハンドーグラーぬ さとうんかい いちやいが いーじまんかい わたていっんぢやる ばすぬ かがんぢばな うびっんぢやちゃん。(伊江島ハンドーグラーが恋人に逢いに伊江島に渡っていた際の鏡地浜を思い出した)。

うびーなでいー 〈水撫で〉 【例】そーぐ わちねー むらがーから みじ くでい どうーぢゆーく するたみに やーにんじよー うびーなでいー すたん。(正月には村井戸から水を汲んで体を強くするために家族は水撫でをしたものだ)。

うびらじ ぐとう 〈不意の出来事〉 【例】うびらじぐとうぬ うきてい ちゃーしえー しむがやーんち じゃまどうとーん。(不意の出来事が起こってどうしたらいいのかうろたえている)。

うぶく 〈神仏に供えるご飯〉 【例】ちーたちとう じゅーぐにちに ふいぬかぬんかい みーち、いーふえーだぬんかい たーち、うぶく うさぎてい からだがんじゅーさ しでいがふー すん。(一日と十五日に火の神に3つ、お仏壇に2つ御仏供をそなえて健康を感謝する)。

うふ〜〈多、大〉 【例】うふさん(多い)からの接頭辞化。

うふさに かたぢきるー 〈多数決〉 【例】うふさにかたぢきるーや、うーかたぬ っちゆぬ ちむふぢゆる しーよー やくとう、しかたー ねーらん。(多数決は、多方の人が納得できるやり方なので、仕方が無い)。うふさに かたぢきり。(多いものから除きなさい)。

うふ そー むん 〈そそっかしい者〉 【例】さいふん むたんぐとう こーいむん しーがいちゆる うふそーむん やん。(財布も持たないで買い物をしに行くおっちょこちよいだ)。

うふ あや 〈大柄〉【活】うふ がら ぢん 〈大柄の着物〉 【例】うふあやぢんてい いーねー、ハワイぬ ムームー うびんじゃち わんにん ちやーに ハワイもーい しーぶしく ないん。(大柄の着物という、ハワイのムームーを思い出し、私も着てフラダンスをしてみたくなる)。

うふ ぐいー 〈大声〉 【例】うふぐいー っんぢやちやくとう、ぬーでいーぬ がらがらー そーん。(大声を出したので、喉がかすれている)。うふぐいー っんぢやちやくとう、くいーかさー などーん。(大声を出したので、声がかすれている)。

うふ ぐすーじ 〈盛大な祝い〉 【例】とーかち、かじまやー、ひやーくぬ とうしびーぬ うゆうえー、やーふちぬ うゆうえー、ま

ちかんでいー そーたる つくわぬ つんまり
たる うゆうえーや うふぐすーじ ないん。
(88歳の米寿、97歳、百歳の生年祝い、新築
祝い、やっとできた子の誕生祝いは盛大なお祝
いになる)。

うー ぐとう 〈大ごと〉 【例】っやーや
わらてい ちちょーしが、うれー うーぐとう
やん どー。(あなたは笑って聞いているが、
これは大ごとだよ)。

うふ ぢむー 〈気前がいい者〉 【例】っう
えーきんちよー っうえーき くまさんでい
いらつとーしが、なかねー ねーん っちゆん
かい じん からちやいっし たしきーる う
ふぢむーん をうん。(お金持ちは儉約家と言
われているが、なかにはお金がない人に貸した
りして人助けする気前がいい人もいる)。

うふ じん 〈大金〉 【例】うふじん めー
ねー、ぬー こーいぶさが?(大金をもらうと、
何を買いたいか)。

うふ すー 〈ご主人〉 【例】うふすーや
めんしえーがやー?(ご主人はいらっしゃいま
すか)。【参】「うふぬーし」とも言う。

うふ ちねー 〈大家族〉 【例】うふちねー
んかえー うふすーめー、はーめー、すー、あ
んまー、つくわっんまがぬ をうてい、やーや
ちゃー わらいふくいっし あかがとーん。
(大家族には祖父、祖母、父親、母親、子と孫が
居て、家はいつも笑いが絶えなく明るい)。【参】
「うふやーにんじゅ」とも言う。

うふ ちぶらー 〈頭でっかち〉 【例】ちぶ
るまぎーや ちぶるぬ まぎさる っちゆんか
い いーしが、「うふちぶらー」や ちぶるま
ぎーぬ やなぐち などーん。(頭でっかちは
頭が大きい人に言うが、「うふちぶらー」は頭
でっかちの卑称である)。

うふ にんじゅ 〈大人数〉 【例】なまぬ
じでーや つくわなし いきらさー あしが、
めーや まーぬ ちねー やていん うふやー
にんじゅ やたん。(現代は少子化で、以前は
どこの家庭でも大家族だった)。「あしびぬ ち
ゆらさや にんじゅぬ すなわい」んでい い

ち、うふにんじゅぬ すりーねー はねーちゆ
ん。「遊びの出来は人数の揃い」といって、大
人数が集まるとにぎやかになる)。

うふ ぬすどう 〈大泥棒〉 【例】うふぬす
どうん ぐまぬすどうん めぬ ぬすどうどう
やる。(大泥棒もケチな泥棒も同じ泥棒だよ)。
くわじえー むる むっちいちゆくとう、うふ
ぬすどうとう めぬ むん。(火事はすべて持
って行くので、大泥棒と同じだ)。

うふ まちや 〈大きな店〉 【例】うふまち
やぬ あまくま たっち、ちむゆしどうくるぬ
ぐままちやぬ むる とーさつていねーん
なてい、しからーしく などーん。(大きな店が
あちらこちらに立って、心を通わず場の小さな
店がみんなつぶれて、寂しくなっている)。

うふ むにー 〈偉そうなことばを使うこと〉
【例】ちゃー わーが すさ、わーが すさ
んでい いやーに、さる たみしぬ ねーらん。
っやーや うふむにーびけーっし ぬーん な
らん。(いつも自分がする、自分がすると言っ
て、した試しがない。お前は偉そうな言い方を
して何もできない)。わらびぬ っんぢとーて
い うふむにーっし うふっちゆふーなー そ
ーっさ。(子どもでありながら生意気な言葉遣
いをして大人ぶっているね)。

うふ むぬ いー 〈大言壮語〉 【例】うふ
むぬいー そーしが、ふんとーや あれー ぬ
ーん ならん、くちぶしどう やん どー。(ボ
ラ吹きだが、本当はあの人は何もできない、口
先だけだよ)。

うふ やー 〈本家〉 【例】うふやーんかえ
ー ゆんでー、ぐでーさちぬ うやふあーふじ
ぬ まちらつとーてい、むーとうやーんかえー
うさちゆーぬ うやふあーふじぬ まちらつ
とーん。(本家には4代、5代先の祖先が祀られ
ていて、総本家にはそれ以前の祖先が祀られて
いる)。

うふ やしー 〈おとなしい者〉 【例】うふ
やしーや っちゆおーえーん さん、まくとう
な むん やてい、いっぺー ふいらいやっさ
ん。(おとなしい者は人ともけんかしない、正直

者で、とても付き合いやすい)。

うふ わた 〈大きいお腹〉【活】うふ わたー 〈妊婦、出腹の者〉 【例】くえーてい うふ わた しーしー そーくとう、かみむのー ふいならする かんげー そーん。(太ってお腹が出てきているので、食べ物を減らすことを考えている)。

うふ つんぶし 〈重荷〉 【例】やっとうか っとう うっか けーちゃくとう、うふつんぶ し うるち うみなーく なたん。(やっとう借金を返済したので、重荷を下ろしてほっとした)。

うふ やっちー 〈長兄(士族)〉【活】うふ あふいー 〈長兄(平民)〉 【例】ちゃくしん かえー うふやっちーんでいん いーん。(嫡子には長兄とも言う)。

うふ ゆくー 〈強欲者〉 【例】どーぬ むのー あとーてい、っちゆぬ むん からからー する っちよー うふゆくー やさ。(自分の物はあるのに、他人の物を貸してとくる人は強欲者だ)。

うふ ゆくし むにー さー 〈大嘘つき〉 【例】ていーち ゆくしむにー しーねー、はなしぬ ちびくち あーすんち たーちん みーちん ゆくし かさびてい うふゆくしむにーさー なたい でーじ どー。(1つ嘘をつく、話のつじつまを合わせるのに2つも3つも嘘を重ねて大嘘つきになって大変だよ)。

うぶん にぢり 〈握り飯〉 【参】「にぢりめー」とも言う。

うぶちだん 〈お仏壇〉 【例】あれー ちゃくし やくとう うぶちだん むちゃー やん。(あの人は長男なのでお仏壇を受け継いでいる)。
【参】とーとーめー (お月様、祖先の位牌)。

うまちー 〈農耕のお祭り〉 【例】うまちー や、にんぐわち、さんぐわちねー むぢぬ ゆかいるぐとう うにげーっし、ぐんぐわち、るくぐわちねー っんにぬ ゆかたるくとう うかみがなしーんかい かふーし さん。(農耕のお祭りは、3月、4月には麦が実るように願

って、5月、6月には稲が実ったことを神様に感謝する)。

うまんちゆ 〈多くの人〉 【例】しまくと うばー うちなー うまんちゆぬ たから やん。(しまくとうばは沖縄県民の宝だ)。

うみ〜 〈様〉 【例】うみさとう(めー)、うみ しーじゃ、うみたるーんでーんかい ちからっ とーる 「うみ」や、くとうばぬ めーんかい ちきらってい、うやめーとう かなさぬ くみらとーる くとうば やさ。(愛しいお方、お兄様、タルー様などに使われている「うみ」は単語の前に付けられて、敬愛を込めた言葉だ)。

うみ 〈海〉

うみ あっちやー 〈漁師〉 【例】うみあ っちやーや うみ あっちよーんでい いーし が、うみから あっちよーんでいーる くとー あらん、うみをうてい あっちよーんでいー るくとう やん。(漁師は海で働いていると言うが、海を歩いているということではなく、海で営みをしているということだ)。

うみ がーみー 〈海亀〉 【例】うみがーみーや あぎぬ かーみーとー ちがてい、まぎー やてい うみぬ ぬーし やんねー そーん。(海亀は陸の亀とは違って、大きくて海の主のようだ)。

うみ ばた 〈海岸〉 【例】うみばたぬ ま んぐらんかい しまとーる っちゆぬちゃーん かえー うふかじとう しがりなみぬ うかー さん。(海岸近くに住んでいる人たちには台風と津波が危ない)。

うみ つんまぐわー 〈タツノオトシゴ〉 【例】うみつんまぐわーぬ かーかさっとーしえー かんぼーやくとうっし ちかいん。(タツノオトシゴの乾燥されているのは漢方薬として使う)。

うみかきーん 〈お目にかかる、ご覧にいれる〉【活】うみかきたん、うみかきらん、うみか きてい 【例】なげーさ いちゃてー をうい

びらんくとう、まるけーていなーや うみかき
らちくいみそーり よー。(長いことお会いし
ていないので、たまにはお目かけさせてくだ
さい)。わんが うみはまてい かちえーる
ゑー やいびーん。まじえー、うみかきていく
いみそーり。(私が一生懸命描いた絵です。ま
ずは、ご覧になってください)。しーみーぬ
ばすねー うふあかをうてい ういなぐわらべ
ー うた うたてい、ういきがわらべー てい
ー ちかてい うぐわんすんかい うみかきた
ん。(清明祭の際にお墓で女の子たちは歌を歌
い、男の子たちは空手をして御先祖さまにご覧
にいられた)。

うむいん 〈思う〉【活】うむたん、うむらん、
うむてい 【例】っやーが うむいるまま し
えー。(あなたが思うままにきなさい)。ありが
しえーんちえー うまーらん あたいぬ む
ん やたん。(あの人がしたとは思えないほど
のものだった)。

うむい **ちみーん** 〈思いつめる〉【活】う
むいちみたん、うむいちみらん、うむいちみて
い 【例】っちゅにんぢのー うむいちみーね
ー うむいんゆらんくとう する ばーん あ
ん。(人間は思いつめると思いもよらないこと
をする場合もある)。

うむ **かぢ** 〈面影〉 【例】うむかぢぬ た
ちーねー、くーよー。(面影が立ったら、来なき
いよ)。

うむ **むち** 〈目的、わけ、顔つき〉 【例】
ありが むぬ いーよーや ぬーがな うむむ
ちぬ あっさ やー。(あの人のものの言い方
は何かわけがあるね)。あれー ちゃー ぬー
がな うむむちぬ あてい ちよーさ やー。
(あの人はいつも何か目的があって来ているね)。

うむ **やー** 〈好きな人、思いやりのある人〉
【例】くねーだ へいわどーり まじゅん あ
っちよーたしえー わん うむやーぐわー や
たさ。あれー いっぺー っちゅ うむやー
どー。(この間平和通りを一緒に歩いていたの
は私の好きな女性だったんだよ。その人はとて

も思いやりあるよ)。

うみ **やみー** **すん** 〈思い悩む〉 【例】し
くちぬ たとうくま とうーたしが、まーぬ
ましが やら うみーやみー そーん。(仕事
が2カ所受かったが、いったいどこがいいのか
思い悩んでいる)。【参】「うみ」は「うむい」の
短縮形か。

うみー **くみー** 〈思いやり〉 【例】あれー
うみーくみーぬ あてい いっぺー っちゅ
うむやー どー。(あの人は思いやりがあつて
とても思いやりのある人だよ)。

うみ **たち** 〈思い立ち〉 【例】うみたちど
う めーふいー。(思い立ったが吉日)。

うみ **ちーん** 〈思い切る〉 【例】すんでい
うむれーからー うみちやーに しえー。(す
ると思ったら思い切ってきなさい)。ういなご
ー うり ちゅいびけーや あらんしえー、あ
りが くとー なー うみちれー。(女性はそ
の人だけではないでしょう、あの人のことはあ
きらめなさい)。

うみ **ちり** 〈思い切り〉 【例】ゆーわたい
や うみちり でーいちんちん あくとう、ゆ
ー くくりり よー。(世渡りは思いっきりが
大切ってこともあるので、よく心得ておきなさい)。

うみん **ゆらん** くとう 〈思いがけない
こと〉 【例】なま どうーぬ そーるくとう
ぬ あん ないんでー うみんゆらんくとう
やたん。(いま自分がしていることがそうなる
とは思いがけないことだった)。

うみ **ちーん** 〈あきらめる〉 【例】うりと
う にーびち ないがやーんでい うむとーた
しが、いかなしとうん にーびちぬ はなしぬ
っんぢらんくとう、なー うみちたん。(そ
の人と結婚できるかと思っていたが、いかにし
ても結婚の話が出ないので、もうあきらめた)。
【参】やすんじーん (あきらめる)。

うみ **はまいん** 〈努力する、一生懸命する〉
【活】うみはまたん、うみはまらん、うみはまて
い 【例】うみちっとう うみはまてい がく
むん さーに っちゅぬ っういーんかい た

てい よー。(思い切り励んで学問して、人の上に立ちなさいよ)。

うみ ゆいん 〈思いおよぶ〉【活】うみゆたん、うみゆらん、うみゆてい 【例】うみゆてい っちくいてい にふえー どー。(思い出して来てくれてありがとう)。

うみ んぐわ 〈お子さん〉 【例】うみんぐわー なー いくち などーいびーが?(お子さんは何歳になっていますか)。うみんぐわー いくたい なちえーが?(お子さんは何人産んだのか)。

うむてい 〈表〉 【例】たーんかい やていん、ぬーんかい やていん、うむていとう うらぬ あん。(誰にでも、なににでも、表と裏がある)。

うむてい ぢら 〈作り顔〉 【例】ちもー あねーあらん そーてい われーぢら みしとーしが、あれー うむていぢらどう やん どー。(心はそうではないのに笑い顔を見せているが、あの人は作り顔をしているのだよ)。

うむる うそーし 〈おもろ御そうし〉
【例】うむるうそーしえー うちなーをうてー うたぬ うさみらっとーる いちばん ふるさる しゅむち やん。(おもろ御そうしは沖縄では歌が収録されている最古の歌集である)。

うめーし、めーし 〈お箸、箸〉 【例】まいどーぐんかえー、うめーし、めーまかい、しるまかい、まぎー・なかていー・ぐまーぬ けーうち、さじ、みしげー、なびげー、うちやわん、うじんぬ あん。(食器には、お箸、ご飯茶碗、おつゆ茶碗、大・中・小の皿、さじ、しゃもじ、玉じゃくし、お茶碗、お膳がある)。

うや 〈親〉 【例】うや ゆし っくわ ゆし。(親と子が助け合い、譲り合う)。

うや がかい 〈親の庇護の下にあること〉
【例】っういーぬ がっこーん うわたしが、うぬ どうし なていん なーだ うやがかい そーん。(大学も終わったのに、その年になってもまだ親の世話を受けている)。

うや がなしー 〈親御〉 【例】うやがなしーぬ なさけー ぬーとうん くなびららん。(親御さんの情けは何とも比べられない)。

うや っくわ 〈親子〉 【例】なちやしみなたくとう、していみていなーらー たんかーまなかー あまくまをうてい うやっくわっしらじおたいそー そーん。(夏休みになったので、早朝から隣近所あちらこちらで親子でラジオ体操をしている)。

うや なけーし むん／うや なけーしんぐわ 〈親不孝者〉 【例】うやなけーしむんどう やてーくとう、なま なてい ーくえー そーん。(親不孝者だったので、今になって後悔している)。

うや ぬちゃーく 〈両親〉 【例】いったーうやぬちゃーや わらびんちゃー めー むんならーし しえーさ やー。(あなたの両親は子どもたちをよく躰けをしているね)。

うや までいー 〈親なし〉 【例】うやまでいー すん。(=うや をうらん なすん。)(親がいなくなる)。
【参】うや をうらんぬー(親のいない者)。

(うや) ふあーふじ 〈祖先〉 【例】うちなーをうてー うやふあーふじ あがみーるならーしぬ あてい、まーぬ ちねー やていん うこー たていてい うやふあーふじ ーこー そーん。(沖縄では祖先を崇拜する習慣があって、どの家庭でもお線香を立てて祖先孝行をしている)。

うや まさいんぐわ 〈親勝りの子〉 【例】うやぬ うていふんぬ あてーくとうどう うやまさいんぐわん っんぢていちゅーくとう、っくわー うやぬ かがん。(親のお手本があってこそ親勝りの子も出てくるので、子は親を写す鏡だ)。

うやぎー 〈お祝いの金銭や物資の援助〉 【例】うゆうえー しこーいる たみぬ うやぎーぬならーしえー なまー ねーん なてい ちよーん。(お祝いを準備するための援助の習慣は今ではなくなってきている)。

うゆばん 〈及ばない〉 【例】ちゃっさ さんてーまん ありんかえー じょーい うゆばん。(いくらやってもあの人にはとうてい及ばない)。

うゆうえー／うーうえー 〈お祝い〉 【例】うゆうえーんかえー ちゅらすがいっし いちゆくとう、ういなごー うすまさ じん かかいん。(お祝いには美しく装って行くので、女性は驚くほどお金がかかる)。

うら 〈裏〉 【参】うむてい。
うら じゃ 〈裏座〉 【例】うらじゃー うむやーぐわーたーが いちゃたい はなしむんがたい さい、あんしから わかみーとうんだぬ ゆくたい にんたい する とうくま やたん。(裏座は恋人達が逢ったり話したり、それに若夫婦が休んだり寝たりするところだった)。
 【参】くちやぐわー (若夫婦の寝室用の部屋)。
うらごーさ 〈嫉妬、ねたみ〉 【例】どーやかにん まさとーる っちゅ うらごーさ すしえー、ちからぬ ねーん すーく やん。(自分よりも勝っている人を嫉妬するのは、力がない証拠だ)。

うら むにー 〈逆のことを言うこと〉 【例】あれー うらむにーどう そーくとう、ありがいーしえー がっていん しえー ならん どー。(あの人は思っていることと反対のことを言っているので、あの人の言うのを納得してはいけないよ)。

うらーきーん 〈水に浸す〉 【活】うらきたん、うらきらん、うらきてい 【例】ぬーでいーうらーきーん。(喉をうるおす)。いるかじぬ はなぬ さちよーる なーをうてい しるーとう ちーるーぬ はーべーるーぬ たーち もーいあしどーし んーち、ちむうらーきらったん。(いろいろな花が咲いている庭で白と黄色の蝶が二匹舞い遊んでいるのを見て、心を洗い清められた)。そーぐわちぬ かじやい むちえー はだかむち やてい あとー くふあじりー すくとう、みじんかい いってい う

らーきーていからどう かまりーたる。(正月の飾り餅は裸餅で後は固くなるので、水に入れて浸してから食べれたものだ)。うるじん(＝うりじん)ぬ しち なれー なーぬ いるかじぬ はなぬ さち、ちむ うらーきーる ぐとう ないん やー。(旧暦の2～3月になると庭のいろいろな花が咲いて、心が癒されるよ)うだよ)。

うらんだー 〈西洋人〉 【例】うらんだすがいっし、うらんだぐち はなしーねー、ちもーうらんだー なんとーしが、うらんだーねーなららん。(洋装して、西洋語をしゃべったら、気持ちは西洋人になっているが、西洋人にはなれない)。

うり さい／たい 〈ほら(目上に)〉 【例】うり さい／たい、いちゃびらな。(それでは、行きましょう)。でいー さい／たい、いちゃびらな。(それでは、行きましょう)。あんしえー、いちゃびらな。(それなら、行きましょう)。ゑーっ ひやー、でいっか いかな。(それでは、行こう)。ゑーっ ひやー、ふえーく かめー／しえー。(ほら、早く食べなさい／しなさい)。

うりーっさ、うり ひやー 〈それっ(目下に)〉 【例】うりん あらん、くりん あらんんでい じまま すくとう、あとー くさみちやーに 「うりーっさ」んでいち とうらちゃん。(これでもない、あれでもないとわがまま言うので、終いには怒って「それっ」といつて渡した)。

うり／あり／くり 〈それ／あれ／これ〉

うりかー／ありかー／くりかー 〈その辺り／あの辺り／この辺り〉

っんまかー 〈その辺り〉 【例】うぬくる うりかーんかい めーや えいがかんぬ あたん どー。(その頃その辺りに以前は映画館があったよ)。わったー やーや うりかー やさ。(私の家はその辺りだよ)。

うり からー 〈それから、それ以後は〉

【例】くままでー まじゅん すしが、うりからー どうーくる しー よー。(ここまでは一緒にするが、それ以後は自分でしなさいよ)。

うり くる 〈その人自身で〉 【例】うっぴぐわーどう やくとう うりくる ないさ。(それっぽちだから自分でできるよ)。

うり よー あり よー 〈あたらずさわらず〉 【例】あれー ちゃー うりよーありよー さーに っちゅ うーしてい どうーなーや ふいんぎまーい そーん。(あの人はいつもあたらずさわらずして人に負わせて自分は逃げ回っている)。

うんぐとーるー 〈そんなもの〉 【例】なままでー うんぐとーるーや んーちえー／ちえー／かでー／ぬでー／しえー んーだん。(これまではそんなものは見ては／聞いては／食べては／飲んで／してはいない)。

うりーん 〈降りる〉 【活】うりたん、うりらん、うりてい 【例】うかみがなしーぬ ていんから うりていめんそーち みるくゆがふー なしみそーちゃん。(神様が天からご降臨なされて弥勒世界報にいただいた)。

うりーん 〈売れる〉 【活】うりたん、うりらん、うりてい 【例】なちえー ふいじゅるむん、ふよー あちこーこー そーしぬ ゆーうりーん。(夏は冷たいもの、冬は温かいものがよく売れる)。

うりー 〈潤い〉 【例】ゐー うりー なていさにまちどうち やん やー。(良い湿りになって種まき時だね)。

うりじん 〈旧暦2~3月、初春〉 【例】うりじんべーぬ ふちーねー、ゐーはだむち なてい ゐー あんべー やー。(初春の南風が吹くと、さわやかになってとても心地よい)。

うる 〈砂、砂利、珊瑚の骨軸〉 【例】くまぬうるねー ふしがたぬ しなぬ まんちよーくとう、とうめーてい まーに。(ここの砂には

星形の砂がまざっているの、探してごらん)。うるいしっし からじ さばちーねー、たっくわてい ちゃーくーいっし とうららん ないん。(軽石で髪を梳くと、くっついてはずれなくなるとれなくなる)。

うるすん 〈下ろす〉 【活】うるちゃん、うるさん、うるち 【例】つくわぬちゃーが むる なーめーめー やー むっちょーくとう、なまーかたぬ にー うるちょーん。(子どもがみんな各自の家を持っているので、今は肩の荷が下ろしている)。

うるにー なまにー すん 〈半煮えにする〉 【活】～さん、～さん、～っし 【例】はがまっし めー にーる ばすねー ふいーぬかぎんぬ むちかさくとう、うるにーなまにーする ばーん あたん。(羽釜でご飯を炊く時には火加減がむつかしいので、半煮えにするとときもあった)。っんむんかい うめーし たていーねー、にーとーが すら、うるにーなまにーが やら わかいたん。(芋に箸を立てたら、煮えているのか、半煮えなのか判った)。

～うるみ 〈～頃〉 【例】うちなーぐゆみぬぐんぐわちうるみねー でいーぐぬ さちはじみーん。(旧暦の5月頃にはデイゴが咲き始める)。

うわいん 〈終わる〉 【活】うわたん、うわらん、うわてい 【例】っやーが ていがねーっし とうらちやくとう、たでーま うわたん。(あなたが手伝ってくれたので、あっという間に終わった)。

うんけー すん 〈お迎えする〉 【活】～さん、～さん、～っし 【例】うちなーぐゆみぬ しちぐわちじゅーさんにちに うんけーじゅーしー ちゅくてい うやふあーふじ うんけーすん。(旧暦の7月13日にお迎え雑炊を作って祖先をお迎えする)。

うんじゅ 〈あなた様、ご自身〉 【例】うぬくとうー うんじゅが すくぶん やいびーく

とう、うんじゅくる しみそーれー。(そのことはあなた様の仕事なので、ご自身でなさってください)。

うんじゅ なー 〈あなた様(さらに丁寧に)〉

【例】うんじゅなーや やしみねー まーんかい めんしえーびーが?(あなた様は休みにはどこにいらっしゃいますか)。

うんち／ぬんち／みゅんち 〈お顔〉

【例】ぬーんくいーん みー などーる っちょー うんち くわんくわんっし っんぶらーさん。(何でも成就した人はお顔つきがふくよかで品がある)。**【参】**うんちゅー(ご機嫌)、うんちゅー をうがでい くいみそーり。(よろしく言ってください)。

うんちよーび／ぬんちよーび／みゅんちよーび 〈髪敬称〉

【例】からぢぬ うやめーくとうばー 「うんちよーび」んでい いーん。(髪敬称は「うんちよーび」と言う)。

うんちえー すん 〈お借りする〉

【活】～さん、～さん、～っし 【例】あちゃー けーさびーくとう、うんちえー さびら。(明日返しますので、お借りしてかまいませんか)。うれー うんちえーむんどう やくとう さーらんき よー。(それは拝借したもものだから触らないでよ)。

うんちけー する 〈案内、お迎え、ご招

待する〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】やーぢゅくい／にーびち うゆうえーぬ うんちけー さん。(家造り／結婚式のお祝いの案内をした)。かじまやーぬ うゆうえーんかい うんちけー さびらな やーんでい うむとーいびーしが、じふい めんそーちくいみそーり。(98歳のお祝いにご招待したいと思っておりますが、是非いらっしゃってください)。うちなーぐゆみぬ しちぐわち なぬかねー なーめーめーぬ はかんかい っんぢ、ほーちかち さーに うちやとーっし はなん いちてい うやふあーふじんかい しちぐわちぬ うんちけー すん。(旧暦の7月7日には各々の墓に行って、掃除をしてお茶湯をして花も活けて御先祖にお盆のお迎えをする)。にーびちぬ うゆうえーんかい うんちけー さつとーん。(結婚のお祝いにご招待されている)。

うんぬかゆん 〈お聞きになる〉

【活】うんぬかたん、うんぬからん、うんぬかてい 【例】あぬ うかたぬ うふあなし うんぬかたる くとうぬ あいびーみ?(あのお方のお話お聞きになったことがありますか)。

うんぬきーん 〈申し上げる〉

【活】うんぬきたん、うんぬきらん、うんぬきてい 【例】ぬーうんぬきていん うんぬかみそーらんたん。(何を申し上げてもお聞きにならなかった)。

え

えーじ 〈合図〉 【例】けーいる ばすねー、えーじえー しーよー。(帰るときには呼んでね)。っやーが っんぢーる ばすねー、えーじっしから くーよー。(あなたが家を出るときには、あらかじめ声をかけてから来なさいよ)。うゆうえー する ばすねー、えーじ かきてい くいり よー。(お祝いをする際には呼んでくれよ)。ひこーきぬ っんぢたちんかい かきあーさらん なてい、まいくから ふえーく なー ふえーく なーんでい えーじ かきらってい、いっぺー はじかさたん。(飛行機の出発に間に合わすことができなくて、マイクから早くしてと急かされて、とても恥ずかしかった)。

えーじゅー 〈同僚、仲間〉 【例】あれー わったー えーじゅーしんか やいびーん どー。(あの人は会社の同僚です)。えーじゅーやちゆいたしきだしきっし ふいらてい いちゆる むん。(同僚は助け合ってつき合っていくもの)。ふか をうてー えーじゅーや や

ーにんじゅーとー めぬむん やくとう、ちちゆいたれーだれーっし かなさ すしどう やる。(外では同僚は家族と同様なので、お互いに補い合って仲良くするものだ)。

えーすん 〈潰す〉 【活】えーちゃん、えーさん、えーち 【例】ふいちっんぢむん えーさーに、かんぱち などーん。(吹き出物をつぶして傷跡になっている)。

えーてい 〈相手〉 【例】わらびんちゃーぬ えーてい すしえー をうたいくとう、たんきり よー。(子どもたちの相手をするのは疲れるので、手加減しなさいよ)。ありがー えーてい ならん。(あの人は相手にならない)。

えー むん 〈和え物〉 【例】んぢゃなばーとう とーふぬ えーむんとう ういとう みみがーぬ えーむんとー じれー しちゆが？(苦菜と豆腐の和え物とキュウリとミミガーの和え物とはどれが好きか)。

お

おーいん 〈頭をあわせてけんかする〉【活】おーたん、おーらん、おーてい 【例】いんとうまやーや いちやいねー しぐ おーいん。(犬と猫は出逢うとすぐにけんかする)。おーいる なかー ゆー あーとーん。(けんかする仲は気心が合っている)。

おえー 〈けんか〉 【例】おえー むんどー (口げんか)、くちおえー (口げんか)。うやっくわ おえー (親子げんか)、ちよーでー おえー (兄弟げんか)。ぬーぐとうんちむ ふぢゆるぐとう ちゅーごー さんねー おえー ないん どー。(何事も納得がいくまで話し合いしないとけんかになるよ)。みーとうんだー わかさる うちえー どうーかんげーびけーっし りんち おえーていーえー ゆー すんてい。(夫婦は若いうちは自分勝手な考えばかりして嫉妬からくるけんかをよくするって)。

おえー むしー 〈けんか好き〉 【例】おーやーむしーんかえー おーいる むしぬ たっくわとーんでい。(けんか好きにはけんかする虫がついているって)。

おーらすん 〈頭をあわせてけんかさせる〉【例】うちなーをうてー みーむんとうっし うしおーらしえー、とういおーらしえー、 ふいーじゃーおーらしえーぬ あん。(沖縄では娯楽として闘牛、闘鶏、闘山羊がある)。

おーじゃー 〈青〉 【例】っやー ちらー いるん おーじゃーっし やみっちゅんねー そーん。(おまえの顔色も青くて病人のようだ)。ちーぬみんっぐわぬ ちびんかい いっとうち

っんぢーる おーるー (乳飲み子が尻に一時的に出る蒙古斑)。くるでい いしぬ とうがいんかい ちゅーく ちび うっちやくとう ちび おーるー そーん。(転んで石の尖ったのに強く打ったので、お尻が青くなっている)。うみぬ おーってーんぐわー そーる とうくろー ふかさん。(海がコバルトブルーになっている所は深い)。**【参】**いるぬがー (顔色の悪い人)。

おーかじ 〈静脈〉 【例】あれー おーかじ たていてい うふあびーっし うだーちよーたん。(あの人は青筋立てて大声を出して怒鳴っていた)。おーかじ みーあていてい ちゅーしゃきっし ちー ぬぢゆしえー わったーや ならん わじゃ やん やー。(静脈を見つけて注射器で血を採るのは私たちにはできない技だね)。

おー さび 〈青錆び〉 【例】くぢぬ さびしーねー おーさび すん。(釘がさびると青錆びする)。

おーじゃー にーしえーぐわー 〈青二才〉 【例】あれー なーだ おーじゃーにーしえーぐわーどう やくとう、うぬ わじゃー ありがー なまー じょーい ならん どー。(あの人はまだ青二才なので、その仕事はあの人には今はとてもできないよ)。

おー だむん 〈まだ枯れていない薪〉 【例】おーだむのー めーらんくとう、からちから ふにんかい まじまってい やんぼるから ちゅーたん。(まだ枯れていない薪は燃えないので、枯らしてから船に積み上げられてヤンバル

から来たものだ)。【参】まじむん(積み上げる)。
おー むーい〈青のり〉【例】おーぬーえー
 ー うちなーをうてい ゆー ちかーっとーる
 あーさ やてい とーふ いってい する
 ちゆくてい かみーねー まーさん。(青のり
 は沖縄でよく使われているアーサで豆腐を入れ
 ておつゆにするとおいしい)。

おーびちえー、おーびちやい〈青光り〉
 【例】くるまやーとう するまやーぬ みーん
 おおびちえー そーてい なまにん おーえー
 しーぎさん。(黒猫は目も青光りして今にも
 けんかしそうだ)。

おーふあ〈青野菜〉【例】やーしえーやー
 んかい っんぢやーに おーふあ こーてい
 くーわ。(八百屋に行って青野菜を買ってきな
 さい)。おーふあんかえー ちきなー、するな
 ー、ふーりんなー、かんだばー、うんちえーぬ
 あん。(青野菜にはからし菜、菜っ葉、ほうれ
 ん草、かずら、空心菜がある)。

おー べー〈青蠅〉【例】ふえーんかえー、
 おーびちえー そーる まぎさる おーべ
 ー、まぎさしが ふいかてー をうらん しま
 べー、がじゃんとう ばっペーる あたいぬ
 ぐまーぐわーぬ しーべーぬ をうん。(ハエ
 には青光りしている大きな青バエ、大きい光
 っていない島バエ、蚊と間違えるほどの小さ
 いコバエがいる)。

おー まーみー〈緑豆〉【例】おーまーみ
 ーや とーふまーみー やかん ぐまー やて
 い おーるー そーしが、うりから まーみな
 ーや ないん。(緑豆は大豆よりも小さくて緑
 色をしているが、それからモヤシはできる)。

おー むん〈熟していない果実〉【例】う
 ぬ ばさなえー なーだ おーむん やてい
 かまらん。(そのバナナはまだ熟していなくて
 食べれない)。

おーるー びー〈青火=鬼火〉【例】お
 ーるーびーぬ ゆったいくわったいっし とう

どーし んーちやる くとうぬ あが やー?
 (鬼火がゆらゆらと飛んでいるのをみたことが
 あるかね)。

おーぐらしん〈真っ暗闇〉【例】おーぐ
 らしんをうてい まやーぬ みーぬ ふいちゃ
 とーてい よーうすまたん。(真っ暗闇で猫
 の目が光っていて気味が悪かった)。

おーだー〈もっこ〉【例】おーだーや、っ
 んむ、ちんくわー、でーくに、やーしえー は
 ください、まるけーていなー わらび ぬしたい
 すしんかい ちかとーたん。(もっこは芋、カ
 ボチャ、大根、野菜を運んだり、時には子ども
 を乗せたりするのに使っていた)。

おーちび〈ビリ〉【例】っやーや びんち
 ょーや いちばん やしが、はーえーすーぼー
 ちゃー おーちび どー やー。(あなたは
 勉強が一番だが、かけっこはいつもビリだよ)。

おーぢゅん〈扇ぐ〉【活】おーぢゅん、おー
 がん、おーぢ 【例】んかしえー せんぷーき
 や ねーんたくとう、うやぬ くばおーぢさー
 に おーぢ しだまさーに にんしていくいた
 ん。(昔は扇風機はなかったので、親がクバの扇
 で扇いで涼しくして寝かしてくれたものだ)。

おーとー〈ミカン的一种〉【例】うちな
 ーくにぶんかえー オートー、カーブチー、タ
 ンカン、シークワサーんでーぬ あん。(沖
 縄ミカンにはオートー、カーブチー、タンカン、
 シークワサーなどがある)。

おーふいじゆる かんじゃー〈寒々
 とした靈気〉【例】がまんかい いっちやく
 とう おーふいじゆるかんじゃーっし ふいち
 けーちゃん。(洞窟に入ったら寒々とした靈気
 を感じて引き返した)。

か、が

かー 〈井戸〉 【例】かーや ちーさーに みじくむしとう くるまぐわーぬ ある かーぬ あたしが、ふいーじゃーがーや にーぶさーに くむん。(井戸はつるべで汲みのと滑車のある井戸があったが、樋井戸はひしゃくで汲む)。

かー 〈皮〉 【例】かーぐつ(皮靴)、かーじゃんぱー(皮ジャンパー)。かーびすー(皮が薄いもの)、かーぶちー(表皮があつい蜜柑の種類)。

かー **かんぢゃー** 〈目がかすむこと〉 【例】るくじゅーまでいねー ぬーん ねーんたしが、ななじゅーん ないねー みーぬ かーかんぢゃーっし かしましく ないくとう、かたみーなーどう(=ちゅとうくるなーどう) しゅじゅつ すんでい どー。(60歳まではなんでもないが、70歳にもなると目がかすんでしまって不自由になるので、片方ずつ(=一箇所ずつ)手術するってよ)。

かー **はっぱいん** 〈強く張り伸ばす〉【活】～はっばたん、～はっばらん、～はっばてい 【例】さんしんとうか てーくんでーや ちゅーく かーはっばてい、ぬー うとう っんぢゃすん。(三線や太鼓などは強く皮を張り伸ばして、良い音を出す)。

かー **びしー** 〈皮のうすい者、もの〉 【例】やまとうんちゅぬ はだー かーびしー なたい みーゆしが、うちなーんちよー かーあちー なたい みーゆん。(本土の人の皮膚は皮うすになって見えるが、沖縄の人は皮厚に見える)。

かっ **ばやー** **すん** 〈(水分が抜けて)皮張

りの状態である〉 【例】みーら んでいいー しえー かっばやー そーん やー。(ミイラというのは皮膚が乾燥して皮張りの状態だね)。

がー 〈意地、自我〉 【例】がー はいん。(我を張る)。がー をうーりーん。(根負けする)。っやーがんちよーん がー をうーりーる あたい やくとう、あれー なー したたかぬ がーぢゅーやさ。(君でさえも根負けするほどなので、あれは相当我が強いんだね)。あれー がー はいる さこー いぢえー ねーらんどー。(あの人は我を張るほどには勇氣はない)。がーん ありわどう くとー とうじみうーする。(意地を張ってこそ物事は成し遂げられる)。

がー **えー** 〈威勢づけ〉 【例】なーふあぬ うふちなふいちをうてー、にーしえーたーが あがり いりんかい わかりてい てーく、かに うちならち がーえーすーぶ すん。(那覇大綱挽では若者たちが東西に分かれて太鼓、鉦を打ち鳴らして威勢を競い合う)。ゑーまをうてい しょーがっこー あっちよーたる ばすねー、たーからんちんねーん、みちなかんぢ とうぬすくしょーがっこーしーや いしやなぐいらしょーがっこーしー んーぢーねー 「いしがんばらー」 んでい うふあびーっし、いしやなぐいらしょーがっこーしーや とうぬすいくしょーがっこーしーんかい 「とうんぬ ふしゅ」んち、たげーに いーがーえー すたん。(八重山で小学校に通っている頃は、誰からともなく、道中で登野城小学校生は石垣小学校生を見かけたら「石の多い地」と叫び、石垣小学校生は登野城小学校生に「鳥の糞」と、お互いに

言いながら氣勢をあげたものだ)。

かーがー 〈(水面、鏡、地面などに)映る影〉

【例】くむいぬ みじかがぬんかい うちとー
る すばひらーぬ ちしちぬ かーがー んー
ぢーねー、ちむ あーんねー すん。(池の水面
に映っている辺りの景色の影を見ると、心が落
ち着くような気がする)。

やま かーがー 〈人見知り〉 【例】をうと
ー したたかぬ やまかーがー やてい わん
どうしぬ ちらん んーぢゅんちん さん。
(夫は大変な人見知りで私の友人の顔もみよう
ともしない)。

かーぎ 〈容貌、姿、陰〉 【例】かーげー か

ーどう やる、ちむぐる でーいち。(容貌は
表面、心遣いこそ大切)。なちぬ しだどうくろ
ー かーぎ などーる きーぬ しちや やん
どー。(夏の涼しい場所は陰になっている木
の下だよ)。

かーぎ ぶし 〈陰干し〉 【例】しんじむん
ないる くわーぎぬ ふあー、かきぬ ふあ
ー、ばんしるーぬ ふあーや かーぎぶし す
ん。(煎じ物になる桑の木の葉、柿の葉、グワバ
の葉は陰干しにする)。いるむんぬ ちのー
かーぎぶし さんねー、いるぬ うていてい
ふかからー ちちえー あっからん ないん
どー。(色柄ものの着物は陰干ししないと、色が
抜けて外出に着けられないよ)。

かーかすん 〈干す、乾かす〉 【活】かーかち

ゃん、かーかさん、かーかち 【例】いちゃ あ
んてい かーかすん。(イカを焙って干す)。「か
らじえー かーかちから にんてい よー。と
うし っういーていから しーら いーん ど
ー」んでい あんまーんかい ゆー いらっど
ーたん。(「髪は乾かしてから眠んなさいよ。年
とってから病弱になるよ」とお母さんによく言
われていた) 【参】「かーらかすん」とも言う。

かーきー 〈指切りげんまん〉 【例】うふっ

ちゅ ないねー たいや にーびち さやーん

ち みーとうんだぐわーしえー さーに、かー
きー さる うじらーさる ういなぐわらびぬ
をうたしが、なまー まーをうてい ちゃー
そーが やー?(大きくなったら二人は結婚
しようねとままごと遊びをして、指切りしたか
わいい女の子が居たが、今はどこでどうしてい
るのかなあ)。

かーきーん 〈乾く、渴く〉 【活】かーきたん、

かーきらん、かーきてい 【例】あらいむのー
ていーだんかい ふしわどう かーきーしえー
ふえーさる。(洗濯物は陽干しすれば乾くの
は速い)。なちえー かわてい ぬーでいーぬ
かーきーっさ やー。 あんすくとう、ぬみ
むのー はなさらん。(夏は格別に喉が渴くね。
それで、飲み物は離せない)。

かーきー のーし 〈渴き直し〉 【例】でいー、
かーきのーし さな。ゆくてい ちゃーぐわー
ん ぬまな。(さあ、渴きを潤そう。休んでお茶
でも飲もうよ)。

かーさ 〈広い葉〉 【例】くばがーさぬ おー

ぢえー がっさぬ、いっペー ちかいやっさし
が、ふるーないしんでー しだかじぬ たった
くーん ないん。(クバの葉の扇は軽くて、と
ても使いやすいが、古くなるごとにどんどん涼
風が来なくなる)。んかしから うちゆくいが
わいっし をうーがーさ ちかたい、なまん
けーうちがわいっし さんにんがーさん ちか
たい そーん。(昔から風呂敷代わりに糸芭蕉
の葉を使ったり、今も皿代わりに月桃の葉也使
ったりしている) 【参】ないをうー (実がつく
芭蕉、バナナの木)。

かーじ／かじ 〈たびに〉 【例】やーんかい

いちゆるかーじ をうらんしが、あんすか
いちゆなさどう ある む?(あなたの家に行
くたびに居ないが、そんなに忙しいのか)。いち
ゆる かーじ ぬーくいーん むたさりーん。
(行くたびにあれこれ持たされる)。わんねー
やしみぬ かーじ うみんかい しーみっし
さんぐ しらびとーん。(私は休みのたびに潜

って珊瑚を調べている)。

かーたー 〈偏った、~のような〉【例】ちゅかーたーがみ さんぐとう やしえーん かめー。(偏った食べ方はしないで、野菜も食べなさい)。っやー ちのー むる めぬ かーたー やさ やー。(あなたの服はみんな同じようなデザインをしているね)。

かーちー 〈夏至〉【例】かーちーぬ くらー ふえーかじぬ ふち しだこー なていちゅーしが、うりから あとー うすまさ あちさる なちぬ ちゅーん。(夏至の頃は南風が吹いて涼しくなってくるが、その後はすごく暑い夏が来る)。

がーなー 〈たんこぶ〉【例】がーなー いっちょーん／あちょーん。(たんこぶができています)。すーじぐわーをうてい あったに っちゅぬ とうんぢていチャーに ちぶる あーち たいや がーなー あちょーたさ。(路地で急に人が飛び出て来て、頭をぶつけて二人はたんこぶができていたよ)。

かーぶちー 〈ミカンの一種〉【例】かーぶちーや かーや おーってーんっし あちぶったらー そーしが、しろー あまさん。(カーブチーは表皮は青くて厚いが、果汁は甘い)。

かーぶやー 〈コウモリ〉【例】ゆる ないねー かーぶやーぬ どうでいチャーに なーぬ ないむん あるうっさ かまーに、かしえー はちっぢやさつとーん。(夜になるとコウモリが飛んできて庭の果実をあるだけ食べて、カスは吐き出されている)。

かーみ 〈甕〉【例】「みーとうんだー かーみぬ ちび ていーち」んち あるむんぬ、かーみ ていーちんかい うさーすくとう、ぬーぬ しわん ねーらん。(「夫婦は甕の底一つ」というのだから、同じ骨壺に収まるので、何の心配もない)。

かーみー 〈亀〉

かーみー くー 〈亀の甲羅〉【例】かーみーくーやか とうしぬ くー。(人生経験の豊かさこそ尊いもの)。

かーみな くー 〈べっ甲〉【例】んかしえー かーみなくーさーに じーふあー、さばちんでー ちゅくとーたん。(昔はべっ甲でかんざし、櫛などを作っていた)。うちなーをうてー かーみなくーうふあかぬ まんどーん。(沖縄では亀甲墓が多い)。

かーらちゅん 〈乾く〉【活】かーらちゅん、かーらかん、かーらち 【例】かーらちゅる しちねー どうーぬ かーぬ かさかさー さんぐとう、あんだむぬん とういしえー ましやん。(乾燥している季節には皮膚が乾燥しないように脂肪を補給するのがいい)。

かいん 〈借りる〉【活】かたん、からん、かてい 【例】かいねー ふとうきぬ ちら、はらいねー うにぬ ちら。(金貸しは借りる時は仏のようだが、返す時は険しい顔をする)。しゅむち かいが としよかぬんかい っんぢやん。(本を借りに図書館に行った)。

かいん 〈苳る〉【活】かたん、からん、かてい 【例】がっこーから けーいねー、かぼん うちきてい ふいーじゃーぬ くさ かいが いかんとーならんたん。(学校から帰ると、カバンを置いて山羊の草苳りに行かなくてはならなかった)。

かかいいん 〈世話になる、かかる〉【活】かかたん、かからん、かかてい 【例】まーぬ いさぬやー かかとーが？／いさぬやーや まーかかとーが？(どこの病院に診てもらっているの)。だいがくいんをうてい しんしーや たーかかとーが？(大学院では先生は誰に指導してもらっているの)。わんねー うた さんしん ならーとーしが、のむらりゅーぬ あらかしんしーんかい かかとーん。(私は唄三線をならっているが、野村流の新垣先生から指導を受けている)。わらびんちやー がくむん しみーるたみねー じのー ちゃっさ かか

ていん しむん。(子どもたちを教育させるためにはお金はいくらかかってもよい)。

かかい で一 〈粘り強さ〉【例】なまぬ わらびんちゃーや かかいで一ぬ ねーんくとう、にじーるくとうん ならーさんだれー ならん。(今の子どもたちは粘り強さがないので、耐えることも教えないといけない)。

かかいん 〈詰め寄る、引っかかる〉【活】かかたん、かからん、かかてい【例】あー あんべー さき ぬどーるとうちに いふーな っちゆんかい かかいまちぶい さつてい どうまんぐいたん。(気持ちよく酒を飲んでいるときに変な人に詰め寄られて動揺した)。

かかじーん 〈かじる〉【活】かかじたん、かかじらん、かかじてい【例】あれー いくちないくとう、うやぬ むんびけー かかじてい あっちゆが?(あの人はいくつになるのに、親のすねかじりをしているのか)。

かかわい 〈かかわり〉【例】なーふあとう ホノルルや みーじさんじゅーににんぐる いみんぬ はじまたる かかわいぬ あてい、なままでい ちょーで一びれー そーん。(那覇とホノルルは明治32年頃移民が始まった関係で、今まで姉妹都市として交流している)。つやーとー ぬーぬ かかわいん ねーんくとう、あびらんけー。(あなたと何のかかわりもないので、口を出すな)。

かかん 〈下裳〉【例】どうぢぬん かかぬん ちち をうどういーねー、はーべーるーぬ もーとーんねーっし かかんぬ ふいだぬ ゆらゆらっし いっぺー ふいかさりーん。(胴衣も下裳も着て踊ると、蝶が舞うように下裳の襷がゆらゆらゆれてとても惹かれる)。

かきあーいん 〈間に合う〉【活】かきあーたん、かきあーらん、かきあーてい

かきあーすん 〈間に合わす〉【活】かきあーちゃん、かきあーさん、かきあーち【例】に

ーびちに ちーる ちん やくとう、うりまでいねー かきあーち くいみそーらんがやー?(結婚式に着る着物なので、それまでには間に合わせて下さいませんか)。

かきあーし むん 〈間にあわせ用品〉【例】そーぐわちぬ かきあーしむん ふえーべーとう あちれーとーかんねー、あわていーはーていー すん どー。(正月の間にあわせ用品を早めに注文しておかないと、あわてるよ)。

かきーん 〈掛ける〉【活】かきたん、かきらん、かきてい【例】あれー やぐさみむん やくとう、ちむ かきてい まるけーてい でんわ すん。(あの人は独り者なので、心配して時々電話をする)。

かき えー 〈掛け合い〉【例】んかしえーうでいかきえー さい、ぎーたーさーに ふいさ かきえー さいっし あしだん。ふいさ かきえーや くるだる っちゆぬ まき やん。(昔は腕相撲をしたり、片足で足相撲をしたりして遊んだ。足相撲は転んだ人が負けだ)。

かき むち 〈掛け持ち〉【例】ありくり かきむちっし あわり そーん。(あれこれ掛け持ちして難儀している)。

かき じゃー 〈吊るし鉤〉【例】くーさる ばすねー、かみむん っうえんちゆんかい きじゃーさらんたみとう、かみむん すがちくさらさんたみに、ていんじょーんかい かきじゃーさーに みーじょーきー かきとーたん。(幼い頃は、食べ物をネズミに食べられないためと、食べ物を風に当てて腐らせないために、天井に吊るし鉤でカゴを下げていました)。

かきーん 〈賭ける〉【活】かきたん、かきらん、かきてい【例】「わんねー さき やみらなやーんでい うむとーっさー」んでい、どうしんかい いちやくとう、「ふんとー なー? とー、あんしえー かきーみ?」んでい いらったん。「私は酒をやめようかと思っているよ」と言ったら、「本当か。じゃー賭けるか」と言われた)。

かぎ一ん 〈欠席する〉【活】かぎたん、かぎらん、かぎてい 【例】ちゅーや あんまさぬ、いさぬや一んかい っんぢちや一びーくとう かぎやびら ふ一。(今日は気分が悪くて、病院に行って来ますので欠席しますね)。

かきむん 〈欠けたもの〉【例】かきまかえ一ぶかり一 やくとう、うっちゃんぎれ一。(欠けた碗は縁起が悪いから捨てなさい)。

かく 〈癌、難病〉【例】あれ一 さき ぬみちゅーさぬ、さきがく なてい よ一み いっちょ一ん。(あの人は酒を飲み過ぎて、癌になって衰弱している)。あれ一 さきがく やんでい や一?(あの人は酒が原因の癌だってね)。

がく ぶり 〈学問以外は何も知らない人〉【例】がくぶり やくとう、がくむんく一と一ぬ一ん わからん。(「がくぶり」なので、学問以外は何も分からない)。

かくい 〈囲い、垣根〉【例】あかばな一ぬき一さ一に やしちがくいっし あまくまからあか一ぐわ一っし ちら ね一てい いっぺ一 る一 ふ一じ やたん ど一。(ハイビスカスの木で屋敷を囲ってあちらこちらから赤い花が顔を出してとてもいい感じだったよ)。はなりんかえ一 いしがちがくいとう だきがくいぬ うふく ん一だり一ん。(離島には石垣と竹垣が多く見られる)。

かくぐ すん 〈大切にしまい込む〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】くわじぬ うくりていん ぬ一 しん、っちゅんでい い一しえ一ぬちどう あたらさくとう、め一らんぬ一ぬいりむん こ一てい うりんかい かくぐし一ね一、ふいんぎ一る くとう ないしえ一や一。(火事が起こっても何でも、人というのは命が大事なので、燃えない容れ物(金庫)を買ってそれに大切にしまい込んだら、逃げる事ができるでしょう)。いんかん、つ一ちよ一、す一むの一 な一 め一め一さ一に かくぐ

し一よ一 や一。(印鑑、通帳、証文は各自で大切にしまい込みなさいよ)。

かくじ 〈下顎全体〉【例】ちらぬ しちやむていぬ ふいぢやい にぢりんかい ふにぬあしが、うりか一や 「かくじ」んでい い一ん。(顔面の下の方に左右に骨があるが、そのあたりは「かくじ」と言う)。くちぬ しちやぬ とうんがと一る とうくろ一 「うとうげ一」んでい い一ん。(顔面の下に尖っている箇所は「うとうげ一」と言う)。

かくすん 〈(他に知られないように) 隠す〉【活】かくちゃん、かくさん、かくち 【例】どう一ぬ で一じ ないる くと一 かくし一ま一し一っし わかららんぐとう そ一る くわんにぬ にゆ一すぬ ちかぐろ一 うふさん。(自分に不利になることを知られないように隠し通している公務員のニュースが近頃は多い)。ゆすんかい っくわ なちえ一し かくちよ一たしが、わからりや一に み一とうんだ わかり そ一たんでい。(他所で子をつくったのを隠していたが、知られて離婚したって)。かじやいだなぬ ちぶぬ な一かんかい わたくさ一ぐわ一 かくちよ一たしが、やっち一んかい み一あていらったん。は一、くんど一 ま一かい かくすがや一?(飾り棚の中にへそくりを隠していたが、兄に見つけられた。さて、今度はどこに隠そうかなあ)。【参】くわっくわすん((見えないように) 隠す)。

かくびち 〈とても好いもの、おいしいもの、いい仲〉【例】あまぬ すば一 かくびちま一さん ど一 や一。(あそこのそばはとてもおいしいよね)。ありとう わんと一 かくびち やん ど一。(あの人と私はとても仲がいいよ)。

かくむん 〈囲む〉【例】うほ一くぬ っちゅぬちや一が てい一 とうや一に ふていまきち かくだん。(多くの人たちが手を取って普天間基地を囲んだ)。

かくり ぶし 〈人前ではその気配を見せない達人〉【参】くちぶし（口先だけの達人）。

かげーいん 〈支配する〉【活】かげーたん、かげーらん、かげーてい【例】んかしえー うしゆがなしーめーが るーちゅー かげーとーたん。（昔は国王が琉球を支配していた）。

かさかさー 〈乾燥したさま、ごわごわしたさま〉【例】ふゆねー ちらん ていーふいさん かさかさー ないやっさん。（冬には顔も手足も乾燥しやすい）。ぬい いってーる ちのー いっぺー めー あんべー やしが、かさかさー そーくとう なかねー ちらんぱー／しかん すしん をうん。（糊が入っている着物はとても良い具合だが、ごわごわしているのでなかには着たがらない／嫌いな者も居る）。【参】がさがさ（忙しく動き回る様子、物の触れ合う音）。

かさぎーん 〈妊娠する〉【活】かさぎたん、かさぎらん、かさぎてい

かさぎらすん 〈妊娠させる〉【活】かさぎらちゃん、かさぎらさん、かさぎらち【例】くまぬ どーぶつえんをうてー っちゅぬ ていーがしーん あてい、ぼんだ かさぎらちやし、つくわぐわーぬ っんまりーし たぬしみ やん。（ここの動物園では人の手貸しもあって、パンダを妊娠させたので、赤ちゃんが生まれるのが楽しみだ）。

かさばいん 〈重なる〉【活】かさばたん、かさばらん、かさばてい【例】たーち かさばいねー、みーち かさばていどう くとー うわいさ。（2つ重なると、3つ重なって事は収束するものだ）。

かさびーん 〈重ねる〉【活】かさびたん、かさびらん、かさびてい【例】かがんむち たーち かさびてい みーちめーねー くがにー かさびてい そーぐわち かしやい すん。（鏡餅は2つ重ねて3つ目にはクガニー蜜柑を重ね

て正月飾りをする）。めーくとー ななけーん やけーん かしびてい、やなくとー かーまんかい うしぬきーん。（善い事は7回8回も重ねて、悪いことは遠くに押しつける）。くみぬ いっちょーる かしがーぶくる みーち かしびーん。（米が入っている麻袋を3つ重ねる）。かーらやー ふちゅんでいち なーんかえー かーらぬ うほーく かしびらとーん。（瓦葺きの家を造るといって庭に瓦がたくさん重ねられている）。【参】かーらぬ まじまとーん（瓦が積み上げられている）。

かし 〈粕〉【例】とーふぬかし いりちやーちゆくいる ばすねー ちでーくに、ふいじき、とーふまーみー いりーしが、あふあむん やくとう、だしじる いってい にーねー、まーくまーく かまりーん。（おから炒めをつくるときには、ニンジン、ひじき、大豆を入れるが、味のないものなので、だし汁を入れて煮ると、おいしく食べれる）。

かじ 〈風〉【例】じゅーぐわちぬ うふかじえー あみぬ いきらさくとう、ちゅーあたい すんでい どー。（10月の台風は雨が少ないので、強く当たるってよ）。かじふちえー、けーしえー ねーに？（台風は返し風はないのか）。**かじ かたか** 〈風除け〉【例】んかしぬ ふくぢがちえー かじかたかん ていーだかたかん なてい めー やんべー やたん。（昔のフクギ垣は風よけにも日よけにもなってよかった）。

かじ ふち 〈強風、暴風〉【例】あちやー、あさてい かじふちぬ ちゅーんでい どー。（明日、あさって強風が来るってよ）。

かじ ふち あーけーじゅー 〈暴風の前兆に群れ飛ぶトンボ〉【例】かじふちぬ めー しらしとうっし かわてい あーけーじゅーぬ うほーく あちまてい ちゅーるくとう、くれー 「かじふちあーけーじゅー」んでい ゆばとーん。（暴風の前触れとして特にトンボがたくさん集まってくるので、「かじふいちあーけーじゅー」と呼ばれている）。

かじ まーい 〈旋風、突風〉【例】にんぐわち かじまーいねー、さんかくなみぬ たちゆくとう、うめー ちーちきらんねー うかーさん どー。(陰暦の2月旋風には三角波が立つので、海は注意しないと危険だよ)。

かじ まやー 〈かざぐるま、97歳の生年祝い〉【例】かじまやーぬ うゆうえーねー うぬ うとうすいや くるま ぬてい かじまやー むっち ななちぬ あじまー まーいん。(97歳の生年祝いにはそのお年寄りが車に乗って風車を持って7つの交差点を廻る)。

かじ まやー 〈交差点〉【例】かじまやーでい いーしえー、みちとう みちとうぬ あじまー などーる とうくま やん。(交差点は道と道とが交わっている箇所だ)。

かじ まやー ぎー 〈クチナシ〉【例】かじまやーぎーぬ はなしっし かじまやー ちゆくてい あしづん。(クチナシの花で風車を作って遊ぶ)。

かじ っわーら 〈風上〉【例】かじっわーらぬ まー などーがんでいーる くとうさーに、くちかじ、ふえーかじ、にしかじんでーぬ ふちゆるかじぬ あしが、くちかじぬ ふちーねー あみぬ ふいめー、ふえーかじえー しだかじ、にしかじえー ふいじゆるかじ などーん。(風上がどこになっているかで、東風、南風、北風などの吹く風があるが、東風が吹くと雨の前兆、南風は涼風、北風は寒風になっている)。

かじ 〈筋、繊維〉【例】かじぬ うふさる やしえー うほーく かむるくとう しーねー ちしらんでい。(繊維の多い野菜をたくさん食べることをしたら便秘しないって)。ししえー まるにー さんねー かじぬ ちまてい くふあーいん。(肉はまるごと煮ないと筋が縮んで固くなる)。くぬ ナーベラーや かじ などーてい かまらん どー。(このへちまは繊維が固くなっていて食べられないよ)。たなげー ていんぷら するばすねー かじ ちっちから あんだんかい あぎてい かむし や

ん。(川エビのてんぷらをする際には背筋を切ってから油で揚げて食べるものだ)。

かじ ちり あびー 〈首筋が切れるほどの叫び〉【例】せんきょんかい たちゆる ちゆぬちやーや あまくまをうてい かじちり あびーっし どうーぬ なー うってーとーたん。(選挙に立つ人たちはあちらこちらで首筋が切れるほど大声で自分の名前を訴えていた)。

かじ 〈数〉【例】うちなーぐちさーに ていーちから とうーまでい かじ ゆむし わらびんちやーんかい ならーちゃん。(沖縄語で1から10まで数えるのを子どもたちに教えた)。うちなーけんぬ ちちゆかじえー ちゃっぴやが わかいみ?(沖縄県の人口はどれだけのかわかるか)。

かじ かじぬ 〈たくさんの〉【例】なーかじかじぬ さねーならんくとうぬ うふさぬ、ぬーからが ていー ちきてい しむらわからん さー。(もうたくさんしなければならぬことが多いと、何から手を付ければよいのかわからないよ)。

かじ ならん 〈取るに足らない〉【例】かじならん わん あたいぬ むんが うんなまぎちとうみ ないびーがやー?(不肖私ごとき者がこんな大役できますかねえ)。

かじ 〈舵〉【例】はーりーすーぶんぢえー かじとういや かなみ ないん。(ハーリー競争では舵取りは大事になる)。

かしー 〈応援、援助〉【例】かしーんかえー ちむ がしー、くち がしー、ちから がしーぬ あしが、ちむがしーや ちむ やどーる ばすに ちむのーしっし とうらするくとう やてい、くちがしーや むぬ いーぬ いきらさる ちちゆんかい かしーするくとう やてい、ちからがしーや じんがしーや ならん ちちゆが ないん ていがねー やん。(援助には心の援助、口の援助、力の援助があるが、心の援助は心が病んでいる際に直してあげることで、口の援助は口数の少ない人を応援するこ

とで、力の援助はお金での援助ができない人がする手伝いだ)。

かしがー 〈麻布〉 【例】んかしえー めりけんぶくるんかえー むぢなくー、かしがーぶくるんかえー くみ いっどーたしが、どうーぬ ちかいる どーぐ、かみむぬんでー ぬーくいーん かしがーぶくるんかい いっどーたる おじさんぬ ちゆけーとうないんかいをうたん。(昔はメリケン袋には小麦粉、麻袋には米を入れていたが、自分の道具、食べ物等あれこれ入れていたおじさんが隣近所にいた)。

かしかき 〈かせ掛け〉 【例】かしかきんでいる うちなー をうどういぬ あん。(かせ掛けという沖縄踊りがある)。

かしちー 〈おこわ〉 【例】かしちーや かりーな むん やてい、うゆうえーぬ ばすねー むちぐみ、あかまーみ ぐー なち っんぶちえーる むんぬ っういーんかい くるぐまぬ ほーらっどーん。(おこわはめでたいもので、お祝いのときには餅米、小豆と一緒に蒸したものの上に黒ごまが振りかけられている)。

かしていら 〈かまぼこの一種〉 【例】かしていら かまぶこー うちなーをうてー しちぐわち、そーぐわち、すーじぐとうんかえー かかさらんむん やん。あかかまぶくとう かしていらーや くわっちーぬ はながた やたん。(かすてらかまぼこは沖縄では盆、正月、祝い事には欠かせないものだ。赤かまぼこかすてらはごちそうの花形だった)。

がじまる 〈がじゅまる〉 【例】くぬ がじまるぬ にーや まーまでいん ふいるがてい いしん だち、ゆだん ふいるがとーくとう、ていーだかたか なてい くり かーぬ っちゆぬちやーぬ しだみどうくる などーん。(このガジュマルの根はどこまでも広がって石も抱いて枝も広がっているの、陽を遮ってこの辺りの人たちの涼み所になっている)。

かじみーん 〈大事にしまう〉【活】かじみたん、かじみらん、かじみてい 【例】てーしちな むん やくとう どうく うーくんかい かじみやーに、あとうぬ うじゆみねー どうーくるん わからん などーん。(大切なものなので奥深くしまい込んで、あげくの果ては自分でもわからなくなっている)。

かじみ むん 〈秘蔵品〉 【例】くぬ けーうちえー うやふあーふじからぬ かじみむん やくとう、いふいぐわー やていん きじちきてー ならん どー。(この皿は先祖からの秘蔵品なので、少しでも欠損させてはいけないよ)。

かじゃ 〈臭い〉 【例】きぶしぬ かじゃ すん。(煙の臭いがする)。なー いっペー はなぬ かばかじゃ そーん やー。(庭一面花が芳い香りがしているね)【参】かばさん(香りがいい)、かばかじゃ(芳香)。

かじゃい 〈飾り〉 【例】そーぐわちぬ かじゃいむん しーねー、ちもー そーぐわち などーんねーっし、くるる うかさりーん。(正月の飾り物をする、心は正月になっているような気がして、浮き浮きしている)。

かじゃい たていーん 〈飾りたてる〉【活】~たていたん、~たていらん、~たていてい 【例】ちゆーや アミリカそーぐわち やくとう、やーぬ なーかん なーん かじゃいたていとーん。(今日はクリスマスなので、家の中も庭も飾り立てている)。

がじゃん 〈蚊〉 【例】がじゃんくえー (蚊に刺された痕)。がじゃぬんかい くわーってい よー。(蚊に刺されてしまっってね)。がじゃぬんかい くーらりーん どー。(蚊に刺されるよ)。

かじゅーいん 〈数える〉【活】かじゅーたん、かじゅーらん、かじゅーてい 【例】うちなーぬ あまくまから かじゅーらん あたいぬ っちゆぬちやーぬ なーふあんかい あちまて

いちゅーくとう、ちゅかじえー たった う
ほーく などーん。(沖縄のあちこちから数え
られないほどの人々が集まってくるので、人口
はだんだん増えている)。

かしら 〈長、頭〉 【例】やーぬ かしらー
をうとうどう やる。(家の大黒柱は夫だ)。し
んしーたー なーかをうてー あぬ ちゅが
どう かしら やみしえーん どー。(先生た
ちの中ではあの人こそが一番上でいらっしやい
ますよ)。なまぬ うちなーをうていぬ かし
らー けんちじ やん どー。(現在の沖縄の
リーダーは県知事だよ)。くとうしん あぬ
ちゅが PTAぬ かしら そーん [=ちとう
みとーん/などーん]。(今年もあの人PTAの
会長をしている [務めている/なっている])。

かた 〈肩〉 【例】あちゃーまでいねー しー
なさんとーならんくとう、ちゅー とうじみて
い かたぬ にー うるちょーん。(明日まで
にはやり終えなければならぬので、今日仕上
げて肩の荷が下りている)。ていーぬ さちか
ら なー ちゅとうくるぬ かたまでー てー
げー いちメーターびけーん あん。(手の先
からもう一方の肩先まではおおよそ1m程ある)。

かた 〈形、型〉 【例】わらびぬ くらー む
ーぬ ういんかい ふいっさる かび うちき
てい かた とうてい むー かちゃん。(子
供の頃は絵の上に薄い紙をおいて形を取って絵
を描いた)。

かた 〈方向、方角〉 【例】すいぐしくから
んーち、あがりかたんかえー しえーふあーう
たき、ふえーぬ かたんかえー しちなうどう
ん、いりぬかたんかえー なんみんぐー、にし
かたんかえー じゃちみぐしくぬ あん。(首
里城から見て、東の方角に斎場御嶽、南方には
識名御殿、西方には波の上宮、北方には座喜味
城がある)。**【参】** 親しみを込めて、うぐしく(首
里城)とも言う。

かた 〈片〉

かた あがい 〈半煮え〉 【例】くぬ むし
ぐわーしえー かたあがい そーしが、ぬーん
ち あん なたがやー?(この蒸し菓子は半煮
え状態だが、どうしてそうなったのかなあ)。

かた うでい 〈協力者〉 【例】ちゅー
かたうでいん をうりわどう ぬーぐとうん
なさりーる。(人は協力者も居てこそ何ごと
も成就される)。

かた うむい 〈片思い〉 【例】いーじまは
んどーぐわーや とうじぬ をうる ちゅ
んかい まんぶりーっし うむいん とうぢら
らん かたうむいどう やてーさ やー。(伊江
島ハンドゥグワや妻の居る人に一目惚れし
て思いも遂げられない、片思いだったのだね)。

かた うや 〈片親〉 【例】いくさをうてい
をうとう とうらってい かたうやっしどう
つくわぬちゃー ふどうっわーちやる。(戦
争で夫を失い片親で子どもたちを育てた)。

かた かき 〈不公平〉 【例】ていーだん
うちちゅーめーん かたかき ねーらんぐと
う、あかがらち とうらしみしえーん。(太陽も
お月様も公平さを欠かないように、照らしてく
ださる)。

かた かきーん 〈兼業する〉 **【活】** ~かきた
ん、~かきらん、~かきてい **【例】** ありんくりん
かたかきとーくとう ちゃー いちゅな
そーん。(あれもこれも兼業しているの、いつ
も忙しくしている)。

かた かしら 〈片髪、成人男子の髪型〉
【例】 んかしわらべー ゆかちゅー じゅー
ぐ、ひやくしよーや とうー ないねー、かた
かしら ゆーとーたん。(昔の子どもは士族は
15歳、平民は10歳になれば、片髪を結ってい
た)。

かた ぐー 〈片方〉 **【例】** しーさーぬ か
たぐーや くち ふいらち、なーかたぐーや
くち くーとーん。ちゅとうくろー みーむな
ー、なーちゅとうくろー をうーむなー やん。
(シーサーの片方は口をあけて、もう片方は口
を閉じている。一方は雌で、もう一方は雄だ)。
【参】 ちゅとうくる(片方)、ちゅとうくるぬ

うや (片方の親)。

かた ぐー まんちゃー 〈片チンバ〉

【例】あれー もーいっうえーかたぬ ねーびっし あしぢやとう さば かたぐーまんちゃーくでい あっちょーたん。(あの人はモーイ親方のまねをして下駄と草履をちぐはぐに履いて歩いていた)。

かた くくる 〈ひとまずの安心〉 【例】く

るま はっちやかたんでいぬ しらしぬ あたしが、まーん やまちえー ねーらんでいるくとうぬ わかてい なまぬ とうくろー かたくくる ゆるちょーん。(交通事故の知らせがあったが、どこもケガしていないということが分かって今のところひとまず安心している)。

かた ぐち われー 〈微笑み〉 【例】あ

ぬ っちょー ちゃー かたくちわれーっし いっぺー っうえんだーさん。(あの人はいつも微笑んでいてとても感じがいい)。みーぬ めーをうてい ふみらってい はじかさが あたら、かたくちわれー そーたん。(目の前でほめられて恥ずかしかったのか、微笑んでいた)。

かた げーな 〈片腕〉 【例】ぐじゅーかた

が やら、かたげーなぬ あがらん などーん。(五十肩なのか、片腕が上がらなくなっている)。

かた じー 〈一方に片寄ること〉 【例】う

やー わらびんちゃー ふどうっわーする ばすねー かたじーや さんぐとう、ぬぬ かたならびてい んーぢゆし やん。(親は子どもたちを育てるときにはえこひいきすることなく、公平にならべて見守るものだ)。

かた しみ 〈片隅〉 【例】わったー まや

ーや ぬらーってい かたしみんかい ふいんぎくどーん。(私の家の猫は怒鳴られて片隅に逃げ込んでいる)。

かた ちみ がにぐわー 〈潮まねき〉

【例】はさんぬ ていーちびけー まぎく などーん 「かたちみがにぐわー」や やまとうなーしえー 「しおまねき」んでい いちよーん。(鍬が一つだけ大きくなっている「かたちみがにぐわー」は和名では「潮まねき」と言っている)。

かた ちんし 〈片ひざ〉 【例】んかしから

ふいさまんぢぬどう りーぢぬ ある めーよー やたしが、くみをうどういをうてー かたちんしさーに たちゆる とうんたちめーそーん。(昔から正座が礼儀作法になかった坐り方だったが、組踊では片膝で立つ「とうんたちめー」をしている)。

かたでいー 〈片手〉【活】かた ふいさ〈片

足〉【例】うぬ っちゆぬ かたでいーや／かたふいさー いくさんかいどう とうらったがやー?(その人の片手は／片足は戦争でなくしたのかねえ)。かたていーさーねー うとーっんぢらん。(片手では拍手の音は出せないように、一人では何もできない)。かたふいさぬ ていがねーん ならん。(半人前である)。

かた どうー 〈半身〉 【例】っちゆぬ

どうーや みーとうか ていーぬ ながさんでー、ふいぢやい、にぢりぬ かたどうーや まったち めぬ むのー あらん。(人の体は目とか手の長さなど、左、右の半身はまったく同じではない)。

かた ばい 〈肩の盛りあがり〉 【例】てい

ー ちかいる っちゆぬちゃーぬ どうーぢゆくえー あちあちーとう まぎさる かたばい などーん。(空手をしている人たちの体造りは厚く大きな肩が盛りあがっている)。

かた びーち 〈片ひいき〉 【例】っくわ

ぬちゃー ふどうっわーする たみねー かたびーち さんぐとう めぬ かなさ すし やん。(子どもたちを育てるためには片ひいきしないで同じようにかわいがるものだ)。

かた ぶい 〈片降り(通り雨や片時雨とも異なる)〉 【例】うちなぬ なちえー あまく

まをうてい かたぶいぬ うふさぬ、うぬ かーじ ふいるまさ そーん。(沖縄の夏はあちらこちらで片降りが多くて、そのたびに不思議な感じがする)。

かた みち 〈片道〉 【例】みち のーちよ

ーる ばすねー かたみちぬ ちぢらっとうくとう っちゆん くるまん うむいぬ ぐとうとうーらん。(道を補修しているときには

片道が閉鎖されているので、人も車も思うように通れない)。

かた わき 〈不公平な配分〉【例】ゆくぬちゅーさる っちょーぬー やていん かたわき すん。(強欲な人は何でも不公平な配分をする)。

かたいん 〈語る〉【活】かたたん、かたらん、かたてい【例】んかしむぬがたい しまくとうばっし かたてい ぬーだな。(昔の話をしまくとうばで語ってみようか)。

かたか 〈避け、除け〉【例】わったー やーぬ あがりばんたんかい まぎアパートぬ たっち、ていーだかたか さってい やしえーやむる すだたん。(私の家の東端に大きなアパートが建って、陽が遮られて野菜はまったく育たない)。

かたか すん 〈さえぎる〉【活】～さん、～さん、～っし【例】かたかー すなけー。(さえぎることはするな)。わん やーぬ あがりむていーや とうないぬ アパートぬ かたかそーくとう、あがいていーだ をうがまらん。(私の家の東側は隣のアパートが日除けになっていて、日照がのぞめない)。

かたか みち 〈人目につかない道〉【例】やんばろー きーぬ まぎさくとう かたかみちぬ うふさん。(ヤンバルは木が大きいので隠れた道が多い)。

がたがたー すん 〈震える〉【活】～さん、～さん、～っし【例】ふいーさぬ／うとうる さぬ がたがたー そーん。(寒くて／怖くて震えている)。

かたじー すん 〈傾く〉【活】～さん、～さん、～っし【例】うやぬ じえーさん わきーるばすねー、かたじーしえー ならんくとう、ゐぬ かた ならびてい くらいんとーならん。(親の財産を分けるときには、片一方に傾くといけないので、同じように並べてくれないといけない)。**【参】** いちやをうどうえーんかい

ぬいるとうちねー、かたにーっんぶー しえー ならんくとう、がっさる とうくまんかい っちゅぬしーん。(シーソー乗るときには、一方を重くしてはいけないので、軽いところに人を乗せる)。

かたじきーん 〈片付ける〉【活】かたじきたん、かたじきらん、かたじきてい【例】うていちからんくとう、っんぢやちえーる しゅむちえー かたじきれー。(落ち着かないので、取り出した本は片付けなさい)。やーぬ かたじきん ならん わかむんぬちやーぬ うふく ならんしーが、やっけー やさ。(家の片付けもできない若者が多くなっているが、困ったものだ)。

かたち 〈敵〉【例】どーうがっていーとうか くちはごーさる っちょー かたち ちゅくいん どー。(身勝手とか口の悪い人は敵をつくるよ)。

かたち 〈姿〉【例】をうどういぬ しんしーたーや ちんぬ ゆー うちやてい かたちぬ ちゅらさん。(踊りの先生たちはよく着物が似合って姿が美しい)。

かたちき 〈型染め〉【例】びんがたー かたちきさーに ちゅくらっとうし やてい、みーふりゆる あたい ちゅらむん やん。(紅型は型染めで作られているもので、見ほれるほどの美しいものだ)。

かたはら 〈傍ら、そば〉【例】くぬ いよー かたはら にーてー をうらん どー。(この魚は傍らが煮えていない)。っちゅぬ あっちゅる みち やくとう、かたはらんかい しーけー。(人の歩く道だから、そばに退きなさい)。

かたはら っんぶー 〈てんぷらの一種〉【例】うちなーをうてー さきむいんかえー さーたーあんだーぎーとう かたはらっんぶー まぎく むてい さしが、うぬ たーちえーかりーな むん やてい、さーたーあんだーぎーや ういきが、かたはらっんぶーや ういな

ぐ やんでい。(沖縄では結納には「さーたーあんだーぎー」と「かたはらっんぶー」を大きく盛ってしたが、この2つは縁起物で、前者は男子、後者は女子だつて)。

かたばる 〈干潟〉【例】あーしぬ かたばるんかえー ちんぼーらー、あさり、がに、とんとんみーんでーぬ いちむんぬ をうくとう、うみたていーる くとう すしえー あらん。(泡瀬の干潟にはチンボラ、アサリ、蟹、トントミーなどの生き物がいるので、埋め立てることをすべきではない)。

かたふいら むん／かたふあー 〈肢体不自由者〉

かたまいん 〈つまる、ふさがる〉【活】かたまたん、かたまらん、かたまてい 【例】はなぬかたまてい いーちぬ どうーぐりさぬ、くち あきとーさ。(鼻がつまって呼吸がしづらいので口を開けているよ)。はな かたまやー(鼻づまりの者)。ちびぬ かたまとーん。(便秘している)、ちび かたまやー(便秘の者)。
【参】ちしゆん(便秘する)、ちしとーん(便秘している)。

かたみ 〈契り〉【例】にーびち いーびなぎーや みーとうぬ かたみ やん。(結婚指輪は夫婦の契りだ)。

かたみ 〈形見〉【例】くぬ しむちえーうやぬ かたみ やくとう、っちゆんかい からちやい、ゆぐちやい、ねーん なちやい しえー くいーんな。(この本は親の形見だから、人に貸したり、汚したり、無くしたりしてはくれない)。

かたみーん 〈担ぐ、背負う〉【活】かたみたん、かたみらん、かたみてい 【例】んかしえーくるまん ねーんくとう、うやぬ あんまさる ばすねー うや かたみてい からふいさーっし いさぬやーんかい そーてい いちゆたん どー。(昔は車もなかったの、親が具

合が悪い時には親を担いで裸足で病院に連れて行ったものだよ)。やーうちーする ばすんやーぬ どーぐん むる かたみてい むっち っんぢよーたん。(引っ越しするときも家財道具を一切担いで持って行っていた)。っちよー いちん にーかたみてい あっちよーる むん やん。(人はいつも荷を背負って生きているようなものである)。をうーじ みたばい ちゆけーんなかいに かたみうーすみ?(砂糖きびを3束一度で担げるか)。

かたみ あちねー 〈行商人〉【例】かたんかい ていーさーじ うちきてい うぬ っういーんかい そーぬしてい 「そーや こーらに?」んち かたみあちねー そーたる ういきがぬ をうたん。(肩に手ぬぐいをおいてその上に棹を乗せて「棹は買わないか?」といって行商している男の人がいた)。

かたみーん 〈濃くする〉【活】かたみたん、かたみらん、かたみてい 【例】くぬ ちゃーやふいっさくとう、なーいふえー かたみていくいり。(このお茶は薄いので、もう少し濃くしてくれ)。

かたいん 〈語る〉【活】かたたん、かたらん、かたてい 【例】なまから あとうぬ くとうやーにんじゆ すりてい かたらな。(今後のことを家族そろって話そう)。がらさーよー! がらさー! やななちえーすな よー。やなくとーっやー っういーどー。ゐーくとう かたれー。(カラスよ!カラス! 不吉な鳴き声はするなよ。悪い事はおまえにだよ。縁起のいい事を語りなさいよ)。

かたらいん 〈仲間に入れる〉【活】かたらたん、かたららん、かたらいん 【例】うちなーぐち ふいるみーる くとうんかい ちむ あーしぬ ないる っちよーたーやていん かたらいん どー。(沖縄語を普及することに協力できる人は誰でも仲間に入れるよ)。

かたれー／い かたれー 〈仲間になること〉【例】「まじゆーん なら やー」んでい

いかたれー さん。「一緒になろうね」と結婚の約束をした。

かたんきーん 〈傾ける〉【活】かたんきたん、かたんきらん、かたんきてい 【例】なーいふいぐわー にぢりんかい かたんきりよんち のーさってい めーしゃしんぬ ぬがったん。(もう少し右に傾けてねと直されて好い写真がとれた)。とうちーぬ っんぢゆかん などーたしが、いふえー ふいぢやいんかい かたんきたくとう あっちゆるぐとう なたん。(時計が動かなくなっていたが、すこし左に傾けたので動くようになった)。ビール ちぢゆくとう、びんぬ くちぬ めーんかい なーいふえー かたんきれー。(ビールを注ぐので、瓶の口の前にもう少し傾けなさい)。

かたんちゅん 〈傾く〉【活】かたんちゃん、かたんかん、かたんかち 【例】ていーだぬ いりんかい かたんちよーくとう なーやーやーんかい けーいる じぶん やさ やー。(陽が西に傾いているので、それぞれ自分の家に帰る時分だね)。なまー さんしぬん ならとーしが、をうどういん すがやーんち ちむぬ かたんちよーん。(今は三線も習っているが、踊りもしようかと気持ちが傾いている)。バスぬ なーかをうてい にんぢふりてい かたんちやーに とうないぬ っちゆぬ かたんかい うっちゃかってい めーあんべーぎさ にんとーん。(バスの中で眠りこけて傾いて隣りの人の肩に寄りかかって気持ち良さそうに眠っている)。

かたんち ばい 〈恥ずかしくて顔をそむけて逃げ出すこと〉 【例】んかしえー なまぬぐとう ういきが ういなぐぬ まじゅーん っんでいーる なれーや あらんたくとう、ういきが いちゃたい ういなぐ いちゃたい しーねー かたんちばい すたん。(昔は現在のように男女一緒に外出する習慣はなかったので、男子に出会ったり女子に出会ったりすると顔をそむけて足早にその場を去った)。

かち 〈働き、反復〉 【例】ゆーじゆかち し

ーが っんままでい っんぢくー めー?(用事を済ませにそこまで行ってくるね)。ゆーじゆかちぬ うふさぬ、 なー をうたたっさー。(用足しが多くて、もう疲れたよ)。んかし わらびんちゃーや ほーちかち さい、すすいかち さい うやぬ ていがねー ゆー そーたん。(昔の子どもたちは掃き掃除したり、ぞうきがけしたりして親の手伝いをよくしていた)。

かち〜〈掻き〜〉

かち くじーん 〈ほじくり回す〉【活】〜くじたん、〜くじらん、〜くじてい 【例】あれー っちゆぬ ちむ かちくじーる やなぐしぬ あん どー。(あの人は人の心をほじくり回す悪い癖があるよ)。

かち しがいん 〈すがりつく〉【活】〜しがたん、〜しがらん、〜しがてい 【例】あっち はじみーぬ わらびぬ だちとうらしよーっし かちしがいん。(歩きはじめの子が抱いてちょうだいとすがりつく)。

かち ほーいん 〈散らかす〉【活】〜ほーたん、〜ほーらん、〜ほーてい 【例】なまぬ ゆーや ぬーやーくいーやー まんでい、ぬーんくいーん むる こーていちゃーに あとうぬ うじゆみねー しじみーるくとうん ならん、やーや かちほーらっとーん。(今の世の中はあれこれと物が多くて、何でもみんな買って来て、あげくの果ては片付けることもできなくて、家の中は散らかっている)。つくわむちぬ やーや わらびぬ ていー みーゆる までーかちほーらっとーん。(子持ちの家は子どもが大きくなるまでは散らかっている)。

かち みんぐわすん 〈かき乱す〉【活】〜みんぐわちゃん、〜みんぐわさん、〜みんぐわち 【例】あんちゆが ふえーりんちーねー、わったーが いぐまちよーる くとうん むる かちみんぐわさりーん/きじゃーさりーん どー。(あの人が入ってくると私たちが計画していることもすべてかき乱されるよ)。

かちやーすん 〈かき混ぜる〉【活】かちやーちゃん、かちやーさん、かちやーち 【例】コン

クリートやー ちゆくいる どうちえー いしぐわー、しな、しみんぐー、みじ かちやーちすらぶ うちゆん。(コンクリート建てを造るときは小石、砂、セメント、水をかき混ぜて基礎造りをする)。【参】かやぶちやー(茅葺きの家)、かーらやー(瓦葺きの家)、とうーたんやー(トタン葺きの家)、きーやー(木造りの家)。

かちやーしー 〈テンポの速い三線の曲、乱舞〉 【例】「かちやーしー」や さんしんぬぐるうた やてい、とーしんどーい、たこーやま、めーかた、あっちやめーぐわーんでーぬあん。いちからが 「あっちやめー」ぬ 「かちやーしー」んち なたら やー? («かちやーしー」は三線の急テンポの曲で、唐船どーい、多幸山、舞方、即興的な踊りなどがある。いったいつから「あっちやめー」が「かちやーしー」となったのかなあ)。

かちやむん 〈ひっかく〉【活】かちやだん、かちやまん、かちやでい 【例】ゆーすーぐわーたーや たげーに ちら かちやみがなー なちよーてい おーえー そーん。(幼い子はお互いに顔をひっかきながら泣いてけんかしている)。

かちやんくわーすん 〈盛んにひっかく〉【活】かちやんくわーちゃん、かちやんくわーさん、かちやんくわーち 【例】かじよーらーぬ どうー いっぺー ふちんぢてい うみちとうかちやんくわーちよーる わらび んーちちむぐりさたん。(じん麻疹が体中に噴き出してかきむしっている子どもを見てかわいそうだった)。

かちみーん 〈捕まえる〉【活】かちみたん、かちみらん、かちみてい

かちみ んそーれー 〈鬼ごっこ〉 【例】かちみんそーれーや、「んなっし ぶーさー さーに かちゆしんでー ちゆいなー かちみらんぐとう まーまでいん ふいんぎてい いちゆん。まきてい あとうに ぬくたる わらびぬ うに なてい どうっかちみーが うー

てい いちゆん。あんし、かちみらったる っちゆが けーるー さーに うに ないん」でいる んかしぬ わらびんちやーぬ あしびやん どー。(鬼ごっこは、「みんなでじゃんけんして勝ちしだい一人ずつつかまえられないようにどこまでも逃げていく。負けた後に残った人が鬼になって捕まえに追っていく。そして、捕まえられた人が替わって鬼になる」という昔の子どもたちの遊びだよ)。

かちゆん 〈書く〉【活】かちやん、かかん、かち 【例】たーが かちえーる しゆむちぬうむっさが? (誰が書いた本がおもしろいの)。ちゆー ふいっちーぬ くとう かちとうみていから なー じゆーにん などーん。(今日一日のことを書き留めてからもう10年になっている)。

かち いりーん 〈書き入れる〉【活】～いったん、～いりらん、～いってい 【例】たらーんとうくまー っやーさーに かちいっとーけー。(足りないところはあなたで書き入れておきなさい)。

かち ちき 〈文書〉 【例】あぬ かちちけー なま たーが むっちよーが? (あの文書は今誰が持っているの)。

かちゆん 〈かく〉【活】かちやん、かかん、かち 【例】みちから ちら むっちえー あっからん あたいぬ いちはじ かちやん。(人に顔を向けては歩けないほどの大恥をかいた)。

かちゆん 〈増築する〉【活】かちやん、かかん、かち 【例】わんが しゆむち ゆだい むぬ かちやい ゆくたい すんちどう はじえー かちやん どー。(私が本を読んだり、ものを書いたり、休んだりするんだといって個室を増築したんだよ)。

かちゆん 〈勝つ、すぐれる〉【活】かちやん、かたん、かっち 【例】あれー ちぶるんかっち、むぬ いーよーまでいん かちちよーん やー。(あの人は頭もよくて、ものの言い方までもすぐれている)。

かっちかむん 〈ひつつかむ〉【活】かっちかだん、かっちかまん、かっちかでい 【例】くまー さか などーくとう、じてんしゃ けーりんくるびんっし ながりてい いちーねー でーじ ないくとう、かっちかどーけー。(ここは坂になっているので、自転車が転がって滑っていくと大変なことになるので、ひつつかまえておけ)。【参】とうっかちみーん (とつつかまえる)、じゃーふえー (困る事)、でーじ (大変な事)。

かぢやでいふー 〈かぎやで風〉 【例】うちなーをうてー かぢやでいふーや うゆうえーぬ かりー ちきーる をうどうい やん。(沖縄ではかぎやで風はお祝いの嘉例をつける踊りだ)。

かちゆー 〈かつお〉 【例】かちゆーゆーちゆくいる ぼそー、まじえー かちゆー ふいぢやーに、とういぬ くーが わてい んーすん しるまかいんかい いってい、ふちよーる ゆー (=あち ゆー) うすいる あたいいりやーに いっとうちえー けーうちっしうすとーけー。(「かちゆー」をつくる際にはまず鰹節を削って、鶏の卵を割って味噌も汁碗に入れて、沸騰した湯 (=熱湯) を覆う程入れてしばらく皿をかぶせて置きなさい)。

かぢり 〈限り、限定、期限〉 【例】じのーちゃっさ もーきていん かぢりぬ ねーらん。(お金はいくらもうけても限りがない)。あかばなーから ちゆくらっとうーる かばーぐわーや うちなー かぢりぬ/びけーぬ むんやん。(ハイビスカスから作られている香水は沖縄限定のものだ)。とうしゆかんぬ しゆむち かいねー、かぢれー にしゆーかんどうやる。(図書館の本を借りればその期限は2週間だ)。

かっていー 〈勝手〉 【例】あまぬ とうじえー まーんぢん しーぶさ かっていー、いーぶさ かっていーっし なまに でーじ/や

っけー ないん どー。(あそこの奥さんはどこでもしたい放題、言いたい放題して今に大変なことになるよ)。

がっていん すん 〈賛成する、納得する、承知する〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】くぬ いぐましえー がっていん ないん/ならん。(この企画は賛成できる/できない)。

がっぱい 〈一部がとび出している頭〉 【例】ふいちえーがっぱい (おでこの頭)、くしがっぱい (後頭部がとび出した頭)、がっぱやー (頭の一部がとび出している者)。

かていーん 〈一緒にする、おかずにする〉【活】かていたん、かていらん、かていてい 【例】にぢりめーや っんみぶしとう かていてい かむしえー まーさん。(握り飯は梅干しと一緒に食べるのがおいしい)。ぬーでいーんかいちまてい ちーちーかーかーっし うとうしぐるさくとう、しるとう めーとー かていていどう かむし やる。(喉に詰まった状態になり飲み込みにくいので、おつゆとご飯と一緒に食べるものだよ)。コーヒーびけーん ぬまんぐとう、くわーしん かていてい かめー。(コーヒーだけ飲まないで、お菓子も一緒に食べなさい)。

かてい むん 〈おかず〉 【例】っんみぶしえー にぢりめーぬ かていむん やん。(梅干しは握り飯の友だ)。かていむん こーいがまちぐわーんかい いちゆん。(おかずを買いに店に行く)。ちゆーぬ ゆーばんぬ かていむのー ぬー すがやー? (今日の夕飯のおかずは何にしようかな)。

かてーむん 〈困ったこと/者〉 【例】うんぐとう しーねー ちゃー ないんでいる ぐとうん わからん、っやーや かてーむん やさ。(そんなことをすればどうなるかってことも分からない、おまえはやっかい者だ)。

かなーすん 〈噛む〉【活】かなーちゃん、かなーさん、かなーち 【例】むのー ゆー かな

ーちどう かむん どー。(食べ物によく噛んで食べるんだよ)。

かないん 〈叶う、達者である〉【活】かなたん、かならん、かなてい 【例】にげーぐとうぬ かなてい ゆるっとう などーん。(願い事がかなって安堵している)。あぬ うかたー くんじゅーん あまてい わかってーんぐわーっしなーだ かなとーみしえーさ やー。(あの方は90歳も過ぎて若々しくてまだ達者でいらっしやるね)。あれー くちびけーん かなてい ぬーん わからん どー。(あの方は口だけが達者で何もわからないよ)。

かなぎーん 〈まくしあげる〉【活】かなぎたん、かなぎらん、かなぎてい 【例】ちび かなぎーん。(裾をまくしあげる)。

～がなしー 〈最高の尊称〉 【例】うていん がなしーめー (天上様)、うかみがなしーめー (神様)、うすがなしーめー (国王様)、うやがなしー (親御様)、をうとうがなしー (旦那様)、とうじがなしー (奥様)、うていーだがなしー (お天道さま)、とーとーがなしーめー (お月さま)。【参】うちちゅーめー (お月さま)。

かなみ 〈要〉 【例】なーちゃー ちぶる やみーっし うきえーうーさん ないしやか くまんぢ にじくわい くとうわいしん かなみ どう やる。うぬくとー 「ぶりーどう かなみ」んでい いーん。(翌日に頭痛で起きれなくなるよりはここで二次会を断るのも肝心だ。このことは「無礼も肝要」と言う)。

かなみ 〈挨拶(交際上の要)〉 【例】ちゃー やっけー などーる っちゅぬ やーぬ めーまでい いちゆくとう、ぬばがてい かなめー かきてい ちゃーびーさ。(いつもお世話になっている人の家の前まで行くので、顔を出してあいさつして来ますね)。

かに 〈規範、常識〉 【例】とうし とういねー なんくる かにぬ はんでいーしが、うれ

ー たー やていん とうーいる みちどう やる。(歳をとると自然にもうろくするが、それは誰だって通る道である)。あぬ わかむのー ゆかいねー かに はんでいとーん。(あの若者はよほど常識をはずれている)。かにぬ はんでいーらー、そーらーしく はんでいーれー しむるむんぬ、わったー ぐわんくー たーりーや たらーがどう はちゃんてい がーはとーん。(もうろくするなら、それらしくもうろくすればよいものを、私の家の頑固親父はタラーが逝ったと我を張っている)。

かにーん 〈遮る〉【活】かにたん、かにらん、かにてい 【例】たーぶっくわぬ みじ たぶいるたみに かーらぬ みじ かにーん。(田んぼの水を溜めるために川の水を遮る)。うふあみさーに みちんかい くるまん ぬんくむる あたいぬ あなぬ あち、うかーさくとう ちなさーに かにてーたん／かにらっとうたん。(大雨で道に車も飲み込むほどの穴が空き、危険なのでロープで立ち入り禁止にした／されていた)。さわがしぐとうぬ あてい、じゅんさぬちゃーぬ ちなさーに かにてい なかんかい いららんぐとう しえーたん。(事件があって、警官が綱で遮って中に入れないようにしていたのを目にした)。

かにてい 〈以前〉 【例】かにていからぬ うむいぐとう にげーぐとうぬ かないん。(以前からの願い事がかなう)。

かぬち ぼー 〈雄綱と雌綱を抜き通す棒〉 【例】ちなふいちぬ かぬちぼーや をうーんなとう みーんな ぬちゆる ぼー やん。(綱引きの頭貫棒は雄綱と雌綱を抜き通す棒だ)。

かねーらすん 〈かなえるように仕向ける〉 【活】かねーらちゃん、かねーらさん、かねーらち 【例】どーでいん わん うむいるぐとう にげーぐとう ちちくいみそーち かねーらち くいみそーり。(どうか私の思うように願いごとを聞き入れて、かなえさせてください)。

かば かじゃ 〈芳香〉【例】あんし かばかじゃ そーる かばーぐわーや ぬーんでいーる むん やが?(あんなにいい香りのする香水は何というものですか)。

がふあさー 〈強情者〉

がふあ みかすん 〈ごつんと打つ〉【活】〜みかちゃん、〜みかさん、〜みかち 【例】こーさー がふあみかすん。(げんこつの先でごつんと打つ)。【参】那覇では「こーさー くわーすん」とも言う。

かま 〈かまど〉【例】んかしえー まぎいし みーち うちきてい かま ちゆくてい た むん めーさーに むぬ にちよーたん。うぬ みーちぬ いしから しむぬ うかみがなし ーんかい 「うみちむん」でいーる なー ち ちやしが、なまー 「ふいぬかん」でい いち ちよーん。(昔は大きな石を3つ置いてかまを造って薪を燃やしてものを煮ていた。その3つの石から台所の神様に「うみちむん」という名が付いたが、今は「火之神」と呼んでいる)。

がま 〈洞窟〉【例】うちなぬ がまぬ なーかんかえー なまん にんとーる っちゆぬ ふにぬ あいびーん。(沖縄の洞窟のなかには今も眠っている人骨があります)。いくさぬ ばんじねー むる がまぬ なーかんかい くわっきとーたん。(戦争の最中にはみんな洞窟のなかに隠れていた)。

がまく 〈腰〉【例】はちゃー がまく(蜂のような大きな腰)。

かまじー 〈麻袋〉【例】はる さーぬ すーや ぬーんくいーん かまじーんかい いってい あっちよーたん。うふあみぬ ふたんでーまん、みじん たまらん、かーらちゆしん ふえーさん、うれー がっさくとう いっぺー るーむん やんでい。(農夫のおじさんは何でもかんでも麻袋に入れていた。大雨が降ったとしても、水も溜まらない、乾くのもはやい、それは軽いので、それはとてもすぐれものって)。

かまじし 〈無愛想〉【例】あんし かまじし くーてい われー ぢらん ねーらん、たーがが ありが とうじ ないら?(あんなに無愛想にして笑い顔もない、いったい誰があの人の妻になるのか)。あまぬ すーや かまじし くーやー なてい、っんまんぢえー こーいぶしこー ねーらのー あしが、ちかさくとうどう こーいる。(あちらのお父さんは無愛想なので、そこでは買いたくはないが、近いので買うのだ)。

かまじえー 〈こおろぎ〉【例】あち ない ねー、まーんかい をういが すら わからん しが、かまじえーぬ やしちぬ あまくまをうてい なちよーしが、つくわむやー うた ち ちよーるぐとうどう あっさー。(秋になると、どこにいるのかわからないが、こおろぎが屋敷のあちらこちらに鳴いているけど、子守唄を聞いているようだね)。

かまち 〈頭の卑語、(釘・鎌の柄・鍬の柄の頭)〉【例】かまち/ちらかまち/かくじ(頭/顔面/顎)。やなぐとう そーる っちよーまーがな ちらかまちぬ わっさん。(悪いことをしている人はどこか面構えが悪い)。

かまらさー 〈気難しい者〉【例】あれー どうく かまらさー なてい ふいれー ぐるさん。(あの人はあまりにも気難しくて付き合いにくい)。

かまんだ 〈大釜の蓋〉【例】しんめー なーびぬ ふたんかい 「かまんだ」んでい いーしが、うぬ なーべー っんむ にちやい、むーちー っんぶちやい、うゆうえーぬ うしーむん にちやい すし やん。(大釜の蓋を「かまんだ」と言うが、その釜は芋を煮たり、餅を蒸したり、お祝いのお吸い物を煮たりするものだ)。

かみ 〈神〉【例】かみうすりー しえー、むんなれーぬ むとう。(神を敬うことは礼儀作法を身につけるための第一歩)。かみふとうき やていん にげーや ちちゆん。(神仏でも

願いは聞いてくださるのに、人間のあなたが聞いてくれるのは当然だ。

かみ あしやぎ 〈村の神を祭ってある建物〉

【例】むらぬ うかみがなしーぬ めんしえーる かみあしやぎぬ めーんかい かみんちゆぬ むる すりてい むらうくしぬ まちりすん。(村の神様がいらっしゃる建物の前で神人がみんな集まって村興しの祭りをする)。

かみ だーり／かみ がかい 〈神がかり〉

【例】さーだか っんまれー ちぢぬ みちあきーるまでー うかみがなしーからぬ しらしぐとうぬ あてい かみだーり／かみがかいすん。(霊高生まれの人は神の道を明け開くまでは神様からの知らせごとがあって、神がかりを経験する)。

かみ にげー 〈神頼み〉 【例】っちゆにん

ぢんでい いーしえー、どうーぬ っういーにあていから かみにげー する むのーあらん、まるふいーじーからぬ かみにげーぬ どう かなみ やる。(人間というのは、自分の身の上に降り掛ってから神頼みするものではない、平生からの神頼みが肝心だ)。

かみーん 〈頭に乘せて運ぶ、おしいただく、

角で突き上げる〉【活】かみたん、かみらん、かみてい 【例】むぬ かむる ばすねー うめーし かみていから かでい、ちゃーや ちゃーぢゃわん かみていから ぬむし やん。(ものを食べるときにはお箸を頭上におしいただいてから食べ、お茶は湯のみ茶碗をおしいただいてから飲むものだ)。かみやー うし (よく人を角で突き上げる牛)。

かみ あちねー さー 〈商品を頭に乘せて

売り歩く者〉 【例】んかしえー くるまぬ ねーらんたくとう、たーれーんかい いゆ、もーもーぐわー、がにんでー いってい うてい あっちゆる かみあちねーさーぬ をうたん。(昔は車もなかったなので、頭上のたらいに魚、貝、蟹などを入れて売って歩く行商人がいた)。

かみ さし 〈男性用のかんざし〉 【例】う

いきがー かたかしらんかい かみさし さ

ち、ういなごー からじんかい じーふあーさちゃん。(男性は髪結いにかんざしを差し、女性は結髪にかんざしを差した)。

かみらりーん 〈胃けいれんで苦しむ〉【活】

かみらりたん、かみらりらん、かみらりてい 【例】かみらりやー (胃けいれん)。いー かみらってい ゆながた／ゆーあきどうーしー にんだらんたん。(胃がけいれんして夜／夜通し眠れなかった)。

かむいん 〈かまう、干渉する、世話する〉【活】

かむたん、かむらん、かむてい 【例】どうーくる かんげーてい ないる うっさー すくとう、かむてー くいーんな よー。(自分で考えてできるだけはするので、干渉しないでくれよ)。うとうすえー、ながぬち みしーるたみ、どうーぬ くとー どうーくる しみそーらち、どうく かむらんしぬ まし。(お年寄り、長生きするには、自分のことは自分でなさるようにして、あまりかまわないのが良い)。あまぬ やーや をうとうぬどう じのー かむとーん どー。あまー ういきが じゅーてーやさ やー。(あの家は夫が金銭のやりくりをしているよ、やりくり男性ってところだね)。じのー たーが かむとーが? ういなぐぬ わんがどう かむとーん どー。(金銭のやりくりは誰がしているの? 女の私がやりくりしているよ)。ありとー かむてー ならん どー。(あの人とはかかわってはいけないよ)。

かむん 〈食べる〉【活】かだん、かまん、かでい

【例】そーぬぎ がみ (ががつ食べること)。やーさ がみ さくとう ちーちーかーかーそーん。(お腹をすかせて食べたので、のどにつかえている)。あつた がみ さーに いーやいふーなー そーっさー。(急に食べて胃がおかしくなっている)。どうく かみぢゅーさぬ、いーぬ うどうるちよーん。(食べ過ぎて、胃が驚いている)。しえーしんっし かみ よー。(おかわりして食べてね)。かむる うっさー みー ないん。(食べる分だけ健康になる)。

むぬ かむんでいどう あさふえーくから はたらちよーん。(食べるために朝早くから働いている)。ぬーが まーこーねーらんどー ある め？ つやーや かまらん かみー そーしが。(どうしたおいしくないのか。あなたは嫌々ながら食べているが)。わたどう みっちよーる め？ うれー しかんどー ある め？ つやーや かまらん かみーっし。(もうお腹いっぱいなのか。嫌いなのか。あなたはしぶしぶ食べているが)。

かみ はんすん〈食べ損なう〉【活】～はんちゃん、～はんさん、～はんち 【例】くわっちーじぶんに くーららん なてい、まーさむん かみはんちゃん。(ごちそうの出るあたりに来れなくなって、おいしいものを食べ損なった)。
かみ ぶらーり〈栄養失調〉【例】いくさばんじえー つくわ うーふあっし ふいんぎまーい すしどう ぬちかぢり やたる、わらびんちゃーや かみぶらーりっし やんめーかかいしん まんどーたんでい。(戦時中は子をおぶって逃げまわるのがやっどだった、子どもたちは栄養失調になって病気になるのも多かった)。

かめーいん〈拾う、捜し求める〉【活】かめーたん、かめーらん、かめーてい 【例】たーがくぬ じんぶくる かめーたが？(誰がこの財布を拾ったの)。「なー とうじ かめーていー？／*とうめーていー？」「なーだ かめーやびらん どー」(「もう妻を迎えたか」「まだですよ)」。かめーい むん／とうめーい むん(拾い物)。はさのー まーんかい なちやが かめーてい／とうめーてい むっちくーわ。(鉢はどこにおいたか、探して持って来なさい)。ちやーしん ねーらんとー ならんくとう、あまくまぬ まちや みぐてい かめーてい／とうめーてい んーでい よー。(どうしてもないといけないので、あちこちの店をまわって探してみてね)。【参】とうめーいん。

かや ぶち やー〈茅葺きの家〉【例】なまー かやぶちやー んーだらん などー

ん。(今は茅葺きの家は見えなくなっている)。

かやーすん〈持ち運ぶ〉【活】かやーちゃん、かやーさん、かやーち 【例】くるまぬ いきらさる じでーや やーうーちー する ばすねー うっさぬ どーぐ やーにんじゅさーにいくけーぬん いちむどういっし かやーちよーたん。(車の少ない時代は引越すときにはそんなにたくさんの家財道具を家族で何度も行ったり来たりして持ち運んでいた)。

から～〈からっぽ、中味のない〉

から ぢゃー〈茶請けなしの茶〉【例】いすぢよーくとう、からぢゃーびけーっし ゆたさいびーさ。(急いでいるので、お茶だけでかまいませんよ)。つやーや ちゅーらー ちゅーんどーんち いれー しむる むんぬ、あつたに ちゅーくとう からぢゃーびけーんどーあさ。(あなたは来るなら来ると言えばいいのに、突然来るのでお茶だけしかないよ)。

から ふいさ〈裸足〉【例】なまー からふいさっし あっちゆる っちよー をうらん などーしが、しょーわ じゅーぐにんねーからふいさー はっとう する さだみぬ っちんぢていん、たむらぬ っちよー からふいさーっし あっちちち、なーふあんかい いーねー あしぢや／さば くだんでい。(今は裸足で歩く人は居なくなっているが、昭和15年に裸足取締規則が発令されても、他の村の人は裸足で歩いて来て、那覇に入ると下駄／草履を履いた)。「んかしえー まーまでいん からふいさーっし あっちよーたくとう、ふいさぬ わたー ぞーぬ かーぬ ぐとう やてい、かんからーん ふいさっし たっぴらかちよーたんでい。(昔はどこまでも裸足で歩いていたので、足の裏は象の皮膚のようで、空き缶も足でペシャンコにしたんだ)。

から 心に〈骸骨〉【例】いくさから ななじゅーにん たっちん、なま ちきてい ぢーぬ なーかんかえー みたまぬ からふにぬうほーく ぬくとーん。(戦争から70年経っ

ても、現在でも地中に御霊の遺骨が数多く残っている)。

から ゆか 〈板の床〉 【例】んかしえーむしるん しかん、たたぬん ねーらんくとう からゆかんかい にんとーたんでい。(昔はムシロも敷かない、畳もないので、板の床に寝ていたって)。

がら 〈殻、空〉 【例】な一ぬ あまくまんかえー さんさな一ぬ がらぬ まんどーん。(庭のあちらこちらには蟬の抜け殻がたくさんある)。まーみな一 ばーきんかい いってい をうーやーに まーみぐる／がら うとうすん。(もやしをかごに入れて振って殻を落とす)。とういぐわ一ぬ し一ぬ がら などーん。(小鳥の巣が空っぽになっている)。をうーじがら(キビの絞りかす)、ふあーがら(下葉)。

から〜〈干、乾〉

から が一き 〈干上がること〉 【例】あまくま みち ちゆくたい、ホテル ちゆくたい、ゴルフじょー ちゆくたい さる たみに、みじぬ ながりぬ ちぢらってい かーらぬ からが一き そーん。(あちらこちら道を造ったり、ホテルを造ったり、ゴルフ場を造ったりしたために、水の流れが遮られて川が干し上がっている)。

から じゅすい 〈乾拭き〉 【例】しゅむちえー しまったいむんさーに すすんな よー、からじゅすいどう すん どー。(本は濡れたものでは拭くなよ、乾拭きをするんだよ)。

からいん 〈飼う〉 【例】しかいん からてい たちなちゆ しみてい わったー ユタていまや いったー はらり。(臆病犬を飼って遠吠えまでさせて、私たちユタの謝礼はあなたがたが払いなさい)。【参】返歌は、さわぢゆん(あわてる)。

からから一 〈酒の容器〉 【例】とーりていん い一けーりぐりさるぐとう、ちゆくらつとーる さき いらや一んかい からから一んで

い い一ん。(倒れてもこぼれにくいように作られている酒の容器を「からから一」と言う)。あていん からから一 ねーんていん からから一。(あっても「からから一」無くても「からから一」、借ら[借りてもいいか]とかけた言葉遊び)。

がらさ一、がらし 〈カラス〉 【例】がらさ一や いるから しがたかたちから さ一はご一さ一 あしが、いちむしぬ な一かをうてー じょ一むち やんでい いらつとーん。(カラスは色も姿も不気味であるが、動物のなかでは情が厚いと言われている)。がらさ一や やなくとう しらし する とういんでい いらつとーん。(カラスは悪い知らせをする鳥だと言われている)。タカぬ も一れ一 ガラシん も一ゆん。(鷹が舞うとカラスも舞う、人まねをするの意)。

からじ 〈髪〉 【例】【活】からじぎ一(髪の毛) ちかぐるぬ わかむんぬちゃーや どう一ぬ まし やる いるんかい からじ すみとーしが うふさん。(近頃の若者たちは自分の好きな色に髪を染めている人が多い)。

からじ くえ一 〈カミキリムシ〉 【例】からじくえ一や くにぶぬ き一んかい ゆていちャーに に一ぐい うちくわてい からすん。(カミキリムシはミカンの木に寄って来て根を食いちぎって枯らす)。

からじ ぶちか一 〈髪の毛の散らかっている様〉 【例】からじぶちか一 ほ一ちゆくとう、なま どうきと一ちみそーり。(髪の毛の散らかっているのを掃くので、今そばに寄っててください)。

からす一 〈塩辛〉 【例】くぬ からす一や あんし すーぢゆ一さる やー。(この塩辛はなんと塩辛いことか)。

からすん 〈貸す〉【活】からちゃん、からさん、からち 【例】「うり か一んかえ一 からし やーや ねーやびらんがや一?」「あつた一

や からしやー いくちん むっちょーん どー
 「この辺には貸家はありますかねえ」「あ
 ちらさんは貸しアパートをいくつも持っている
 よ」。っやー ちから からちとうらしえー。
 (あなたの力を貸してくれ)。

からすん 〈枯らす〉【活】からちゃん、からさ
 さん、からち 【例】らのー めーなち みじ か
 きーねー からすん どー。(蘭は毎日水をか
 けると枯らすよ)。

からみちゅん 〈からみつく〉【活】からみち
 ちゃん、からみかん、からみち 【例】くぬ そー
 じきや いーちゅーぬ からみちどう っんぢ
 ゆかん などーさ。(この掃除機は糸がからみ
 ついて動かなくなっているね)。

から むん 〈辛いもの〉 【例】どうく か
 らむん かみーねー ゆながたから みじ ぬ
 むん どー。(あまり辛いものをたべると夜に
 なって水を飲むことになるよ)。

からういーばち すん 〈吐き気を催し
 ながら吐けないでいる〉 【例】ふにんかい
 よーさくとう、ふねーぬ ちゅーさぬ、あとー
 からういーばちっし いーじる むどうちよ
 ーたん。(船に弱いので、船酔いがきつく、終い
 には吐き気を催しながら吐けないで胃液まで出
 てしまった)。

かりー 〈嘉例、縁起が良いこと〉 【例】た
 からくじ あたとーくとう いちまんゑん く
 いーっさ。っやーんかい かりー ちきてい
 とうらさ やー。(宝くじがあたっているので、
 一万円あげるよ。おまえに縁起をつけてあげよ
 う)。うぬ うかたが めんしえーる かーじ
 ちびなーりー うちやくぬ めんそーち み
 っっちゃかー ないぐとう かりーな っちゅ
 やみしえーん どー。(その方がいらっしゃる
 たびにお客が続きいっぱいになるので縁起の良
 い方でいらっしゃるよ)。ちかぐろー うゆう
 えーをうてー さき ちじに かみてい 「か
 りー」んでい いちよーん。(近頃はお祝いの

席では酒を頭上に上げて「嘉例(乾杯)」と言っ
 ている)。あかー するーぬ かるかんまんじ
 ゆーや ひゃーく ないる っちゅぬ うゆう
 えーからぬ ちとう やくとう かりーな む
 ん やさ。っやーん かめー。(紅白かるかん饅
 頭は百歳になる人のお祝いからの引き出物なの
 で縁起物だよ。あなたも食べなさい)。

かり いちや 〈スルメ〉 【例】かりいち
 やとう かってい さきぐわー ぬむしが、か
 りいちやー かなーすしんでー あじくーたー
 なたい やみららん。(スルメを着にして酒
 を飲むが、スルメは噛めば噛むほど旨味が出て
 やめられない)。

かりゆし 〈めでたいこと〉 【例】かりー ゆ
 しーん。(福を寄せつける)、かりゆし(招福)。
 かりー ゆしらち くいみしえーびり。(福を
 招いてください[祈りの言葉])。ぐわんたんから
 かりゆしぬ ちぢち うーぐとう やさ や
 ー。(元旦からめでたいことが続き、最高だね)。

がる むん 〈軽い物〉 【参】がっさん(軽
 い)。

かる わじゃ 〈軽い仕事〉 【例】くぬ
 しくちえー ちー ちかーんていん しむるく
 とう、かるわじゃ やん どー。(この仕事は気
 をつかわなくてもすむので、軽い仕事だよ)。

かわいん 〈変わる〉【活】かわたん、かわら
 ん、かわてい 【例】やーのー うーどうしから
 たちどうしんかい かわいん。(来年は卯年
 から辰年に変わる)。ちむんかい ぬくとーる
 っんまりじまぬ むる かわてい、うりとう
 まじゅーん あながちさるくとうん まーが
 なんかい とうでいっんぢやんねーっし いっ
 ペー ちむしからーさん。(心に残っている故
 郷がみんな変わって、それとと共になつかしい
 こともどこかに飛んで行ったようでとても心寂
 しい)。

かわい 〈変わり、代わり〉 【例】やーんから
 ー ありが かわいに くりが すん。(来年

からはあの人の代わりにこの人がする)。

かわい ぐとう 〈めったにあり得ないこと〉

【例】やまとうぬ にしをうてい はなちやる
はーペーるーぬ にしんキロぬ たびっし
うちなーぬ いりぬ はたぬ ゆなぐにまでい
とうでいちよーたんでいいる くとー いっペ
ー くくるうちゆる くとう やしが、かわい
ぐとうん あらん。(日本の北で放した蝶が二
千キロの旅をして沖縄の西端の与那国島まで飛
んできたということはとても感動的だが、めっ
たにあり得ないことでもない)。

かわい むん 〈変人〉 【例】エジソン や
ていん ガリレオ やていん うぬとうちえー
かわいむんでいち わらーつとーたしが、う
ぬっちゅぬちやーがどう しけー ししみてい
ちよーる。(エジソンでもガリレオでも当時は
変わり者だと笑われていたが、そういう人たち
こそが世界を進歩させている)。

かん 〈勘〉 【例】うぬ くとうば ていーち
さーに かん とういる はじ やしが、あれ
ー かぬん とうえーうーさんさ やー。(そ
の言葉一つで解るはずだが、あの人は空気読め
ないんだね)。っやー ちらぐわー んーぢぶ
さんでい うむとーたさ。わん ちむぬ かん
ぬ っやーんかい とうーとーてーさ やー。
(あなたの顔を見たいと思っていたよ。私の気持
があなたに通じたんだね)。

かん ちげー 〈勘違い〉 【例】っやーが
かんちげー そーくとう まっとーば はなさ
な やー。(あなたが勘違いをしているので、正
直に話すね)。なまぬ っちゅぬちやーや っち
ゅびれーぬ いきらく なてい、えーていぬ
ちむぐくる ちなぢえーうーさんくとう、かん
ちげー しーんーちやい、かんちげー さった
い するくとうぬ うふさんねー すん。(今
時の人たちは人付き合いが少なくなって、相手
の心をつなげることができないので、勘違いし
たり、勘違いされたりすることが多いようだ)。

かん 〈こう〉 【例】あぎじゃびよー。かん
なたる ばー む?(あれっ、こうなったのか)。

かん などーいびーさ。(こうなっていますよ)。

かん なたる っういーや しかたー ねーら
んさ。うみちれー。(こうなった以上は仕方ない
な。あきらめなさい)。

かんげーいん 〈考える、世話する〉【活】か
んげーたん、かんげーらん、かんげーてい 【例】
なー かんげー かんげーっし あんし ちび
らーしく なーぢゅくいぬ ないる。(それぞ
れの考えであんなに見事に庭造りができるんだ
ね)。ぬーがな するめーねー ゆー かんげ
ーていから しー よー やー。(何かする前
にはよく考えてからしなさいよ)。っやーさー
に かんげていくいり よー。(あなたでもっ
て考えてくれよ)。いふえー かんげーていく
いらに?/かんげーていくいらん なー?(少
しは考えてくれないか/考えてね)。わん ど
うーぬ かなーん ないねー、とうんじゃこー
っやーさーに みーかんげーっし くいり
よー。(私の体がかなわなくなったら、看病はあな
たでもって世話してくれよ)。みーかんげーっ
し くいみそーり よー。(ご指導をお願いします
ます)。

がんしなー 〈(頭にのせて運ぶために物の下
に敷く)クッション〉 【例】ちぶるんかい む
ぬ かみーる ばすねー 「がんしなー」 う
ちきーん。(頭に物を乗せて運ぶ際には「がん
しなー」を置く)。しーくわーうい ぶちだん
かい うさぎーるばすねー けーりんくるびん
さんぐとう がんしなー ちかてい うちき
ーん。(スイカを仏壇にお供えする際には転ば
ないように「がんしなー」を使って置く)【参】
しーくわーうい、くわんとーうい(スイカ)。

かんじゃー やー 〈鍛冶屋〉 【例】ん
かしえー みじ いりやー、くみ いりやーん
でー かんじゃーやーんかい あちれーてい
ちゅくらちよーたしが、かーん かーん かー
ぬん ちかららん なてい ちかぐろー かん
じゃーやーや んーちえー んーだん やー。
(昔は水入れ、米入れとか鍛冶屋に注文して作ら

せていたが、カーンカーンカーンという音も聞かれなくなって近頃は鍛冶屋は見なくなっているね)。

がんじゅー 〈頑丈〉【例】がんじゅーむんぬどう くふあどーり する。(丈夫な者ほど急な病で倒れる)。くぬ やーや あんし がんじゅーぎさ ちゆくてーる。し、ぐじゅーにん びけーや ちゃーん ねーんさ。(この家はなんと強固そうに造られていることか。4、50年ほどは何でもないね)。

かんすい 〈カミソリ〉【例】わったーが わらびぬくろー かんすいさーに ゑんぴつん とうぢゆたしが、なまぬ わらびんちゃーや ならん やー。(私たちが子どもの頃はカミソリで鉛筆を研いだが、今の子どもたちはできないね)。ありが くちえー かんすいぬ ぐ とうどう あん どー。(あの人は口達者で歯切れがよいね)。どうく くちがんすい ない ねー、まるく をうさまいしん をうさまらん ないん。(あまりおしゃべり過ぎると、まるく 収まるのも収まらなくなる)。

かん すん 〈こうする〉【活】～さん、～さん、～っし【例】じんぶん あいぎさー やしが じんぶんぬ ねーらん、ふいぢゃいんかい みぐらち ならんらー、つういーんかい ふ いっぱいどう すさ。くれー かんどう すさ。(物わかっていそうだが知恵がないね、左にまわしてだめなら、上に引っ張ることさ。これはこうするんだよ)。

かんぢゅん 〈被る〉【活】かんとん、かんだん、かんでい

かんしーん 〈被せる〉【活】かんしたん、かんしらん、かんしてい【例】ぼーし(ちぶる かんぢむん) かんてい いけー。(帽子(あたまに被るもの)をかぶって行きなさい)。なー ふうーく などーくとう、にんぢゅる ばす ねー ふとん(かんぢむん) かんてい にん でー。(もう寒くなっているの、ふとんをかけ

て寝なさい)。ちゅぬ やなぐち うんじょー くちかんとーいびーん どー。(人から悪口をあなたは浴びせられていますよ)。うっか かんとーん。(借金がある)、うっか かんぢやー(借金持ち)。ふかー ていーだぬ くわ らくわらっし あちさくとう、ぼーし かんしれー。(外は太陽がかんかんして暑いので、帽子を被せなさい)。

がんどういん 〈元気がなくなっている〉【活】がんどうたん、がんどうらん、がんどうてい【例】くじゅまでー がんじゅーぎさたる むんぬ、あれー ちゅーちゃんなかいに(=たでーま) がんどうとーんねー すん やー。(去年までは健康そうだったのに、あの人はあつという間に元気がなくなっているようだね)。

かんとう 〈髪 of 卑語〉【例】どうく かじぬ ちゅーさぬ、かんとうばーばー そーっさ。(あまりに風が強くて髪が乱れているよ)。
かんとう むしーん 〈髪をむしる〉【活】～むしたん、～むしらん、～むしてい【例】うい ながぬ おーえーや かんとう むしえー すん。(女子のけんかは髪をむしりあいをする)。

かんない 〈雷〉【例】かんないぬ ないねー、 てんぶす とうらってー ならんでいち、ちちよーる ちんさーに わた うすいたん。(雷が鳴ると、ヘソを取られてはならないと、着ている着物でお腹を隠したものだ)。

かんぬー 〈肝要〉【例】うやふあーふじからぬ ゆじり うきちぢゅる たみねー、しまくとうば ふいるみーる くとー いっぺー かんぬー やん。(祖先からの伝統を受け継ぐためには、しまくとうばを普及することがとても大切だ)。

かんぬ むし 〈癩の虫〉【例】ゆーる なちぶさーんかえー、 かんぬ ちゅーさる わらび やくとう、かんぬ むしぬ をうんでい むしぐすい ぬますたん。(夜泣きする子

には癩が強い子だから、癩の虫がいるとって虫薬を飲ませたものだ。

がんまり 〈いたずら、いじくりまわし〉【例】
っちゆぬ からじ ひっぱたい、っちゆぬ むぬ いーよー ねーびさい、ゆくし むにー
いちゃいっし がんまり すな けー。(人の髪をひっぱったり、人のものの言い方を真似たり、嘘を言ったりしていたずらするな)。どうす

い やくとうんち わちゃくんな けー／がんまりすな けー。(年寄りだからとってふざけるな)。みーぬ がんまれー しん、ていーぬ がんまれー すな。(見るだけはいくら見ても、手でいじってはいけない)。てーしちな んーぢむのー ていーぬ がんまり しえー ならん。(大切な展示ものは手を触れてはならない)。

き、ぎ

きー 〈木〉 【例】 いったー やーぬ なーや

きーん みーとーみ？(あなたの家の庭は木も生えているか)。あれー はるん なーぬ くさん もー なち あしどーん。(あの人は畑も庭の草も伸び放題にして遊んでいる)。うちなーや うほーくぬ まぎきーぬ いくさんかい さってい、なまからー あまくま まぎきーぬ ふいるまいし まちかんでいー やん。(沖縄は多くの大木が戦争でやられて、これからはあちこちで大木が広まるのが待ち遠しい)。きーぬ しちやー しだどうくる なてい あちまてい はなしむんがたいんっし、あとーにーぶいまでい そーん どー。(木の下は涼しいところで集まって話をし、しまいには眠くなるよ)。きーぬ たまゑー さき かきれー のーいん。(木のたわみは酒をかけると直る)。きーぬ まがゑー ちかーりーしが、ちちゆぬ まがゑー ちかーらん。(木の曲がりには使い道もあるが、人の心の曲がりには使えない)。

きー うーし 〈木白〉 【例】 きーうーしとう きーぢちやーや ぐー やてい、むるさーなとーし にーてい むち ちゆくいんしんかい ちかいん。(木白と木槌はセットで、固まりになっているのを練って餅をつくるのに使う)。

きー かし 〈木屑、おがくず〉 【例】 あみぬ ふいねー みちえー どうるぶちやーなたくとう、しんでいらんぐとう ぐえったいんかい きーかし ほーいねー あっちやっきたん。(雨が降ると道は泥こになったので、滑らないように泥におがくずを撒くと歩きやすか

った)。

きー くさ 〈木草、植物〉 【例】 なーや きーくさぬ うふさしえー ましえー やしが、ほーちかちんでーぬ わじやぬ うふさぬ やっけー やん。(庭は木草が多いのはいいが、ほうき掃きなどの仕事が多くて大変だ)。

きー じーふあー 〈木製かんざし〉 【例】 るーちゆーをーくくぬ じでーねー はるさーや きーじーふあーとう かーみなくーじーふあー やたん。(琉球王国時代には百姓は木製かんざしとべっ甲かんざしだった)。

きー じえーくー 〈大工〉 【例】 なまーコンクリートやー ちゆくいる ちちゆぬ うふく なてい、 きーじえーくーん かーらじえーくーん しくちぬ いきらく なてーをうらんがやー？(現在はコンクリート建てを造る人が多くなって、大工も瓦職人も仕事が少なくなっていないのかなあ)。

きー じょー 〈木の門〉 【例】 やーぬ じょーんかえー いしじょー、きーじょー、やーじょー、あかばなーぬじょーぬ あん。(家の門には石門、木製の門、屋根付き門、ハイビスカスの門がある)。

きー ぢり 〈木切れ〉 【例】 やちっんむすくとう めーする きーぢり あちみてい くーわ。(焼き芋をするので燃やす木切れを集めておいで)。

きーぬ しん 〈木の芯〉 【例】 くぬ まーちえー きーぬ しんぬ むしんかい くわーってい あかー なてい かりとーん。(この松は木の芯が虫に食われて赤くなって枯れてい

る)。

きーぬ また 〈木の股〉 【例】うちなーをうてー うや すそーん する っちゅんかえー きーぬ またから っんまりたんでい いーん。(沖縄では親不幸をする人には木の股から生まれたと言う)。

きー びさー 〈竹馬〉 【例】わらび そーいに どうーくる きーびさー ちゅくてい かたふいさ けんけんし あしだん。(子どものころに自分で竹馬を作って片足跳びして遊んだ)。

きー まっくわ 〈木枕〉 【例】んかしえー やーちゅくい さる あとうぬ ぬくとーる きーさーに きーまっくわ ちゅくとーたしが、ちゅくてい ちゃーきやか なげー ちか とーていどう かどうぬ どうりてい ちぶる からぬ ちーあんだぐわーぬ たっくわてい そーまっくわ ないん。(昔は家造りした後の残っている木で木枕を作っていたが、作ってばかりより長く使っていてこそ角が取れて頭からの地肌油が付いてりっぱな枕になる)。「きーふーぞー」や きーっし ちゅくらとーる たばくいりー やしが、ふたぬ っういーや くぶまち きーまっくわ ないん。「きーふーぞー」は木製のタバコ入れだけど、蓋の上はへこまして木枕になる)。

きー むっくー 〈つぼみ〉 【例】きーむっくーぬ まぎく などーくとう、あちやー あさていねー はな さちゆる はじ。(つぼみが大きくなっているので、明日あさってには花が咲くだろう)。

きーうい/ういぐわー 〈きゅうり〉 【例】なーふあをうてー とうんじーじゅーしー うさぎーる ばすねー、かたじー しえー ならんくとう、ういぐわーぬ えーむんとう みーとうぐーとうー なち うぐわんすんかい うさぎーん。(那覇では冬至雑炊を供える際には、片方だけにしてはならないので、きゅうりの和え物と対にご先祖に供える)。

ぎーたー 〈片足〉 【参】かたふいさ。

きー ぶり だちやー すん 〈鳥肌が立つ〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】はるぬ くさ とういに にんとーる はぶ やがてい さーゆたくとう、きーぶりだちやー さん。(畑の草取りに眠っているハブをやがて触るところだったので、鳥肌が立った)。ちゅとう まっち うきたる だいがくしけん とうーたる とうちねー、どうく うっさぬ きーぶりだちやー さん。(一浪して大学入試に受かったときにはあまりにも嬉しくて鳥肌が立った)。おーぐらしんみーんかい まやーぬ みーびかー ふいかてい むちよーたくとう きーぶりだちやー さん。(真っ暗闇の中に猫が目だけが光って座っていたので身の毛がよだつ思いだった)。**【参】**きーぶりだち(毛の群れ立ち)、ぶりにんじゅ(群衆)、ていんぬ ぶりぶし(天の群星)、ぶりんま(群れをなす馬)。

きー まー 〈毛深い者〉 【例】きーまーとう きーもー/きーびすーぬ をうしが、きーまーや どうーがんにじゅーんでい ちちやるくとうぬ あん。(毛深い者と毛が無い者/毛が薄い者がいるが、毛深い者は健康だと聞いたことがある)。

きーん 〈蹴る〉【活】きっちゃん、きらん、きっち 【例】がっこーから けーやがちー むーくる いしぐわー きっち あっちゅたん。(学校からの帰りによく小石を蹴って歩いたものだ)。どうーちゅいっしん サッカーボール きっち めーにち れんしゅー そーたくとう、あれー いるんな きーわじゃ むっちよーん。(自分ひとりでもサッカーボールを蹴って毎日練習していたので、あの人はいろんな蹴り技をもっている)。みちぬ かんからーやうかーさくとう ふいささーに きっち どうきなしえー。(道の空き缶は危ないので、足で蹴ってかたづけなさい)。

きじむなー 〈木の精〉 【例】きじむなーぬ しちゅしえー いゆ、くとうに いゆぬ みんたま、しかんしえー たく、っちゅぬ ふい

一、とういぬ なちぐいー やんでい いらつとーん。(キジムナーが好きなのは魚、そのなかでも魚の目玉、嫌いなのは蛸、人間の屁、鳥の鳴き声だと言われている)。きじむなーや きーぬ しー やてい、きじむなーんかい うさーりーねー っんぢゆからん、くいーん っんぢらん なてい どうーにー すん。うさーたっさーんでい うむたる とうちに うみちとう ちから いらーねー ちゆばちに うぬさーいから はんでいーんでい。(キジムナーや木の精で、キジムナーに押さえつけられると動けない、声も出なくなってしまう。押さえつけられたと思ったときに思い切り力を入れると一気にその障りから外れるって)。

ぎぢゃー 〈意地の悪い女〉 【例】ぎぢゃーないねー やなかーぎー ないくとう、ちゃー わらりんてい いらつとーたん。(意地悪になったらブスになるので、いつも笑顔でいなきさいと言われている)。

きぢゃーすん 〈かき混ぜる、かき回す〉【活】きぢゃーちゃん、きぢゃーさん、きぢゃーち

きぢゆん 〈混ぜる、攪拌する、中傷する〉【活】きぢゃん、きがん、きち 【例】いゆ にしみとーる とうちに きぢゃーしーねー みーぬくまきー ないん。(魚を煮染めているときにかき混ぜると身がくずれる)。

きच्चやき 〈つまずき〉 【例】「ぬーがふいちえーや あんし がーな めちよーる」「しちや ーだんぐとう あっちャーに いしんかい きच्चやきっし やまちゃん」「どうして額はこぶになっているの」「下を見ないで歩いて石につまずいて痛めた」。

きぶいん 〈煙る〉【活】きぶたん、きぶらん、きぶてい 【例】わったー やーぬ だてーんきぶとーしが、たんかーや ーをうていぬー めーちよーがやー?(私の家のかなり煙っているが、隣りは庭で何を燃やしているのかなあ)。

きぶし かじや 〈煙臭さ〉 【例】がじゃん くるすんでいち あまくまんかい かとりせんこー うちきたくとう やー いっペーきぶしかじやっし、あとー っちゆぬどう っういーほーらつとーっさ。(蚊を殺すといってあちらこちらに蚊取り線香を置いたので家中煙臭さが充満して、しまいには人間が追い払われているよ)。

きらま 〈慶良間〉 【例】っちゆぬ くとーゆー みーゆしが、どうーぬ っういーや わからんぬーんかい 「きらまー みーゆしが、まちげー みーらん」んでい いーん。(他人のことはよく見えるが、自分のことはわからない人に「慶良間は見えるが、まつげは見えない」と言う)。さちぎちぬ くとうびけー かんげーてい、なまー ちゃー などーが ゆめーうーさんぬーんかい 「きらまー みーゆしが、まちげー みーらん」でいん いーん。(先々のことばかり考えて、今はどうなっているのかを読めない人に「慶良間は見えるが、まつげは見えない」とも言う)。

きり〜〈蹴り〜〉

きり くわーすん 〈蹴りあげる〉【活】〜くわーちゃん、〜くわーさん、〜くわーち 【例】すぐたい、きりくわーちやい すくとう、レスリングぬ すーぼー ーぢぶしこー ねーらん。(殴ったり、蹴り上げたりするので、レスリングの試合は見たくない)。

きり けーらすん 〈蹴り返す〉【活】〜けーらちゃん、〜けーらさん、〜けーらち 【例】しまとうやーが どうーやか まぎさる っちゆきりけーらするわじゃん むっちよーくとう、しまー ーぢゆしえー ぬーぬ まーさむん かむしやか まし やん。(相撲取りが自分よりも大きい人を蹴り返す技も持っているので、相撲を観るのはどんなおいしいものを食べるよりもいい)。

きり とうばすん 〈蹴り飛ばす〉【活】〜とうばちゃん、〜とうばさん、〜とうばち 【例】さかから ながりてい ちゆーる ボール きり

とうばちやしが、っちゆぬ やーぬ がらす
わていねーらん。(坂から流れてくるボールを
蹴飛ばしたのだが、人の家のガラスを割ってし
まった)。

きりりん ばんばん 〈取っ組み合いのけ

んか〉 【例】くわーくわー そーしが、なま
にん／いふいぐわーしーねー きりりんばんば
んぬ はじまいん どー。(言い争いをしてい
るが、今にも／少しすると取っ組み合いのけん
かが始まるよ)。

く、ぐ

く いけーし 〈繰り返し〉 【例】 っやーや
ちやー めぬ くいけーしびけー すくとう、
めーねー あがかんさ。(あなたはいつも同じ
ことの繰り返しばかりするので、前には進まな
いよ)。

く いじ 〈恋路〉 【例】 っちゆぬ くいじんか
い ふえーりんちゆる むのー あらん。(人
の恋路に入り込むものではない)。

く いまーすん 〈やりくりする〉 【例】 あ
ぬ っちょー っちゆぬ やーぬ ていがねー
さい、うやぬ ていがねー さいっし じん
ゐーてい、ちゃーがな くいまーちょーん。(あ
の人は人の手伝いをしたり親の手伝いをしたり
して、お金をもらって、どうにかやりくりして
いる)。

く ー 〈穴〉 【例】 わらび そーいに「なーびな
くー」んでい いち まーていあっちゆる
っちゆぬ をうてい、っんまをうてい どーぐ
ちかてい たでーま のーすたん。(子ども
の頃「なーびな くー!」といって廻って歩く
人がいて、その場で道具を使ってすぐさま(鍋
を)補修したものだ)。

く ー すん 〈繕う〉 【活】 くーちゃん、くー
さん、くーち 【例】 っやー ちのー やりと
ーくとう くーしえー。(あなたの服は破れて
いるので繕いなさい)。【参】 やりいん(やぶれ
る)、やんぢゆん(壊す)、やんでいーん(こわ
れる、破損する、破談になる)。

く ー 〈粉〉 【例】 ていんぷらー すくとう
むーじなくーんかい くーがぐわー いてい

あーち まーに。(天ぶらするので、小麦粉に
卵入れて混ぜてごらん)。

く ー ぐすい 〈粉薬〉 【例】 くーぐすえー
ぬみぐりさくとう なまー ちぶぐすい な
とーん。(粉薬は飲みにくいので、現在は粒薬に
なっている)。

く ー 〈籠〉 【例】 なまー しえーならんしが、
あまくまぬ やーんかい そーみなー くーぬ
あてい、そーみなー ちかなとーたん。(今は
してはいけないことだが、あちらこちらの家で
メジロ籠があって、メジロを飼っていた)。

く ー 〈甲〉 【例】 かーみぬ くーやか とう
しぬ くー。(経験・歳の功は学問に勝る)。

く ー 〈コツ〉 【例】 がに とうったい、たく
とうったい すしんかえー くーぬ あん。
(カニを捕ったり、たこを捕ったりするにはコツ
がある)。

ぐ ー 〈連れ、仲間〉 【活】 ゆいぬ むん(同類)
を参照 【例】 くりとう でーくにしりーしり
ーとー ぐー やっさ やー。(これと大根お
ろしは合うんだね) 。ういぐわーとう すだ
こー ぐー やくとう、えーむん しーねー
まーさん どー。(キュウリと酢ダコは合うの
で、和え物にするとおいしいよ)。あつたーや
ぐー などーん。(あの二人は仲間/相棒だ
よ)。ちゆい、たい しえー ならんくとう や
ていん、ぐー なてい っんぢゆちーねー っ
んぢゆかんしん っんぢゆかする くとう な
いん。(一人、二人でできないことでも、団体

で活動すると動かないことも動かすことができる)。

くー〜〈小〉 【参】くーさん (小さい) からの派生。

くー あちさ 〈小暑〉 【例】くー あちさー、なー いふいぐわー しーねー あちくないる じぶん などーんではいる しらし やん。うちーなーぐゆみぬ ぐんぐわち じゅーはちにち、やまとうぐゆみぬ しちぐわち しちにち などーん。(小暑は、もう少しすると暑くなる時分になっている知らせだ。旧暦の5月18日、新暦の7月7日になっている)。

くー いゆ 〈鯉〉 【例】くーいよー んーぢゆる いゆ やてい かむる むのー あらん。(鯉は観賞用で食べるものではない)。

くーさ い 〈幼いころ〉 【活】=くーさるばす 【例】わんねー くーさいに どうーやふあらー やてい、うやんかい じこー しわしみたん。(私は幼い頃体が弱くて、親にさんざん心配させた)。くーさいにどう やてい、どうーぬ ういきがぬ うやぬ ちらん むるうびてー をうらん。(幼い頃なので、自分の父親の顔もまったく覚えていない)。

くー てーん 〈少し〉 【例】ちむ いふいなー なたしが、くるじゃーたー くーてーんくくたくとう、ましなたん。(気分が変になったが、黒砂糖を少し口に含んだので、よくなった)。くぬ しろー いふえー あふあさんねーそーくとう くーてーん まーす いっていまーに。(このおつゆは少し味が薄いようなので少し塩を入れてごらん)。

くー にー すん 〈小さく切って煮る〉 【活】〜さん、〜さん、〜っし 【例】ぶんぬ うさんみうじゅーぬ かていむん なーちゃ くーにー しーねー、いっぺー まーさん。(盆の重箱のおかずを翌日小さく切って煮ると、とてもおいしい)。

くー もーい すん 〈小躍りする〉 【活】〜さん、〜さん、〜っし 【例】たんかーぬ わらべー だいがくんかい かかてい くーもーい

そーたん。(向かいの子どもは大学に受かって小躍りしていた)。

くー われー 〈クスツと笑うこと〉 【例】うちあたっし くーわれー すたん。(思い当たることがあってクスツと笑った)。くーわれーや ういなぐぬどう する。(クスツと笑うのは女性の所作だ)。

くーいん 〈噛みつく〉 【活】くーたん、くーらん、くーてい 【例】まやーぬ っうえんちゅくーいん。(猫がねずみがかみつく)。いぬんかい くーらってい (犬に噛みつかれて)。ふいじゆる むのー はー くーいっさー。(冷たいものは歯にしみるね)。

くー やー 〈噛みつく者〉 【例】みみだい いんにどう っちゅくーやーや をうん どー。(おとなしそうな犬にこそ人に噛みつくのがいる)。

くーいん 〈請う〉 【活】くーたん、くーらん、くーてい 【例】ゆみ くーらってい にーびち さん。(嫁に請われて結婚した)。

くー やー 〈嫁のもらい手〉 【例】っやーや うぬ どうし なたい なーだ にーびちらん さんしが、くーやーや をうらんどーある む?(あなたはこの歳になってまだ結婚もしないが、貰い手はいないのか)。どうく うーまく ないねー、っやー くーやーや をうらん どー。(あまりおてんばすると、おまえの貰い手はいないよ)。くーやーぬ まんどーる っうえーだーどう ぼんじ やる。うり はんでいーねー ちゃー ないが すら やー?(嫁の貰い手がたくさんいる間こそ適齢期だ。それをはずすと一体どうなるのかなあ)。っちゅぬ やーをうてー むぬ ふさ しえー ならんくとう、あしどーていん むんぬ じぶん ないねー、やーんかい けーてい くーよー。(人様の家でもの欲しそうにしてはいけなから、遊んでいても食事時間になれば、帰っておいでよ) 【参】むぬくーやー (乞食)。

くーいん 〈閉じる〉 【活】くーたん、くーら

ん、くーてい 【例】ありが いちやい さい
 するくとうんかえー みーん くちん くー
 とーけー、あん しーねー なたやしく ない
 さ。(あの人が言ったりしたりすることには眼
 も口も閉じておきなさい、そうすればうまくい
 くもんだ)。ちちゆぬ うふさる とうくるを
 うてー ちちゆぬ みー くじてーならんくど
 う、かさー くーとーけー (人の多いところで
 は人の目を突いてはいけないので、傘は閉じて
 おけ)。うちなーをうてー るくぐわちにしゆ
 ーさんにちえー いくさゆーをうてい ぬち
 うとうちやる ちちゆぬちやー なぐさみーる
 たみに まふいるま いっぶんぬ っうえー
 だ みー くーいん。(沖縄では6月23日は
 戦時に命を落とした人たちを慰めるために正午
 一分間黙禱する)。

くーが 〈卵〉 【例】ほーとー くーが たー
 ちどう なすんでい。あんすくとう、ちちゆぬ
 たーちゆー なしーねー ほーとうんぐわぬ
 ぐとうどう なちえーる むんなーんでいん
 いーたんでい。(鳩は卵を2個産むって。それ
 で、人が双子を産んだなら鳩の子のように産ん
 でいるんだねとも言ってたって)。

くーが ふあーふあー 〈卵焼き〉 【例】
 くーがふあーふあー ちゆくいるとうちに み
 じか うしぬ ちーちー まんきてい やちー
 ねー くがりらん。(卵焼きを作るときに水か
 ミルクを混ぜて焼くと焦げない)。

くーが ぐる 〈卵の殻〉 【例】はーちっ
 ういーぬ きーくさぬ にーぬ まーいんかい
 くーがぐる いらい。

くーぎー 〈陰毛〉 【例】ういきがぬちやーや
 わちぎー すいる ちちよー をうがやー?
 をうらん はじ やー。(男の人たちは脇毛
 を剃る人は居るのか。居ないだろうね)。

くーしー むん 〈貧乏者〉 【例】いった
 ーや くーしーむんでいち わん うしえーと
 ーる はじ やしが、ちもー うふっうえーき
 んちゆどう やる。(お前たちは貧乏だと僕を

バカにしているのだろうが、気持ちだけは大金
 持ちなんだよ)。(【参】ふいんすー むん(貧乏
 者))。

くーしえー 〈手落ち〉 【例】あれー ぬー
 しみていん くーしえー ねーんくとう、ぬ
 ーぬ しわん ねーん。(あの人は何をさせて
 もちゃんとするので、何の心配もない)。

くーくえー すん 〈後悔する〉【活】～さ
 ん、～さん、～っし 【例】ぬーがな する ばす
 ねー あとうあとう くーくえー さんぐとう
 ゆー かんげーていから すし やん。(何
 かする時には後々後悔しないようによく考えて
 からするものだ)。

くーす 〈古酒〉 【例】くーそー ちゃっさ
 ぬでいん なーちや やなういー さんくとう
 どう くーす やる。(古酒はいくら飲んでも
 翌日は二日酔いしないからこそ古酒だ)。

くーすん 〈壊す〉【活】くーちゃん、くーさ
 ん、くーち 【例】ふるやー くーち、みーやー
 ちゆくたん。(古い家を壊して、新しい家を造
 った)。ちちゆぬ くるま くーち、じゃーふえ
 ー なたーさ。(人の車を壊して大変なことにな
 っている)。

くーぢー 〈公儀、公事〉
 くーぢー ぐとう 〈訴訟沙汰、公務〉 【例】
 くーぢーぐとう ないくとう かかわいる むの
 ー あらん。(警察沙汰になるので係わるもの
 ではない)。

くーぢー むち 〈公費持ち〉 【例】あれー
 すぐりむん やくとう、くーぢーむちっしどう
 ゆすぐにんかい をうん どー。(あの人は優
 秀なので、公費で外国にいるよ)。

くーとうー 〈～以外〉 【例】やなむん ん
 ーぢゆるくとう はんするたみに、ぼーじゃー
 ぬ ふいちえーんかい なーびぬ ふいんぐ
 なかいーびさーに なでいがなー 「あんまー
 くーとうー たーん んーだん、あんまーどう

んーぢゅん どー」んでいる まじねーぬ
あたん。(悪霊を見るのを外すために、赤児の額
に鍋の煤を中指で撫でながら「母ちゃん以外は
誰も見ない、母ちゃんだけを見る」という[夜
道を歩くときの]まじないがあった)。

くーとー 〈公平〉 【例】ありが するくと
ー たーんかいん ちゃー くーとー やくと
う、んなから あがみらっとーん。(あの人がす
ることは誰にもいつも公平なので、みんなから
尊敬されている)。

ぐーに 〈びっこ〉 【例】ぐーに／ねーぐ っ
し あっちょーしが ぬー さが?(びっこを
引いて歩いているがどうしたのか)。かたぐー
や さば くでい なー かたぐーや あしぢ
ゃ くでい ぐーにっし あっちょーん。(片
一方は草履はき、もう一方は下駄をはいてびっ
こして歩いている)。

くーばー 〈クモ〉 【例】っちゅぬ いっぢゃ
い っぢたいぬ ねーん とうくるんかい、
くーばーや やんだらんぐとう しー ちゅく
いん。(人が出たり入ったりがないところに、ク
モは破られないように巣をつくる)。しーんか
い アミリカぐちぬ じーぬ ぐとう かちゅ
る くーばーぬ をうしが、 ぬーんでい か
ちえーる むん やがやーんち ふいるまさっ
し んーちょーる わらびぬ をうたん。(巣
に米語の字のように書くクモがいるが、なんと
書いたのかと不思議に思っている子どもが
いた)。くーばーが しーや かむる むん
とういる しかき やん。たーがん ならーさ
んしが、どうーくる ちびらーしく ちゅくい
る くとうぬどう ふいるまさる。(クモの巣
は食べ物をつる仕掛だ。誰も教えないが、自
分でりっぱに作ることが実に不思議だ)。

くーび 〈ぐみ〉 【例】くーび かみーが ち
ゅーる とうい にんがきてい はぶぬ しが
とーくとう、くーび とういる ばすねー ち
ー ちきり よー。(ぐみを食べに来る鳥をめ

がけてハブが待ち構えているので、ぐみを採る
ときには気をつけなさいよ)。

くーぶ 〈昆布〉 【例】うさんみうじゅーんか
い いりーる むしびくーぼー かりーなむん
やてい、うやふあーふじとうぬ むしび、い
ちみとうぬ むしび、かりーぐとうぬ むしび
んでいる わきぬ あん。(重箱に入れる結び
昆布は縁起のいいもので、祖先との結び、親戚
との結び、縁結びという意味がある)。

くーりーん 〈崩れる〉【活】くーりたん、く
ーりらん、くーりてい 【例】うふあみぬ ふい
ねー、やまぬ んーぢゃ いしがちぬ くーり
てい うかーさん。(大雨が降ると、山の土砂、
石垣がくずれて危険だ)。

くーり じえーうえー 〈災い転じて福とな
ること、崩れ幸い〉 【例】しーやんていぬ
くとうどう やたしが、けーてい くーりじえ
ーうえーどう などーる。(仕損じたことでは
あったが、かえって幸いになっている)。

くーるー まーしえー 〈コマ回しの遊
び〉 【例】わらび そーいに ういきがん、う
いなぐん やーぬ めーをうてい たー く
ーるーぬ なげー みぐいがやーんでいる す
ーぶっし あしだん。(子どもの頃に男も女も家
の前で誰のコマが長く回るのかという勝負をし
て遊んだ)。

くがた 〈こちら側〉 【例】っやーや ふどう
まぎー やくとう くさーぬ っちょー み
ーらん、あがた なれー、っやーや くがたんか
い くーわ。(お前は体が大きいので後ろの人
は見えない、あっちになんなさい、お前はこっ
ちに来なさい)。

くがとー 〈こんな遠方〉【活】うがとー〈そん
な遠方〉、あがとー〈あんな遠方〉 【例】「く
まー まー などーが?」「うく やん どー」
「あん やみ? いーな くがとーんかい ち
ょーん なー?」「(ここはどこか)「奥だよ」「そ
うか。こんなに早くこんな遠くに来ているんだ

ね)。あがとーから うがとーまでい なんぢ
そーてい ちょーたる ばー なー？(あんな
な遠方からこんなところまで難儀して来ている
わけだね)。あがとーから めんそーちゃん
なー？(あんな遠方からいらっしやたんだね)。

くがに いーびなぎー 〈金の指輪〉【活】
なんじゃ いーびなぎー 〈銀の指輪〉、あかが
に いーびなぎー 〈銅の指輪〉

くがに じーふあー 〈金のかんざし〉
【活】なんじゃ じーふあー 〈銀のかんざし〉

くがに じえーく 〈金細工職人〉【活】か
んじえーく 〈鍛冶職人〉

くがにー 〈ミカンの一種〉【例】くがにーぬ
しるさーに ばさー あらいねー、かたくー
りん いるうていん さん、はだむちぢゆらく
ないん。(クガニーの汁で芭蕉布を洗うと、型
くずれも色落ちもしない、肌触りがよくなる)。

くがらすん 〈焦がす〉【活】くがらちゃん、く
がらさん、くがりち

くがりーん 〈焦がれる〉【活】くがりたん、く
がりらん、くがりてい【例】ごはん にーるば
すねー なまとー ちがてい にかしえー は
がま ちかとーたしが、ふいーぬ まぎく な
たい ぐまく なたい さくとう、みー はな
しーねー なんちち くがらすたん。(ご飯を
炊くときには現在とは違って昔は羽釜使っていたが、火が大きくなったり小さくなったりしたので、目を離すと焦がしたものだ)【参】「くがらちゃん」は過去(=発話以前)に起こった出来事について事実だと言い切っているが、「くがらすたん」では、発話の時点から過去に起こった動作を回想している。

くくいん 〈結ぶ、まとめる〉【活】くくたん、
くくらん、くくてい【例】うーび くくいしえ
ー、しーよーぬ あてい ちゆーさていん、よ
ーさていん ならん。(帯の結び方には、こつが

あつて強くても弱くてもだめだ)。うふかじぬ
ちゆーくとう ふかぬ にーや ちゆーく
くくとーけー。(台風が来るので外の荷物は強
く結んでおきなさい)。りえん さる むとう
みーとうぬ くちえー かーみ ていーちんか
い くくいん。(離縁した元夫婦の遺骨は甕一
つにまとめる)【参】くんぢゆん(括る)、くん
たばいん(束ねる)。

くくち 〈心地、気分〉【例】わさわさーっし
ちむぬ みるん。くくちぬ わささくとう、
けーら めー？(心が落ち着かない。居心地が
わるいので、帰るね)。

くくぬ たい 〈九人〉【例】ちゆい、たい、
みっちゃい、ゆったい、ぐにん、るくにん、しち
にん をうん どー。 はちにんめーや うい
なぐどう やしが、くくぬたいぬ ちょーでー。
(一人、二人、三人、四人、五人、六人、七人い
るよ。八人目は女の子だが、九人の兄弟)【参】
くくぬけーん(9回)、くくぬふあに(9羽)。

くくぬ とう ぐんじゆー 〈49〉
【例】かじぬ ゆみかたー、ていー、たー、みー、
ゆー、いち、むー、なな、やー、くくぬ、とう
ーまでい ちーねー、くりけーちていー、たー、
みー、…、やー、くくぬ、にんじゆー、ぬぬ
ぐとう ゆでい、…、さんじゆー、…、よんじゆ
ーなてい、うりから ていー、たー、みー、…、
やー、くくぬとうぐんじゆー、ぐんじゆー な
とーん。(数の数え方は、1、2、3、4、5、
6、7、8、9、10まで来ると、くり返して
1、2、3、…、8、9、20、同じように数
えて、…、30、…、40になって、それから1、
2、3、…、8、49、50になっている)。

くくむいん 〈つぼみを持っている〉【活】く
くぬたん、くくむらん、くくむてい【例】わつ
たー なーをうてい くくむとーる ちょーす
ん(=ばら)ぬ いちが さちゆが やら ま
ちかていー そーん。(私のうちの庭でつぼ
みを持っているバラがいったいつ咲くのか待
遠しい思いでいる)。

くくむい 〈つぼみ〉【例】わんねー あていなしむん やてい なーだ くくむいどう やいびーる。(私は未熟者でまだ蕾です)。

くくむん 〈口の中に含む〉【活】くくだん、くくまん、くくでい

くくますん 〈口の中に含ませる〉【活】くくまちゃん、くくまさん、くくむち【例】くすいぬむるとちえー さちに みじ くくでいからぬめー。(薬を飲むときは先に水を含んでから飲みなさい)。くれー ていーちどう あてい、ふかぬ っちゅぬ むのー ねーらんくどう、ふえーくなー くちんかい くくどーけー。(これは1つしかないの、他の人のはないので、早く口に入れておきなさい)。なちやまん わらべー ちー くくましーねー とうまいさ。(泣き止まない子はお乳を口に含ませると止まるよ)。はーやみーっし はししぬ はりとーくどう、あみぐわー くくどーるぐとーん。(歯痛で歯茎が腫れているので、あめ玉を口に含んでいるみたい)。

くくらき 〈胸やけ〉【例】どうく やーさぬ、そー ぬぎてい うほーく かまーに くくらきっし くちさたる くとうぬ あん。(あまりにお腹がすいて、我を忘れてたくさん食べて苦しかったことがある)。わらび そーいに くくらき する あたい っんむ かだしが、なまー っんむん たかく なたい、やーさがみそーたる あぬくるぬ あながちさん。(子どものときに胸やけするほど芋を食べたが、今は芋も高くなって、お腹をすかせて食べていたあの頃がなつかしい)。

くくりーん 〈注意する〉【活】くくりたん、くくりらん、くくりてい【例】はなしちん かからんぐどう、まーん やまさんぐどう、ゆーくくりり よー。(風邪もひかないで、どこもケガしないで、よく用心しなさいよ)。ぬーぐどうん うていちち くくりぬ ある っちゅ なり よー。(何事も落ち着いて注意深い人になりなさいよ)。

くくる 〈心〉【例】なさきぬ ねーん っちゅー っちゅにんぢんぬ くくろー まーんかい むっちゅーがやー？(情のない人は人としての心はどこに持っているのかね)。あれー くくるむちぬ ゆたさん やー。(あの人は気が良いね)。あれー ちむなさき／ちむぐぐるぬ ねーん。(あの人は情け／心がない)。

くくる がきーん 〈心がける〉【活】～がきたん、～がきらん、～がきてい【例】うふっちゅないねー ぬー すし やていん くくるがきてい さんねー ならん どー。がくむぬん わじゃん あん やん どー。(大人になると何をするのも心がけてしなければならない。学問も技術もそうだよ)。

くげー 〈交流、交際〉【例】なーふあとう ホノルルや ちゅーでーぬ むしでい くげー そーん。(那覇とホノルルは姉妹都市の関係を結んで交流している)。むらくげーや あたいめーぬ ふいれーとー ちがてい、かかさんぐどう っんぢとーん。(地域での交流は普通の付き合いとは違って、欠かさずに参加している)。

くげー じん 〈交際費〉【例】そーぐわちから しんぐわちまでー くげーじんぬ／っんじりみーぬ うふさぬ、ふしがらん。(正月から4月までは交際費／出費が多くて大変だ)。

くげー ぢん 〈訪問着〉【例】あきまどうし なたい とうしびー うゆうえーぬ あまくまをうてい あてい くげーぢん ちちゅーる っちゅぬちゅーぬ ゆー んーだりーん。(新年になって生年祝いがあちこちであると訪問着を着ている人たちをよく見かける)。

くさ 〈雑草〉【例】わーが おーふあ っういーていん ゆからん むんぬ、かまらんぬーぬ くさー ぬーん さんていん あんし ゆかどーる。(私が葉野菜植えても茂らないのに、食べられない雑草は何もしなくてもあんなに茂っている)。

くさー 〈後ろ〉【例】ふーろー、んかしえー

やーぬ くさいんかい あたくとぅ、なま
やていん うとうすえー 「まーんかいが」ん
でい とうーいねー、「やーぬくさいんかい
っんぢちゅーさ」んでい いーん。なまー あ
たいぐわーぬどう やーぬ くさいんかい あ
る。(トイレは昔は屋敷の裏にあったので、今で
もお年寄り「どこに」と聞くと、「家の裏に行
ってくる」と言う。現在は菜園が屋敷の裏にあ
る)。くび／はーや くさいー なち むちよー
ん。(壁／柱に背もたれて座っている)。

くさいん 〈まとめる〉【活】くさたん、くさら
ん、くさてい【例】むら／やー くさいん。(村/家
をまとめる)。

くさい 〈まとめ〉【例】やーぐさえー をう
とうぬ ちとうみ、むらぐさえー むらがしら
ぬ ちとうみ、くにぐさえー くにがしらぬ
ちとうみ。(家のまとめは夫の役目、村のまとめ
は村長、国のまとめは首相)。みーとうんだ ち
ゆくさい (夫婦一組み)。

くさてい 〈つかい棒、頼り、夫〉【例】「っ
やー くさてー まーぬ っちゅ やが?」「わ
ん をうとー なーふあ やいびーん どー」
('あなたの夫はどこ出身か」「私の夫は那覇です
よ)。くさていんでい いーしえー っやー
をうとう やさ。(「くさてい」とはあなたの夫
のことさ)。ういなごー やーぬ かがん、うい
きがー やーぬ なかばーや やくとう、っや
ー をうとー やーぬ くさてい などーん
どー。(女性は家を写す鏡、男性は家の大黒柱な
ので、あなたの夫は家の「つかい棒」になっ
ているよ)。

くさくさい すん 〈憤慨する〉【活】～さ
ん、～さん、～っし【例】あわていーる ばー
に みちぬ くでい くるまむちやーや めー
にん いからん、くさいーにん っんぢゆからん
くとう、ぷーぶー くさくさい そーん。(急い
でいるときに道が渋滞して運転手は前にも行け
ない、後ろにも動けないので、憤慨している)。
【参】わじわじー そーん。

くさ ぶっくいーん 〈ませる〉【活】～ぶ
っくいたん、～ぶっくいーらん、～くさぶっくい
い【例】わらびぬ っんぢとーてい どうく
くさぶっくいーねー、はなぶっくわ ちちや
ーに たっぴらかち とうらすん どー。(子
どものくせにあまりにませたことを言うと、鼻
頭を突いてつぶしてやるぞ)。

くさ ぶっくわー 〈ませた子〉【例】くさ
ぶっくわーや わらびらーしくん ねーん、し
からん さー。(ませた子は子どもらしくもな
くて、好きになれないね)。

くさ むにー 〈ませたもの言い〉【例】む
ぬぐとうん くくるん なーだ みっちえー
をうらんむんぬん、くさむにーや すなけー。
(物事も心もまだ未熟なのに、ませた言い方はす
るな)。ふちやー(ほら吹き)、うふむにー(ほら
吹きくこと)、うふむにーさー(ほら吹き)、う
らぬ ちむにー(皮肉、あてこすり)、くじーむ
にー(人を怒らせるもの言い)。ありが むぬ
いーよーや ちゅーばー ふーなーっし(あい
つものものの言い方は強がって)。むぬ いーよ
ーぬ かつちよーん。(ものの言い方がすごい)。
【参】「むにー」は「むぬ いい」からの派生か。

くさぢゆん 〈包丁の刃を直角に当てて皮を
削りとる〉【活】くさぢやん、くさがん、くさぢ
【例】ぐんぼーや かー んちゅしえー あら
ん、くさぢゆし やん。(ゴボウは皮をむくので
はなくて、そぐものだ)。ちでーくに／ぐんぼ
ー くさぎ。(にんじん／ごぼうの皮をそぎな
さい)。いゆぬ いりち くさぢゆん。(魚のう
ろこを剥ぐ)【参】かー んーちやー(ピーラ
ー)、くにぶぬ かー んーちゆん(みかんの
皮をむく)、しぶい／でーくにぬ かー んー
ちゆん(冬瓜／大根の皮をむく)、しーん／し
ゆん(擦る)、しやー(擦り器)。

くさぶっくいーん 〈ませる〉【活】くさぶ
っくいん、くさぶっくいーらん、くさぶっくい
い【例】ありが するくとー くさぶっくい
ーとーん。(あの人ができることは常識を超えて
いる)。くさぶっくわー(ませた者)。

くさみちゅん 〈腹を立てる〉【活】くさみちゅん、くさみかん、くさみち 【例】あれーいふいぐわーぬ くとうしん くさみちゅん どー。(あの人は少しのことで腹を立てるよ)。うっぴぐわーぬ くとうしえー くさみちゅな けー。(これっぽちのことで腹を立てるな)。あらん くとう いらってい くさみちゅーん。(そうでもないことを言われて腹を立てている)。【参】わじーん。

くさみち あびー 〈つっけんどんな声〉

【例】くさみちあびー そーたしが、ぬーん あいどう すたが やー?(つっけんどんな声を出していたが、何かあったのかね)。

くさりーん 〈(生ものが)腐れる〉【活】くさりたん、くさりらん、くさりてい 【例】なまむのー くさりやっさくとう、ふえーべーとう かむし やん。(生ものは腐れやすいので、早めに食べることだ)。やしえーぬ/いゆぬ/ししぬ くさりとーん。(野菜が/魚が/肉が腐れている)。くさりかじゃ (腐れた臭い)。

くさらー 〈腐れたもの〉 【例】いちゅび こーたる ばすに なーかんかい くさらーぬ いっちょーしぬ ゆー あん。(イチゴを買ったときに中に腐ったものがはいつていることがよくある)。ふいらーらん っちゅんかい 「んじやりむん」、「ちむ くさらー」んでい いちゅーん。(つき合いができない人に「へそまがり」、「心が腐っているやつ」と言っている)。

くし 〈腰〉 【例】っやーん いふえー くしゅくわーちゅーけー。(お前もすこし横になっておけ)。くしゅくわーすん。(腰を休める)。はる さがなー、なかゆくいに ちゃーぐわーぬだい くわーしぐわー かだい するくとうんかい 「くしゅっくいー」んでい いーん。(畑仕事をしながら、休憩にお茶を飲んだり、お菓子を食べたりすることに「腰休み」と言う)。うとうすえーや わかさる とうちに うみちとう なんぢ さーに くしぬ まがとーん どー。(お年寄り若いときに大変な苦勞をして腰がまがっているんだよ)。

くし 〈欠点〉 【例】くしぬ ねーらん っちょー をうらんでい うむとーたしが、あれー じゅんに ぬーぬ くしん ねーん。(欠点がない人はいないと思っていたが、あの人は本当に何の欠点もない)。ていーぬ ながさる やなぐし むっちょーん。(人のものに手を出す悪癖をもっている)。

くじ 〈籤、クジ〉 【例】っちゅんかえー くじやふあらーとう くじぐふあーぬ じゅんに をうん。(人にはくじ運の強い人と弱い人が本当にいる)。

くしーん 〈着せる〉【活】くしたん、くしらん、くしてい 【例】ういなぐ しーじゃぬ うっとうぬ ちん くしたん。(姉が妹の着物を着せた)。

くじーん 〈ほじくる〉【活】くじたん、くじらん、くじてい 【例】っちゅぬ めーをうていはー くじたい、 はな くじたい、 みみくじたい すしえー あらん。(人前で歯をほじくったり、鼻をほじくったり、耳をほじくったりするものではない)。わた くじたい、ちむ くじたい する っちゅくじやーや んなから ちらーってい すん すん。(人の腹や心をほじくる人はみんなから嫌われて損をする)。

くしがき 〈頼りにすること、鼻にかけること〉 【例】っやーどう くしがき そーくとう、かんげーてい とうらし どー。(あなたを頼みにしているので、よろしくお願ひしますね)。なー わらべー あらん むんぬ いちまでいんうや くしがきしえー ならん どー。(もう子どもではないんだから親を頼りにしてはいけないよ)。

くじすん 〈ごちそうに箸をつける、崩す〉【活】くじちゃん、くじさん、くじち 【例】うじゅーぬ うはちえー やーぬ ぬーしから やくとう、わらびんちゃーや くじすな よー。(重箱

のお初は家のご主人からだから、子どもたちは箸をつけないよ。

くしち 〈戸籍〉 【例】つくわ なしーねー、にしゅーかんまでいねー くしち いりらんとー ならん。(出産したら、2週間以内に戸籍にいれないといけない)。

ぐしち 〈すすき〉 【例】じゅーぐやーねー ばらんぬ ちちよーる ぐしち かざてい ちちながみ すん。(十五夜にはすすきの穂が付いているススキを飾って月見をする)。ぐしちさーに ちゆくたる あじまー むしべー むんぬきむん／ふーふだがーい などーん。(ススキでつくった十字結びは魔除けになっている)。

くし でー 〈腰力〉 【例】とうし とういねー くしでーぬ よーてい どうーてーぬ かなーん ないん。(歳をとると腰が弱くなって体が思うようにならない)。

くし ながに 〈背中〉 【例】くしながに ちゅーらするたみねー、めーんかい まぎたい、くしんかい ぬばちやい、いるんな うんどーすしえー まし。(背中を強くするためには、前に曲げたり、後ろに伸ばしたり、いろんな運動すると良い)。ていーさーじっし くしながに しやーに ふいんぐ うとうちゃん。(タオル＝垢擦りで背中をこすって垢を落とした)。

くじりーん 〈崩れる〉【活】くじりたん、くじりらん、くじりてい 【例】あれー くーさいに たかにち っんぢやさーに みみぬ くじりてい ちからん などーん。(あの人は幼い頃に高熱を出して耳がこわれて聞こえなくなっている)。うすまさる うふかじっし いしがちぬ くじりとーん。(ものすごい台風で石垣が崩れている)。

くしれーいん 〈解体する、屠殺する〉【活】くしれーたん、くしれーらん、くしれーてい 【例】んかしえー どうーぬ やしちをうてい っわーから、ふいーじゃーから、とういまでい

ちかなてい そーぐわちねー どうーくる くしれーてい しんめーなーびんかい にちやーにんじゅ するてい くわっちー さん。(昔は自分の屋敷内で豚、ヤギ、鶏などを飼って正月には自分で解体して大きな鉄鍋で煮て家族揃ってごちそうを食べた)。

くす 〈糞〉 【例】「くす くえー」や やなむんぬき する まじねー くとうば やてい、はな ふいちやる とうちに ちかいん。(「くすくえー」は悪霊拔きのまじない言葉で、くしやみをしたときに使う)。

くじゅ 〈去年〉 【例】くじゅぬ うふしがりなみから いーな ちゅとう などーしが、ちぬー ちゅーぬ ぐとうどう ある。(去年の大津波からはや1年になっているが、昨日今日のこのようだ)。

ぐすぐす 〈半煮えの状態〉 【例】くぬ っんむ／ぐんぼー／とーぬちん／でーくにぬ すばふいらー にーてーをうしが、しんぬ くふあさぬ、ぐすぐす そーん やー。(この芋／ゴボー／とうもろこし／大根の周囲は煮えているが、芯が固くて、半煮えだね)。ふいみちやーなてい ぐすぐす そーん。(喘息持ちになってぜいぜいしている)。

くすい 〈薬〉 【例】をうたとーらー にんぢゅしん くすい ないさ。(疲れているなら寝るのも薬になる)。ちぶるぬ やみーねー、くすい ぬみわどう まし ないん。(頭が痛いなら、薬飲むと良くなる)。

くすい でー 〈薬代〉 【例】くすいやーんかい くすい こーいが っんぢやしが、くすいでーぬ たらーんたん。うぬばすねー、くすいやーや びん あきてい うっさぬ ぶんわきてい うてい とうらすたん。あんすくとう、んかしえー っちゅ たしきだしき やたんでい。(薬局に薬を買いに行ったが、薬代が足りなかった。その際には薬局は瓶を開けてそ

の分を分けて売ってくれたものだ。それで、昔の人は助け合っていたって)。

ぐすーよー 〈皆様〉 【例】ぐすーよー がんじゅー やみしえーみ？(皆様、ご機嫌いかがですか)。ぐすーよー かなてい あっちみしえーみ？(皆様、ご機嫌いかがですか)。

くす ぐえー 〈下肥え〉 【例】なまー すいせんトイレ なてい、くすぐえーくまーん みーらん。(現在は水洗トイレになって、下肥え汲む人も見えない)。

くす ちり ばい 〈一目散に走る〉 【例】そー ぬぎてい いっさんばーえー そーしんかい くすちりばい そーんでい いーん。(我を忘れて懸命に走っているのに「くすちりばい」していると言う)。**【参】**ぬちちりばい(死に物狂いで走る)、ぬちちりばたらち(死に物狂いで働く)。

くす ふいりー 〈下痢〉 【例】なまどう やるんでい くわっちー そーぬぎがみ さくとう、わたぶっくいーっし なーチャー くすふいりー そーたんでい。(今だどごちそうをがつつ食ったので、お腹が張って翌日は下痢したんだって)。**【参】**くだすん。

ぐそー 〈あの世〉 【例】うやふあーふじぬ めんしえーる ぐそーんでい いーしえー かーまー あらん、あみだいぬしちゃんてい いーらっとう、ちむしからーさー すな よー。(祖先のいらっしやるあの世というのは遠いところではなくて、軒下といわれているので、寂しい思いはしないでよ)。ぐそーぬ ちかく などーん。(あの世が近くなっている)。

くだーき 〈この高さ〉 【例】「いったー なーしべー うだーき なー？」「わたたー むのー くだーき あん どー」(「あなたのうちの茄子はそのくらいの丈ね」「私のうちのはこれぐらいだよ」)。

くたすん 〈朽ちさせる〉【活】くたちゃん、くたさん、くたち 【例】ういなぐぬ わたー くるちなん くたすん。(女性の腹は黒綱も朽ちさせる、女性の辛抱強いことを表わしている)。**【参】**くるちな(シュロで編んだ黒い綱)。

くだすん 〈下痢する〉 【例】わたたー やーぬめーぬ かーや んーじゅとう ちかさたくとう、みじぬ わっさぬ、ゆー わた やんてい くだちよーたん。(私の家の前の井戸は溝と近かったので、水質が悪くて、よくお腹をこわして下痢をしていた)。

くたちち 〈先月〉 【例】わたたー みーやーや くたちちに ちゆくいはじめてい、たちち どうじまてい、たちちぬ なーちちねー やーうーちー すん。(私の家の新築は先月造り始めて、来月完成して、再来月には引っ越しする)。

くだみーん 〈踏みにじる〉【活】くだみたん、くだみらん、くだみてい 【例】まぐる くだみらってい くちさん。(真心を踏みにじられて苦しい)。

くたんでいーん 〈疲れる〉【活】くたんでいたん、くたんでいらん、くたんでいてい 【例】いっぺー いちゆなさ っんぢゅちよーいびー たしが、うんじょー うくたんでー ねーみそーらに？(とても忙しく動きまわっていましたが、お疲れございませんか)。っやーや むぬん うまーらん あたい どうく しーぢゅー さくとうどう、うっさ くたんでいぬ ちよーさ。(あなたは我を忘れる程にやり過ぎたので、そんなに疲れが来ているんだよ)。

くたんでい のーし 〈疲れ直し〉 【例】にんたいほーたい しーわどう くたんでい のーしえー ないる。(寝たり寝そべったりしてこそ疲れはとれる)。

くち 〈語、ことば、口〉 【例】やまとうぐち(日本語)、とーぬ くち(中国語)、フランスぐち(フランス語)、ドイツぐち(ドイツ語)、ロ

シアぐち（ロシア語）、こーれーぐち（韓国語）。
 みーぐち（商いのし始め）、くち のーし（口直し）。くちげーし（相手の言葉をそのまま返すこと）。くち けーしえー。（相手の言葉をそのまま返しなさい）。くち うーいん。（口に出すと本当にそうになってしまう）。くちぬ わっさん。（口が悪い）。くち がっさん／っんぶさん／にーさん／かないん。（口が軽い／重い／食欲がない／達者である・口答えする）。くち さびっさん。（何か口にした）。ぬー ちちん ぬーん いらん。くち くーとーさ。（何を聞いても何も言わない、口を閉ざしている）。あれー まーさむん じょーぐー なてい、したたか くち くえーとーん。（あの人は美食家で、とても味覚が肥えている）。ぬーん かんげーらんぐとう あびーほーいねー、くち やますん どー。（何も考えないで言いたい放題すると、口で災いを招くよ）。くとうばー じんぢけー やくとう、ぶかりーな くとうびけー いーねー くちんかい くわーりーん どー。（言葉はお金と同様に大切に使わないといけけないので、良くない事ばかり言うとその言葉に喰われてしまうよ）。くちぬ あまれー、ていーぬ っんぢーん。（言い過ぎると、口論から殴り合いになる）。

くち かじ〈口数〉【例】ういなごー ある うっさ はなしわどう ちもー ふぢゆくとう くちかじぬ うふさ ないしが、ういきがー くとうばー ていーち たーちっし しますくとう、ちもー っんぶこーねーらんがやー？（女性は全部話しすれば満足するので、口数は多くなるが、男性は言葉は1つ2つで済みますので、ストレスにならないのかねえ）。くちかじぬ うふさしが、っやーや かくじえー やまに？ かくじ はんでいーん どー。（女性は口数が多いが、あなたの顎は痛くないのか。顎がはずれるよ）。

くち からじ〈口も頭も疲れること〉【例】わらび ふどうっわーする たみねー、むぬ ならーし すんち くちからじぬ やむさ。（子を育てるためには、ものを教えるといつて口も

頭も疲れてつらい）。

くち がんすい〈口達者〉【例】くちがんすえー ういきがんかえー をうらん、うれー ういなぐぬ かんとーる ななばちぬ ていーち やん。ななばちんでい いーしえー、みーとうんだ わかりっし なちゅしん ういなぐ、わたやみ しみらさってい っくわ なすしん ういなぐ、っくわ なちやる あとう ふどうっわーすしん ういなぐ、やーぬ わじやん むる ういなぐ、ぬーがな あいねー うれー むる ういなぐぬどう わっさんでい などーくとう、ういなごー ななばち かんとーん。（口達者は男性にはいない。それは女性の負っている七罰の一つだ。七罰というのは、離婚して泣くのも女性、お腹を痛めさせられて子を産むのも女性、子を産んだ後育てるのも女性、家事もすべて女性、何かあるとそれはすべて悪いのは女性となっているので、女性は七罰を負っている）。

くち ぐし〈口癖〉【例】わんねー いちん うちなーぐちっし はなし すんち うむいしが、くちぐし なてい あとー やまとうぐち などーん。（私はいつも沖縄語で話しをしようと思っているが、口癖になって後は日本語になっている）。くちぐし、ていーぐし、さきぐしんでーぬ くとうばー うくねーぬ わっさるくとうんかい ちかいん。くちぬ わっさたい、っちゅぬ むん とうたい、さき ぬでい ありたい する くとう やん。（口癖、手癖、酒癖などのことばは行いが悪いことに遣う。口が悪かったり、人の物を取ったり、酒を飲んで荒れたりすることだ）。【参】くちぬ をうー（口癖、口の緒の意）。

くち ぐとう〈言い争い〉【例】っちゅぬ うふさ あちまいる とうくるをうてー くちぐとうん っんぢーん。（人が多く集まる場所では言い争いも生じる）。

くち ぐふあー〈毒舌家〉【例】あれー くちぐふあー なてい、はちゆる くとうばー むる っちゅぬ ちむ やましぐとうびけーっし くとうば じんぢけーんでいーる く

とうん わからんさ やー。(あの人は毒舌家で、吐く言葉はすべて人の心を痛めることばかりで、ことばは金使い同様大切にということもわからないんだね)。

くち ざんしん 〈口で三線をまねること〉

【例】あぬ っちょー さんしんじち なてい
まーをうていん くちざんしんっし うたぬ
ちーく そーん。(あの人は三線好きでどこでも口三線にのせて歌の稽古をしている)。

くち しば 〈悪いうわさ〉【活】くちなん

くちぐとう 〈悪いうわさ〉 【例】っやーや し
きんぬ くちしばんかい かかとーん どー。
くちなん くちぐとうやか うとうるさる む
のー ねーん どー。(あなたは世間の悪い噂
が立っているよ。噂ほど怖いものはないよ)。く
ちなん くちぐとうぬ かかいねー、ちむ あ
んまさ しみらさったい、 どうー あんまさ
しみらさったい、ないんくとうぬ ならん
なたいする さーいぬ あんでいんくとう や
ん。(悪い噂が立つと、意気消沈させられたり、
体調不良にされたり、できることもできなくな
ったりする障りがあるということだよ)。

くち する 〈口の中の唾液〉 【例】みーぬ

めーぬ じーじーっし うとう たていてい
やちえーる うしぬ しし んーち くちし
るぬ じーじー そーん。(目の前のジージ
ーと音を立てて焼いてある牛肉をみて、口の中の
唾が出ている)。

くち ぢゆくい 〈口に物を入れること〉

【例】ふかんかい っんぢーる ばすねー、ぬー
がな くちぢゆくいっしから っんぢらんねー
こーいんぐえーぬ うふく ないん。(外出
するときには、何かを口に入れてから出ないと
買い食いが多くなる)。

くち どうみ 〈口止め〉 【例】っちゆにん

ぢのー ぬーんくいーん むる んにんかい
うさみうーさんくとう、くちどうみ さりーる
はなしえー しぐ なま っんまをうてい
していり よー。あんしえー ちむっんぶさ
さんていん しむん。(人間は何でもかんでも
胸に収められないので、口止めされる話はすぐ

今ここで捨てなさい。そうすれば、気にしなく
ても済む)。

くちぬ めー 〈一人食べていくだけの稼ぎ〉

【例】「あちねーや ちゃー やが? もーき
らりーみ?」「ならん さー。どうーぬ くちぬ
めーぬ うっぴんちょーん もーきかんでい
そーん」「(商売はどうですか。もうけていま
すか)」「だめだね。自分ひとり食べていだけ稼
ぐのにもやっただよ)。

くちぬ っわーび 〈口先〉 【例】ありが

いーるくとー くちぬ っわーびどう やん
どー。ちむねー とうみんな よー。(あの人が
いうことは口先だよ。気にはとめるなよ)。

くち のーし 〈口直し〉 【例】んぢやむん

ぬだる あとー くるぎーたー くくでい
くちのーし すん。(苦いものを飲んだ後は黒
砂糖を含んで口直しをする)。

くち ふいんとー 〈口答え〉 【例】っちゆ

ぬ あん いーねー あん いー かん いー
っし、 あれー くち ふいんとーぬ うふさ
ん。(人がああ言うとかあれこれ言って、あの人は
口答えが多い)。

くち ぶーち 〈ほら吹き〉【活】くち ぶー

ちゃー 〈ほら吹きの人〉 【例】とうじぬ くち
ぶーちゃー なやーに をうとうぬ ぶぬん
むる うりが うちくわとーん。(妻の方がほ
ら吹きなので夫の名分もすべて彼女が喰い尽く
している)。あれー ちゃー うふむにー す
しが、がっていん する むのーあらん。した
たかぬ くちぶーち やん。(あの人はいつも
おおげさなこと言うが、信じ込んでほだめだよ。
大変なほら吹きだよ)。

くち 〈遺骨〉

くち うーちー 〈遺骨の移転〉 【例】くち

うーちーや うふあかぬ うーちーとう むぬ
むん やん。(遺骨の移転はお墓の移転と同じ
物だ)。

くち うんちけー／みくち うんちけ

ー 〈遺骨のお招き〉 【例】みーばか ちゆく
たる とうちねー、ふるばかから／ていらから

みーばかんかい みくちうんちけー すん。
(新しい墓を造ったときは、古い墓から／お寺から新しい墓にお骨のお招きをする)。

くち (かじ) 〈東風〉 【例】 なちえー
ふえーかじ、ふよー にしかじ、はろー くち
かじぬ ふちゆしが、あちえー いりからどう
ふちゆがやー? (夏は南風、冬は北風、春は東
風が吹くが、秋は西から吹くのかねえ)。

くちゅぐいん 〈くすぐる〉 【例】 ぐなわ
らべー くちゅぐいねーくちゅくちゅしーね
ー けてけてっし わらいん。(小さい子はく
すぐるとケラケラと笑う)。

くちゅび 〈イボ〉 【例】 くちゅべー やーち
ゅーさーに やちとういねー っんぢらん な
いん。(イボはお灸で焼き取れば出なくなる)。

くっくるーうー 〈雄鶏の鳴き声〉 【例】
うちなーをうてー とういぬ をうーむなーや
クックルーウーんち たかなち すん。(沖
縄では雄鶏はクックルーウーと高い声で鳴く)。

くっぴ／くっさ 〈これっぽち〉 【活】 =く
っぺーる／くっぺーるー 【例】 くっぴぐわー
ぬ／くっさぬ くとうっし ちむ やまちよー
てーる ばー やさ やー。(これっぽちのこ
とで心を痛めていたわけだね)。

くてーいん 〈堪える〉 【活】 くてーたん、く
てーらん、くてーてい 【例】 くぬめーぬ をう
ーじとーしぬ とうち あみんかい んでいて
い、さくとう なーちやー にち っんぢやち
ゆかいねー くてーたっさー (この前のキビ
倒しのとき雨に濡れて、それで翌日は発熱して
よほどこたえたよ)。ふいさぬ よーさる っ
ちゅんかえー うぬ ふいら ぬぶいしえー
でーじな くてーいん。(足の弱い人にはその
坂を上るのはとてもこたえる)。まふっくわね
ー むぬん うまーらん あたい やてい、ふ
しがらん くてーいん。(猛暑には気が動転す
るほどなので、どうにもならないほど堪える)。

くとう 〈こと、物事〉 【例】 ちかぐるー ぬ
ーぬ くとうが やら、むる いふーなくとう
ぬ うくりとーん やー。(近頃はこういうこ
となのか、いつもおかしいことが起こっている
ね)。あんし っういーりきさぎさ そーしが、
ぬーぬ めーくとうぬ あたが?(あんなに
楽しそうにしているが、何のいいことがあった
の)。

くとう かつゆん 〈足りずに不自由する〉
【例】 なまちきてい ゆすぐにんかい かむしん
ねーらん、やーさじに そーる っちゅぬち
やーぬ をうん。(現在でさえも外国に食べる
のもない、飢え死にしている人々もいる)。

くとう さび 〈災い〉 【例】 やくどうし
ぬ あとうさちぬ みとうぬ っうえーだー
ぬーぬ くとうさびん ねーらんぐとう かみ
にげー すん。(厄年の前後の3年の間は何の
災いもないように祈願する)。とうびとういぬ
やーぬ うちんかい ふえーりんち ちーね
ー、くとうさびぬ いっちよーる しらし や
んでい。(鳥が家の中に入り込んでくると、災い
が入って来た知らせだという)。

くとうー 〈琴〉 【例】 くとうー ならいぶさ
しが、いちゆる まどうぬ ねーらん。(琴を習
いたいが、行く時間がない)。

くとうし 〈今年〉 【例】 くとうしえー ダ
ムぬ みじん みっちやかー そーんでい い
らっとうーくとう、なまー みじぶすくぬ しわ
ー ねーらん。(今年はダムの水も満杯してい
ると言われているので、今は水不足の心配はな
い)。

くとうば 〈ことば、地域語〉 【例】 なーふ
あくとうば (那覇ことば)、やんばるくとうば
(国頭のことば)。しまくとうば (伝統的な地域
語／沖縄、宮古、八重山、与那国などの継承言
語／琉球諸語)。くとうばー じん ぢけー (=
くとうばん じんぬ ぐとう、あたらさっし
ちかり よー)。(言葉はお金のように大切に遣
いなさいよ)。ちゃぬ よーな っちゅんかい

やていん、くとうばー ゆー かんげーてい
ちかり よー。(どのような人にでも、ことば
はよく考えてつかいなさいよ)。

くとうば かじ 〈ことば数〉【例】あかん
ぐわー たんかーめーねー くとうばかじぬ
うほーく ないん。(赤ん坊は一歳前には言葉
の数も多くなる)。

くとうばぬ うー 〈ことばの綾〉【例】あ
れー あん やさんでい いちえーをうしが、
くとうばぬ うーどう やてーさに？(あの
人はそうだよと言ってはいたが、ことばの綾だ
つたんだね)。

くとうぶち 〈寿〉【例】うゆえーをうてい
くとうぶちんでい かかっとーる うちゆく
いー めーたしが、かりーな むん やくとう、
あたらさ しー よー やー。(お祝い寿と
書かれている風呂敷をもらったが、縁起のいい
ものなので、大切にしなさいよ)。

くとうゆしーん 〈口実をもうける〉【活】
くとうゆしたん、くとうゆしらん、くとうゆし
てい【例】ちゃー いちゆなさに くとうゆ
してい くとうわたん。(いつも忙しいと口実
をもうけて断った)。

くとうわいん 〈断る〉【活】くとうわたん、
くとうわらん、くとうわてい【例】なー とう
し なたい あまくま かなーんたてい／よー
てい ありんくりん むる くとうわとーん。
(もう歳をとってあちこち不自由になって／弱
ってあれもこれもみんな断っている)。

くとうわき 〈訳を言って断ること〉
くとうわき すん 〈陳謝する〉【活】～さ
ん、～さん、～っし【例】むしるぬ あやぬ ぐ
とう しかっとう くとうわき さんねー ば
っぺーらりーん どー。(むしろの綾のように
ちゃんと陳謝しないと勘違いされるよ)。

ぐとーん 〈ようだ〉【例】はなぬ ぐとう
かばさん。(花のように香りが良い)。んかし
えー ぴーぴーどう そーたしが、なまー っ

うえーきさる ぐとーん。(昔は貧しかったけ
ど、今は裕福になったようだ)。ちゆくいむじゆ
くい しえーしえー くんびてー ならんぐと
う、っういーてーる とうくろー とうーらん
ぐとう、すばなーりーどう あっち いき よ
ー。(農作しているのは踏みつけてはいけない
ので、物を植えてあるところは通らないで、そ
の周りから歩いて行ってね)。

くなーすん 〈踏みつける〉【活】くなーちゃ
ん、くなーさん、くなーち【例】っちゆ／ふと
ん くなーすな けー。(人／ふとん踏みつけ
るな)。ちのー／しゆむち くなーち あっか
んけー。(着物／本を踏みつけて歩くな)。

くなすん 〈消化する、耕す〉【活】くなちゃん、
くなさん、くなち【例】むぬ かだる あと
ー、しごー っんぢゆかんぐとう いー ゆく
らち ゆー くなちから っんぢくーわ。(食
事した後は、すぐには動かないで胃を休めてよ
く消化してから行っておいで)。さに まちゆ
る めーねー んちゃ ゆー くなちからどう
すし やん。(種を撒く前には土をよく耕し
てからするものだ)。

くなびーん 〈比べる〉【活】くなびたん、く
なびらん、くなびてい【例】むのー くなびて
い んーでいわどう わかいる。(ものは比べ
てみてこそ分かる)。っちょー くなびーる
むのー あらん。(人は比べるものではない)。

くに 〈村、町、国〉【例】糸ーまー うちな
ーぬ なーかをうてー じーぬーぬ はねーち
よーる とうくる やん。(八重山は沖縄の中
は芸能の盛んなところだ)。んかしえー さく
らじゃかー はなまちとうっし うた、さんし
ん、しばいんでー みーむんぬ あてい いっ
ぺー はねーち っういーりきどうくる やた
んでい。(昔は桜坂は繁華街として歌三線、芝居
などのショーがあつて、とても華やかで歓楽街
だったつて)。うちなーぐち しまじゆーに
ふいるみてい、うちなーぬ ていーかた くに

じゅーんかい ふいるみてい、うちなーぬ ちむぐくる しけーじゅーに ふいるみてい いかな。(沖縄語島全体に広めて、沖縄の文化国全体に広げて、沖縄の心世界中に広めて行こう)。
【参】 やー ふみかすん (家をにぎやかにする)。

くによーでー 〈血縁関係のない似ている人〉 【例】 どうーとう にちよーるーぬ くによーでーや みっちゃいや をうんでい。(自分と似ている人は3人はいるんだって)。

くにぶ 〈ミカン〉 【例】 うちなーぬ くにぶんかえー たんかん、かーぶちー、おーとー、くがに、しーくわーさーんでーぬ あん。(沖縄のミカンにはタンカン、カーブチー、オートー、クガニ、シークワサーなどがある)。

くにんだ 〈久米村〉 【例】 くにんだんかえー とーぬ っちゆぬちやーが をうてい、かくむん ふいるみたい、とーとうぬ あちねーとういむちやいっし、るーちゆーぬ くさてい などーん。(久米村には中国人が居て、学問を広めたり、中国との交易の仲立ちをしたりして、琉球の主軸になっていた)。

くぬむん 〈考案する〉【活】くぬだん、くぬまん、くぬでい 【例】くぬ びんがたぢのーいるあやぬ ゆー くぬでい ちゆくらっとーん。(この紅型の着物は色模様がよく考案して作られている)。

くぬ ゆちや 〈この歳〉 【例】 わんがくぬゆちや なていん、あんちゆが ぐとうなとーがやー? (私がこの歳になっても、あの人のようにできているのかな)。

くぬ ぐるんし 〈この頃〉 【例】 やーぬ なーぬ いしぬ っういーんかい あたびちぬ をうたしが、くぬぐるんしえー んーちえーんーだんしが、をうがやー? (家の庭の石の上にカエルがいたが、この頃は見ていないが、いるかねえ)。

くねーいん 〈こらえる、許す〉【活】くねーたん、くねーらん、くねーてい 【例】 いーっくわ、いーぶすくぬ あたらー／あれー、くねーていとうらし よー。(言い過ぎ、言い不足があったなら、許してくださいよ)。

くねーだ んし 〈近頃、最近〉 【例】 くねーだんしえー でんわぬ むる くーん なとーしが、ぬーが やー? (近頃は電話がちっとも来なくなっているが、どうしたのかなあ)。

くば 〈クバ〉 【例】くばぬ ふあーさーに くばがさ ちゆくたい、くばおーぢ ちゆくたい、みじ すくいる にーぶ ちゆくたい、くばさば ちゆくたい、かさがーい さい、うちゆくいー さい すたん。(クバの葉でクバ笠を作ったり、クバの扇を作ったり、水をすくうひしゃくを作ったり、クバの草履を作ったり、傘代わりにしたり、ふるしき代わりにしたりしたもの)。
くばぬ ふあー ゆー (クバの葉を着物にした時代)。

くばめーすん 〈節約する〉【活】くばめーちやん、くばめーさん、くばめーち 【例】 まんどーくとうんでい いやーに すそーんがみやすな よー。あいにごう くばめーすん どー。(たくさんあるからといってあるだけ食いはするなよ。あるときにこそ節約はするものだ)。

くび 〈首、襟〉 【例】 ちんぬ くび のーしえー。(着物の襟を直しなさい)。っんにぬ ぐとうっし みーぬ ちかわ くび をうーりり。(稲のように実が付けば頭を垂れなさい)。

くび がー 〈うなじ〉 【例】 あぬ っちよー くびがーぬ ながさくとう、ちのー ゆーうちやとーてい うみないびぬ にんぢよー (っちゆがたー; ふとうきー) ぬ ぐとーん。(あの人ほうなじが長いので、着物がよく似合っていて王妃の人形のようなだ)。ういなごー ちん ちち すがいる ばすん あくとう、くびがーや ていーだんかい やきらんぐとう そーん。やきーねー ちんとー うちやらんくと

う あん すん。(女性は着物を着て装うときもあるので、うなじは日に焼けないようにしている。焼けると着物とは似合わないののでそうする)。

くび 〈壁〉 【例】あまくまぬ やーぬ くび
 とうか、でんしんばーやんかい はらっとーる
 ‘ちらぬ かーたー そーる かび’や はげ
 ー しむる むんぬ。なー ふだいりん うわ
 ていどう をうくとう、みーぶしくん ねーん
 さー やー。(あちらこちらの建物の壁とか、電
 柱に張られているポスターは剥ぎとればいいの
 に。もう投票も終わっているの、見たくもな
 いのにねえ)。あかいんかえー みーぬ あて
 い くびんかえー みみぬ あくとう、いち
 やていん まーんぢ やていん まくとう そ
 ーけー ちゃーん ねーらん。(障子に目があ
 って、壁に耳があるので、いつでもどこでも誠
 実にしていればどうもない)。

くふあいん 〈固くなる、仲が悪くなる〉【活】
 くふあたん、くふあらん、くふあてい 【例】う
 り！ みーくふあやー かでい みーくふあれ
 ー。(ほれ！ お目ざを食べて目を覚ましなさい)。ゼリーや くふあらちからどう まーさ
 る。(ゼリーは固くなってからがおいしい)。く
 ちむんどー さる あどうから たいぬ なか
 ー くふあとーっさー。(口論の後から二人の
 仲は悪くなっている)。あつたー みーとうん
 だー なま くふあとーん どー。(あちらの
 夫婦は今仲が悪くなっているよ)。

くふあ ーでーさー 〈クファーデーサー〉
 【例】クファーデーサーや うふあかんかい ゆ
 ー っういーらっとーる きー やしが、ふあ
 ーん まぎさい ゆくんかい ふいるがいくと
 う、かーぎ ちゆくてい しーみーぬ ばすね
 ー るー ふーぢ やん。(クファーデーサー
 はお墓によく植えられている木だが、葉も大き
 く横に広がるので、陰をつくって清明祭の時に
 は風情がある)。

くふあ ぱっちらー 〈固まるさま〉 【例】
 はがまっし にちえーる めーや ふいじゆい

ねー くふあぱっちらー ないくとう、びら、
 っわーじし、かまぶく、くーが いってい、た
 しやーめーっし かみーねー まーさたん。(羽
 釜で炊いた米は冷めると固くなるので、ネギ、
 豚肉、かまぼこ、卵を入れて、チャーハンにし
 て食べるとおいしかった)。

くふあ ばにー すん くきっぱり拒絶す
 る 【活】～さん、～さん、～っし 【例】しっぷ
 たーんかえー ちゅーく くふあばにー しえ
 ー。なーだ いーよーぬ よーさん どー。(強
 引な人にはきっぱり断りなさい。まだ物の言い
 方が弱いよ)。

くふいな 〈この大ききの、こんなに大きな〉
 【例】いったーや うや っくわ みつちや
 いどう やる むんぬ、くふいな やーんかい
 しまとーてーさー やー。(あなた方は親子三
 人なのに、こんなに大きな家に住んでいたんだ
 ね)。っやーや なままでー うっぴぐわーぬ
 ぐまいゆどう とうていちゅーたしが、ちゅ
 ーや くふいな いゆ とうていちえーさー や
 ー。(あなたは今まではそれぐらいの小魚を捕
 ってきてたが、今日はこんなに大きな魚を捕っ
 て来たんだね)。

くぶしみ 〈イカの種類〉 【例】くぶしめー
 さしみっし まーさくとう わんが しっち
 ょーる っちよー むる しち やん。(コブ
 シメは刺身にするとおいしいので私が知っている
 人はみんな好きだ)。

くぶん 〈窪地〉 【例】わったーやーや くぶ
 ぬんかい あくとう、ちゃー じゃかじゃか
 そーん。(私の家は窪地にあるので、いつもじめ
 じめしている)。っんぢやる いくさねー し
 たたか ばくだん うとうさったくとう、あま
 くま くぶんぬ まんどーたん。(去る戦争に
 はものすごく爆弾を落とされたので、あちこち
 窪地が多かった)。

くまいん 〈家にこもる〉【活】くまたん、くま
 らん、くまてい 【例】やしみねー まーにん
 いかん、まるふいっちー やーに くまとー

ん。(休みにはどこにも行かない、一日中家にこもっている)。

くま～〈細かな〉【参】くまさん(つつましい)からの派生。

くま きー〈細かい切れっ端〉【例】わらび そーいに くわーしぬ くまきー こーいが くわーしやーんかい ゆー いちゆたん。(子どもの頃お菓子の細かい切れっ端を買いにお菓子屋によく行ったものだ)。

くま ぐまーぬ くと〈詳細な事柄〉【例】ちゃぬ よーな くと すんでいーる くとー なま うんぬきやびーしが、くまぐまーぬ くとー あとうから うんぬきやびーん。(どういうことをするということは今申し上げますが、詳細は後から申し上げます)。

ぐま～〈小さな〉【参】ぐまさん(小さい)からの派生。

ぐま ぢけーぐわー〈小銭〉【例】まじじんとう ぐまぢけーぐわーや わかち いってーん。(大きいお金と小銭は別にして入れる)。

くま むてい〈この側〉【例】くまむていや ていーだん ていてい あかがとーしが、あまむていや ていーだかたか さってい くらさん。(こちらの側は太陽も照って明るいが、あちらの側は陽が遮られていて暗い)。わったーやしちぬ くまむていんかい かーぬ あてい あがりむていどう などーる。(私のうちのこちら側に井戸があって東側になっている)。

くみ〈米〉【例】くみぬ ちりとーくと こーてい くーわ。(米がないので、買っておいで)。めーまかいんかえー ちゅちぶん ぬくさんぐと かみ よー。(ご飯茶碗には一粒も残さないように食べなさいよ)。

くみーん〈押し込める〉【活】くみたん、くみらん、くみてい【例】うやぬ いーし ちかん たくと、まっくらしぬ おしいれんかい くみらってい いっぺー うとうるさたん。(親

の言うのを聞かなかったので、暗い押し入れに押し込められてとても恐かった)。なまぬ いちむしえー ぬーしぬ ほけんじょんかい とうとうきっんぢらんとー ならん。(現在の動物は飼い主が保健所に届け出ないといけない)。

くみ んちゅん〈汲み入れる〉【活】～んちゅん、～んかん、～んち【例】みじがーみんかい みじ くみんちよーちゅしぬ めーなちぬ わじゃ やたん。(水甕に水を汲んでおくのが日課だった)。

くむい〈池〉【例】りゅーたんぬ くむいんかえー あふいらーぬ をうてい、ちゅぬ ちーねー かーまから じゅー ふやーに ゆるくでい ゆていちゅーん。(龍潭の池にはアヒルがいて、人が来ると遠くから尾を振って喜んで寄ってくる)。くむいんかえー てればあ、いびしえーぐわーんでーぬ をうしが、くまんかい ちーねー、つういーりきさぬ ちむ ふぢ やーんかい けーらりーん。(池にはテレビア、ザリガニなどがいるが、そこに来ると楽しくて満足して家に帰れる)。

くむいん〈曇る〉【例】がらすぬ くむとーくと、すすいさーに すすれー。(ガラスが曇っているので、ぞうきんで拭きなさい)。

くむぢやー〈あばたの者〉【例】にくんぬ ちら いっぺー ふいचार あとー くむぢやー ないしん をうたん。(ニキビが顔中吹き出た後はあばたが残る者もいた)。

くむん〈切り開く〉【活】くだん、くまん、くでい【例】どうーぬ みち くむん／くめー／くどーん。(自分の道を切り開く／切り開け／切り開いている)。どうーぬ みちぬ なーだ くまってー をうらん。(自分の道がまだ切り開かれてはいない)。どうーぬ みち くでーさ やー。(自分の道を切り開いているね)。

くむん〈組む、履く、編む〉【活】くだん、くまん、くでい【例】くんどー っやーとう

わんとう ぐー くま やー。(今度は君と僕と一緒に組もうね)。くつ あらぐみ すなけー。(靴を荒っぽく履くな)。んかしえー ぼーしくまーっし むぬ かどーたる っちゆぬ ちゃーが まんどーたん。(昔は帽子編みをして生計を立てていた人がたくさんいた)。ばさーぢん ちち、あしぢや くでい あっちよーしが、をうどういさーどう やが やー?(芭蕉布の着物を着て、下駄を履いて歩いているが、舞踊家なのかな)。

くみ 〈組み〉 【例】じゅーばくぬ ちゆくみんかえー むちとう うさんみ うじゅーぬ きゅーしな(しし、かまぶく、とーふ、ていんぶら、ぐんぼー、くーぶ、こんにやく、でーくに、たーっんむ)ぬ いっちよーん。(重箱の一揃えには餅と食べ物の九品(肉、かまぼこ、豆腐、てんぷら、ゴボウ、昆布、こんにやく、大根、田芋)が入っている)。

くみ をうどうい 〈組踊り〉 【例】くみをうどうえー しけーぬ たからとうっし ちわみらっとーん。(組踊は世界の宝として定められている)。

くみ んちゆん 〈踏み入れる〉【活】～んちゃん、～んかん、～んち 【例】さば くでい ぐえったいんかい ふいさ くみんちやーに さばぬ ぬがらん なてい、ていー たっくでい さば とうたん。(草履を履いて泥んこに足を踏み入れて草履が脱げなくなって、手を突っ込んで草履を取った)。

くめーきーん 〈儉約する、丁寧にする、くわしくする〉【活】くめーきたん、くめーきらん、くめーきてい 【例】くめーきやー(儉約家) 参考：いびらー(けちんぼ)。くめーきり よー やー。(儉約しなさいよ)。じん くめーきてい ちかいん。(お金をつつましく使う)。っちゆびれー じょーじえー ぬーぐとうにん くめーきとーん。(人付き合いの上手な人は何事も丁寧にする)。えーさちん いっぺー くめーきてい かき よー。(挨拶もとても丁寧に書きなさいよ)。あくとうんでいち

あいぢけー しえー ならんでいる くとう やてい、うんな とうちにどう くめーきーし やん。(あるからといってあるだけ使ってはいけないということなので、そんなときにこそ儉約するものだ)。っやーが するくとー ちゃー くめーきていとうらち にふえー どー。(あなたがすることはいつも丁寧にしてもらってありがとう)。やまとうから なーじむぬん こーてい ちゃん なー?あんし っやーや くめーきとーる。(本土からのおみやげも買って来たの。ほんとにあなたは礼儀正しいね)。ぬーぬ あたが? わかいるぐとう くめーきてい ちかしえー。(何があったのか、わかるようにくわしく聞かせてくれ)。【参】なーじむん(おみやげ)、ちとう(おすそ分け)。

くらー 〈雀〉 【例】くらーや うふやーにんじゅっし かたまでい くらちよーん。(雀は大家族で群がって暮らしている)。くらー とういんでいち ぐむかんさーに かんかんあていえー そーたん。(雀を捕るといってゴム鉄砲で缶に当てる練習をしていた)。

くらし がた 〈暮らし方、生計〉 【例】ふいーさぐねー ゆちさーに やーん みちん うさーってい、やーぬ なかをうとーてい ちゃーしが くらしがた そーら やー?(寒い地方は雪で家も道も覆い被さって、家の中でいったいどのように生活しているのかねえ)。

くらじょーりーん 〈薄暗くなる〉【活】くらじょーりたん、くらじょーりらん、くらじょーりてい 【例】なまー まっびるまどう やしが、くぬ やまー うくんかい いちゆしんでー くらじょーりとーん やー。(今は真昼間だが、この森は奥に行くほど薄暗くなっているね)。

くらしん 〈真っ暗〉 【例】くらしんみー あっちゆる ばすねー ぬーぬが とうんっぢてい ちゅーら わからんぐとう ちー ちきり よー。(真っ暗な所を歩くときにはいっ

たい何が飛び出してくるのかわからないので気を付けなさいよ)。いったー やーや おーぐらしん そーたくとう、なーだ たーん けーていちえー をうらん どー。(あなたの家は真っ暗していたので、まだ誰も帰って来てはいないよ)。

くらすん 〈暮らす〉【活】くらちゃん、くらすん、くらし 【例】ちとうみ うわてい あとー しーぶさるくとう っし くらすん。(定年後はしたいことをして暮す)。んかしえー ふあーふじん まじゅーん くらちよーたくとう、いるんな てーしちな くとう ならーりたん。(昔は祖父母も一緒に暮らしていたので、いろんな大切なことが学べた)。

ぐり 〈沈殿物、粕〉 【例】ちゃーぬ／んーす じるぬ ぐりまでー ぬまん どー。(茶の／味噌汁の沈殿物までは飲むなよ)。

くりー まやー 〈さかりのついた猫〉 【例】くりーまやーぬ やななち しーねー、やがまさくとう 「しーしー」っし ういーほーいん。(発情期の猫が気持ち悪い声で鳴くと、うるさいので「しーしー」と追い払う)。

ぐりー 〈お辞儀〉 【例】っちゅぬ めーから とうーいる ばすねー、ぐりーっしから いけー。(人の前から通るときには、お辞儀してから行きなさい)。

くり かー 〈この辺り〉 【例】くりかーん かい ふいぢやさんでいーる っちゅぬ めん しえーびーがやー？(この辺りに比嘉さんという人がいらっしやいますか)。

～くる 〈自身で〉 【例】わんくる(私自身で)、どうーくる(自分自身で)、たかしーくる(隆自身で)。わらびんちゃー どうーくる しみれー。(子どもたち自身でさせなさい)。っやー どうーくる しえー。(お前独りでしろ)。あんちゅ どうーくる しみそーらしえー。(あの人ご自身でおさせになってください)。うんじ

ゅ どうーくる しみそーり よー。(あなた様御自身でなさってくださいね)。

くるー 〈黒、黒いもの、反対派〉 【例】くぬ くるーや いちゃぬ くり やん でー やー。(この黒色はイカ墨だよ)。がっていん そーる っちよー しるー、あねー あらん っちよー くるー やさ。(賛成している人は賛成の者、そうではない人は反対の者だよ)。

ぐるくん 〈たかきご〉 【例】ぐるくの一 ふいーちゅーく さーに あんだんかい あぎていどう まーさん どー。ちぶるから ふにから じゅーまでい していーしえー ねーらん。むる かまりーん。(グルクンは火を強くして油に揚げればおいしいよ。頭から骨から尾まで捨てるところはない。全部食べられる)。

くるすん 〈懲らしめる、(動物を)殺す〉【活】くるちゃん、くるさん、くるち 【例】「くるすん」や えーてい しちきてい わからするくとう やてい、っちゅぬ ぬち とういんでいる くとー あらん。「くるすん」は相手をしつけて解らせることであって、人の命を取ることはない)。

くるち 〈黒木〉 【例】くるちえー さんしんぬ そー ないる くふあぎー やん。(黒木は三線の棹になる堅い木だ)。

くるばすん 〈転ばす〉【活】くるばちゃん、くるなさん、くるばち 【例】うとうすいと うわかむのー むぬふいさ あらんくとう、ふえーくなく へえーくなく っし あわていらかしーねー くるばすん どー。(お年寄りとは若者の足は同じではないので、速く速くと急かすと転倒させてしまうよ)。

くるばしえー 〈遊びの一種〉 【例】かたふいさっし とうんぢやい はにたい さがな一、えーてい くるばしーねー、くるばちやる っちゅぬ まかちよーん。(片足で飛んだり跳ねたりして相手を転ばすと、転ばした人が勝っている)。

くるぶん 〈転ぶ〉【活】くるだん、くるばん、くるでい【例】ぬーん する めーねー どうーかんげーびけー さんぐとう、ちちゅうとう ちゅーごーん さんねー あとー くるぶん どー。(何でもする前には自分独りだけで考えないで、人と協議もしないと後になって転倒するよ)。

くるべー 〈黒カビ〉【例】ぬいちぎ しえーる ちん あみんかい うたしーねー、くるべー ないん。(糊付けしている着物を雨に濡らすと、黒カビになる)。

くるむん 〈黒ずむ〉【活】くるだん、くるむん、くるでい【例】っやー ていーや くるどーしが、ぬー さが?(あなたの手は黒ずんでいるが、何をしたの)。

くるん げーい 〈衣替え〉【例】うちなーぐゆみぬ しんぐわちとう じゅーぐわちねー くるんげーい すたん。(旧暦の4月と10月には衣替えをしたものだ)。

くんとーるー 〈これと似たもの〉【例】ちゃー わーが ちかいしえー くり やくとう、くんとーるー こーていっち くいれー。(いつも私が使っているものはこれだから、これと似たもの買って来てくれ)。

くぐわち ちくじゃき 〈9月9日の菊酒〉【例】くぐわち ちくじゃけー くんぐわちくにちに どうーがんぢゅー にげーする ういみー やん。(「くぐわち ちくじゃき」は9月9日に健康願いをする行事だ)。

くん〜〈強く、勢いよく〉

くん しばいん 〈強く縛る〉【活】〜しばたん、〜しばらん、〜しばてい【例】ふるしんぶのー はんていらんぐとう くんしばれー。(古新聞は外れないように強く縛りなさい)。

くん しみーん 〈強く締める〉【活】〜しみたん、〜しみらん、〜しみてい【例】むぬうちぬ はしろー いんまやーぬ いらんぐとう く

んしみとーき よー。(物置の戸は犬猫が入らないように強く締めておきなさい)。

くん たばいん 〈強く縛る〉【活】〜たばたん、〜たばらん、〜たばてい【例】かーまんかい どうどうきーし やくとう はんていらんぐとう くんたばり よー。(遠くに届けるものなので外れないように強く縛りなさいよ)。

くん ちかいん 〈こき使う〉【活】〜ちかたん、〜ちからん、〜ちかてい【例】ないん、ならんでいーる くとうぬ いえーうーさん ちちよー んなんかい くんちかーりーん。(できる、できないということと言えない人はみんなにこき使われる)。わんねー くわいしやをうてー やーんかい けーいるまでい くんちかーつとーん。(私は会社では帰宅するまでこき使われている)。していみていから ゆさんでいまでい くんちかーつてー をうしが、ぬーしぬ いーし ゆー ちちくいてい、はたらちやーうしんかえー いっぺー たしきらつとーん。(朝早くから夕暮れまでこき使われてはいるが、主人の言うことをよく聞いてくれて、働き者の牛にはとても助けられている)。

くん ちきーん 〈踏みつける〉【活】〜ちきたん、〜ちきらん、〜ちきてい【例】みちばたぬ くさー くんちきらっていん しぐ またみーつんぢーん。(道端の草は踏みつけられてもすぐまた生え出る)。

くん ちゃーすん 〈かき消す〉【活】〜ちゃーちゃん、〜ちゃーさん、〜ちゃーち【例】ちゃー むぬ くとうびけー いーけーさーっし ちゃーん ならんくとう、ちむから くんちゃーしえー。(いつも同じことだけを言ってどうしようもないから、心からかき消しなさい)。

くん ちゃきーん 〈(水、湯を)ひっかける〉【活】〜ちゃきたん、〜ちゃきらん、〜ちゃきてい【例】バケツぬ みー みじ くんちやきてい ふいー くんちゃーしえー。(バケツいっぱいの水をひっかけて火を消しなさい)。たまとー かー んちゆるばすねー、ふちゅー くんちやきーねー、かーや んちやしく ないん。(トマトは皮を剥くときには、沸騰した湯

をひっかけると皮は剥きやすくなる)。ふいーんかい みじ くんちゃきとーけー。(火に水をひっかけておきなさい)。なーぬ きーくさんかい みじ かきとーる ちむえーどう やたしが、ぼっぺーてい みち あっちょーる ちゅんかい みじ くんちゃきてい ねーらんたっさー。(庭の木草に水をかけているつもりだったが、間違えて道を歩いている人に水をひっかけてしまったよ)。

くん ちゅーいん 〈強くなる、立って歩けるようになる〉【活】～ちゅーたん、～ちゅーらん、～ちゅーてい 【例】いったー っんまがーていーふいさ みーてい くんちゅーとーん やー。(あなたの家のお孫さんは立って歩けるようになってきているね)。

くん とーすん 〈踏み倒す〉【活】～とーちやん、～とーさん、～とーち 【例】なさき かきてい うほーくぬ じん からちやる ちむえーどう やたしが、からちやる じのー ちゅらーく くとーさったん。(情けをかけて大金を貸したつもりだったが、貸したお金は見事に踏み倒された)。

くん とういん 〈横取りする〉【活】～とうたん、～とうらん、～とうてい 【例】うれーわーが かんげーてい わーが いらなやーんでい うむとーたしが、ありんかい いちやくとう、くんとーらったん。(それは私が考えて私が言おうと思っていたが、あの人に言ったので、横取りされた)。

くん ぬぢゅん 〈追い越す〉【活】～ぬぢやん、～にがん、～ぬぢ 【例】はーえーすーぶをうてい おーちびどう やたしが、うみちとう はーえー ごんごんっし くんぬぢやーにいちばん なたんでい いみ んーちゃん。(駆けっこでビリだったが、死にもの狂いで走って追い越して一番になったという夢を見た)。うさぢとう かーみーぬ はなしぬ ぐとう、どうく どうーあがみ しーねー ちゅんかい くんぬがりーん どー。(ウサギと亀のように、あまりにも自惚れると人に追い越されるよ)。

くん のーすん 〈持ち直す〉【活】～のーちやん、～のーさん、～のーち 【例】したたかぬ ふいんすーから くのーち、なまねー っうえーき そーん。(ひどい貧乏から持ち直して、今では裕福になっている)。なー むちえーうーさんでい しわ そーたしが、くのーち ゆるっとう などーん。(もう持ちこたえることはないと心配していたが、持ち直して安堵している)。

くん のーいん 〈立ち直る〉【活】～のーたん、～のーらん、～のーてい 【例】まぎやんめーから くのーたるあとー ぬー やていん ぬちかぢり やたん。(大病から立ち直った後は何でも命がけだった)。

くん ぱいん 〈踏ん張る〉【活】～ぱたん、～ぱらん、～ぱてい 【例】やーうーちーぬ ていがねさーたーや っんぶむぬん くんぱてい/しーいっぺーさがなー はくでいとうらすん。(引っ越しの手伝いする人たちは重い物も踏ん張って/精いっぱい運んでくれる)。わかさる ばすに ぬーくいーん くんぱてい そーき わどう、あとー わらてい くらさりーっさ。(若いうちに何でも踏ん張ってしておけば、後は笑って暮らせる)。

くん はんすん 〈踏み外す〉【活】～はんちゃん、～はんさん、～はんち 【例】さーるーん きーから くんはんするくとうぬ あくとう、とうびわじゃぬ ちゅぬちやーん ぼっぺーてい うていていん ふいっかかいるぐとう などーる あんぜんべると するくとう などーん。(猿も木から踏み外すことがあるので、鷹職の人たちでも誤って落ちててもひっかかるように安全ベルトをすることになっている)。

くんじょー 〈悪い根性〉 【例】ありんかい ぬーぬ はなし さんてーまん しぐ くんじょー っんぢやすくとう、はなん ふいららん、むぬん いららん。(あの人に何の話をしてもすぐ腹を立てるので、くしゃみもできずものも言えない)。くんじょーむん(根性の悪い者=しむちわるー)。

くんだ 〈こむら〉 【例】ゆなか くんだあがやーっし やでい ふしがらんたっさー。(夜中こむら返りして痛くて大変だった)。「くんだあがやーどう やが やー? がらしまがいどう そーが やー?」んでいち、からふいさーなさーに むでいとうらすたん。(「こむら返りなのか、指のけいれんなのか」と言って、靴を脱がして揉んでくれた)。

くんち 〈元気、体力〉 【例】うちなーぬ なちえー ゴーヤー、っわーじし かまんとーくんちぬ ねーん ないん。(沖縄の夏はゴーヤー、豚肉を食べないと元気がなくなる)。わんねー ちかぐろー をうたいぢゅーさぬ、くんちぶすくっし どうーぬ どうーん むちかんでいー そーっさー。(私は近頃は疲れ過ぎて、元気がなくなって自分で自分の体調も維持できなくなっているよ)。まらそのー くんちすーぶどう やくとう、くんちぬ ねーん っぢゅがー ならん。(マラソンは根気勝負なので、根気がない人にはできない)。

くんぢ 〈紺地〉 【例】くがにーぬ しるっし あさぢくんぢぬ ばさーぢん あらいねー、いるん かわらん、かたん くーりらん、ちーやしく ないん。(クガニーの汁で浅地紺地の芭蕉布の着物を洗うと、色も変わらない、型もくずれない、着やすくなる)。

くんちーん 〈横切って近道をする〉【活】くんちたん、くんちらん、くんちてい 【例】くんちりみち さな。(近道しましょう)。くんちりみーちーっし いか やー。(近道をして行こうか)。

くんち うじにー 〈栄養食〉 【例】んーす かたがたーくっし にちえーる ししじろー、たでーまぬ くんちうじにー ないさ。(味噌を濃くして煮た肉汁は、即効性のある栄養食になる)。

くんちやー 〈乞食〉 【例】くんちやーぬ けーまーいまいー そーん。(乞食がまわり歩

いている)。

くんぢやん 〈国頭〉 【例】くんぢやんぬ ひがしむらをうてー めーにん さんぐわちねー ちちじまちーぬ あてい、んーぢゆる とうくる んーぢゆる とうくる まー んーちん、あかー、しるー、ふじいる、むむいる、だいだいいるんでーぬ いるかじぬ はなぬ さちかんとーん。(国頭の東村では毎年3月にはツツジ祭りがある、見渡す限りどこを見ても、赤、白、紫、ピンク、オレンジ色などの色々な花が咲き乱れている)。

くんぢゅん 〈くびる、縛る、拘束する〉【活】くんぢやん、くんだん、くんぢ 【例】わたーいのー まぎさぬ っぢゅぬ うとうるさすくとう やしぢぬ うち やていん くんぢゅん。(私の家の犬は大きくて人が怖がるので、屋敷内でもくびる)。んなとうぬ ふねー ちなさーに くんだっとーたん。(港の船はロープで縛られていた)。ていーふいさ くんだってい っやーんかえー ちゅらーさ ふいまだーり しみらさったん。(手足を奪われてあなたにはすっかり時間をつぶされた)。つくわ なちやる あとー うやー っくわんかい ていーふいさ くんだってい、まーにん いからん、どうーぬ くとー むる ならん。(子を産んだ後は親は子どもに手足を奪われて、どこにも行けない、自分のことは何もできない)。やみき とうてい いさぬ やーんかい くんだりーねー、どうーぬ うむいるぐとー っんぢゅからんくとう、いさぬやーん るーやん めぬむん やさ。(病気になって入院すると、自分の思い通りに動けないので、病院も刑務所も同じようなものさ)。

くんぺん 〈焼き菓子の一種〉 【例】くんぺのー うゆうえーぐとう、すーこーぐとうんかえー ねーんとーならん むん やん。(クンペンに祝儀、法事には欠かせないものだ)。

くんぴーん 〈踏みつづす〉【活】くんぴたん、くんぴらん、くんぴてい 【例】しりしりー す

なけー、ふいさ くんぴらりーん どー。(くつつくな、足を踏まれるよ)。くつぬ あどー くんぴーんな けー。(靴のかかどをつぶすな)。かんかなー ふいさっし くんぴてい たっぴらかすん。(缶を足で踏みつぶしてペシャンコにする)。

くんぴらかすん 〈踏みつける〉【活】くん

ぴらかちゃん、くんぴらかさん、くんぴらかち

【例】ちゆぬ めーから しりーしりーびかー

っし、くんぴらかさりーん どー。(人の前にくっついてばかりいると、足を踏みつけられる

よ)。ういなぐぬ たかぐつさーに んじゃんじゃーとう くんぴらさってい みーくらがんそーたん。(女性のハイヒールで思いっきり踏みつけられて目眩がしていた)。いふーなういきがんかい とうっかちみらったる とうちねー たかぐつさーに くんぴらかすし やん。(変な男性に捕まえられた際にはハイヒールで踏みつけることだ)。

ぐんぼー 〈ゴボウ〉 【例】ぐんぼー びさ

(細長い足)、じゅり ぐんぼー (女郎買いをする者)。

け、げ

けー 〈貝〉 【例】ぶらげーや けーぬ ていーち やしが、うふむにーさーんかいん 「ぶらげー」んでい いーる とうくるん あん。(ホラ貝は貝の一種だが、ほら吹きにも「ぶらげー」というところもある)。

けー／うけー 〈粥〉 【例】んかしえーにち っんぢたい どうー あんまさる ばすねー、うけーめーとう かちゅーゆーとう ちゅくていくいたん。あんしーねー、たでーままし なたん。(昔は熱が出たり体がすぐれないときには、お粥とかつお節湯を作ってくれた。そうしたら、すぐによくなった)。

げー 〈反抗、口答え〉 【例】うや／しーじゃ／うふっちゅ／とうすい／しんしーんかい げー する むのー あらん。(親／先輩／大人／年寄り／先生に反抗するものではない)。げー さー (よく口答えする者)、げー さー わらばー (口答えをする子)。あん いーねー、かん いーっし ふいっちー げーびけー さんけー。(ああ言えば、こう言っつても口答えばかりするな)。げーびかーっし っちゅぬ いーる くとー むる ちかん。(口答えだけで人の言うことはまったく聞かない)。あれー ぬー いちゃんてーまん げー すん どー。(あの人は何を言っつても口答えするよ)。わんにんかい げー め?(私に口答えか)。

けー〜〈さっと(する)、いつの間に(状態変化している)〉 【例】けーにんとーん (いつの間に寝ている)、けーかわとーん (いつの間に変わっている)、けーうわとーん (いつの間に

終わっている)、けーこーいん (さっと買う)、けーちゅくいん (ぱっとつくる)、けーやみーん (さっとやめる)、けーもーいん (さっと踊る)、けーほーちゅん (さっと掃く)、けーなでいーん (さっとなでる)。けーぬめー (さっと飲め)、けーかけー (さっと書け)、けーゆめー (さっと読め)。んーぢーねー めー でーくに やたくとう けーこーたる むのー、ちっちやくとう なーか むし くーやー やたん。(見たらいい大根だったのでさっと買ったのに、切ったら中は虫食い状態だった)。あっちぐり さくとう、なーぬ きーぬ ふあーや かたはらんかい けーほーちょーけー。(歩みにくいので、庭の木の葉はそばにさっと掃いておけ)。くわーしぬ くー けーうとうすん。(お菓子のくずをさっと払い落とす)。っやーや たかぐつ くみーねー、 みちなかをうてい けーくるぶん どー。(あなたは高い靴をはくと、道中でいきなり転ぶよ)。あっさ かなとーたる むんぬん、いーな けーまーちやる ばー なー?(あんなに達者だったのに、こんなにも早くいきなり亡くなったんだね)。しらん ふーなー さーに けーはちくーわ。(知らんふりしてさっと行って来なさい)。あいこーぬ ぬむるぐとうしえー ぬまんぐとう、んぢやむのー くすい やくとう けーぬめー。(蟻が飲むようには飲まないで、苦いものは薬なのでさっと飲みなさい)。なちゅくとう、わらばーんかい んーだらんぐとう けーいき／けーはりよー。(泣くので、子どもには見られないようにさっと行きなさいよ)。わんが かまなやーん

でい うむと一たる ぱん ういきがしーじゃんかい けーとうらったん。(私が食べようと思っていたパンを兄にいきなり奪われた)。

けー しぢゅん 〈すでに死んでしまう〉
【活】～しぢゃん、～しなん、～しぢ 【例】わらび くるまんかい うっちゃんぎてい うやぬ ぱちんこ そーる っうえーだに けーしぢょーたんでいーる はなしぬ ゆー ちかりーん。(子どもを車内に放っておいて親がパチンコしている間にすでに死んでしまったという話はよく耳に入ってくる)。

けー とういん 〈ひったくる、横取りする〉
【活】～とうたん、～とうらん、～とうてい 【例】みちなかをうてい じてんしゃ ぬとーる っぢゅんかい くさーから かぼん けーとうらったん。(路上で自転車に乗っている人に背後からカバンをひったくられた)。でーくに じょーとうーから とうてい うちきてーし っぢゅぬ けーとういんち そーたん。(大根良いのから取って置いてあったのを他人が横取りしようとしていた)。あぬ ういなごー っぢゅぬ をうとう けーとうらんちびけーっし やー。あんし やなたくまー やる。(あの女性は他人の夫を横取りしようとはばかりしてね。なんとずる賢い女だ)。

けー まーい まーい すん 〈廻って来る〉 【例】まるけーていなーや けーまーい まーいっし くいり よー。(時々は廻って来てね)。

けーいん 〈返る／帰る〉【活】けーたん、けーらん、けーてい 【例】わらびんちゃーや っういーりきさる ばすねー けーりんくるびんっし／とうんぢャーもーやーっし うっさくわったー すん。(子どもたちは楽しいときにはでんぐり返りをして／跳ねたり小躍りして大喜びする)。

けーいん 〈換える〉【活】けーたん、けーらん、けーてい 【例】まーがなをうてい じん けーていくーわ。(どこかでお金を換えておい

で)。くぬ いちまんゑん けーらりーみ?(この一万円両替できるか)。

けー るー 〈交換、交代〉 【例】あかーとう／おーるーとう けーるー しん しむがやー?／ゆたさいびーがやー?(赤いのと／青いのと交換してもいいか／かまいませんか)。いったーや みーやー ちゅくてーさ やー。ちやー みーさしえー まし やくとう、わったー ふるーとう けーるー すみ?(あなたたちは新しい家造ったんだね。いつだって新しいのがいいので、古いのと交換するか)。

けーうち 〈小皿〉 【例】うぬ あたい そーる けーうち とうていくいれー。(これくらいの小皿を取ってくれ)。

けーすん 〈返す、帰す、耕す〉【活】けーちゃん、けーさん、けーち 【例】かとーる しゅむち あちゃーまでいなかい とうしゅかぬんかい けーさんねー ならん。(借りている本明日までには図書館に返さないといけな)。あちねー するたみに うふじん ちかえー さしが、に、さんにんびけーっし むとう とういけーちゃん。(商売するために大金を使いでしたが、2、3年ほどで元金を取り返した)。はる けーちから さねー まちゅん。(畑を耕してから種は播く)。

けーさー 〈(何度も)くり返すこと〉 【例】くーぶいりちゃー、いなむどうち、なかみじろー、ちゅくてい ちゃーき かむしやか あちらしけーさーっし なーちゃどう なーふいん まーく ないる。(昆布炒め、肉汁、中味汁は作ってすぐ食べるより暖め直したりして翌日がさらにおいしくなる)。あれー ふるぐるまー あたらさっし、のーしけーさーっし ちかとーん。(あの人は中古車を大事にして、何度も修理して使っている)。うちなーをうてー むっちけーさー するくとー えーていんかい したたかぬ ぐぶりー ないんでいぬ んかしん ちゅからぬ いーならーしぬ あん。(沖縄では即座にお返しすることは相手にはなはだ失礼だとの昔の人からの言い伝えがある)。

けーし まー 〈裏返し〉 【例】っやーや
けーしまーっし ちちょーん どー。(あなたは裏返しを着ているよ)。っやー セーターや
けーしまー などーくとう、はぢやーに の
ーしえー。しにちゅぬどう けーしまー ち
ーん どー。(あなたのセーターは裏返しにな
っているの、脱いで直しなさい。死んだ人が
裏返しを着るんだよ)。

けーし むどうし 〈おつり〉 【例】なー
だ けーしむどうしえー めーてー をうらん
どー。(まだおつりはもらってはいないよ)。
けーしむどうしえー あていー? ちゃっさ
あがが?(おつりはあったか。いくらあったか)。
けーしむどうしえー っやー めーれー。(おつ
りはあなたがもらいなさい)。けーしむどうし
えー っやー わたくしぐわー しえー。(お
つりはあなたのお小遣いにしなさい)。

けーな 〈腕〉 【例】っんぶむん むちぢゅー
さぬ、けーなぬ やでい、なーちゃー あがら
ん などーたん。(重いものを持ち過ぎて、腕が
痛くて、翌日は上がらなくなっていた)。

けーらすん 〈ひっくり返す〉 【活】けーらち
ゃん、けーらさん、けーらち 【例】うちなーぬ
しーし けーらしーや うーまーい、ふいさ
たたち、けーらちやいっし、ふんとー しーし
ぬ もーとーんねーっし っんぢゅち いっぺ
ー みぐとうな むん やん。(沖縄の獅子舞
いは大回り、足たたき、ひっくり返ったりして、
本当に獅子が舞っているように動いてとても見
事なものだ)。

けーらし くるばし すん 〈ひっくり返
したりして粗末に扱う〉 【活】～さん、～さん、っ
し 【例】がっこーから けーてい ちーねー、
かばのー なぎほーたい けーらしくるばし

さんくとう かきやーんかい かきれー。(学
校から帰ってくると、カバンは投げ出したりひ
っくり返したりしないで掛けるものに掛けな
さい)。

けーりーん 〈ひっくり返る〉 【活】けーった
ん、けーりらん、けーってい

けーりん くるびん すん 〈転げ回る〉

【例】わらびぬ っういーりきさ する とうく
るんかい そーていちゃくとう くさぬ っう
いーんかい にんてい けーりんくるびんっし
うっさーくわったー そーたん。(子どもの
喜ぶところに連れて来たので、草の上に寝転び
回って喜んでいた)。

けーん 〈～回、度〉 【例】ちゅけーん (1回)、
たけーん (2回)、みけーん (3回)、ゆけーん
(4回)、いちけーん (5回)、むけーん (6回)、
ななけーん (7回)、やけーん (8回)、くくぬ
けーん (9回)、とうけーん (10回)。

げーん 〈魔除け〉 【例】ぐしち みーち た
ばてい ふあーぬ さち むしでい「げーん」
ちゅくいん。ぐまーや「さん」んでい いーん。
(三本のススキを束ねて、葉の先を結んで「げー
ん」を作る。小さいのは「さん」という)。ちゅ
ぬ やーんかい かみむん むっちいちゆる
ばすねー、げーん／さんぐわー いっどーけ
ー／うちきとーけー。(人の家に食べ物を持っ
て行くときには、邪気払いを入れておけ／置い
ておけ)。

けんらー 〈威張る者〉 【例】けんらーや
なー はいばいっし すりーずりー する く
とー ねーらん。(驕る者は単独で行動して、寄
り添って行動することはない) 【参】いばやー
(威張る者)。

こ、ご

こーいむん 〈買い物〉 【例】うさきーぬ
こーいむんっし ちゃーっし かむが? かむ
るばすねー わんにん あびていとうらし ど
ー。まじゅんさーに ふいならちとうらすき。
(そんなに買い物をしてどうして食べるのか。食
べるときには私も呼んでくれ。一緒に減らして
あげるから)。

こーい むん さー 〈買い物をする人、買
い物客〉 【例】わんが こーいむんさー や
くとう、わんが かんげーてい すき。(私が買
い物をする役目なので、私が考えてするよ)。

こーいん ぐえー 〈買い食い〉 【例】なま
ぬ わらびんちゃーや こーいんぐえーっし
あっちゃがなー むぬ かどーし あまくまを
うてい みーらっちょーん。(今の子どもたち
は買い食いして、歩きながら食べているのがあ
ちらこちらで目につく)。

こーがーきー 〈頬かむり〉 【例】あまを
うてい むぬくーやーぬ ていーさーじさーに
こーがーきーっし むぬ ふさ そーたん。
(あちらで乞食が手ぬぐいで頬かむりをして物
乞いしていた)。ういきがをうどういぬ ばす
に ういなごー こーがーきーっし ちら く
わっくわち をうどういん。(男踊りをするど
きに女性は頬かむりをして顔を隠して踊る)。

こーぐ 〈腰〉 【例】こーぐ ぬばち むら
んねー ちんまがてい こーぐー ないん ど
ー。(腰を伸ばして座らないと縮んでしまって
腰が曲がってしまうよ)。

こーこーな むん 〈孝行者〉 【例】う

みはまてい びんちょー さーに うやんかい
しわー しみらんぐとう、うやー てーしち
に する こーこーな むん なり よー や
ー。(一生懸命勉強して親に心配はかけないで、
親を大切にする孝行者になんなさいよ)。

こーさー 〈軽いげんこつ〉 【例】しんでい
ごーさー 〈擦り込みげんこつ〉、めーごーさー
〈前頭部のげんこつ〉。っやーや しぐ こーさ
ー くわーさりーん どー。(お前はごつんと
げんこつをやるぞ)。こーぐわーさー/こーげ
ーさー がふあみかすん/ばんみかすん。(げ
んこつを一発お見舞いする/くらわす)。んか
しえー がっこーをうていん やーをうていん
いーし ちかんねー めーごーさー くわ
さってい ふどううういーていどう ちょーし
が、なまぬ じでーや わらびんかえー てい
ー っんぢやちえー ならんくとう などー
ん。(昔は学校でも家でも言うのを聞かないと
げんこつをもらって成長してきているが、今の
時代は子どもには手を出してはいけなくなっ
ている)。

こーじ 〈カビ〉 【例】なちぬ あちさるばす
に すでいながー ちち あっちーねー、こー
じ ふちゅん どー。(夏の暑いときに長袖を
着て歩いたら、カビがはえるよ)。

こーじん すん 〈告げ口をする〉【活】～さ
ん、～さん、～っし 【例】あれー ちちやる は
なしえー むる まーやーくいーやーをうてい
こーじん すくとう、ありんかえー ぬーん
いらんしえー まし。(あの人は聞いた話は

すべてどこでも話してしまうので、あの人には何も言わない方がいい)。

こーとう 〈爪先、手の卑語〉 【例】うちなーをうてー あしていびちぬ あてい っわーぬ ちまぐーまでいん かむしが、とーをうてー とういぬ こーとうまでい かむん。(沖繩ではあしていびちがあって豚の足先も食べるが、中国では鳥のつま先まで食べる)。

こーる 〈香炉〉 【例】うちなーぐゆみぬ ちーたち、じゅーぐにちねー うこーるんかい うこー じゅーぐふん たていてい、 うぶくん うさぎてい うぐわんすんかい まるふいーじーぬ しでいがふーとう からだがふーにがてい ていー うさーすん。(陰暦の一日、十五日には香炉に線香を15本立てて、ご飯もお供えしてご先祖様に常日頃の感謝と健康を願って手を合わせる)。

こーるー 〈駒〉 【例】んかしぬ ういきがわらびんちゃーや どうしぬ ぐとう こーるー

むっちあっち どうーちゆい やていん こーるー まーち、ちな わたい しみたい、ていーぬ わたんかい ぬしたいっし あしどーたん。(昔の男の子たちは友のように駒を持って歩いて、一人でも駒を回して、綱渡りをさせたり、手のひらに乗せたりして遊んでいた)。

こーれー ぐす 〈唐辛子〉 【例】むぬ かむるばすに こーれーぐす いりーねー、どうーぬ ふあーふあーっし ぬくたまいん。(食事をするとき唐辛子を入れると、体がほてって暖まる)。こーれーぐす しち やくとう すば かむる ばすに ばっペーてい いりぢゆーさたん。やくとう、くちぬ なーかん、はなん ふいーふいーっし、みーなだん っんぢてい ふしがらん あたい ふいーたったーそーたん。(唐辛子好きなのでそばを食べるときに間違えて入れすぎてしまった。それで、口の中も鼻もヒリヒリして、目も涙も出てがまんできないほどヒリヒリしていた)。

くわ、ぐわ

くわー、つくわ 〈過ぎ〉【例】ちゃぬよ
ーな くとう やていん いーつくわしーねー
たげーぬ たみ ならん。(どのようなこと
でも言過ぎるとお互いのためにならない)。い
ーつくわ いーぶすこー くねーてい くみそ
ーり。(言い過ぎ言い足りないことは大目に見
てください)。

～**ぐわー** 〈指小辞〉【例】あみぐわーぬ
うていてい ちゅーくとう、ふえーくなー け
ーりわどう ない。(雨が落ちてくるので、早
く帰らないといけない)。うふるめんたー そ
ーてい しんしーぐわーしー／ぬーしぐわーし
ー そーん。(ままごとをやって先生のふり/
主人のふりをしている)。

くわーぎ 〈桑の木〉【例】くわーぎぬ み
ーんかい「なんでんしー」んでいいち、まっく
ーるー なてい んでいからどう まーさる。
(桑の木の実に「なんでんしー」と言って、真っ
黒くなって熟してからがおいしい)。

くわじ 〈火事〉【例】んかしえー きーやー
やたくとう くわじやか うとうるさる く
とー ねーんたしが、なま やていん うかつ
とう しーねー うくりーん。(昔は木造建て
だったので火事よりも恐ろしいものはなかった
が、現在でもうっかりしたら起こる)。くわじち
やーさー (消防夫)。

～**ぐわー しえー** 〈～ごっこ〉【例】いく
さぐわーしえー (戦争ごっこ)、みーとうんだ
ぐわーしえー (夫婦ごっこ)。

くわーすん 〈(口紅などを)塗り込む、(香水
などを)つける〉【活】くわーちゃん、くわーさ
ん、くわーち【例】なーから どうぐわい と
うていちゃーに ほーちゃーさーに んぢ と
うてい あかち やまちえーる とうくまんか
い くわーちよーけー。みじぶつくわーや さ
んさ。(庭からアロエをとって来て包丁で刺を
とって割いてケガをしたところに塗っておきな
さい。水ぶくれはしないから)。まちなかをうて
い とうんけーいる あたいぬ ちゅらういな
ぐ やたしが、いっペー かばさる かばーぐ
わー くわーちよーたん。(街で振返るほどの
美人だったが、とてもいい香りの香水をつけて
いた)。ちゃっさー っんままでい やたんて
ーまん、むーぢなくーや なしらんていん し
むしが、くちべねー くわーち いき よー
やー。(たとえそこまででも、ファンデーション
は塗らなくても、口紅は塗って行きなさいね)。
ういなごー なちえー ていーだんかい やき
らんぐとう、ちらとう ていーんかい くりー
む くわーちよーん。(女性は夏は陽に焼けな
いように、顔と手にクリームを塗っている)。

くわーすん 〈食わせる〉【活】くわーちゃん、
くわーさん、くわーち【例】やながんまりっし
ういきがぬ うやから ゆー こーぐわーさ
ー くわーさったん。(いたずらして父親から
よくげんこつを食わされた)。くるま とうみ
てー ならん とうくまんかい とうみやーに
くーじぐとう なてい ぼっちん(＝くわし
ん) くわーさったん。(駐車してはいけないと
ころに駐車して違反の罰金を払わされた)。

くわーすん 〈挟み込む〉【活】くわーちゃん、くわーさん、くわーち【例】くぬ かべー かじんかい とうばさんぐとう むぬ くわーちょーけー／うしちきとーけー。(この紙は風に飛ばされないようにものを挟んでおきなさい／押し付けておきなさい)。じてんしゃぬ くるまとう くるまんかい くわーさつとーしんーちゃしが、じてんしゃぬ ぬーしえー ちゃー なたが やー?(自転車か車と車に挟み込まれているのを見たが、自転車に乗っていた人はどうなったのかねえ)。

くわーりーん 〈食われる〉【活】くわーつたん、くわーりらん、くわーつてい【例】くねーだー かきぐとうんかい ちゃっさ くわーつたが?(この間は賭け事にいくら負けたか)。

くわいん 〈喰らう〉【活】くわたん、くわーん、くわてい【例】あれー したたかな やなぐちゃー やてい っちゅ くわいん どー。(あいつは汚い言葉を吐いて人を参らせる)。

〜ぐわち 〈〜月(がつ)〉【例】そーぐわち(正月)、にんぐわち(2月)、さんぐわち(3月)、しんぐわち(4月)、ぐんぐわち(5月)、るくぐわち(6月)、しちぐわち(7月)、はちぐわち(8月)、くんぐわち(9月)、じゅーぐわち(10月)、しむちち(11月)、しわーし(師走)。

くわっくわすん 〈(見えないように)隠す〉【活】くわっくわちゃん、くわっくわさん、くわっくわち【例】いの一 むぬ くいーねー ていーちびけー うちきやーに あとうぬ むの一 あな ふてい うみやーに くわっくわすん。(犬は物を食べると1つだけを置いて残りは穴を掘って埋めて隠す)。さしん ぬぢゅしが、めーぬ まぎっちゅが くしぬ っちゅ くわっくわち みーらん、なー うふえー にぢりんかい ゆみそーれー。(写真を撮るけど、前列の大きい人が後ろの人を隠して見えない、もう少し右に寄ってください)。

くわっくいーん 〈隠れる〉【活】くわっくいたん、くわっくいらん、くわっくいてい【例】あれー じん かやーに しらんふーなーっし くわっくいまいーい そーっさー。(あの人はお金を借りて知らんふりして逃げ回っているよ)。いふーな っちゅんかい ちゃー っわーつとーる っちゅ くわっくいらする たみに なーむらむらをうてい ちむあーし さんねーならん。(ストーカーに追われている人をかくまうために各地域で協力しないとイケない)。
くわっくい ぐとう 〈隠し事〉【例】わんにんかえー ぬーぬ くわっくいぐとうん しえー くいーんな。(私には何の隠し事もしてくれな)。

くわっくいん とーれー 〈かくれんぼ〉【例】んかしぬ わらびんちゃーぬ あしび やしが、ちゅいや うに なやーに みー うすてい とうーまでい ゆどーる っうえーだに ふかぬ っちゅぬちゃーや なーめーめー くわっくいーん。うにぬ 「とー る?(なーしむみ?)」んでい いーねー、ふかぬ わらびんちゃーや「とー やさ(なーしむん どー)」んでい ふいんとー すん。あんしから、まーんかい くわっくいとーがやーんち うにぬ ちゅいなー ちゅいなー とうめーてい あっちゅん。(昔の子どもたちの遊びだが、一人が鬼になって目をふせて10まで数えている間に他の子どもたちは各自隠れる。鬼が「もういいかい」と言うと、他の子どもたちは「もういいよ」と答える。それから、どこに隠れているのかなあと鬼は一人一人探し歩く)。

くわっちー 〈ごちそう〉【例】くわっちーかむる めーねー「くわっちー さびら」、かだる あとー「くわっちー さびたん」んでい る くとうばー ちかいなりらな。(ごちそうを食べる前には「いただきます」、食べた後では「ごちそうさま」という言葉は使いなれようね)。

くわびー すん 〈贅沢する〉【活】〜さん、〜さん、〜っし【例】っうえーきんちよー むぬ していーるくとー さん、ちかーりーるまで

い ちかてい、かまりーるむのー むる かむん。あんすくとう、どうく くわびー／すそーん しーねー あとー ふいんすーむん ないん。(お金持ちはものを捨てることはしない、使えるまで使って、食べられるものはすべて食べる。だから、あまり贅沢を／ものを粗末にすると貧乏になるよ)。

くわふー 〈果報、幸運〉 【例】 どうーくる っんぢゆかんぐとう くわふー かしみーる くとー ならん。(自分自身が動くこともしないで幸運をつかむことはできない)。っやーや うれーまさる あたい どうーぬ うむい る くとうぬ かなてい くわふーなむん やさ。(あなたは羨ましいほど自分の思っていることがかなって幸せ者だ)。

くわふーし／かふーし 〈(目上から目下に)よくやってくれてありがとう〉 【例】 う っとうんかえー、「くわふーし どー」や「にふえー どー」やかん ちむ いっちょーる くとうば などーん。(年下には、「くわふーしどー」は「にふえーどー」よりも気持ちの入っている言葉になっている)。くわふーし やたさ。(よくやってくれて、ありがとう)。まーていっ ちくいてい くわふーし やたん どー。(廻って来てくれてありがとうよ)。にふえー で

ーびる。(ありがとうございます)。しでいがふー でーびる。(ありがとうございます、頂戴物をして)。

くわんさち 〈鑑札、免許〉 【例】 しんしーぬ／いさぬ／あちねーさーぬ くわんさち む っちょーみ?(先生の／医者 of / 商売人の免許を持っているか)。

ぐわんす 〈元祖〉 【例】 ぐわんすむちやーや / ぐわんすむちすこー たー やが?(元祖の継承者は誰か)。うやふあーふじえー めんそーらんていん うぶちだぬんかい ていー うさーち えーさちえー しーびちー やん。(御先祖さまはいらっしゃらなくても御仏壇に手を合わせて挨拶をすべきだ)。うぶちだぬんかい うさぎれー／うさぎていとうらしえー。(御仏壇にお供えなさい／お供えください)。【参】 うぶちだん (御仏壇)、いふえーだん (位牌段)、うやふあーふじ (ご先祖)。

くわんそー 〈萱草〉 【例】 みーぐふあいつ し にんだらん ばすねー くわんそーとう かしゆーぶし たぢらち しんじむん ちゆく てい ぬみーねー にんぢやしく ないん。(目が覚めて眠れないときには萱草と鯉節を煮て煎じものを作って飲むと眠りやすくなる)。

つくわ、ぐわ

つくわ 〈子〉 【例】つくわぬちゃー (子どもたち)、ちゅいんぐわ (一人っ子)。ういきがんぐわ / をうーんぐわ (男の子)。ういなぐんぐわ / みーんぐわ (女の子)。あかんぐわ (赤ん坊)、うみんぐわ (お子様)。うやぬ くくる しらん ゆむんぐわ (親心をわからないバカな子)。ういなぐぬ うやが つくわ うむいる ちもー うみやかん ふかさんでい。(母親の子を思う心は海よりも深いんだって)。つくわ っんまがー さけーていどう ふあーふじえー ながぬちん んーぢゆる。(子孫が栄えてこそ祖父母は長生きできる)。つくわ なしんーち どう うやぬ をうのー わかいる。(子を産んでみてはじめて親の恩はよくわかる)。

つくわ うむやー 〈子煩悩の者〉 【例】すーさー、そーみなーや いっぺー つくわうむやー やてい、わったー なーぬ くるちんかい しー ちゅくてい くーが しでいていからはにぬ みーるまでいん、ちゅにんぢのー ゆしちきらんたん。んーぢゆんでい さーに うやどういんかい ちちかりーぎさー そーたん。(ヒヨドリ、メジロはとても子煩悩で、私の家の庭の黒木に巣を作って卵がかえって羽が生えてくるまでも、人を寄せつけなかった。覗こうとして親鳥に突つかれそうになった)。

つくわ ぐわー 〈動物の赤ちゃん〉 【例】ぱんだぬ つくわぐわーや あんし くーさる、うふいーびぬ あたいどう ある。(パンダの赤ちゃんはなんと小さいことか、親指くらいしかない)。

つくわ なさー 〈お産の軽い人〉 【例】つくわなしぬ かっさる ちゅんかい「つくわ

なさー」んでい いーん。(お産の軽い人に「つくわなさー」と言う)。

つくわ なし みち 〈子の産み方〉 【例】つくわ なしみちえー しっち、つくわ ふどうっわーする みちえー しらん。(子の産み方は知って、子を育て方は知らない)。

つくわ なしみ やー 〈助産婦〉 【例】んかしえー いさぬやー やかん、つくわなしみやーんかい かかてい つくわ なちよーたん。(昔は病院よりも助産婦にかかって子を産んでいた)。

つくわ びーちゃー 〈子びいきの者〉 【例】つくわびーちゃーぬ うやぬ つくわぬどうりっぱに ふどうっういーんでい。(自分の子をひいきする親の子がりっぱに育つて)。あまぬ わらべー ぬららんしえー まし、うやー はていぬ つくわびーちゃー どー。(あそこの子は叱らないほうがいい、親はたいへんな子びいきだよ)。

つくわ むちゃー 〈子持ち〉 【例】どうーぬ つくわ やていん ぬーぬ あたが わからんくどう、つくわむちゃーや ちゅぬ つくわ ぬらいるむのー あらん。(自分の子でも何があったか分からないので、子を持つ親は他人の子を叱るものではない)。

つくわ むやー 〈子守り〉 【例】んかしえー ちゅいさーに うっとうぬちゃー みっちやい つくわむやー さん。ちゅえー うーふあ、ちゅえー だち、ちゅえー ていーふいち そーたん。(昔は一人で弟妹を三人子守りした。一人はおんぶして、一人は抱いて、一人は手を引いていた)。

くい、ぐい

くいー 〈声、消息〉【例】くいー ちちゅん。
(どうしているか聞く)。なげー くいーん ち
からんたしが、ちゃー そーたが？(長いこと
音沙汰もなかったが、どうしていたか)。たーり
ーんかい うんちゅー をうがでい くいり
よー。(お父さんによろしく言ってね)。【参】う
んちゅー(ご機嫌)、うんちけー(ご招待)、う
んちえー(拝借)、うんでー(お叱り)。

くいー がーい 〈声変わり〉【例】くいー
がーい する めーぬ ういきがわらびんちゃ
ーぬ がっしょーだん やん。(声変わりする
前の男の子たちの合唱団だ)。

くいー がらー 〈声がかれた者〉【例】な
げー ゆんたくふいんたく さーに ちゅらー
く くいーがらー などーたん。(長い間おし
ゃべりしてすっかり声がかれてしまっていた)。

くいー ぢゅくり 〈咳払い〉

くいーじきーん 〈背負い込む〉【活】くい
ーじきたん、くいーじきらん、くいーじきてい
【例】っちゅぬ しわぐとう くいーぢきてい
わーまでい ちむぬ っんぶく などーん。
(人の心配事を背負い込んで私まで心が重くな
っている)。

くいー〜〈喰い〜〉

くいー くいむん 〈喰い込む〉【活】くい
ーくだん、くいーくまん、くいーくでい 【例】
いすぢよーる とうちに ちゃっくぬ くいー
くでい あっかん なてい じゃーふえー さ
ん。(急いでいるときにチャックが喰い込んで
動かなくなって困った)。

くいー ちゃーすん 〈喰いしばる〉【活】〜
ちゃーちゃん、〜ちゃーさん、〜ちゃーち 【例】
なーふあぬ うふちなふいちねー はー くい
ーちゃーち うすまさ ちばたしが、ちゃー
すんかりー さったん。(那覇の大綱挽には歯
を喰いしばって一生懸命がんばったが、ずうっ
と引きずられた)。

くいー ちちゅん 〈噛み切る〉【活】〜ちち
ゃん、〜ちかん、〜ちっち 【例】ふしいちゃー
くふあさくとう くいーちっち かむしが、
あじくーたー やてい いっペー まーさん。
(干シイカは固いので噛み切って食べるのだが、
味があってとてもおいしい)。

くいー わいん 〈噛んで割る〉【活】〜わた
ん、〜わらん、〜わてい 【例】くぬ くるぎー
たーや くふあさぬ、いりばーどう やくどう
じよーい くいーわらん。(この黒砂糖は
固くて、入れ歯なのでなかなか噛んでも割れな
い)。

くいーみちーん 〈閉め切る〉【活】くいーみ
ちたん、くいーみちらん、くいーみちてい 【例】
あまぬ やーや はしるん むる くいーみち
らっとーしが、まーがなんかい っんぢどう
をうが やー？(あちらの家は戸も全部閉め切
られているが、どこかに行っているのかねえ)。

くいーん、 くいーゆん 〈越える〉【活】
くいーたん、くいーらん、くいーてい 【例】う
ふみち くいーてい ふいぢやいんかい まが
いーねー わったー やーぬ あさ。(大通り
を越えて左に曲がると私の家がある)。あぬ

むい くいーねー、んぞが っんまりじま や
さ やー。(あの山を越えると、恋人の里だね)。
くぬ ゆーをうてい うり くいーていぬ ま
ーさるむのー ねーらん。(この世でこれ以上
のおいしいものはない)。わらびぬ ふどうっ
ういーしえー ふえーさぬ、なー わんたき
くいーていねーらん。(子どもの成長は早くて、
もう私の背丈を越えてしまった)。

くいん、くいゆん <くれる>【活】く

いたん、くいらん、くいてい【例】むぬ くい
ーしどう わー うすー。(食べていけるのを
保証する人こそ我が主)。わんにんかえー ぬ
ーぬ くわっくいぐどうん しえー くいんな
よー。(私には何の隠しごともしてはくれる
なよ)。ふいーさ そーいねー ちん くしり、
やーさ そーいねー むぬ くいり。(寒がっ
ている人には服を着せなさい、ひもじい思いを
している人には食べ物あげなさい)。

くえ、ぐえ

くえー 〈肥料〉 【例】 いったー ごーやーや
あんし ゆかとーる！ あたいぐわーぬ く
えーや ぬー いっとーが？(あなたの家のゴ
ーやーはなんとよく実っていることか！ 菜園
の肥料は何を入れているのか)。うとーし ち
かていどう ちゆくとーん どー。(売ってい
るのを使って作っているよ)。

くえーいん 〈太る〉 【活】 くえーたん、くえ
ーらん、くえーてい 【例】 っやーや まーさむ
ん かみぢゆーさぬ、くえーどーりっし いさ
がかいすん どー。(あなたは食べ過ぎて、食
い倒れて通院するよ)。

くえー ぶたー／くえー たー／くえ
ー やー 〈デブ〉 【例】 くえーぶたーんか
い かがんじでーくにんてい いーしが、っや
ーや かがんじでーくにぬ ぐとーんてい い
らっどーし わかいみ？(デブに鏡水大根と言
うが、あなたは鏡水大根のようだとわかれてい
るのをわかっているか)。

くえー 〈喰らい〉 【参】 「くわ+い」からの
変化。

くえー くち 〈食費〉 【例】 ていまー い
きらさぬ、むのー たかさぬ、くえーくちえー
ゆー くめきてい さんねー ならん。(給
料は少なく、物価は高く、食費は節約しな
いとイケない)。

くえー ぢらー 〈食ってばかりで仕事をし
ない者〉 【例】 あぬ やーぬ ういきがんぐ
わー しくちん さん、くえーぢらー なてい
とうじなやーや をうらん。(あの家の男の
子は仕事もしないで、穀つぶしで嫁のなり手は
いない)。

くえー ぶー 〈食い運〉 【例】 なま くわ
っちー かむんち そーる とうくるんかい
ふえーりんち ちゆーる っちゆんかい くえ
ーぶーぬ あんでい いーん。(今はごちそう
を食べようとしているところにタイミングよく
入って来る人に食い運があるという)。

くえーち 〈全快〉 【例】 ながわじゃれーっし
いさぬやーんかい くんだっどーたしが、く
えーちっし ゆるっとう なたん。(長患いを
して入院していたが、全快してほっとした)。

ぐえったい 〈泥んこ〉 【例】 あまー ぐえ
ったい そーてい なんどうるく なんとーくど
う、ちー ちきり よー。(あそこは泥んこにな
って、すべりやすくなっているので、気をつけ
なさいよ)。うふあみぬ ふいねー、うみちとう
みじぬ あんでいてい あとー みちえー
どうるぐえったい なてい からびさっしどう
あっかりーたる。(大雨が降ったら、水がどっ
と溢れて後は道は泥んこになって素足でしか歩
けなかった)。

さー 〈靈力〉

さー だか つんまり 〈靈力のある者〉

【例】さーだかつんまれー ていーに どうららん くとうん ちちやい んーちやい する くとうぬ ないん。(神通力のある人は手に取れないことも聞いたり見たりすることができる)。

さー まき 〈靈力負け〉 【例】かかいむん どうーくる はんしえーうーさん たみに さーまき そーてい どうー やんとーん。(憑依を自分ではずせないために靈力に負けて体が弱っている)。

さー 〈差〉 【例】っやーとう わんとー いくちぬ さー やが?(あなたと私はいくつの年齢差があるか)。ちゅまーる さーぬ あん どー。(12歳の差だよ)。っやーとー むぬ さー やさ やー。(あなたとは同じ年齢だね)。

さー 〈すこしばかり〉

さー ふうふう 〈ほろ酔い加減〉 【例】さけー さーふうふうまでい ぬでいどう ちむん つういーりきさる。(酒はほろ酔い加減まで飲んでこそ心も浮き浮きするものだ)。わかう いなぐぬ さーふうふう そーしえー あったに ちゅらばなぬ さちゃんねーっし っちゅぬ みー ふいちゅん やー。(若い娘がほろ酔うさまはぱっと花が咲いたように人の目を引くものだね)。っちゅびれーん さんとー ならん ばすん あしが、さき ぬみーねー さーふうふうぬ あたいどう まし どー。(付き合いもしないといけないこともあるが、酒を飲んだらほろ酔い加減が良いね)。あまから

ぶーらーさっさいっし ちゅーしえー とうないぬ カマデーどう やん てー、ちゅーん さーふうふう そーっさ やー。(あそこから千鳥足で来るのは確か隣りのカマデーだよ、今日もほろ酔い機嫌だね)。

さー ぐさみち 〈少しばかり怒ること〉

【例】ぬーが やら わからんしが、あれー さーぐさみち そーたん どー。(どういうことか分からないが、あの人は不機嫌だったよ)。

さー ゆー 〈白湯〉 【例】くすえー さーゆーっしどう ぬむん どー。ぬーがんでい いーねー、どうーんかい いしぬ たまてい やんめー ちゅくいる くとうぬ ねーん ないんくとう。(薬は白湯で飲むんだよ。なぜかと言うと、体に石灰が溜まって病気になるってしまうことがなくなるから)。

さーい 〈つわり、跳ね返り〉 【例】っくわ

むっちょーくとう、むぬ はかーはかーっし さーい そーん。(妊娠しているので、ものを吐きそうにしてツワリしている)。っわーばぐとう さくとう、っやーまでい さーい うきとーしえー。(余計なことをしたので、あなたにまで跳ね返って来ているんだね)。ぬーんくいーん しーぢゅーさぬ、あとー さーい さーい にんぢ くどーん。(何もかもやり過ぎて、終いには病気になって寝込んでいる)。

さーい まき 〈つわり負け〉 【例】さーいまき しーねー むぬん かまらん なたい、にんだらん なたい、ふかんかい っんぢぶしこーねーん なたい っし ぬーん ならんないん。(つわりで体が弱ると食べ物も食べれ

なくなったり、眠れなくなったり、外出したくなくなったりして何もできなくなる)。

さーいん 〈触る〉【活】さーたん、さーらん、さーてい【例】ないむのーぬーんぬーんさーららん。(果物は何でもかんでも触れない)。

さーし 〈錠〉【例】さーしえーさーしぬっくわっしあきーん。(錠は鍵で開ける)。さーし いっちょーがすらぬーちくーわ。(錠をかけているか見ておいで)。さーし いっちょーがをうらぬーちくーわ。(錠をかけてあるか見ておいで)。

さーじ 〈鉢巻き〉【例】はじみていぬあかんぐわぬっんまりてい、うぬつくわぬからじぬきーぬさーじまきっしはぎーねー、あとうっんまりーしえーういきがぼーじゃーやんでいいらっとーたん。(初めての赤ちゃんが産まれて、その子の髪の毛が鉢巻きのようにして抜けると、次に産まれるのは男の子だと言われていた)。

さーじゃー 〈サギ〉【例】まんこぬさーじゃーやまーからがとうでいちよーらやー?(曼湖のサギはいったい何処から飛んで来たのかなあ)。

さーたー 〈砂糖〉【例】うちなーをうてーくわーしんむちんぬみむぬんくるざーたーちかていちゆくいん。(沖縄ではお菓子も餅も飲み物も黒砂糖を使って作る)。んかしえーくるざーたーちゆくいるためにうしっんまんかいふいかさーにみぐやーみぐやーしみていをうーじぬしるしぶとーたん。(昔は砂糖を作るために牛馬に引き廻らせて砂糖キビの汁を絞っていた)。さーたーぬあまさとうこーれーぐすぬからさとうれーぬーすが?(砂糖の甘さと唐辛子の辛さを取ってどうする、本来の個性失って価値がなくなる)。

さーたーあんだぎー 〈砂糖てんぷら〉【例】さーたーあんだぎーやいるかじあて

い、ハワイをうていんなんべいをうていんなーあるうちなーぐわーしなどーん。(砂糖てんぷらは種類が多くて、ハワイでも南米でも有名な沖縄菓子になっている)。**【参】**あがらさー(揚げ物)。

さーらー／さーなー 〈逆立ち〉【例】まかんざかぬさかだちゆーりーやていーぬふいさなてい、さーらーなていあっちょーたんでい。(真嘉比坂の逆立ち幽霊は手を足にして、逆さになって歩いていった)。

さーるー 〈猿／人真似をする者〉【例】さーろーむるねーびすくとう、ちちゆぬねーびさーや「さーるー」んでいいーん。(猿はなんでも真似るので、人の真似する者は「さーるー」と言う)。

さーれーさんぐわん 〈危うきに近寄らず、触ると三貫〉【例】ぬーんでいいーねーなちどうすくとう、あれーさーれーさんぐわんどー。(何か言うと泣くので、あの人は近寄れない人だよ)。あれーたんちやーなてい、ありんかえーむぬんいららん、はなんふいららん、さーれーさんぐわんどうやんどー。(あいつは短気で、あいつにはものも言えない、くしゃみもできない、まさに危うきに近寄らずだ)。

さいた **ちちゆ／むん** 〈変な人／もの〉【例】わったーしくちばんかいさいたちちゆぬいっちょーっさー。じゃーふえーなどーさやー。(私たちの職場に変な人が入って来ているよ。困ったことだよ)。

さか 〈逆〉【例】やないみぬーちん、いめーさかいみやくとうしわするむのーあらん。(嫌な夢を見ても、夢は逆夢だから心配するものではない)。やーんかいけーいんちんかていどうをうたしが、まゆていさかんかいんかていあっちょーたん。(家に帰ろうと向かっていたが、迷って逆方向に向かって歩いていた)。

さか どうい すん 〈素直にとらない〉

【例】さかどうい すくとう、ありんかえーむのーいらんしえーまし どー。ゆーちらーねーん。(素直にとらないので、あの人にはものは言わないほうがいいよ。言ってもしょうがない)。

さか むにー 〈不合理なことを言うこと〉

【例】あれーおーやーどー。ぬーんでいーいーねー、さかむにーすくとう、あれーたんきりよー。(あの人はけんかを売る人だよ。どうしてかと言うと、理屈に合わないことを言うので、あの人は手加減しなさいね)。

さか まちげー 〈逆まつげ〉 【例】さかまちげーみんなまんかい さーたいっし やむるばーん あん。(逆まつげは眼の玉に触れて痛くなるときもある)。

さか みじ 〈逆流する水〉 【例】なーんかい みじ まちよーいに どうく はらしぢゆーさぬ、ホースぬ くちから さかみじぬ ふちっんどーたさ。(庭に水をまいているときにあまりにも水の勢が強過ぎて、ホースの口から水が逆流して吹き出していた)。

さか んけー 〈旅の帰りを迎えること〉

【例】ちちよーでーぬ うみ わたてい けーていちゆーる ふいーやくとう、ちゆーや やーにんじゅっし さかんけー しーが いちゆん。(身内が海を渡って帰って来る日なので、今日は家族で迎えに行く)。

さがい 〈低地〉 【例】わったーやーや さがい なてい くらさしが、いったーやーや あがいんかい あくとう あかがてい しだこーねーらに？(私たちの家は低地なので暗いが、あなたたちの家は高いところにあるので明るくて涼しくはないの)。

さがいん 〈下がる〉 【活】さがたん、さがらん、さがてい 【例】ちぬーやか ちゆーやでーぬ しんゐんびけー さがとーたん。(昨日より今日は値段が千円ばかり下がっている)。
【参】沖縄語では、千円は「しんゐん」、「しえんゑん」のいずれも使われている。

さがい ていーだ 〈夕日〉 【例】さがいていーだぬ くがにーいるんかい ていん すみてい うみまでいん あかがとーん。(夕日が黄金色に天空を染めて海までも色づいている)。
あがいていーだどう をうがむる、さがいていーだー をうがまん。あがいんかえーちゆーふいっちーぬ にげーぐとう さーに、いりんかえーしでいがふーすん。(朝日を拝むのであって、夕日は拝まない。東方には今日一日の願いごとをして、西方には感謝する)。

さがい いゆ 〈新鮮ではない魚〉 【例】さがいいゆ やくとう なまむのーかまんぐとう、にちから かむしえーまし やさ。(新鮮ではない魚なので刺身にしないで、煮て食べたほうがいいよ)。
【参】さがとーる いゆ (新鮮ではない魚)。

さがい ごーい 〈掛けで買うこと〉 【例】んかしえーまーぬ ちねーやていん まちやーぐわーから さがいごーいっしどう わらびんちゃーふどうっわーちゃんてい。(昔はどこの家庭でも掛けで買って子どもたちを育てたんだって)。

さかな やー 〈料亭〉 【例】さかなやーやちーじんかい あちまとーていういきがぬ むどうくる やたんでい。(料亭は辻町に集まっていて男性の寄り集まる場所だったよ)。

さき 〈酒〉 【例】さきんかいどう ぬまっとーる め？ っやーがどう さけーぬむる。(酒に飲まれているのか。酒を飲むのはあなたじゃない)。
さき ぬましわどう っちゆぬ そーぶのー わかいる。(酒を飲ませば人の性格が分かる)。

さき がく 〈酒飲み過ぎでおこる病気〉

【例】あまぬ ういきがぬ うやーさきがくさーに けーまーちよーっさ。(あそこの男親は酒飲み過ぎで亡くなったよ)。

さき がち 〈二日酔い〉 【例】さきがちさーに しくちんかい いからんたん。(二日酔いして仕事に行けなかった)。

さき くえー 〈酒飲み〉【活】さき ぬまー
 〈酒飲み〉【例】わかさる ばすぬ をうとー
 さきくえー やてい ちゃー さき さがら
 しみらさつとーたん。(若いときの夫は酒飲み
 でいつも酒を掛けて買わせられていた)。

さき じょーぐ 〈酒好き〉【活】さき じょ
 ーぐー 〈酒好きの者〉【例】っやーや さきじ
 ょーぐー やらー、ぬみじょーじ なりわどう
 やる。(あなたは酒好きなら、飲み上手じゃな
 いといけない)。

さき やー 〈酒屋〉【例】さきやーや さ
 き ういる あちねー やてい、さき ちゆく
 いる とうくろー あらん。(酒屋は酒を売る
 商売で、酒を造るところではない)。

さき ういー 〈酒酔い〉【例】さきういー
 そーんねーっし っちゆういー する ぼー
 ん あん。(酒酔いしているように人酔いする
 ときもある)。

さきーん 〈裂ける、割ける〉【活】さきたん、
 さきらん、さきてい【例】せんざいまき さー
 に いーびぬ さち さきやーに くちぬ あ
 ちよーん。(洗剤負けして指の先が割れて裂け口
 が開いている)。ちみぬ にーぐいぬ さかん
 かい さきーる っちよー うやむどういんぐ
 わ やんでい ちちやるくとうぬ あしが、じ
 んとー やが やー？(爪の根元から逆に切れ
 目がはいる人は親不孝ということがあがる、本
 当なのかねえ)。

さぎーん 〈吊るす、下げる〉【活】さぎたん、
 さぎらん、さぎてい【例】んかしえー さぎじ
 ょーきーんかい かみむん いってい しださ
 る とうくまんかい すがち さぎとーたん。
 (昔は竹製の吊るしカゴに食べ物をを入れて涼し
 いところに風を通して吊るしていた)。いちや
 じる ぬみーねー どうーぬ どうこー むる
 さぎーんでい。(イカ汁を飲むと体を解毒す
 るんだって)。

さきむい 〈結納〉【例】さきむいねー、く
 わっちー しこーてい ゆみどうい する や

ーんかい すりてい っんぢやーに、たとうく
 まぬ えーさちぬ あてい さきむいぬ ぢし
 ち すん。(結納には、ごちそうを準備して嫁取
 りする家にそろって訪れて、両家の挨拶があっ
 て結納の儀式をする)。

さく 〈量、程度、ほど〉【例】ぬーぐとうに
 ん さくぬ あん。(何事にも適量がある)。う
 っとうぬ ちゃっさ ぱくぱく さわん、しー
 じゃ さこー ぬーん ならん。(弟がいくら
 口ばかり出しても、兄ほどには何もできない)。
 さくん ねーん ぬみよーっし ういーふりと
 ーん。(限度のない飲み方をして酔いしれてい
 る)。さけー ちゃぬ あたいぬ みーさく や
 がやー？(酒はどれくらいが適量なのかなあ)。
 さんばー する さこー しえーくいーんな
 けー。(したくないんだったらしないでね)。か
 まらん かみ する さこー かまん けー。
 (無理して食べようとするんだったら食べない
 でね)。

さくいん 〈引っ掻く〉【活】さくたん、さくら
 ん、さくてい【例】ちんくわー さくてい ち
 らぬ かーたー ちゆくやーに なーぬ きー
 んかい さぎとーちゆん。(カボチャを引っ掻
 いて仮面を作って庭の木に下げしておく)。

さく ふいら 〈急な上り坂〉【例】んかし
 みちんかえー さくふいらぬ ぬくとーん。(旧
 道には急な上り坂が残っている)。

さぐいん 〈探る〉【活】さぐたん、さぐらん、
 さぐてい【例】がっこーから けーていちー
 ねー、あま さぐい くま さぐい っし あ
 りくり かでい くちのーし そーてい、あん
 まーが むぬ しこーいし まっちよーたん。
 (学校から帰ってくると、あちらこちら探ってあ
 れこれ食べて腹ごしらえして、お母さんが食事
 をこしらえるのを待っていた)。

さく ぐみ 〈うるち米〉【例】まるふいー
 じー かどーる くみんかい 「さくぐみ」ん
 でい いーん。(いつも食べている米を「さく
 ぐみ」と言う)。

さく むち 〈癩癩持ち〉【例】どうく さくむち ないねー、 たーとうん ふいらーらん どー。(あまりに癩癩持ちだと、誰ともつき合えないよ)。

さくら 〈寒緋桜〉【例】さくらー ちゅらさー あしが、ふあーぬ どうでい みーん うていてい みち ゆぐしむん なてい、うれーちゅらむんぬ やなむん やん やー。(桜は美しくはあるが、葉が飛び散り実も落ちて道を汚すものなので、それは美しいがやっかいものだね)。

さくら いる 〈桜色〉【例】おんせんから っんぢていちゃーきぬ ういなぐぬちやーぬ ふーや さくらいるんかい すまてい いっぺー ういなぐかば すん。(温泉から上がって来たばかりの女性の頬は桜色に染まってとても女性的な艶かしさがある)。

さけー みー 〈境界、境目〉【例】くまが たんかーぬ ぢーとう わったー ぢーとうぬ さけーみー やん。(ここが向かいの土地と私の家の土地との境界だ)。

さけーいん 〈栄える〉【例】あぬ っちゅたーや んかしえー ぐままちやぐわーどう やたしが、なまねー いっぺー さけーてい まぎまちや などーん。(あの人の家は昔は小さな店だったが、今ではとても繁盛して大きな店になっている)。

さげーすん 〈探す〉【活】さげーちゃん、さげーさん、さげーち 【例】かばんかえー さいふ いっちえー をうらんくとう、ふかんかい っんぢてい さげーちゃくとう、くるまぬ なーかをうてい とうめーたん。(カバンには財布入っていないので、外に出て探したら、車の中で見つけた)。とうめーとーしえー ぬーやが? とうめーぐりさる むんどう やん なー? かばぬん つくえん さげーち んーちゃしが、とうめーららん。(探し求めているのは何なのか。探しにくいものなのか。カバンも

机も探してみたが、見つけれない)。**【参】**とうめーいん、かめーいん。

さじらすん 〈細くする〉【活】さじらちゃん、さじらさん、さじらち 【例】だき ふいぢやーに さじらち どうーくるさーに そーみなーくー ちゅくたん。(竹を削って細くして自分一人でメジロカゴを作った)。

さじゃかいん 〈授かる〉【活】さじゃかたん、さじゃからん、さじゃかてい 【例】にーびちっしから なげー っくわ むたんたしが、なまなてい さじゃかてい やーにんじょー いっぺー っういーりきさ そーん。(結婚してから長いこと妊娠しなかったが、今になって授かって家族はとても喜んでいいる)。あぬ うかたー くんしょー さじゃかてい うーぐとう そーっさ やー。(あの方は勲章を授かってよかったね)。

さすん 〈刺す、挿す、差す〉【活】さちゃん、ささん、さち 【例】はちゃーんかい ささりーん。(蜂に刺される)。まるけーていなー からじ ゆーてい、じーふあー さち、いーびなぎー さち、うちなーすがい すん。(時々髪を結って、かんざしを挿し、指輪をして、琉装する)。ちゃーぬ どうく かたさくとう、ゆーさち とうらしえー [=っんべーてい とうらしえー] (お茶があまりに濃いので、お湯を差してくれ)。

さし いーび 〈人差し指〉【例】うちなーをうてー っちゅんかいや いーび ぬちえー さんくとう、っちゅさしいーびんでー いらん。さしいーびんでい いーん。うふいーびやうや、をうとう、てーそーやさ んでい いーるばすに ちかいしが、いーびんぐわや ういなぐ、とうじ、うむやーぐわーんかい ちかいん。(沖縄では人に指差しはしないので、人差し指とは言わない、挿し指と言う。親指は親、夫、上司だよという時に使うが、小指は女性、妻、かわいい恋人に使う)。

さし ぐすい 〈目薬〉【例】みーぬ あか

どーくとう、さしぐすい いりれー。(目が充血しているの、目薬をさしなさい)。

さし んちゅん 〈差し込む〉【活】～んちゃん、～んかん、～んち 【例】ちちぶさる ばんぐみぬ あくとう、らじお さしんーちよーけー。(聴きたい番組があるので、ラジオを差し込んでおきなさい)。

さた 〈評判、音信〉 【例】ちぬざ ある ちよー ゆぬなかぬ ていふん、あさゆー ちとうみてい さた ぬくすん。(知恵ある者は世の中の手本、朝夕努めて評判を残す)。さたぬねーらん。(音信がない)。

さち 〈先端〉 【例】はーいぬ さちっし ちちやがなー はぢち すん。(針の先で突つきながら入れ墨をする)。【参】すーら (梢)。

さち 〈先、将来〉 【例】ちよー あとうさちぬ わかていどう むぬぐとー すん どー。(人は先のことを分かってこそ物事はするんだよ)。さち っんぢ あとう いり。(先に行って後で言いなさい、回りの意見をよく聞いてから自分の意見を言いなさい)。

さち ぐち 〈手始め〉 【例】ちゅーぬ しくちえー さちぐちえー ぬー なんとーが?(今日の仕事は先にするのは何か)。

さち だち すん 〈先導する〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】たーがなぬ さちだち(=めーだち) さんねー てーげーぬ ちよー っんぢゆかん/うーてーくーん。(誰かが先導しないと一般大衆は動かない/追って来ない)。

さち でいー っんぢやすん 〈先手を打つ〉【活】～んぢやちゃん、～んぢやさん、～んぢやてい 【例】ぬーぐとう やていん さちでいー っんぢやすしぬ かんぬー。(何事も先手を打つのが肝心)。

さち どうめーい/さち どうみ 〈先妻〉【活】あとう どうめーい/あとう どうみ 〈後妻〉 【例】ういきがー あとうどうめーいや わかーぐわーどう/とうしわらびどう

かちみーる。(男性は再婚相手は若い娘/年下を探す)。

さち ない し が むぬー 〈早い者勝ち〉【活】さち ない しんでー 〈先着順〉 【例】さちないしがむぬー やくとう、ふえーみれー。あん やらー、ふえーみらな。(先着順だから、早めにしなさい。そうなら早めよう)。

さち ばい 〈先駆け〉 【例】ういなごー いくさぬ さちばいんでい いーしが、ぬーん あいねー、ういなごー わんからわんから ていがねー しーがどうまんぐいてい いちゅん。(女性は戦の先駆けけと言うが、何かあれば、女性は自ずから手伝いをしに馳せ参じる)。【参】条件節における〈何か〉については「ぬーがな」ではなく、「ぬーん」を使って表す。

さち まーい 〈抜け駆け〉 【例】っうえん ちよー うしぬ ちぬんかい ぬてい 「なーどー!」んでい いちやる とうちに とうびんっぢやさーに さちまーい さくとう、じゅーにしぬ いちばん なんとーん。(ネズミは牛の角に乗って「今だ」という時に飛びだして出し抜いたので、十二支の一番目になっている)。

さち 〈札〉 【例】しんゐんさちえー ちゃっさ あが?(千円札はいくつあるか)。

さちゅん 〈裂く〉【活】さちゃん、さかん、さち 【例】いちゃー さちやーに かむん。くふあさしが、かなーちよーちーねー あじぬ っんぢーん。(イカは裂いて食べる。固いが、噛み続けていたら味が出てくる、かなーししんでー 〈噛めば噛むほど〉)。たいが なーか さちゆる くとー たーがん ならん。(二人の仲を裂くことは誰もできない)。

さちゅん 〈咲く〉【活】さちゃん、さかん、さち 【例】あぬ ちるみーぬ あちまいぬ あてい、ちゅいなー ちゅいなーぬ にかし あたるくとうぬ はなしぬ っんぢてい、はなしぬ はなぬ さちよーたん。(同級生の集まりがあり、一人一人の昔あったことの話が出て、話が盛り上がった)。

さち ちりーん 〈咲き誇っている〉【活】～ちりたん、～ちりらん、～ちりてい 【例】「なぐぬ さくらー さちちりとーみ?」「なーだ さちちつてーをうらん どー」(「名護の桜は満開ですか」「まだ満開ではないよ」)。

さっこーび 〈しゃっくり〉【例】さっこーび そーいに みじ ぬまーに さかいり しみーねー とうまいん。(しゃっくりをしているときに、水を飲んで逆流させたら止まる)。

さっくいー 〈咳〉【例】さっくいー しーねー、くるぎーたーぬ いっちょーる そーがーゆー ちゆくてい ぬまさったん。(咳をすると、黒砂糖が入っているショウガ湯を作って飲まされた)。ちちゆぬ ちらぬ めーをうてー さっくいーや すな。くちえー ていーさーに うすてい しえー。(人の顔の前では咳はするな。口は手で押さえてしなさい)。

さっていむ 〈さても〉【例】ふいるまさど う あるばすねー 「ゑー、やふんぬ、さっていむ、さっていむ」んでい あやーたーが いちよーたん。(不思議に思ったときには「へー、そうなの、さても、さても」とお母さんたちが言っていた)。

さてい 〈さて〉【例】さてい、ぬーから はじみーしえー まし やが?(さて、何から始めればいいのか)。さてい、ゐーくる けーらな。(さて、そろそろ帰ろう)。さてい、こーいむんから っし くー。(さて、買い物からしてこよう)。

さとう 〈(芝居や歌劇の中での) 彼氏〉【例】っやー さとー しゅちえー ぬー そーが?(あなたの彼氏は仕事は何をしているか)。さとうぬ まーぬ しちゆが?(彼氏のどこが好きなのか)。さとうとー まーをうてい しっちやが?(彼氏とはどこで知り合ったか)【参】うむやーぐわー(恋人)。

さとういん 〈さとる〉【活】さとうたん、さとうらん、さとうてい 【例】うっさ いーちかち

とうらん さとうえーうーさん。(そんなに言い聞かせてあげても悟ることができない)。

さに 〈種〉【例】なーんかい しちしちぬ さに まち、はなぬ さちゆし っういーりき さ そーん。(庭に季節の種をまいて、花が咲くのを楽しみにしている)。

さば 〈ぞうり〉【例】んかしえー あしぢやー あたしが、でーぬ たかさぬ、どうーくる あだんばーさば ちゆくてい くどーたん。(昔は下駄はあったが、値段が高いので、自分でアダン葉草履を作って履いていた)。

さばきーん 〈片付ける〉【活】さばきたん、さばきらん、さばきてい 【例】ちゆぬくとー ちゆーをうてい さばき よー。あちやーや ねーん どー。(今日のことは今日で片付けなさいよ。明日はないよ)。

さばちゆん 〈さばく、髪をすく、薪を割る〉【活】さばちゃん、さばかん、さばち 【例】っやーや いゆ さばちうーすみ?(あなたは髪をさばけるか)。うきーねー からじえー かんたーもーやー そーくとう、さばちーねー んーだりーん どー。なま やいねー んーだりーしえー。(起きると髪は乱舞しているので、髪をすくと格好がつく。(鏡を見て)今だったら見られるんじゃない)。やまから きー とうっていちやーに たむん さばちから めーさー そーたん。(森から木を取って来て薪を割ってから燃料にしていた)。

さばち 〈櫛、くし〉【例】はたらちやー うしぬ ちぬさーに さばち ちゆくいねー いちいちまでいん ちかーりーん。(水牛の角で櫛を作ったらいつまでも使える)。

さばに 〈サバニ〉【例】いちまぬん、ゆなぬん、うみんちよー さばにさーに いゆ とうとーたん。(糸満も、与那国も、漁師はサバニで魚を捕っていた)。

さび 〈災い〉【例】くとうばー ていーちからん さびぬ っんぢーくとう、むぬ いーよー

や ちー ちぎり よー。っんぢやちからー
うしくまらん どー。(言葉1つからでも災い
になるので、言葉遣いは気をつけなさいよ。出
してからは押し込めないよ)。

さび 〈錆〉 【例】うみぬ はんたーや すー
かじん ふち、ゆさんでー さがいていーだぬ
んーだつてい、ちむん ふいるくないんねー
すしが、やー ちゆくいーねー さび すし
ぬ ふえーさくとう、ゐー くとうん あしが、
やなくとうん あん。(海の近くは潮風も吹き、
夕方は夕日が見られて、気持ちも広くなる気が
するが、家を造ると錆びるのが早いので、よい
こともあるが、悪いこともある)。さびん とう
がん ねーらん。(錆も罪咎も何一つ無い、潔白
である)。

さびさびーとう そーん 〈人っ気がな
い〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】あつたー
やーや ぬーが あんし さびさびーとう
そーる! ちちゆぬ をうるぐとうん ねーん
さ。(あの人の家は本当に人っ気がないね。人の
居る気配もない)。

さび じる 〈貧弱なおつゆ〉 【例】ぢちちゆ
ーめー なたい さびじるぬどう あたいさ。
(月給前になって貧弱なおつゆがふさわしいよ)。
【参】「さびさびーとう そーる する」の意。

さふー 〈作法〉 【例】うやぬ むんならー
しぬ なたーをうらんくとう、なまぬ ゆーや
りーぢさふー しらん ちちゆぬ まんどー
ん。(親のしつけがなっていないので、今の世の
中は礼儀作法を知らない人が多い)。

さぼーりーん 〈荒れ果てる〉【活】さぼーり
たん、さぼーりらん、さぼーりてい 【例】ちか
ぐろー じん みぐいぬ わっさぬ、ちゃぬよ
ーな あちねーん うむいる ぐとー ならん
くとう、さぼーりとーる まちやん うふく
なたい ちよーん。(近頃は不景気で、どのよう
な商売も思うようにいなくて、倒産しそうな
店も増えてきている)。

さまいん 〈冷める〉【活】さまたん、さまら
ん、さまてい 【例】すばぬ するん ねーん
なたい ぶつとるー ないくとう、さまらん
ばーに ふえーく かめー。(そばの汁もな
くなって伸びてしまうので、冷めないうちに早
く食べなさい)。

さますん 〈冷ます〉【活】さまちゃん、さまさ
ん、さまち 【例】うけーめーや っわーびがー
や さまとーていん なかー にちぬ くまと
ーくとう、ゆー さまちから かまんねー ぬ
ーでいー やちゆん どー。(お粥はうわべは
冷めていても中は熱がこもっているの、冷ま
してから食べないと喉を焼くよ)。

さまたげー 〈妨げ〉 【例】ちちゆぬ さま
たげー すなけー。(人のじゃまはするな)。

さみーん 〈覚める〉【活】さみたん、さみら
ん、さみてい

さますん 〈醒す〉【活】さまちゃん、さまさ
ん、さまち 【例】まぎうとうさーに ちゆばち
に みーぬ さみてい にんだらん などーた
ん。(大きな音で一気に目が覚めて眠れなくな
っていた)。

さら 〈皿〉 【例】うちなーぐちしえー、さら
ぬ まぎーや 「はーち」、なかていーや 「す
ーりー」、ぐまーや 「けーうち」んでい い
ーん。(沖縄語では、大皿は「はーち」、中皿は
「すーりー」、小皿は「けーうち」と言う)。

さら〜〈まったくの〉 【例】さらみーむん (ま
ったくの新品)。さらふりむん (どうしようもな
い馬鹿)。さらわかむん (まったくの若者)。さ
らいちでーじ (たいへんな一大事)。さらわしー
(ど忘れ)。【参】日本語の「まっさら」(真新)、
「まっしろ」(真っ白)の「まっ」は〈まったく
の〉を意味し、「さら」(新)を強めているが、沖
縄語では「さら」の方が強意の接頭辞である。

さら ばんじ 〈最盛期、絶頂期〉 【例】る
くじゅーや さらばんじゃー。(60歳は最盛

期にある者だ)。っやーや さらばんじどう
やるむんぬ、とうすい むにーや すな。(あなた
は最盛期なのに、年寄りのような物言いはす
るな)。あれー なま さらばんじどう やる。
(あの人は今絶頂期だ)。

さら みー むん 〈真新しいもの〉【例】
なまぬ わらびんちゃーぬ すがいよーや さ
らみーむん ちーしやかにん あまくま ちり
さきとーる むん ちち あっちょーん。(今
の若者たちのファッションは真新しいものより
もあちこち切り裂かれたものを着ている)。

さら まくとう 〈馬鹿正直、お人好し〉【活】
さら まくとうー〈馬鹿正直の者〉【例】さら
まくとうぬちょー すんじぐとう ないる く
とうん うふさ しが、さらまくとうーんかえ
ー ゆみぬ いやー たたんでい いらっどー
くとう、さらまくとうーや たから どー。(馬
鹿正直の者は損をすることも多いが、お人好し
の者には弓矢は立たないと言われているので、
お人好しは宝だよ)。

さわい 〈障り、病気=やんめー〉【例】たん
ぬ さわい(肺病、結核)。しんぬ さわい(精
神異常)、=ちむぬ やんめー。たんぬ さわい
かかてい ゆくとーん。(結核で療養してい
る)。ぬーぬ さわいっし いさぬやー かか
とーが?(何の病気で通院しているか)。にちぬ
ある ばずに ゆーふる いーねー、さわい
ぬ ちゅーく ないん。(熱があるときに風呂
に入ると、悪化する)。やーぢゅくい、やーう
ーちー、にーびち、うゆうえー、たび、はかぢ
ゅくいぬ ふいー とういるばすねー、ぬーさ
わいん ねーらん ふいー いらでい すん。
(家造り、引っ越し、結婚、お祝い、旅行、墓造
りの日取りをする際には、何の抵触もない日
を選んでする)。**【参】**さーい(つわり)。

さらすん 〈色が抜ける〉【活】さらちゃん、さ
らさん、さらち 【例】がーぎぶし さんねー、
いるがらぬ むる さらさりーん どー。(陰
干ししないと、色柄がすべて抜けてしまうよ)。

されーいん 〈浚う〉【活】されーたん、され
ーらん、されーてい【例】うみぬ ほんたーん
かい ある むらぬ しがりなみんかい むる
されーらってい ねーらん。(海に近くにあ
る村が津波にすべて浚われてしまった)。

さわいん 〈体に障る〉【活】さわたん、さわ
らん、さわてい【例】はなしち そーる ば
すねー ゆくらんとー どうーんかい さわい
ん。(風邪をひいているときに休まないで体に
支障を来す)。

さわぢゅん 〈騒ぐ〉【活】さわぢゃん、さわ
がん、さわぢ【例】わったー しかいぬぬ あ
びたくとう ぬーやが? いったー しかとう
じぬ さわぢどう まぎさる。(私の家の臆病
犬が吠えたからって何なのか。あなたのところ
の臆病妻の騒ぎこそ過ぎてている)。

さん 〈お産〉【例】さんぬ っんぶさる っち
よー ちゅい なすしんちょーん でーじ や
しが、さんぬ かつさる っちよー っくわな
さー やてい ちゃっさ やていん なすん。
(お産が重い人は一人産むのさえも大変だが、お
産が軽い人は多産でどれだけでも産む)。

さん 〈魔除け〉【例】ぐしちぬ ふあー と
うてい あじまーむしび しーねー さん な
いん。(すすきの葉を取って十字結びをすると
魔除けになる)。

さんぐわち あしび 〈三月遊び(旧暦の
3月3日)〉【例】さんぐわちあしびねー や
ーにんじゅ すりてい はまうりっし ういな
ぐわらびんちゃーんかい からふいさーっし
しな くだみらしみーん。(三月遊びには家族
揃って浜に降りて女の子たちには裸足で砂を踏
みつけさせる)。**【参】**「さんぐわちやー」とも言
う、くんぴらかすん(踏みつぶす)、くだみーん
(踏みつける)。

さんさなー 〈クマゼミ〉【例】「さんさなー
や」 なちぐいーから ちきらっどーる なー

やてい まぎー やしが、あまはい くまはい そーてい うていちちぬ ねーん ういな ぐんかいん 「さんさなー」んでいん いーん。(「さんさなー」は鳴き声から付けられている名称で大型だが、あっち行ったりこっち行ったりして落ち着きがない女性にも「さんさなー」と言う)。

さんしん 〈三線〉 【例】さんぐわちゆっかー さんしんぬ ふいー やん。なまー うちなーびけー あらん、ゆすぐにをうていん さんしん ふいちやーに しまうた うたてい すじょー する っちゆぬちやーぬ うふく などーん。(3月4日は三線の日である。現在は沖縄だけではなく、外国でも三線引いて島唄を歌って楽しむ人たちが多くなっている)。むかしえー はぶがー はてい ちゆくらっとーる さんしんどう やたしが、はぶぬ いきらく などーくとう、はぶがー さんしのー でー

ぬ あがてい ちょーん。(昔はハブ皮を張って作られている三線だったが、ハブが少なくなっているため、ハブ皮三線は値段が上がって来ている)。

さんじんそー 〈占い師〉 【例】さんじん そーや だきぬ うめーしぬ ぐとーる むん ちかてい さんみん すん。(占い師は竹の箸のような物を使って占いをする)。

さんにん 〈月桃〉 【例】さんにんがーさっ し にぢりめー ちちでい がっこーんかい むたさったん。(月桃の葉でおにぎりを包んで学校に持たされた)。

さんみん 〈計算、判断〉 【例】くれー さんみん ばっぺー やたさ やー。(これは判断ミスだったね)。さんみぬんかい ばっぺー ぬ あてーいぎさん。(計算に間違いがあったようだ)。

し、じ

しー 〈元気、精〉 【例】しー ぬぎとーる
ちゅぬ ぐとうっし いるぬ わっさぬ、む
ぬ かでい ぬーん さんぐとう にんたいほ
ーたい そーきわどう むとうんかい むどう
いん どー。(精気が抜けている人のように顔
色が悪いので、食事して何もしないで寝転んで
いれば回復するよ)。しー ぬぎとーるぐとう
うふとうるばいっし ぬーん あいどう す
たがやー？(気が抜けたようにぼんやりして何
があったのかねえ)。

しー 〈背丈、身丈〉 【例】わかどうえー しし
ぬ やふあらさぬ、あじぬ あてい まーさし
が、ぐまいよー みーぬ いきらさぬ、んぢぶ
ったー やてい かみん ならんくとう、まぎ
いゆ こーいしどう いみ すん。うぬよーな
わきぬ あてい「とうい こーらー かじ
こーり、いゆ こーらー しー こーり」んで
いる いーちてーぬ あん。(若鶏は肉がやわ
らくて、味もあっておいしいが、小さい魚は身
が少なく、尖った骨だらけで食べられないの
で、大きな魚を買うのが増えてお得である。そ
のような理由で「鶏を買うなら数を買、魚を
買うなら身丈を買いなさい」という言い伝えが
ある)。

しー 〈巢〉 【例】ほーとうぬ しーや くー
りらんぐとう ゆだ ちかてい あまーに ち
ゆくらっとーしが、そーみなぬ しーや や
ふあらさる くさとう わらっし あでい ち
ゆくらっとーん。(鳩の巢は壊れないように枝
で編んで作られているが、メジロの巢は柔らか

い草とわらで編んで作られている)。

しー 〈岩〉 【例】なーんかい まぎしー う
ちきてい、いちん ちゆくてい、でーだかー
きー っういーてい、じん かきてい ちゆく
てーたん。(庭に大きな岩を置いて、池も作り、
値の張る木も植えて、お金をかけて造ってあつ
た)。

しー 〈負債〉 【例】しーとう やんめーや
かくするむのー あらん。(借金と病いは隠す
べきではない)。しーぬ ふいぬいん。(負債が
減る)。

しー いみやー 〈借金取り〉 【例】しわー
し ないねー、しーいみやーや ぬちちりばい
じん あちみーが あっちゆん。(師走にな
ると、借金取りが懸命に集金に出歩く)。

しー ばれー 〈負債払い〉 【例】やーぬ
しーばれーん うわてい なまー うみなーく
なとーん。(家の借金返済も終わって今はほ
っとしている)。

しー 〈「すん」という動詞語幹の名詞化、す(ん)
+い〉 【例】「語は少なくとも2拍を保持しな
ければならない」という原則により「しー」又
は「っし」になる。。

しー くたんでい 〈過労〉 【例】ぬーにん
かぎん でのーる むんぬ あくとう、しー
くたんでい とういるまでい すしえー あら
ん。(何事にも加減というがあるので、過労に
なるまでするものではない)。

しー うわいん 〈やり終える〉 【活】～うわ
たん、～うわらん、～うわてい 【例】うり しー

うわいしえー いち ないが？(それをやり終えるのはいつになるか)。

しー かきーん <やり始める>【活】～かきたん、～かきらん、～かきてい 【例】さんねーならん くどー ふえーみてい しーかきとーしえー まし。(しなければならぬことは早めにやり始めるのがいい)。

しー がねー <意地っ張りになること>【例】たーんかい やていん むぬぐしぬ あくどう、しかんむぬんかえー しーがねー するくどうん あしが、ちむぬ あん なくどう しかたー ねーらん。(誰にでも好き嫌いがあるので、嫌いなものには意地っ張りになることもあるが、心がそうになってしまうのでしようがない)。

しー けーすん <やり返す>【活】～けーちゃん、～けーさん、～けーち 【例】かんくーらったくどうんでいち、あぬぐどう ちちゆ かんくーてい しーけーし する むのー あらん。(噛みつかれたからといって、同じように人に噛みついてやり返すものではない)。

しーしー はーはー すん <ふうふう言う>【活】～さん、～さん、～っし 【例】たんかーぬ おばさのー たーちぬ ていーや みちちやかー にー むちやーに、しーしーはーはーっし ふいら ぬぶとーたん。(向かいのおばさんは両手いっぱい荷物を持って、ふうふう言いながら坂を登っていた)。

しー どーり <過労で倒れること> 【例】「すいんちよー ちーどーり、なーふあんちよー くえーどーり、とうまいんちよー しーどーり」んでい いらっとーたしが、ゆぬなかーゆちく なてい、ちーるむぬん かむるむぬん ていーんかい いりーしえー どうーやしく などーくどう、うぬ くどうばー ちかぐろー ちちえーんーだん。(「首里の人は着倒れ、那覇の人は食い倒れ、泊の人は過労倒れ」と言われていたが、世の中は豊かになって、着るものも食べるものも手に入れ易くなっている)ので、その言葉は近頃は聞いたことがない)。

しー なし <仕上げ> 【例】さびむん や

ていん しーなしどう やるんでい いらっとーしが、でーだかーむのー ていー ちきらん ていん まーさん。(粗末な材料でも料理次第と言われているが、高級食材は料理しなくてもおいしい)。

しー のーすん <やり直す>【活】～のーちゃん、～のーさん、～のーち 【例】ちむ ふがん しーよー しえーくどう しーのーし しわどう やる。(気に喰わない仕方をしているので、やり直ししないとイケない)。

しー なりーん <し慣れる>【活】～なりたん、～なりらん、～なりてい 【例】たーが ぬーしん しーなりーねー、あとー ちちゆならーさー ないん。(誰が何をしても、後々は人に教えるほどの人になる)。

しー はな <できたて> 【例】むぬん ちやーん ぬだいかだい すしえー、しーはなぬ まーさん。(食べ物もお茶も食べたり飲んだりするのは、できたてがおいしい)。

しー やんぢゆん <しくじる>【活】～やんたん、～やんだん、～やんてい 【例】ぬー やていん あとうさちん かんげーていから さんねー、しーやんぢゆん どー。(何でも後先も考えてからしないと、しくじるよ)。

しー やんぢ (ぐどう) <やりそこない(事)> 【例】しーやんぢぐどう あたていどう あとー なてい いちゆる。(失敗してこそ後に事がうまく運ぶ)。

しー わじゃ <行為、行い> 【例】「あれー わーが くまとーるくどう ちゆーごーしん かんげーていくいらんさー。ぬーんち やがやー?」「っやーや まるふいーじーぬ しーわじゃぬ わっさくどう、あん などーっさ」(「あの人は私が困っていることを相談しても考えてくれない。どうしてなのかねえ」「あなたはいつもの行いが悪いので、そうになっているんだよ」)。

じー <字> 【例】くれー たー じー やが? じーぬ ちゆらさっさー。(これは誰の字なのか。字がきれいだね)。あれー じーや ふい

た どー。(あの人は字は下手だよ)。

しーん、しゅん 〈知る〉【活】しっちゃん、しらん、しっち 【例】うかみがなしーや ぬーやていん しっちよーみしえーん。(神様は何でもご存知でいらっしやる)。

しーん、しゅん 〈こする、さする〉【活】したん、しらん、してい 【例】なちぬ にんだらん とうちねー、っんめーが はじちぬ ていーっし くしながに していくいーたん。(夏の眠れないときには、おばあさんが入れ墨の手で背中をさすってくれたものだ)。

しーいん／しーゆん 〈(いったん煮たものが)腐ってすっぱくなる〉【活】しーたん、しーらん、しーてい 【例】ゆさんでい かだるしる たぢらさんぐとう うちきてーたくとう、していみていまでいねー ちゅらーさ しーとーたん。(夕方に食べたおつゆを暖めないで置いてあったので、朝には完全に腐ってすっぱくなっていた)。うぬ めーぬ／かていむんや しーとーくとう うっちゃんぎれー。(そのご飯が／おかずは腐っているので、捨てなさい)。っんむぬ しーねー、いーちゅー ふいち かまらん ないん。(芋が腐ると糸を引いて食べれなくなる)。

しー らすん 〈腐らす〉【活】しーらちゃん、しーらさん、しーらち

しー かじゃ 〈腐れた匂い〉 【例】うぬ っんもー しーかじゃ そーくとう、 かまん しえー まし どー。(その芋は腐れた匂いをしているので、食べないほうがいいよ)。

しーいん／しーゆん 〈おまけとして添える〉【活】しーたん、しーらん、しーてい 【例】くみ こーいが いちねー、「ていーぬ みーや しーとーかやー」んでい しーぶん すたん。(米を買いに行くと、「手いっぱいはおまけするね」といっておまけをしてくれたものだ)。ししとう いよー こーいっうえーかから こーとーしが、こーいる かーじ しーていくい

ーくとう、ちむまでいん ゆちく ないん。(肉と魚はなじみの店から買っているが、買うごとにおまけを添えてあげるので、心までも豊かになる)。

しー ぶん 〈おまけ〉 【例】ちゃー あまぬ まちやをうていどう こーとーしが、なままでー ちゅけーぬん しーぶん さんぐとう、なー あまをうてー こーいぶしこー ねーん。(いつもあそこの店でかっているが、今まで一度もおまけしないので、もうあそこでは買いたくない)。

しーきーん 〈押しやる〉【活】しーきたん、しーきらん、しーきてい 【例】ちゅぬ あちゅる とうくる やくとう、っやー かばのー あまんかい しーきれー (人があるところなので、あなたのカバンはあそこに押しやんなさい)。【参】しーちゅん。

しーぐ 〈小刀、ナイフ〉 【例】しーぐん しるむぬん むっちえー ひこーきんかえー ぬららん。(ナイフも液体も持っては飛行機には乗れない)。

しーくい めーくい すん 〈ふらふらする、生活にあえぐ〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】さき ぬみぢゅーさぬ、ふいさん たたん なてい しーくいめーくいっし あちゅーん。(酒を飲み過ぎて、足も立たなくなってふらふらと歩いている)。あちはじみーぬ わらべー しーくいめーくいっし あちゅくとう みー はなさらん。(歩き始めの子はふらふらして歩いているので目が離せない)。しー かたみてい しーくいめーくい そーん。(借金をして生活にあえいでいる)。

しーくむん 〈炊き置きする〉【活】しーくだん、しーくまん、しーくでい 【例】とうじぬ 2、3にち たびんかい やくとう、しーくみ しえーん。(妻が2、3日旅行なので、炊き置きしている)。なーだ とうじん とうめーららん どうーちゅいむんどう やくとう、ちゃ

ー しーくみ そーん。(まだ妻も見つけられない独り者なので、いつも炊き置きしている)。

じーぐい 〈不平〉 【例】あれー じーぐふ
あー どー。(あの人は気むずかしいよ)。

じーぐい すん 〈不平不満をいう〉【活】～
さん、～さん、～っし 【例】あれー くみぬ ま
ーこーねーんとうか、あふあさぬ かまらんと
うか、あんだぢゆーさぬ かまらんととうか、ぬ
ー やん くいー やんでいち むんぬ じー
ぐい すん。(あの人は米がおいしくないとか、
味が薄くて食べれないとか、脂っこくて食べれ
ないとか、ああだこうだといって食べ物の不平
不満を言う)。

じーぐい ひゃーぐい 〈不平不満〉 【例】
あれー じーぐいひゃーぐいぬ うふさん。(あ
の人は不平不満が多い)。

しーくわ 〈スイカ〉 【例】うちなーをうてー
くーりじまぬ しーくわ、ちきんぬ あかち
でーくにーや いっぺー まーさんでい いら
っとーん。(沖縄では古字利島のスイカ、津堅の
赤ニンジンとはとてもおいしいと言われている)。
なちじのー しーくわういぬ まーさどーくる
やてい、なち ないねー まーんぢ やてい
ん こーらりーん。(今帰仁はスイカの産地で、
夏になるとどこでも買える)。

しー くわーさー 〈シークワサー〉
【例】しーくわーさーっし ばさーぢん あらい
ねー いるふいちゃい すしが、なまー ぬみ
むん ちゆくたい、くわーし ちゆくいるばす
に いったい、さしみんかい かきたいっし
いるかじぬ くとんかい ちかーっとーん。
(シークワサーで芭蕉布を洗うと光沢が出る
が、現在は飲み物を作ったり、お菓子を作ると
時に入れたり、刺身にかけたりしているいろ
んなことに使われている)。
【参】しーさん(すっぱい)。

しーし 〈獅子〉 【例】まちりねー かりー
ちきーる たみに しーしけーらしぬ/しーし

もーらしぬ あん。(祭りには嘉例をつけるた
めに獅子舞がある)。

しーし 〈煤〉 【例】ちちゆぬ しまん やー
や しーし くーてい たでーま よーいん。
(人が住まない家は煤けてすぐに弱る)。たむん
めーする ばそー ふいーふちやー ちかて
い ふいー うくちよーたくとう、ちらー し
ーし かんてい ふいんがーまーう ないた
ん。(薪を燃やす際は火吹きを使って火を起こ
していたが、顔は煤だらけで汚れ猫のようにな
った)。

じーし がーみ 〈厨子甕〉 【例】くれー
ぬ まぎさる ちちゆぬ じーしがーみんかい
いりらったん。(位の高い人が厨子甕に入れ
られた)。

しーじゃ しんでー 〈年長順〉 【例】う
ゆうえーぬ くわちちーや しーじゃしんでー
うさぎーん。(お祝いのご馳走は年長順にお
出しする)。

しーちゆん 〈つめて寄る〉【活】しーちゃん、
しーかん、しーち 【例】なー ちゆい ちゆー
くとう、しーちゃーに あきとーけー。(もう一
人来るので、詰め寄って空けておいて)。あんぐ
とう いーばーしーちゃー そーる とうくる
んかえー たーん あららんくとう、あまんか
い しーけー。(そんな狭苦しいところには誰
も座れないので、あちらに詰めて寄ってくれ)。
わーが しーちゆくとう、くまんかい めみそ
ーれー。(私が退くので、ここにお座りくださ
い)。

しーちゃー くわーしえー 〈押し合い〉
【例】しよーがくしーぬ くる、ぎーたー さー
に しーちゃーくわーしえー あしび ゆー
すたん。(小学生の頃、片足跳びして押し合いす
る遊びをよくしたものだ)。

じーなー 〈蛭〉 【例】じーなーや ちゆら
みじぬ ある とうくるんかい しどーしが、
んーちゃい とうたい する ばすねー、じー

なーびーや はぶぬ みーぬ ふいちゃいしと
う まったち にちよーくとう、みーうち す
しとう さんし さーに みーわきり よー。
(蛍は清水があるところに棲息しているが、観た
り捕ったりする際には、蛍火はハブの目が光っ
ているのとまったく似ているので、まばたきす
るのとしないので見分けなさいよ)。

じーぬー 〈芸能〉 【例】じーぬー むちゃ
ーや いちちよーし すじよー ないん。(芸
持ちは生きているのを楽しめる)。

しーっういー 〈手豆〉 【例】わらび そー
いに めーなち てつぼー さーに、ていーぬ
わたー しーっういーぶったー そーたん。
(子どもの頃に毎日鉄棒をして、手の内側は手豆
だらけだった)。

しーばい 〈小便〉 【例】ふいーく ないね
ー しーばい すしぬ うふく ないん。(寒
くなると小便するのが多くなる)。

しーばい ぶくる 〈膀胱〉 【例】しー
ばいぶくろー ういなぐん ういきがん あし
が、つくわぶくろー ういなぐびけーんどう
ある。(膀胱は男も女もあるが、子宮は女しかな
い)。

じーふあー 〈かんざし〉 【例】まるけーて
ー じーふあー さち、いーびなぎーん はち、
たーび くまーに、うちなーすがいっし をう
どうい ならいが いちゆん。(時にはかんざ
しを挿して、指輪もして、足袋をはいて、琉装
して踊りを習いに行く)。

しー いっぺー すん 〈精一杯する〉
【例】なまー わじゃん ねーん なてい、いち
ちゆしん しーいっぺー そーん。(今は仕事
もなくなって、生きるのも精一杯している)。

しーみー 〈清明祭〉 【例】うちなーぐゆみ
ぬ さんぐわちぐるに やーにんじゆ するて
い うふあかんかい っんぢやーに、うさんみ

うじゆー うさぎてい うやふあーふじぬ ぐ
くよー すん。(旧暦の3月頃に家族揃ってお
墓に行って、重箱をお供えして御先祖のご供養
をする)。

しーむん 〈吸い物〉 【例】ふいーじーぬ
うしるとー ちがてい、しーむのー わた み
ちゆる あたいぬ みーや いっちえー をう
らん。(普段のおつゆとは違い、吸い物はお腹が
いっぱいになるほどの具は入れてはいない)。

しーよー 〈仕方〉 【例】っやー しーよー
や ぬーんでいーる しーよー やが?(あな
たの仕方はなんという仕方なのか)。

しーら 〈病み気、苦しみ〉 【例】つくわ な
ちやる あとう ちゆちちえー、しーら いー
くとう みじしくちえー ふいけーりよーんで
い いらっどーん。(産後の一カ月は、病み気が
入るので水仕事は控えなさいと言われている)。
しわぐとうぬ どうく ちゆーさぬ、しーら
いっちよーん。(心配事があまりにも多くて、苦
しんでいる)。

しーん、しゆん 〈知る〉【活】しっちゃん、
しらん、しっち 【例】ありが くとう ちゃぬ
あたい しっちょーが?(あの人の事をどれ
ほど知っているか)。っんまー ぬてい しり、
っちょー ふいらてい しり。(馬は乗って知
れ、人はつき合って知れ)。しっちょーるっちゆ
からどう もーきらりーる。(商売は商売なの
で、物事は割り切って、顔見知りからも利益を
得る)。

しーん、しゆん 〈擦る〉【活】したん、し
らん、してい 【例】ペンキぬ ゆぐれー さ
ふんさーに いかな していん うていらんた
ん。(ペンキの汚れは石けんでいくら擦っても
落ちなかった)。くしながに していくいれー。
(背中を流してくれ)。でーくに しれー/しり。
(大根をすりつぶしなさい)。でーくに しりし
りー (大根おろし器)。

しえー 〈バツタ〉 【例】しえーぬ うすまさ
わちゆる ばすん あん。(バツタは大量発
生するときもある)。

しえーべー 〈おせっかい〉 【例】しえーべ
ーや どうーかっていー する くとうどう
やくとう、するめーねー えーていぬ くとう
かんげーていから すし やん。(おせっか
いは自分勝手にすることなので、する前には相
手のことを考えてからすべきだ)。「【参】「っわ
ーばぐとう」とも言う。

しえーく 〈大工〉 【例】いしじえーこー て
ーげー とうしかた やてい わかむぬんかえ
ー いきらく などーん。(石大工はだいたい
年齢がいついて若者には少なくなっている)。
しえーこー どうーぐ まさい。(大工の仕事
は道具次第)。

しえーうえー 〈幸せ〉 【例】しえーうえー
や なんくる ちゅーる むのー あらん、ど
うーくる ちかみーし やん。(幸せは勝手に
やって来るものではない、自分でつかまえるも
のだ)。

しえーじゅく 〈催促〉 【例】からちえーる
じんぬ しえーじゅく しーが なまから
いちゆる とうくる やん。(貸したお金を催
促しに今から行くところだ)。「【参】「しえーじ
ゅく しーが」よりも「いみーが」をよく遣う。

しえーち 〈才知〉 【例】しえーちえー い
ちでー、まくとー まんでー。(知恵で得たもの
は一代限り、真の心はいつまでも変わらない)。

しえんするー 〈糸とんぼ〉 【例】しえん
するーや、あーけーじゅーとー かわてい、ま
ぎこー ねーんしが、おーるー、あかー、ちー
るー そーしぬ をうん。(糸とんぼは、トンボ
とは違って、大きくはないが、青色、赤色、黄
色をしているのがいる)。

しかー (ぐわー)、しかぼー 〈臆病者〉
【例】にち っんぢてい あんまさ そーる

ばすに、ふしこー ねーんていん かまんねー
くんちぐわー ねーん なてい、うぬま
ないねー でーじんち、しかしかそーてい か
むるくとうんかい 「しかがみ」すんでい い
ーん。(熱が出て気分が悪いときに、欲しくな
くても食べないと元気がなくなって、そのま
までは大変だとおどおどしながら食べるこ
とに「しかがみ」と言う)。

しがいん 〈すぎる〉【活】しがたん、しが
らん、しがてい 【例】うやぬ じんびけー し
がてい はたらちゅんちん さんねー あと
ぬーん ならんぬー ないん。(親のお金だけ
にすがって働こうともしないと終いには何も
出来ない人になってしまう)。かなしーぐわ
ーんかい しがらってい うまーりーしえー
っういーりきさー あしが、うまーりぢゅー
さいねー いーちまでいー すん。(恋人に
すがられて慕われるのは嬉しくはあるが、
度が過ぎると息苦しくなる)。

しかきーん 〈仕掛ける〉【活】しかきたん、
しかきらん、しかきてい 【例】そーみな
ー とういんでいち しかきとーたしが、
まるふいっちー かかていん ていーち
ぐわーんちよーん とうららんたん。
(メジロを捕ろうと仕掛けていたが、
まる一日かけても一匹さえも捕れな
かった)。

しかすん 〈なだめる、だます〉【活】しか
ちゃん、しかさん、しかち 【例】なちよ
ーる わらび うーふあっし しかすん。
(泣いている子をおんぶしてあやす)。
んかしえー ういなぐしかさーぬ
どう うふさたしが、なまー ういきが
しかさーん うふさん。(昔は女性を
だます男が多かったが、今は男を
だます女性も多い)。

しかしー まーしー すん 〈なだめすか
す〉 【例】うれー うふえー むちか
しー っちゅ やくとう、しかしー
まーしーっしどう ふいらーり
ーん どー。(その人は少しむつ
かしい人なので、なだめすかして
からがつき合

えるよ)。

しかしかー すん 〈びくびくする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】あぬ ちちゅどうやくとう、しかしかーさんぐとう いぢり むっち しー よー やー (同じ人間だから、びくびくしないで勇気を出してしなさいね)。

しかた 〈仕様〉 【例】っやーが まちえーるさにどう やくとう、あん いらったんてーまん しかたー ねーらん くとう やさ。(あなたが撒いた種だから、あんなに言われてもどうしようもないことだ)。

しかむん 〈怖じけずく〉【活】しかだん、しかまん、しかでい 【例】じゅんさんかい ゆびとうみらっていん、ぬーぬ やなくとうん しえー ねーん むん やらー しかむる くとー ねーらん。(警官に呼び止められても、何の悪い事もしてはいないのなら怖じけずくことはない)。にんとーる ぼーじゃーぬ めーをうてー あったに あびーねー しかでい なちゅん どー。(寝ている赤ちゃんの前で急に大声を出すと驚いて泣いてしまうよ)。

しかみー ぐるぐる すん 〈びくびくする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】っやーや しかみーぐるぐる そーくとう いぬんかい くーらりーさ。(お前はびくびくするから犬に噛みつかれるさ)。

しかますん 〈脅かす〉【活】しかまちゃん、しかまさん、しかまち 【例】ちちゅ しかまちゃん ばすに、「しかまち、かんぱち、さかえまち」んでい いーん。(人を脅かしたときに、「しかまち、かんぱち (頭の傷跡)、さかえまち (栄町、その昔のあぶない所)」と言う)。

しか むどうち 〈鹿もどき〉 【例】しかむどうちん、いなむどうちん、なまー っわー じしんかい くんやく、ちぬく、かしていらかまぶく いってい しるんーすさーに ちちゅくてーん。(鹿もどきも、猪もどきも、今は豚肉にこんにやく、キノコ、かすてらかまぼこを入れて白味噌で作っている)。

しがりーん 〈お金を工面する〉【活】しがったん、しがりらん、しがってい 【例】どうーぬ やー ちちゅたしが、ぎんこーんかい けーする じん あまくまんぢ しがってい しこーいんち あわり そーん。(自分の家を建てたが、銀行に返すお金をあちこちで工面して準備するのに苦労している)。

しがり なみ 〈津波〉 【例】ねーん うとうるさしが、うぬ あとうぬ しがりなみん うとうるさん。(地震も恐いが、その後の津波も恐い)。

しかん すん 〈嫌う〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】うんぐとう むぬいーよー しー ねー、ちちゅんかい しかん さりーん どー。(そのようにものの言い方をすると、人に嫌われるよ)。

じかん 〈時間〉 【例】ぬち かぎり はたらち じんぬ ある ばすねー じかんぬ ねーらん やてい、じかんぬ ある ばすねー じのー ねーらん。(一生懸命働いてお金があるときには時間がなくて、時間があるときにはお金はない)。

しきん 〈世間〉 【例】みっちゃい すりれー しきん。(三人寄れば世間)。でんさーぶしんかい しきんぬ いましみ うたーらっとうん。(デンサー節に世間の戒めが唄われている)。
しきん うまんちゅんかい うちなーぬ ゑいさーぬ しらっていちよーん。(世間の人々に沖縄のエイサーが知られてきている)。

しきーん 〈食べ物を煮る用意をする、米をといで準備する〉【活】しきらん、しきとーん、しきたん 【例】くめー あらてい しきてーみ? (米はといで準備してあるか)。くみ しきてい うちきとーけー。(米を炊く準備をして置いておきなさい)。くみ しきてい めしれー。(米を炊く準備をしてかまどに用意しなさい)。しきてーくとう ふいー ちきれー、うっぴ しーねー なー なー やさ。(炊く準備

をしてあるので、火をつけなさい。それだけしたら、もう終わりだ)。うぶん うさがみそーれー。(ご飯お召し上がり下さい)。むぬ にれー。(食べ物を煮なさい)。がんしな しきていばーき かみてい むむうやー そーたん どー。(運搬用クッションを置いてカゴを頭に乘せて、桃売りをしたんだよ)。【参】「くみ たちゅん」(米を炊く)とは言わない。めーまかい(ご飯茶碗)、しるまかい(おつゆ茶碗)、うぶん(ご飯一式)。

しぎーん 〈すげる、差し込む〉【活】しぎたん、しぎらん、しぎてい 【例】しよーがくしーぬ くろー、 なふだ しぎらんねー、ばちとうっし ろーかんかい たたさりーたん。(小学生の頃は、名札をつけないと、罰として廊下に立たされたものだ)。なち ないねー、うちなーんかい たび しーが ちょーる ういなぐぬちゃーが からじんかい あかばなー しぎてい しだすがいぐわーっし しまさば くてい なーふあぬ まち つういーりきさっし あっちょーん。(夏になると、沖縄に観光に来ている女性たちが髪にハイビスカスをすげて涼しい格好をしてゴムゾウリを履いて那覇の街を楽しそうに歩いている)。

しき むん 〈敷物〉【例】ふいーく なたくとう、ぬくさる しきむん ふしどーん。(寒くなったので、暖かい敷物が欲しくなっている)。

しきん 〈世間〉【例】みっちゃいから しきん、くちえー ちちしみ よー。(三人から世間なので、口は慎みなさいよ)。しきんや みーやくとう、やなくとー さん どー。(世間は何でもお見通しなので、悪い事はしないよ)。

しくち 〈仕事〉【例】しくちん さんぐとうやーをうてい かだいにんたい そーる なまたりむんぬ わかむんぬちゃーが ちかぐるうふく などーん。(仕事をしないで家で食べたり寝たりしている怠け者の若者たちが近頃増えている)。しくちえー しくちぬどう ならーする。(仕事は仕事が教えてくれる)。

しくむん 〈仕込む〉【活】しくだん、しくまん、しくでい 【例】うちなーぐゆみぬ しわーしぬ はちにちえー うにむーちーぬ ふいーやてい、めーぬ ふいーから むちぐー しくでい、やーにんじゅさーに むちぐー あーち かーさーんかい ちちでい かーさーむーちー ちゅくてい かむん。(陰暦の12月8日は鬼餅の日で、前日から餅粉を仕込んで、家族で餅粉を練って月桃の葉で包んでカーサームーチーを作って食べる)。

しこーいん 〈準備する〉【活】しこーたん、しこーらん、しこーてい 【例】なまからどう ゆーぼのー しこーいくとう、なー けーらんねー ならん。(これから夕ご飯の支度をするので、もう帰らないといけない)。

しこーい むこーい 〈準備〉【例】うゆうえーぬ しこーいむこーえー さねー ならんしが、なーだ ぬーん しえーをうらん。(お祝いの準備をしないと行けないが、まだ何にもしていない)。ゆーぼんぬ しこーいむこーえー なんとーみ?(夕飯の準備はできているか)。やまとうんかい いちゆる しこーいむこーえー なんとーみ?(本土に行く準備はできているか)。【参】単純作業に対して「しこーい」、手のかかる準備には「しこーい むこーい」を遣う。

しし 〈肉〉【例】ししえー なまじさーどうこーいん どー。(肉は冷凍していない/新鮮な生肉を買うんだよ)。とうしぬゆーるーやくとう、ちゅーや まるちゃじしん かめー。(大晦日なので、今日は‘まな板で切ったばかりの茹でたて豚肉のスライス’も食べなさい)。ししえー ちっちん ゆちやーいん。(肉は切っても寄り合うように、血縁は切っても切れるものではない)。っわーぬ なまじし(新鮮な豚肉)、うしぬ なまじし(新鮮な牛肉)、ふいーじゃーぬ なまじし(新鮮な山羊肉)。

しじ 〈筋〉【例】っやーが いーる くとーしじぬ とうーてー をうらん。(あなたが言うことは筋が通っていない)。

しじ 〈神霊〉 【例】「しじ、うしじ、うしじめー、うしじがなしーめー」のように遣う。。うしじめーや まちらっとーる とうくまんかい めんしえーん。(ご神霊は祀られているところにいらっしやる)。

しじか 〈静か〉 【例】ぐまわらびんちゃーぬ をうらん やーや いっぺー しじか やてい、むぬかんげーや ないしが、ふみかしぬ ねーらん。(小さい子どもたちが居ない家はとても静かで、考え事もできるが、活気がない)。

ししだま 〈じゅずだま〉 【例】ししだまぎーや かーらぬ はたぬ んーちゃぬ むいあがとーる とうくまんかい ゆー みーゆん。いーちゅーっし ししだま ぬちゃーに くびか じゃい ちゆくいん。また、しんじむんっし ぬみーねー、けつとーぬ さがいん。(じゅずだまの木は川の端の土が盛り上がっているところによく生える。糸でじゅずだまを通して首飾りを作る。また、煎じて飲むと、血糖が下がる)。

じしち 〈時節〉 【例】しだく なてい、あーじしち なていちよーん。(涼しくなって良い時節になってきている)。

ししぢゅん 〈すすぐ〉【活】ししぢゃん、ししがん、ししぢ 【例】くち ししぢから あじっし まーに。(口をすすいでから味してごらん)。

ししみーん 〈進める、勧める〉【活】ししみたん、ししみらん、ししみてい 【例】じかんぬ ねーらんくとう ふえーくなー ししみらな。(時間がないので速く進めましょう)。あとー っやーさーに ししみていくいり よー。(後はあなたで進めてくれよ)。

しじみーん 〈片付ける、整頓する〉【活】しじमितん、しじみらん、しじみてい 【例】わんめーや どうーくる すくとう、っやーめーや っやーくる しじみり よー。(私の周りでは自分でするので、あなたの周りでは自分で片付けなさいよ)。

しじみ かし 〈整頓〉 【例】しじみかしぬ じよーじな っちょー むぬ かんげーん などーん。(整頓が上手な人はものの考え方もできている)。

しじむん 〈沈む〉【活】しじだん、しじまん、しじでい 【例】とうじぬ なしみーんかい けーとーくとう、ちむぬ しじどーん。(妻が実家に帰っているの、心が沈んでいる)。

しじやま 〈態度〉 【例】あれー しじやまぬ わっさぬ、うやぬ ならーしぬ たらーんくとう、ちむぬ ふどうっういーてー をうらん。(あの人は態度が悪くて、親の教育が足りないの、精神が成長していない)。

したい 〈したり〉 【例】ゆー でいかちえーさ やー。したいひゃー。(よくやったね。よかったね)。

しだすん 〈ふ化させる〉 【例】とういぬ くーが しだすしえー さんしゅーかんびけーかかかん。(鶏の卵をふ化させるのには3週間ほどかかる)。【参】しでいーん(孵化する)。

しだすん 〈化粧する〉 【例】いちいちまでいん わかげーてい ちゃー ちゅらく をういぶさくとう、ういなごー しだすん。(いつまでも若返っていつも美しくありたいので、女性は化粧する)。

しだむん 〈涼む〉【活】しだだん、しだまん、しだでい 【例】んかしえー せんぷーきん クーラーん ねーんたくとう、うとうすいから っくわんまがまでい きーぬ しちゃ とうめーてい しだどーたん。(昔は扇風機もクーラーもなかったの、お年寄りから子ども孫まで木の下を探して涼んでいた)。

しだ かし 〈涼風〉 【例】しむちち ない めーねー しだかしぬ ふち、あー あんべー やたしが、ちかぐろー ふいじゅるく などーんねー すん。(11月になる前には涼風が吹いて、快適だったが、この頃は冷たくなっている)。

しち 〈好き〉【例】たーんかい やていん しちな っちょー をうる むんどう やしが、ぬーんち っやーんかえー をうらんが？(誰にでも好きな人がいるものだが、どうしてあなたにはいないの)。

しぢーん 〈過ぎる、やつれる〉【活】しぢたん、しぢらん、しぢてい【例】いったー わらべー いーぶさかっていー しーぶさかっていーっし しぢとーん。(あなたの家の子は言いたい放題したい放題して度が過ぎている)。ぬー やていん しぢーるくとー ましえー あらん、あんでいーる むのー いたぢらに ないん。(何でも過ぎることはよくない、溢れるものは無駄になる)。くぬ うしぬ ちーちーや ふいーぬ しぢとーくとう、ぬまんしえーまし。(このミルクは期限が過ぎているので、飲まない方がいい)。

しちきーん 〈やっつける、しつける〉【活】しちきたん、しちきらん、しちきてい【例】んかしえー しーじゃぬちやーんかい ゆばってい、むぬ ならーしんでいち しちきらりーるくとうん あたん。(昔は先輩たちに呼ばれて、しつけるといってやっつけられることもあった)。んかしとう なまとー しちきよーぬかわてい、ていーふいさ っんぢやちやい こーぐわーさー くわーちやい しーねー ならんくとう、わらびんちやーんかい むぬならーしぬ しーぐりく などーん。やくとう、めーあがいっし うやん うや なさん、しーじゃん しーじゃ なさん。(昔は今とは躰け方が違って、手足を出したりげんこつを喰らわせてはいけないので、子どもたちに道理を教えにくくなっている。それで、生意気になって親も親とは思わない、先輩も先輩とは思わない)。

しちき 〈しつけ〉【例】なまぬ うやぬちやーぬ しちきがたー なてーをうらん。(今の親たちのしつけはなっていない)。**【参】**くらしがた(暮らし方)、ちーくがた(稽古の仕方)、しこーいがた(準備の仕方)。

しちきーん 〈備え付ける〉【活】しちきたん、しちきらん、しちきてい【例】なーぬ きーんかい そーみなぬー くー しちきたくとう、そーみなぬー いっちやい っんぢたい そーん。(庭の木にメジロの巣箱を備え付けたので、メジロが出たり入ったりしている)。

しちぐわち そーぐわち 〈盆と正月〉【例】やまとうんかい をうる っくわー しちぐわちそーぐわちにどう けーていちゆーる。(本土に居る子は盆と正月に帰省する)。しちぐわちそーぐわち しらんぬー みーちらりーん どー。(盆と正月を知らないと見捨てられるよ)。

しちゆん 〈敷く〉【活】しちゃん、しかん、しち【例】たたんから じゅーたん しちえーる じゃしちぬ うふく なてい、くらしよーぬ たった うらんだふーじー などーん。(畳からじゅうたんを敷いた部屋が多くなって、暮らし方がだんだん洋式になっている)。

じち 〈本当〉【例】じちえー よー。(実はねえ)。じちぬ くとう いれー。(本当のことを言いなさい)。**【参】**ちむんかい むっちょーし いれー(内に秘めていることを言いなさい)。

しちや 〈下〉【例】うっちんとうーっし しちやびけー んーぢーねー、っういーぬ みーらんくとう かんばぬんかい ちぶる あーする ばーん あん。(うつむいて下ばかり見ていたら、上が見えないので看板に頭をぶつけることもある)。

しちや しば 〈下唇〉【活】っわー しば〈上唇〉【例】ふいーさいねー くちぬ かーらちゆしが、くちえー しちやしばとう っわーしばから などーくとう、しばさーに んだすん。(寒いと口が乾くが、口は下唇と上唇から成っているの、舌で濡らす)。

しちや だくまー 〈こっそりたくらむ者〉【例】しちやだくまー たんきり よー。(こっそりたくらむ者に深入りしないでね)。

しちや でいー 〈贈収賄〉 【例】うていんぬ しちやをうてー あくゆく しえー ならんどう あしが、ゆくぬ ちゅーさぬ、いちぬ ゆー やていん しちやでいー ちかいるくとうぬ ねーん ないる くとー ねーん。(お天道様の下では悪欲をしてはならないが、欲が強く、いつの世でも贈収賄が無くなることはない)。

しちや ぬい 〈下塗り〉 【例】やー ふちやーに しちやぬえー さしが、じんぬ たらーん なてい っわーぬいまでー なーだ しえー ねーん。(家を建てて下塗りはしたが、お金が足りなくなって上塗りまではまだしていない)。

しちや ばー 〈下歯〉 【例】わらびぬ はーや しちやばーから みーていちゅーん。(子どもの歯は下歯から生えてくる)。

しちや ばー 〈下葉〉 【例】をうーじぬ しちやばー かやーに すがち いーち しみーん。(砂糖キビの下葉を刈って風を通して息をさせる)。

しちや ばい 〈下方にだらだらと後をひいて流れること〉 【例】びちぬ いらむぬんかい わきーる ばすに さきぬ しちやばいっし むとーたん。(別の入れ物に分けるときの酒が下にだらだらと後をひいて漏れていた)。

しちや ふいち 〈あごひげ〉 【例】あぬ っちょー ふいーぢやーぬ ふいちんねーっし しちやふいじ たていとーしが、っやー っわーふいちえー がちまやーぎさこー ねーらに? ふーじえー ねーらん、すてい くーわ。(あの人はヤギのヒゲのようにあごひげを生やしているが、お前の口ひげは食いしん坊みたいではないか。みっともない、剃って来い)。
【参】がちまやーぎさー あらに?(食いしん坊みたいではないか); がちまやーふーぢーや あらに?(食いしん坊みたいではないか)。

しったいん 〈濡れる〉【活】しっただん、しっただらん、しっただてい 【例】っやー からじえー んでいてい しっただとーくとう すすれ

ー。(あなたの髪は濡れているので拭きなさい)。しったい ないん 〈濡れる〉【活】～あなたん、～ならん、～なてい 【例】んでいばたばたっし いーねー しったい ないくとう、すすていから うちんかい いらい よー。(ずぶぬれのままに入ると濡れてしまうので、拭きとってから家に入んなさいよ)。

しったい かーたい ないん 〈びしょぬれになる〉【活】～あなたん、～ならん、～なてい 【例】あつたに あみ ふやーに ちゅらーさ しったいかーたい なたん。(急に雨が降ってすっかりずぶぬれになった)。

しったい でいー 〈濡れた手〉 【例】しっただていーしえー ぬーん さーらんぐとう、ていーや すすていから しえー。(濡れた手では何も触らないで、手は拭きとってからしなさい)。

しったい ぢん 〈濡れ着〉 【例】なまぬ わかむのー あみんかい んでいてい しっただぢん ちちん ぬーん うまーんどう あが? どうしとう ゆんたく さがなー あっちょーん。(今時の若者は雨に濡れて濡れ着を着たままでも何とも思わないのか、友人とおしゃべりしながら歩いている)。

しっぷいん 〈吸い出す〉【活】しっぶたん、しっぶらん、しっぶてい 【例】ハブんかい うたーりーねー うぬ どうく っんぢやさんねー ならんくとう、くちさーに しっぶれー。(ハブに咬まれると、その毒を出さないとならないので、口で吸い出しなさい)。

しっぴー ないん 〈ぺっしゃんこになる〉【活】～あなたん、～ならん、～なてい 【例】あーさ ってい しっぴー ならん くるまぬ みちぬ かたはらんかい うっちゃんぎらっどーたん。(事故にあつてぺっしゃんこになっている車が道端に放置されていた)。

しっぴりーん 〈ぺっしゃんこになる〉【活】しっぴりたん、しっぴりらん、しっぴりてい 【例】っちゅんかい ぬらーりやーに ちゅらーさ しっぴりとーん。(人に叱られてすっかり小さ

くなっている)。まぎまちやぬ たっち、うりん
かい こーやー どうらってい ぐままちやぐ
わーや なまー しっぴりとーん。(大店舗が
建って、それに買い物客を取られて小さな店は
今は活気を失っている)。

しっぴらー 〈ペしゃんこのもの〉 【例】く
ぬ いんぐわーや はな しっぴらー やし
が、じんぶぬん あてい いっぺー うじらー
さん。(この犬は鼻ペしゃんこだが、かしくくて
とてもかわいい)。

しっぴらかすん 〈潰す〉【活】しっぴらかち
やん、しっぴらかさん、しっぴらかち 【例】わ
ーが いーしえー ちかんねー しっぴらかす
ん どー。(言うのを聞かないとつぶしてやる
ぞ)。かんからー あちみてい しっぴらかさ
ーに/たっぴらかさーに うとーる っちゆん
をうん。(空き缶を集めてペしゃんこにして
売っている人もいる)。ビール ぬだる あと
ー かなじ ていーさーに かんからー し
っぴらかする っちゆぬ をうん。(ビールを
飲んだ後はかならず手で缶をつぶす人が居る)。

していーん 〈捨てる〉【活】していたん、し
ていらん、していてい 【例】つくわ なさーに
うっちゃんぎーる うやー つくわんかいん
していらりーん。(子を産んで面倒見ない親
は子にも捨てられる)。

してい ぼーりーん 〈粗末にする〉【活】~
ぼーりたん、~ぼーりらん、~ぼーりてい 【例】
むん していぼーりーしーねー、 むんぬ ば
ち かんぢゆん どー。やーさっし むぬん
かまらん ないん どー。(ものを粗末にする
と、ものの罰を受けるよ。ひもじい思いをして
ものも食べれなくなるよ)。

しでいーん 〈ふ化する〉【活】しでいたん、し
でいらん、しでいてい 【例】とういぐわーぬ
しでいーん。(ヒナがかえる)。とういぬ くー
がぬ しでいとーん。(鶏の卵がふ化している)。
しでい がふー 〈感謝、おめでた〉 【例】
あきまどうし ないねー、ちゃー みーかんげ

ーっし どうらちよーみしえーる うかたがた
んかい しでいがふー うんぬきーん。(新年
にはいつもお世話をいただいている方々に感謝
を申し上げる)。うしでいがふー しえーびー
さ やー。なしじちえー いち やいびーが?
(おめでたですね。予定日はいつですか)。

しでい がら 〈抜け殻〉 【例】なちえー
なーびかちかちーぬ しでいがらぬ あまくま
ぬ きーくさんかい たっくわとーん。(夏は
アブラゼミの抜け殻があちこちの木草にくっ付
いている)。

しでー よーい 〈衰弱すること〉 【例】
くねーだまでー ちゃーん ねーんたる むん
ぬ、たでーま しでーよーいっし やー。(この
間までどうってこともなかったのに、急に衰弱
してるねえ)。

しとう 〈姑〉 【例】にーびち しーねー、う
いなぐしとう、ういきがしとう、をうないしと
うぬちゃーとう ふいらてい いちゆるくとう
ないん。うぬ よーな くとうんかい しと
うびれーんでい いーん。(結婚すると、しゅう
とめ、しゅうと、小姑とつき合っていくことにな
る。そのようなことに姑づきあいと言う)。

しな むん 〈品物〉 【例】ぐままちやー
しなむんぬ いきらさくとう、はじめから ま
ぎまちやんかい いちーねー ちゆけーんなか
い むる こーらりーん。(小さい店は品物が
少ないので、最初から大きい店に行けば一度で
全部買うことができる)。

しなさき 〈なさけ、情愛、思いやり〉 【例】
うちなーしばいをうてー しなさきん ねーら
ん ういきがびけー やしが、じんとー んか
しぬ ういきがー あん やたがやー?(沖縄
芝居では思いやりのない男性ばかりだが、本当
に昔の男性はそうだったのかなあ)。

しに 〈すね〉 【例】しに をうーらりーん
どー。(すねを折られるぞ)。

しぬん 〈(事故で)死ぬ、(動物が)死ぬ〉【例】
 わったー いんぐわーや しぢねーん。(僕んちの犬は死んでしまった)。【参】まーすん。
しに っちゅ 〈死人〉【例】いくさをうてい かんげーららん あたいぬ しにっちゅぬ っんぢとーたしが、いちみん ちゃーっし いちち いけー しむが すら、くらしんぬ ゆーぬぐとう さちん みーらん などーたん。(戦争で考えられないほどの死人が出ていたが、生きている人もいったいどのようにして生きて行けばいいのか、闇世のように先も見えなくなっていた)。
しに どうくる 〈死に場所〉【例】あんなぬ あていどう みーとう などーくとう、をうとうぬ やーぬどう しにどうくる やる。(縁があってこそ夫婦になっているので、夫の家が死に場所だ)。
しに やんぢやー 〈死に損ない〉【例】いくさんかい ていーふいさん とうらってい しにやんぢやー すし やかにん しぬしえー まし やっさーんでい うむいるとうちん あたん。(戦争に手足もやられて死に損ないになるよりも死んだ方がいいと思う時もあった)。
しに〜〈すごく(うちなーやまとうぐちの接頭辞)〉 しにがーたー(死にそう)、しにやんぢやー(死に損ない)のような用法から生まれた、でーじな、したたか、うすまさ、いっぺーを意味する新造語か?【例】わらび そーいねー しに(正しくは、でーじな)しかんたしが、ぬーぬ くとぅが やら、なまー わん をうとう などーん。(子どもの頃には大嫌いだったが、いったいどういうことなのか、今は私の夫になっている)。しに(正しくは、したたか)や なかーぎーぬ いゆ やしが、かーぎとー ちがてい しに(正しくは、いっぺー)まーさん。(見た目はひどい魚だが、見かけとは違ってとてもおいしい)。

しぬぢゅん 〈しのぐ〉【活】しぬぢゃん、しにがん、しむぢ 【例】ゆぬなかんかえー うふっうえーきんちゅん をうれー、ちゅー か

みーねー あちやーや ぬー かむが んちぬち しぬぢ くらちよーる っちゅん をうん。(世の中には大金持ちもいれば、今日食べると明日は何を食べるのかと命を削って暮らしている人もいる)。

しぬぶん 〈忍ぶ〉【活】しぬだん、しぬぼん、しぬでい 【例】しぬぼらん しぬび すしどーう しぬび やさ。(忍ぶことができないほどの忍びをしてこそ真の忍びだよ)。

しば 〈舌〉【例】なまー しばぬ はぎとーくとう、ぬー かでいん まーこー ねーん。(今は舌が炎症を起こしているの、何を食べてもおいしくない)。っちゅぬ なかんかえー いるねー みしらんしが、くさー とうんけーてい しば ねーとーる ぼーん あん。っちゅんかい うしえーらっていどう をうが? あねー あらんどーう あが?んでい いーしえー、ゆー わからんとーならん。(人の中には表情には見せないが、後ろを振り返ってバカにしている場合もある。人にバカにされているのか、そうではないのかというのはよくわからないといけない)。

しば いる 〈唇の色〉【例】しばいるぬぬぎとーしが、ぬーが っやーや くーやーいんぐわーんかいどう っわーりていー?(唇の色が真っ青になっているが、あなたは人に噛み付く犬にでも追われたのか)。

しば かんちらかんちら すん 〈舌がうまく回らない〉【活】〜さん、〜さん、〜っし 【例】っちゅぬ めーをうてい うちなーぐちさーに えーさち する ばすねー、ぬぶしてい しばかんちらかんちら すん。(人前で沖縄語で挨拶するときには、あがって舌がうまく回らない)。

しばい 〈芝居〉【例】こくりつげきじょーぬぐとーる まぎしばいやーや あゑー すしが、なーふいん わかさる しばいしー すだていらんとー ならん。(国立劇場のような大

劇場はありはするが、もっと若い役者を育成しないといけない。

しぴたいん 〈しょんぼりする〉【活】しぴたたん、しぴたらん、しぴたてい 【例】あれー なげーさ ちかなとーる いんぐわーぬ ふいんぎてい とうめーららん なてい なまーしぴたとーん。(あの人は長いこと飼っている愛犬が逃げて探せなくなって今はしょんぼりしている)。

しぴたー 〈弱虫〉 【例】わらび そーいねー いっぺー しぴたー やたしが、なまーうちかわてい いぢちりむん などーん。(子どもの頃はとても弱虫だったが、今はだいぶ変わって根性のある者になっている)。

じふい、じっぴ 〈真偽〉 【例】むぬぐとうぬ じふい わかする くとー むちかさん。(物事の真偽を判断することはむづかしい)。

しぶいん 〈絞る〉【活】しぶたん、しぶらん、しぶてい 【例】ていーさーじ ちゅーぢゅーく しぶてい むっち くとーわ。(タオルを絞りきって持っておいで)。

しぶいん 〈しゃぶる〉【活】しぶたん、しぶらん、しぶてい 【例】んかしぬ わらびんちゃーや あたらさがみっし あみぐわーん とうきーるまでい かなーさんぐとう しぶとーたん。(昔の子どもたちは大事に食べて飴も溶けるまで噛み砕かないでしゃぶっていた)。

しぴたいん 〈湿る、だらしが無い〉【活】しぴたたん、しぴたらん、しぴたてい 【例】あみんかい んでいてい ちのー しぶたとーくとう ふえーく けーれー。(雨に濡れて着物は湿っているので着替えなさい)。あれー しぴたとーてい ぬーんでい いちん はー たたん。(あの人は優柔不断で何を言っても返ってこない)。

しぶしぶ そーん 〈じめじめしている、よれよれしている〉 【例】すーまんぼーすーぬ しちえー やーぬ なーかー しぶしぶ そ

ーてい ちむん はりらん。(小満芒種の季節には家の中はじめじめして気持ちも晴れない)。みーみーふーがーっし しぶしぶ そーる ずぼのー わかむぬんかえー ふえーとーしが、うとうすえー じんぬ たらーんくとう こーえーうーさんでいどう うむとーる。(穴が空いてよれよれのズボンには若者にはファッションだが、お年寄りにはお金が足りないので買えないのだと思っている)。あれー ぬーが あんし うちかわてい しぶたいかーたい そーる？(あの人はどうしてあんなに落ちぶれてしまっているの)。【参】「しぶたい かーたい そーん」とも言う。

しぶ〜〈粘り強い〉 【参】「しぶさん」からの派生。

しぶー〈粘り強い者〉 【例】しぶーや しーなするまでい ちもー ゆるみらん。(粘り強い者は成就するまで気をゆるめない)。

しぶー だき 〈弾力性のある竹〉 【例】ちんぶこー んかしえー しぶーだき ちかとーたしが、なまー ちからん などーん。(釣り竿は昔は弾力性のある竹を使っていたが、今は使わなくなっている)。

しぶい 〈冬瓜〉 【例】そーきじろー しぶいとう ぐー なち にーねー まーさん。(そーき汁は冬瓜と一緒に煮るとおいしい)。

じぶん 〈時間〉 【例】じぶのー ちゃーなどーが？(何時になっているか)。んかしえー ていーだっし じぶのー はかいたん。(昔は太陽で時間を計っていた)。なー むぬ かむる じぶん あらに？(もう食事する時間ではないか)。なまー にんぢゆる／けーていちゅーる／うわいる／うきーる じぶん やさ。(今は寝る／帰ってくる／終わる／起きる時間だよ)。

しま 〈地域〉 【例】うちなーぬ なーむらむらなーしまじまんかえー むちめーぬ しまくとうばぬ あくとう、うり ちかてい うちなーぐちぬ はな さかさな。(沖縄の村ごとに

地域ごとに独特の伝統的な地域語があるので、それを遣って沖縄語の花を咲かそう)。

しまー 〈島内産、島育ち〉【例】しまーやかなさる むん。(島内産は愛用品)。かみむのー しまーぬ まし やさ。(食べ物島内産がいい)。やまとうふーぢー やしが、うれー しまーぐわー どー。(本土産のようだが、それは島内産だよ)。

しま 〈相撲〉【例】うちなーぬ しまー はじみから うーび とぅっかちみらち はじまいん。えーていぬ くしながに ぢーんかいちきーねー かっちょーん。(沖縄の相撲は最初から帯を強く掴んで始まる。相手の背中を地面につけると勝ち)。どうしとう しまとうえーっし まかすんちどう うむたしが、だーちゅらーさ さったるむん。(友人と相撲取りをして負かそうと思ったが、まんまとやられてしまった)。

しますん 〈済ます〉【活】しまちゃん、しまさん、しまち 【例】していみていむのー ちゃーしるびけーっし しますん。(朝食はいつもおつゆだけで済ます)。

しまり 〈戸締まり〉【例】しまれー ー？(戸締まりはしたか)。ゆー しまり ー ー。(戸締まりはちゃんとしなさいよ)。

しみ 〈学問〉【例】しめー しっち むのー しらん。(学問は積んでもものの道理は知らない)。

しみーん 〈締める〉【活】しみたん、しみらん、しみてい 【例】うんな くとう ーねー、どうーっし どうーぬ くび しみーるくとう ないん どー。(そんなことをすると、自分で自分の首を締めることになるよ)。

しみーん 〈責める〉【活】しみたん、しみらん、しみてい 【例】っちゅんかえー、どうーじみー する っちゅとう えーてい しみーる っちゅぬ をうしが、っやーや ぢる や

が？(人には自分を責める人と相手を責める人が居るが、あなたはどっちなのか)。

しみーん 〈させる〉【活】しみたん、しみらん、しみてい 【例】わらびんちゃーや ていーぬ みーれーからー、ほーちかち さい、まかいどーぐ あらたい、くみ しきたい、かーんちゃい、むぬ にちゃい、ぬーくいーん やーぬ ていがねー しみーし やん。(子どもたちは手が自由になってからは、庭掃除をしたり、茶碗を洗ったり、米を研いだり、皮を剥いたり、料理をしたり、何もかも家の手伝いをさせるべきだ)。

しみけーいん 〈湿気る〉【活】しみけーたん、しみけーらん、しみけーてい 【例】くぬ しんびーや しみけーてい まーこーねーんしが、そーがーぬ いっちょーる うちなーしんびーびけーや しみけーらち かむしどう まーさる。(この煎餅はしけておいしくないが、ショウガが入っている沖縄煎餅だけは湿らせて食べるのがおいしい)。

しむ 〈台所〉【例】むぬ かだらー しもーしぐ かたじきれー。(ものを食べたら台所はすぐかたづけなさい)。むぬ かみーねー まかいどーぐ むる あらてい しじみれー。(食事したらお椀とかを全部洗ってしまいなさい)。**【参】**まかいどーぐ(=なーび、まかい、みしげー、なびげー、うめーし)。

しむ 〈冷雨〉【例】うちなーぬ さくらー しむぬ ふていあとう ぬくばーていちーねー、はなぬ さちちゅーん。(沖縄の桜は冷雨が降った後暖かくなってくると、花が咲きだしてくる)。

しむ ちち 〈霜月、11月〉【例】しむちちなれー、みーにしぬ ふちゅん。(旧暦の11月になると、新北風が吹く)。

しむち 〈根性〉【例】しむち わるー(根性悪)、はごー むん(心が汚れている者)。しむちぬ わっさん。(根性が悪い)。

しむん 〈済む〉【活】しだん、しまん、しでい
 【例】にんぢけー さんていん しむん どー。
 (お気遣いなさらくてもよろしいですよ)。ちー
 ちかーんていん しむん どー。(気を遣わ
 なくてもいいよ)。しむさ。(どうってことない
 よ)。ゆたさ ていー?/ゆたさみ?(よしとし
 たか/いいのか)。しむん どー。(いいよ)。あ
 んし ゆたさいびーたがやー?(それでよろし
 かったでしょうか)。

じゃまどういん 〈うろたえる〉【活】じゃ
 まどうたん、じゃまどうらん、じゃまどうてい
 【例】ゆくしむにーっし くわっくわちよーたる
 くとう いーあていらりやーに いっぺー
 じゃまどうとーたん。(嘘をついて隠していた
 ことを言い当てられてとともうろたえていた)。

しよー しじゃま 〈やり方〉【例】あれ
 ー ていふん ないる っちゅ やくとう、あ
 りが しよーしじゃま ねーびしえー。(あの
 人は手本になる人なので、あの人のやり方を真
 似なさい)。

じゃー 〈蛇〉【例】ういなぐぬ はていれー
 じゃー なてい、まーから っんぢていちゅ
 ーが すら わからん ちから むっちょーく
 とう、とうじ する むん やらー、ゆー ふ
 いらり よー。(女性は果ては蛇になって、ど
 こから出てくるのか分からない力をもっている
 ので、妻にするつもりなら、よくつき合うんだ
 よ)。

じゃー 〈座〉【例】じゃー はねーきやーぬ
 ちーねー、っちゅばちに じゃーぬ あかが
 てい はなぬ さちよーんねー すさ。(座を
 にぎやかにする人が来ると、たちまち座が明る
 くなって花が咲いているようになる)。

じゃーがる 〈粘土質の黒土〉【例】「じゃ
 ーがる」ぢーや くちや、「まーぢ」や あかん
 ちやー やん。「じゃーがる」という土は粘度
 質、「まーぢ」は赤土である)。

じゃーふえー 〈始末におえないこと〉【例】
 あちゃーんでいーる ふいーや ねーんくと
 う、ちゅー しーびちーくとー ちゅーをうて
 い さんねー、じゃーふえー ないん どー。
 (明日という日はないので、今日すべきことは今
 日でしないと始末におえなくなるよ)。

じゃーふえー ていーふえー 〈悪さをさ
 れる様〉【例】いーじまんかい わたていから
 むらぬ にーしえーたーんかい じゃーふ
 えーていーふえー さったんでいる ハンドー
 グワー やしが、なま んーぢゆる かぢり
 さちかんとーる いーじまぬ ゆいぬどう ハ
 ンドーグワーぬ ちむ とうめーらちよーんね
 ー すん。(伊江島に渡ってから村の若者たち
 に悪さをされたというハンドーグワーだが、今
 あたり一面に咲き乱れているユリがハンドーグ
 ワーの心を慰め落ち着かせているような気がす
 る)。

じゃーま 〈迷うこと〉【例】やんばるぬ
 やまぬ うーくんかい いっち みちじゃーま
 っし、ゆながた しかんかーさがなー きっち
 やきくるびっし あっちょーたん。(ヤンバル
 の山の奥に入り込んで道に迷って、一晚中びく
 びくしつまずきながら歩いていた)。

じゃしち 〈部屋、寝床〉【例】いったー や
 ーや じゃしちえー いくちえー あが?(あ
 なたの家は部屋はいくつあるか)。うきーしと
 う まじゅん じゃしち とうれー。(起きる
 とすぐに床をとりなさい)。

じゃっとうー、うじゃっとうー 〈飾
 り気がない人、さっぱりした人〉【例】うい
 なぐぬ っんぢとーてい すがいみちーん わ
 からん、ふーじえー ねーらん、うじゃっとう
 ー やー。(女性のくせして着飾ることもわか
 らない、みっともない、飾り気がないね)。

じゃま 〈様〉【例】あれー っくわ なち
 うや などーしが、えーさちん わからん、じ
 やまー ねーらん。(あの人は子どもできて親に

なっているが、挨拶もわからなくて、みっともない)。

じゃんぬ いゆ 〈ジュゴン〉【例】やんばるぬ うみをうてい じゃんぬいゆぬ しどーん。(ヤンバルの海でジュゴンが棲息している)。

じゅー 〈尾、しっぽ〉【例】ぬーぐとうん じゅーちらー しえー ならん どー。(何事も途中で投げ出してはいけないよ)。あれー わーが わかてーをうらんち うむとーる はじ やしが、ありが じゅー とうっかちみとーん どー。(あの人は私がわかってはいないと思っっているはずだが、あの人の弱みをとっつかまえているからね)。ちぶるぬ っんぢゆきわどう じゅーん っんぢゆちゆる。(リーダーが動いてこそ部下も動く)。

じゅー むっかー、じゅー むっこー 〈しっぽがない姿〉【例】やーるーや どうーまむいる たみに じゅー ちっち ふいんぎーくとう、じゅーむっかー などーん。(ヤモリは自分を護るためにしっぽを切って逃げるので、しっぽがない姿になっている)。

じゅー ふい 〈しっぽ振り〉【例】いんぬ うっさっし じゅーふい するぐとう、じゅーふやーぬ っちゆん をうん。(犬が喜んで尾をふるように、しっぽを振る人間もいる)。

じゅーぐやー 〈十五夜〉【例】ちゅーや じゅーぐやー やくとう、うちちゅーめーん かい ふちやぎ うさぎてい かむん。(今日は十五夜なので、お月様にふちやぎ餅をお供えして食べる)。

じゅーしー 〈炊き込みご飯〉【例】じゅーしーんかえー くふあじゅーしーとう やふあらじゅーしーぬ あてい、とうんじーじゅーしーとう しちぐわちぬ うんけーじゅーしーやくふあじゅーしー やしが、やふあらじゅーしーや っんむ、かんだばー いったい やふあってーん にち かむん。(炊き込みご飯には固めの炊き込みご飯と雑炊があって、冬至や旧

盆のお迎えは固めの炊き込みご飯だが、雑炊は芋、芋の葉を入れてやわらかく煮て食べる)。

じゅーてー 〈金銭のやりくり〉【例】ういきが じゅーてー=じん かむとーる ういきが(お金のやりくりをする男性、「ういなぐ じゅーてー」とは言わない)。あまぬ やーやをうとうぬどう じん かむとーん どー。あまー ういきがじゅーてー やさ やー。(あの家は夫が財布を握っているよ。あそこはやりくり男だね)。あらしゅーてー(=じんぢけーぬ あらさる むん、浪費家)。あまー ういきがじゅーてー やくとう、じのー からさん どー。(あの家は男が金銭のやりくりをしているので、お金は貸さないよ)。

じゅーるくにち 〈旧暦の1月16日〉【例】じゅーるくにちえー ぐそーぬ そーぐわち やくとう、はかめーっし うぐわんすんかい うさぎーん。(十六日はあの世の正月なので、墓参りをして御先祖にお供えする)。

じゅーばく 〈重箱〉【例】しーみーねー じゅーばくんかい うさんみ むてい うふあかをうてい うやふあーふじとう まじゅーん かむん。(清明祭には重箱にごちそうを盛ってお墓で御先祖さまと一緒に食べる)。

〜じゅく 〈〜にかかりっきり〉【例】もーきじゅくん あしびじゅくん うりびけー しえー ならん、むぬぐとうんかえー かぢりぬ あん。(金儲け一点張りも遊びだけしてもそれだけしてはだめだ、何事には限度がある)。

じゅん 〈正常〉【例】あまぬ をうとー めーや じゅのー あらんたしが、なまー じゅん なてい、なまねー とうじっくわ んーぢうーすさ。(あちらの夫は以前は普通ではなかったが、今は正常になって、今なら妻子を養えるよ)。あぬ っちよー じゅんに にーびちさがやー?(あの人は本当に結婚したのか)。

しえーしん 〈お代わり〉【例】うほーく しこーてーくとう、うしえーしん しみそーり

よー。(たくさん準備してあるので、お代わりしてくださいよ)。

しえーべー 〈余計〉 【例】しえーべー ぐとう さん けー。(余計なことはするな)。

しよー むよー 〈いろいろな手段を講じること〉 【例】ぬーぬ しよーむよー さんていん んーぢゆる うっぴ しん をうかしくないしえー ちゃーる ばー がやー?(何の手を打たなくても、見るだけでおかしくなるのはどういうわけかねえ)。

じよー 〈門〉 【例】っういーぬ あやじよー(守礼門)、しむぬ あやじよー(中山門)。しばいぬ じよーや っちゆぬ いっちやい っんぢたいぬ うふさる とうくる やたん。(芝居場所の門は人の出入りの多いところだった)。うちなーをうてー いしじよーぬ ふいぢやいにぢりんかい しーさーぬ あしらっどーん。(沖縄では石門の左右にシーサーが備えつけられている)。やなむん ばれー するたみに うちなーぬ じよーや にぢりふいぢやいんかい くち ふいらちよーる しーさーとうくち くーとーる しーさーぬ うちきらっどーん。(邪気を払うために沖縄の門は左右に口を開いているシーサーと口を閉じているシーサーが置かれている)。じよーや さーし いってーい?(門扉は錠をかけたか)。**【参】** 集落や屋敷の東、西、上、下、前などの位置関係によって、それぞれ「あがりじよー」「いりじよー」「っういーじよー」「しむじよー」「めーじよー」と呼ばれ、家名、地名でもある。

じよー、ぐじよー 〈手紙〉 【例】ゆーがわいっし ていーがちぬ ぐじよーぬ いきらく なてい むぬたらーんねー すん。(世の中が代わって手書きの手紙が少なくなって物足りない気がする)。

じよーぐー 〈好き者〉 【例】さきじよーぐーや からむんじよーぐー やしが、あれーあんむちじよーぐーん やん。(酒好きは辛い

もの好きだが、あの人はあん餅好きでもある)。さきじよーぐーたっくいーや あらんくとう、うほこー ぬみうーさん。(酒好きの血統ではないので、たくさんは飲めない)。ししぬ じよーぐー やてい、あさから かむんでい どー。(肉が好きで、朝から食べるってよ)。ししとう いゆ ぬーぬ じよーぐー やが?(肉と魚、何が好きか)。**【参】** ぢく(下戸)。

じよーふい 〈吉日〉 【例】じよーふいねーやーうーちー さい、うゆうえー さい、をうぐわん さい すん。(吉日には引っ越ししたり、祝い事をしたり、拝みをしたりする)。

じよーふ 〈上布〉 【例】じよーふや じよーとうーな あさぢ やてい、なーこー くんぢに すみてい、ゑーまー するぢ やん。(上布は高級な麻布で、宮古は紺地に染めて、八重山は白地である)。

じよーま 〈一人前、標準〉 【例】じよーまぬ ういなぐとう ういきがー にーびち っし、つくわ なさわどう やる んでい いらっどーたしが、なまー あねー あらん などーん。(一人前の女性と男性は結婚して、子どもをつくらないといけないと言われていたが、今はそうでもなくなっている)。

じよーさ 〈費用〉 【例】やー ふちゆる じよーさー ちゃっさ かかいがやー?(新築する費用はどれくらいかかるのかねえ)。**【参】** っんぢりめー、っんぢりふあー。

じよーじ 〈上手〉 【例】ぬー ちゆくらちん じよーじ、ふいたぬ あん。(何を作らせても上手、下手がある)。むぬぐとうぬ じよーじ、ふいたー っんまりぢちぬ むぬとう、どーあがち さーに ないる っちゆぬ をうん。(物事の上手、下手は生まれつきのものと、努力で成す人がいる)。

じよーのー、かねー 〈税金〉 【例】はたち ないねー じよーのー(=かねー) うさみーん。(20歳になると税金を納める)。

しらっくわ 〈生後6ヶ月ぐらいの赤ん坊〉

【例】あかんぐわーや ふどういしんでー ちらん どうーてーん しらっくわ なていちゅーん。(赤ん坊は育つにつれて、顔も体も白くなってくる)。

しる 〈汗〉 【例】みーや ねーらん、しるび

けーどう やたる。んなしるーん ばーけーっしどう かむたる。(具はなくて、汗だけであった。具無し汁も奪い合って食べたものだ)。

しる ぢきー 〈汁かけご飯〉 【例】むぬぐとうん っちゅぐとうん ふいっちやかみっちやか しみてー ならん ぐとう、していみてい っんぢーる めーねー しるぢきーっしむぬ かむる むのー あらん。(物事も人間関係もごっちゃにさせてはいけないように、朝早く出る前には汁かけご飯にして食べるものではない)。

しるー 〈白、白いもの、賛成派、与党〉 【例】

まっさーら そーる くむ/しるじゃーたー(真っ白な雲/白糖)。うちなーぬ おーるーやうみとう ていん、しるーんでい いーねーしな やん。(沖縄の青は海と空、白と言えば砂だ)。**【参】**くるー(反対派、野党)、まっさーら(真っ白)、しらがー(白髪の者)、まっさーら すん/そーん(真っ白くなる/なっている); しらぎん かみとーみしえーしが、からじえー まっさーらっし ちゅらさいびーんやー(白髪もだいぶ目立っていらっしやいます、髪は真っ白できれいですね)。

しるし 〈兆候〉 【例】でいーぐぬ はなぬ

さちかんぢゆる とうしねー まぎかじぬ ちゅーる しるし やんでい。(デイゴの花が咲き乱れる年には大型台風がくる前兆だって)。

しわ 〈心配〉 【例】しわぐとうぬ ねーん

っちよー まー とうめーていん をうらん。(心配事のない人は何処を探してもいない)。

しわ さー 〈心配性の者〉 【例】かんげー

らんていん しむるくとう あんやん かんや

んんち かんげーぢゅーさる っちゅんかい しわさーんでい いーん。(考えなくてももすむことにああだ、こうだと考え過ぎる人に心配性と言う)。

しわーし 〈師走〉 【例】しわーし ないね

ー、あちねーさーや もーきんでいち いちゅなさぬ、こーやーや しわーしぢけーむん こーいんち いちゅなさぬ、しわーしぬ まちえー っちゅぬ まんでい わっさいわっさいそーん。(師走になると、商売人は金儲けで忙しくて、買い物客は師走の買い物をすると行って忙しくて、師走の市場は人ばかりでひしめきあっている)。

しらー くさー 〈前後左右、周囲〉 【例】

っちゅぬ めーんかい たっち、しらーくさーんーだん っちゅぬ をうん。(人の前に立って、周囲を見ない人がいる)。

しらい 〈シロアリ〉 【例】しらいぬ わさわ

さそーる ばすねー、たーれーんかい みじいってい あかがいぬ しちゃんかい うちきとーちーねー、たーれーぬ みじんかい うていていちゅーん。(シロアリが大発生している時には、たらいに水を入れて電灯の下に置いておくと、たらいの水に落ちてくる)。

しらすん 〈知らせる〉【活】しらちゃん、しら

さん、しらち 【例】なー ないねー、わんにんかいん しらちとうらし よー。(決まったら、私にも知らせてね)。

しらびーん 〈調べる、検査する〉【活】しら

びたん、しらびらん、しらびてい 【例】はなしち かかてい いさぬやーんかい っんぢやし、はなしちぐわーどう やが? ふーちやんめーどう やが? なま しらびとーん。(風邪をひいて病院に行ったが、ただの風邪なのか、インフルエンザなのか、今検査している)。

しらむん 〈白む〉【活】しらだん、しらまん、

しらぢ 【例】あがりぬ しらでいちょーくと

う まーんくいーん あきれー。(東の空が白んできているのですべて開けなさい)。

しらんちゆ すん 〈人見知りする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】ちちゆぬ めーんかい っんぢーねー、しらんちゆ すくとう、いぢりん ちきらんとー ならん。(人前に出ると、人見知りするので、意地をつけないといけない)。わらべーや たんかーまでい しらんちゆさーに、ちちゆぬ だちーねー んーぱっし うふなち すん。(子どもは満一歳まで人見知りをして、人が抱くと嫌といって大泣きする)。

しらんふーなー すん 〈知らんふりする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】しっちょーるーんかい しらんふーなー さったん。(知人に知らんふりされた)。どうしぬ ちーちかいくとう しらんふーなーっし たびだちゆん。(友人が気をつかうので、知らせないで旅立つ)。

しりちやーすん 〈もみ消す〉【活】しりちやーちゃん、しりちやーさん、しりちやーち 【例】たばくぬ ふいー しりちやーするばすねー、ぬくさんぐとう ちやーし よー。(煙草の火をもみ消す際には残さず消しなさいよ)。

しりぬがーいん 〈人になすりつけて逃れる〉【活】しりぬがーたん、しりぬがーらん、しりぬがーてい 【例】うちなーぐち ちかいてーくびんかい ふだ さぎらりーくとう、やながんまりっし 「あがー！」んでいーる うちなーぐち はかち しりぬがーさったん。(沖縄語を遣うと首に札を下げられるので、いたずらして「あがー！」という言葉をつかして逃れることができた)。

しりはぢゆん 〈擦りむく〉【活】しりはぢやん、しりはがん、しいりはぢ 【例】んかしえー ちやー はーえーごんごんっし うていちち あっちゆる わらべー をうらんたくとう、ふいじん ちんしん しりはぢやーに む

る あかちんき くわーさつとーたん。(昔はいつも走り回ってじっとしている子は居なかったので、肘も膝も擦りむいてみんな赤チンキが塗られていた)。

じる 〈どれ〉 【例】にちよーるー などーくとう、わー むのー じるが じるが やらわからん。(似ているのがあるので、私のはいつたどれなのかわからない)。っやーが ましやし じる やていん とうれー。(あなたが良いのどれでも取りなさい)。

しん 〈芯、本心〉 【例】うれー しんからやみ?(それは本心からか)。ありとー しんから ちりとーん。(あの人はまったく無関係である)。ありが はなしえー しんから うじてい ちちぶしくん ねーらん。(あの人の話は本当に嫌気がさして聞いてたくもない)。

しん 〈味気〉 【例】さきびんぬ ふた みちれー。あん さんねー、しん ぬきてい ぬまらん ないん どー。(酒瓶の蓋を閉めなさい。そうしないと、気が抜けて飲めなくなるよ)。

じん 〈お金〉 【例】うっぴぐわーぬ じんぐわー (はした金)。じん ぢりー そーくとう、ちやー なたい いちゆがやーんでいち しわそーん。たーがな じん からさーや をうらんがやー?(お金が切れているので、どうなるのかと心配している。誰か金貸しはいないかね)。じのー ぐそーんかいてい むっちえーいからん。(お金はあの世には持って行けない)。じのー なんどうるむん やくとう、もーきすーぶや あらん、たみすーぶ。(お金は手につかないので、儲けることよりも貯めるのが大切)。じんしどう じのー もーきーる。(資本がなくては金儲けはできない)。じんとー わらーらん、つくわとうどう わらーりーる。(お金とは笑えない、子であれば笑い合える)。

じん いりやー 〈財布〉 【例】じんいりやーんかえー かびじん いりーる とうくるとう くじん いりーる とうくるとう なー

めーめー わきらっとーん。(財布には紙幣を入れる箇所と小銭を入れる箇所がそれぞれ分かれている)。

じん かじゃ すん 〈お金の臭いがする〉
【活】～さん、～さん、～っし 【例】かみむんぬ
でーびけー いらりーねー、じんかじゃっし
っやー むのー かまらん。(食べ物値段ばかり言うとお金の臭いがしてあなたのものは食べられない)。ちちゆぬ むちむん かい
ばすに でー いらりーねー、じんかじゃっ
し かいぐりく ないん。(人の物を借りるときに値段を言われるとお金の臭いがして借りにくくなる)。【参】「ふいちちゆん」にも「じんかじゃ」の例有り。

じん かに 〈お金〉【活】じんがに 〈欲張り〉
【例】じんかねー みじ ちかいんねーっし
ちかい むのー あらん。(お金は水を使うように使うものではない)。

じん してい ぐとう 〈お金を捨てるようなこと〉 【例】やしむん こーいねー、じん
していぐとう ないん。(安い物を買えば、お金を捨てるようなことになる)。

じん てーし ぐとう 〈お金を浪費するようなこと〉 【例】むのー いらりーねー やくとう
どう こーいる むん やしが、ふさくとうん
ち ぬーくいーん こーいとうばしーねー、じん
てーしぐとう ないん。(物は必要だからこそ買うものだが、欲しいからといって何もかも買いまくると、お金を浪費することになる)。

じん ぢけー 〈金使い〉 【例】じんむちや
ーや じんぬ たから ゆー しっちょーくとう
、じんぢけーや くまさしが、あねー あらん
ちちゆぬちやーがどう じんぢけーや あ
らさん。(お金持ちはお金の大事さを知っている、金使いは細かいが、そうではない人たちが金使いはあらい)。くとうば じんぢけー。
(お金を使うようにことばも大切に遣うものだ)。

じん ぢまい 〈金詰まり〉 【例】じんぢま
えー ちちゆぬ ちむまでいん ちまらすん。
(金詰まりは人の心までも詰ませる)。

じん もーきじゆく 〈金儲け〉 【例】じん
もーきじゆくびけー かんげーとーる あ
ちねーさーや じんぐとうっし ふるばさりー
る くとうん、いさぬやーんかい いちゆしん
ならんくとう どうー やんぢゆるくとうん
あん。(金儲けばかり考えている商売人はお金のことで踏み倒されることも、病院に行くこともできなくて体をこわすこともある)。

しんか 〈仲間、グループ〉 【例】あれー む
る わったー しんかぬちやー どー。(あの
人たちはみんなわれわれ仲間だよ)。あつたー
や しんかぬちやーどう やん どー。(あの
人たちは仲間だよ)。【参】ぐー。

しんぐいーん 〈曇る〉【活】しんぐいたん、
しんぐいらん、しんぐいてい 【例】なちえー
あちさくとう、がんちょーぬ しんぐいてい
とうたいはきたいぬ うふさくとう ていーわ
ちやれー すん。(夏は暑いので、眼鏡が曇って
取ったりかけたりが多いので面倒だ)。

しんくち 〈洗骨〉 【例】んかしえー けー
まーしーねー、やかんぐとう しるふいらっし
から しんくちっし かーみんかい いったん
でい。(昔は亡くなったら、火葬することなく乾燥させてから洗骨して甕に入れたって)。

しんしー めーさー 〈先生におべっか使う人〉 【例】でいきらんぬーぬどう しんし
ーめーさー。(勉強ができない子が先生におべ
っか使う)。

しんじーん 〈煎じる〉【活】しんじたん、し
んじらん、しんじてい 【例】みーぐふあいつし
にんだらん なたる ばすねー、くわんそー
しんじてい ぬみーねー、にんだりーるぐ
とう ないたんでい。(目が冴えて眠れない
ときには萱草を煎じて飲むと眠れるようになった
って)。

しんじ むん 〈煎じ汁〉【活】しんじ ぐす
い 〈煎じ薬〉 【例】んかしえー いさぬ いき
らさたくとう、いらぶー、かちゆー、ぐーやー、

ちむぐわーぬ しんじむん ちゆくてい どう
一まむい そーたん。(昔は医者が少ない
ので、イラブ、カツオ、豚の尻の骨、肝の煎じ
汁を作って自分の身を守った)。

しんだかすん 〈滑らす〉【例】やーぬ っ
ういーぬ ゆち うとうすんでい しーねー、
ふいさ しんだかち うていてい まーちやる
っちゆん をうん。(屋根の上の雪を落とそ
うとしたら、足を滑らして落ちて亡くなった人
もいる)。

しんたく すん 〈洗濯する〉【活】～さん、～
さん、～っし【例】ちのー しんたくっし ふ
し よー。(服は洗濯して干しなさいよ)。

しんちりーん 〈澄み切る〉【活】しんちりた
ん、しんちりらん、しんちりてい【例】みじぬ
しんちりとーる かーらんかいん みんぐい
とーる とうくるんかいん いちむしえー を
うん。(水が澄んでいる川にも濁っているところ
にも生き物はいる)。

しんでいーん 〈滑る〉【活】しんでいたん、
しんでいらん、しんでいてい【例】ばさない
ぬ かーや くんぴーねー、しんでいてい ち
ぶる わいん どー。(バナナの皮は踏んだら、
滑って頭を打ち付けるよ)。

じんとー 〈本当〉【例】ありが いちよー
たる くとー むる じんとー(な くとう)
やみ?(あの人が言っていたことはすべて本当
(のこと)なのか)。

しんにん 〈仙人〉【例】しるふいぢ たて
いてい、からじえー しらぎ かみとーる た
んめーや しんにんぬ ぐとーさ。(白髭を生
やして、髪の毛は白髪のおじいさんは仙人のよ
うだ)。

しん ふいちゃぎ 〈神経衰弱〉【例】あ
れー なまー たーにん たーにん いららん
しわぐとう かたみとーくとう、しんから
ちむ をうたい そーてい、しんふいちゃぎ

などーん。(あの人は今は心配事を抱えている
ので、すっかり心労を患って、神経が衰弱して
いる)。

じんぶん 〈知恵〉【例】ぬー やていん
しえーや あらん、っちょー ちろーじんぶぬ
ん ありわどう やる。(何であってもすれば
いいというものでもない、人は器量・才能もな
いといけない)。あちねーさーや ふかぬ っ
ちゆとー かわてい もーきじんぶんでい い
ーしぬ あんでい。(商売人は他の人とは違っ
て金儲けの才覚というのがあるって)。

じんぶん くさらー 〈知恵なし、バカ〉
【例】めーが めーなち ふり あしびびけーっ
し じんぶんくさらー ないん どー。(毎日
あそんでばかりしてバカになるよ)。

じんぶん むちゃー 〈知恵のある者〉【活】
じんぶん たからー〈神童〉【例】くーさる
ばすねー じんぶんむちゃー、じんぶんたから
ーんでい いらっとーてーまん ぬーんくい
ーん ないんふーなー しーねー、あとうあと
ーてーげーぬ っちゆ ないん。(幼少の頃
には知恵があるとか、神童とか呼ばれていたとし
ても、何でもできるかのようにしていると、終
いには凡人になる)。

しんま 〈霊媒となって予言をすること〉【例】
りーぬ ぬてい くち あきらさりーる くと
うんかい 「しんま」んでい いーん。(霊が
乗り移って口を開けさせられることに「しんま」
という)。

しんめー なーび 〈大きな鍋〉【例】し
んめーなーび ちかてい、まるふいーじーや
っんむ にちやいっし かどーたしが、すーじ
んかえー なかみじる、いなむどうち、くーぶ
いりちゃー、かしちー ちゆくたい、かーさー
むーちー ちゆくたい そーたん。(シンメー
鍋を使って、通常は芋を煮たりして食べていた
が、祝事には中味汁、豚肉と白味噌の料理、昆
布炒め、おこわを作ったり、カーサームーチー
を作ったりしていた)。

す

すい 〈首里〉 【例】うすがなしーめーぬ いめんしえーびたる うぐしくぬ ぬくとーる すいや、なまー っういーりきどーくる やん。(王様がいらっしやった首里城が残っている首里は、今は観光地である)。

すいんちゅ 〈首里の人〉 【例】すいんちよー ちむだかさん。(首里の人は気位が高い)。

すいん 〈剃る〉 【例】なげーさる やしみぬ っうえーだー ふいち すらんたくとう、ふいち ばーばーっし ふーぢえー ねーらん などーたん。(長い休みの間は髭を剃らなかつたので、髭ぼうぼうしてみっともなくなっていた)。

すいん 〈添う〉【活】すたん、すらん、すてい 【例】ういなぐぬどう ういきがんかい すいるむんでい うむとーたしが、なまー ういなぐんかい すいる ういきがん をうんねー すん。(女性の方が男性に添うものだと思っていたが、今では女性に添う男性も居るようだ)。

すー／あんまー 〈お父さん／あ母さん〉 【参】首里の士族以外は、通常「すー」「あんまー」「うすめー」「はーめー」はそれぞれお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんを指す。

すー 〈潮、海水〉 【例】すーや くるすー なたい、あかすー なたい、みちすー なたい、ふいち すー なたい すん。(潮は黒潮になったり、赤潮になったり、満ち潮になったり、引き潮になったりする)。

すー ちかー 〈豚肉の塩漬〉 【例】「すーちかー」や しし すーちきー しえーし

やん。(「すーちかー」は豚肉を塩漬けたのだ)。**すーぢき** そーる むぬんかい 「すーちかー」んでい いーん。んかしえー かーみんかい みっちやかー 「すーちかー」 たぶとーたん。(塩漬けているものに「すーちかー」と言う。昔は甕にいっぱい「すーちかー」を貯えていた)。**【参】**すーぢき／まーすぢき(塩漬)、すーにー／まーすにー(塩煮)；まーすにー しえー(塩煮にきなさい)。

すー みじ 〈塩水、海水〉 【例】すーみじくでい、うりっし ちゆくらっどーる とーほー、うすみじぬ じよーぶんぬ いっちょーてい まーさん。(海水を汲んで、それで作られている豆腐は塩水の滋養分が入っていておいしい)。

すーぬ はな 〈清めの塩〉 【例】だびから けーていちーねー、やーぬ うちんかい いらん まーどう すーぬはなっし ちゆみーる。(葬式から帰ってくると、家の中に入らないうちに清めの塩で清める)。

すー わたい 〈浅瀬渡り〉 【例】すーぬ ふいちーねー、すーわたいっし まぎしーぬ っういーをうてい いゆ ちっちょーたん。(潮が引くと、浅瀬を渡って大岩の上で魚を釣っていた)。

すーいん 〈吸う〉【活】すーたん、すらん、すーてい 【例】ぬみやっさくとう ストローさーに すーれー。(飲みやすいので、ストローで吸いなさい)。

すーこー 〈焼香〉 【例】すーこーや いちにんち、さんにんち、しちにんち、じゅーさんに

んち、にじゅーぐにんち、さんじゅーさんにんちぬ むけーん すん。じゅーさんにんちまでー わかすーこー、うぬ あとー うふすーこー、さんじゅーさんにんちや うわいすーこーんでい いーん。ににん たちーねー、さんにんちとうっし ゆむるぐとう などーん。(焼香は1年忌、3年忌、7年忌、13年忌、25年忌、33年忌の6回する。13年忌までは若焼香、その後は大焼香、33年忌は終わり焼香という。2年経つと、3年忌として数えるようになっていっている)。

すーじ 〈路地〉 【例】 わらび そーいに、がっこーんかい っんぢゃい、こーいむん しーが っんぢゃい する ばすねー、すーじぐわーから くんちりみっちりっし っんぢよーたしが、なまー うふみち なてい んかしぬ しがたぬ ねーん などーしが、どうーぬ なかんかえー ぬくとーん。(子どもの頃、学校に行ったり買い物に行ったりする際には、入り込んだ路地を通して近道して行ったが、現在は大きな道になって昔の姿はなくなっているが、自分の脳裏には残っている)。

すーじ 〈祝い事〉 【例】 うちなーんかえー たんかーすーじ、とうしびーすーじ、にーびちすーじ、やーふちすーじんでーぬ あてい、っうえーかぬちやー、どうしぬちやー、たんかーまんかーぬ っちゆぬちやー うんちけー すん。(沖縄には満一才のお祝い、生年祝い、結婚祝い、新築祝いなどがあって、親戚の人たち、友人たち、隣近所の人たちを招待する)。んかしえー ぬーぬ すーじ やていん なーめーめーぬ やーをうてい そーたしが、なまー すーじじゃー かていどう する。(昔はどんな祝い事でも各自の家でしていたが、現在は祝宴の座を借りてする)。

すーじ じゃー 〈祝宴の座〉 【例】 んかしぬ うちなーぬ やーぢゆくえー ふちま はんしーねー すーじじゃー ないん。(昔の沖縄の家造りはふすまを外すと祝いの座になる)。

すーていーち 〈ソテツ〉 【例】 あぐねー すーていーちんーす、まーじん、まーすさーになーある とうくる やん。(粟国はソテツ味噌、粟、塩で有名なところだ)。

すーてー 〈所帯持ち〉 【例】 ういなごー やーむてーから うみちとう すーてー くましく しわどう やる。(女性は所帯をもってから思い切りやりくりしないといけない)。あまぬ やーや すーてーぬ くまさくとう、じん たみやーに まぎやー ちゆくてい さけーとーん。(あの家は家計をやりくりしているので、お金を貯めて大きな家を造って栄えている)。あまぬ ゆめー くめーきやーや あらん どー。すーてーぬ あらさぬ、をうとうぬどう じのー にちとーる。(あそこの嫁は儉約家ではないよ。やりくりがおおざっぱで、夫がお金は握っているよ)。あれー あいぐらし、ねーんだれー ねーん ぐらし すし やかん、すーてーくまさしどう ぐらすん どー。(あれば派手に暮らし、無ければ無いでその日暮らしをするよりも、家計をやりくりして暮らすのだよ)。

すーてー わかやー 〈所帯分かれ〉 【例】 あまぬ うやぬちやーや しちゃんかい、ちゃくし みーとうんだーや にーけーんかい、じななたーや さんけーんかい しまとーてい、すーてーわかやー そーん。(あの家の親たちは一階に、長男夫婦は二階に、次男たちは三階に住んでいて、所帯持ちを別にしている)。**【参】** やー わかやー、やー たちやー (分家)。

すーねー 〈酔味噌あえ〉 【例】 んーすぬ いっちよーる 「すーねー」 やかん、いってーをうらん 「うさち(ぐわー)」 や ゆー かだん。いーかみらりやー する ばす やていん、かみーねー めー あんべー なたん。(味噌が入っている「酔味噌あえ」より、味噌が入っていない「酔のもの」はよく食べた。胃痛するときでも、酔のものを食べるとよくなった)。

すーぶ 〈勝負〉 【例】 んかしえー かーらを

うてー っういーぢすーぶ さーに あしどー
たん。(昔は川で泳ぎ勝負をして遊んでいた)。

すーまん ぼーすー 〈梅雨、小満芒種〉

【例】すーまんぼーすーぬ あめー やーん
ちぬん こーじ ふかしみーん。うぬ しちえ
ー めーなち かさ むっち あっかんどーな
らん。(小満芒種の雨は家も衣類もカビをつけ
てしまう。その季節は毎日傘を持って出ない
といけなくなる)。

すーみ 〈興味〉 【例】ふるむぬんかい すー
みぬ あん。(骨董に興味がある)。

すーみ 〈のぞき見〉 【例】すーみ そーん。
(のぞき見をしている)。「【参】アクセントが高低
型〈興味〉か、平板型〈のぞき見〉かの違い。

すーむん 〈熱中している〉【活】すーだん、す
ーまん、すーでい 【例】うちなーぬ をうどう
いんかい なま すーどーん／むちくわーりと
ーん。(沖縄の踊りに今熱中している)。「【参】む
ちくわいん(熱中させる)、むちくわーりてい
(熱中して)。

すーよー 〈みんな〉 【例】なーだ すーよ
ーや あちまてー をうらに？(まだみんなは
集まってはいないのか)。うぬ くどー すー
よーや がっていん やみ？(そのことは皆ん
なは賛成なのか)。ぐすーよーぬ かんげーや
チャー ないびたが？(皆様のお考えはどう
なりましたか)。

すーら 〈梢〉 【例】かじよーら のーする
まじねーとうっし、「すーら ちっち にー
からすん、にー ちっち すーら からすん
どー」んでい いーん。(蕁麻疹を直すまじな
いとして、「梢を切って根を枯らす。根を切って
梢を枯らすぞ」と言う)。すーら いれー に
ーや がっていん。(梢を言えば根は分かっ
ている、すべてを言わなくても分かり合える)。

すがいん 〈支度する、装う〉【活】すがたん、
すがらん、すがてい 【例】むのー すがてい

ー？(ご飯は支度したか、≡むのー しこーて
いー?)。

すがい 〈服装〉【活】すがい さー〈身なりを
整える者〉 【例】すがいさーねー ちゅぬ
ゆたさわっさー いららん。(服装からは人
のよしあしは言えない)。うちなー すがえー
うーべー さんぐとう、うしんちー そーん。
(琉装は帯をしないで、内に押し込んでいる)。

すがすん 〈風にあてる〉【活】すがちゃん、す
がさん、すがち 【例】くすいぢやー ちゅく
てい ぬむる くわーぎぬ ふあーん、ばんし
るーぬ ふあーん かーぎんかい うちきてい
すがちよーちゅん。(体に良い茶を作って飲
む桑の葉もグワバの葉も陰干しのために物陰に
置いて風をあてておく)。あし はてい んで
いとーる ちのー うらげーし なさーに す
がちよーけー。あん しーねー、なんくる か
ーらちゅさ。(汗をかいて濡れている服は裏返
して風にあてなさい。そうすれば、自然に乾く
よ)。

すがりーん 〈風にあたる〉【活】すがったん、
すがりらん、すがってい 【例】ゆーふる いっ
ち ちゃーきとう むぬ かだる あとー、な
ーんかい っんぢてい すがりーねー、あー
あんべー やん。あっさびよー、ちむすがり
ないさ。(風呂に入ってすぐ後とか食事の後に、
庭に出て涼風にあたると、心地よいものだ。ほ
んとに気持ちが晴れる)。

すぎーん 〈削げる〉【活】すぎたん、すぎらん、
すぎてい 【例】「っやーや いふいぐわー
すぎてー をうらに？ ぬーが？ にんていど
う をうていー？」「あんまさ さーに にんと
ーたん」「おまえは少しやつれていないか。ど
うした、臥していたのか」「気分が悪くて寝て
いた」。っやーや いふえー すぎとーしが、ま
ーん やみどう する る？ まーん やまん
どー。(あなたは少し痩せているが、どこか痛
いのか。どこも痛くないよ)。「【参】条件節だけ
でなく、疑問文においても、〈どこか〉の意味で

は「まーがな」でなく、「まーん」が遣われる。

すく 〈底〉 【例】ういなぐうやぬ つくわ
うむいる ちむぐくろー うみぬ すくやか
ふかさん。(母親が子を思う心は海の底よりも
深い)。

すく 〈きびなご〉 【例】すこー スクぬ ち
り、たまのー タマンぬ ちり。(きびなごはき
びなごの連れ、タマンはタマンの連れ；類は友
を呼ぶ)。

すく **がらす** 〈きびなごの塩辛〉 【例】す
くがらそー とーふんかい ぬしてい かむし
が、たーちえー みーとうぐーとうー やさ。
(スク塩辛は豆腐に載せて食べるが、2つは夫婦
のようだよ)。

すくいん 〈救う〉 【例】くねーだ いさぬ
やーんぢ やんめーぬ みーあていらっつい
ぬち すくらったん。(この間病院で病気が見
つかって命拾いをした)。

すくいん 〈掬う〉【活】すくたん、すくらん、
すくてい 【例】やまぬ かーらぐわーぬ み
じ すくてい ぬみーねー ふいじゅってーん
ぐわーっし ぬちぐすい ないんねー すん。
(山の小川の水をすくって飲むと、程よく冷たく
て長生きできるような気分になる)。

すぐいん 〈殴る、たたく〉【活】すぐたん、す
ぐらん、すぐてい 【例】んかしぬ わらべー
わっさいねー、うやぬちゃーから すぐらっ
ていどう ふどうっわーさっどーしが、なまー
すぐてー ならんくとう などーん。(昔の子
どもは悪いことをすると、両親からたたかれて
養育されたが、今はたたいてはいけなくなっ
ている)。

すぐい **けーらすん** 〈ひっぱたたく〉【活】
けーらちゃん、~けーらさん、~けーらち 【例】
あったんちゃーや くさみけーからー みー
ん みーらん なてい すぐいけーらちやい
すしが、うんな くどー しえー ならん。(短
気者は怒ってしまうと目の前も見えなくなっ

てひっぱたたくが、そんなことはしてはいけな
い)。

すくちな むん 〈ひょうきん者〉 【例】
あれー ちゃー っちゅ わらーち すくちな
むん やさ やー。(あの人はいつも人を笑わ
せてひょうきん者だね)。

すくぶん 〈職分〉 【例】っちゅんかえー
なー すくぶん すくぶんぬ あいどう すく
とう わかやーふーなーっし あびやーあびや
ー しえー ならん どー。(人にはそれぞれの
職分があるので、解っているふりして出しや
ばってはいけないよ)。

すくむん 〈すくむ、縮こまる〉【活】すくだ
ん、すくまん、すくでい 【例】ういきがしーじ
やー うやんかい ちゅーぢゅーく ぬらっ
てい すくどーたん。(兄は親にひどく怒られ
て縮こまっていた)。

すくんかー すん 〈縮み上がる〉【活】~さ
ん、~さん、~っし 【例】とうないぬ まやーや
いぬんかい っわーったくとう ゆかさぬ
みーんかい ふえーりんちゃーに すくんかー
そーたん。(隣の猫は犬に追われたので床下
に入り込んで縮み上がっていた)。

すぐりーん 〈優れる〉【活】すぐりたん、す
ぐりらん、すぐりてい

すぐり んぐわ 〈すぐれた子〉 【例】あま
ぬ うやぬちゃーや がくむぬん ぬーん し
えーをうらんしが、すぐりんぐわ なちえーさ
やー。のーが やさ。(あそこの親は学問も何
もしていないが、すぐれた子を産んだね。名誉
なことだね)。

**すぐらー/すぐり むん/すぐりんち
ゅ** 〈優れ者〉 【例】あまぬ つくわぬちゃー
や ちゅいん ぬくさん むる すぐりむん
やんでい。(あそこの子どもたちは一人残らず
みんな優秀だって)。あぬ っちよー ちゃー
ぬーん いらんしが、じんとー すぐりんち
ゅ どー。(あの人はいつも何も言わないが、ほ
んとうは優れ者だよ)。

すじょー 〈楽しみ〉【例】じこー すじょー しえーる むん なー？(すごい楽しみをしたんだねえ)。

すじょー すん 〈楽しむ〉【活】～さん、～さん、～っし【例】ちちじ まちりんかい っんぢ いっぺー すじょーっし ちゃん。(ツツジ祭りに行ってとても楽しんできた)。

すす 〈裾〉【例】ちん のーさーんかい ちんぬ すす のーしーが っんぢちゃん。(洋裁店に着物の裾を直しに行ってきた)。

すすいん 〈拭いてきれいにする〉【活】すすたん、すすらん、すすてい【例】ふくい ぶーぶー そーくとう、すすいかちんでー しえー。(埃だらけだから、拭き掃除でもしなさい)。みじぬ たとーくとう、すすい むっちちやーに すすれー。(水が垂れているので、雑巾を持って来て拭きなさい)。がっこーから けーていちーねー、かーらから みじ くでい めーなち すすいかち さい、ほーちかち さい するくとうん なまー ねーんなどーさ やー。(学校から帰ってくると、井戸から水を汲んで毎日ぞうきんがけしたりほうきで掃いたりすることも現在はなくなっているね)。

すそーん すん 〈粗末にする〉【活】～さん、～さん、～っし【例】どーぬぬち していーる っちゆぬ うふさしが、あつたる ぬち すそーん しえー ならん。(自分の命を捨てる人／自殺者が多いが、大事な命を粗末にはいけない)。うや すそーん する っちよー ゆーや わたてー いからん。(親を粗末にする人は世の中は渡って行けない)。うやんかい すそーんどう さつとーたしが、あんし うやこーこーぬ っくわ やる。(親にぞんざいに扱われていたが、なんと親孝行の子なのか)。

すだちゆん 〈育つ〉【活】すだっちゃん、すだたん、すだっち

すだち 〈育ち〉【例】あまぬ ういなぐんぐわー すだちぬ ゆたさん やー。(あの家の女の子は育ちがいいね)。

すだていーん 〈育てる、養育する〉【活】すだていたん、すだていらん、すだていてい【例】くぬ ちぶる あんし まぎー なてい、ゆーふどうっわーちえーる／すだていてーる むん なー。(このひょうたんはあんなに大きくなって、よく育てたものだねえ)。【参】「ふどうっわーすん」は物理的な成長を意味する。

すだてい みち 〈育て方〉【例】っくわなする みちえー わかいしが、すだていみちえー わからん ういなぐぬうやぬ をうん。(子を産む方法はわかるが、育て方はわからない母親がいる)。

すだていぬ うや 〈育ての親〉【例】なし うややかー すだていぬ うや。(産みの親よりは育ての親)。

すっくいー 〈米を練って作った糊〉【例】ぬくやーめー ふいーちんっし ちちまーに むまーむまーっし ぬい っんぢやさーに、うぬぬい (=すっくいー) ちぬんかい いていから くしーたん。(残り物の米をフキンで包んで揉んで糊を出して、その糊 (=すっくいー) を着物に糊付けしてから着せたものだ)。

すでい 〈袖〉【例】なち やていん やきらんぐとう ながすでい ちーん。(夏でも日焼けしないように長袖を着る)。

すでい ばか 〈仮りの墓〉【例】っんまりてい ちゃーき をうらん なたる わらべー、うちなーをうてー 「ゆーすーぐわー」んでいいち、すでいばか ちゆくてい うさみーん。(産まれてすぐに亡くなった子は沖縄では「ゆーすーぐわー」といって、仮りの墓に収める)。

すとうみてい／すていみてい／していみてい／ひていみてい 〈早朝〉【例】すとうみていぬ ほーちかちとう すす

いかちえー わらびぬ めーなち しーびちー
くとう やたん。(朝早くのほうき掃除と雑
巾掛けは子どもが毎日すべきことだった)。し
ていみていむのー なんじぐる かむが?(早
朝食は何時頃食べるか)。ぶかりー なすくと
う、していみてい なーらー っちゆぬ やー
んかい じん あちみーが いちゆるむのー
あらん。(縁起が悪いので、朝早くから人の家に
集金しに行くものではない)。

すなわいん 〈十分にそろう〉【活】すなわた
ん、すなわらん、すなわてい 【例】しくちにん
じょー (=しくちえーじゅーや) すなわとー
み?(仕事をする人たちの人数は充分そろって
いるか)。

すぬい 〈もずく〉 【例】すぬえー あふあむ
んどう やくとう、あまじゃき、そーゆー、み
りん あーち、かきじる ちきてい かむん。
(もずくは味がないので、酢、醤油、ミリンを混
ぜて、タレに浸けて食べる)。すぬい かみーね
ー ちしらんでい。(もずくを食べると便秘は
しないって)。

すば 〈そば〉 【例】うちなーんちゆんかい
すば かまんぬーや をうらん。(沖縄の人に
そばを食べない人は居ない)。

すば 〈側、傍ら〉 【例】くらーぐわーよー、っ
んまぬ ちゆーくとう すば なり よー。(雀
よ、馬が来るので側に寄んなさいよ)。

すば ふいらー 〈周辺〉 【例】ふていま
ひこーじょーぬ すばふいらーや あさ ふ
えーくから ゆろー につかまでい ひこーき
ぬ いちむどうやーっし ちむん どうやーさ
らん。ふえーぬ みみぬ すばをうてい ぶん
ぶん そーんねーっし やがまさぬ。(普天間
飛行場の周辺は朝早くから夜遅くまで飛行機が
行き交い心もおだやかになれない。ハエが耳の
側でぶんぶんしているようでうるさい)。【参】
「やがまん」は騒音(蝉や発情した猫の鳴き声
など)に対して遣うが、子どもやセールスマン

にまわりつかれたときには「かしまさん」を
遣う、それで「かしまさぬ、きつとうばしえー」
(うるさい、蹴とばしてやる)としか言わない。

すびちゆん 〈退かす〉【活】すびちゃん、す
びかん、すびち 【例】いふいぐわー ゐー く
さーんかい すびちとうらしえー/すんちとう
らしえー。(少しばかり椅子を後ろに引いてく
れ)。【参】うり さまたぎ などーくとう す
んちとうらしえー(それ邪魔なので退かしてく
れ); くさーんかい しーちとうらしえー(後
ろに退いてくれ); しがりなみっし しぐ し
がらってい うっさぬ なみさーに むる す
んかったん(津波で一瞬に捉えられ押し寄せる
波ですべて持ち去られた)。

すみーん 〈染める〉【活】すみたん、すみら
ん、すみてい

すむん 〈染まる〉【活】すだん、すまん、す
でい 【例】っやー しるーんかい あかーぬ
すどーん どー。くりからー いるむぬんかえ
ー たっくわーすな よー。(あなたの白い服
に赤が染まっているよ。これからは色物にはく
っ付けないでよ)。

すみ むん 〈染め物〉 【例】すみむのー
ちん よーらさん あらやーっし ていーあれ
ー さーに、かってーんぐわー しろー はら
ち、たくでい かーぎんかい ふすん。(染め物
は着物を弱らせない洗剤で手洗いし、軽く水気
はとって、畳んで陰干しする)。

すみ やー 〈染め物屋〉【活】すーやー 〈塩
炊き屋〉 【例】すみむんやーや 「すみやー」
んでいん いーん。(染め物屋は「すみやー」と
も言う)。

すむち、しゅむち 〈書物、本〉 【例】く
ぬ すむちえー たーが かちえーが?(この
本は誰が書いたのか)。

すらーすん 〈揃える〉 【例】がっこーを
うてい ちかいるむのー むる すらーちえー
み?(学校で使う物はみんな揃えてあるのか)。

すりーん 〈集まる〉【例】ちゅーや すりーぬ あくとう すりてい めんそーり よー。(今日は集まりがあるのでそろっていらっしやいね)。すいんちよー すりーじゅりーっし いちゆしが、なーふあんちよー なーはいばいっし、とうまいんちよー とうめーいどうめーいっし、くにんだんちよー くんくるばーしえーっし いちゆたんでい。(首里の人は揃って行くが、那覇の人は各自ばらばらで、泊の人は探し合いながら、久米村の人は押し合いへし合いして行ったとき)。

すりー 〈集まり〉【例】すりー にんじゆ(出席者)。にちよーから どよーぬ っうえーだねー すりーや いくけーん むっちよーが?(日曜から土曜の間には集まりは何回あるか)。

すりー じゃー 〈集会所〉【例】うとうすいから、うふっちゆ、わらび、たんかーまんかーぬ っちゆぬちゃーぬ すりてい、むらうくしぬ ちゅーごー する すりーじゃーぬ ありわどう やる。(お年寄りから、大人、子ども、隣近所の人たちが集まって、村おこしの相談をする集会所があるべきだ)。

すん 〈損〉【例】うさきーぬ じん はらてーくとう、かむる むのー ふえーくなー とうらんねー ねーん なてい すんじぐとう ないんどーんち、めーないめーない する むのー あらん。(それだけのお金を払ったので、食べるものは早く取らないとなくなって損するからといって、急ぐものではない)。

すん かぶい すん 〈商売で損をする〉【例】うふあみ なやーに ある うっさぬ しなむん みじんかい ちかてい うらん なてい すんかぶい さん。(大雨になってあったけの商品が水に浸かって売れなくなってしまい損をした)。

すん 〈しみ〉【例】ちぬんかい ちーぬ すん ちち うとうしぐりさん。(服に血の染みがついて落とすにくい)。

すん くわいん 〈沁みる、凍みる、滲みる〉【活】～くわたん、～くわらん、～くわてい 【例】

きぶしぬ きぶさぬ、 みーぬ すんくわてい やむん。(煙たくて、目が沁みて痛い)。あちむん、ふいじゆるむん ぬみーねー はーぬ すんくわてい やどーくとう、はーやーんかい っんぢちゃん。(熱いものや冷たいものを飲んだら歯に沁みて痛いので、歯医者に行ってきた)。ふいばりとーる とうくるぬ すんくわてい やむん。(あかぎれしているところが滲みて痛い)。しばぬ はぎとーくとう、しーむんぬ すんくわてい やむん。(口内炎なので、酢の物が滲みて痛い)。

すんじーん 〈破れて痛む、損じる〉【活】すんじたん、すんじらん、すんじてい 【例】いーびぬ さちぬ あかりてい すんじーん。(指の先の皮が破れて痛い)。いーちゆさーに ちゆくてーる ちん せんたくきんかい いってい あらたくとう、ちゆらーさ ちぢまてい ちららん なてい すんじたん。(絹織りの着物を洗濯機に入れて洗ったので、すっかり縮んで着れなくなってダメにした)。

すんちゆん 〈引きずる〉【活】すんちゃん、すんかん、すんち 【例】ほーやーほーやー そーる わらべー うーふあする うーびっし わたくんだってい うかーさる ばすねー うーび すんちゃーに ゆしーたん。(這い這いしている子はおんぶする帯でお腹をくくって危ないときに帯をひっぱって寄せた)。ういなぐわらびぬ そーぐわちぢんぬ うーびぬ はんてい すんちよーたくとう、のーちとうらちちゃん。(女の子の正月の着物の帯がはずれてひきずっていたので、直してあげた)。あれーにーむちゃー やくとう いらわい すな よー。あとう すんちゆん どー。(あの人は恨みをもつので、口論はするなよ。後々まで引きずるよ)。あまんかい いちぶさたくとう、いんぐわーや あっかんばー そーたしが、くべーぬーしんかい すんかっとーたん。(行きたいのはあっちなので、犬は歩こうとはしなかったが、首は飼い主に引っぱれていた)。やなくとーうんでー しーねー じゆんさんかい ていー

くんだってい すんかりーん どー。(悪い
 ことでもすると警察に手錠をかけられて連れて
 行かれるよ)。どうしえー めーどうし かめ
 ーり よー。あれー やなどうし かめーやー
 に どうしんかい すんかっていどう をうん

どー。(友は良い友を探しなさいよ。あれは
 悪い友をもってその人に引きずられているよ)。

っやーや なーだ ちび すんちどう をうる

ゐ?(あなたはまだ引きずっているのか)。あ

ぬ しくちえー なーだ (ちび) すんちよー

くとう、びちぬ わじゃん ならん。(あの仕

事はまだ 引きずっているの、他の事もでき

ない)。っやーや いちまでい ური すんち

ゃーからからー/うーやーからからー すが?

(あなたはいつまでそれを引きずるのか、≡すん

ちあっち すが?)。【参】すびちゆん。

すんち けーらすん <引きずり倒す>【活】~

けーらちゃん、~けーらさん、~けーらち 【例】

しま、じゅーどーや すんちけーらする わじ

ゃ ちかいん。(相撲、柔道は引きずり倒す技を

使う)。

~すん <~する>【活】~さん、~さん、~っし

【例】ゆんたく すん (おしゃべりする)、にー

ぶい すん (居眠りする)、さた すん (うわさ

する)、あわり すん (苦勞する)、いみ すん

(増量する)、くー すん (穴を修理する)、しー

み すん (潜る)、めーかば すん (香ばしさ

がある)、やなかじゃ すん (悪臭がする)。う

っちんとうーっし にんとーん。(うつぶせで

寝ている)。うっちんとうー そーけー。(うつ

ぶせにしている)。まーふあなちやー そーん。

(仰向けでいる)。【参】まーふあなちやー な

(い)みそーれー (仰向けになってください)。

~すん <~てしまう>【活】~さん、~さん、~

っし 【例】あん いーねー、つくわ/とうじ

なけー すんどー。(そう言ったら、子ども/妻

を泣かしてしまうよ)。ちやー あしび すん

どー。(ずうっと遊んでしまうよ)。ちやー に

んぢ すんどー。(ずうっと眠ってしまうよ)。

~すん <~がる>【活】~さん、~さん、~っし

【例】あちさ すん (暑がる)、ふさ すん (欲

しがる)、ふいーさ すん (寒がる)、はじかさ

すん (恥ずかしがる)、うとうるさ すん (怖

がる)、やーさ すん (ひもじがる)、なちかさ

すん (悲しがる)。

そ

そー 〈竿〉【例】んかしえー だきさーに ち
ゆくらっとーる そー かたみてい うてい
あっちゆる っちゆぬ をうたん。(昔は竹で
作られている竿を担いで売って歩く人が居た)。

そー 〈性根、思慮〉【例】そー いっち む
ー わらび やー。(しっかりしている良い子
だね)。そー いらん ぬー(しっかりしてい
ない者)。うふそー、うふそー むん(まぬけ)。
そーぬぎ がみ(我を忘れてがつつ食べるこ
と)。ぬー しみていん そーん たたん。ぬー
んちが やら?(何をさせてもどうしようもな
い。いったいどうなっているなのか)。

そー いらー／そー いらむん 〈しっ
かり者、利口者〉【例】あれー わらび そー
いにから そーいらー／そーいらむん やたん
どー。(あの人は子どものころからしっか
り者だったよ)。うんじゆなーたーぬ わらびん
ちやーや あんし そーいらむん やる。(お
宅の子どもたちは何と賢いことか)。

そー たまし 〈精魂〉【例】そーたましぬ
いっちなえーをうらんくとう、なまぬ なま
ま いてい うむいるくとー なてーをうらんさ。(精
魂が入っていないので、今になっても思っ
ていることは成就していないんだよ)。

そー どうくる 〈急所〉【例】そーどうく
る きらりやーに いーちん ならん、ぱった
りげーやー さん。(急所を蹴られて息も出
来ない、七転八倒した)。

そー ぬがー 〈おっちょこちよい、うっか
り者〉【例】ふいさぶに をうーたい、てい
ー をうーたい、ちぶる わたいっし、どうー

びけー やまち あっちよーる っちよー そ
ーぬがーどう やる。(足の骨を折ったり、手を
折ったり、頭をケガしたりして、体ばかりケガ
している人はうっかり者でしかない)。

そー ぬぎーん 〈うろたえる〉【活】～ぬぎ
たん、～ぬぎらん、～ぬぎてい【例】あつたに
うふしんしーぬ めんそーちやくとう いっべ
ー そーぬぎたん。(急に大先生がいらっしや
ったのでとてもうろたえた)。

そーいん 〈連れる〉【活】そーたん、そーら
ん、そーてい【例】まるふいーじーぬ すりー
んかえー どうじ そーてい いちゆるくとー
ねーらんたしが、をうとうぬ りっしん さ
る うゆえーんかえー どうじん まじゆん
そーてい っんぢやん。(通常の集まりには妻
を連れて行くことはなかったが、夫が出世した
お祝いには妻も連れて行った)。

そー～〈実の、本物の〉

そー うや 〈実の親〉【例】そーうや や
かにかん やしないうやぬどう うや やんねー
すん。(実親よりも養い親が親らしい)。

そー なー 〈実名〉【例】んかしえー そ
ーなーや あらん、わらびなーっしどう あび
とーたん。(昔は実名ではなく、童名で呼んで
いた)。

そー ぶりむん 〈まったくのバカ〉【例】
あれー しぢん のーらん そーぶりむん や
てい ちやーん ならん。(あいつは死んでも
直らないまったくのバカでどうしようもない)。

そー むん 〈本物〉【例】くぬ いーびな
ぎーぬ たまー そーむん む? ちゆくいむ

ん め? (この指輪の宝石は本物か、偽物か)。【参】「そーむん め?」は「そーむんどう やる め」の縮約形式か。

そー わらび <まったくの子ども> 【例】くりから めーんくいん ならーち ふどうわーさんとー ならん わらび (これから何もかも教えて育て上げないといけない子)。うふっちゆ なたいん、うっさぬ むぬぐとうん わからん そーわらび なたい、ちゃーん ならんさ やー。(大人になっても、そんなこともわからないまったくの子どものままで、どうしようもないね)。

そー んぐわ <実子> 【例】そーんぐわぬ をうらんたくとう めーんぐわ とうたん。(実子がいなかったの、養子をもらった)。つくわー そーんぐわーや あらん、めーんぐわ どう やいびーん どー。(子は実子ではなくて、養子ですよ)。

そーがー しりー <ショウガのすりおろし> 【例】わたぐわーぬ しるんかえー そーがーしりー いっていどう まーさる。かじやん ねーん なたい、どうーん ぬくたまいん。(中味汁にはおろしショウガを入れてこそおいしい。臭みもなくなって、体も暖まる)。

そーかん <熱病> 【例】んかしえー みじめ はごーさぬ、くらしがたん ぶちりー やたくとう、がじゃぬんかい くわーってい、ちぶるそーかん、しぶいわた (ちーぐすまやー) んでーぬ ふーちやんめーぬ うふさたん。(昔は水が汚くて、暮らし方も不潔だったので、蚊に刺されて、脳膜炎、渋り腹 (赤痢) などの風土病が多かった)。【参】ハブんかい うたってい (ハブに咬まれて)、いぬんかい くーらっ てい (犬に咬まれて)。

そーき <かご> 【例】だきさーに あまっ とーる いりむんぬ くとう やてい、みーじよーきーとう さぎじよーきーぬ あん。(竹で編まれている容れ物のことで、「(底の浅い) みーじよーきー」と「(つり下げタイプの) さぎじ

よーきー」がある)。【参】ばーき (深底の竹製の容れ物)。

そーき ぶに <肋骨> 【例】んにぬ ふにとう ちるぬ たげーちげー なたい、だきさーに あまっ とーる そーきとう にちよーるくとうから そーき ぶにんでい いらっ とーがやー? (胸の骨と筋肉が互い違いになって、竹で編まれているカゴと似ていることから「そーき骨」と言われているのかなあ)。

そーぐ <鉦> 【例】なーふあぬ うふちなふいちぬ ばすねー ケンケンケーンでいーる そーぐぬ ちかりーん。(那覇の大綱挽きの際にはケンケンケーンという鉦の音が聞こえる)。

そーぐわち <正月> 【例】ちゅらぢん ちち、うやとう まじゆん っうえーかぬ やーみぐてい、にんとうーぬ えーさち すしぬ たぬしみ やたしが、なまー そーぐわちらーしくん ねーらん なたい、うや っうえーかぬちゃーとうぬ ちなぢぬ よーく などーん。(晴れ着を着て、親と一緒に親戚の家を廻って、年頭のあいさつをするのが楽しみだったが、現在は正月らしさがなくなって、親戚の人たちとの絆が弱くなっている)。

そーぐわち っわー <正月用の豚> 【例】そーぐわち ないねー、っうえーかぬちゃーぬ あちまてい っわー とーさーに しんめーなーびんかい にち んなっし ური かわるくとうぬどう っういーりきぐとう やたんでい。(正月になると、親戚の者が集まって豚をつぶしてシンメー鍋に煮てみんなでそれを食べるのが楽しみだった)。

そーぐわち われー <正月笑い> 【例】そーぐわちぬ ぐとう っういーりきぎさ わらとーる っちゆんかい そーぐわちわれー そーんでい いーん。(お正月のように楽しそうに笑っている人を正月笑いしていると言う)。

そーしち <性質、性格> 【例】あぬ っちよー めー そーしち やん やー。(あの人はいい性格だね)。あぬ っちよー むちかさ

る そーしち やん やー。(あの人は難しい性格だね)。そーしちぬ わっさくとう、どうしなやーや をうらん。(性質が悪いので、友人になってくれる人はいない)。そーしちぬ あたらんくとう、ありとー ちら あーさん しえー まし。(性格が合わないので、あの人とは顔を合わさない方がいい)。

そーべー 〈粗製品〉 【例】「やまとう そーべー、とー あちれー」んでい かーま なんかしえー いらっとーたしが、あねー あらんなとーん。(「日本ものは粗末で、中国ものはあつらえもののように上等」とずっと昔は言われていたが、そうではなくなっている)。

そーみー 〈斜視〉 【例】いりがさー やんでいさーに そーみー ないる っちゆん をうたんでい。(麻疹をこじらして斜視になる人も居たって)。そーまーや まー んーちよーが わからん。(斜視の者はどこを見ているのか分からない)。

そーみなー 〈メジロ〉 【例】んかしえー

なーやーやーぬ そーみなーくーんかい そーみなー ちかなとーたしが、なまー とうてーならんくとう などーん。(昔は各家々の鳥かごでメジロを飼っていたが、現在は捕獲してはいけなくなっている)。そーみなーぬ むぬくわいんねー、そーみなーぬ みじ ぬみんねー、そーみなーぬ みじ あみーんねー しえー ならん どー。(メジロのようにちよっぴりしか食べない飲まない、メジロのように素早い水浴びをしてはだめだよ)。

そーみん ぷっとうるー 〈素麺炒め〉

【例】そーみんぷっとうるーや うちなーんちゆぬ ゆー かどーる むん やん。(素麺炒めは沖縄の人がよく食べているものだ)。

そーゆー 〈醤油〉 【例】そーゆーいりやー

や んかしえー とうっくい やたしが、なまー いるかじぬ むんさーに ちゆくらっとーん。(醤油指しは昔はとっくりだったが、今はいろいろなもので作られている)。

た、だ

た〜〈2〉

た くとう 〈二言〉 【例】たくとー ねーんくとう ちゅーなかいに いちよーちゅん どー。(二言は言わないから今日のうちに言っておくよ)。あれー たくとう みくとう なー ゆびわどう いれーゆる。(あの人は二、三回名前を呼ばれてやっと返事をする)。

た けーん 〈二度〉 【例】たけーん あるくとー みけーん あん。(二度有る事は三度ある)。

た ちち 〈来月〉 【例】たちちえー ぐんぐわち やん。(来月は5月だ)。たちちえー まぎやしみぬ あくとう、ゆすぐにんかい あしびーが いちゅん。なー たちちえー すーまんぼーすーんかい いーん。(来月は大きな休みがあるので、外国に遊びに行く。再来月は梅雨に入る)。

た ちち 〈2ヶ月〉 【例】あたらさる っちゅぬ はちから くんちちさーに たちち ないん。(大切な人が往ってしまってから今月で2ヶ月になる)。

た とう 〈2歳、2年〉 【例】ういきがしーじゃとう わんとー たとう はなりとーっさ。(兄と私とは2歳離れている)。

た とうーい 〈二通り〉 【例】むぬぐとうんかえー っういーぬ あれー しちゃん あてい、ふいぢゃいぬ あれー にぢりん あてい、ちゃー たとうーい あん。(物事には上があれば下もあって、左があれば右もあって常に二通りある)。

た とう ぐしー 〈2年おき〉 【例】たと

うぐしーぬ せんきよぬ あくとう っちゅん まちん わさわさ そーん。(2年越しの選挙があるので、人も市もぎわめいている)。

た なか 〈間、中間〉 【例】っうえーきんちゅぬ やーぬ たなかんかい ふいんすーむんぬ やーぬ あてい、ちゃー まーさむん かじゃっし うりっし わた みたちやんでい。(お金持ちの家の間に貧乏者の家があって、いつもおいしい匂いがしてそれでお腹を満たしたって)。

た また がき 〈二股かけること〉 【例】いかな ふどうだき うちやてい めーかーぎやていん、たまたがき する ういきがんかえー ちむ ゆるちえー ならんでいーる くとー ゆー わかてーをうていん、ぬーが やら していらってい なちゆる ういなごーまんどーん。(いかに背が高くてハンサムでも、二股かける男には心を許してはいけないということはよく分かってはいても、何故か捨てられて泣く女性は多い)。

たー 〈誰〉 【例】たー やらわん しむくとう わんしくち かしーっし くいらんがやー？(誰でもいいから私の仕事を手伝ってくれないかなあ)。

たー がな 〈誰か〉 【例】たーがな くりっしとうらする っちよー をうらんがやー？(誰かこれをしてくれる人はいないかなあ)。

たー 〈田〉

たー いゆ 〈鮎、フナ〉 【例】たーいゆぬ かしらー ならわん くーいゆぬ じゅーね

ー なんな。(鮎の頭になっても鯉の尾にはなるな、鶏頭牛尾)。

たー ぐしれー 〈田植えの準備〉【例】っんに っういーるめーねー たーぶっくわ たげーちから たーぐしれー すん。(稲を植える前には田んぼを耕してから田植えの準備をする)。

たー ぶっくわ 〈田んぼ〉【例】うーやまとう ちんやんぼるぬ たーぶっくわんぢ ちゆくらっとーる たーっんもー まーさん。(大山と金武ヤンバルの田んぼで作られている田芋はおいしい)。**【参】**やまとう(薩摩)、うふやまとう(日本本土全体)。

たー むぢ 〈田芋のずいき〉【例】んかしから うちなーをうてー っくわー なしーねー、「っんばぎー」んでいち たーむぢぬ しる ちゆくてい たんかーまんかーぬ っちゆんかい はぢ んなっし かむん。(昔から沖縄では出産すると、「っんばぎー」(出産祝い)といって田芋のずいきの汁を作って隣近所の人たちに配ってみんなで食べる)。

たー っんむ 〈田芋〉【例】なままでー あかまーみーぬ あん ちかとーたしが、ちかぐるからー たーっんむぬ あんぬ いっちよーる いるかじぬ かみむぬん っんぢとーん。(今までは小豆のあんを使っていたが、近頃からは田芋のあんが入っているいろいろな食べ物が出ている)。

だー／はー なー 〈おい、ねえ〉【例】だー／はーなー ちゃーすが?(おい、どうするか)。

たーぐ 〈水桶〉【例】んかしえー、あぐにをうてー なーちねーぢねー たーぐ むっちよーてい、ちゃー みじがーみ みたすしえー わらびぬ しくち やたん。(昔は、粟国島では各家庭が水桶を持っていて、いつでも水がめを満たすのは子どもの仕事だった)。たーぐ かたみーん。(水桶をかつぐ)。

だーぐ 〈だんご〉【例】くるじゃーたー だ

ーぐ(黒糖だんご)。さーたーん ぬーん いりんな よー。あふあだーぐ ちゆくてい とうらしえー。(砂糖もなにも入れないでよ。味つけなしのだんごを作ってちょうだい)。あまぐわしとう だーぐとー ぐー やさ。(ぜんざいとだんごとは相性抜群)。

たーくとう 〈うわごと〉【例】どうく にちぬ ちゆーさいねー、くちさっし たーくとう ゆむん。(あまりにも熱が高いと、苦しくてうわごとを言う)。

たーち 〈2つ〉

たーち すん 〈兼ねる〉【活】～さん、～さん、～っし【例】やくばぬ ゆーじゅとう ぎんこーぬ じんうるしぬ たーちえー わーが そーちゆん。(役所の用事と銀行の引き出しの2件は私がやっておく)。

たーち まちやー 〈つむじが2つある者〉【例】たーちまちやーや うーまくー やんでい。ういきがわらび やいねー、いぢりむん ないんでい。(つむじが2つある者はわんぱくだって。男の子であれば、勇敢な人になるって)。

たーち みしー 〈2歳違いの子を産むこと〉【例】っくわぬちゃー みっちやい をうしが、むる たーち みしー やん どー。(子どもは3人いるが、みんな2つ違いの子を産んでいるよ)。ていーちみしーや たーちゆー なちえーしとう めぬ あわり すん どー。(1つ違いの子を産むのは双子を産んだのと同じ苦労をするよ)。

たーち わい 〈二分〉【例】かーらから ながりていちゃる まぎむむ たーちわいさーに ちっちんーぢーねー、なーかから たまんぐわぬ っんぢていちゃん。(川から流れて来た大きな桃を2つ割にしてみると、なかから元気な男の子が出てきた)。

たーまー 〈鬼やんま〉【例】うふかじぬ ちーがたーぬ しらしとうっし、まぎちぶる、まぎはに、まぎじゆーそーる あーけーじゆーぬ たーまーぬ まーがなから とうでい ちゆ

一ん。(台風が来そうな兆候として、大きな頭、大きな羽、大きな尾をしているとんぼの鬼やんまが何処からともなく飛んで来る)。

たーび 〈足袋〉【例】んかしえー ゆかっちょー まるふいーじーや さば くでい、あみふえー あしぢや やたん。たーび くむしえー、くーじぐとうぬ ぢしちんかい つんぢーる っちゅ、また じゅりぬちやーん ゆるさつとーたん。(昔は士族は常日頃はぞうりを履き、雨降りには下駄だった。足袋を履くのは、公の儀式に出席する人、または遊女たちも許されていた)。

たーりー 〈お父さん〉【例】ゆかっちょー「あやー たーりー」んでい ういなぐぬ ういきがやか めー ないしが、ふかー「すー あんまー」 やてい ういきがぬ めー なんとーん。ぬーんでいーる くとう やがやー？(首里の士族は「あやー たーりー」(お母さん お父さん)と女性が男性より前になって、他は「すー あんまー」(お父さん お母さん)で男性が前になっている。どういふことかねえ)。

たーりーん、たーり すん 〈費やす〉【例】ふいっちー ぬーん さんぐとう かでー にんたい ほーたい する くとうんかい「ふいまだーりすん」、みみたき くいーとーる しー(=うっか) かんてい ちゃーん ならん くらし そーる くとうんかい「じんだーりすん」、あさん ふいるん ゆるん めーが めーなち しくちん さんぐとう さきびけー ぬどーる くとうんかい「さきだーりすん」でい いーん。(一日中何もしないで食べたり寝たり寝そべったりすることに「暇つぶしをする」、身の丈を超える負債を抱え込んでどうしようもならない暮らしをしていることを「金づまりをする」、朝も昼も夜も毎日仕事もしないで酒ばかり飲んでいることを「酒びたる」と言う)。

たい 〈2人〉【例】ちゅい(1人)、たい(2人)、みっちゃい(3人)、ゆったい(4人) や

しが、うぬ あとー なまー ぐにん(5人)、るくにん(6人)、しちにん(7人)、はちにん(8人)、くにん(9人)、じゅーにん(10人)んでい いちよーん。んかしから じゅーにんふんうこー(12本お香)、じゅーぐふんうこー(15本お香)、じゅーさんうゆうえー(13お祝い、生年祝いの1つ)んでい あん。(…、だが、そのあとは今は…、と言っている。昔から…、などはある)。

～たい 〈～人〉【例】やーにんじょー いくたい をうが？(家族は何人居るかい)。ふいらとーる っちよー いくたい をうが？(つき合っている人は何人居るかい)。

たいん 〈垂れる〉【活】たたん、たらん、たてい【例】かさから みじぬ たとーくとう、ふかんかい たていとーけー。(傘から水が垂れているので、外に立てておきなさい)。

だいいん 〈体がだるくなる、力がなくなる〉【活】だたん、だらん、だてい【例】だいむん=どうー つんぶー(役立たず、元気のない者)、だいむい(元気がないこと)。どうく ちゅーわじや なたい、すしぬ まんでい、にんぢゆるみーん にんぢゆる くとうん ならん。だいむん などーさ。(あまりに負担過剰で、することが多くて、眠るにも眠れない。体がだるくなっている)。ちちる うっぴっし だいいんねーすさ。(聞くだけで疲れる)。

だりーん 〈体がだるくなる〉【活】だりたん、だりらん、だりてい【例】ていーだんかい ふしくわーってい はるしくち さるむのー ちゅらーさ だりとーん。(太陽に照らされて畑仕事をしたからすっかり疲れている)。くぬ わじやー だりーっさー。(この仕事はやる気が出ないね)。わんねー だりとーっさー。(僕は疲れているよ)。

たりゆん 〈足りる〉【活】たりたん、たらーん、たりてい【例】っやーんかい たらーんくとうぬ あていどう あん などーさ。(あな

たに至らないことがあってああなっているんだよ)。ちかいる じのー たりとーみ？(使っているお金は足りているか)。うゆうえーぬ かみむのー あまいしえー しむしが、たらーん なてー ならん どー。(お祝いの食べ物は余るのはいいが、足りなくなっはだめだよ)。くめー にんごーっし たりーみ？(米は2合で足りるか)。むぬいーぬ たらーん。(ことばが言い足りない)。

たうちー 〈鬪鶏〉 【例】あれー たうちーぬ ぐとうどう あん どー。ありとー おーえーていーえーや すな よー。(あの人は鬪鶏のように喧嘩早いよ。あの人はけんかはするなよ)。たうちーおーらしえーや うふいくさめーや ゆー あたるぐとーしが、ちかぐろー みーらん などーん。んかし タイ(シヤム)とう くげー そーたくとう、たうちーぬ シヤモや シヤムていーかたぬ むーとう などーる ぐとーん。(鬪鶏は大戦前はよくあったようだが、近頃は見られなくなっている。昔タイ国と貿易していたので、鬪鶏のシヤモはシヤム文化が語源になっているようだ)。

たか 〈鷹〉 【例】たかぬ もーれー がらしん もーいん。(鷹が舞うとカラスもまねをする、身の程知らず)。

たか〜〈高〉

たか うっちゃき 〈高値をふっかけること〉
【例】あんし たかうっちゃき しーねー、たーがん こーらんさ。(あんなに高値をふっかけることをしたら、誰も買わないよ)。

たか うちやぎ すん 〈偉そうにする〉
【活】〜さん、〜さん、〜っし 【例】ちゃっさぬ うふっうえーきんちゆが やら、をうとうぬ ちゃっさ まぎっちゆが やら わからんしが、あんし たかうちやぎっし あっちよーる。(いかほどの大金持ちなのか、夫がいかにか大物なのか分からないが、あんなに偉そうにしている)。【参】たかうちやがー(偉そうにしている者)。

たか ごーい 〈高く買ってしまうこと〉
【例】なーふあぬ まちぐわーや あぬ でーや あらん。あぬ しなどう やしが、たかごーい する くとうぬ ゆー あん。(那覇の市場は同じ値段ではない。同じ品物なんだが、高く買ってしまうこともよくある)。

たか そー 〈背の高い人〉 【例】でーじな たかそーとう はなし さる あとー、ちぶる むちやぎとーたくとう くびぬ やむたん。(とても背の高い人と話をした後は、頭を持ち上げていたので首が痛かった)。

たか でいー とうやー 〈高利貸し〉
【例】たしきていとうらすんち からちやてーまん、たかでいーとうやー ないねー、あとうあとー でいーぬ たかさんでいち みっくわさ さりーん。(助けてあげようと貸したとて、高利貸しになってしまっは、後は利息が高いとって恨まれる)。

たか でー 〈高価〉 【例】たかでー はらてい ぢー こーたしが、やー ふちゆる じんぬ なまー たらーんくとう、じん とうてい くるま とうみらちよーん。(高いお金を払って土地を買ったが、家を造るお金が今は足りないので、有料で駐車させている)。

たか ばしる 〈高窓〉【活】とうばしる 〈雨戸口〉 【例】んかしやーや とうばしるから っちよー いっちやい っんぢたいっし、すばぬ くびんかえー たかばしるぬ あたん。(昔の家は雨戸口から人は出たり入ったりして、側の壁には高窓があった)。

たか ぶいん 〈偉そうに振る舞う〉【活】〜ぶたん、〜ぶらん、〜ぶてい 【例】どうーふみーっし わかいんふーなー する っちゆんかい たかぶやーんでい いちよーん。(自賛して分かった振りをする人に偉ぶっている人と言っている)。

たか われー 〈高笑い〉 【例】あれー まるけーていなー たかわれー すしが、っちゆうしえーむんが やら、くしが やら、ちゃーる ばーが やら？(あの人は時々高笑するが、人をバカにするタイプなのか、癖なのか、

いったいどうなのかなあ)。

たかまーみ 〈めだか〉 【例】たかまーめー
あちまてい っういーぢょーしが、あみなー
や どうーちゆい あしび そーん。(めだか
は集まって泳いでいるが、おたまじゃくしは独
りで遊んでいる)。

たからんぐわ 〈子宝〉 【例】にーびちっ
しから にじゅーにんみーに たからんぐわ
もーきたん。(結婚してから20年目に子宝に
恵まれた)。**【参】**なしむぬ っくわ。

たかりーん 〈たかる〉**【活】**たかりたん、た
かりらん、たかりてい **【例】**なーぬ っんどー
る ばんしるーんかい ふえーぬ たかりとー
ん。(庭の熟しているグアバにハエがたかつて
いる)。

たき 〈岳、山〉 **【例】**うちなーぐゆみぬ し
んぐわちから ぐんぐわちまでー きーくさぬ
みーる しち やてい くんびてー ならん
くとう、やまどうみんでいち やまんかい
いっち きーくさ ちっちえー ならん。(旧
暦の4月から5月までは植物の芽を出す季節で
踏みつけてはいけないので、山止めといって山
に入って草木を切ってはいけない)。

たき むい 〈山、岳〉 **【例】**やんばろー
まー んーちん たきむい どー。(やんばる
は何処を見ても山だよ)。

たき 〈背丈〉 **【例】**なまぬ ういなぐわらび
んちゃーん いっぺー たきふどうぬ まぎー
く なてい ちよーっさ やー。(現在の女の
子たちもとても体格がおおきくなって来ている
ね)。あぬ にーしえーや かーぎん あてい、
ちぶるん ちち、たきふどうん うちやてい、
とうじ ないぶさ する ういなぐぬ うふさ
る はじ やー。(あの青年は顔立ちもよくて、
頭もよくて、体格もよくて、妻になりたがる女
性が多いはずね)。

たき ぶん 〈身分〉 **【例】**あぬ うかたー
っんまりたきぶんぬ まぎさる っちゅう
やみしえーん どー。(あのお方は身分の高
い方でいらっしゃいますよ)。

だき 〈竹〉 **【例】**んかしえー やんばるだき
さーに やーがくい さい、「ふいんぶん」 ち
ゆくたい、ちんぶく ちゆくたい すたん。(昔
はヤンバル竹で屋敷囲いしたり、「ふいんぶん」
塀を造ったり、釣り竿を作ったりしていた)。

たきな むん 〈程度の知れた者〉 **【例】**あ
れー ちゃー うふむにー そーたしが、たき
なむんどう やてーる。(あの人はいつもほら
を吹いて偉そうにしていたが、程度の知れたや
つだったんだね)。

たくぶん 〈たたむ〉**【活】**たくだん、たくば
ん、たくでい **【例】**ちん あらてーし たくぶ
ん。(着物を洗ったのをたたむ)。

たくま 〈利口さ〉 **【例】**たくまぬ ちゅーさ
る むぬんかい たくまーんでい いーん。(考
えの深い者に利口者と言う)。じんぶなー、はが
なー、たくまーや あぬむん。(知恵者、頭がよ
く切れる者、利口者は同じものだ)。

たくむん 〈たくらむ〉**【活】**たくだん、たくま
ん、たくでい **【例】**しくちばから あり っう
いーほーいんち ありくり たくむん。(仕事
場からあの人を追い払おうとしてあれこれたく
らむ)。

たげー 〈お互い〉 **【例】**なげー あっちよー
くとう たげーに ゐち ゆくらな。(長いこ
と歩いているのでお互い座って休もう)。

たげー ちげー すん 〈くい違う〉**【活】**～
さん、～さん、～っし **【例】**あつたーや いちよ
ーる くとー たげーちげーっし はなしに
ならんくとう、うっちゃんぎとーけー。(あの人
たちは言っていることがくい違って話にならな
いので、放っておきなさい)。

たげーに うーふー／いーひー すん
 人〈互いに敬語を使って／使わずに会話する〉
 【活】～さん、～さん、～っし 【例】ちむ ゆるする
 っちゆぬちゃーとー たげーに いーひー
 っし はなしむぬがたい ないしが、なーだ
 ふいらいぬ あささる っちゆとうか、しーじ
 やがたんかえー うーふー すん。(心を許す
 人たちは互いに敬語を使わずに話できるが、
 まだ付き合いが浅い人とか、年上には敬語を使
 って会話する)。

たげーすん 〈耕す〉【活】たげーちゃん、た
 げーさん、たげーち 【例】はろー たげーちか
 ら ふあーやしえーぬ さに っういーゆん。
 (畑は耕してから野菜の種を植える)。【参】けー
 すん。

たち 〈辰〉 【例】たちえー ふえーむていあ
 がりぬ ぬふあ やん。(辰は南寄りの東の方
 角だ)。

たちー まじくい 〈他血統の者〉 【例】
 たちーまじくい そーる っちゆんかえー う
 ぐわんそー ちがする むのー あらん。(他
 血統の人には先祖の位牌は継がせるものではな
 い)。ゆすぬ っちゆぬ ちーぬ まんちよー
 る っちゆんかい たちーまじくいんでい い
 ーん。(他所の系統の血が混じっている人に「た
 ちーまじくい」という)。

たぢーん 〈たぎる〉【活】たぢたん、たぢら
 ん、たぢてい 【例】たぢーねー、ふいー ちゃ
 ーし／とうみり よー。(たぎったら火を消し
 なさい／止めなさいよ)。

たぢらすん 〈たぎらせる〉【活】たぢらちゃ
 ん、たぢらさん、たぢらち 【例】たぢらしーね
 ー／あちらしーねー、しーらんくとう なーち
 ちゃん かまりーん。(たぎらせると／暖めると、
 腐れないので翌日も食べられる)。んかしえー
 れいぞーこぬ ねーらんとくとう、ぬくとー
 る むのー たぢらち うちきとーたん。(昔

は冷蔵庫がなかったので、残り物はたぎらせて
 置いた)。

たぢらし けーさー 〈何度も煮返したも
 の〉 【例】なー うわたる くとうどう や
 くとう、たぢらしけーさーや さん けー。(も
 う終わったことだから、何度もぶり返すことは
 するな)。

たちゆん 〈立つ、経つ、断つ、発つ、嫁ぐ〉
 【活】たっちゃん、たたん、たっち 【例】は
 ーぬ たちゆる むんから こーていくーわ。
 (刃が鋭いのから買ってこい)。くぬ ほーちゃ
 ーや はーぬ たっちよーくとう ちかいる
 ばすねー ちー ちきりよー。(この包丁は刃
 が鋭いので使うときは気をつけなさいよ)。は
 ー たたん などーっさー。(刃がなまってしま
 っているよ)。うりんかえー ぬー いちん
 はーん たたん。(この人には何を言っても
 役に立たない)。たっちよーしえー うやん
 ちかり。(忙しいときは、手があていければ親で
 あっても使ってもかまわない)。はー たたんぬ
 ー(何を言ってもどうしようもない者)。きー
 たっちよーるー(てきぱきしている者)。うむ
 かじぬ たちゆん。(面影が浮かぶ)。ぐにちび
 けー たっちよーん。(5日ばかり経っている)。
 とーきよーんかい いち たちゆが?(東京へ
 いつ発つの)。っんぢたち(出で立ち、出発)。た
 っちん むちん をうららん。(立っても座っ
 ても居れない＝居ても立ってもおれない)。じ
 かんぬ たちゆしぬ あんし ふえーさる や
 ー。(時間がたつのがなんと速いことか)。やー
 たっちー?(家庭を持って自立しているか)。
 やー たっちよーみ?(結婚しているか)。うい
 なぐんぐわー やー たっちー?(お嬢さんは
 嫁がせたか)。やー たちやー(嫁いだ者)。
 たち ぐりさ すん 〈暮らして苦労する〉
 【活】～さん、～さん、～っし 【例】あれー あま
 んかい ゆみ なてい っんぢやしが、うやち
 よーでーぬちゃーとう あたらん なてい た
 ちぐりさ そーん。(あの人は嫁になって行っ
 たが、姑、小姑と合わなくて苦労している)。

たち かんていー すん 〈生活苦にあえぐ〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】あつたーや しー かたみてい たちかんていー そーる ふーじ どー。(あの家は負債を抱え込んで生活苦にあえいでいるよ)。

たち くんばい すん 〈立ちっぱなしである〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】わかさる とうちから たちくんばい する わじや やたくとう、とうし とうたくとう よーみ いっちょーっさ。(若い時から立ちっぱなしでする仕事だったので、歳をとったので弱くなっている)。

たち ぢゆく 〈生活〉【例】なまー たちじゆくん しーぐりく などーん。(今は生活もしにくくなっている)。

たち なち すん 〈遠吠えする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】いのー やなむん ーちよーる とうちねー たちなち すんでい。(犬は悪霊を見ているときには遠吠えするって)。

たち ぬち すん 〈立ち退きする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】あまくま たちぬち さつてい まぎみちん ちゆくらつてい にかしぬ しがたー ねーん などーん。(あちらこちら立ち退きされて大きな道路も造られて昔の面影はなくなっている)。

たち むい すん 〈立って子守りする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】たっち っくわむい するくとうんかい たちむいすんでい ーん。(立って子守りをするに「立ち子守りする」という)。

たち むどうい すん 〈出戻る〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】うちなーぬ ういなごー ゆー はたらちやー やくとう、たるがきらつてい、ういきがー ういなぐんかい しーまきーっし、はたらかん ないん。あん やくとう、みーとうんだわかりっし たちむどういする ういなぐぬ うふさんねー すん。(沖縄の女性はとても働き者で、頼られて、男性は女性に勢い負けして、働かなくなる。それで、離婚して出戻る女性が多いような気がする)。

だちびん 〈酒瓶〉【例】だちびんでい ーしえー、さき いつてい むっちあつかりーるくとう などーる やちむん やてい、かたはらーや がまくんかい をうさまいるくとう くぶどーん。(「だちびん」というのは、携帯用の酒入れの陶器で、片側が腰にはまるようにくぼんでいる)。

たちふあ 〈立場〉【例】ありが あねー いらんけー しむたるむんぬ、わん たちふあ ねーん などーん。(あの人があんなことを言わなければよかったのに、私の立場はなくなっている)。

だちゆん 〈抱く〉【例】っくわ/っんまが だちゆん。(子/孫を抱く)。うやぬ ぐをうん いちいちまでいん ちむに だちゆん。(親の御恩をいつまでも心に抱く)。ちゆいんぐわ やくとう、うっさぬ じえーさん ありがどう だちよーる。(一人っ子なので、それだけの財産をあの人だけで抱えている)。うやからぬ うふじん だちくどーしが、たーんかいん じのー からさんぬー やてい、いっペー っうえーきくまさん。(親からの大金を抱きかかえているが、誰にもお金を貸さなくて、大変ケチな金持ちだ)。いーふえー だちゆん。(位牌を守っている)。っちゆ ーんーでー やーんでい うむいねー じん だかしーねー/だかちどう わかいさ。(人を見ようと思うなら、お金を持たせば分かるよ)。

たていーん 〈立てる、記入する〉【活】たていたん、たていらん、たていてい 【例】っちゆんかい じん からちやる とうちねー ちよーめぬんかい たていとーき よー。(他人に金銭を貸したときには記帳しておきなさいよ)。

たていけー いらりけー すん 〈何度も注ぎ足す〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】うちゃー たていけーいらりけーっし しるちや などーさ。みーくに いらりけーれー。(お茶を何度も注ぎ足したら薄くなっている。新しく入れ替えて)。

たっ～〈動詞に付く強意の接頭辞〉【例】たっくるさりーん どー。(ぶんなぐられるよ)。たっくわーすん。(くっつける)。たっとーさりーん どー。(ぶったおされるよ)。たっちらりーん。(たたっ斬られる)。たっちれー。(たたっ斬れー)。たっちきれー。(くっつける)。

たっくわーすん〈くっつける〉【活】たっくわーちゃん、たっくわーらん、たっくわーてい【例】ふくるぬ くちえー ぬい ちきてい たっくわーしえー。(袋の口は糊をつけてくっつけなさい)。

たっくわいん〈くつつく、癒着する〉【活】たっくわたん、たっくわらん、たっくわてい【例】きじぐちぬ ガーゼー けーいるとうち ちゅーく たっくわてい はちゅんち ーじ やたん。(傷口のガーゼを替えるとき、張り付いて剥ぎとるのに苦労した)。

たっくわいむっくわい すん〈くっ付き合う〉【例】あまぬ わかみーとうんだー いちん たっくわいむっくわい そーん やー。(あそこの若夫婦はいつもべたべたしているね)。

たっぴらかすん〈ペしゃんこになる〉【活】たっぴらかちゃん、たっぴらかさん、たっぴらかち【例】ダンボール たっぴらかすん。(段ボールをペしゃんこにする)。ぬーん わからん っちゅぬ わかやーふーなー しーねー、たっぴらかさりーん どー。(何も知らない奴が解っているふりをしたら、やっつけてやるぞ)。

たっくいー〈血統〉【例】あまー でいきやー(=すぐりむん)たっくいー/すーみーたっくいー やくとう、うやぬちゃーん むる しんしー やさ。(あの家は秀才/聡明の血統だから、両親もみんな先生だよ)。あまや ちょーみーたっくいー/ぐわんくーたっくいー/あーかーぎーたっくいー やさ。(あの家は長命/頑固者/美人の血統だよ)。

たとうい〈事例〉【例】なままでい うんな たとうえー ねーらんくとう、ちちいりーる くとー ならん。(今までにそんな事例はないので、聞き入れることはできない)。

たとうい〈例え〉【例】たとうい あん やらわん、ほーぬ しちゃをうてー ういなぐん ういきがん、うっとうん しーじゃん むる めぬ むんどう やる。(例えそうでも、法の下では女も男も、年下も年上もみんな同等である)。

たとうれー〈例え〉【例】たとうれー、っやーが わん やれー、ちゃー すが?/かん すみ?(例え、あなたが私であれば、どうするのか/こうするのか)。

たな〈棚〉【例】すむち ならびーんち なまー たな かちよーん。(本を並べるといつて今棚を組み立てている)。ごーやー ほーらすんでいち やんぼるだき ちかてい たな ちゅくたしが、うふかじっし ふちとうばさつたん。(ゴーヤーを這わせるといつてヤンバル竹を使って棚を作ったが、台風で吹き飛ばされてしまった)。

たながーいん〈変種が生まれる〉【活】たながーたん、たながーらん、たながーてい【例】うぬ うやぬ っくわんちん うまーらん あたいぬ たながーいむんぬ っんまりとーさやー。(その親の子とも思われぬほどの変わり者が生まれているね)。まるけーてー うやまさいむんぬ たながーいる くとうん あん。(時には親勝りの変わり種が生まれることもある)。

たながーい むん〈変わり種〉【例】うり ちゅえー たーんかいが にちよーら、たながーいむんどう やる、びんちょーん さんぐとう あさから うたさんしんびけー そーん。(その子一人はいつたい誰に似たのか、変わり者で、勉強もしないで朝から歌三線だけしている)。たながーいん(親と似ない)、たながーとーん(親と似ていない)。

たなげー〈エビ〉【例】やんぼるぬ かーらぬ たなげーや ゆー ぬーちやる くとーあしが、とうてい かだる うびーや ねーらん。(北部の川のエビをよく見たことはあるが、

取って食べたお覚えはない)。たなげー むんだに さくとう、たまんぬ くーとーたん。(川エビを餌にしたら、たまんが食いついていた)。

たぬしみ 〈楽しみ〉 【例】うむいるぐとう
ゆだ たみてい はなぎ ちゆくいしぬ ぬ
ーやかん たぬしみ やん。(好きなように枝を曲げて盆栽を作るのが何よりも楽しみだ)。

たに 〈男の性器〉 【例】たねー じんくゑー
むん、ほーや っちゅ くゑーむん。(女性にほれると男性は出費がかさむものなので、性欲におぼれることなく慎みなさい)。

たばいん 〈縛る〉 【活】たばたん、たばらん、
たばてい 【例】をうーじ とーちやい、くさぢ
やい、ていーちなー ていーちなー たばたい
する しくちゑー たーがん たーがん な
いる わじゃー あらん。(砂糖きびを倒したり、葉を削ぎ落したり、ひとつひとつ縛ったりする仕事は誰でもできる仕事ではない)。

たばい 〈～束(野菜、サトウキビ、等)〉 【例】
ちゅたばい(1束)、たたばい(2束)、みたば
い(3束)、ゆたばい(4束)、いちたばい(5
束)、むたばい(6束)、ななたばい(7束)、や
たばい(8束)、くくぬたばい(9束)、とうた
ばい(10束)。びら ちゅたばい くいみそー
れー。(ネギー束ください)。【参】やしゑー
うていくいみそーれー(野菜売ってください)；
やしゑーや ちゃっさ こーいが?(野菜はど
れだけ買うの)。

たばく 〈煙草〉 【例】なままでー たばこー
まーんぢん まーんぢん ふちゆるくとう
ないたしが、なまー っちゅぬ あちまいどう
くるをうてー はっとう などーん。(これま
では煙草は何処でも吸うことができたが、現在
は大衆の面前では禁じられている)。

たび 〈旅〉 【例】たびんかい いちゅんどー
しーねー、いちまのー さんていんもーから、
なーふあー みーぐしくから ていーさーじ
ふやーに うくたん。(旅に出るよというとき

には、糸満は三巔毛から、那覇は三重城から手
ぬぐいを振って見送った)。

たび すがい 〈旅支度、旅の装い〉 【例】
たびぬ いりゆーな むん むる くるまんか
い いりやーに どうーくろー むたんていん
しむくとう、みちをうてい たびすがいぬ
っちよー なまー あんまでい んーだらん
などーん。(旅の必要品をすべて車に入れて自
分では持たなくてもすむので、道で旅装の人は
現在はあまり見えなくなっている)。

たび にんじゅ 〈旅の集団〉 【例】ちかぐ
ろー とーからぬ たびにんじゅぬ うほーく
なてい、なーふあぬ まちん っういーりき
どうくるん とーぬっちゅぬちゃーさーに は
ねーちよーん。(最近是中国からの観光団体が
多くなって、那覇の市場も観光名所も中国人で
にぎわっている)。

たびぬ っちゅ 〈よそ者〉 【例】ぐまし
まをうてー たびぬ っちよー しぐ わかい
さ。(小さな島ではよそ者はすぐ分かるよ)。

だび 〈葬式〉 【例】たんかーぬ だべー あ
ちやー やんでい どー。(向かいの葬式は明
日ってよ)。だびぬ あやーに、あちまいんかえ
ー くららんたん。(葬式があつて集まりには
来れなかった)。

たぶいん 〈蓄える〉 【活】たぶたん、たぶらん、
たぶてい 【例】たぶとーる じんぬ ありわ
どう ぬーがな ある ばすねー ちむ いっ
ち じんぶぬん わちゅん/っんぢーん。(貯
めてあるお金があればこそ何かある際には落ち
着いて知恵も沸く/出る)。ぬー やていん
あいにとー くばめーてい ちかてい、たぶり
わどう やる。(何であってもあるときこそ節
約して使って、蓄えておくのだよ)。ししゑー
まーすぢきっし たぶてい、っんむ、むぢ、ま
ーぢん、あかまーみーんでーぬ くくや きー
ばくんかい いってい たぶとーたん。(肉は
塩漬けにして保存し、芋、麦、粟、小豆などの
穀物は木箱に入れて保存していた)。ぐてーび
けー/どうーびけー たぶてい しくちん さ

ん。(体力だけを蓄えて／怠けてばかりで仕事もしない)。ぬちえー たぶいんちどう ある。すそーん しえー ならん どー。(命は大事にするものだ。粗末にはいけないよ)。

たぼーいん 〈くださる〉【活】たぼーたん、たぼーらん、たぼーてい 【例】あみ ふらち たぼーり。(雨をお降らしになってください)。なままでい あていなし やてい ぬーん わかいびらんたん。どーでいん ゆるち たぼーり。(今まで分別がなくて何も分かりませんでした。どうかお許してください)。なままでい わからんどう あいびてーくとう、わかてい たぼーり。(今までは分からないままでいましたので、ご理解ください)。

たま 〈玉、宝玉〉 【例】ありが どうじえー たま はち、たかぐつ くでい、ちゆらすがいっし ちゆらぢゆらーとう みちから あっちよーたん。(あの人の妻は首飾りをして、ハイヒールを履いて、着飾ってさっそうと通りを歩いていた)。

たまいん 〈溜まる〉 【例】じのー ちかいる むん やてい、たみーる むのー あらん。(お金は使うもので、溜めるものではない)。ちかいしびけーん しえー じのー たまらん。(使うだけではお金は貯まらない)。

たまい みじ 〈溜まり水〉 【例】たまいみじえー くさりーん。(走水の如く、いつでも頭を働かせ、技術も磨かないと衰える)。いちむしえー たまいみじ とうめーいる くとうぬ ないしが、ちゃーっし みじぬ ある とうくるぬ わかいがやー?(生き物は溜まり水を探ることができるが、どのようにして水があるところが分かるのかねえ)。たまいみじんかい みかぢちぬ うちてい どうく ちゆらさぬ、ふいちくまりーんねー すん。(溜まり水に三日月が映ってあまりに美しく、引き込まれるようだ)。

だまいん 〈黙る〉【活】だまたん、だまらん、だまてい 【例】やーんかい けーていっちか

ら たーとうん むぬん いらん、だまいちっちよーん。(家に帰ってきてから誰ともものも言わない、黙り込んでいる)。いのー むのー いらんしが、むぬ うむてい ぬらーりーねー だまてい くーく ないん。(犬はものは言わないが、心の働きはあって叱られると黙り込んで小さくなる)。

たまうどうん 〈霊御殿〉 【例】たまうどうのー すいんかい あてい、うしゆがなしーめー でーでーぬ うふあか やん。(霊御殿は首里にあって、代々の琉球国王のお墓である)。

たまがい 〈人の死の前兆、火玉〉 【例】たまがえー ちゆー、あちゃー まーする っちゆぬ まぶい やんでい。あれー たまがいぬ あがとーくとう なげーむたん どー。(火玉は今日、明日亡くなる人の魂だ。あの人は火玉があがっているの、長くはもたないよ)。

たまし 〈注意、思慮〉 【例】っちゆんかい ぬらーりーる くとうびけー そーたしが、いふえー たましえー あいどう する。(人に叱られることばかりしていたが、少しは思慮があるんだね)。くるまー たまし かなぎてい どう むちゆんどー。(車は気をつけて持つんだよ)。ありが するくとー たまし いっちよーくとう、ばっぺーふいっぺーん ねーんぐとう ないさ。(あの人がすることは注意が行き届いているので、間違いなくできるよ)。

たまし くえー かーぎ／ちら だまし 〈賢そうな顔つき〉 【例】あぬ わらべー たましくえーかーぎ そーん。(あの子は賢そうな顔つきをしている)。あぬ わらべー ちらだましぬ あくとう、やなっちゆねー ふいっかからんさ。(あの子は賢そうな顔つきなので、悪い人には引っかからないよ)。

たまし くえー むん 〈思慮深い者〉 【例】ちゃー ふらーふーぢー そーしが、あれー したたかぬ たましくえーむんどう やん どー。(いつもバカを装っているが、あの人は実はとても思慮深い人なのだよ)。

たまし ぬぎ一ん 〈びっくりする〉【活】～ぬぎたん、～ぬぎらん、～ぬぎてい 【例】み一ぬめ一んかい くるまぬ ちゃくとう すばんかい ふいんぎたしが、たまし ぬぎてい ぬ一が など一がすら うびて一をうらん。(目の前に車が来たので側に逃げたが、びっくりして何が起こったか覚えてはいない)。

たまし 〈めいめいの分け前〉 【例】うれ一 っや一 たまし やくとう、っや一 かめ一。(それはあなたの分け前なので、あなたが食べなさい)。うれ一 わん たまし、うっさ一 っや一 たまし やさ。(それは私の分け前、それだけはあなたの分け前だよ)。

たみ 〈ため〉 【例】うぐわんそ一 いちみぬ ちゃくし すばなちえ一 や一ぬ たみね一 ならん。(先祖の位牌は存命の長男をさしおいては家のためにはよくない)。

たみ一ん 〈曲げる〉【活】たみたん、たみらん、たみてい 【例】ま一ちん、まっこ一ん ぬ一しぬ うむいるぐとう ゆだ たみてい ちゆくらり一くとうどう うむっさる。(松もマッコ一も持ち主が思うように枝を曲げて作られるからこそおもしろい)。

たみ一ん 〈貯める、溜める〉【活】たみたん、たみらん、たみてい 【例】ぐそ一んかえ一 じの一 むっちえ一 いからんくとう、じの一 たみ一る むの一 あらん、ちかいし やん。 じの一 ちかいわどう いちちちゆ一る。(あの世にはお金は持って行けないので、お金は貯めるものではなくて、使うものだ。お金は使ってこそ生きてくる)。たび すくとう じん たみと一け一。(旅をするのでお金を貯めておけ)。

だみ一ん 〈彩る、上化粧する〉【活】だみたん、だみらん、だみてい 【例】くぬ やちむの一 あんし ちびら一しく だみらっとう一 や一。(この焼き物はなんと素晴らしく上塗りされていることか)。

たみし 〈試し〉 【例】じんと一 ゆ一り一ぬ っんぢ一がや一んでいち ちむだみし し一が いちゆる っちょ一 まんど一ん。(本当に幽霊が出るのかと肝試しをしに行く人は多い)。
たみし すん 〈試す〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】くぬ ちの一 っや一んかい うちやいが すら たみしっし ん一で一。(この着物はあなたに似合うのか試着してみなさい)。

たむちゆん 〈長持ちする〉【活】たむちゃん、たむかん、たむち 【例】で一あがや一 こ一い ね一、まぎじの一 っんぢ一や すしが、なげ一 たむちゆくとう で一ぬぐと一 あっさ一 や一。(高価な物を買うと、金が出るが、長持ちするので払うだけの価値があるね)。
【参】「で一ぬぐと一 あっさ／あん や一」はさすが上等だと満足している場合だが、「で一ぬ ぐとう どう あっさや一」は安物を買って、やはりそれだけのものでしかないと認めている場合である。

たむん 〈薪〉 【例】んかしえ一 たむん め一ち むぬ にちやい ゆ一 ふかちやい そ一たん。やてい、たむん うや一ん みちから あっちょ一たん。(昔は薪を燃やして食べ物煮熟たりお湯を沸かしたりしていた。それで、薪売りも行商していた)。

たゆい 〈便り〉 【例】いった一 っくわぬちや一や うやむとう はなりてい あがと一ん かい をうしが、っくわぬちや一から さたあみ?(あなたの子ども達は親元を離れて遠くに居るが、子ども達から便りはあるか)。

たり一ん 〈醸造する〉【活】たりたん、たりらん、たりてい 【例】さき／ん一す たり一ん。(酒／味噌を醸造する)。

たり一ん 〈足す、補う〉【活】たりたん、たりらん、たりてい 【例】わ一 ふすこ一 っや一 さ一に たりていとうらち、っや一 ふすこ一 わんが たり一っさ め一?(私の不足はあなたが補ってもらって、あなたの不足は私で補

うからね)。たらーん むのー っやーさーに
たりとーていとうらし よー。(足りないも
のはあなたで補っておいてね)。

たれーいん 〈足す、補う〉【活】たれーたん、
たれーらん、たれーてい 【例】ありが まーす
たりたしえー／たれーたしえー。(あの人が
塩を加えたのを見た)。わんが まーす たり
てーさ／たれーてーさ。(私が塩を加えてある)。
んーそー ふいっさんねーすくとう、たれーれ
ー／たりれー。(味噌は薄いようなので足しな
さい)。いかな むぬしり やていん しりふ
かちよーる っちよー をうらんくとう、っち
ゆぬ いちちよーる っうえーだー ちゆい
たれーだれーっし ふいらいし やん。(いく
ら物知りでも熟知している人はいないので、人
が活着ている間は各自補い合って人付き合いす
るものだ)。

たんかー 〈真向かい〉【例】たんかー げ
ーい (等価の物品交換)、たんかー まんかー。
ゑー (向かい合って坐ること)、たんかー わ
ーきー (山分け、対等に分けること)。じゅー

どー、けんどー、ていー、しまぬ すーぼー
たんかーだちっし はじまいん。(柔道、剣道、
空手、相撲の試合は対面立ちして始まる)。

たんかー まんかー 〈差し向かい、隣り近
所〉【例】とうーさる っうえーかやか た
んかーまんかー [=ちゆけーとうない] (遠い
親戚よりも隣近所の人)。

たんきーん 〈用心する〉【活】たんきたん、た
んきらん、たんきてい 【例】たんきみそーり
よー。([入院している人に対して]お大事に)。

だんだん 〈さまざま、たいそうな、たくさん〉
【例】とうーぬ いーべー めぬ たけー ね
ーらんでいち、っちゆにんぢのー だんだんぬ
っちゆぬちやーぬ をうん どー やー。(1
0本の指は同じ長さではないといって、人間に
は様々な人がいるよ)。くまぬ やーや だん
だんぬ っちゆぬちやー やさ やー。(ここ
の家はたいそうな人たちだねえ)。だんだんぬ
すがいっし ふーぢえー ねーらん。(あれ
これ重ね着をしてみっともない)。

ち、ぢ

～ち 〈～つ、～歳〉 【例】ていがねー ていー
ちん ねーらん。(1つの手助けもない)。うい
きがぐわぬ たーち まちやーや がんじゅ
ーむん ないん ぞー。(男の子のつむじが2つ
ある者は健康になるよ)。みーちぬ ていーち
えー わん むん やさ。(3分の1は私のだ
よ)。うっとー ゆーち みしー やさ。(弟/
妹は4歳違いの子)。いーべー いちち あん。
(指は5つある)。たーちとう ゆーち あーし
ねー むーち ないん。(2つと4つを合わせ
ると6つになる)。ななち ぶし(北斗七星)。
ちちゆぬ みちえー やーちぬ はし わたい
ん。(人生は8つの橋を渡る)。くくぬちえー
とうーんかい ていーち たらーん。(9つは
10に1つ足りない)。とうーぬ いーべー あ
ぬ たけー ねーらん。(十本の指は同じ長さ
ではない、十人十色)。っやーや とうしえー い
くち などーが/なたが?(あなたの歳はいく
つなっているの/なったの)。

ちー 〈血〉 【例】はなぢーぬ ほとーん。(鼻
血が流れている)。ちー はらすん。(血を出
す)。くぬ はなし ちちやーに たまし ぬ
ぎてい、わんまでい ちーん さーらみかち
さがいんねー すたさ。(この話を聞いて度肝
を抜かれて、私まで血がさーっと引くような気
がしたよ)。

ちー 〈乳、乳房〉 【例】うしぬ ちーや カル
シウムぬ うふさくとう、わらび とうすい
んな ぬむしが まし。(牛乳はカルシウムが
多いので、子ども年寄りみんな飲むといい)。ち
ー はなりかていー そーる わらびぬ う

やー ちーぬ くびんかい こーれーぐす ぬ
いたん。(離乳のできない子の親は乳首に唐辛
子を塗ったものだ)。っやーや ちーぬ はて
いちーねー むどうてい くーわ、ぼーじゃー
んかい ちー ぬまする じぶん やさ。(あ
なたは乳が張ってきたら戻ってきなさい、赤ん
坊に乳を飲ませる時間だから)。ちー えーす
ん。(乳を出す)。

ちー/ち 〈気〉 【例】ちー ちちゆん。(気
が利く)。ちー ちかん ぬー(気がきかない
者)。あれー ちーべーさん やー。(あの人は
気が早いね/せっかちだね)。まーんかい い
かわん ちやー まじゆん あっちよーん や
ー。あれー いっぺー ちにいっちよーん や
ー。(どこに行ってもいつも一緒にしているね。
大層お気に入りだね)。ちに すん。(気にす
る)。ちに さー(気にする人)。ちに そーた
さ。(気にしていた)。っやーや ちに ならん
どう あみ?(あなたは気にならないのか)。あ
れー ちにさんぬー やさ、ちやーん ねーん
さ。(あの人は気にしないから、どうもないよ)。
ちに しえーくいみそーんな よー。(気にな
さらないでくださいよ)。ちに かきとーたん
ぞー。(気にかけていたよ)。いっぺー ちに
かきやー ぞー。(たいへん気にする人だよ)。

ちー かさかさー 〈気ぜわしいさま〉 【例】
あれー ちーかさかさーっし うていちちぬ
ねーらん。(あの人はせっかちで落ち着きがない)。
っやーや あさんちん ねーん、ふいるん
ちん ねーん、ゆるんちん ねーん ふいっ
ちー ぱたぱたーっし、あんし ちーかさかさー

やる。(お前は朝も昼も夜も一日中忙しくして、なんとも気ぜわしいことだね)。

ちー しまったいん 〈気力がなくなる〉【活】～しまったん、～しまったらん、～しまったてい 【例】しけぬんかい まちげーねーらん とうーとーんち うむとーたしが、うていてい ちーしまったとーん。(試験に間違いなく受かっていると思っていたが、落ちて元気をなくしている)。

ちー ちちゅん 〈気がつく〉【活】～ちちゃん、～ちかん、～ちち 【例】っやーが くまんかい をうしえー なまどう ちーちちやる。(あなたがここに居るのは今はじめて気づいた)。

ちー ちちゅん 〈気が利く〉【活】～ちちゃん、～ちかん、～ちち 【例】ちーちかんぬー (気が利かない者)。

ちー～〈すっかり～してしまう〉

ちー けーらすん 〈容れ物を倒してすっかりこぼしてしまう〉【活】～けーらちゃん、～けーらさん、～けーらち 【例】いっすびんぬ さき ちーけーらちゃん。(一升瓶の酒をすっかりこぼしてしまった)。

ちー ふうらきーん 〈座り込んでしまう〉【活】～ふうらきたん、～ふうらきらん、～ふうらきてい 【例】いっぺー をうたとーたくとう ちーふうらきとーん。(とても疲れていたの、座り込んだ)。

ちー わしーん 〈すっかり忘れる〉【活】～わしたん、～わしらん、～わしてい 【例】あい、ぬーんでい いーんち やたが、ちーわしてーねーんさ。(あれ、なんと言うのだったか、すっかり忘れてしまったよ)。

ちー 〈つるべ〉【例】ちーや かーぬ みじくむしんかい ちかいる どーぐ やさ。(つるべは井戸の水を汲むのに使う道具だよ)。うちなーんかい 「うていてい ぽん、あがてい ぽん」でいーる むぬあかしえーぬ あしが、うれー 「ちー」ぬ くとうやさ。(沖縄には「落ちて ポン、上がって ポン」という謎なぞがあるが、それは「つるべ」のことだよ)。

ぢー 〈土地〉【例】っやーや どうーぬ ぢー むっちょーみ?(あなたは自分の土地を持っているか)。

ぢーぬ ぬーし 〈地主〉【例】うふぢーぬ ぬーし やれー、ぬーぬ しわん ねーらん しがやー。(大地主であれば、何の心配もないんだがねえ)。

ぢー ぶねーい 〈地揺れ〉【例】ふにからうりていどう をうしが、ぢーぶねーい そーんねー すさ。(船から降りているのだが、地揺れがしているような気がするよ)。

ぢー まーみー 〈落花生〉【例】ぢーまーみーや ぬーんでいち たーちゅー やが やー?(落花生はどうして双つで対なのかな)。

ちーぐー 〈口がきけない〉【例】あれー ちーぐー なていどう むのー いーうーさん どー。(あの人はことばに障害があって、口がきけなくなっているんだよ)。ありんかい くいー かきたしが、ぬーぬ ふいじん ねーらん たっさー、あれー ちーぐー なていどう あん そーっさ。(あの人に声をかけたが、何の返事もなかった、あの人は口がきけなくなってそうしているんだよ)。(参考)むのー いーうーさん ぬー (ものを言えない者)、ちぐむん (黙る)。

ちーちーくーめー すん 〈窮屈な思いをする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】っやーや ちーちーくーめーっし ちちよーさ やー。(あなたは窮屈そうな着方をしているね)。いくさ ゆーや がまんかい うほーくぬ ちゅぬちやーぬ うしくみらってい ちーちーくーめー そーたんでい。(戦時中は壕に大勢に人々が押し込められて窮屈な思いをしていた)【参】「いーばーしーちやー すん」とも言う。

ちげー 〈関節〉【例】ちげーぬ はんでいーん/ぬぎとーん/やむん。(関節がはずれる/抜けている/痛い)。をうとう/とうじぬ けーまーち、 しからーさぬ、なー ちげーぬ

ぬぎとーっさ。(夫／妻が急死し、寂しくて、関節の力が抜けているよ)。

ちーちー かーかー 〈喉や食道にものが詰まるさま〉【例】やーさがみ さーに ちーちーかーかー そーくとう、うふえー うとうさわどう ないる。ちやーぐわー いっていつらし。(お腹をすかせて食べて胸につかえているので、それを落とさないといけない。お茶を入れてくれ)。ちーちーかーかーっし いーちまでいー さーに いーちぬ しーぐりきたん。(喉につかえて息が詰まって息がしにくかった)。

ちーるー 〈黄色〉【例】ありぬ みーめーん かい っんぢやくとう どうーや ちーるー などーたん どー。(あの人の見舞いに行ったが体は黄色くしていたよ)。ちーるー そーしながーぐわー くいり。(黄色くしているもの、長いのをくれ)。うちなーぬ むとうむとうぬ ちでーくにや ちーるーっし なぎん ながさん。(沖縄元来のニンジンが黄色で細長い)。

ちーん、ちゆん 〈釣る〉【活】ちっちゃん、ちらん、ちっち【例】いゆ ちっちゃん。(魚を釣った)。「いゆ くわーすん」とも言う。

ちーん、ちゆん 〈着る〉【活】ちちゃん、ちらん、ちち【例】ちん ちちゃん。(服を着た)。

ちーん、ちゆん 〈切る〉【活】ちっちゃん、ちらん、ちっち【例】からじ ちっちゃん。(髪を切った)。ほーちやーさーに ていー ちっちゃん。(包丁で手を切った)。ありとー めん ちっちゃん。(あの人は縁を切った)。いぢ ちらー (意地を出し切っている人、勇敢な人、=いぢ ちり むん)、はじ ちらー (恥知らずの者)、いぢ ちらんぬー (意気地なし、=いぢえー ねーぬー)。「参」ぼーちりーん (乱暴になる)、ぼーちりとーん (乱暴している)の語根から派生した、ぼーちらー (乱暴者、無鉄砲、=ぼーちりむん) や、はていー (やっかい者)、

はてい ちゅーばー (やっかい者)、ふいんぢやー／ふいんぢむん (ならず者、不良)がある。

ちかいん 〈使う〉【活】ちかたん、ちからん、ちかてい【例】じん ちかてい くまんかい ちゃん。(お金を使ってここに来た)。

ちかい とうばすん 〈使い果たす〉【活】〜とうばちゃん、〜とうばさん、〜とうばち【例】ゆすぐにをうてい むっちよーる じん むる ちかいとうばち やーんかい けーらんとーならん などーたん。(外国で所持金をみんな使い果たして帰国しないといけなくなっていた)。

ちけーふあ 〈小遣い〉【例】ちゅーどう あやーから ちけーふあ とうてい じんいり やーんかい いってーしが、うり むる むっち いけー。(今日お母さんから小遣いもらって財布に入れてあるので、それを全部持って行きなさい)。

ちかいん 〈点灯する〉【活】ちかたん、ちからん、ちかてい【例】わったー やーぬ あがりむていーぬ ぐわいとーや じぶん ないねー なんくる でんきぬ ちかいん。(私の家の東側の街灯はその時間になると自然に点灯する)。

ちがきーん 〈心に留める〉【活】ちがきたん、ちがきらん、ちがきてい【例】うゆうえーぬ しこーいむこーい などーみ? なー みーぬ めー どー。ちがきり よー。(お祝いの準備はできているか。もう目前だよ。心に留めておきなさいよ)。

ちかないん 〈飼う〉【例】わったーや とういん ふいーじゃーん ちかなとーたん。(私の家は鶏もヤギも飼っていた)。

ちぎーん 〈告げる〉【活】ちぎたん、ちぎらん、ちぎてい【例】にわとういや あかちちうきっし とうち ちぎーん。(鶏は早起きして時を告げる)。んかしえー かに うっち くわじ、すりーぬ じくく、あさゆきぬ じくく ちぎーたん。(昔は鉦を打って火事、集会の時

間、朝夕の時間を告げたものだ)。さんさな一ぬ あちさんどー、あちさんどーっし どうまんぐいてい なち ちぎとーん。(蟬が暑いよ、暑いよと騒ぎ立てて夏を告げている)。

ちぐむん 〈口をつぐむ〉【活】ちぐだん、ちぐまん、ちぐでい 【例】どうく いちゆなさくとう、ちゃー くち ちぐとーん。(あまりにも忙しくてずうっと口をつぐんでいる)。ひこーき うとうるーや ちちゆるまでい むぬん いらん、ちゃー ちぐどーん。(飛行機恐怖症は着くまで一言もしゃべらないでずうっと口を閉ざしている)。

ちしーん 〈便秘する〉【活】ちしたん、ちしらん、ちしてい 【例】に、さんにちびけー ちしてい わた はとーくとう、いさぬやーんかい いきわどう ないっさ。(2、3日ほど便秘してお腹が張っているの、病院に行かないといけないな)。

ちじーん 〈妨げる、禁止する〉【活】ちじたん、ちじらん、ちじてい 【例】くんちりみーちーっし いかりーたるむん、ぢーぬ ぬーしんかい ちじらってい くんまーさんとー ならん などーさ。(近道をして行かれたのに、地主に妨害されて回り道しないといけなくなっている)。

ぢしち 〈儀式〉 【例】にーびちねー さかじき とういかーする ぢしちぬ あん。(婚礼には杯を取り交わす儀式がある)。

ちち 〈月〉 【例】がっこーや くんちちからはじまたん。(学校は今月から始まった)。くたちちぬ ちゅーや まーんかい をうたが? (先月の今日は何処にいたの)。たちちっし くとうしん うわいん。(来月で今年も終わる)。ちちぬ／にんぬ まーい／みぐい (月／年の周期)。とうし とういねー にんぬ／ちちぬ みぐいぬ ふえーさん。(歳をとると年の／月の巡りが速いねえ)。ちちぬ はいや っんまぬ はいぬ ぐとう、ちちぬ まーいや ふえーさん やー。(月日の経つのは馬が駆けるが

ごとく、月の巡りは速いものだね)。ちち あかがい そーる とうちに (月が明かるいうちに)。【参】じゅーぐやー (満月、八月十五夜の月)。

ちぢまがいん 〈縮みあがる〉【活】ちぢまがたん、ちぢまがらん、ちぢまがてい 【例】どうく ふいーさぬ／うとうるさぬ ちぢまがとーん。(あまりに寒くて／恐ろしくて縮みあがっている)。

ちちやい くてーたい すん 〈質疑応答をする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】くぬ はなしぬ あとー わからんくとう ちちやいくてーたい する じかんぬ あくとう、うぬ とうちに ちちくいみそーれー。(この話の後にはわからないことを質疑応答をする時間があるので、その時に聴いてください)。【参】くてーいん (授業や会議などで質疑に答える)、いれーいん (呼びかけ、話しかけに答える)。

ちちやがいん 〈つけあがる〉【活】ちやがたん、ちちやがらん、ちちやがてい 【例】ういきがぬ うやぬ まぎー やくとう、あまからー／あつたーや むぬん いらん。ちちやがてい どう をうん でー やー。(父親が大物なので、あっちからはものも言わない。つけあがっているんだね)。あまぬ やーにんじょー ちちやがてい、ちらん うちやぎてい えーさちん ねーらん。(あの家族はつけあがって、顔も上しか向かないし挨拶もない)。

ちちやぎーん 〈支える〉【活】ちちやぎたん、ちちやぎらん、ちちやぎてい 【例】ちぶるんかい かみーくとう ური ちちやぎてい とうらしえー。(頭に乗せるからそれを支えてちょうだい)。

ちちゆん 〈聞く〉【活】ちちやん、ちかん、ちち 【例】ちちふりーん。(聞き惚れる)。そーみなぬ ゆー ふきとーん やー。ちちぶりすさ。(メジロが高鳴きをしているね。聞き惚れするね)。ありが ちゅらぐいーんかい ちち

ふりと一っさ／ちちぶり そーさ。(あの人の美声に聞き惚れている)。っやー さたー ゆー ちかりーん どー。(あなたの事はよく耳にしているよ)。うぬ しらし ちちよーてい うっさそーしが。(その知らせを聞いて喜んでるんだが)。ちかー ちちよーる とうくるんかい していり。(悪口を耳にするなら聞いているところで捨てなさい)。ちかんだれー ちかんでいん しむん。(聴かないなら聴かなくてもいい)。ちかん みるくじらー ふーぬ あん。(余計なことは聞かない方が幸せ)。ちちよーてい どうーくる いれーいみ? あん いーぶさる くとうぬ あれー ぬーが わんにんかい ちちゆる?(聞いていながら自分で返事するのか。言いたいことがあるのなら、どうして私に聞くのか)。しーじゃがたから みーなりちちなり(=みーないちちない) さーに とうく ちでい どうーぬ みち ふいらち いき よー やー。(先輩たちをお手本にして徳を積んで人生を切り開いて行きなさいよ)。どうー ふみーびけーっし ありが はなしえー ちちん ちからん。(自慢ばかりであの人の話は聞く気にもならない)。【参】みるくじらー=みみぬ くじりとーる ちちゅ(耳が遠い者)。

ちちゅん 〈効く、収まる〉【活】ちちゃん、ちかん、ちち 【例】くぬ くすえー ゆー ちちゅん。(この薬はよく効く)。かじ ちかん ぬー (融通のきかない者)。いちえーはんちえーっし かじん とうららん ばすねー うぬ ちちゅぬ ちゅくとうばさーに かじん ちちゅさ。(言い争って舵取りができないときにはその人の一言で収まる)。

ちちゅん 〈付く、着く〉【活】ちちゃん、ちかん、ちち 【例】ふいーぬ／どうるぬ ちちゅん。(火が／泥がつく)。なーふあんかい いちちちゅが?(那覇にいつ着くか)。あみふいぬ ばすに どうるぬ ちちーねー しみ なたい あらていん うていらん どー。(雨降りのときに泥がつくとシミになって洗っても落ち

ないよ)。ありが はなしんかえー ちちゅぬ ちちゅん。(あの人の話しには人気が集まる)。ちちぢむどう かなさぢむ。(慕ってくる人こそかわいい)。ちちぢむ(くっついてくる人の心)、かなさぢむ(可愛らしいと思う心)。

ちてーいん 〈伝える〉【活】ちてーたん、ちてーらん、ちてーてい 【例】っやーさーに ちてーとーき よー。(お前から伝えておけよ)。うんぐとうっし ちてーとーたん。(そのように伝えられていた)。

ちに いーん 〈気に入る〉【活】～いっちゃん、～いらん、～いっち 【例】ちに いっちょーん。(気に入っている)。ちに いらん。(気に入らない)。あれー いっぺー わん ちにーいり やさ。(あの人はとても私のお気に入りだよ)。

ちねー 〈家庭〉 【例】なーちねーぢねーぬ しーよーぬ あくとう、わかてい ふいらいし やん。(家庭それぞれのしきたりがあるので、分かってつき合うべきだ)。

ちとう 〈引き出物、近辺からの手みやげ〉 【例】まるけーてい どうしぬ やーんかい っんぢやくとう、ちとうまでい むたさったん。(久しぶりに友人宅に行ったら、おみやげまでもらった)。ちかぐるー にーびち、っんまり どうしぬ すーじえー ホテルをうてい すしが、ちとうん かむしから ちねーどーぐんかい かわとーん。(近頃は結婚式、生年祝いはホテルで行なうが、引き出物も食べ物から日用品に変わっている)。【参】なーぎむん(旅先、遠方からの土産物)。

ちぬく 〈きのこ〉 【例】なかみじる、いなむ どうちんかい ちぬく いりーねー かばさぬ まーさん。(中味汁、イナムドゥチにきのこを入れると香りが良くておいしい)。

ぢのーん 〈宜野湾〉 【例】ふていま ひこーじょー ういーほーいる くとうぬ ないる

までー じのーんちゅねー てーふいーぬ ゆー
ーや くーんしが。(普天間飛行場を撤去する
ことができるまでは宜野湾市民には平和な世は
来ないんだが)。

ちび 〈尻〉 【例】ちび くくい(締めくくり、
決着)、ちび／あとう ねーらん ぬー(後始
末をしない者)、ちび ぬぐやー(後始末をす
る者)、ちび／じゅー ちらー(途中で投げ出
す者)、ちび がるー(浮気者の女性、男性に
は、ういなぐ しかさー／かちみやー)、みー
ぬ ちび(目尻)。ちびとう くちぬ あたら
ん。(つじつまが合わない)。あれー あんいー、
かんいーっし ちびくちぬ あーらんぬー ど
ー。(あの人はああ言ったりこう言ったりして、
つじつまが合わない人だよ)。むぬ たぬみ
さんてーまん 「いー！」んでい いやーに
しぐ りっばんぐわー しー なち とうら
する むのー ちびがっさんでい いーん。(も
のを頼むとすぐにはいと言ってすぐになりっぱに
やり遂げてくれる者は機敏だと言う)。ちびん
ちりらん。(はっきりしない、煮え切らない)。
はーえーすーぶ そーる ばすに、くさー と
うんけーていん たーん をうらん っちよー
「ちびくす／おーちび」んでい いーん。(か
けっこしている時に後ろを振り向いても誰もい
ない人は「びり」と言う)。うーびぬ はんでい
てい ちびすんちゃー そーん どー。(帯が
はずれて引きずっているよ)。みちぬ いばさ
くとう／あっちぐりさくとう いふえー っや
ー ちび しーけー／あとうんかい しーきれ
ー。(道が狭いので／歩きにくいので少しは後
ずさりしてくれ)。わったー じんいりやーや
じのー ぬーん たまらん、ちびぬ ふぎと
ーんねーっし さーらない むる ぬきーる。
(私の家の金銭箱はお金はいっこうに貯まらな
い、底が抜けているのかそのままみんな抜け落
ちる)。くりが くとー みーぬ ちびしん
んーだん けー。(この人のことは無視しなさい、
≡んーだん ふーなー しえー)。ちび た
てー！(心を奮い起こしなさい)。っやーや め

ーちびん ちかん。(あなたは座りもしない／
お尻で座席を暖めもしない)。【参】最終例を言
い換えると、「ちゃーびらさい」んでい ちゃー
に たっちよーてい ゆーじゅ しまち、めー
ん さん(ごめんくださいと来て、立ったまま
で用事を済ませて、座りもしない)；っやーや
ゆくいん さん ぐとう、けーいる ばー な
ー？(あなたは休みもしないで帰るのか)；ちゃ
ー ぬみーねー はなしぐわーん なたい、ち
むん あきてい っちゅ ふいらいる くとう
ん ないん、っやーや ふいらちとうらさん
ばー め？(お茶でも飲めば世間話もでき、心
も開いて人とつきあうこともできる、あなたは
つきあいもしないのか)；そーそー ばーばー
けーいん。(早々と帰る)。

ちび たっちゅー 〈お尻のとがっている
者〉 【例】あれー ちび たっちゅー どー。
(あの人はお尻がとがっているよ)。

ちび とうがやー／とうがるー 〈お
尻を横にすること〉 【例】ちび とうがやー
っし／とうがるーっし にんとーん。(くの字
に横になって寝ている)。

ちぶる 〈頭〉 【例】ちぶる っんぶー(頭が
のぼせていること)、ちぶる ちりやー(頭が
きれる者)。ありが ちぶろー かんすいぬ
ぐとうどう あん どー。(あの人の頭の回転
はカミソリのようなだよ)。むぬ かんげー し
ーぢゅーさぬ、ちぶるん っんぶく などーさ。
(ものを考え過ぎて頭が重くなっている)。ちぶ
る かじっし われー／ちぶるわい しえー。
(頭数で割りなさい)。んなさーに ちゅー と
うていちえーる／くわーちちえーる いよー
ちぶるわい しえー。(みんなで捕ってきた魚
は頭数で割りなさい)。いったーや むる ぬ
ーやていん ないん っちゅぬちゃー やくと
う、うんぐとう しーねー ちぶるあーし す
るくとう ないん。(あなた達はみんな何でも
できる人たちなので、そのままだとお互いに意
見の衝突することになる)。いったーや しむ

んかい むる たっち ちぶるあーしえー し
えー ならんくとう、ちゆいたいっし しーと
うらさん なー。(あなた達みんなが台所に立
ってお互いにぶつかってはいけないから、一人
二人でしてね)。あれー ぬーん かんげーら
んぐとう くとう うくち、ぬー ていーちん
ちよーん みー なしえーうーさん、ちぶるぬ
どうく かつさぬ。(あの人は何も考えない
ですので、何一つ成し遂げられていない、も
の考えがあまりにも浅い)。ちぶるぬ っんぢ
ゆきわどう じゅーん っんぢゆちゆる。(リ
ーダー [=頭] が模範を示せば、みんな [=尾] も
そのように動く)。

ちまいん 〈詰まる、縮まる〉 【例】やしむ
のー あらいーねー ちまいん。(安物は洗う
と縮む)。

ちみ 〈爪〉 【例】にぢりぬ うふいーびんか
い ちみまーやーぬ っんぢたん。(右の親指
の爪が黒ずんでしまった)。

ちみーん 〈詰める、短くする〉 【活】ちみた
ん、ちみらん、ちみてい 【例】じゅーばくんか
い くわっちー／うさんみ ちみーん。(重箱
にごちそう／御三味を詰める)。ちみ／からじ
ちみーん。(爪／髪を短くする)。タイムカプ
セルなかい どうーぬ さちじゃちぬ にげー
ちみーん。(タイムカプセルに自分の将来の
願いを詰める)。はなりがなさんでいいち、っん
まりじまをうてい くらちよーる とうじっく
わぬ くとう うむいちみとーん。(別離の募
る思いとて、故郷で暮らしている妻子のことを
思い詰めている)。

ちむ 〈こころ〉 【例】いっとうちえー ふかん
かい っんぢてい ちむ とうめーてい ちゆ
ーさ。(しばらく外に出て心を落ち着かせて来
るよ)。ちむぬ ねーん しーよーや すな
けー。(心ない仕方はしないでくれ)。「いー」や
ちゆけーんなーっし しむさ。ちゃーちぢき
ー 「いー、いー、いー」っし ちむぬ ねー

ん いれーよーや すな けー。「はい」は一
度でいいから。続けて「はい、はい、はい」と
やる気もない返事はしないでくれ)。あつたる
うやぬ けーまーち いっぺー ちむん ぢ
ーぢーとう ないる ぐとーん。(大切な親が
急死して心痛で胸が締め付けられている)。し
ゆじゆつぬ うんなげー かかてい ちゃんぐ
とう ないがやーんでい ちむん ちむなら
ん。(手術がそんなに長くかかって、どうなるの
かと気が気でない)。どうーぬ どうーん む
ちかんでいーっし ちむん とうやーさらん
ばすに いちえーならん くとうん あびてい
ねーらん、なまー いっぺー ちむ やどー
さ。(自分自身のこともやりきれなくて心も整
理できないときに言うてはならないことを言っ
てしまって、今は心を痛めているよ)。あまぬ
ういきがぬうやー どうくから くふあちぶる
やてい やーにんじよー ちむ たげーっし
ちむとうやーしん ならん。(あそこの男親
はあまりにも頑固で家族は心が通じなくて和が
取れない)。うたんでー ちちやーに ちむ
うらーきら。(歌でも聞いて心をなぐさめよう
か)。ちむ ふぢゆるぐとう しーとうらさん
なー。(満足するようにしてくれないか)。い
っぺー ちむ ふぢよーる うゆうえー／とう
しびー なたい ぬーぬ ふすくん ねーん
どー。(とても満足なお祝い／トウシビーがで
きて何の不足もないよ)。なーぬ くさー あ
ま ぬぢ、くま ぬぢっし ちむん ふがん
しーよー そーん。(庭の草はあっちこっち抜
いて心ない仕方をしている)。ありんかい／あ
りがくとう やらー ちむ くいていん しむ
ん。(あの人に／あの人のことなら同情できる)。
ちむ わさわさーっし ゐちん たっちん を
うららん。(落ち着かなくて居ても (=座って
も) 立ってもいられない)。ちむ わさわさーっ
し ちむん とうやーさらん。(不安で本来の
自分を取り戻せない)。どうく しわ なたい、
ちむ わさわさー そーっさー。(とても心配
になって、不安になっている)。うほーくぬ っ
ちゆぬ めーをうてい はなし すしえー か

んげーる うっぴ しん ちむ どんどん す
 っさー。(たくさんの方の前でするのは考える
 だけで胸がどきどきする)。あびやーいんぐわ
 ーんかい うーらってい くーらりーや さん
 がやーんち ちむ どんどん そーたん。(吠
 える犬に追われて咬まれないかどきどき
 した)。しちゆる っちゆぬ めーをうてー
 ちむどうまんぐいてい むぬん いーかんでい
 ーっし ちむ どんどん すさ。(好きな人前
 では気が動転してもものちゃんと言えずにどき
 どきする)。ちむむちぬ わっさぬ、ちらんか
 い っんぢとーしえー。(心の持ち様が悪くて、
 顔に出ているでしょう)。っやー くとー ち
 ゃー ちむに とうみとーん どー。(あなた
 のことはいつも心にとめていますよ)。しえー
 やー んでいる ちむぬ いっちえーをうら
 んくとう、ちむねー すまらん。(しようという
 気持ちが入っていないので、心にとどまらない
 のだ)。したたか くさみち ちむ くーてい
 むぬん いらんたん。(激怒して心を閉ざし
 て一言も言わなかった)。みーとうんだ おー
 えーっし やーんかい をうららんくとう ち
 む とうめーいが っんぢちゆーさ。(夫婦げ
 んかをして家には居れないので、心を静めに外
 出してくるね)。ちむや あらな そーてい
 くちや はな さかち。(心のなかではそう思
 っていないのに口ではきれいごとを言う)。ち
 むさーに かーぎ こーいん。(心の豊かさが
 顔に出て美しく見える)。ちむ うっけーいん。
 (発狂する)。ちむ うらーきーん。(心を洗い清
 める)。ちむ さわぢゆん。(胸騒ぎがする)。ち
 む とうきーん。(疑いや迷いがとける)。ちむ
 とうきらん。(疑いや迷いがとけない)。ちむ
 ぬ とうくるん ねーん。(心配で心が落ち着
 かない)。ちむ のーいん。(機嫌が直る)。ちむ
 ぬ めーん。(落ち着く)。ちむぬ めらん さ
 ー。(落ち着かないよ)。ちむ めしれー。(落
 ち着きなさい)。ちむ わいん。(心を開く)。ちむ
 んてーん あらん。(悲しみでどうしようもな
 い)。ちむ あんまさん。(心を悩ます)。ちむ
 いちやさん。(心を痛める)。ちむ ぐりさん。

(心を痛める)。ちむ いちゆなさん。(気ぜわし
 い)。ちむ がなさん。(愛しい)。ちむ ぐまさ
 さん。(小心者である)。ちむ しからーさん。(心
 の底からさびしい)。ちむ しぷさん。(強情で
 ある)。ちむ ちゆーさん。(心強い)。ちむ ち
 ゆらさん。(心優しい)。ちむ ながさん。(気が
 長い)。ちむ っういーりきさん どー。(心が
 やすまるよ)。ちむ っういーりき どうくる
 (心がやすまるどころ)、ちむ あしがち (心の
 いらだち)、ちむ がかい (気がかり)、ちむ
 がしー (励まし)、ちむ ずりー (協力)、ちむ
 だーり (ノイローゼ気味)、ちむ ふくい (歓
 喜)、ちむ まゆい (心の迷い)、ちむ やなー
 (心のまがった人)、ちむぬ あまい (心のゆと
 り)、ちむぬ うみー (気のせい)、ちむぬ か
 ん (靈感)。ちむいりぬ にんぬ くわー。(心
 を込めてしたことがかえってあだになる、親切
 が過ぎてあだになる)。【参】山内(2008, 第3
 章)では、琉歌の中から「ちむ」で始まる553
 の語句を列挙し、‘肝ぐる文化’の一端を紹介
 している。

ちむ だくだくー すん <胸をときめか
 す> 【活】～さん、～さん、～っし 【例】むとうび
 れーとう あちやー いちやらりーくとう ち
 む だくだくーっし にんだらんたん。(元カ
 ノと明日会えるので胸をときめかして眠れな
 かった)。はーえーすーぶに スタートラインか
 い たちーねー いちん ちむ だくだくー
 すたん。(かけっこでスタートラインに立つと
 いつも胸が高鳴った)。【参】「んに だくみか
 すん」とも言う。

ちむ どんどん すん <ドキドキする>
【活】～さん、～さん、～っし 【例】たー やてい
 ん っちゆぬ めーんかい っんぢてい はな
 し する ばすねー ちむ どんどん すん
 やー。(誰でも人の前に出て話をするときには
 ドキドキするよね)。

ちむ ぐち <みぞおち> 【例】なーだ む
 ぬ かでーねーらんくとう、ちむぐち くーら
 ってい やどーっさ。(まだものを食べていな
 いので、みぞおちを締め付けられて痛い)。ちむ

ぐち きらってい いーちまでいー っし し
なしなー そーたん。(みぞおちを蹴られて息
ができなくて死にそうだった)。

ちむ ぐる 〈心〉 【例】 ゆすぐにをうて
ー いっぺー くまとーる ばすに ちむぐく
るぬ ちゆらさるっちゆ いちやたる うかぢ
に ぬちもーきたん。(外国でとても困っている
ときに心の優しい人に会って命拾いをした)。
ちむ むち 〈心がけ〉 【例】 っちょー ち
むむち しでー やさ。(人は心がけしだいだ)。
ちむむちぬ ゆたさん。(心がけが好い)。ちむ
むち むん (心温かい人)。

ちむえー 〈意味、わけ〉 【例】 ちむえーん
ねーらんたん。(わけがわからなくてつまら
なかった)。

ちやー 〈茶〉 【例】 ちやーぬ しんぬ たっ
ちよーくとう、ちゆーや みーくとうぬ あん
どー。(茶柱が立っているの、今日は良いこ
とがあるよ)。はちぢやーや うやふあーふじ
んかい うさぎていどう いちめー ぬむん。
(お初の茶は祖先にお供えしてから人は飲む)。
ちゆちやわのー ぬむな よー、たちやわん
ぬまーに いけー。(一杯は飲むなよ、二杯飲ん
でから行きなさい)。うちやとー する ばす
ねー、はちぢやー ちぢ うさぎーん。(霊前
にお茶を供える際には、お初の茶を注いで差し上
げる)。ちやーぐわー いっちょーくとう く
ーわんでい ゆばってい っんぢやしが、くわ
っちーまでいん しこーらとーたん。(お茶
を入れてあるのでおいでと呼ばれて行ったが、
ごちそうまでも準備されていた)。

ちやーいん 〈消える〉 【活】 ちやーたん、ち
やーらん、ちやーてい

ちやーすん 〈消す〉 【活】 ちやーちゃん、ち
やーさん、ちやーち 【例】 ふいーぬ ちやーい
ん。(火が消える)。ふいー ちやーすん。(火を
消す)。でんきぬ ちやーたん／ちかたん。(電
灯が消えた／点いた)。でんきぬ ちやーたい

ちちやい そーん。(電灯が消えたり点いた
りしている)。ぬーじぬ／ひこーきぬ ちやー
いたん。(虹が／飛行機が(目の前から次第に)
消えていった、ちやーいたん≡みーらん なた
ん)。なま っんまなかい あたしえー ちや
ーとーっさ。(今そこにあったのが消えている)。
っやー うむかじぬ たちゆたしが、うれー
いちゆなさしどう くーらんがやー、あんま
さっし にんていどう をうがやーんでい う
むたしが、いっとうちぐわー さくとう っや
ー うむかじえー ちやーいたん。(あなたの
面影が立って、忙しくて来られないのか、具合
が悪くて寝ているのかと思ったのだが、少しす
るとあなたの面影が(目の前から)消えていっ
た)。うりが くとー なー みーから ちや
ーしえー／ちむから はんしえー。(その人の
ことはもう忘れなさい(目から消しなさい／心
か取り除きなさい)、≡うみちり よー)。みー
ぬ ちかちかっし にんだらんくとう でんき
ちやーしえー。(まぶしくて眠れないので、電
灯を消して)。かちぼっぺー そーる とうく
まー ちやーすん。(書き間違いしているところ
を消す)。くさ めーちやる ふいーや な
ー ちやーとーが んーち くーわ。(草を燃
やした火がもう消えているか見ておいで)。ち
やーたい ちちやい そーたん。(消えたり点
いたりしていた)。ちやーちやい ちかちやい
そーたん。(消したり点けたりしていた)。

ちゃんなぎーん 〈捨ててしまう〉 【活】 ち
やんなぎたん、ちゃんなぎらん、ちゃんなぎて
い 【例】 がんちよー ちゃんなぎーん。(めが
ねを捨ててしまう)。

～**ちゆ** 〈1〉 【例】 ちゆくとうば(一言)、ち
ゆけーん(一回)、ちゆふいさ(一足)、ちゆと
うし(同年)、ちゆとう(一年)、ちゆやー(一
軒)、ちゆくいー(一声)、ちゆかき(一かけら)、
ちゆくに(一国)、ちゆまーい(一回り)、ちゆ
ゆる(一夜)、ちゆかたみ(一担ぎ)、ちゆかた
(一方)、ちゆくとう(一件)、ちゆくち(一口)、
ちゆまーらしぬ しーじゃ(12歳年上)。

ちゅ い 〈一人〉【例】ちゅいんぐわ (一人っ子)、ちゅいういきがんぐわ (一人息子)、ちゅいういなぐんぐわ (ひとりむすめ)。ちゅいんぐわ なてい なー いっぺー あたらさすん。(一人っ子なのでとても大事にする)。ありが しーよーや ちゃー ぬー やていん どうーや さんぐとう ちゅびけーんかい うしちきーん。(あの人の仕方はいつも何であっても自分はしないで人に押し付ける)。いちゅなさる ばすねー ちゅいたれーだれーっしていがねーすん。(忙しいときには互いに助け合いながら手伝いをする)。めんせつぬ ばすねー ちゅいなーかーるー うきーん。(面接の際には一人ずつ受ける)。ちゅいなー ちゅいなー あびれー/いみそーれー。(一人ずつ言いなさい/おっしゃってください)。

ちゅ かき 〈一切れ〉【例】あわていー はーていーさーに ちゅかきぐわーんちよーん かまんぐとう っんぢよーさ。(あわてて一つまみさえも食べないで出ているよ)。ちゅぬ かみーよーんでい くいーしえー ちゅかき やていん ていーちきーる むん やん。(人が食べなさいとくれるのは一切れでも手をつけるものだよ)。

ちゅ ちち ぐし 〈一月おき〉【例】くぬ ゆみむのー ちゅちちぐしに っんぢやさりーん。(この読み物は一月おきに出される)。

ちゅ ちねー 〈一世帯〉【例】ちゅちねーや ちゃっさ いきらさていん くるまー たーちえー むっちよーくとう しゃこから あんでいてい みちんかいどう とうみとーさ。(1世帯は少なくとも車2台は持っている。ので車庫からはみ出して道に停めている)。

ちゅ とうし 〈同じ年〉【例】ありとう わんとー ちゅとうし やん。(あの人と私は同じ年だ)。あまぬ みーとうんだーや ちゅとうし やん。(あそこの夫婦は同じ年だ)。**【参】**「ぬぬ とうし」とも言う。

ちゅ ふいさ 〈一足〉【例】ちゅふいさ さち なら やー。(一足先になろうね)。

ちゅ ばち 〈一発、一撃〉【例】うとうう

ちゅちよーる だいがくんかい ちゅばちに と うーたん。(有名大学に一発で合格した)。ありが ゆみぬ いやー ちゅばちなかい まとう いーん。(あの人の弓矢は一張りでの的を射る)。

ちゅ まーい/ちゅまーる 〈ひとまわり〉【例】わんねー うっとうとー ちゅまーい ちがいでいん どー。(私は弟/妹とはひとまわり違うよ)。

ちゅ みー 〈一睡〉【例】ちゃーが ないらんでい みー くふあてい ちゅみーんちよー にんてー をうらん。(いったいどうなるのかと目が冴えて一睡もしていない)。

ちゅ うえー ぐとう 〈一大事〉【例】くるまぬ くわんさちとうか ほけんしょーぬ いっちよーる かぼん ぬすまってい ちゅうえーぐとう などーん。(車の免許証や保険証の入っているカバンを盗まれて一大事になっている)。**【参】**「うふ ぐとう」とも言う。

ちゅー 〈今日〉【例】ちぬー (昨日)、をうっていー (おととい)、あちゃー (明日)、あさてい (あさって)、あさていぬ なーちゃ (しあさって)。

ちゅーいん 〈成育する〉**【活】**ちゅーたん、ちゅーらん、ちゅーてい **【例】**うぬ わらべー ちゅーいべーさっさ/ちゅーいにーさっさ やー。(その子は発育が早い/発育が遅いね)。あまぬ ういなぐんぐわや なーだ じゅーしち、はちぬ わらびどう やしが、にーびち さーに きっさ っくわ なちえーさ やー。ちゅーとーっさ やー。(あそこの娘はまだ17、8の娘なのに、結婚してすでに子を生んでいる。早熟だね)。

ちゅーごー すん 〈しめし合わす〉**【活】**~さん、~さん、~っし **【例】**あつたーや ちゅーごー そーてーさ やー。(あの人たちはしめし合わせていたのだね)。じんとう ちゅーごーしどう ちかーりーん どー、じのー ゆーくめーきり よー やー。(お金と相談して

から使うことが出来るんだよ、お金は節約して使いなさいよ)。

ちゆくいん 〈つくる〉【活】ちゆくたん、ちゆくらん、ちゆくてい 【例】ちゆくいしがたんちどう ある、っんまりしがたんちえー ねーらん。(人は生まれたままの容姿でいることはできない、化粧や着物や教養によって美しくなることができる)。うた／やー／しゅむち／みち／やしえー／ないむん／くみ ちゆくいん。(歌／家／本／道／野菜／果物／米をつくる)。ちゆくい やんぢ(作り損ない)、ちゆくいむん(作りもの)、ちゆくい わーきー(作物の利益を山分けすること)。

ちゆくい むぢゆくい 〈農作物〉 【例】くぬ ばさない ゆー ないくとう くわぐわー めーていっち っういーたくとう、いっぺー ゆかどーん。ちゆくいむぢゆくえー んーちゃ いらぶん どー。(このバナナはよく実が成るので株をもらって来て植えたら、よく茂っている。作物は土を選ぶよね)。

ちゆくりーん 〈繕う〉【活】ちゆくりたん、ちゆくりらん、ちゆくりてい 【例】やしえー／まーみなー ちゆくりれー。(野菜／もやしをつくろいなさい)。うみんちよー いじやいならん ばすねー、いゆ どういる あみちゆくりとーん。(漁師は漁できないときには、魚捕りの網を繕っている)。

ちゅーみーん 〈強める〉【活】ちゅーみたん、ちゅーみらん、ちゅーみてい 【例】なーいふいぐわー ちる ちゅーみーしえー ましあらに?(もう少し弦を強くすれば良いじゃないの)。

〜ぢゅらさ 〈かしこくも〜、尊くも〜〉 【例】っんぢやる ぐそーをうてい まゆいん しえーくいみそーらんぐとう っんまをうとーてい めーちぢぢゅらさっし うたびみしえーびりんでい ぬぢふあぬ うぐわん すん。(いらっしやっただあの世でお迷いすることはなさらないで、その場でかしこくもお居着きなさってくださいと抜霊の拝みをする)。

ちら 〈顔〉 【例】ちら むっち あっからん。(どの面さげて歩けるか)。ちゅらかーぎ(美貌)、ちゅらかーぎー(美人)、ちらまぎー(顔面の大きい人)、ちら たーちー(=ありんかい たっくわてー くりんかい たっくわてーしーしー する っちゅ=またばしごーやく、八方美人)。ちらぐわーぬ くーさん やー。(顔が小さいね)。ちら ほーちゅん。(ピンタする)。ちらかまちぬ わっさん、んーぢーねー わかいさ。(顔つきが悪い、見ればわかるよ)。ちらかーぎやか ちむぐくる。(顔だちよりも心の美しさ)。あれー ちら んけーよーぬ わっさぬ、かまじし くーてい やー。(あの人は表情が悪くて、愛想がなくてね)。ちらんかい ちむぬ っんぢどーん。(顔に心が出ている)。いふーな どうし かめーいねー、っやー ちらまでい ゆぐさりーん どー。(悪い友を探すと自分の顔まで汚すことになるよ)。

ちら ぶっくわー 〈ふくれっ面の者〉 【例】あぬ ういなごー あんし ちらぶっくわー やてーる やー。(あの女性はあるにふくれっ面するんだね)。

ちりーん 〈(極限状態に達して)切れる〉【活】ちりたん、ちりらん、ちりてい 【例】やま ちりーん。(混乱の極限状況になっている)。あれー いぢ／はじ／ちぶる ちりとーん。(あの人は勇気がある／恥知らずである／頭がいい)。

ちるがいん 〈浸かる〉【活】ちるがたん、ちるがらん、ちるがてい 【例】うーあみぬ かーじ やーぬ なーかまでい みじぬ ちるがてい でーじ ないん。(大雨のたびに家の中まで水が浸かって大変なことになる)。ふよーゆーふる いーねー、くびまでい ゆーんかい ちるがらんとー ぬくたまらん。(冬は入浴したら首までお湯につからないと温まらない)。

ちる だい 〈だるいさま、元気をなくしている様〉 【例】ていまー めーてい うっさう

っさーっし やーんかい けーてい いすぢ
かばん あきてい んーちやしが、ちゃっさ
とうめーていん ねーらんたくとう、ちるだい
さん。(給与をもらって喜び勇んで家に帰っ
てカバンをあけてみたら、いくら探してもなか
ったので、がっかりした)。しけぬんかい うて
いてい ちるだい そーん。(試験に落ちてが
っかりしている)。ちる ぬぎとーん。(元気を
なくしている)。【参】 だいん。

ちるむん 〈交接する〉【活】ちるだん、ちるま
ん、ちるでい 【例】あーけーじゅーぬ ちるま
がなー とうどーし んーちやるくとうぬ あ
み?(トンボが交尾しながら飛んでいるのを見
たことがあるか)。

ちろー 〈器量〉【例】ちろー じんぶん う
ちやとーん。(顔立ちも分別もりっぱに一致し
ている)。

ちわみーん 〈決める〉【活】ちわみたん、ち
わみらん、ちわみてい 【例】ちわみてい と
うらし よー。(決めておいてね)。あとうぬ
ぢんみまでいねー ちゃーっし すん、かん
し すんでいーる くとー たーが ちわみー
が?(次の協議までにはどうするかということ
は誰が決めるか)。あとうあとー がっこーを
うてい しーとうぬちやーんかい うちなーぐ
ち ならーする くとう ちわみらんとー なら
ん。(将来学校で生徒たちに沖縄語を教える
ことを決めないといけない)。うぬ とういち
わみ やれー、ぬー やていん ないさ。(その
決心なら、何でもできる)。

ちわまいん 〈決まる〉【活】ちわまたん、ち
わまらん、ちわまてい

ちん／ちんちるかー 〈服、衣類〉【例】
うちなーぬ きーくささーに ちゅくらっどー
る うちなーぢぬん、きかいさーに うふうふ
ーとう ちゅくらっどーる ちぬん むる ち
んでい いちよーん。(沖縄の植物で作られて
いる沖縄の着物も、機械で大量に作られている
衣服もすべて「ちん」と言っている)。じんぬ

あれー ちんちるかーどう こーてい あっち
ゆさ。(お金があればすぐにでも服を買って
るよ)。うさきーぬ ちんちるかー あちみてい
ぬー すが?(そんなにたくさんの着物集め
てどうするの)。

ちんちきーん 〈つねる〉【活】ちんちきた
ん、ちんちきらん、ちんちきてい 【例】んかし
ぬ ういなぐぬ うやー いーし ちかん ば
すねー、わじやーに っくわぬ うちむむ ち
んちきたん。(一昔の母親は言うのを聞かない
ときには、怒って子の内腿をつねった)。

ちんペー 〈唾〉【例】ちんペー とうーみ
かすん。(唾をべっとはく)。くるでい どうー
やまちやる ばすねー、うやぬ くすいがわ
いっし みけーん ちんペー なでいー すた
ん。(転んで体を痛めたときには、親が薬(消
毒)代わりに三回唾撫でをしたものだ)。

ちんぼーらー 〈小さな巻貝の一種〉【例】
しーんかい たっくわとーる ちんぼーらーや
とういんち いふいぐわー やていん さー
いーねー、しぐ うていてい ちんぶるげーい
すん どー。(岩にくっ付いている巻貝は穫
ろうと少しでも触ったら、すぐに落ちてでんぐ
り返しをする)。

ちんまがいん 〈ひん曲がる〉【活】ちんま
がたん、ちんまがらん、ちんまがてい 【例】く
ぬ あなあきやーぬ さちえー ちんまがとー
くとう、のーちからどう ちかーりーん どー。
(この 錐の先はひん曲がっているの、直して
からしか使えないよ)。うぬ わらばーや ち
むぬ ちんまがてい ならーしぐりさぬ なら
ん。(この子は心が素直ではないので教えにく
くてならない)。

ぢんみ すん 〈協議する〉【活】～さん、～さ
ん、～っし 【例】やー ふちゅんち まーぬ
ぢーぬ ましやがんち やーにんじゅっし ぢ
んみ そーん。(家を新築するといったどの場
所がいいのか家族で協議している)。

っち

っちゅ 〈人〉 【例】あぬ っちょー がくむのー ねーんしが、っちゅだしきさー やくとぅ っちゅに めーらっとーん。(あの人は学問は納めてないが、人助けをするので人に信頼されている)。っちゅ くるさー、あな たーちふり。(他人を落とし入れるなら、自分の穴も用意すべし)。っちゅぬ くちんかい はしろー たていららん。(人の口には戸は立てられない)。っちゅぬ たきや うまんちゅぬどうはかいる。(人の値打ちは世の中の人に委ねられている)。

っちゅ あし 〈人の往来〉 【例】みーさかばさる うちえー っちゅに あたらさ さりーしが、ふいーぬ たちしんでー っちゅあしぬ どうーぬちゅしが っちゅぬ なれーやん。(初めのうちは人に大切にされるが、日が経つにつれ人の足が遠のくのが人の常だ)。

っちゅ あとう 〈人に後れること〉 【例】なーめーめーぬ しーよーぬ あくとう、っちゅぬ あとう ないしえー しわする むのーあらん。(人それぞれ仕方があるので、人に後れることを悩むことはない)。

っちゅ うじ 〈人見知り〉 【例】わらべー っちゅうじ さんぐとう っちゅぬ あちまい どうくるんかい そーてい あっきわどう っちゅなりん すん。(子どもは人見知りしないように人の集まる場所に連れて行けば人慣れもする)。

っちゅ うしえー むにー 〈人をあなどるもの言い〉 【例】っちゅうしえーむにーする っちょー っちゅ なてー をうらんく

どう、どうーぬ ふすく みしーしとう めぬ むんどう やる。(人をあなどるものの言い方をする人は一人前になってはいないので、自分の未熟さをみせるのと変わらない)。

っちゅ うやめー 〈人を敬うこと〉 【例】うやー うや なち、しーじゃー しーじゃなしわどう やしが、なまー っちゅうやめーする ちむぬ ねーん なてい ちょーん。(親は親として、年上は年上としてしなくてはいけないのに、今は人を敬う心がなくなってきている)。っちゅうやめーや どうーうやめー。(人を敬愛することが自分を大切にすることにつながる)。

っちゅ かじ 〈会う人ごとに〉 【例】あぬ どうしえー なまー ちゃー そーがやーんち っちゅかじ どうーたしが、わからんたん。(あの友は今はどうしているのかと会う人ごとに聞いたが、わからなかった)。

っちゅ かしまさー 〈人間嫌い〉 【例】わかさる どうちえー あねー あらんたしが、なまー ぬーが やら っちゅかしまさーなてい やっけー やっさー。(若いときはそうでもなかったが、今はどうしたことか人間嫌いになって困ったな)。

っちゅ がわいー むん 〈変わり者〉 【例】っちょー やなーや あらんしが、いふえー っちゅがわいむん やー。(人は悪くないが、ちょっと変わり者だね)。

っちゅ ぐとう 〈人との交際〉 【例】どうーぬ めーびかー あらん、っちゅぐとうん あくとう、じんぬ ふしがらん。(自分のこと

ばかりではなくて、交際もあるので、出費が大変)。

っちゅ だき 〈人の丈〉 【例】 やしみに
きらまをうてい っちゅだき そーる いゆ
ちっちゃん。(休みに慶良間で人の丈ほどの
魚を釣って来た)。

っちゅ だまさー 〈人をだます者、詐欺師〉
【例】 っちゅんかい だまさりーる っちゅん
をうくとう っちゅだまさーん っんぢてい
ちゅーしが、「ゆくしゅー ぬすどうぬ はじ
まい」やくとう っちゅだまさーん ぬすどう
とう めぬむんどう やる。(だまされる人も
いるので詐欺師も出て来るが、「嘘つきは泥棒
の始まり」なので、詐欺師も泥棒も同類だ)。

っちゅ にんぢん 〈人間〉 【例】 ちぬー、
をうっていーどう いちやてい はなしん そ
ーるむんぬ、あつたに かんてい なー?
っちゅにんぢんぬ ぬちえー いらりーるむの
ー あらんさ やー。(ほんの昨日ー昨日に会
って話もしているのに、急にそうなってねえ。
人間の命は言えるものではないね)。

っちゅぬ かーたー 〈最低な人間〉 【例】
「あれー っちゅぬかーたーどう やん どりー」
んでい いらりれーからー、なー しまい や
さ。(「あれは最低の人間だ」と言われたら、も
うおしまいだよ)。

っちゅ はだ 〈人肌〉 【例】 さけー っち
ゅはだ あたいぬ ぬくさる さきぬどう ま
ーさる。(酒は人肌ぐらいの温さの酒がおいし
い)。

っちゅ ばっぺー 〈人違い〉 【例】 どう
ーぬ どうしんち うむてい なー ゆだし
が、とうんけーたくとう っちゅばっぺー や

たん。(自分の友人だと思って名前を呼んだが、
振り向いたら人違いだった)。

っちゅ ふるばさー 〈借金を踏み倒す者〉
【例】 っちゅふるばさーんかい しー とーさ
ってい ふいんぎらったん。(「っちゅふるばさ
ー」に借金を踏み倒されて逃げられた)。
【参】 「しー とーさー」とも言う。

っちゅ びれー 〈人付き合い〉 【例】 むぬ
くー じょーじゅー、っちゅびれー じょ
ーじ。(物をくれるのが上手な人は人付き合い
も上手)。っちゅびれー やか むちかさる
むのー あらん。(人付き合いより難しいもの
はない)。

っちゅ まさい 〈人に勝ること〉 【例】 た
ーんかい やていん っちゅまさい そーる
とうくまぬ かんなじ あん。(誰にでも人に
勝っているところは必ずある)。

っちゅ まま 〈人の言いなり〉 【例】 わら
びぬ うちえー あねー あらんしが、うふっ
ちゅ ないねー っちゅままに なてー なら
ん。(子どものときはそうではないが、大人にな
ったら人の言いなりになってはならない)。

っちゅ めー 〈人前〉 【例】 っちゅめー
なてい あっちゅる っちゅー どうーぬ く
とうびけーや あらん、んなが くとうん か
んげーてい する っちゅ あらんねー なら
ん。(人の前に立って行動する人は自分のこと
だけではなくて、皆のことも考えてする人でな
ければならない)。

っちゅ ういー 〈人酔い〉 【例】 っちゅぬ
まんどーる とうくろー っちゅういー さ
ーに ちむ いふなー ないん。(人の大勢い
るところは人酔いして気分が変になる)。

てい、でい

ていー 〈手〉 【例】あまむん しかんぬーん
をうしが、あまむんじょーぐーや あみぐわ
ー めーる ぼすん ていーぬ みっちゃかー
とういん。(甘いのが好きではない人もいる
が、甘党はキャンディーをもらうときも手いっ
ぱい取る)。

ていー あんだ 〈料理に込めた愛情〉 【例】
うふっちゆ なてい あまくま まーさむん
かでーをうしが、あんまー ていーあんだぬ
いっちょーる かみむんやか まーさる むの
ー ねーらんたん。(大人になってあちらこちら
でおいしいものを食べてはいるが、母親の愛情
を込めた食べ物よりおいしいものはなかった)。

ていー うさーすん 〈合掌する、手をあわ
せる〉 【例】うぐわんすんかい ていー う
さーする ならーしぬ あくとう うちなーん
ちゆぬ くらしえー うやふあーふじとう ち
ながとーん。(仏前に合掌する慣しがあるので、
沖縄の人の生活は先祖とつながっている)。う
さんでー さびら んでいいち、ていー うさ
ーちからどう くわっちー かむん。(お下げ
しますとって、手をあわしてからごちそうを
食べる)。すーまん なてい あみぬ ちぢち
よーたしが、ちゆーから ていーだぬ あがと
ーくとう、つういーりきく なてい うびらじ
に ていー うさーちゃん。(梅雨になって雨
が降り続いていたが、今日から太陽が出たので、
楽しくなって思わず合掌した)。

ていーおー さおー すん 〈右往左
往する〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】ちむ
に くわっくわちよーたる くとうぬ うむて

いんかい っんぢやさってい、あれー いっペ
ー ていーおーさおー そーたん。(心に秘め
ていたことが表に出てしまって、あの人は右往
左往していた)。

ていー がんまり すん 〈手を触れる〉
【活】～さん、～さん、～っし 【例】くまをうてい
みしとーる やちむのー わりむん やくと
う、ていーがんまりしえー ならん どー。(こ
こで展示している焼き物は割れ物なので、手を
触れてはいけないよ)。

ていー さーじ 〈手ぬぐい〉 【例】しえー
くぬチャーや ちぶるんかい さーじ まち、
くしんかい ていーさーじ さぎてい わじ
や そーん。(職人は頭にはちまきをして、腰に
手ぬぐいをぶら下げて、仕事をしている)。

ていー さぐい 〈手探り〉 【例】あつた
に でんきぬ ちゃーりてい、どうまんぐいて
い ていーさぐいっし でんとー どうめーたん。
(急に停電して、慌てて手探りで懐中電灯を
探した)。

ていー じくん 〈握りこぶし〉 【例】んか
しえー ていーじくんさーに こーぐわーさー
くわーさっていどう ふどうつういーていち
よーしが、なまー うんなくとう しえー なら
んでい。(昔は握りこぶしでげんこつをもら
って大きくなってきているが、現在はそんなこ
とはしてはいけないうて)。

ていー じょーきー 〈取手付きのかご〉
【例】あぎむのー ていーじょーきーんかい い
ってい、かじんかい すがち、くさらんぐとう
すん。(揚げ物は取手付きのかごに入れて、風

を通して、腐らないようにする)。

ていー ぢかーん すん 〈手づかみする〉

【活】～さん、～さん、～っし 【例】てい ぢかーん しえー かむなんでい うやんかい ならー さつとーたしが、ゆすぐにをうてー うん ぐとうーっし かどーる とうくるん あん。(手づかみして食べるなど親に教えられていたが、外国ではそのようにして食べているところもある)。

ていー ちかーいん 〈空手をつかう〉【活】～

ちかたん、～ちからん、～ちかてい 【例】むちかさる しけぬんかい とうーてい、ていー ちかてい うっさくわったー そーたん。(難しい試験に受かって、空手の動作で喜びを表現した)。

ていー ぢゆくい 〈手作り〉【例】ていー

ぢゆくい むのー あたらさ すくとう、なげー むちゆん。(手作りのものは大切にすることで、長持ちする)。

ていー とうら とうらー すん 〈一緒に組んでしたがる〉【活】～さん、～さん、～っし

【例】あれー っやーとう ていーとうらとうらー そーしが、っやーや ちゃー うむいが? (あの人はあなたと一緒に組んでしたがっているが、あなたはどう思うのか)。【参】ていーくみぶさー すん (手を組みたがる)。

ていー とー だーちー すん 〈拱手傍観する〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】おー

えーていーえー っし うぬまま やいねー くるさりーどう すしが、すばんかい をうたる っちゆぬちやーや ていーとーだーちー さーに みーちきていどう をうたる。(口論してそのままだと殴られてしまうのだが、野次馬たちは拱手傍観して見ているだけだった)。

ていーぬ くび／なー／はた／わた 〈手の首／甲／端／ひら〉【例】んにん、かたん、

ふいじけーん、ていーぬくびん、くしん、ちんしん、ふいさぬくびん むる ゆるみやーに、ちーぬ ながり みぐらち たいきよくけん すん。(胸も、肩も、肘も、手首も、腰も、膝も、足首もみんな緩めて、血流を巡らせて太極

拳をする)。ていーぬ なー (手の甲)、ていーぬ わた (手のひら)。【参】ていっこー (手の卑語);あれー しーじゃがたんかい ていっこー ねーいん (あれは先輩方に手を出す)。

ていー ねーい ふいさ ねーい す

ん 〈けんかを挑む〉【活】～さん、～さん、～っし

【例】うやに なさってい うやんかい ていーねーいふいさねーい する ばー あ?(親に産んでもらって親に手出しをするつもりか)。

ていー はごーさ すん 〈嫌がる〉【活】～

さん、～さん、～っし 【例】あーあー そーる っちゆからー ふいんぎてい、さけーとーる っちゆんかえー やーやー っし、たつくわいる っちゆんかい「あがいていーだ をうがまー」んでい いーしが、かんする っちゆぬちやーや はごーさ さりーん。(困窮している人からは逃げて、成功している人には物欲しそうにくっ付く人を「日和見な人」というが、こういう人たちは嫌がられる)。

ていー ふいさ まちぶい 〈足手まとい〉

【例】わらびぬ どうく ていーふいさまちぶい っし ぬーんならん。(子どもがあまりにも足手まといになって何もできない)。ていー っんぢやちやい くち っんぢやちやい っし っわーばぐとう すな けー、ていーふいさまちぶい そーさ。(手を出したり、口をだしたりして余計なことはするな、じゃまだよ)。

ていー まーまー すん 〈うろたえる〉

【活】～さん、～さん、～っし 【例】あつたに うちやくが めんそーち、ぬーん しこーてー をうらんくとう ていーまーまーさん。(急にお客がいらっしやって、何も準備してはいないのでうろたえた)。

ていー まーみ 〈手豆〉【例】てつぼー

しーぢゆーさぬ、ていーぬ わたんかい ていーまーみぬ っんぢてい やむん。(鉄棒し過ぎて、手の中に豆ができて痛い)。

ていー まっくわ 〈自分の手で枕すること〉

【例】ていーまっくわ っし にんとーたくとう、ていーん ふいらくどーっさ。(手枕して寝ていたので、手もしびれているよ)。

てい も 〈手がないう者〉【例】いくさ
あと てい もん ふいさ もん をう
てい んーぢゆるかーぢ ちむ やむたん。(戦
後は手足がない人がいて見かける度に心が痛ん
だ)。

てい よー ふいさ よー すん 〈手振り
足振りです〉【活】～さん、～さん、～っし【例】
あれー ちゃー てい よーふいさ よー さー
に はなし すくとう、ちちよーる っちゆん
あぬ ちむ なてい いっぺー わかいやっ
さん。(あの人はいつも身振り手振りで話をす
るので、聞いている人もその気になって分かり
やすい)。

てい わじゃ 〈手仕事〉【例】んかしぬ
ういなぐぬうやー ちん のーたい、ぼーし
くだいっし てい わじゃ さーに じん
もーきてい っくわぬちゃー ふどうっわーち
ゃん。(昔の母親は着物を縫ったり、帽子を編
んだりしてお金を稼いで子どもたちを育てた)。
きかいぬ する わじゃー むる てい わじ
ゃ さーに そーたくとう、んかしえー てい
ぐまーぬ うふさたん。(機械がすることはす
べて手仕事だったので、昔は手先の器用な人が
多かった)。

てい わたし すん 〈手渡しする〉【活】～
さん、～さん、～っし【例】くれー てーしちな
むん やくとう、っちゆんかえー たぬまん
ぐとう っやーさーに てい わたしっし く
いり よー。(これは大切な物なので、人には頼
まないであなたから手渡ししてくれよ)。

てい わちゃれー ないん 〈手をわず
らわすこと〉【活】～なたん、～ならん、～なて
い【例】「あん やみ？」んでいいち 「ない
さ」んでいいち さる むのー、ていーち、た
ーち、みーちっし ちびなーりー くとうぬ
っんぢていちゃーに、ていーわちゃれー そー
ん。(安請け合いしたものは、1つ、2つ、3つ
と続いて、事が発生してきて面倒なことになっ
ている)。

てい っんぢやーり 〈やっかいなこと
にかかわること〉【例】いららん みーんかい

いっち ていーん ふいさん ぬがらん なて
い、わんまでい ていーっんぢやーりっし じ
ゃーふえー などーっさ。(入ってはいけない
ところに入ってしまっただけで出られなくなって、私
までも厄介なことになって困っている)。

ていーぐ 〈でいご〉【例】ていーごー あ
ちぐにぬ ていーだ うきてい、はなぬ いる
ぬ っんぢてい ちむうらーきりーん。(デ
イゴは常夏の太陽を受けて、花の色が出て心が
洗われる)。

ていーだ 〈太陽〉【例】なちぬ ていーだ
ー あちさぬ ふしがらん。(夏の太陽は熱く
てたまらない)。

ていーだ あみ 〈にわか雨〉【例】くぬ
ぐろー ていーだあみぬ うふさくとう、ふ
かんかい っんぢーる ばすねー ふしむのー
やーぬ うちんかい いりーるぐとう そー
ん。(この頃はにわか雨が多いので、外に出る際
には洗濯物は家の中に入れるようにしている)。

ていーだ ぶい 〈日照雨〉【例】ていーだ
ぶえー しぐ あがいん。(日照雨はすぐやむ)。

ていーだ ぶーい 〈ひなたぼっこ〉【例】
ていーだ くわらくわらっし ぬくぼとーんね
ーそーくとう、ふかんぢ ていーだぶーいん
でー さに？(日がカンカン照って暖かそうなの
で、外でひなたぼっこでもしないか)。

ていーち 〈1つ〉

ていーち みしー 〈年子〉【例】あれー
っくわ ぐにん なちえーしが、むる ていー
ちみしー やんでい。(あの人は5人産んでい
るが、みんな年子だっ)。

ていーち むん 〈同じもの〉【例】てい
ーちぬ たまぐぬ っくわ なてい いちゆる
とうち、っくわが たーち ちゆくらってい
まったち にちよーるーぬ っんまりーる く
とうん あん。いーねー、たーちゆー やん。
たーちぬ いーやーからぬ たーちゆん あし
が。(1個の受精卵が胎児になっていくとき、胎
児が2つ形成されて瓜二つが生まれることもあ

る。つまり、一卵性双生児だ。2個の胎盤からの双生児もあるが)。【参】たまぐ(受精卵)とは違い、くーが(人間以外の動物の卵)の場合は、そーみなーぬ くーが(メジロの卵)、かーみーぬ くーが(亀の卵)のようになる。

ていーる 〈手かご〉【例】ふいーらーとうか、つうえんちゆんかい さららんたみに、ていーるんかい いってい つういーんかい さぎとーたん。(アブラムシとか、ネズミに食べられないために、手かごに入れて上につるしていた)。

ていーん 〈照る〉【活】ていたん、ていらん、ていてい【例】あがりむていーんかい まぎやーぬ たっち、ていーだぬ あたらん なてい なーん やーん くらしん などーんねーすん。(東側に大きな家が建って、日が差さなくなつて、庭も家も薄暗くなっている)。

でいかすん 〈よくやる〉【活】でいかちゃん、でいかさん、でいachi【例】しけぬんかい ちゆばちなかい とうーてい でいachiよーさやー。(試験に一発で受かってよくやったね)。

でいきーん 〈できる〉【活】でいきたん、でいきらん、でいきてい【例】あつたーや でいきやーたつくいー/ちよーみーたつくいー/すぐりたつくいー どー。(あちらは秀才/長寿/優れ者の血筋だよ)。ちむぬ でいきとーん。(心ができている/親切だ)。

ていがねー 〈手伝い〉【例】わらび そーいに うやぬ ていがねーびけーっし、いちびんちよー さが うびてーをうらん。(子供の頃は親の手伝いだけして、いつ勉強したのか憶えていない)。

ていがら 〈功労〉【例】つくわぬ むんならーしえー ういなぐぬ うやぬ ていがらどーう やん。(子のしつけは母親の手柄だ)。

ていぐまー 〈手先が器用な者〉【例】あれー ていぐまー やてい、ありが ちちよーる

ちのー むる どうーくる のーてーし やん。(あの人は背先が器用で、あの人が着ている着物はすべて自分で裁縫したものである)。

ていしむ がくむん 〈学問〉【例】ていしむがくむのー いちちゆるたみぬ じえーさんどう やる。(学問は生きるための財産である)。

ていびち 〈手足、豚足の煮込み料理〉【例】ていびちえー、つわーぬ ふいさ なげー にくでい、うりんかい とーふ、くーぶ、でーくに いってい かむん。(てびちは、豚足をながく煮込んで、それに豆腐、昆布、大根を入れて食べる)。

ていふん 〈手本〉【例】しんしーぬ ていふんどう うやぬ ていふのー ふいっちょーや ならんさ。(先生の手本と親の手本は比較はできないよ)。

ていま とうやー 〈日雇い労働者〉【例】ていまとうやーや しゅくちぬ ある とうちとう ねーん とうちぬ あくとう、くらしぐりさん。(日雇い労働者は仕事のある場合と無い場合があるので、生活は安定しない)。

ていみじ 〈手ですくった水〉【例】やんばるぬ やまから ながりとーる みじ ていみじっし ぬだくとう、ふいじゅつてーんぐわーっし いっぺー まーさたん。(ヤンバルの山から流れている水を手ですくって飲んだら、冷たくてとてもおいしかった)。やまから ながりていちよーる ぬちぐすいぬ みじえー なま しにがたー そーる っちゆん いちげーらさりーっさ。(山から流れてきている命の水は今死にかけている人も生きがえらさせるよ)。

ていら 〈寺、拝所〉【例】すいんかえー くわんぬんどー、あんくくじ、だるまうていら、せいこーじ、ばんしよーいんぬ いちちぬ うていらぬ あてい、ばんしよーいんぬ ふかーじゅーにしぬ まむりがみとうっし るちよー

ん。かんぬんどーや にー、うし、とうら、たち、みー、っんまぬ むーち、あんくくじんかえー とうい ていーち、だるまうていらんかえー うー、いん、あーぬ みーち、せいこーじんかえー ふいちじとう さーるーぬ たーち むちよーん。(首里には観音堂、安国寺、達磨お寺、盛光寺、万松院の5つのお寺があって、万松院以外は12支の守り神として配置されている。観音堂は子、丑、寅、卯、辰、巳、午の6つ、安国寺には酉1つ、達磨お寺には卯、戌、亥の3つ、盛光寺には未、申の2つが置かれている)。

ていん 〈天〉

ていん がーら 〈天の川〉 【例】うちな一ぐゆみぬ しちぐわち なぬかー たなばた やてい、うぬ しちぬ ていんがーらー いっぺー みぐとう やん。(旧暦の7月7日は七夕で、その時節の天の川は実に見事である)。
【参】みーむん(芝居、綱引き、闘牛などの娯楽的な見物)。

ていんぬ っちゅ 〈天上人〉 【例】ちのーんぬ 「むいぬ かー」んかえー はにんすちちよーたる ていんぬ っちゅぬ いーちてーぬ あん。(宜野湾の「杜の湧泉」には羽衣を着た天女の伝説がある)。

ていん みー 〈天命〉 【例】ていんみーかみてい っんまりとーん。(天命をいただいて生まれてきている)。

ていんさーぐー 〈ホウセンカ〉 【例】ていんさーぐーぬ はな ちみさちに すみたくとう、うふっちゅ なたんねーっし、たーがな

まし やる ういきがとう まじゅん りゅーたぬんかい いちぶしく なたん。(ホウセンカの花を爪先に染めたら、大人になったようなきがして、誰かいい人と一緒に龍潭に行きたくなった)。

ていんちやま 〈いたずら〉 【例】わらべー ありんくりん がっていん しーぶさすくとう、んーちやい さーたいっし ていんちやま すん。(子どもはあれもこれも確かめずにはいられないので、見たり触ったりしていたずらす)。

ていんしー 〈天水〉 【例】ていんしー かーみんかい たみてい ゆー ふかち ちゃーいってい ぬみーねー いっぺー まーさん。くーぶん ていんしーんかい ちきーねー たでーま やふあらち まーく ないん。(天水を甕に溜めて、湯を沸かしてお茶を入れて飲むととてもおいしい。昆布も天水に浸けるとたちまち柔らかくなっておいしくなる)。

ていんじょー 〈天井〉 【例】どうーぬ やー ふちゆる とうちねー ていんじょーん たかだかーっとう そーる やー ちゅくらなやーんち うむとーん。(自分の家を建てるときには天井も高い家を造ろうかと思っている)。

ていんぷら 〈てんぷら〉 【例】うちなーをうてー ごーやー、らっちよー、っんむ、いゆ、いちゃんてーや ていんぷらっしん かむん。(沖縄ではゴーヤー、らっきよー、芋、魚、イカなどをてんぷらにしても食べる)。

とう

とうい 〈鶏〉【例】いゆ こーらー まぎさ
しから こーり、とうい こーらー っういー
やーや ししぬ くふあさぬ、かまらんくとう
わかどういぐわーから かじ こーいしえー
まし。(魚を買うなら大きいものから買いな
さい、鶏を買うなら老いたのは肉が固くて食べ
られないので若鶏から数で買うのがよい)。

とういん 〈取る、もらう〉【活】とぅたん、と
うらん、とうてい【例】ちゅぬ むのー と
うてーならん。(人のものは取ってはならない)。
くん ちちえー たーが ふーび とうたが?
(今月は誰が報償をもらったか)。

とうい けーすん 〈取り戻す〉【活】~けー
ちゃん、~けーさん、~けーち【例】くんち と
ういけーちえーさ やー。(元気を取り戻した
んだねえ)。

とうい しがいん 〈とりすがる〉【活】~し
がたん、~しがらん、~しがてい【例】っやーと
うぬ くとー なー うわたんでい いちやる
えーていんかい とういしがらってい なち
ぐえーぐえー さったん。(あなたとはもうこ
れまでと言った相手にとりすがられて激しく泣
かれた)。

とうい しまいん 〈取り締まる〉【活】~し
またん、~しまらん、~しまてい【例】ゆるー
いん なてい あっちゆる わかむんぬちやー
とういしまいん。(深夜徘徊する若者たちを
取り締まる)。

とうい ちめーいん 〈かき集める〉【活】~
ちめーたん、~ちめーらん、~ちめーてい【例】
なーぬ きーぬ ふあー ほーちかちさーに

とういちめーてい めーすん。(庭の木の葉を
ほうきで掃いてかき集めて燃やす)。あつたー
や いーぶさかっていー そーくとう、ちゆい
なーちゆいなー むる とういちめーてい あ
つくっし とうらしえー。(あの人たちは言
いたい放題していて、一人一人皆んなかき集めて
叱りなさい)。

とうい どうくる 〈長所〉【例】ぬーぬ
とういどうくるん ねーらん ちゅんちん
をうみ? ちゅんかえー かなじ たーに
ん まきらんくとうぬ ていーちえー あんで
い。(何の長所もない人間っているのか。人
にはかならず誰にも負けないことが1つはある
て)。

とうい のーすん 〈取り直す、改める〉【活】~
のーちゃん、~のーさん、~のーち【例】ちゅ
んでい いーしえー いーつくわ いーぶすく
ぬ あくとう、ながみていとうらち、ちむ と
ういのーち くいり よー。(人と言うのは言
い過ぎ、言い不足があるので、大目にみてもら
って、気持ちを取り直してくださいよ)。

とうい ぶさ かっていー すん 〈取
り放題する〉【活】~さん、~さん、~っし【例】
ちゅーや サラダン とういぶさかっていーっ
し、さきん ぬみぶさかっていーっし、かみむ
ぬん かみぶさかっていーっし しむん ど
ー。(今日はサラダも取り放題、酒も飲み放題、
食べ物も食べ放題していいよ)。たんかの一
じん はらいーねー、なとーる きーから か
みぶさかっていー とうてい しむるくとう
なとーん。(タンカンはお金を払うと、実が生っ

ている木から食べ放題していいことになっている)。

とういん ちかみん ならん〈制御できない〉【例】うぬ ういーっちゃーや じゃーまていーまっし とういんちかみん ならんさ。(その酔っぱらいは行く先がわからなくなってどうしようもない)。

とうーぬ いーび〈10本の指〉【例】とうーぬ いーべー めんたけー ねーらんぐとう、かんげーよーん むる ちがとーん。(10本の指は同じ丈ではないのと同様、考え方もみんな違っている)。

どうー〈体〉【例】どうーぬ どうーや どうーっしどう わかいくとう、どうーよーじよー しー よー やー。(自分の体は自分でしかわからないので、自己管理しなさいよ)。どうー かなとーみ?(元気でいるか)。どうー てーしちに しーよー やー。(体を大切にしなさいよ)。あさんちん、ふいるんちん、ゆるんちん ねーん、めーが めーなち ふりばたらちっし あとー どうー とーすん どー。(朝も昼も夜もなく、毎日働きっぱなしで終いには過労で倒れるよ)。あれー っちゆぬ いーしえー ちかんぬー やくとう、どうー やんていどう わかいる。(あの人は人が言うのは聞かない人なので、体を壊してからしかわからない)。

あち どうー〈体の熱っぽい者〉【例】あちどうーや にーぶたーぬ うみ むちゆるか たっくいーくとう、のーいぐりさん。(体の熱っぽい人はおできの膿みをもつほどただれるので、治りにくい)。

どうー ぢゆくい〈体格〉【例】ありが どうーぢゆくえー うやゆじり やっさー やー。(あの人の体格は遺伝だね)。

どうー にー〈うなること〉【例】っやーや いみどう んーちー? どうーにー そーたん どー。(あなたは夢でも見たの。うなっていたよ)。

どうー ふうじゅやー／どうー ふうじゅるー〈冷え性の者〉【例】ういなぐぬ どうーふうじゅやー ないねー、つくわ むちぐりさ なくとう、ふうさ ちちめー。(女性が冷え性になると、子を産めにくくなるので、足を包み込みなさい)。

どうー ぶに〈体の骨〉【例】うぬ とうし なたいから はーえーすーぶ さくとう、どうーぶに やでい ふしがらん などーさ。(この歳になってから駆けっこしたので、骨が痛くてどうしようもなくなっている)。

どうー ぶに のーし〈骨休め〉【例】さきぐわー ぬでい どうーぶにのーし さな。(酒でも飲んで骨休めでもしようか)。

どうー つんぶさ〈体が重いこと〉【例】どうーつんぶさたくとう、こーえぬんかい っんぢ あっちゃーあっちゃー そーる っうえーだに どうーがるく などーたん。(体が重かったので、公園に行つて散歩しているうちに体が軽くなっていた)。

どうー〈自分〉【例】どうく をうたていよー、なまー どうーぬ どうーん むちかんていー そーっさー。(あまりにも疲れて、今は自分の体も維持しにくい様だ)。どうーぬ はんめーんちよーん ならに?(自分の食べる分さえも稼げないのか)。っちゆんかい あんいちよーてい どうーや ちゃー などーが?(人にそう言つて自分はどうなっているの)。どうーぬ どうーや どうーくる しー よー。(自分の体は自分でしなさいよ)。どうーぬ めーんかい するばん はんちゆん。(自分中心に物事を考える)。どうーぬ ふえーや うーらん、っちゆぬ ふえー うーゆん。(自分のこともできないのに他人の世話をしたがる、おせっかい者)。どうー かんげー (自分の考え)。

どうー あがち〈自活、自立〉【例】わーういきがんぐわー やーわかやーっし なまー どうーあがち そーん。(私の息子は分家して現在は自立している)。【参】どうーむち。
どうー あがみ／どうー うやめー〈う

ぬぼれ) 【例】ちゃっさが ぶんむちゃーが
やら わからのー あしが、っちゅ うしえー
ーてい どうーあがみ／どうーうやめーびけー
そーん。(いったいどれほどの格好つけ屋な
のか判らないが、人を馬鹿にしてうぬぼれてば
かりいる)。

どうー あたい／うちあたい <自分の心
に響くこと> 【例】「どうーあたい／うちあたい」
んでい いーしえー、っちゅぬ はなしど
う やしが、どうーぬ くとう いらっとうん
ねーっし ちむはじかしく ないるくとう や
ん。「どうーあたい／うちあたい」というのは、
実際は人の話なのに、自分のことでも言われて
いるように恥ずかしくなることだ)。

どうー くる <自分自身で> 【例】どうー
くる ないしえー どうーくる すさ。(自分
で出来るのは自分でするもの)。

どうー ちゅい あっち <一人歩き、独
走> 【例】あれー いちん どうーちゅいあ
っちっし っちゅぬ はなしえー ちかんぬー
やさ。(あの人はいつも独走して人の話は聞
かない人だ)。うふっちゅ なてい、どうーちゅ
いあっち そーん。(大人になって、一人歩きし
ている)。

どうー ちゅい むにー <独り言> 【例】
すばんかい をうんでい うむてい はなし
そーたる ちむえーどう やたしが、くさー
とうんけーたくとう たーん をうらん、わん
ねー どうーちゅいむにーどう そーたる。(そ
ばに居ると思って話していたつもりだったが、
振返ったら誰も居ない、独り言をしていたのだ
った)。

どうー なー <自分たち(話者を除く一人称
複数)> 【例】どうーなーや あしどーてい
っちゅびけー あちかてい。(自分たちは遊ん
でいて人だけをこき使って)。わらびんちゃー
が かけほーてー しえー、ていー っんぢや
すな。どうーなーくる しじみらし よー。(子
どもたちがかき乱したら手を出すな。自分たち
で片付けさせなさいよ)。

どうー むち <身持ち> 【活】どうー むち

ぐりさ <自活し難さ> 【例】とうすい ない
ねー、ぬーぬ わじゃ するくとうん ねーら
ん、ねんきんびけー やくとう どうーむちぐ
りさ そーん。(年寄りになったら、何の仕事を
することもなく、年金だけなので自活するのが
むずかしい)。さちざちん かんげーらんぐと
う、ぬーくいーん ていー っんぢやさーに
あとー しーやんぢぐとうっし どうーむちぐ
りさ そーん。(先々のことも考えないで、何も
かも手を出して、後は失敗して生活に困窮して
いる)。

どうー ゆい <自己責任、自業自得> 【例】
あん ないしん かん ないしん、くれー ど
うーゆい やさ。(ああなるのもこうなるのも、
これは自業自得だ)。っちゅんかい しかりー
しん ちらーりーしん、っやーゆい／どうーゆ
い やさ。(人に好かれるのも嫌われるのもあ
なたのせい／自分のせいだよ)。どうーぢゅー
く ないしん よーく ないしん、どうーゆい
やさ。(体が強くなるのも弱くなるのも自分
次第だよ)。

どうー わちゃれー <手に負えない状態>
【例】しじみーんち、ある うっさぬ どーぐ
すんちっんぢやちやしが、どうく うふさぬ、
どうーわちゃれーっし ならん。(片付けると
いって、あるだけの道具を引っぱり出したが、
あまりにも多くて、手に負えない)。【参】てい
ーまーまーすん(うろたえる)。

とうーいん <問う> 【活】とうーたん、とう
ーらん、とうーてい 【例】っちゅんかい むぬ
とうーいるばすねー、ぬーぬ くとう ちち
ゅんでいーる くとう ゆー かんげーていから
とうーいし やん。(人にもものを問う際
には、どんな事を聞くのかをよく考えてから問う
ものだ)。

とうーいん <通る> 【活】とうーたん、とう
ーらん、とうーてい 【例】まくとう そーち
ねー、まーまでいん とうーいん。(正直を通せ
ば、どこまでも伝わる)。

とうーい みち 〈通り道〉【例】がっこーから けーいる じぶんに とうーいみちんかい ちゃー いんぬ をうてい、しーとうぬちやー んーぢーねー、あびてい うーていちゅーたん。(学校から帰る通り道にいつも犬がいて、生徒たちを見つけると吠えて追って来たものだ)。

とうーすん 〈通す〉【活】とうーちゃん、とうーさん、とうーち 【例】うっさー とうーちよーか やー? / いちよーちゆさ。(それだけは通しておくね / 言っておくね)。

とうーぬちゆん 〈遠のく〉【活】とうーぬちゃん、とうーぬかん、とうーぬち 【例】ひこーけー なまどう とうどーたしが、たでーま とうーぬち あがとーまでい っんぢよーる。(飛行機はいま飛んだのだが、あっという間に遠のいてあんなに遠くまで行っている)。

とうーみー かがん 〈望遠鏡〉【例】とうーみーかがんぬ あいねー かーまんかい ある むぬん みーぬ めーんかい まぎくみーん。(望遠鏡があると、遠くにあるものも目の前に大きく見える)。

とうーみかすん 〈唾をぺっと吐く〉【活】とうーみかちゃん、どうーみかさん、どうーみかち 【例】まーまーんぢん とうーみかすしえー はごーぎさくとう しえー ならん。(場所をわきまえないで唾を吐くのは汚らしいのでしてはいけない)。

とうぬー まーぬー 〈道に迷うさま〉【例】どうしぬ やー とうめーてい っんぢやしが、とうめーていん とうめーららん、とうぬーまーぬー そーたっさー。(友人の家を探しに行ったが、探しても探せない、戸惑ったよ)。
【参】じゃーまでいーま (道に迷うこと)、じゃーま ないん (道に迷う、途方にくれる)、じゃーまでいーますん (道に迷う)。

とうがいん 〈とがる〉【活】とうがたん、とうがらん、とうがてい

とうがらすん 〈とがらす〉【活】とうがらちやん、とうがらさん、とうがらち 【例】あれーくち とうがらちよーしが、ぬーがな ちむふがん くとうぬどう あいどう すたがやー? (あの人は口をとがらしているが、何か不満なことでもあったのかなあ)。

とうがみーん 〈とがめる〉【活】とうがみたん、とうがみらん、とうがみてい 【例】っちよー とうがみーんなけー。(人をとがめるな)。

とうぎーん 〈溶ける〉【活】とうきたん、とうきらん、とうきてい 【例】くふあとーたるいよー なー とうきとーみ? とうきとーらー、んーす いってい する ちゅくれー。(冷凍していた魚はもう解凍しているか。解凍しているなら、味噌を入れておつゆを作んなさい)。

どうきないん 〈避ける、退く〉【活】どうきなたん、どうきならん、どうきなてい 【例】あまから ちゅーしえー っんま でーむん、どうきなり よー。(あそこから来るのは馬だから退きなさいよ)。みち あっちよーたくとう、たんかーから いんぬ んかていっち、うどうるちゃーに どうきなたん。(道を歩いていたら、真向かいから犬が向かってきて、おどろいて退いた)。

どうきなすん 〈退ける〉【活】どうきなちゃん、どうきなさん、どうきなち 【例】みち はばかてい じゃま などーくとう みちんかい とうみらっとーる くるまー どうきなしえー。(道をはばかってじゃまになっているので、道に停めている車を退けてください)。なーいふいぐわー ふいぢやい / あま むていーんかい くるまー どうきなしえー。(もう少し左 / あそこの方に車を寄せてください)。くまー っちゆぬ いっちやいっんぢたい する とうくま やくとう、はちむのー すばはらんかい どうきなちよーけー。(ここは人が出たり入ったりするところだから、履物は端っこに寄せておきなさい)。

とうく 〈徳、得〉 【例】とうく どうてい
じん も一きり。(徳を取って金儲けしなさい)。
とうこー しててい すん とうれーんでい
る くとうん あてい、まぎさる むのー っ
ちゅんかい くいてい わんねー ぐまさる
むん やていん しむさ。(得は捨てて損を取
れということもあって、大きいものは人にやっ
て私は小さいもので充分だ)。

どうく 〈毒〉 【例】やなぐち さい、みっく
わさ さい、に一たさ さいっし やなぢむ
むっち っちゅんかい どうこー くわーさん
けー。(悪口したり、嫌ったり、妬んだりして悪
気で人に毒を喰わすな)。ふいんがーいちやぐ
わーぬ しる ぬまーに どうーぬ どうく
さぎてい どうくげーし すん。(イカ汁を飲
んで体の毒を流して解毒する)。

とうく むち 〈徳のある者〉 【例】くぬ
っちょー くじ やぶあらー やくとう、と
うくむち やさ やー。(この人はくじ運が強
いので、徳のある人だね)。

とうくる 〈場所〉 【例】つういーりき どう
くる (観光地)、つくわ あじかい どうくる
(託児所)、じん あじき どうくる (銀行)、ち
ゃー ぬみ どうくる (喫茶店)、ばす ぬい
どうくる (バス停)、さき ぬみ どうくる
(酒場)、むん かみ どうくる (レストラン)。

どうげーいん 〈転ぶ〉 【活】どうげーたん、
どうげーらん、どうげーてい 【例】いふいぐわ
ーぬ ぐまいしんかいん きっちゃきさーに
どうげーいん どー。(ちょっとした小石にも
つまづいて転ぶよ)。うっさなーぬ たかぐつ
くでい はーえーしーねー、どうげーやーに
どうー やますん／ふいさ をうーいん ど
ー。(そんなに高い靴履いて走ったら、転んでケ
ガする／足を折るよ)。

とうじゃ 〈銚〉 【例】みーかがん はち し
ーみっし とうじゃさーに いゆ とういん。
(水中眼鏡をして潜って銚で魚を採る)。

とうじゃ ないん 〈銚のように鋭くなる〉
【活】～なたん、～ならん、～なてい 【例】あれー
わじーねー、みーん とうじゃ なてい や
な あびーっし すばんかい をうらりーる
むのー あらん。(あの人は怒ると、目も銚のよ
うに鋭くならんで側に居れるものではない)。

とうし 〈年、歳〉 【例】くとうし (今年)、く
じゅ (去年)、やーん (来年)、んちゅ (一昨年)。
とうし みーとう (長年連れそった夫婦)。っ
やー とうしえー いくち (なとー／なた)
が? (あなたの歳はいくつなっている／なった
の)。ぬーどうし っんまり やが? (何年生ま
れか、=ぬーぬ っちゅ やが?)。うぬ うと
うすえー わかすがいっし ゆー うちやてい
ちゅらさん やー。(そのお年寄り若き格
好してよく似合ってきたね)。とうしぬ
はいや っんまぬ はい。(光陰矢の如し)。

とうしぬ くー 〈年の功〉 【例】「かーみ
ぬ くーやか とうしぬ くー」んでい いし
えー、ゆー わたてい ちよーる っちょー
ぬーくいーん あたてい ちよーくとう、ちむ
ぬ めちよーん。(「亀の甲より年の功」という
のは、世を渡って来ている人は何でも経験して
来ているので、落ち着いている)。

とうしぬ とうじ みーとう 〈長年連れ
添った夫婦〉 【例】なげー まま なとーる
みーとうんだー ちらかまちゃん むぬ いー
よーん にちちゅーん。(長年連れ添った夫婦
は顔も表情もものの言い方も似てくる)。
【参】まま なら やー。(夫婦として、一緒になろう
ね)。

とうしぬ ゆーる 〈大晦日〉 【例】とうし
ぬ ゆーるぬ うふるめーや っわーじし や
たしが、なまー すば などーん。(大晦日のご
ちそうは豚肉だったが、現在はそばになっている)。

とうし びー 〈生年祝い〉 【例】13、25、
37、49 (くくぬとう ぐんじゅー)、61、73、85、
97 ないねー、っんまりとうしぬ とうしびーん
でいいち すーじ すん。(13歳、25歳、37歳、

49歳、61歳、73歳、85歳、97歳になると生年祝いといってお祝いをする)。88ぬ うゆうえーや とーかち、97ぬ うゆうえーや かじまやーんでい いらってい うふすーじ すん。(88歳のお祝いは「とーかち」、97歳のお祝いは「かじまやー」といって大きなお祝いをする)。

とうし わらび 〈年齢相応な知恵がない者〉
【例】とうしわらび なてい (ふつつか者なので)。

とうじ 〈妻〉 【例】っやー をうとー したたかぬ とうじうむやー やん やー。あー をうとう あたてーさ やー。(あなたの夫はたいそうな奥さん孝行だね。いい夫にめぐりあったね)。とうじとう たたのー みーく みーく、さけー ふるみてい。(妻と置は新しいのが、酒はふるいのが良い)。

とうじ つくわ 〈妻子〉 【例】うやぬ ぐーのー やまやかん まぎさしが、とうじつくわ うむいる ちもー うみやかん ふかさん。(親のご恩は山より大きい、妻子を思う心は海よりも深い)。

とうじきーん 〈命令する〉【活】とうじきたん、とうじきらん、とうじきてい 【例】しゃちよーが とうじきーるくとー ぬー やていん ちかんとー ならん。あん さんねー、やみらんとー ならん ないん。(社長が命令することは何でも聞かないといけない。そうしないと、辞めなくてはならない)。

とうじまいん 〈仕上がる〉【活】とうじまたん、とうじまらん、とうじまてい 【例】やーや なー ゆーくる とうじまいぎさー やん どりー。(家はそろそろ仕上がりそうだよ)。やーや とうじまとーみ？(家は仕上がっているの)。

とうじみーん 〈仕上げる〉【活】とうじみたん、とうじみらん、とうじみてい 【例】やーとうじみーん。(家を仕上げる)。

とうち とうい 〈時刻選び〉 【例】とうち いらぶしえー すーぬ みちじぶん あーち、ふいーどういや じょーふい (=ゆかるふい、まさるふい) あーち すん。(時刻選びは潮の満潮時にあわせて、日取りは佳き日にあわせる)。

とうぢゅん 〈研ぐ〉【活】とうぢゃん、とうがん、とうぢ 【例】ほーちゃー とうぢやくとう、さーらない ちりーん。(包丁を研いだら、スパッと切れる)。ほーちゃーや ちかてい なー ないねー、とうぢゆる むん やん。(包丁は使い終わると、研ぐものだ)。

どうぢゅん 〈退く、別れる〉【活】どうぢゃん、どうかん、どうち 【例】ぐーさん ちちよーる うとうすいぬ めーから ちゅーくとう いったーや すばんかい どうけー。(杖をついたお年寄りが前から来るので、あなた達は側に退きなさい)。くまー とーいみち やくとう、あまんかい どうちよーけー。(ここは通り道だからあちらに退いていなさい)。

とうっ〜/とうん〜 〈強意を表す〉 【例】あつたに/ちゅばちに とうっちかちみーん。(いきなり/一発でとっつかまえる)。

とうっ かかいん 〈つかかかると〉【活】〜かかたん、〜かからん、〜かかてい 【例】まーぬ たーが やら わからんしが、ういっちやーんかい とうっかからって、ぬー なのーがんでい うむたん。(何処の誰だか知らないが、酔っぱらいにつかかかれて、どうなっているのかと思った)。

とうっ かちみーん 〈捕まえる〉【活】〜かちみたん、〜かちみらん、〜かちみてい 【例】みち あっちよーたる わかういなぐが しらん っちゅんかい とうっかちみらって、かばん とうらったんでい。(道をおるいていた若い女性が知らない人につかまえられてカバンを取られたんだって)。

とうっ くわいん 〈噛みつく〉【活】〜たん、〜らん、〜てい 【例】っちゅ とうっくわや

ー (人にかみつく者)。

とうっ くらい むにー すん 〈噛みつく〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】あれー あん やみ んでいいーる とうくるぬ ねーらん。ゆー いちどう をうしが、あれー たーんかい やていん とうっくらいむにー すん どー。(あの人はああそうなのかということころがない。よく言ってはいるが、あの人は誰にでも噛みつく)。

とうっちみーん 〈とっちめる〉【例】ゆくし むにー さってい とうっちみたくとう あとー まっとーば はちゆたん。(嘘をつかれてとっちめたら、終いには白状した)。

とうっちり ぢん 〈緋の着物〉【例】とうっちりぢのー ふさー あしが、ていー っんぢゃさらん あたい たかむん やくとう、んーぢゆる うっぴさーに ちもー みたちよーん。(緋の着物は欲しいが、手が出ないほど高価なので、見るだけで満足している)。とうっちりぢん ういる っちゆん いきらく なたいていーん っんぢゃさらん あたいぬ でーなとーん。(緋の着物を織る人も少なくなつて手も出せないほどの値段になっている)。

とうん もーいん 〈びっくりする〉【活】～たん、～らん、～てい

とうっちーん 〈詰まらせる、むせる〉【活】

とうっちたん、とうっちらん、とうっちてい 【例】うーんでいいーる やまとうぬ かーらどうえー うさきーなーぬ いゆ ぬーでいーんかい いったい とうっちらんどう あが やー? (鶺鴒という日本の川鳥はそんなにたくさんの魚を喉に入れてむせないのかねえ)。ぬーでいーんかい むち とうっちーる くとうん あくとう、うとうすいん わらんびん かむる ばすねー ちー ちきらんとー ならん。(喉に餅を詰まらせることもあるので、お年寄りも子どもも食べる時には注意しなければならぬ)。

どうっとう 〈とても〉【例】あぬ うふやしーっちゆぬ くさみちゆしえー どうっとう

みじらしーくとう やー。(あのおとなしい人が怒るのはとてもめずらしいことだね)。

とうでーいん 〈途絶える〉【活】とうでーたん、とうでーらん、とうでーてい 【例】ういきがんぐわー、やまとうんかい いちゆるめーやめーにち でんわ すんどー、まるけーていなーや ていがみん うくいん どーんち はちゃしが、あんす しん いったうちどう やたる。うとうぬ とうでーてい いちにん あまいさ。(息子は、本土に行く前は毎日電話するよ、たまには手紙も送るよと言って行ったのだが、そうするのもせいぜい一時だった。音信が途絶えて一年余りになる)。

とうどうくーいん 〈滞る、消化不良を起こす〉【例】あんだじしびげーん かまーに とうどうくーとーっさー。(三枚肉だけを食べて消化不良を起こしているよ)。

とうどうちゆん 〈届く〉【活】とうどうちやん、とうどうかん、とうどうち 【例】わーが うくたしえー とうどうちよーみ? なーだ やっさー。(私が送ったのは届いているか。まだだよ)。あんしえー、ちゆー、あちやーねー とうどうちゆる はじ どー。(それじゃー今日明日には届くはずだよ)。

とうない 〈隣り〉【例】わったー とうないぬ っちよー あたいぐわーんぢ ちゆくとーる やしえーとうか ないむんぬ ないる かーじ かみよーんち むっちっち くいーん。(私の隣りの人は自家菜園で作っている野菜や果物ができる毎に食べなさいといって持って来てくれる)。

とうなか 〈沖合い〉【例】ふに ぬてい とうなかをうてい いゆ ちーねー まぎいゆぬ くーいん。(船に乗って沖合いで魚を釣ると大きな魚が捕れる)。

とうぬぢゆん 〈跳ねる〉【活】とうぬだん、とうぬがん、とうぬぢ 【例】ていんさぐーぬ

さねー どうーくる はんちげーりやーに
とうぬぢ ふいるがてい いちゅん。(ハウセ
ンカの種はひとりではじけ跳んで広がって
いく)。

とうぶいん 〈灯る〉【活】とうぶたん、とう
ぶらん、とうぶてい 【例】うこーぬ どうぶと
ーしが、うぬまま そーき よー。(お線香が灯
っているが、そのままにしておけ)。

とうぶすん 〈灯す〉【活】とうぶちゃん、と
うぶさん、とうぶち 【例】うこー どうぶちよ
ーけー。(お線香を灯しておけ)。

とうぶん 〈飛ぶ〉【活】とうだん、とうぼん、
とうでい 【例】あれー たびじち やてい、ち
ゃー あまはいくまはい どうでいあっちよー
くとう、やーんかい むる かからん。(あの
人は旅好きでいつもあちらこちら飛び回っ
ているので、いつも不在である)。

とうばすん 〈飛ばす〉【活】とうばちゃん、と
うばさん、とうばち 【例】ブーメランや ちゃ
っさ かーまんかい どうばちん むとうんか
い むどうていちゅーん。(ブーメランはどん
なに遠くに飛ばしても元に戻ってくる)。

とうぶー 〈とび魚〉 【例】ふなたび そー
いに どうぶーぬ どうぶし んーち わらび
んちゃーや いっぺー うっさ／いそーさ そ
ーたん。(船旅をしているときにとび魚が跳ぶ
のを見て、子どもたちはとても喜んでいた)。

とうまいん 〈泊まる〉【活】とうまたん、と
うまらん、とうまてい 【例】ちゅーや なー
につか などーくとう くまんかい どうまて
い あちゃー けーいしえー まし あらに?
(今日はもう遅いのでここで泊まって明日帰っ
てはどうか)。

どうまんぐいーん 〈うろたえる〉【活】ど
うまんぐいたん、どうまんぐいらん、どうまん
ぐいてい 【例】ちゃー うちきてーる どう
くまからー ねーん などーたくとう、いっぺ

ー どうまんぐいたん。(いつも置いてあると
ころからはなくなっていたので、とてもびっく
りした)。くわじぬ あたい、ねーぬ ゆたい
しーねー、どうまんぐいてい ふかんかい
とうんじてい いちゅたん。(火事があったり、
地震が起こったりすると、あわてて外に跳びだ
して行ったものだ)。

どうまんぐわすん 〈うろたえさせる〉【活】

どうまんぐわちゃん、どうまんぐわさん、どう
まんぐわち 【例】ありんかえー やーにんじ
ゅ ちゃー どうまんぐわさりーん。(あれに
は家族の者はいつもあわてさせられる)。うみ
ぬ なーかんかい あみ はてい まぎぐいー
っんぢやちやい、うとう っんぢやちやい
っし いゆ どうまんぐわち あみぬ なーか
までい っういーくむん。(海の中に網を張っ
て大声を出したり、音を出したりして魚をびっ
くりさせて網の中まで追い込む)。

とうみーん 〈止める〉【活】とうみたん、と
うみらん、とうみてい 【例】やなむぬんかい
すんかりーくとう、しちぐわちーめーから
うーくいするまでい はまうりーるくとう と
うみーん。(不浄の霊に引きずり込まれるので、
盆の前からお送りするまで浜に降りることを法
度にする)。

とうみーん 〈書き留める〉【活】とうみたん、
とうみらん、とうみてい 【例】んかしえー
さがてい こーたる しなむのー むる ちょ
ーめぬんかい (かち)とうみとーたん。(昔は
掛けで買った品物はみんな帳面に書き留めて
いた)。

とうむ ぐー 〈足の付け根、股関節〉 【例】
うとうすいぬ みち をうとーてい きっちや
きさーに よーんぐわーどう ぢーんかい ふ
いらきたしが、やでい ふしがらん たたらん
たくとう、いさぬ やーんかい っんぢやれー
とうむぐーぬ ふにぬ をうーりとーたん。
(お年寄りが道でつまづいてゆっくり尻もちつ

いたのだが、痛くて立てなくなったので、病院に行ったら足の付け根の骨が折れていた)。ちぬーや つくわぬ くつ こーいが つんぢやしが、あまいちくまいちっし なげー あっちゃーに とうむぐーぬ やどーっさ。(きのう子どもの靴を買いに行ったが、あっち行ったりこっち行ったりして長いこと歩いて股関節が痛くなっているよ)。

とうめーいん 〈探し求める、尋ねる〉【活】

とうめーたん、とうめーらん、とうめーてい
【例】とうじ とうめーいん。(妻をもらう)。な一だ ちえー んーだん とうくるをうてい どうしぬ やー とうめーいどうめーいっし やっとうかっとう かめーたん。(見知らぬ土地で友人の家をあちこち探し求めてやっとなんを探した)。

とうやーかやー すん 〈バランスがとれる〉【活】

～さん、～さん、～っし 【例】くぬ くわーしえー かしていら、ばさない、くりーむぬ みーちから ちゆくらっとうしが、とうやーかやー さってい まーさん。(このお菓子はカステラ生地と、バナナとクリームのことから作られているが、バランスがとれておいしい)。

とうやーすん 〈揃えて整える、まとめる〉

【活】とうやーちゃん、とうやーさん、とうやーち 【例】からじ とうやーち うちなーからじ ゆーいる っちょー むる んーだらん などーん。(髪をととのえて沖縄の髪型を結う人はまったく見かけなくなっている)。
【参】うちなーからじ(琉装の結髪)、かんぷー(男の子の髪型)。

とうゆむん 〈世間に鳴り響く〉【活】

とうゆだん、とうゆまん、とうゆでい

とうゆまりーん 〈評判である〉【活】

とうゆまりたん、とうゆまりらん、とうゆまりてい
【例】しきん とうゆまりーる ちゅらういなごー いちぬ ゆーやていん つんまりていち

ゆーん。(絶世の美女はいつの時代でも産まれてくる)。

とうらぬ じゅー 〈千歳蘭〉【例】

うちなぬ まーぬ ちねーなかいん とうらぬじゅーぬ つういーらっとうしが、やなむん、やなぐとう はにちき、つちゆぬ どうーんかいまし やる むん つんぢやすんでい あかさっとうん。(沖縄の何処の家庭にも千歳蘭が植えられているが、不浄なものや事柄をはねつけ、人体に良いものを出すと証明されている)。

～とうらすん 〈～してやる〉【活】

～ちゃん、～とうらさん、～とうらち 【例】いふえー わーが むぬ いーぢゆーさてーくとうくねーていとうらし よー。(少し私が言い過ぎていたので、こらえてくれよ)。わーが いからん などーくとう つやーさーに つんぢとうらし よー。(私が行けなくなっているの、あなたが行ってくれよ)。

とうりーん 〈風ぐ〉【活】

とうりたん、とうりらん、とうりてい 【例】あさとう ゆまんぐいに かじぬ とうりーしえー ぬーぬ くとう やがやー?(朝と夕暮れに風が風ぐのはどういうことなのかねえ)。

どうる 〈泥〉

どうる ぐえったい 〈泥んこ〉 【例】んかしえー んーちやみち やたくとう、あみぬふてい かーらぬ あんでいーねー、みちえーむる どうるぐえったい などーたん。(昔は土道だったので、雨が降って川が溢れたなら、道はみな泥んこになっていた)。

どうる びさ 〈泥んこ足〉【例】

あみふいねー うやぬ こーていくいてーる あったるくつぬ どうるぶったー ないくとう、くつぬぢやーに からふいさー なてい むる どうるびさっし けーたん。(雨降りには親が買ってくれた大切な靴が泥だらけになるので、靴を脱いで裸足になってみんな泥んこ足で帰った)。

どうる ぶったー／どうるびっちゃー
 〈泥だらけ〉 【例】どうるぶったー／どうるび
 っちゃー そーくとう、うふみぐいさーに ち
 ゆらみち とうーてい いき よー。(泥だら
 けなので、まわり道してきれいな道を通って行
 きなさいよ)。

どうる わかしー／どうーるわかしー
 〈田芋の料理〉

とうるばいん 〈ぼんやりする〉【活】とう
 るばたん、とうるばらん、とうるばてい 【例】
 ちかなとーる いんぐわー ふいんがさーに、
 うふとうるばい そーる っちゅぬ をうたし
 が、いのー をうたがやー？(飼っていた犬に
 逃げられて、ショックを受けている人がいたが、
 犬はいたのかなあ)。とうるばいかーばい そ
 ーん。(ぼんやりしている)。

とうるとうる すん 〈うたた寝する〉
 【活】～さん、～さん、～っし 【例】なま とうる
 とうる そーたっさー。(今うとうとしていた
 よ)。ふかから けーていっち めーんかい
 ふいらきーしとう まじゅん あくび かーか
 ーっし、とうるとうるー そーたしが、しらん
 うちに にんとーたん。(外から帰って来て椅
 子に座り込むと同時にあくびが出て、うとうと
 していたが、いつの間に寝ていた)。むぬ かで
 い わた みちれー、とうるとうる にんぢっ
 し ちゅーん。(食事をしてお腹いっぱいにな
 ると、うとうとと眠たくなってくる)。【参】に
 ーぶいかーぶい すん (しきりに眠たくなる)。

とうん～〈急に動く〉

とうん くいーゆん 〈跳び越える〉【活】～
 くいーたん、～くいーらん、～くいーてい 【例】
 っちゅぬ にんとーる っういーから とうん
 くいーてー ならん。(人が寝ている上を跨い
 ではいけない)。

とう ンけーいん 〈振り向く〉【活】～んけ
 ーたん、～んけーらん、～んけーてい 【例】うい
 なぐんでい うむてい くいー かきたれー、
 とうんけーたくとう ういきが やたん。(女

性だと思って声をかけたら、振り向いたら男性
 だった)。

とう んぢーん 〈飛び出す〉【活】～んぢた
 ん、～んぢらん、～んぢてい 【例】うかーさくと
 う、くるまぬ めー、くさーから あったに
 とうんぢーる むのー あらん。(危険なので、
 車の前後から急に跳び出るものではない)。

とうん たちー めー すん 〈しゃがむ〉
 【活】～さん、～さん、～っし 【例】なげー と
 うんたちーめーっし ふいさん ふいらくでい
 じりじりーっし、くんだぬ くふあてい た
 ちゅんち しん しごー たたらん などーた
 ん。(長い間しゃがんで足もしびれてびりびり
 して、こむらが固くなって立とうとしてもすぐ
 は立てなくなっていた)。

とう んぢゅん／とうぬぢゅん 〈跳びだ
 す〉【活】とうんぢゃん、とうんがん、とうんぢ
 ー／～ぬぢゃん、～ぬがん、～ぬぢ 【例】なーを
 うてい きーくさんかい みじ かきとーたく
 とう、みーぬ めーから あったに あたびち
 やーぬ とうんぢゃくとう うどうるちゃん。
 (庭で植物に水をかけていたら、目の前から急
 にかえるが跳び出たのでびっくりした)。

とうん とうるもーかー すん 〈跳びあ
 がって騒ぐ〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】
 だいがく とうーたんち いっぺー っういー
 りきさっし、ぐまわらばーぬ すんねーっし
 とうんとうるもーかー そーたん どー。(大
 学を合格したとあってとても喜んで、小さな子
 のするように跳びあがって騒いでいた)。

とうん まーいん 〈ちょっと立ち寄る〉
 【活】～まーたん、～まーらん、～まーてい 【例】
 うりかーんかい ちーねー、とうんまーいまー
 いっし ちらぐわー みしてい とうらし よ
 ー。(近くに來たら、ちょっと立ち寄って顔を見
 せてくれよ)。

とうん もーい もーい すん 〈躍り上
 がって喜ぶ〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】
 わんどうしえー たった いちめーぐわーどう
 たからくじえー こーたしが、あてい と
 うんもーいもーい そーたん。(私の友人はた

った一枚宝くじを買ったんだが、当たって躍り上がって喜んでいた)。

とうんじー 〈冬至〉 【例】とうんじーねー、とうんじーびーさぬ ちゅーくとう、とうんじーじゅーしー ちゅくてい、あちこーこー うやふあーふじんかい うさぎていから うさんでーっし、やーにんじゅさーに かまーに どうーぬくたみてい、どうーがんじゅーにげーすん。(冬至には、冬至の寒さがやってくるので、冬至雑炊を作って、熱々を御先祖と家族でお供えしてから食べて、体を温めて健康を願う)。

とうんじやく 〈介護、看病、扱い〉 【例】いさぬ やーから むどうてー ちゃしが、な

まから あとうぬ とうんじやくぬどう しわやる。(退院して来ているが、これから後の介護のことが心配だ)。つくわぬちゃーや むるふかんかいどう っんぢてい しくちどう そーる むんぬ、ていー かかいる うやーたーが とうんじやくー そーが?(子どもたちは皆んな外に出て仕事をしているのだから、手がかかる親は誰が看るのか)。【参】みーかんげー(世話、見て考えてあげること)、かむいん(かまう、世話する)。

とうんだー ぶん 〈東海盆〉 【例】とうんだーぶのー うゆうえーぬ うじゃきとう かってい かむる いるかじぬ むん むいしんかい ちかいん。(東海盆はお祝いの酒のさかななどをいろいろ盛るのに使う)。

て、で

てー 〈耐える力、はね返す力〉 【例】 すーじきー しーねー たぶいでーぬ あん。(塩漬け肉にすると保存力がある)。てー いっていふいちゅん。(力を込めて引く)。てーとうん みーとうん かなーん。(どうにもこうにもどうしようもない)。てーん たたん。(力の入れようがない)。ありんかえー てーん たたらん。(あの人には張り合えない／敵わない)。

てー 〈松明〉

てー ちちゅん 〈燃えつく〉 【活】 ~ちちやん、~ちかん、~ちち 【例】 かび めーさーにきーぬふあー ちでーる なーかんかい ちっくみーねー なんくる てーちちゅさ。(紙を燃やして木の葉を積んだ中に突っ込んだら自然に燃え始めるよ)。

てー はていーん 〈絶滅する〉 【活】 ~はていたん、~はていらん、~はていてい 【例】 ちちゅぬ ゆくぬ ちゅーさぬ、うみん やまん くーさってい なまー いるかじぬ いちむしぬ てーはていてい ちよーん。むる かりはていていからー なー ちゃー する くとうん ならんさ。(人間の欲望があまりに強くて、海も山も破壊されて現在は多くの種類の生き物が絶滅してきている。完全に絶滅してからはもうどうすることもできないよ)。【参】 くーすん(山、家などを壊す)、やんぢゅん(小さな物を壊す)。

てー びー 〈たいまつ〉 【例】 ギリシャから くわいじょーまでい てーびー むちやーに ちちゅぬ ふいさっし はくぶん。(ギリシアから会場まで聖火を持って人の足で運ぶ)。

てー 〈～と言い〉 【例】 いちゅんてー、いかんてー すくとう、なー うっちゃんぎてい どうーちゅい ちゃん。(行くと言ったり、行かないと言ったりするので、もう放っておいて独りで来た)。かむんてー、 かまんてー する さこー かまんけー。(食べると言ったり、食べないと言ったりするくらいなら食べるな)。やんてー、あらんてー っし みーとうんだ おーえー そーたん。(ああだ、こうじゃないと言って夫婦げんかをしていた)。

でー 〈代金、値段〉 【例】 うれー でーや ちゃっさ ちちよーが?(それは値段はいくら付いているかね)。うれー ちゃっさ なーが?(それはそれぞれいくらかね)。ゐぬ しなむん どう やしが、まちやにゆってー でーぬ あねー あらん くとうん あん やー。(同じ品物なのに、店によっては値段がそうではないこともあるよね)。

でー だかー 〈値段の高いもの〉 【活】 でー やしー 〈安物〉 【例】 あまー むる でーだかー びけーどう あちかとーん／うちきらとーん どー。(あそこはみんな値段の高いものだけを扱っている／が置かれている)。でー やしーや じん していぐとうどう ないくとう こーんな よー。(安物はお金を捨てる事になるので、買うなよ)。でーだかーや かじみらんぐとう ゆー ちかていどう ふいちゃいる。(高いものはしまわないでよく使ってこそ光る)。

てーくく 〈大国〉 【例】 くにぬ まぎさ っ

ちゆぬ うふさびけーしえー てーくくんでい
いらりーどう すがやー? (国の大きさ、人
口の多さだけで大国と言えるのかなあ)。

でーくに 〈大根〉 【例】でーくにぬ っん
ぢれー いさぐすいん うららん。(大根が出
回ると医者薬も売れない)。でーくにばーや
してーいーる っちゆん をうしが、たしやー
めーんかい いったい、ちきむん ちゆくたい
ん ないん。(大根の葉は捨てる人もいるが、炒
飯に入れたり、漬け物にしたりもできる)。

てーげー 〈おおよそ、まずまずの〉 【例】わ
んねー いちちよーる っうえーだー ちかい
る てーげーぬ じのー うちきらっどーっ
さ。(私は生きていて間使う、困らない程度のお
金は貯めておいてあるよ)。ふかから んーぢ
ーねー ちゆらさしが、なーかー あんすかー
あらん、てーげーどう やる。(外から見ると
きれいだが、内装はそれほどでもない、普通
だ)。

てーげー ざんみん 〈概算〉 【例】てーげ
ーざんみんっし 50にんびけー をうれー、
ちゃーがな ないさ。(概算で50人ほど居れ
ば、どうにかなるさ)。

でーじ 〈大変、大ごと〉 【例】でーじな く
とう／っちゆ (大変なこと／人)。でーじ な
とーん。(大ごとになっている)。

てーしち 〈大切〉 【例】ぬー やていん て
ーしちに しーねー いちまでいん ちかーり
ーん。(何でも大切にすればいつまでも使える)。

てーすん 〈費やす〉【活】てーちゃん、てーさ
ん、てーち 【例】うふいなー みじ はらち
てーすな けー。(そんなに水を出して無駄に
するな)。

てーてー むぬ いー／てーてー
むにー 〈舌がもつれるようなものの言
い方〉 【例】あれー てーてーむぬいー す
くとう、ぬーんでいが いちよーら ちちぐり
さん。(あの人は舌がもつれるようなものの言
い方するので、いったい何と言ってるのか聞き
取りにくい)。

てーふあ 〈冗談〉 【例】っちゆぬ なーか
んかえー てーふあぬ わかいる っちゆとう
わからん っちゆぬ をうくとう、たーんた
ーんかい てーふあ しーねー あっくさりー
ん どー。(人間のなかには冗談がわかる人と
わからない人がいるので、誰にでも冗談をす
ると叱られるよ)。うぬよーな てーふあ する
むのー あらん どー。(そのような冗談は
するものではないよ)。

～てーまん 〈～ても〉 【例】ちゃっさ い
からんてーまん でんわ しー よー。(いか
に行かれなくても電話しなさいよ)。いかんけ
ーんでい ちゃっさ いちやんてーまん ちか
ん。(行かないでといくら言ったところで聞か
ない)。ちゃっさ しかんたんてーまん むのー
いり よー。(いかに好きでなかったとして
何か言いなさいよ)。ちゃっさ まーこーねー
らんてーまん いふいぐわー やていん かみ
ねーび しー よー やー。(いかにおいしく
なくても少しだけでも食べる真似しなさいよ)。

てんぶす 〈出べそ〉 【例】なーふあぬ まん
まんなかんかい てんぶすかんぬ あてい、む
ゆーしむん さい、あちまい さい そーん。
(那覇のど真ん中にてんぶす館があって、催し物
をしたり、集会をしたりしている)。

と

とー 〈中国〉

とー あちれー 〈中国製品〉 【例】んかし
えー とーあちれーや めーむん やたしが、
なまー あねー あらん。(昔は中国製品は高
級品であったが、現在はそうではない)。

とーぬ くに 〈中国〉 【例】なまやていん
うとうすえー ちゅーごくんかえー とーぬ
くにんてい いちよーん。(今でもお年寄り
は中国に唐の国と言っている)。

とーかち 〈米寿のお祝い〉 【例】とーかち

うゆうえーや はちじゅーはちぬ うふすー
じ やん。(米寿のお祝いは88歳の大きな祝
い事だ)。

とーしんばい 〈耳下腺炎〉 【例】うふっ

ちゅ なていから とーしんばい かかいてー
ねー、つくわ ちゅくいぐりく ないん。(成人し
てから耳下腺炎にかかると、子どもをつくり
にくくなる)。

とーすん 〈倒す〉【活】とーちゃん、とーさ

ん、とーち 【例】ひゃーくびけー ないん う
ふぎーぬ むしに くわーってい とーりたし
が、うっぴぐわーぬ むし やしが、まーん
うちくわてい とーすん。(百年ほどになる大
木が虫に喰われて倒れたが、これっぽちの虫だ
が、どこでも喰って倒す)。

とーとーめー 〈祖先の位牌〉 【例】とー

とーめー (=うやふあーふじぬ めー) んかい
ふいさまんち かきてい 「そーいらー な
しみていくいみそーり よー」んち ていー

うさー すん。(霊前に正座して「しっかり者
にしてください」と手を合わす)。**【参】**「とーと
ーめー」(お月さん、幼児語)。

とーびーらー／ふいーらー 〈ゴキブ

リ〉 【例】とーびーらーや くらさる ふい
じゅってーんぐわー そーる とうくるんかい
くわっくいとーん。(ゴキブリは暗くてひん
やりしているところに隠れている)。

とーふ 〈豆腐〉 【例】うちなー とーほー

うすみじ さーに くふあぐふあーっとう ち
ゅくらってー をうしが、ちゃんぶるーん、し
るん、そーゆーにーん、いりちーん、ちゃーっ
し しん まーさん。(沖縄豆腐は潮水を使っ
て固めに作られているが、ちゃんぶるーも、お
つゆも、煮付けも、炒めものも、どんなにして
も美味しい)。

とーふ まーみ 〈大豆〉 【例】とーふまー

み ふいチャーに にーねー とーふぬ ゆー
なてい、しる はらしーねー とーふぬ か
し ないしが、しる かたまらしーねー とー
ふ なくとう、とーふまーめー していーし
えー ぬーん ねーらん。(大豆を挽いて、煮る
と豆乳になって、絞るとおからになるが、豆乳
を固まらせると豆腐になって、大豆は捨てるの
はまったくくない)。

どーま すん 〈もうろく〉【活】～さん、～さ

ん、～っし 【例】むぬ うびーぬ わるく な
てい、なまー どーま そーっさー。(物覚えが
悪くなって、今はもうろくしているよ)。

とーりら とーりら 〈今にも倒れそうな状態〉 【例】あれー ういーっちゅどう やがやー？ とーりらとーりら そーっさー。うかーさっさー。(あの人は酔っているのかねえ。今にも倒れそうだね。危ないね)。ちぶんぬ わっさぬ、みーくらがんっし とーりらとーりら そーっさー。(気分が悪くて、めまいがして今

にも転倒しそうだ)。

とんとんみー 〈飛びハゼ〉 【例】っやーや あまはい、くまはいびけーっし うていちちぬ ねーらん、まったち とんとんみーぬぐとーっさ。(お前はあちこち駆けずりまわっただけで落ち着きがない、まったく飛びハゼのようだ)。

な

な一 〈菜〉 【例】 からのしなや うちのな一をうてー まーすぢきー っし ゆー かむくとう 「ちきな一」 んでいん いーん。(からのし菜は沖縄では塩づけしてよく食べるので「ちきな一」とも言う)。

な一 〈縄〉 【例】 ちなふいちぬ な一んかえー みーぢなとう をうーぢなぬ あん。(綱引きの縄には雌縄と雄綱がある)。

な一 〈名前〉 【例】 っやー な一や ぬーやが?(あなたの名前は何か)。うんじゅぬ な一や ぬーんでい いやびーが?(あなた様のお名前は何かとおっしゃいますか)。

な一 〈庭、広場〉 【例】 わった一 むらんかえー あしびな一ん しまな一ん うしな一ん あてい、っういーりきどうくる やくとう やんばるからん な一ふあからん っちゅぬ あちまてい ちゅーん。(私たちの村にはイベント広場も相撲広場も闘牛場もあって、行楽地なのでヤンバルからも那覇からも人がくる)。

な一 〈それぞれ〉 【例】 な一 ちねーぢねーぬ しーよーぬ あくとう、わかてい ふいれー すし やん。(家庭それぞれのやり方があるので、分かってつき合うものだ)。な一 やーや一ぬ しーよーぬ あくとう、っちゅぬ や一ぬ くとう っわーばぐとう いーしえーあらん。(それぞれの家庭のやり方があるので、人様の家のことに余計なことを言うものではない)。な一 めーめーぬ かんげー (=な一 かんげー かんげー/な一 かめー がめーぬ

かんげー) (各人各様の考え)。な一 めーめーぬ かんげー あがみていびけー をういねー、みーうすらってい かんぬ一な くとう みーらん ないん。(各人各様の考えを尊重してばかりいると、目が見えなくなってしまう肝心なことが見えなくなる)。な一 すくぶんすくぶん(自分の職分に応じて)。っちゅぬ あちまいねー な一 かっていがっていぬ あくとう まぎわじゃん ないん。(人が集まればそれぞれの専門があるので大きなこともできる)。な一 いーいーっし うむいぬ ぐとう めーんかい あがかん。(それぞれ勝手なことやって前に進まない)。すいんっちょー すりーずりー、な一ふあんちょー な一はいばい。(首里の人は連れ立って、那覇の人は三々五々に集まる)。うやふあーふじから うきちぢちやる な一 むらむら、な一 しまじまぬ むちめーぬ くとうばー 「しまくとうば」 んでい いーん。(先祖から受け継いで来た各地域のことは「しまくとうば」と言う)。な一 んけーんけーぬ しゅちぬ あいどう すくとう、くぬ しゅちえー っやーんかえー んかーん。(それぞれ向いた仕事があるものなので、この仕事はあなたには向かない)。あまぬ やーやうやとう っくわとー じぬん な一 もーきもーき、かむる むぬん な一 くえーぐえーやんでい。(あそこの家は親と子はお金もそれぞれで稼いで、食べる物もそれぞれで食べるんだって)。あまぬ やーにんじょー ちゃーる ぐまわらび やていん ちゅいなー ちゅいなーぬ むちめーぬ あん。(あそこの家族

はいかに小さい子でも一人一人の役目がある)。

な一 〈いざと、終わり〉 【例】いちゅさんでい いちから、な一 ないね一 いかんでい な一? (行くよ言ったのに、いざとなったら行かないんだって)。いふいぐわーどう あくとう、ふえーくな一 かま一に な一 なちよ一 け一。(少ししかないので、早く食べて終わりにしておきなさい)。

な一 〈翌、再〉 【例】な一 あさてい (しあさて)。

な一 やーん 〈再来年〉 【例】にーびち さくとう、な一やーんね一 あみりかんかい いかんね一ならん なたん。(結婚したので、再来年にはアメリカに行かないといけなくなった)。な一 やーん くまをうてい また いちやいびら。(再来年もここで又会いましょう)。

な一 ゐーる っちゅ 〈有名な人〉

【例】うぐしくんかい うすがなしーめーぬ うちえーいみそーちやる じでーに たまぐしくちよーくんでいーる くみをうどうい ちゅくたる な一ゐーる っちゅぬ めんしえーたん。(首里城に国王がいらっしやった時代に玉城朝薫という組踊を作った有名な人がいらっしやいました)。

な一か 〈中〉 【例】くぬ な一かー ぬーぬ いっちょーが?(この中は何が入っているか)。

な一か 〈仲〉 【例】なげー むぬん いらん、な一か ぐふあい そーたしが、ちよーでー やくとう なんくる な一か とういーちよーん。(長いことも言わずに仲たがいしていたが、兄弟なので自然に仲を取り戻している)。

な一く 〈脈〉 【例】あったばい さくとう な一くん どうまんぐいとーさ。(急に走ったので脈も驚いているよ)。

な一ちゃ 〈翌日〉 【例】あちゃーぬ な一 ちゃー あさてい、あさていぬ な一ちゃー

しあさてい やん。(明日の翌日はあさて、あさての翌日はしあさてだ)。

な一でいー 〈経由して〉 【例】まー な一でいー いちゅが?(どこを經由して行くのか)。なちじん な一でいー いちゅん。(今帰仁を經由して行く)。かーらぬすば な一でいー いけ一。(川の側に沿って行きなさい)。うふみち な一でいー いけ一。(大きい道を通って行きなさい)。

な一び 〈鍋〉 【例】んかしえー ムーチーん うゆうえーぬ くわっちーん しんめーな一 びんかい っんぶらちよーたんでい。(昔はムーチーもお祝いのごちそうも大釜に蒸したんだって)。

なびげー 〈おたま〉 な一びぬ け一 (鍋の匙) が短縮した語か。

な一べーらー 〈へちま〉 【例】な一べーらーや うちな一をうてー いっぺー まーさむん やしが、やまとうをうてー かまりーる むんでー うむてーをうらん。ふいんぐとうさー、ばにんとうっし ちかーつとーんでい。(へちまは沖縄ではとてもおいしいものだが、本土では食べ物とは思っていない。垢擦り、たわしとして使われている)。

ないん 〈なる〉【活】なたん、ならん、なてい 【例】うふっちゅ ないねー くにぬ っういーぬ っちゅぬちやー いらぶる けんり むちゆるくとう ないん。(成人になると国会議員を選ぶ権利をもつことになる)。

ない がたー 〈～になりかけ〉 【例】わったー ういきぐわんぐわー ふいじん みーていっち、くいーん かわてい うふっちゅ ないがたー そーん。(私の息子はヒゲも生えてきて、変声して成人になりかけている)。あみなーや あたびち ないがたーねー ていーふいさん みーていっち じゅーん いんちやく なてい ちゅーん。(おたまじゃくしはカエルになりかけると手足が出てきてしっぽも短くなってくる)。

ない はんすん 〈なり損なう〉【活】～はんちゃん、～はんさん、～はんち 【例】んかしえー じんぬ ねーんたくとう っういーぬ がっこー いちゆーさん っちゆん まんどーたしが、なまー ゆちく なてい うみはまてい しーねー ぬーぐとうん ないん。(昔はお金がなかったので大学まで行けない人も多かったが、今はゆたかになって努力すれば何だってできる)。

ない ちーん 〈なりきる〉【活】～ちっちゃん、～ちらん、～ちっち 【例】うぬ っちゆんかい ないちっち しばい そーくとう、いっぺー みーむん やたん。(その人になりきって演じていたので、とても見応えがあった)。

ないん 〈できる〉【活】なたん、ならん、なてい 【例】どーくる ないる くどー っちゆ たるがきらんぐとう どーっし すしが どう どーぬ たみ やる。(自分でできることは人に頼らないで自分でするのが自分のためである)。ならんぬどう なれーが ちょーる。(できないからこそ習いに来ている)。

ならん ぬー 〈けしからん者〉 【例】いちん ありが くどー ゆー しどう をうたしが、みーらん とうくるをうてー わーくとう むぬ ゆどーたんでい。あんすくとう、あれー ならんぬー やっさー。(いつもあの人のことをよくしていたのだが、見えないところでは私のことを悪く言ってたって。だから、あの人はけしからん奴だ)。

ないん 〈生る、実ができる〉 【例】マンゴーぬ うほーく まーさぎさ などーたしが、っちゆぬ むんどう やくとう とうーいる かーじ みーぐわっちーびけー そーたん。やし、ちかぐろー ねーん などーん。(マンゴーがたくさんおいしそうに生っていたが、人様の物なので通るたびおいしそうに見ているだけだった。しかし、近頃はなくなっている)。

ない (むん) 〈果物〉 【例】くとうしえー うふかじぬ うふさたくとう ないむのー くーく なてい かじん いきらさん。(今年

は台風が多かったので果物は小さくなって数も少ない)。

ない くじりーん 〈出来損なう〉【活】～くじりたん、～くじりらん、～くじりてい 【例】ウイぬ ないくじりとーしえー ういむん ならんくとう、うどうきーん。(ウリの出来損ないは売り物にならなくて、引き合わない)。

ないん 〈鳴る〉【活】なたん、ならん、なてい 【例】ハーリーがにぬ なてい あとうからどう すーまんぼーすーや あがいん。(ハーリー一鉦が鳴った後から梅雨が終わる)。

なか 〈中、仲〉

なか じん 〈中心、中央〉 【例】やしちぬ なかじのー とうふあしらぬ めー むてい などーん。(屋敷の中心は玄関の前方になっている)。

なか だち 〈仲人、仲介〉 【例】たーんかい なかだち うにげー すしえー/しえー ゆたさが やー?(誰に仲人をお願いするのが/したらいいのかなあ)。

なか ていー 〈中ぐらい〉 【例】なかていーから うていくいれー。(中ぐらいのから売ってくれ)。

なか めー 〈茶の間、居間〉 【例】なかめーや なーぬ きーくさん ゆー みーゆる とうくま やてい、あかがてい なちえー しだかじぬ いっち、やーにんじゆぬ ゆくいる とうくま やん。(居間は庭の草木もよく見える箇所、明るくて夏は涼風が入って、家族がくつろぐところだ)。

なが〜〈長〉

なが たび 〈長旅〉 【例】ながたべー いちゆる とうちねー っういーりきさしが、けーいる とうちねー くとんでいーくとう ながたべー さん。(長旅は行くときには楽しいが、帰るときには疲れるので長旅はしない)。

なが ちび 〈長居〉 【例】っちゆぬ やーんかい っんぢ ながちびー しーねー、しか

ん さりーん どー。(人の家に行って長居を
すると、嫌われるよ)。

なが わちゃれー 〈長患い〉【例】ながわ
ちゃれーっしどう どうー あたらさする く
とうぬ わかいる。(長患いをしてこそ体を大
切にすることがわかる)。

ながすん 〈流す〉【活】ながちゃん、ながさ
ん、ながち

ながし あみ 〈通り雨、にわか雨〉【例】
ながしあみ やくとう、しぐ はりーっさ。(に
わか雨だからすぐ晴れるよ)。

ながみーん 〈免ずる〉【活】ながみたん、な
がみらん、ながみてい【例】っやーさーに な
がみていとうらし よー やー。(あなたの方
で免じてくれよ)。うんじゅさーに わんくと
ー ながみていくいみそーり よー。(あなた
様の方で私のことは免じてがまんしてください
ね)。

なかみ じる 〈中味汁〉【例】なかみじ
ろー ちねーをうてい ゆー かむる にかし
からぬ くわっちー やん。(中味汁は家庭で
よく食べる昔からのごちそうだ)。

ながりーん 〈流れる〉【活】ながりたん、な
がりらん、ながりてい【例】うふあみぬ ふて
い かーらぬ みじぬ あんでいてい ながり
ーしぬ ふえーさん。(大雨が降って川の水が
溢れて流れるのが速い)。

なぎーん 〈投げる〉【活】なぎたん、なぎら
ん、なぎてい【例】しくちぬ うわいーねー、
やーぬ めーをうてい うやっくわっし ボー
ルなぎえー そーん。(仕事が終わると家の前
で親子でキャッチボールをしている)。ありが
なぎていちゅーる ぼーるぬ ちゅーさくと
う、うきとういしえー うとうるさぬ でーじ
やっさー。(あの人投げってくるボールが強
いので、捕球するのは恐くて大変だ)。いんぬむ
ん むぬいりやーんかい なぎいっとーけー。
(犬の餌も餌入れに投げ入れておきなさい)。

なぎ んちゅん 〈投げ込む〉【例】ゆぐ
りむん いりやーんかい なぎんちよーけー。
(洗濯もの入れに投げ込んでおきなさい)。

なげーさ 〈長いこと〉【例】なげーさ いち
やてーをうらんしが、ちゃー そーが やー?
(長いこと会ってはいないがどうしているのか
ねえ)。

なげー なやー 〈年代物〉【例】うれー
なげーなやー やいびーん。(それは年代物
です)。くぬ くーそー さんじゅーにんぬ
なげーなやー やくとう、にーだかさん。(この
古酒は30年ものなので、値段が高い)。

なぐさみーん 〈慰める〉【活】なぐさみた
ん、なぐさみらん、なぐさみてい

なぐさむん 〈慰む〉【活】なぐさだん、なぐ
さまん、なぐさでい【例】どうー なぐさみ
すん=どうー なぐさむん。ういきがんかい
していらってい(／ういなぐんかい だまさっ
てい) なまー やーんぢ うた ちちやい、ふ
かんぢ どうしとう いちやたいっし どうー
なぐさみ そーん／どうー なぐさどーん／
ゐーちむ とうめーとーん。(失恋して今は家
で音楽を聴いたり、外で友人と会ったりして自
分を慰めている)。

なけーすん 〈泣かす〉【活】なけーちゃん、な
けーさん、なけーち【例】くーさる ばすに
あわりっし ふどううういーてい にーびちさ
るあとうん くちさ しみらったる はなし
やくとう、っちょー なけーすな けー。(幼
いときに苦労して大きくなって結婚してからも
苦労させられた話なので、人を泣かさなしてく
れ)。

なさがすん 〈陰口をする〉【活】なさがちゃ
ん、なさがさん、なさがち【例】みーらん と
うくまをうてい わんくとう なさがする く
とー すな よー。(裏で私のことを陰口する
ことはするなよ)。

なしーん 〈塗る〉【活】なしたん、なしらん、なしてい【例】からじんかい あんだ なしーねー、からじぎーや りっぱんぐわー にんぢゆさ。(髪に油をぬれば、髪の毛はきれいに整うよ)。かっぱやーぬ とぅりーるくとう、ちらんかい くりーむ なしれー。(乾燥を防げるので顔にクリームを塗りなさい)。

なじきーん 〈そぶりをする〉【活】なじきたん、なじきらん、なじきてい【例】いちぶしこー ねーんむんぬ いちぶさー そーんねーっし、なじきらんけー／なじきていが をうらやー。(行きたくないのに行きたがっているふりをして、そんなそぶりをするな／そんなそぶりをしているんだろう)。しゅむち ゆどーん ふーなーっし／ゆみなじきーっし にんとーたん。(本を読んでいるふりをして眠っていた)。

なすん 〈産す〉【活】なちゃん、なさん、なち【例】なし みちえー しっち、すだてい みちえー しらん。(子を産むのは知っていても子育ては知らない)。

なし 〈産み〉

なし あがいん 〈鶏が卵を産まなくなる〉【活】～あがたん、～あがらん、～あがてい【例】なしあがたる とぅえー みーぬ くふあさぬ、かみん ならん。(卵を産まなくなった鶏は肉が堅くて、食べられない、かなーさらん＝噛めない)。

なし うや 〈産みの親〉【例】なしうや やかん すだていぬ うやぬどう うや やる。(産みの親よりも育ての親こそ親だ)。

なし ぐわ 〈産んだ子〉【例】わんねー なしぐわぬ ゆったい をうん。(私には子が4人いる)。なしぐわ かなさっし ふどうっわーすしどう うやぬ ゆるくび やん。(産んだ子をかわいがって育てるのこそ親の喜びだ)。

なし ぢち 〈臨月〉【例】なしぢち やくとう うていちち ゆくらりーくとう なしみーんかい いちゆん。(臨月なので落ち着いて休めるので里方に行く)。

なし むぬ つくわ 〈子宝〉【例】にんぢんぬ なしはんじょーや うていんぐとう やしが、ちむにんじ しーねー、かなじ なたましたまし なしむぬつくわ うたびみしえーん。(人間の子ども授かりは神様の御心次第なのだが、心から念ずれば、必ず銘々の配分で子宝を授かるもの)。

なし はんじょー すん 〈出産する〉【活】～さん、～さん、～っし【例】あぬっちょー つくわ なしはんじょー そーん。(あの人は子宝に恵まれている)。

なし ふいるぎーん 〈子孫を増やす〉【活】～ふいるぎたん、～ふいるぎらん、～ふいるぎてい【例】ちかぐるぬ わかみーとうんだー どうーぬ あしぶしどう わかいる、つくわ なしふいるぎーる くとうんかえー ちむに ねーらん。(近頃の若夫婦は自分の遊ぶことばかりで、子孫を増やすことには関心がない)。

なし みー 〈里方〉【例】ういなごー にーびち しん なしみーぬ くとう すん。(女性結婚しても里方の面倒を見る)。

なだ 〈涙〉【例】あながちさる はなし ちち んかし うびっんぢゃさーに なだぬ うていたん。(なつかしい話を聞いて昔を思い出して涙が落ちた)。

なだ ぐるまーい 〈涙ぐんださま、今にも泣きそうなさま〉【例】なげー はなりとーたる どうーぬ っんまりじまんかい けーてい ういなぐどうしえー なだぐるーまーい などーたん。(長く離れていた自分の故郷に帰ってきて女友だちは今にも泣きそうになっていた)。「参」「みーなだ ぐるぐるー」とも言う。

なち 〈夏〉

なち ぐち 〈初夏〉【例】なちぐち ないねー あささーぬ なちはじみーん。(初夏になるとクマゼミが泣き始める)。

なち むん 〈夏もの〉【例】かりゆしウェアーや なちむんとうっし やまとうまでいん ふいるまどーん。(かりゆしウェアーは夏ものとして本土までも広まっている)。

なちゅん 〈鳴く〉【活】なちゅん、なかん、なち 【例】をうーどういぬ クックルーウーっし なちゅん。(雄鶏がコケコッコーと鳴いている)。なーどういぬ クックルーウーっし なちゅん。(鶏がコケコッコーと鳴いている)。ちゅんぬキッキリーキーっし なちゅん。(ちゃぼがキッキリーキーと鳴いている)。がらさーぬ カーアカーアっし なちゅん。(カラスがカーカー鳴いている)。あふいらーぬ クェークェーっし なちゅん。(アヒルがガーガー鳴いている)。さんさなーぬ シャーンシャーンシャーンっし なちゅん。(くまぜみが鳴いている)。なーびかちかちーぬ なちゅん。(あぶらぜみが鳴いている)。そーみなーぬ チューチューユチューっし たかぶきーそーん。(メジロが甲高くさえずっている)、ふきすーぶ(さえずりの勝負)、くーぶきー(低い調子の鳴き声)。ぶらぬ ヲーヲーヲーっし なちゅん。(汽笛が鳴っている)。あたびちぬ ガークーガークーっし なちゅん。(カエルがゲロゲロ鳴いている)。【参】まやーぬ マーウマーウっし、いんぬ ワウワウっし、うしぬ シーモーナーモーっし、っわーぬ ガウエーガウエーっし、ふいーじゃーぬ ツンベーツンベーツンベーツンベーツんまー ミーハーハーっし あびとーん。(猫がミャーオミャーオと、犬がワンワンと、牛がモーモーと、豚がブーブーと、山羊がメーメーと、馬はヒヒーンと鳴いている)。

なちゅん 〈泣く〉【活】なちゅん、なかん、なち 【例】わらばーぬ ウェーウェーっし なちゅん。(子どもがめそめそ泣いている)。あかんぐわぬ ンガーンガーっし なちゅん。(赤ちゃんがオギャーオギャーと泣いている)。
なち かかじん 〈泣きつく〉【活】～かかたん、～かからん、～かかてい 【例】わらびぬ むぬふさっし なちかかていん じまま しみーる むのー あらん。(子どもがものを欲しがって泣きついてわがままさせるものではない)。
なち ねーび 〈泣きまね〉 【例】わらびと

う ういなごー なちねーびぬ じょーじ。(子どもと女は泣きまねが上手)。

なち ぶさー 〈泣き虫〉 【例】めーなち なちげーげー そーしが、なちぶさーがどううふっちゅ ないねー いぢちりむん ないん どー。(毎日泣いてばかりいるが、泣き虫が大きくなると意地の強い子になるんだよ＝よく泣く子はいろいろな要求を表現していることから、大きくなるとしっかりする)。

なち むにー 〈泣きながらものを言うこと〉 【例】っやーや いくち ないくとう なち むにー すが? はじかこー ねーらに?(あなたはいくつなるのに泣きながらものを言うのか。恥ずかしくないのか)。

なち われー 〈泣き笑い〉 【例】っちゅぬ ゆーや なちわれーぬ くいけーし やん。(人生は泣き笑いの連続だ)。

なちゅーら 〈海人草〉 【例】わらび そーいに さぎむんとうっし なちゅーら ぬまさったる くとうぬ あん。(子どもの頃に下剤として海人草を飲まされたことがある)。

なでい すだていーん 〈かわいがって育てる〉【活】～すだていたん、～すだていらん、～すだていてい 【例】つくわ なしえーからー なでいすだていてい ふどうっわーすし やん。(子を産んでからはかわいがって育てるものだ)。

ななち ふし 〈北斗七星〉 【例】にしぬ すらんかい あかがとーる ななちぶしんにーぬふあぶしん んなが ゆー しっちよーし やん。(北の空に輝いている北斗七星も北極星もみんながよく知っているものだ)。

なぬいん 〈名乗る〉【活】なぬたん、なぬらん、なぬてい 【例】ちゅいなー ちゅいなー どうーぬ なー なぬてい っんまりじま いれー。(一人一人自分の名前と出身地を言いなさい)。

なばくいん 〈からかう、ひやかす〉【活】なばくたん、なばくらん、なばくてい 【例】なばくいから まぎく なてい っちゆなけーしぐとう なていいちゆる くとうん あくとう、っちゆ なばくてー ならん。(からかいから大きくなっていじめに発展していくこともあるので、人をからかってはいけない)。

なま 〈現時点〉 【例】うちなーゆーから やまとうゆー、やまとうゆーから あめりかゆー、なまぬ ゆーや ちゃー なたーが? やまとうーんかい さっとーる ばす る?(沖縄の世から大和の世、大和の世からアメリカの世、現代の世はどうなっているのか。大和の人たちに翻弄されているのかな)。【参】「今帰仁」や「今浜」(現在の滋賀県長浜)の「今(な)」と、「間をおく、間を空ける」の空間的・時間的な「間(ま)」から構成されている。いま。

なま あし ばい 〈冷や汗をかくこと〉 【例】あんまさぬ、 なまあし はとーん。(体調不良で、冷や汗をかいている)。なま あし じーじー そーん。(冷や汗をかいている)。

なま じらー 〈生意気者〉 【例】っちゆぬ むぬならーしどう そーしが やなわれー っし、あれー はていなまじらー やん どー。(人がものを教えているのに嫌な笑いをして、あいつはとんでもない生意気者だよ)。【参】「くさぶっくわー」とも言う。

なま じさー、なま しさー、なま じし 〈生肉〉 【例】ししえー なまじさーどう こーいん どー。(肉は生肉を買うんだよ)。

なまたりーん 〈怠ける〉【活】なまたりたん、なまたりらん、なまたりてい 【例】なまたりとーてい むぬ ていま る?(怠けていて同じ手間賃か)。っやーや いふえー なまたりてー をうらに?(あなたは少し怠けてはいないか)。

なまたり むん 〈怠け者〉 【例】しくちんさん、むぬかだい にんたい ほーたいつしあしでいあっちよーる っちゆんかい 「なまたりむん」んでい いちよーん。(仕事もしない、食べたり寝たりして遊び回っている人に「怠け者」と言っている)。

なまちな むん 〈気の荒い者〉 【参】「なまちゃー」とも言う。

なまりーん 〈なまる〉【活】なまらん、なまりらん、なまりてい 【例】くぬ ほーちゃーや なまりとーくとう とうげー。(この包丁はなまっているので研ぎなさい)。

なまらー、なまてー、しくちゃー 〈おどけ者〉 【例】あれー いふーな くとうびけー さーに っちゆわらーち いっぺー なまらー やん。(あの人は変なことをして人を笑わしてとてもおどけ者だ)。

なま わらび 〈未熟な子〉 【例】くとうぬ ゆしあしん わからん なまわらびどう やる。(道理もわからない未熟な子どもだ)。17、8 なていん むぬ あてー ねーん、わらびぬ さた やさ やー。(17、8歳になっても物事がわかっていない、子どもじみたことだね)。【参】そーわらび。

なみむさー 〈なめくじ〉 【例】あみぬ ふいねー ちんなぬん なみむさーん まーがなから っんぢていちゆーん。(雨が降るとカタツムリもナメクジも何処からか出てくる)。なみむさーぬ まーす くわやーに ちぢくどーん。(ナメクジが塩を食べて縮こまっている)。

ならーすん 〈教える、しつける〉【活】ならーちゃん、ならーさん、ならーち 【例】むぬいーよーぬ わっさくとう、むん ならーしー よー。(言葉遣いが悪いので、教えなさいよ)。くるまぬ くわんさち どういんでいち じれんかい ならいが いちゆん。(車の免許をとるといって自練に習いに行く)。

ならーし よー 〈しつけ〉 【例】わらび
そーいぬ ならーしよーぬどう かんぬー や
る。(子どものうちのしつけが肝心だ)。

ならいん 〈習う〉【活】ならたん、ならーん、
ならてい 【例】ならいしえー いったうちぬ
はじ、ならーんしえー ゆーまんでーぬ はじ。
(習うのは一時の恥、習わないのは一生の恥)。

なれー 〈習い〉 【例】「やー なれーぬ ふか
なれー」んち あてい やーをうてい そー
る くとー ふかをうていん すくとう むん
ならーしえー ゆー さんねー ならん。(「家
習れーぬ 外習れー」というのがあって家でし
ていることは外でもするので、しつけはちゃん
としないといけない)。

～なれー 〈～の習い事〉 【例】がっこー
うわいねー、ていーなれー、をうどういなれー、
じーなれーんかい。っんちよーたん。(学校が
終わると空手、踊り、習字の習い事に行ってい
た)。

ならすん 〈平らにする、粉にする〉【活】なら
ちゃん、ならさん、ならち 【例】んかしえー
くみ、まーみ、まーそー ちよーばぬんかい
いってい ならち うとーたん。(昔は米、豆、
塩は京升に入れて切って売っていた)。むちぐ
み うーしきーに ならち、だーぐんねーっし
まるみていから っんぶさーに むち ちゆ
くいん。(餅米を白で碾いてだんご状にして丸
めてから蒸して餅を作る)。

ならすん 〈鳴らす〉【活】ならちゃん、ならさ
ん、ならち 【例】しちぐわちねー やなむん
っういーほーいるたみに なまん ほーちやく
ならすん。(盆には悪霊を追い払うために今
も爆竹を鳴らす)。

ならぶん 〈並ぶ〉【活】ならだん、ならばん、
ならでい 【例】みーむん んーぢゆる っち
ゆぬちゃーが 2、3じかんめーから ならど
ーたん。(観客が2、3時間前から並んでいた)。
まーさ ていんぷらー こーいんち っちゆぬ

うほーく ならどーたん。(おいしい天ぷら
を買うと行って行列をつくって並んでいた)。

ならび 〈隣り〉 【例】がっこーぬ ならびん
かい まぎかじまるぬ あん。(学校の隣りに
がじゅまるの大木がある)。

なりーん 〈慣れる〉【活】なりたん、なりら
ん、なりてい 【例】たいぬ うやー ちゃー
しくちぬ いちゆなきたくとう、どうーちゆい
さーに やーんかい をうしえー なりとーた
ん。(両親はいつも仕事が忙しかったので、一人
で家で居るのに慣れていた)。

なりーん 〈親密になる、なじむ〉【活】なりた
ん、なりらん、なりてい 【例】いん、まやーや
なりてい ちーねー すばんかい たっくわ
ていちゆーん。(犬猫は慣れてくると側にくっつ
いてくる)。さきん んーすん ちきむぬん
なりてい ちーねー まーく ないん。(酒も
味噌も漬け物もなじんでくるとおいしくなる)。

なんか 〈7日ごとの法事〉 【例】なんかんで
い いーしえー っちゆぬ まーしーねー、な
ぬかぬ かーじに ななけーん する すーこ
ー やん。(「なんか」というのは人が亡くなっ
たら、7日ごとに7回する法事だ)。

なんくる みー すん 〈自生する〉
【活】～さん、～さん、～っし 【例】なんくるみー
そーる ばんしるーぬ きーぬ まぎー な
てい めーにん ぐ、るくじゅーびけーぬ な
いむんぬ などーん。(自生しているグアバの
木が大きくなって毎年5、60ほどの実が生っ
ている)。

なんぢ 〈難儀〉 【例】なんぢさーや よーが
らー。(苦労人は痩せている)。

なんぢ くんぢ 〈苦労〉 【例】わんねー
ちゆいんぐわ なやーに やーぬ くとぅか
ら、うやぬ くとぅから、どうーぬくとぅから
なんぢくんぢぬ うふさん。(私は一人っ子
なので家のことから、親のことから、自分のこ
とから苦労が多い)。

なんちち 〈焦げ付き〉【例】んかしえー はがまっし くみ に一たくとう、うかっとう しーねー まーからん なんちちかじゃっし やっけー など一たしが、なまー すいはんきぬ あくとう うんなくとー ねーらん。(昔は羽釜で米を炊いたので、うっかりすると何処からも焦げたにおいがして困っていたが、今は炊飯器があるのでそんなことはない)。

なんでーしー 〈桑の実〉【例】なんでーしーや くわーぎぬ むっくーんでい いーん。うみーねー ブドーぬぐとう くるー なてい まーさん。(桑の実は桑の木の「むっくー(小

さい実)』と言う。熟するとブドウのように黒くなっておいしい)。

なんどうち 〈何時／何日〉【例】なまー／ゆれーや なんどうち やが?(今は／模様は何時(何日)なのか)。

なんどうる むん 〈滑りやすいもの〉【例】じのー なんどうるむんどう やくとう、じんぶくるぬ くち あきーねー、むる ふいんぎてい いちゆん。(お金は滑って出やすいものなので、財布の口を開けるとすべて出て行く)。



に

にー 〈荷〉 【参】にーちらすん、にーむちゆん。

にー うーさー 〈荷物を運ぶもの〉 【例】んかしぬ っんまー にーうーさーん そーたしが、なまー さまがわいっし っちゆ ぬしてい あっちょーん。(昔の馬は荷物運びをしていたが、今は様変わりして人を乗せている)。

にー うーしーん 〈荷物を負わす、負担をかける〉 【活】〜うーしたん、〜うーしらん、〜うーしてい 【例】くれー わんが さんねーならんくとうどう やくとう、っちゆんかいにーうーしていまでー たぬまなやーんでーうまーん。(これは私がしないといけないことではあるが、人に負担かけてまでは頼もうとは思わない)。

にー 〈値〉 【例】うふかじぬ あとうぬ ぶん などーしが、うさぎむんぬ ないむのーちゃっさぬ たかにー ないがやー?(台風の後の盆になっているが、お供え物の果物はどれくらいの高値になるのかね)。なまぬ まちやー にーふだぬ ちちよーしが、ちちえーをうらん まちやん あたくとう いっぺー こーいぐりさたん。(現在の店は値段票が付いているが、付いていない店もあったのでとても買い難かった)。

にー ふだ 〈価格表示〉 【例】くりんかえー にーふだー ちちえー をうらんしが、ちやっさ やいびーが?(これには価格表示はついていないが、いくらですか)。

にー 〈音色〉 【例】さんしんぬ にー あぎーん。(三線の音程を上げる)。

にー 〈根〉

にーからぬ 〈根っからの〉 【例】あれーにーからぬ ふりむん やくとう ちゃーしんのーらん。(あの人は根っからのバカなので何してもなおらない、にーからぬ ふりむん=そー ふりむん)。

にー がん 〈集落の神官〉 【活】にー やー／にー どうくる 〈神官の家〉 【例】むらぬ まちりぐとう うくする っちゆんかい にーがんでい いーん。(地域の祭事をつかさどる人を「にーがん」と言う)。うったーや にーやーぬ っくわ、っんまがぬちゃー やくとう、うったーんかい とうーいねー わかいさ。(その子たちは神官の家の子や孫たちだから、その子たちに聞いたらわかるよ)。

にー ぐい 〈根っこ〉 【例】やふあたーにーぐい ふいうくち とうらんねー たでーま みーていちゆーん。(むらさきかたばみは根っこを掘り起こして取らないとあっという間に生えてくる)。

にー すーら 〈根と梢〉 【例】やなむんばれー するたみに／かじよーらー はんするたみに「にー ちっち すーら からすん どー、すーら ちっち にー からすん どー」んでいーる ぐいすぬ あん。(悪霊払いするために／じんま疹を治すために、「根を切って梢を枯らすぞ、梢を切って根を枯らすぞ」という唱えがある)。

にー ばい 〈根張り〉 【活】にー ぢり 〈根切り〉 【例】がじまろー にーばいぬ うすまさん。ちでーる ブロックまでいん かちわい

くとう にーぢり さんとー ならん。(ガジュマルは根張りがすごい。積んでいるブロックまでも割ってしまうので根切りをしないとイケない)。

にー びち 〈結婚式〉【例】なままでー さきむえー っしから にーびち あぎたしが、なまー さきむい にーびちぬ ていーち などーる しーよーん あん。(これまでは結納をしてから結婚式をあげたが、今は結納と結婚式を一つにするやり方もある)。いったー っくわぬ にーびちじゃーや まーやが?(あなたの子どもの結婚式場はどこなのかい)。

にー ぢちゅん 〈根づく〉【活】～ぢちゃん、～ぢかん、～ぢち 【例】こーていちゃる むむぬ きーぬ なーんかい にーぢちよーん。(買ってきた桃の木が庭に根づいている)。

にー ちらすん 〈根絶させる〉【活】～ちらちゃん、～ちらさん、～ちらち 【例】いさぬやーをうてい にーちらちえーくとう なー ありから ちゃーん さん どー。(病院で根絶手術したので、もうあれからどうもなっていないよ)。

にー ちりーん 〈根治する〉【活】～ちりたん、～ちりらん、～ちりちてい 【例】やんめーぬ がくむのー だてーん ししでーをうしが、さきがこー にーちりーしえー なーだ だだやしこー ねーらん。(医学はずいぶん進歩しているが、癌は完治するのはまだ容易ではない)。

にー むちゅん 〈根にもつ〉【活】～むっちゃん、～むたん、～むっち 【例】っちゅから ちむふがんくとう いらったい さったい しん、にーむちゅる くとー どうーぬ ためー ならん。(人から納得しないことを言われたりしても、根にもつのは自分のためにはならない)。

にーいん 〈煮える〉【活】にーたん、にーらん、にーてい 【例】くめー っんぶりかじゃ そーくとう なー にーとーさ。(米は蒸れた匂いがしているので、もう煮えているよ)。

にーいん 〈練る〉【活】にーたん、にーらん、

にーてい 【例】っんむくじていんぷらーや っんむ にーてい っんむくじとう あーち ていんぷらーっし かむん。(「っんむくじていんぷらー」は芋を練って澱粉と混ぜて天ぷらにして食べる)。

にーしえ 〈青年〉【例】ぶんぬ みっちやぬ っうえーだー にーしえーたーや エイサー ーんかい うみちとう はまてい みーむん やさ。(盆の3日間は青年たちはエイサーにとっても一生懸命で見事だよ)。

にーぬふあぬ みふし、にーぬふあぶし 〈北極星〉【例】ゆる はらすふにや にぬふあぶし みあてい、わん なちえーる うやや わんどう みあてい。(夜走らせる船は北極星が目印、私を産んだ親は私が生き甲斐、「ていんさぐぬ花」より)。

にーび 〈赤土の一種〉【例】んかしえー じんぬ ねーらんたくとう にーび ふてい ちゅくたる うふあかぬ うふさたん。(昔はお金がなかったので赤土を掘って造った墓が多かった)。

にーびる／のーびる 〈のびる、ねびる〉【例】にーびろー くさぬ みーとーる とうくまんかい あてい あたいめーぬ びらやかーくさしが、びらかじゃーっし かまりーん。(のびるは草が生えているところであって普通のネギよりも小さいが、ネギの香りがして食べられる)。

にーぶ 〈ひしゃく〉【例】「にーぶ」んでい いしえー みじくまー どー。(「にーぶ」というのは水汲み道具だよ)。んかしえー かーから ちーさーに みじ くでい みじたみやーんかい いったい、にーぶさーに くまーに みじ ちかたん。(昔は井戸からつるべで水を汲んで水溜めに入れて、ひしゃくで汲んで水を使った)。

にーぶ がー 〈ひしゃくで直接汲める井戸〉【例】ふいーじゃーがーや ちゃー みじえー

みっちゃかーっし にーぶがー などーん。
 (湧き水はいつも水は満杯でひしゃくで直接汲
 める井戸になっている)。

にーぶい 〈居眠り〉【例】にっかまでい
 うきーねー なーちゃー にーぶいっし ふし
 がらん ないん。(遅くまで起きると翌日は居
 眠りしてどうしようもなくなる)。

にーぶい ぐさ 〈オジギソウ〉【例】にー
 ぶいぐさー ゆさんでい ないねー ふあー
 くーてい にんとーる ぐとーん。(オジギソ
 ウは夜になると葉を閉じて寝ているようだ)。

にーぶい みー 〈眠たそうな目〉【例】っ
 やーや にーぶいみー そーしが、なー にん
 ぢゆる じぶんどー などーみ?(あなたは眠
 たそうな目をしているが、もう寝る時間になっ
 ているのか)。

にーぶい かーぶい すん 〈こっくりこ
 っくり居眠りをする〉【例】わん っくわー
 びんちょー そーんでい うむとーたれー
 にーぶいかーぶいどー そーたる。(私の子は
 勉強していると思ったのにしきりにこっくりこ
 っくり居眠りをしていた)。

にーぶやー 〈寝坊〉【例】あれー にーぶ
 やー やくどー、うくさんねー いちまでいん
 にんとーん。(あれは寝坊なので、起こさない
 といつまでも寝ている)。

にーぶたー 〈腫れ物〉【例】んかしえー
 にーぶたー っんぢとーる っちゆん、ふえー
 がさー っんぢとーる っちゆん うふさたし
 が、なまー をうらん などーん。(昔は腫れ物
 ができている人も、頭にかさぶたができてい
 る人も多かったが、今は居なくなっている)。

にーん／にゆん 〈似る〉【活】にちゃん、に
 らん、にち【例】っやーや たいぬ うやぬ
 たーんかい／たーどー にちょーが?(あなた
 は両親の誰に／誰と似ているの)。

にーん／にゆん 〈煮る〉【活】にちゃん、に
 らん、にち【例】けーてい ちゆーるまでいね

ー うぶん にちょーき よー。(帰ってくる
 までにはご飯を炊いておけよ)。っんむ にー
 ん。(芋を蒸かす)。

にーゆん 〈煮える〉【活】にーたん、にーら
 ん、にーてい

にー くたー 〈煮過ぎてくたくたになっ
 ているさま〉【例】そーみのー にーくたー
 などーくどー かまらん。(そうめんは煮過ぎ
 てくたくたになっていて食べられない)。

にー しぢーん 〈煮すぎる〉

にーゆん 〈練る〉【活】にーたん、にーらん、
 にーてい【例】あんまーが っんむ にち
 っんむにー ちゆくてい かまちゃん。(お母
 さんが芋を蒸かして練り芋をつくって食べさせ
 た)。

にがいん 〈願う〉【活】にがたん、にがらん、
 にがてい【例】いち やていん どーぢゆ
 ーく ないん くどー にがいん／かみにげー
 すん／ぐわんだていすん。(いつでも体が丈夫
 になることを願う／祈願する／祈る)。

にが ゆー 〈凶年〉【例】あみぬ ふいぢ
 ゆーさていん、あみぬ むる ふらんていん
 にがゆー ないん。(雨が降り過ぎても、雨がま
 ったく降らなくても凶年になる)。

にぐーにぐー すん 〈ゆったりしてい
 る〉【例】むのー にぐーにぐーそーてい
 かむしどー まーさる。(食事はゆっくり食
 べてこそおいしい)。

にぐどー 〈寝ごと〉【例】うむくどーどー
 にぐどーんでいち まるふいーじー ちむに
 うむとーる くどーぬどー いみに っんぢ
 てい ちゆーる。(思っていることが寝ごとと
 違ってふだん心に思っていることが夢に出てく
 る)。

にげー 〈祈り〉【例】にげーどー しえーう
 えーんでいち ちゃー かみにげー すしどー

しえーうえー やる。(祈ることが幸いとい
っていつも祈願するのが幸いとなる)。

にしーん 〈似せる〉【活】にしたん、にしら
ん、にしてい 【例】むぬかみどうくるぬ がら
すだなぬ なーかんかい かじやらっとーる
かみむのー ゆー にしらってい ちゆくらっ
とーん。(食堂のガラス棚の中に飾られている
食べ物はよく似せて作られている)。

にじーん 〈がまんする〉【活】にじたん、にじ
らん、にじてい 【例】やーさー にじていん
にじらん むん やん。(ひもじさは我慢し
ようにも我慢できないものだ)。

にじ ー **でー** 〈忍耐力〉 【例】にじでーぬ
あていどう あとあどー みちぬ ふらちゆ
る。(忍耐力があってこそ最後には道が開く)。

にじー **かんていー** **すん** 〈がまんでき
なくなる〉 【例】どうく やでい ふしがら
んたくとう にじーかんていー そーてい い
さぬやーんかい にかたん。(あまりに痛くて
がまんできなくなつて病院に向かった)。

にし **ぶち** 〈北風〉 【例】うちなーをうて
ー しむちち なていから ふちゆる にしぶ
ちや 「みーにし」んでい いーしが、しだく
ないん。(沖縄では11月になってから吹く
北風は「新北風」と言うが、涼しくなる)。

にじゃまさ **すん** 〈寝ぼける〉【活】～さ
ん、～さん、～っし 【例】にじゃまさ そーてい
あちぢャー そーぬぎてい ぬまーに ちゆ
ばちなかい みーくふあたん。(寝ぼけていて
熱い茶を何も考えずに飲んでしまつて一
気に目が覚めた)。

にじゃみ **うどうるち** **すん** 〈夢で
驚く〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】をうた
ていどう をうが、ちかぐろー にじゃみうど
うるちっし ゆなか あったに うきーる ば
ーぬ あん。(疲れているのか、近頃は夢で驚い
て夜中に急に起きる場合がある)。

にたかまんだ 〈似た者同士〉 【例】どう
しぬちゃーや にたかまんだぬ ゆいあちまい
やくとう、ちむくくるぬ あーてい ぬー
しん ちむ っういーりきさん。(友だちは似
た者同士の寄せ集まりなので、気心も合つて何
をしても楽しい)。

にち 〈熱、温度〉 【例】にちぬ あみ? に
ちえー ねーらん。(熱があるか? 熱はない)。
ガラスじえーこー にちぬ ふあーふあー そ
ーる どうくるをうてい まるふいーじー し
くち そーしが、ちむ いふなー ならんがや
ー? (ガラス工芸の職人は温度が高いところで
一日中仕事をしているが、気分悪くならないか
ね)。

にぢーん 〈握る〉【活】にぢたん、にぢらん、
にぢてい 【例】うやっくわー ていー にぢ
ーる うっぴっし ちむぬ かゆてい ちゆー
ん。(親子は手を握るだけで心が通ってくる)。

にぢり **めー** 〈握り飯〉 【例】がっこー
から けーていちーねー、つくわぬちゃー や
ーさしみらさん かんげーっし はんたいぬ
っういーんかい にぢりめーぬ うかっとーた
ん。(学校から帰つてくると、子どもたちにお腹
をすかせないように飯台の上に握り飯が置かれ
ていた)。

にぢむん 〈つねる〉【活】にぢだん、にぢま
ん、にぢでい 【例】たからくじぬ あたてい
いぬー あらんがやーんち いくけーん ふー
にぢでいん やむたくとう ちむ ゆるちゃ
ん。(宝くじがあたつて夢ではないのかと何度
頬をつねつても痛かつたのでほつとした)。

にぶ **っんまり** 〈遅生まれ〉 【例】ふえ
ーっんまらーや ていーち しーじやぬちゃー
とう がっこー っんぢーん。にぶっんまれー
しんぐわちふちかから じゆーにぐわち っ
んまりまでいぬ っちゆぬちゃー やん。(早
生まれの人は1歳年上の人たちと学校に行く。
遅生まれは4月2日から12月生まれ迄の人た
ちである)。

にりん 〈飽きる〉【活】にりたん、にりらん、にりてい 【例】ちちにりーん。(聞き飽きる)。ありが はなしえー ちゃー むぬくとうびけー なー ちちにりとーん。(あの人の話しはいつも同じ事だけでももう聞き飽きている)。

にりがさがさ すん 〈食べ物に砂などが混ざっている〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】くぬ けーぬ みーや にりがさがさっし じょーい かまらん。(この貝の実は砂が混じってとても食べられたものではない)。

にん 〈年〉 【例】ちゅとう(1年)、たとう(2年)、みとう(3年)、ゆとう(4年)、…むむとう(百年)。ぐにんぬ っうえーだ(5年の間)。っやーや にーびちしから なんにんびけー などーが?(あなたは結婚してから何年ほどになっているの)。さんにんびけー などーいびーっさ。(三年ほどなっています) 【参】くじゆ(去年)、やーん(来年)、んちゆ(一昨年)。

にん とうー 〈年始〉 【例】あきまどうしぬ ふちかから じゅーににちまでいぬ っうえーだに ちゆいなー ちゆいなー にんとうーとう とうしびーに どうーがんじゆーさにげー すん。(新年の2日から12日までの間に1人ひとり年始と自分の干支の日に健康願いをする)。うちなーをうてー っうえーかぬ ちゃーが そーぐわちぬ あさ ふえーべーとう にんとうー まーい しーが あまくまから ちゅーし なま ちゅーがやーんち まちかんでいー そーん。(沖縄では親戚の人たちが正月の朝早くから年始回りしにあちこちから来るのを今か今かと待ち望んでいる)。

にんぐる 〈愛人、情夫〉 【例】あれー とうじえー をうしが、なまぬ ういなごー にんぐるどう やん どー。(あの人には妻がいるが、いまの女性は愛人だよ)。

にんしーん 〈寝かす、放ったらかす〉【活】にんしたん、にんしらん、にんしてい 【例】しださる とうくるんかい わらび にんしとーけ

ー。(涼しいところに子どもを寝かしておきなさい)。あかんぐわー そーいに むぬ とうくる にかーさつてい にんしらったるたみに ちぶるぬ かたはら たっぴーらー などーん。(赤ん坊の時に同じ側に向かわせて寝かされたために頭の片側が平たくなっている)。わーしーじゃぬ でーだかーぐつ こーたしが、うんなげーさ くつばくんかい にんしらとーしえー ちゃーる ばーがやー?(私の兄が高価な靴を買ったが、あんなに長いこと靴箱に放置されているのはどうしたのかな)。

にんじーん 〈念じる〉【活】にんじたん、にんじらん、にんじてい

にん 〈念〉 【例】っやー しーよーや にんぬ いっちえー をうらん/ねーらん。(あなたのやり方は気持ちが入っていない/無い)。ぬーぐとうん にん いってい すし やん。(何事も気持ちを入れてすべきだ)。ちむぬ にんじどう でーいち。(心から念じるのが肝心)。

にん がきーん 〈心がける、志す〉【活】～がきたん、～がきらん、～がきてい 【例】くーさる ばすから きんメダル とういんでいち、いち やていん まーんぢ やていん うみはまてい、まーいぬ っちゆぬちやーぬ ちむがしーん あてい、にんがきたるくとうぬ みーなたん。(幼い時から金メダルを取るといって、いつでもどこでも努力して、周囲の人たちの協力もあって、志したことが成就した)。

にん ぐわん 〈念願〉 【例】アメリカたーぬ ちかとーる ぐんじきち ねーん なする にんぐわんぬどう なままでいん なーだちぢぢよーる。(アメリカ人たちが使っている軍事基地を撤去する願いが現在でもまだ続いている)。

にんじ ぐとう 〈願いごと〉 【例】っやー にんじぐとー どうく うふさぬ、ていーちなーどう する むん やる。(あなたは願いごとがあまりに多くて、1つずつするものだ)。
にん ぶとうきー 〈すべりひゆ〉 【例】にんぶとうきーや ふあーや ぐまくっし あち

みぬ あてい なんどうー そーてい、はな
ー ちーるーっし みちばたんかい みーとー
しが、えーむん さーに かむん。(すべりひ
ゆは葉は小さくて厚みがあってすべすべして
いて、花は黄色で道端に生えているが、和え物
にして食べる)。

にん りち 〈念力〉【例】めーなち にげー
ぐとう しわどう にんりちん ちゅーく な
いる。(毎日願い事をしてこそ念力も強くなる)。

にんじゅ 〈人数、一団〉【例】ちかぐろー
とーからん たいわんからん たびにんじゅ
ぬ うふく などーん。(近頃は中国からも台
湾からも観光団体が多くなっている)。うさき
ーぬ にんじょー まーから あちまどーがや
ー?(そんなに多くの団体はどこから集まっ
ているのかなあ)。しばいにんじゅ(芝居の一
座)、をうどういにんじゅ(舞踊団)。

にんじゅ あらたみ 〈人数調査、人数確認〉
【例】っういーりきどうくるをうてー ばす
んかい ぬいる かじ にんじゅあらたみ す
ん。(観光地ではバスに乗るごとに人数確認
をする)。

にんぢゅん 〈寝る〉【活】にんたん、にんだ
ん、にんてい【例】にんぢゅる みーや に
んぢゅるぐとう しーよー やー。(寝るとき
にはちゃんと寝るようにしなさいよ)。にん
でー やーんでい うむていん いかなしとうん
／ちゃーしん にんだらんたん。(寝返りを
うって寝ようとしてもどうしても寝れな
かった)。っわーぬ ぐとう むぬ かでい にん
てー しーしー しーねー、っわーぬ ぐ
とう くえーいん どー。(豚のようにものを
食べて寝たりすると、豚のように太るよ)。
にんとーしえー うくさりーしが、にんた
ふーなーや うくさりん。(寝ている人は
起こせるが、寝たふりは起こせない、
=その気の無い人はいくら言っても駄
目だ)。

にんぢ ぐくち 〈寝心地〉【例】「きし
やぬ しんだいしやぬ にんぢぐくちえー
ちゃー やたが?」「すとうみてい うき
たくとう

どうーぶに やむたっさー」(「汽車の寝
台車の寝心地はどうだった」「朝起きて
みると体の節々が痛かったよ)。

にんぢ くげー 〈寝返り〉【例】っや
ーや ゆなかさなか にんぢくげーびけー
そーたしが、にんだらんていー?
(あなたは夜中に寝返りばかりして
いたが、寝れなかったのか)。

にんぢ じゃま 〈寝相〉【例】わらべ
ーあましぢゅーさぬ、にんぢじゃまぬ
わっさん。(子どもは元気が有り余っ
ていて、寝相が悪い)。

にんぢ ちげー 〈寝違い〉【例】にんぢ
ちげー さーに くびぬ やでい うっ
ちんとうーん ならん、くびん みぐ
らん ふしがらん などーん。(寝違
いをして首が痛くてうつ伏せもでき
ない、首も回らなくてがまんできな
くなっている)。

にんぢ ぢら 〈寝顔〉【例】わらびぬ
にんぢぢらー いっぺー うじらー
さん。(子どもの寝顔はとてもかわ
い)。

にんぢ やー っういーぢ 〈背泳〉【例】
いんぐわーっういーぢえー ない
しが、にんぢやーっういーぢえー
ならん。(犬かきはできるが、背泳
はできない)。

にんぢ はぎ 〈床ずれ〉【例】ながわ
ちやれー そーる っちゅぬちや
ーにんぢはぎしみらんたみに まる
けーていなー どうー っんぢゅか
しみーんでい。(長患いをしている
人たちを床ずれさせないために時々
体を動かさせるんだって)。

にんぢ はな 〈寝入りばな〉【例】に
んぢはなどう やたる むんぬ、で
んわぬ にーぬ どうく まぎさ
さぬ、ちゅふあーら みーぐふあ
い しみらさったん。(寝入りば
なだったので、電話の音があま
りに大きくて、すっかり目を覚
まさせられた)。

にんぢ ふりーん 〈爆睡する〉【例】
ゆながた しゅち そーたく
とう、なーちやー むぬん か
まん、まるふいっちー にんぢぶ
りそーたん。(夜通し仕事をして
いたので、翌日は食事もせず
に一日中爆睡していた)。

にんぢ やんぢゅん 〈寝損なう〉【活】
～や

んたん、～やんだん、～やんてい 【例】あー あ
んべーっし なー にんだな やーんち そー
たしが、とうないぬ っちゅぬ あびーぐいー
んかい うくさってい にんぢやんたん。(い

い心地でもう寝ようとしていたが、隣りの人の
大声に起こされて寝損なった)。

にんぢん 〈人間〉 【例】にんぢのー ちむ
ぐるぬどう ーいち。(人は心が肝心)。



ぬ

ぬいん 〈塗る〉【活】ぬたん、ぬらん、ぬてい
【例】クーラーぬ ふいるまでいからー しみん
やーぬ うふく なてい かーらやーん むち
ぬやーん いきらく などーん。(クーラーが
普及してからはコンクリート建てが増えて瓦葺
きの家も瓦職人も少なくなっている)。**【参】**む
ち(瓦接合用の漆喰)。

ぬい 〈糊〉【例】ぬぬさーに ぬくやーめー
ちちでい、いふいぐわー みじ まんちきて
い、ぬぬぬ くち くんち、ていーっし むま
ーむまー さーに むちさ っんぢやち ぬい
ちゆくとーたん。(布で残り飯を包んで、水を
少し混ぜて、布の口を縛って、手で揉んで粘っ
こさを出して糊を作っていた)。

ぬい むん 〈塗りもの、漆器〉【例】うちな
ーをうてー ぬいむんとうっし じゅーばく、
まかい、けーうち、うじん、うめーしたていや
ー、くわーしばく、ちやわんうちやー、はない
ちやーんでーぬ あん。(沖縄では漆器として
重箱、椀、皿、お膳、箸立て、菓子箱、茶碗置
き、花瓶などがある)。

ぬいん 〈乗る〉【活】ぬたん、ぬらん、ぬてい
【例】まぢり んーぢーが ふに ぬてい は
なりじまんかい っんぢやん。(祭りを見に船
に乗って離島に行った)。

ぬー 〈何〉【例】ちちゆが ぬー さわん
しむさ。うぬ ちちゆぬ かっていどう やる。
(人が何をしてもいいさ。その人の勝手だ)。あ
んし わかやーふーなーっし／ちゅーばーふ
ーなーっし あれー ぬー さる むぬ が？

(あんなにわかったふりをして／強がってあい
つは何様か)。めーなち びんちょー そーく
とう、あちやー しけんでい いちやんでーま
ん、ぬーんでいーる くとん ねーん。(毎日
勉強しているので、明日試験でも、どうってこ
ともない)。ぬーどうし っんまり やが？(何
年生まれなのか)。ぬーぬ ちちゆ やが？(何
年の人なのか)。

ぬー がな 〈何か〉【例】っやーや わん
にんかい ぬーがな いーし ねーに？(あな
たは私に何か言うことはないのか)。

ぬー ぐとう 〈何事〉【例】ぬーぐとうぬ
あていん ちやー うていちち ゆー かん
げーてい すし やん。(何事があってもよ落
ち着いてよく考えてすべきだ)。

ぬーとう くいーとー 〈詳細〉【例】ぬー
とうくいーとー ちかちくいらん なー？(詳
しく聞かせてくれないか)。

ぬー ぬー 〈何と何〉【例】ぬーぬー こ
ーてい ちゅーが？(何々を買ってくるの)。

ぬーぬ さびん ねーらん 〈何の差し障
りもない〉【例】いーちゅー とうれーから
ー どうー っんぢゆかちん ぬーぬさびん
ねーらん。(糸がとれてからは体を動かしても
何の差し障りもない)。

ぬーやー くいーやー 〈何やかや〉【例】
じんぬ あくとうんでいち ぬーやーくいーや
ー こーいまじでーん。(お金があるからと言
って何やかや買い占めてある)。

ぬーん くいーん 〈何もかも〉【例】ち
よー っし ならん くとー ねーん どー。

チャー シー そーきわどう ぬーんくいーん
まし ない。(人はやってできないことはないよ。ずうっとしておけば何もかもよくなる)。

ぬーし 〈本人〉 【例】ぬーしんちよーん わ
からん むんぬ っやーが わかいる ばー
ゐ？(本人でさえもわからないのに、あなたが
わかるのか)。っやーや わかとーん ふーな
ーっし ぬーし くいーてい ぬーやん くい
ーやん いちよーしが、わーがんちよーん わ
からん むんぬ、っやーや ぬーが わかとー
ら？(あなたはわかっているふりをして本人を
越えて何やかんや言っているが、私でさえもわ
からないのに、あなたはいったい何がわかっ
ているの)。

ぬーじ 〈虹〉 【例】わらび そーいに かぐ
やふいめとう まじゅーん ていー ちなぢ
ぬーじぬ はし わたいる いみ ゆー んー
ちゃん。(幼い頃にかぐや姫と一緒に手をつな
いで虹の橋を渡る夢をよく見た)。

ぬーでいー 〈喉〉

ぬーでいー ぐーふー 〈喉仏〉 【例】ぬ
ーでいーぐーふーとう くいーがーえー ちゃ
ぬよーな かかわい そーがやー？(喉仏と声
変わりはどういう関係になっているのかなあ)。

ぬーでいー ぢる 〈声帯〉 【例】ぬーでい
ーぢるぬ ふいっちーる あたい あびてい
どうーぬ くにぬ サッカーんかい やぐいー
かきたん。(声帯がちぎれるほどかけ声を出
して自分の国のサッカーを声援した)。**【参】**や
ぐいー (気合いの入った声)。

ぬーでいー っわーぐわー 〈喉ちんこ〉
【例】ぬーんち ぬーでいーっわーぐわーん
でいーらりーるくとう なたがやー？(どうして
喉ちんこは「ぬーでいーっわーぐわー」と言わ
れることになったかのねえ)。

ぬーり 〈苔〉 【例】くむいんかい ほーとー
る ぬーれー いゆぬ かみむん などーくど
う はぐな よー。(池に密生している苔は魚
の餌なので剥ぐなよ)。

ぬーる 〈神人〉 【例】ヌールんてい いーし
えー うちなーびけーぬ かみんちゆ やん。
(ノロというのは沖縄独特の神に仕える人であ
る)。

ぬがーりーん 〈逃れる〉 【参】「ぬぢゅん」
(抜く、脱ぐ、騙す)からの派生である；宮良
(2019a;123,180-181頁)。

ぬがーらすん 〈勘弁する、見逃す〉**【活】**ぬが
ーらちゃん、ぬがーらさん、ぬがーらち 【例】
ばっぺーていどう そーくとう ぬがーらしえ
ー。(間違えているので勘弁してくれ)。いーば
っぺー／みーばっぺー／しーばっぺー そーて
ーくとう ぬがーらちくいれー。(言い間違い
／見間違い／し間違いしてしまったので、勘弁
してくれ)。**【参】**宮良(2019a,177-180頁)。

ぬかぐ 〈米や糠に発生する虫〉 【例】ぬーが
やら んかしえー くみぬ なかんかえー
ぬかぐぬ ゆー んーだりーたん。(なぜか昔
は米の中に小さな虫がよく見られた)。

ぬぎーん 〈抜ける〉**【活】**ぬぎたん、ぬぎら
ん、ぬぎてい 【例】とうし とういねー は
ぬ ぬぎてい ちゆくいばーぬ いりゆー な
いん。(歳をとると歯が抜けて入れ歯が必要に
なる)。ポケットぬ あなから じんぬ ぬぎ
てい ねーん などーたん。(ポケットの穴か
らお金が抜けてなくなっていた)。

ぬぎーん 〈逃げる〉**【活】**ぬぎたん、ぬぎら
ん、ぬぎてい 【例】じゅーちりまやーや しか
まー なてい、っちゅ んーぢーねー しぐ
ぬぎーん。(人に尾を切られた猫は臆病になっ
て、人を見るとすぐ逃げる)。**【参】**「ふいんぎ
ーん」とも言う。

ぬぎ じこーい 〈逃げ支度〉 【例】かとー
る じん ぬがーりーるたみに なま ぬぎじ
こーいどう そーがやー？(借金を逃れるため
に今逃げ支度をしているのかねえ)。**【参】**「ふ
いんぎ じこーい」とも言う。

ぬく ～〈暖か〉 【例】ぬくさん(暖かい)から
の接頭辞化。

ぬく ぐに 〈暖かい地方〉 【例】うちなーやぬくぐに やてい ふよー くらしやっさん。(沖縄は暖かくて冬は暮らしやすい)。ぬくぐねー ゆちさーに でーじ ないる くとうん ねーらん。(温かい地方は雪で被害を受けることもない)。

ぬく どうし 〈暖冬の年〉 【例】ぬくぐにぬ うちなーをうてー ゐーはだむちぬ じしちえー し、ぐんぐわちぐる やがやー?(暖かい地域の沖縄では過ごしやすい時節は4、5月頃かなあ)。くとうしえー ぬくどうし やくとう、どうー ぬくたみーる むのー あんすかー うりらん などーんでい。(今年は暖冬なので、暖房用器具はそんなに売れなくなっているって)。

ぬくいん 〈残る〉【活】ぬくたん、ぬくらん、ぬくてい 【例】につかまでい しくちばんかい ぬくてい なーちゃぬ しこーいむん さん。(遅くまで職場に残って翌日の準備をした)。
ぬくい むん 〈残りもの〉 【例】なちえー しーやっさくとう、れいぞーこんかい いっとうーかんねー ならん。(夏は鱧えやすいので、冷蔵庫にいれておかないといけない)。なちえー ぬくいむのー あちらち うちきとーかんねー かまらん ないん。(夏は残り物は暖めておかないと食べられなくなる)。

ぬぐいん 〈拭きとる〉【活】ぬぐたん、ぬぐらん、ぬぐてい 【例】ちらんかい はとーる あしみじ ていーさーじさーに ぬぐれー。(顔に流れている汗を手ぬぐいで拭きとりなさい)。うじんぬ ゆぐり ふいーちん(那覇では、ひーちん)さーに ぬぐてい むぬ しこーれー。(お膳の汚れをフキンで拭いて食事の支度をしなさい)。ちちゆぬ ちゆーくとう ふえーく なー なた ぬぐれー。(人が来るので早く涙を拭きなさい)。

ぬくすん 〈残す〉【活】ぬくちゃん、ぬくさん、ぬくち 【例】つくわっんまがなかえー じん ぬくちやい、ぢー ぬくちやい、むぬ ぬくち

やい すしやか、なー ぬくすしどう ましやる。ちむぬ ぬらん くどー さんしえー まし。(子孫にはお金を残したり、土地を残したり、物は残したりするより、名を残すことの方が良い。気が進まないことはしない方が良い)。

ぬくたまいん 〈暖まる〉【活】ぬくたまたん、ぬくたまらん、ぬくたまてい 【例】こたつんかい いーねー、ぬくたまいさ。(こたつに入れば暖まるよ)。ていーぶくる しーねー、ぬくたまいくとう ぬーん しーぶしこーねーん なてい ふゆーなむん ないくとう こーらん ていん しむん。(手袋をすると暖まるので何もしたくなくなって怠け者になるから買わなくてもいい)。

ぬくたみーん 〈暖める〉【活】ぬくたみたん、ぬくたみらん、ぬくたみてい 【例】ふかー ふいーさくとう、どうーや ちゆーぢゆーとう ぬくたみらんねー はなしち かかいん どー。(外は寒いので、体はちゃんと暖めないと風邪をひくよ)。【参】「はなしち」(風邪、鼻が湿気ること)。

ぬくばーいん 〈暖かくなる〉【活】ぬくばーたん、ぬくばーらん、ぬくばーてい 【例】ぬくばーたくとう、うすめーとう はーめーや はしるぐちんかい っんぢてい ていーだぶーい さがなー ちゃー ぬどーたん。(暖かくなったので、おじいさんとおばあさんは縁側に出て日向ぼっこしながらお茶を飲んでいた)。

ぬしーん 〈載せる〉【活】ぬしたん、ぬしらん、ぬしてい 【例】うむいるくとう かちやーに しんぶぬんかい ぬしーたくとう あん やさんでいる いちんぬ うほーく あたん。(思うことを書いて新聞に載せてもらったのでそうだという意見がたくさんあった)。

ぬしかいん 〈ちょっと顔を出す〉【活】ぬしかたん、ぬしからん、ぬしかてい、 【例】ぬしかいが いっとうち っんぢちゆーくとう わったー やー んーちよーていとうらしんてい

たんかーぬ っちゅが じょーぐちをうてい
くいー かきーたん。(ちょっと立ち寄るた
めいっとき出かけて来るので私の家を見てい
くれと向かいの人が門口で声をかけた)。【参
ぬばがいん。

ぬしきーん 〈差し出す〉【活】ぬしきたん、
ぬしきらん、ぬしきてい 【例】っちゅぬ み
ーんぢえー ふいさ ぬしきてー あらん ど
ー。(人前では足を差し出して座らないよ)。

ぬぢふあ 〈靈魂はずし〉【例】ふるばかを
うてい まぶいぬぢ さーに みーばかんかい
みくちとう まぶい うんちけーすしんかい
ん 「ぬぢふあ」んでい いーん。(古い墓で靈
魂をはずして新しい墓に遺骨と靈魂をお迎えす
ることにも「ぬぢふあ」という)。

ぬじゅむん 〈望む〉【活】ぬじゅだん、ぬじ
ゅまん、ぬじゅでい 【例】ぬー ぬじゅでいん
ふいーびー みあていんかい にかてい ぬ
ーっし ちゃんでいーる くとうぬどう かん
ぬー やる。(何を望もうとも日々目標に向か
って何をしてきたかということが大事だ)。

ぬじゅみ 〈望み〉【例】っやー ぬじゅめ
ー ぬー やが?(あなたの望みは何か)。

ぬすどう 〈どろぼう〉【例】ぬすどうんかい
っわーっとーんねーっし いーち ふちよー
しが、っやーや ちゃー さる ばーが?(ど
ろぼうに追われているように息をはずましてい
るが、どうしたのか)。

ぬすむん 〈盗む〉【活】ぬすだん、ぬすまん、
ぬすでい 【例】っちゅぬ むん ぬすでい
どうーぬ むんふーなー そーん。(人のもの
を盗んで自分のもののようにしている)。わん
が かんげーたる むん ぬすまってい じゃ
ーふえー などーっさー。(私が考えたものを
盗られて困ったことになっているよ)。

ぬち 〈命〉【例】うふいぐわー やていん
さき ぬみーねー ぬち ちりーんでい いさ

から いらっとーん。(少しでも酒を飲むと命
を落とすと医者から言われている)。ぬちえー
ていんにどう ある。(命は天が預かっている
のでどうすることもできない)。

ぬち かぢり 〈一生懸命〉【例】っちゅに
んぢのー ならん むのー ねーらん、ぬー
やていん ぬちかぢり しーねー いちかー
かんなじ みー ないん。(人間はできないも
のではない、何であろうとも一生懸命すればいつ
かは必ず成就する)。

ぬち がふー 〈命拾い〉【例】まぎじこ
やたしが、まーん やまちえー ねーん、ぬち
がふーぬ あてーさ やー。(大きな事故だっ
たが、どこもケガしていない、命拾いしたんだ
ね)。ぬちがふーどう しでいがふー。(助かつ
た命に感謝)。

ぬち かんぱー 〈生き返ったような心地、命
の限り〉【例】はー ぬちかんぱー やっさ
ー。(ああ生き返ったような気分だ)。とー、は
い ぬちかんぱー おーていんーだな。(それ
では、手加減しないでけんかをしてみようか)。
わんねー あぬ ういなぐんかい ぬちかんぱ
ー ふりとーん。(俺はあの娘にぞっこん惚れ
ている)。

ぬち ぐすい 〈非常においしいもの〉【例】
ふみちぬ ちゅーさる ばすに あしはい み
じはいっし、じこー ぬーでいー かーきとー
る ばすぬ ふいじゅる みじえー ぬちぐす
い やん。(蒸し暑い時に汗を流して、とても喉
が乾いている際の冷たい水は本当においしいも
のだ)。

ぬち してい むん 〈命をそまつにする
者〉【例】さき ぬでい くるま むちゅる
っちゅぬちやーや ぬちしていむんどう や
る。(酒を飲んで車を運転する人たちは命を大
事にしない人だ)。

ぬち してい わじゃ 〈命がけの仕事〉
【例】ぬちしていわじゃ そーる っちゅぬ ぬ
ちぬ かたに はらとーる じのー うすまさ
まぎさんでい いらっとーん。(命がけの仕
事をしている人が命を担保に払っているお金は

とても高額だと言われている)。

ぬち ぢる 〈命の弦〉【例】しわぐとうぬ
まんでい ぬちぢるぬ よーいんねー す
ん。(心配事が多くて命のたがが緩んでいるよ
うな気がする)。

ぬち だしき 〈救命〉【例】うみをうてい
っんぶっくいとーる っちゆ ぬちだしき
すんでいち どうーぬ ぬち うとうちえーさ
やー。(海で溺れている人の命を助けるとい
って自分の命を犠牲にしたんだね)。

ぬち ちり ばたらち 〈死にもの狂いで働
くこと〉【例】っくわぬちやー むぬかます
んでいち んかしぬやぬちやーや ぬちちり
ばたらちっし ふどうっわーちよーたん。(子
どもたちを食べさせるといって昔の親たちは死
にもの狂いで働き育てていた)。

ぬちとう かくがー 〈命がけ〉【例】いく
さばぬ さしん ぬちやーや ぬちとう かく
がーさーに いくさばんかい っんぢよーん。
(戦場カメラマンは命がけで戦場に出ている)。

ぬち どうくる 〈急所〉【例】ていー ち
かいる ばすねー ぬちどうくる さーてー
ならん。(空手を使う際には急所に触れてはな
らない)。

ぬちぬ うや 〈命の恩人〉【例】うぬ っ
ちよー わん ぬちぬ うや などーくとう、
ちやー ちぢに かみとーん。(その人は私の
命の恩人なので、いつも感謝している)。

ぬちぬ ぐすーじ 〈命拾いのお祝い〉【例】
いさんかい みーはなさっていどう をうたし
が、むちのーち ぬちがふーぬ あたくとう、
ぬちぬ ぐすーじ すん。(医者に見放されて
いたが、持ち直して命拾いしたので、命拾い
のお祝いをする)。

ぬちぬ しんたく 〈命の洗濯〉【例】っち
ゆにんぢのー まるけーていなー ぬちぬ し
んたく さんねー、どうーぬ どうーん むた
らん ないん。(人間は時には命の洗濯をしな
いと、自分の身も持てなくなる)。

ぬちやーすん 〈持ち寄る〉【活】ぬちやーち

やん、ぬちやーさん、ぬちやーち【例】みめー
じのー ぬちやーち さな やー。(見舞金は
持ち寄ってしようね)。なー めーめーや さ
んぐとう、ちゆいなー ちゆいなー ぬちやー
し さな やー。(各自でしないで、1人ひとり
持ち寄ってしようね)。

ぬちゆん 〈貫く〉【活】ぬちやん、ぬかん、ぬ
ち【例】なちじんちゆらーが しむないぬ/
すーらないぬ くにぶ ぬちやい はちやいさ
がなー、いち ちゆーが すら わからん を
うとう まっちょーたんでい どー。(今帰仁
美人が末生りのミカンに紐を通して首飾りを作
ったり首に掛けたりしながら、いつ来るのかわ
からない夫を待っていたんだってよ)。わらび
そーいねー ツーツーダーマー いーちゆー
っし ぬち はちよーたしが、なまー ダイヤ
ぬ くびかじゃいとう ブレスレット はちよ
ーん。(子どもの頃は数珠玉を糸を通して首に
掛けていたが、今はダイヤの首飾りとブレスレ
ットを身に着けている)。

ぬち くるすん 〈刺し殺す〉【活】～くるちゃ
ん、～くるさん、～くるち【例】うみあっちゃー
や しーみっし とうじゃさーに まぎいゆ
ぬち とういるくとうん すん。(漁師は潜っ
て鉾で大きな魚を刺して捕獲することもする)。

ぬち ふうち すん 〈非難する〉【例】ふ
すく むっちよーる っちゆぬちやーぬ ぬち
ふうち さんぐとう ちゆい たれーだれー
さーに ならーすし やん。(至らない人たち
を非難せずに一人ひとり補い合って教えるもの
だ)【参】とうがみーん。

ぬち むん 〈刺繍〉【例】はーいさーに
ぬちやーぬちやー さがなー、いーちゆーぬ
いるん けーてい かたぬ ちゆくらってい
ぬちむんぬ ないん。(針で抜き刺しながら、糸
の色も変えて、型が作られて刺繍ができる)。

ぬちゆん 〈募る〉【活】ぬちやん、ぬかん、ぬ
ち【例】じん ぬちゆるたみ、しーとうぬち
やーが なーふあぬ うふみちぬ はたんかい
たっち あかはに ちきていとうらちよーた

ん。(募金のため、生徒達が那覇の大通りの端で立って赤い羽を付けてあげていた)。

ぬち しん 〈募金〉【例】とーほくぬ うふねー、うふしがりなみぬ ぬちしんっし あまんかい うくたん。(東北の大地震、大津波の募金をして現地に送った)。

ぬぢゅん 〈抜きとる、追い抜く、撮る〉【活】ぬぢゃん、ぬがん、ぬぢ 【例】しらげー ぬぢゅるむのー あらん、ぬぢーねー あとー ちぶるぬ きーや はぎーんでい いーさ。(白髪は抜きとるものではない、抜くと後で頭髪が禿げると言うよ)。くれー わらび そーいに ぬぢえーし やん どー。(これは子どもの頃に撮ったものだよ)。くれー ゆー ぬがっ とーさー。(これはよく撮れているよ)。

ぬぢゅん 〈だます〉【活】ぬぢゃん、ぬがん、ぬぢ 【例】っちゅ ぬぢまでい どうーぬ ゆく みたすんでいーる かんげーよーぬ わからん。(人をだましてまで自分の欲を満たすという考え方がわからない)。くにんかい はらいる じん ぬぢゅる しーよーん あんでい いーしが。(税金を免れる方法もあるというが)。

ぬぬ 〈布〉【例】んかしぬ っちよー どうーくる ちのー のーとーたしが、なまー ぬーんくいーん ちゅくらっとーしぬ あくとう、なんぢえー ねーん などーん。(昔の人は自分で着物を縫っていたが、現在は何でも既製品があるので、難儀することはない)。

ぬばがいん 〈ちょっと顔を見せる〉【活】ぬばがたん、ぬばがらん、ぬばがてい 【例】うりかーまでい ちゃくとう ぬばがたん どー。(このあたりに来たのでちょっと顔を見せたよ)。
ぬばがい かーぎ 〈ちっとも顔を見せないこと〉【例】ぬーが っやーや ゆー ちよーたる むんぬ、ちかぐろー むる ぬばがい かーぎぬ ねーらん なてい。(何でもあなたはよく来ていたのに、最近はずっとも顔も見せなくなつて)。

ぬばすん 〈延ばす、伸ばす〉【活】ぬばちゃん、ぬばさん、ぬばち 【例】うふかじぬ ちゅーくとう まちりぬ みちじゅねーぬ ふいー ぬばさったん。(台風が来るので祭りのパレードの日が延期された)。くしながねー ちゃーぬばし よー。こーぐー ないん どー。(背中はずっと伸ばしなさいよ。猫背になるよ)。

ぬばちりーん 〈くたばる〉【活】〜ちりたん、〜ちりらん、〜ちりてい 【例】ぬー やていん かぎんでいーしぬ あいどう する。あとうさちぬ くとう ぬーん かんげーらんぐとう しくち ちゃーしー さーに ぬばちりてい ねーらん。(何でも加減というのがあるものだ。後先のことを何も考えないで仕事をずうっとしてくたばってしまった)。

ぬば ちり むん 〈だらしない者〉【例】をうとー ゆー はまやー やたしが、ゆぬなかぬ じんぬ みぐいぬ わっさくとう、しくちん ちぢきららん なていあとうから ぬばちりむん などーん。(夫は頑張りやだったが、世の中が不況なので、仕事も続けられなくなって後からだらしない者になっている)。

ぬびーん／ぬぶん 〈伸びる、延びる、がまんする〉【活】ぬびたん、ぬびらん、ぬびてい 【例】はかやーむしえー ぬだいちぢだいっし ししでい いちゅん。(尺取り虫は延びたり縮んだりして進んで行く)。っやー すばーぬびてい／ぬでい かまらん などーん。(あなたのそばは延びて食べられなくなっている)。っやーや しーじゃ やくとう、ぬびり よー。(あなたは年上だから、がまんしなさいよ)。ししでー ぬびらりやびらんれー、わんが ぬびとーちゅさ。(肉の代金を延ばせないなら、私が我慢しておくさ(と行って足蹴りする))。
ぬび 〈寛容さ〉【活】ぬび でー 〈抱擁力〉【例】あぬ っちよー いふいぐわーぬ くとうしえー わじらん、いっぺー ぬびぬ あん どー。(あの人は少しのことでは怒らない、とても寛容さがあるよ)。をうとうぬ ぬびでーぬ あくとうどう たえー ちぢちよーる。(夫

が寛容だからこそ二人は続いている)。っやー
さーに ぬび むっちとうらし よー やー。
(あなたの方で免じてくれよ)。【参】うびでー
(記憶力)、にじでー(忍耐力)、てーいん(堪え
る)。

ぬーび 〈(手足を伸ばして) くつろぐこと〉

【例】しくちから けーてい ゆーふる いっち
ぬーびさーに ビール ぬみねー いっペー
ゐーあんペー やん。(仕事から帰って風呂
に入って手足を伸ばしてくつろいでビールを飲
めば最高だ)。

ぬびぬび 〈延び延びに〉 【例】どうく い
ちゆなさくとう、どうしとうぬ やくしくん
ぬびぬび などーん。(あまりに忙しいので、友
人との約束も延び延びになっている)。

ぬぶいん 〈登る、(中心地、中央に) 向かう〉

【活】ぬぶたん、ぬぶらん、ぬぶてい 【例】んか
しぬ かみあちねーさーや すい なーふあ
からびさっし ぬぶたい うりたいっし あち
ねー そーたん。(昔の行商人は首里那覇を素
足で上ったり下りたりして商売していた)。き
ーんかい ぬぶいん/あがいん。(木に登る)。
ふいら ぬぶいん。(坂に登る)。ふいら ぬぶ
いかんていー すん。(坂に登るのに苦勞する)。
すぬひゃんうたきんかい うぐわんまーいぬ
えーさちしーが すいぬぶい すん。(園之比
屋御嶽に巡礼の挨拶をしに首里上りする)。【参】
ふいら(上り坂)、さか(下り坂)。

ぬぶいくだい すん 〈坂を上り下りす
る〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】んかし
えー くるまー ねーんたくとう、すいんかえ
ー ぬぶいくだいいっしどう あっちゆたん ど
ー。(昔は車はなかったので、首里には坂を上り
下りして行ったんだよ)。

ぬぶしーん 〈のぼせる、夢中になる〉【活】ぬ

ぶしたん、ぬぶしらん、ぬぶしてい 【例】から
じぬ ぬび ちぶるぬ っんぶく なてい ぬ
ぶしとーたくとう からじ ちみーが だんぱ
ちやーんかい っんぢゃん。(髪が伸びて頭が

重くなつてのぼせていたので、髪を切りに理容
店に行った)。あぬ すーらーさる ういなぐ
んかい ぬぶしとーてい ちむん とうやーさ
らん などーん。(あのしっかり者の女性に夢
中になっていて心も制御できなくなっている)。

ぬぶん 〈伸びる〉【活】ぬだん、ぬぼん、ぬで
い 【参】ぬぶしーん。

ぬむん 〈飲む、受け入れる〉【活】ぬだん、ぬ

まん、ぬでい 【例】ちゃんぐとう さき ぬで
いん ういーらん、あれー わりがーみどう
やん どー。(どれほど酒を飲んでも酔わない、
あの人は底なしの割れた甕だよ)。っんみぶし
ぬ さに うぬまま ぬんくだい、まぎあみぐ
わー かなさんぐとう ぬーでいーんかい か
からちやる くとうん あん。(梅干しの種そ
のまま飲み込んだり、大きな飴を噛まないで喉
にかからせたこともある)。っやーが いちや
る くとー むる ぬむさ。(あなたが言った
ことはすべて受け入れるさ)。

ぬみ どうし 〈飲み友だち〉 【例】どうし
とういねー ちゃーぬみどうしん をうしえ
ー まし。(歳をとれば茶飲み友達もいた方が
いい)。

ぬみ みじ 〈飲み水〉 【例】ぬみみじえー
すいどーから ちけーみじえー かーから
ちーさーに くでい ちかとーん。(飲み水は
水道から用水は井戸からつるべで汲んで使っ
ている)。

ぬらいん 〈叱る〉【活】ぬらたん、ぬららん、

ぬらてい 【例】うんじゆなーたー うみんぐ
わー っちゆんかい うっさなー ぶりー な
とーくとう、ぬらやーに むぬ ならーし し
みそーり よー。(お宅のお子さんは人様に大
変失礼なことになっているので、叱って道理を
教えてください)。っちゆんかい ぬらーりし
ん、っちゆ ぬらいしん めー ちもー あら
ん。(人に叱られるのも、人を叱るのもいい気持
ちではない)。【参】あっくすん。

ぬるっくいーん 〈なまぬるくなる〉【活】

ぬるっくいたん、ぬるっくいらん、ぬるっくいてい 【例】くぬ ゆーや ぬるっくいてい
ゆー たさんねー いららん。(この湯はなまぬるくて湯を加えないと入れない)。

ぬるみーん 〈ぬるめる〉【活】 ぬるみたん、ぬ

るみらん、ぬるみてい 【例】ちゃー いったい

ちゃーきどう やくとう、いふえー ぬるみていから ぬみ よー。(お茶入れたばかりだから、少しぬるめてから飲みなさいよ)。

ぬるむん 〈ぬるむ〉【活】 ぬるだん、ぬるま

ん、ぬるでい 【例】うけーめー いったい うちきとーけー、なんくる ぬるむさ。(お粥を入れて置いておきなさい、そのうちぬるむから)。

ね

ねー 〈地震〉【例】ねーぬ ゆとーたしが、あてー あていー？(地震が起きていたが、気がついてたか)。やまとうぬ まーをうてい ねーぬ ゆていん ふいるましこー ねーらん。(本土のどこで地震が起きてても不思議ではない)。

ねー 〈苗〉【例】ゴーヤーん ナーベラーん ねー こーやーに どうーぬ あたいぐわーんかい っういーてい たぬしみ そーん。(ゴーヤーもへちまも苗を買って自分の菜園に植えて楽しみにしている)。

ねーいん 〈(話し手に)物をわたす、(相手に)身体の一部を放つ〉【活】ねーたん、ねーらん、ねーてい【例】じん ねーれー。(お金をよこせ)。うり ねーてい とうらしえー／くいり よー。(それをよこしてくれ)。うれー わーむんどう やくとう とうてい ねーれー。(それは私のものなので取ってよこして)。なまー ねーららん どー。(今は渡せないよ)。しば ねーいん。(人を小馬鹿にして舌をだす)。いのー あし っんぢやする みちぬ ねーらんくとう ふいっちー しば ねーてい ハーハー そーん。(犬は汗腺がないのでしょっちゅう舌を出してハーハーしている)。ふいさ ねーいん。(足で蹴る)。ていー ねーいん。(手をだす)。しば ねーやー (人を小馬鹿にする者)、ふいさ ねーやー (足蹴りをする者)、ていー ねーやー (手を出す者)【参】「ねーいん」の対象は相手に物か、身体の一部を差し出すのを意味し、「っんぢやすん」は外向きの動作なので、*うれー わーむんどう やくとう っ

んぢやしえー (それは私のものなのでよこせ)；*くち ねーやー (口を出す者)とは言わない。

ねーいん 〈なえる〉【活】ねーたん、ねーらん、ねーてい【例】どうく あちさぬ、やしえーぬ ねーとーくとう、はんぶんでーさーにむっちいけー。(あまりにも暑くて、野菜が萎えているので、半値で持って行きなさい)。しーぬぬきてい ねーとーっさ。(性根が抜けて弱っているよ)。ていーだぬ ねーていちよーん。(太陽が弱くなってきている)。ねーやー (しなれた野菜)。

ねーぐー 〈びっこ〉【例】ねーぐーんねーっし あっちよーしが、ぬー さが？(びっこを引いて歩いているが、どうしたのか)【参】どーにー すん。

ねーとう けーとう 〈似合い、似たり寄ったり〉【例】いったー たえー ねーとうけーとう やき。(あなた方二人はお似合いだね)。ねーとうけーとうぬ みーとうんだ(似合いの夫婦)。

ねーび 〈まね〉【例】っちゆぬ ねーびっしどう ぬー やていん ないるぐとう ないる。(人のまねをしてこそ何でもできるようになる)。

ねーん、ねーらん 〈無い〉【活】ねーんたん、ねーんてい【例】くるまぬ あっちかんていー そーしが、ガソリンぬ ねーんどう あがやー？(車がなかなか動かないが、ガス欠なのかなあ)。じのー ねーのー あらん。(お金

はなくはない)。じのー ねーんていん ぢーぬ あくとう しわー ねーらん。(お金はなくても土地があるので心配はない)。

～ねーん <～してしまった> 【例】メールんーぢゆる ちむえーや ねーんたしが、ういなぐどうしからぬ めーる やたくとう ゆ

でい ねーん。(メールを見るつもりはなかったが、女友だちからのメールだったので読んでしまった)。【参】ちゅーぬ しんぶんぬ うふぐとう ゆでーをうらん(今日の新聞の大事件を読んではない);みじえー あみ? いっちえーねーん/いっちえーをうらん(水はあるか。入ってない/入ってはいない)。

の

のーいん 〈綱をなう〉【活】のーたん、のーらん、のーてい 【例】なーふあぬ うふちなふいちぬ ちなー いくたいぬ しんかぬちゃーさーに のーとーがやー？(那覇の大綱挽きの綱は何人の仲間で綱っているのかねえ)。

のーいん 〈直る〉【活】のーたん、のーらん、のーてい 【例】わらび そーいに っんぢやなー (=っんじやに) やたしが、なまー のーてい あたいめーぬ っちゅとー むる かわらん。(子どもの時にどもりだったが、今は治って普通の人とはまったく変わらない)。

のーが 〈名誉〉 【例】うやふあーふじぬ いんとうくぬ あていどう のーが などーさやー。(ご先祖の陰徳があつてこそりっぱな名誉を得ているんだね、うやふあーふじぬ のーが くいらっとーん)。じんやかー のーが どう ふくいる。(お金よりも名誉を喜ぶ)。いったー っくわー まがらぬ のーが やさ。(あなたの子は親族の誉れだよ)。

のーすん 〈直す〉【活】のーちゃん、のーさん、のーてい

のーらすん 〈仕立て直す〉【活】のーらちゃん、のーらさん、のーらち 【例】っやー ちのー のーらちやる むんどう やる め？(あなたの着物は仕立てたものか)。っやー ちのー のーしみたる むんどう やる め？(あなたの着物は仕立て直したものか)。**【参】** あちれーむん (仕立てもの)。

のーたる 〈当然の、ふさわしい〉 【例】っくわぬ うやぬ くとう すしえー のーたる / あたいめーぬ くとうどう やる。(子が親のことはするのは当然のことだ)。くまー っういーりき どうくるぬ まんどーてい、なちじんちゅらーぬ しじまうとうだるぬ っんまりじまに のーたる / うちやとーる ちゅらじま やん。(ここは観光名所が多くて、今帰仁美人の志慶真うとうだるの古里にふさわしい風光明媚なところだ)。

は、ば

は一つ 〈へえ〉 【例】は一つ、でーじ など
ーさ やー。(へえ、大変だね)。は一つ、うん
ぐとーるくとうぬ あてーさ やー。(へえ、そ
んなことがあったんだね)。

は一 〈歯〉 【例】はーぬ むし くわとーん。
(虫歯になっている)。はーやみーや にじてい
んにじらん ふしがらん あたい やむん
どー やー。(歯痛はがまんしてもがまんでき
ないほど痛いよね)。はーうちゃげーや うた
じょーじ やんでい。(歯反り返り者は歌上
手だつて)。はーかき むにーや すな けー。
(奥歯にものが詰まった言い方はするな)。くぬ
ばーじゃーや あんし うじらーさる、はー
ぎしまーっし／はーぎしぎしーっし ならんさ
[=かんくーぶしく ないさ] (この幼児はなん
とかわいいことか、かみつきたくてならない)。
はーぬ むし くわてい むぬん かまらん
さ。(虫歯になってもものも食べられないよ)。ひ
っ! はーぬ むし くわいねー、むしえー
ぬー くわいが? (へえっ、歯が虫を喰うのな
ら、虫は何を喰うの)。

は一 かき むにー 〈舌足らず〉 【例】は
ーかきむにー しーねー、っちゅんかい ぼっ
ぺーらりーる ばすん あん。(舌足らずだと
人に誤解されることもある)。

は一 もー 〈歯がないこと〉 【例】はーも
ー われー (にやっと笑うこと)。どうく くわ
ーし かみぢゅーさいねー／かだるあとー は
ーみがき さんねー、はーや むし くわてい
はーもーないん どー。(あまりお菓子を食
べ過ぎると／食後は歯磨きしないと、虫歯にな

って歯がなくなるよ)。【参】ていーもー／ふい
さもー／はなもー／きーもー (手／足／鼻／毛
のない者)、ていーむっこー／ふいさむっこー
／はなむっこー (手／足／鼻のなくなった者)。

ばー 〈の、もの、ところ、時、わけ〉 【例】
ぬー やる ばーが? (何なのか、どうしたの
か)。さんでい いーねー、ちゃーする ばー
が? (しないと言ったら、どうするのか)。あい!
みしーん さん ばーあ? (あれ、見せもし
ないのか)。うりまでい わんが わかいる
ばーあ? (そこまで私ができるものか)。なま
かんげーてい あっちゆる ばーどう やいび
ーる。(今いろいろ考えているところです)。あ
る ばーに しむくとう、はらり よー やー。
(ある時でいいから、払いなさいよ)。ちゃーる
ばーが たしかみてい くーわ。(どうい
うわけか確かめて来い)。

はーい 〈針〉 【例】わったーや はーいぬ
みーん とうーていちゃくとう、いったーが
くさむにー さんてーまん ぬーん くてーら
ん どー。(私たちは難儀も経験してきたので、
お前たちが偉そうな口のきき方をしても少しも
応えないよ)。ちかぐろー はーいぬ みーん
かい いーちゅーん ぬちえーうーさん など
ーん。(最近針の眼に糸も通せなくなっている)。

はーえー 〈駆け足〉 【例】あったに あみ
ふやーに、いっさんばーえーっし／はーえーご
んごんっし やーんかい けーたん。(急に雨
が降って一目散に駆けて家に帰った)。んかし

えー はーえーさー やたしが、わんとう はーえーすーぶっし んーぢゅみ？(昔は駆け足が速かったんだが、私と駆けっこしてみるか)。

はーがー、ひゃーがー 〈(車の) タイヤ〉

【例】っやー くるまぬ はーがーや くーきぬぎてー をうらに？(あなたの車のタイヤは空気抜けてはいないか)。

ばーき 〈ざる、かご〉 【例】あら ばーき

(目の粗いざる)、ゆな ばーき (目の細かいざる)。「ばーき」んでいしえー、だきさーに ちゅくてーる、すくぬ ふいらたー そーていしっかくーぬ いりむん やん。「ばーき」とは、竹でできた、底が平べったくて四角の容器だ。ふいらたー そーし とうれー。(平たいのを取ってくれ)。【参】そーき (ざる、=すくぬ まるさる いりむん)。

はーち 〈鉢〉 【例】はなばーちんかい みじ

かきていー？(鉢植えに水をかけたか)。

ばーばー 〈勢いよく燃えているさま〉 【例】

ふいーぬ ばーばーっし めーとーん。(火が勢いよく燃えている)。

はーべーるー 〈蝶〉 【例】はーべーるー

ぬ やーんかい ふえーりんちちーねー、とうっかちみてい ちび ふいーっし いふいぐわー やちやーに ちかーったる とうくるんかい いきよーんでい ふかんかい っんぢやすんでいーる なれーぬ あたんでい。(蝶が家に入り込んだら、捕まえて尻尾を火で少し焼きを入れて遣われたところに行きなさいよと外に出すという習慣があったって)。【参】ゆーるー。

はーや 〈柱〉 【例】んかしえー みーぢん

こーいねー、なかばーやんかい あていてい「ちのー みーくみーく ぬちえー ながーながーとう」んでい いちから ていー とうーちゃん どー。(昔は新しい服を買ったら、中柱に当てて「着物はいつまでも新しく命はいつ

までの長く」と唱えてから袖に手を通したもんだよ)。はーやぬ あまいさーに きーまっくわ ちゅくたんでい。(柱の残りで木枕を作ったんだとさ)。まちやーぐわーぬ すばんかいでいんしんばーやぬ あさ。(店の側に電柱があるよ)。やーをうてい あましーねー はーやんかい ちぶる うっち わいん どー。(家でふざけたら柱に頭をぶつけて割ってしまうよ)。なかばーや (大黒柱)。

ぱーらんくー 〈太鼓の一種〉 【例】パー

ランクー (片張りの胴の短い小太鼓)。かっちのー パーランクー ちかていぬ エイサーっし なーぬ たっちょーん。(勝連はパーランクーを使っつてのエイサーで有名だ)。

はーりー／はーれー 〈爬龍船漕ぎ〉

【例】ゆっかぬ ふいー ないねー、あじゃ、いちまんをうてー はーりーぬ あん。(旧暦の5月4日になると、安謝や糸満では爬龍船漕ぎの競争がある)。

はいん 〈流れる、走る〉【活】はたん、はらん、

はてい 【例】ふにぬ／っんまぬ はいん。(船が／馬が走る)。ちーぬ はいん。(血が出る、流れる)。ちー／あし／みじぬ はとーん。(血／汗／水が流れている)。ちちぬ はいや っんまぬ はい。(月日も馬の疾走の如し、光陰矢の如し)。

はらすん 〈流す、走らせる〉【活】はらちやん、

はらさん、はらち 【例】ちー はらすん。(血を出す、流す)。みじ はらしえー。(水を流しなさい、水を出しなさい)。あし はらしーねー、のーいん どー。(汗をかいたら、治るよ)。【参】ちーぬ えーいん (乳が出る)、ちー えーすん (乳を出す)、やなぢー とうらちやん (悪い血を吸い出してもらって来た)。

はいん 〈張る〉【活】はたん、はらん、はてい

【例】かみぢゅーさぬ、わた はとーん。(食べ過ぎでお腹が張っている)。くえーてい わた はとーくとう、あっちやーあっちやーさーに

どうー つんぢゆかすしえー まし やん
どー。(太ってお腹が出ているので、外歩きをして
体を動かすのはいいよ)。あみぬ うていて
いちゆーくとう、ふえーくなー かさ はれー。
(雨が落ちて来るので、はやく傘を開きなさい)。
いばやー やくとう、ありとー ふいらーらら
ん どー。(すぐに威張るのであの人とはつき
合えないよ)。

はいん 〈貼る〉【活】はたん、はらん、はてい
【例】ふだいりぬ しらしむんぬ あまくま
はらっとーん。(選挙のポスターがあちらこ
ちらに貼られている)。かた くふあてい やど
ーくとう、はいぐすい はてい とうらさに?
(肩が凝って痛いので、貼り薬を貼ってくれない
か)。

はいん 〈下半身を露出する〉【活】はたん、は
らん、はてい 【例】おしめ けーいんちどう
すが、ちび はてい ふいんぎまーい す
ん。(おしめを換えようとするがお尻を出して
逃げまわる)。

まる ばい 〈下半身のまる出し〉

はか 〈墓〉【例】かーみなくーばか／かーみぬ
くーばか(亀甲墓)、ふあーふーばか(破風墓)、
ふいんちゃーばか(横穴式墓)。うちなーをう
てー しーみーとう たなばたにどう うふあ
かめーんかい いちゆる。(沖縄では清明祭と
七夕のときにだけお墓参りに行く)。**【参】**はる。

はかいん 〈計る〉【活】はかたん、はからん、
はかてい
はかやー むし 〈しゃくとり虫〉【例】は
かやーむしぬ ゆだ はかとーんねーっし ほ
ーとーん。(しゃくとり虫が枝を計るように這
っている)。

はかぐち 〈仕事のし始め〉【例】くぬ わじ
やー はかぐちぬ あきらわどう ないさ や
ー。(この仕事は端緒が開かないとできないね)。
あり かんげー くり かんげーっし やっど
うかつとう はかぐちぬ あち、なー しくち

ん しー やしく などーさ。(あれこれ考え
てやっどこさ仕事の端緒が開き、仕事もし易く
なったよ)。

はかすん 〈弁償させる〉【活】はかちゃん、は
かさん、はかち 【例】うり ねーんなちやい
やんたい しーねー、はかすん どー。(それを
失くしたり壊したりしたら、弁償させるよ)。

はぎーん 〈剥ける〉【活】はぎたん、はぎら
ん、はぎてい 【例】みー はがー(結膜炎の
者)。ふいーく ないねー、くちしぼん かさか
さー なてい、かー はぎーっさ。(寒くなる
と、唇も乾燥して皮がむける)。どうく なげー
すむちびけーん ゆみーねー、あとー みー
はぎーん どー。(あまりに長く本ばかりを
読んだら、眼が充血してしまうよ)。

はく 〈箱〉【例】ちゅはく、たはく、みはく、
ゆはく、いちはく、むはく、ななはく、やはく、
くくぬはく(一箱、二箱、三箱、…、九箱)。ちゅ
らばく かめーたん。(きれいな箱を見つけた)。

ばさー 〈芭蕉、芭蕉布〉【例】くれー ばさ
ーっし ちゅくらっとーん。(これは芭蕉布で
作られている)。

ばさー ぢん 〈芭蕉布の着物〉【例】ばさ
ーっし ちゅくてーる ちんぬどう ばさーぢ
ん やる。(芭蕉布で作った服が「ばさーぢん」
だ)。

ばさ ない 〈バナナ〉【例】ばさなえー
しまーぬどう まーさる。(バナナは地元産が
おいしい)。しまばさなえー みーむなー や
さ。ばさーぬ ないむのー をうーむなー な
てい かまらん どー。(島内産のバナナは雌
だ。芭蕉の実は雄なので食べられないよ)。

はし 〈橋、はしご〉【例】やーぬ っういーん
かい はし かきてい かーら ふちやーぬ
うかーさ わじゃ そーたん。(屋根の上には
はしごをかけて瓦職人が危ない仕事をしていた)。

はじ 〈恥〉【例】はじ ちらー(恥知らず)。

はじ 〈はず、推測〉【例】っやーん いちゅしえー まし やる はじ どー。(あなたも行くのがいいはずだよ)。ちゅーる はじ やる っちゅぬ なーだ くーんしが、ぬーがなあいどう すたがやー?(来るはずの人がまだ来ないが、何かあったのかね)。

はじち 〈入れ墨〉【例】んかしえー、うちな一ぬ ういなごー ていーぬ なーんかい はじち すたん。うぬ はじちえー いや(=やー)、ふし、みんさーがら やたん。(昔は、沖縄の女性は手の甲に入れ墨をした。その入れ墨は射矢、星、緋柄だった)。

はしる 〈開戸〉【例】はしるぐち／とうぼしる(玄関)。はしる みちれー。(雨戸を閉めなさい)。はしるぐちえー うちやくぬ めんしえーるとうくま やくとう くみむのー かはらんかい ゆしとーてい ならびり よー。(玄関先はお客さんがいらっしゃるところだから、履物はそばに寄せて並べなさいよ)。

はしし 〈歯茎〉【例】ちゅくいばーぬ あたらん なてい、はししぬ ふっくいてい やどーん。(入れ歯が合わなくなって、歯茎がふくれて痛い)。

はじまいん 〈始まる〉【活】はじमितん、はじまらん、はじまてい

はじみーん 〈始める〉【活】はじमितん、まじみらん、はじみてい【例】うりが やなぐしぬ またん はじまとーさ。またん めぬぐとう そーさ やー。(その人の悪い癖がまたも始まっているよ。またも同じことをしているね)。

はじゃきーん 〈～しそこなう〉【活】はじゃきたん、はじゃきらん、はじゃきてい【例】こーらやーんでい うむとーたる ちん こーいはじゃきてい なまー ちるだい そーん。(買おうと思っていた服を買い損ねて今はがっかりしている)。あぬ さた そーたる ゑい

が んーちはじゃきたっさー。(あのうわさの映画を観損なったよ)。

ばす／ばー 〈とき、際、わけ〉【例】うぬ ばーや／うぬ ばそー／うんな ばーねー ちゃー すが?(そんな時は／そんな時にはどうするのか)。うぬ くとー ありが ちやる ばす やたしが。(そのことはあの人が来たときだったが)。っやーが あん すしえー、ちやーる ばす／ばー が?(おまえがそうするのはどういうわけか)。ぬー やる ばー が?(どういうわけか)。

はた 〈端、そば〉【例】うみばた(海端)、みちばた(道ばた)、まちばた(市場のそば)、くむいばた(池／沼のはた)。にしぬ はた(北の方面)、あがりばた(東の方面)、いりばた(西の方面)、まーぬ はた(どの方面)。ふえーぬ／にしぬ はたんかい をうとーけー。(南の／北の方にそのまま居なさい)。いったー やーや ぬふあー まー やが? わったーや ふえーぬ はた やん どー。あんしえー、うるくぬ はら やん やー。うるくぬ まーりかー やが? あかんみえきぬ みーぬ めー やん どー。(あなたの家は方角はどのあたりか。家は南の方面だよ。それじゃー、小祿方面だね。小祿のどのあたりか。赤嶺駅のすぐ前だよ)。じてんしやぬ ちゅーくとう、はたんかい なれー。(自転車が来るので、側に寄りなさい)。【参】はら。

はたかいん 〈場所を取る〉【活】はたかたん、はたからん、はたかてい【例】どーちゅいさーに うさきーなー むしる はたかてい なー いふえー っちゅぬ くとー かんげーていん しみどう すしがやー。(自分一人でそんなにむしろで場所取りをして、もう少し人のことを考えてもいいのにね)。ういなごー ふいさ はたかてー ならん どー。ふーじぬ あるぐとうっし めりよー。(女性は足を揃げてはいけない。見た目がいいように座りなさいよ)。

はたらちゅん 〈働く〉【例】はたらちゅしがどう むのー かみうーする。(働く者が食べていける)。

はだ むち 〈肌心地〉【例】うちなーやしむちち ないねー、ゐーはだむち なたい、ゐーあんべー ないん どー。(沖縄は11月になると、心地よくなって、快適になるよ)。

ばち 〈罰〉【例】やなぐとう しーねー、ばちぬ あたいん。(悪い事をすると、罰を受ける)。ちゅ あーあー しみーねー、ちゅぬばち かんぢゅん どー。(人をひどい目に遭わせると、その罰があたるよ)。うや あたらさ さんねー、うやぬばち かんぢゅん どー。(親を大切にしないと、親の罰があたるよ)。つくわ なち うっちゃんぎーねー、つくわぬばち かんぢゅん どー。(子を産んで放っておくと、子の罰があたるよ)。

ばち 〈(太鼓やどらを) 打つ棒〉【例】てーくぬ ばち (太鼓の撥)。

はち〜〈初〉【例】はちあっちー (初歩き)、はちうくし (初起こし)、はちあちねー (初商い)。うやふあーふじんかい はちぢやーとう はちみじ うさぎーん。(祖先に初茶と初水をお供えする)。くぬ うさんでーや ぬーしぬ くえーぶー やくとう、はちえー とうれー。(この供え物は主人の食にありつく果報なので、初ものは取っておきなさい)。はちなんか (=ちゅぬ けーまーち はじみていぬ なんか すーこー、初七日法事)、たんなか (二回目の七日法事)、みなんか (三回目の七日法事)、ゆんなか (四回目の七日法事)、いちなんか (五回目の七日法事)、むんなか (六回目の七日法事)、しじゅーくにち (=なななんか、最後の七日法事)、ふいーうち (1~49日の法事)。
【参】接頭辞「はち」に対して、同義の名詞「はな」があるが、しーはじみ (し始め)、しーはな (し始め) があり、はちはな (初もの) もある。

はぢーん／はぢゅん 〈脱ぐ〉【活】はぢたん、はぢらん、はぢてい／はぢやん、はがん、

はぢ 【例】ふかから ちーねー／ちやらー／けーたらー、ちのー はぢていから ゆくりよー。(外から来たら／来たら／帰ったら、服は脱いでから休みなさいよ)。ちん はぢれー。(服を脱ぎなさい)。

はちか そーぐわち 〈沖縄の正月の最終日〉【例】はちかそーぐわちねー じゅりっんまぬ あん。(旧暦正月20日はジュリ馬祭りがある)。

ばち くわいん 〈幸運である〉【活】〜くわたん、〜くわーん、〜くわてい 【例】あん やれー っやーや ばちくわとーっさー。(そうであればあなたは幸運だよ)。

ぱちみかすん 〈パチンと音をたてる〉【活】ぱちみかちゃん、ぱちみかさん、ぱちみかち 【例】むぬ なぎたい、ちゅ きっちやい する ばすねー、ていーふいさ ぱちみかきーにしちきーん。(物を投げたり、人を蹴ったりするときには、手足をパチンと打って躡ける)。

はちやー 〈蜂〉【例】はちやーんかい ささりーねー、うぬ はーい ぬぢ、くちさーに どうく すつぶやーに はちっんぢやち、ふいじゆる みじっし ふいじゅらさーに、うりから いさぬ やーんかい いちゅん。(蜂に刺されると、その毒針を抜いで、口で毒を吸い出して、冷水で洗って、それから医者のところに行く)。

はちゅん／はきーん 〈掛ける〉【活】はちやん、はかん、はち／はきたん、はきらん、はきてい 【例】くぬ くびかじゃい くびからはけー／はきれー。(この首飾りを首に掛けなさい)。くぬ ぼーじゃーや ていーんふいさん たま はち、あんし まってんぐわーくえーてい がんじゅーぎさる。(この乳児は手も足もなんとまるまると太って丈夫そうなことか)。

はちゅん 〈吐く〉【活】はちやん、はかん、はち 【例】ゆくしむにー さんぐとう まっと

ーば はけー。(嘘をつかないで正直に言いなさい)。うっさ はけーからー、まーまでいんすし やん どー。(それだけ口にしたからにはどこまでもすべきだ)。

はちやい ふいっちやい <吐いたり下したり> 【例】はちやいふいっちやい すん。(吐いたり下したりする)。

はちゆん <発つ、逝く> 【活】はちゃん、はたん、はち 【例】っやー をうとー なー しくちんかい はちー?(ご主人はもう仕事に出たか)。あぬ っちょー きっさ はち をうらん。(あの人はすでに発って(又は、逝って)しまっ居ない)。いーなぬふえーなー はち をうらん。(こんなにも早く行ってしまっ居ない)。ちれー なー むる むっち はちねーらんくとう、ちゅーや っんまんかい ちれー うちきてーならんさ やー。(ゴミはもう全部持って行ってしまったので、今日はそこにゴミは置けないね)。

はちゆん <弁償する> 【活】はちゃん、はかん、はち 【例】っちゆぬ くるま やんてい / きじちきてい ちゃーしん はかんとーならんぬー などーっさー。(人の車を傷つけてどうしても弁償しなければならなくなっている)。くれー わーがどう ばっペーてい しえーるくとう やくとう むる はちゆさ。(これは私が間違えてしたことなので全て弁償するよ)。

はかすん <弁償させる> 【活】はかちゃん、はかさん、はかち 【例】うり やんたい ねーん なちやい しーねー はかすん どー。(それを壊したり無くしたりしたら弁償させるよ)。

はちや ぐみ <もち米のおこし> 【例】はちやぐみねー しるーとう あかーぬ あてい、くーさる ばすねー やーさのーし やたん。(餅米のおこしには白と赤があって、幼い頃にはおやつだった)。

はぢゆん <剥ぐ> 【活】はぢちゃん、はがん、はぢ 【例】いゆぬ かー はぢゆん。(魚の皮を

はぐ)。しらしぐとう しえーる かペー はげー / はがしえー。(お知らせの紙は剥がしなさい)。【参】「はがすん」とも言う。

はぢゆん <配る> 【活】はぢちゃん、はがん、はぢ 【例】あれー くーさいに しんぶんはぢやー そーたん どー。(あの人は幼いときに新聞配達していたよ)。しーとう そーいねー ゆー ひこーきから びら はぢゆたん どー。(生徒の頃にはよく飛行機から宣伝ビラを撒いていたよ)。こーなんぬ やまとうぬ こーこー むる まかちやくとう けんちょーぬ めーをうてい ゆーしょーぬびら はぢよーたん。(興南が本土の高校をみんな負かしたので県庁の前で優勝の号外を配っていた)。

はぢゆん <船を造る> 【活】はぢちゃん、はがん、はぢ 【例】ふに はぢゆん。(船を造る)。

ぱったり げーやー すん <パタパタする> 【活】～さん、～さん、～っし 【例】いま いよー ぱったりげーやー すくとう なりらん ちゆのー かけみうーさん。(活魚はパタパタするので慣れない人には捕まえられない)。

はっちりーん <はじける> 【活】はっちりたん、はっちりらん、はっちりてい 【例】じゃくらぬ っんでい はっちりとーん。(ザクロが熟んではち切れている)。はっちりらわどう / はっちりていからどう かまりーん どー。(はち切れれば / はち切れてから食べられるよ)。どうく くえーてい あんし ちんぬ はっちりとーる。(あまりにも太ってあんなに服がはち切れている)。「さーたーあんだぎー」や はっちりとーしどう まーさる。(「さーたーあんだぎー」ははち切れているのがおいしい)。

はっちりら ちりら すん <はちきれそうだ> 【活】～さん、～さん、～っし 【例】ありんくりん いってーくとう ふくるぬ なまにん はっちりらちりら そーん。(あれもこれも入っているので、袋は今にもはち切れそうになっている)。

はっちゃんいん 〈出くわす〉【活】はっちゃんかたん、はっちゃんからん、はっちゃんかてい
 【例】んかしどうしとう はっちゃんかたくと、
 でいかでいか コーヒー ぬみーが いか／い
 ちゆみ んでいいち 2、3じかぬん はなし
 さん。(昔の友と出くわしたので、じゃーコー
 ヒーを飲みに行こう／行こうかといって2、3
 時間も話をした)。おーえーぬ みーんかい
 はっちゃんかたん。(けんかしているなかに出く
 わした)。ないむん とうてーる とうくまん
 かい はっちゃんかてーさ やー。っやーん む
 っちっぢやーに かめー。くえーぶー やさ
 やー。(果物を収穫したところに出くわした
 ね。あなたも持って行って食べなさい。食べ物
 の付きがあるね)。

はっとう 〈禁止〉【例】ちちゆぬ あちまい
 どうくろー てーげー たばこー はっとう
 なてい たばくふちやーや じゃーふえー な
 とーん。(人が集まる場所はだいたいタバコ
 は禁止になっていて喫煙者は困っている)。ま
 ちりぬ あくとう くぬみちえー くるまー
 むる はっとう などーん。(祭りがあるので
 この道は車はみんな禁止になっている)。

はっばいん 〈大きく見開く〉【活】はっばた
 ん、はっばらん、はっばてい 【例】みーや た
 ーちなー むっちよーてい とうめーうーさん
 どう ある め? なーふいん みー はっば
 てい とうめーれー。(目を2つ持っても
 探せないのか。もっと目を大きく見開いて探し
 なさい)。

ばっぺー 〈間違い〉【例】みちばっぺー (道
 を間違えること)、ちちゆばっぺー (人違い)、
 みーばっぺー (見間違い)、しーばっぺー (や
 り間違えること)、かちばっぺー (書き間違えるこ
 と)、にんぢばっぺー (寝違い)。いーばっぺー
 や ちちのーし。(言い間違いは補って聞きな
 さい)。っやー むのー いみくじ わからん
 どー。ばっぺーひっぺー そーさ やー。(あ
 なたのはわけがわからないよ。あれこれ間違っ

ているよ)。

はっぶがすん 〈吐き出す〉【活】はっぶがち
 ちゃん、はっぶがさん、はっぶがち 【例】ちむん
 かい ある くとく くわっくわさんぐとく
 むる はっぶがしわどう かるく ないん ど
 ー。(心にあることを隠さずにみんな吐き出せ
 ば軽くなるよ)。

はてい 〈終わり、キリ〉【例】あわりぬ
 だんだん、はていぬ ねーらん。(苦労が続い
 て、終わりが無い)。ういなぐぬ はていれー
 じゃー ないん。(女はしまいには蛇になる)。
 めーとー かわてい ゆくぬ っんぢていっち
 ゆくぢゆーく なてい、あとー はていぬ
 ねーらん ないん。(以前とは変わって欲が出
 てきてずうずうしくなると、終いには終わりが
 なくなる)。はいー (何をしでかすか解らない
 者)、=ぬーがすら わからん むん、=ぬち
 してい むん=はてい むん(命知らず)。は
 ていーな むん(どうしようもない者、=した
 たか むん=ちやーん ならん ちちゆ)、は
 ていぬ くさー (どうしようもないほど腐れ
 きった者)、はていぬ うーまくー (どうしよ
 うもない生意気者、=とういんちかみんならん
 ちちゆ)。はていぬ あんまさ などーさ。(ど
 うしようもないやっかいなことになっている)。
 はてい あんまさ (どうしようもない厄介なこ
 と)、はてい わらばー (どうしようもない餓
 鬼)、はてい ゆーくー (すごい欲張り)、はて
 い ういなぐ (何をしでかすか解らない女、*
 はていういきが=ぬーが すら わからん う
 いなぐ)。なー ゆみはていてーくとく けー
 さ やー。(もう読み終えたので返すね)。

はな 〈鼻〉【例】はな ふちゆん。(いびきをか
 く)。はな ふいーん／ふいっちよーん。(くし
 やみをする／している)。はな しぴーん。(鼻
 をかむ)。はな ししーん。(鼻をすする)。はな
 しぶいん／しっぶいん。(鼻を吸引する)。は
 な ふらちよーん。(威張っている、=はな
 たかだかー などーん)。はな かたまやー

なやーに ぬーぬ かじゃん さん。(鼻づまりになって何の臭いもしない)。はな むにー (鼻声)、はな だい (鼻みず)、はなだやー わらばー (鼻垂れ小僧)、はな しっぴらー / しっぴるー (鼻が低い者)。

はな ふういちゅん 〈くしゃみをする〉【例】はなびけー ふういちゅん。(くしゃみばかりしている)。ありんかえー むぬん いららん、はなん ふういらん っちゅ やくとう、くとうばー ゆー ちー ちきらんとーならん どー。(あの人にはものも言えない、くしゃみもできない、ことばはよく気をつけないといけないよ)。

はな しち 〈風邪 (鼻が湿気ていること)〉【例】はなしち そーん=はな ぴーぴー そーん。(風邪をひいている)。はなしちがたー あらに? (風邪ひきそうじゃないの)。はなしち かかいぎさー あらに? (風邪を引きそうじゃないの)。はなしちぬ ふえーとーくとう からんぐとう どうーん ふういじゅらすな よー。(風邪が流行っているの、ひかないように体も冷やすなよ)。

はな 〈はじめ〉【例】にーはな やくとう、ふた あきーねー なまにー すん どー。(煮始めだから、ふたを開けたら生煮えするよ)。にんぢはなに でんわぬ なやーに うりから あとー ちゃー みーぐふあいさーに にんだらんたん。(寝入りばなに電話が鳴ってそれから後はずっと眼がさえて眠れなかった)。ちゅーや たびぬ っぢはな やくとう、ほーちえー すな よー。(今日は旅の出立なので、掃き掃除はするなよ)。

はな 〈花〉

はな あたい 〈花園〉【例】やーぬ めーや はなあたい、くさーや やしえーあたい、めーなち はるわじゃ そーてい たぬしみ やん。(家の前は花園、裏は菜園、毎日畑仕事していて楽しんでいる)。

はな いちー 〈花瓶〉【例】はないちー むっちくーわ。(花瓶を持っておいで)。

はながさ 〈花笠〉【例】はながさー をう どういびけーにどう ちかいる。(花笠は踊りにしか使わない)。

はなすん 〈離す〉【活】はなちゃん、はなさん、はなち 【例】ていー はなしーねー でーじ ないくとう、とうっかちみり よー。(手を離すと大変なことになるから、ちゃんとつかみなさいよ)。

はなすん 〈話す〉【活】はなちゃん、あなさん、はなち

はなし はんがく 〈話半学〉【例】っちゅぬ あちまい どうくるんかえー いちゅしやんでい。ぬーがんでい いーねー、はなし はんがく やくとう、ちちゅる うっさー むる たみ ないん。(人が集まるころへは行くべきだとき。どうしてかと言うと、話だけでも半分は学べるということなので、聞くだけでためになる)。

はねーかすん 〈盛り上げる〉【活】はねーちゃん、はねーかさん、はねーかち

はねーちゅん 〈盛り上がる〉【活】はねーちゃん、はねーかん、はねーち 【例】じゃー はねーかさー (座を盛り上げる者、=じゃー むちゃー)。ありが ちーねー、じゃーぬ かわてい はねーちゅん どー やー。(あの人が来ると、雰囲気が変わってにぎやかになるよね)。

はばかいん 〈広い場所をとる〉【活】はばかたん、はばからん、はばかてい 【例】とうーいみちんかい はばかいんな けー。(通路に広がらないでくれ)。ふあーぬ はばかとーくとう、ちーしえー まし あらに? (葉が広がっているの、切った方がよいのではないか)。
【参】いったー あたいぐわーや あんし かん だぬ ふちゃーてい、ふういさん いららんさ。(あなたの家の菜園はかずらがあんなに茂って、足の踏み場もない)。

ばばっくわーすん 〈ごまかす〉【活】ばばっくわーちゃん、ばばっくわーさん、ばばっく

わーち 【例】あれー うちあたい する く
とう いらってい、あんいー かんいーっし
ばばっくわーちよーたん。(あの人は思い当
たるとを言われて、あれこれ言っでごまかして
いた)。ちかぐろー っんまがどう やんどー
んち うとうすい ばばっくわーち じん ぬ
ぢゆる やなむんぬ をうくとう ちー ちき
らな。(近頃は孫だよといっってお年寄りをごま
かしてお金をだまし取る悪い人がいるので気を
付けようね)。

はばちゅん 〈はかどる、さばく、たいらげる〉
【活】はばちゃん、はばかん、はばち 【例】び
んちよーや／しくちえー はばちよーみ？(勉
強は／仕事ははかどっているか)。ちゅーぬ
ういむのー むる はばちー？(今日の売り物
はみんなさばいたか)。くぬ くわっちーや
むる はばけー。(この御馳走はみんなたいら
げなさい)。

はぶ 〈毒蛇〉 【例】ハブぬぐとう かくじぬ
とうがとーる むぬんかい ハブかくじゃーん
でい いちよーん。(ハブのように顎骨が尖っ
ている者を「ハブかくじゃー」と呼んでいる)。
はぼー しでいていちゃーきぬ ぐまーぬどう
どうこー ちゅーさんでい どー。(ハブは
生まれたばかりの小さいのが毒は強いんだっ
てよ)。ハブんかい うたりーん／うたったん／
さりーん。(ハブに咬まれる／咬まれた／や
られる)。

はまいん 〈頑張る〉 【活】はまたん、はまら
ん、はまてい 【例】どうく びんちよー は
まいぢゅーさぬ、かたー ゆかいねー くふあ
とーん。(あまりに勉強に熱中したので、肩は
かなり凝っている)。していみてい／しとう
みてい うきていから にんぢゆる みーま
でい めーがめーなち るぬくとう びけー
ちゃー しーっし どうく はまいぢゅー
こー ねーらに？(朝早く起きてから眠
るときまで毎日同じことだけをしてあ
まりに頑張りすぎていないか)。

はら 〈方面、側〉 【例】あぬ はら (あ
っちの方)、ふえーぬ はら (南の方、南側)。
まーぬ はら (どの方面)。【参】はた。

はら 〈母方の親戚〉 【例】はら わかや
ー(母親が違ふ人)、しじ わかやー(父親
が違ふ人)。っやー はらー まー やが？
(あなたの母方の親戚はどこなのか)。
いったー はらどう／まがらどう やる
る？(お前たちは親族なのか)。まがら
びけーんかい はぎ よー。(親族だけに
配りなさいよ)。あつたーや はら て
いーち やん どー。(あの人たちは兄弟
だよ)。【参】ちーかー(血族)、っう
えーか(親戚)、まがら(親類)。

はらいん 〈払う〉 【活】はらたん、は
らーん、はらてい 【例】はれーむんぬ
どう うふさくとう どうーぢけー
する じんぬ いきらさん。(支払いが多
いので自分で使うお金が少ない)。ちか
ぐろー じんぬ みぐいぬ わっさく
くとう はれーぬ わっさる っちゅぬ
うほーく などーん。(近頃は金めぐり
が悪いので支払いが滞る人が増えている)。

はらい めー 〈支払い〉 【例】はらい
めーぬ あくとう、じぬんかい っわ
ーつとーぐとう ちむぬまどうん
ねーらん。(支払いがあるので、お金に
追われているようで気が休まらない)。

はらすん 〈流す、走らせる〉 【活】は
らちゃん、はらさん、はらち 【参】は
いん(流れる、走る)。

はらすん 〈晴らす〉 【活】はらちゃん、
はらさん、はらち 【例】あみ はらち
から いけー。(雨がやむのを待ってか
ら行きなさい)。やく／うらみ はら
すん。(厄／恨みをはらす)。

はりーん 〈晴れる〉 【活】はりたん、
はりらん、はりてい 【例】あみん
はりらん まーる／ばーる っんぢ
てい っんぢやん。(雨も晴れない
うちに出て行った)。ちゃー ない
がんでい うむてー をうたしが、さ
ちぬ みーた

くとう、ちむぬ はりとーん。(どうなるかと思っ
てはいたが、先が見えたので、心は晴れ晴れ
している)。っんまりどうしえー やくむち
やくとう、とうしぬ あきていどう はりやく
ない。(生年祝いの年は厄年なので、年が明
けてから厄払いができる)。

はりーん 〈腫れる〉【活】はりたん、はりら
ん、はりてい 【例】ちら／わた／に一ぶたーぬ
はりーん。(顔／お腹／できものが腫れる)。
ちぬーや ぬみぢゅーさどう あたがやー。ち
ら はとーんねー すさ。(昨日は飲み過ぎた
のかなあ、顔が腫れているようだ)。

ばりん 〈たわし〉 【例】ふかから けーて
い ちーねー かーをうてい ばりんさーに
ていーん ふいさん あらていから うちんか
い いーん どー。(外から帰って来たら井戸
でたわしで手足を洗ってから家の中に入るんだ
よ)。「参」「さーら」とも言う。

はる 〈耕地〉 【例】はる あっチャー(農業従
事者)。はる あっちゅん。(農業をする)。はる
んかい いちゅん。(田畑に行く)。やーぬ く
さーぬ あたいぐわーんかい どうーくる ち
ゅくてーる びら やくとう、はるさーたーぬ
ぐとー あらん、かーげー わっさしが、か
むみ?(家の裏で自分で作っているネギなので、
農作人たちのようではなくて、見かけは悪いが、
食べるか)。はる ちゅくてい しち まてい。
(畑を耕して植え付け時期を待て)。

はる 〈墓〉 【例】はる まぶやー(墓で「ま
ぶやー ぐみ(落とした魂を込めること)」を
すること)。まぶやー ぐみ さんねー、だや
ーぐわー なすん どー。(魂込めをしないと
精気が抜け出た状態にしてしまうよ)。はる
すーじ(墓のお祝い)。みーばか ちゅくたん
どー。(新しい墓をつくったよ)。「参」はか。
【参】ふーる まぶやー(便所から不動明神をお
呼びして「まぶやー ぐみ」をすること)。

はろーじ、っうえーか はろーじ

〈親族〉 【例】はろーじびけー うんちけーさ
びたん どー。(親族だけを案内したんですよ)。

ばんじ 〈さなか〉 【例】むぬ かどーる ば
んじに ていでん なてい むぬん かまらん
なたしが、あやーや 「はなぬ しチャー
くち」んでい いち わらわちゃん。(食事を
しているさなかに停電になって食事もできなく
なったが、母は「鼻の下は口」と言って笑わせ
た)。むぬ しこーいむこーい そーる ばん
じに でんわびけーっし かしまさぬ。(食事を
準備しているさなかに電話ばかりでうるさく
てならない)。なま っやーや さらばんじ
やさ やー。(今あなたは絶頂期だね)。

はんじょー すん 〈栄える〉【活】～さ
ん、～さん、～っし 【例】あまー んかしから
あちねー そーしが、なまぬ つくわっんまが
ぬ でーまでいん はんじょーそーん。(あの
家は昔から商売しているが、現在の子どもたち
の代までも栄えている)。

はんすん 〈はずす〉【活】はんちゃん、はんさ
ん、はんち 【例】バンド／うーび はんすん。
(バンド／帯をはずす)。あれー わったーから
はんさな。(あの人は私たち仲間からはずそ
うよ)。「参」はんでいーん(はずれる)。

はんち げーいん 〈はね返る〉【活】～げー
たん、～げーらん、～げーてい 【例】うぬ ない
むのー はんちげーとーしどう かまりーん
どー。(その果物は跳ねっ返っているのが食べ
られるよ)。ちゃんぐとう ないんでいーる
くとうん かんげーらんぐとう さーに、どう
ーぬ っういーんかい はんちげーてい ちょ
ーさ やー。(どういうことになるということ
も考えないでして、自分の身の上に跳ね返っ
て来ているんだね)。

～はんすん 〈～機会をうしなう〉【活】～はん
ちゃん、～はんさん、～はんち 【例】とういはん
すん。(取りそこなう)。っやーや ちゅーしぬ
にーさくとう、かみはんちよーしえー。(あ

あなたは来るのが遅いので、食べ損なっているのさ)。くわっちー かみはんち、っやーや ふにびけーん なていから ちゅーみ? くえーぶーぬ ねーんさ やー。(ごちそうを食べ損なって骨だけになってから来るのか。食べ物の付きがないね)。がくむん しーはんちやる くと う なま なてい くーくえー そーん。(学問をする機会を失ったことを今になって後悔している)。いちえーが ちゅーる かーじ いちえーはんちよーる どうしぬ をうん。(逢いにくるたびに逢い損なっている友人がいる)。あぬ ゑいが んーでーやーんでい うむとーたしが、ちゅらーさ わしてい んーぢはんちやん。(あの映画は観ようと思ったが、すっかり忘れて観そこなった)。チケット めーかにてい こーたしが、ちゅらーさ わしてい しばい みーはんちやん。(前売り券を購入したが、すっかり忘れて芝居を観そこなった)。

はんた 〈端〉 【例】はんたゐー しーねー どうげーりーん どー。(端っこ座りをするときひっくり返るよ)。

はんだま 〈はるたま、水前寺菜〉 【例】はんだまぬ しろー いるぬ うていてい むらさちっんむぬ いるぬぐとう ないん。(水前寺菜の汁は色が落ちて紅芋の色ようになる)。

はんちゅん 〈はじく、まく〉 【活】はんちやん、はんかん、はんち 【例】っやーや いーし ちかんねー／ちかんだれー はな はんかりーん どー。(おまえは言うことを聞かないと鼻をはじかれるよ)。ちゅらすがい さーにかばーぐわーん はんけー。(きれいに装って香水もつけなさい)。まーす はんかったん。(塩をまかれた)。【参】みじ くんちやきらってい よー (水をひっかけられてねえ)。

はんでいーん 〈ほどける〉 【活】はんでいたん、はんでいらん、はんでいてい 【例】くじ

こーたしが、むる はんでいたん。(くじを買ったが、すべてはずれた)。っんぢちやーっんぢちやー すくとう、うーびや はんでいていちゅーん。やくとう、ちゅーくねーん しみとーちゅし どー。(動くので、帯はほどけてくる。それで、かなりきつく締めておくのだよ)。かんげーよー けーたくとう うみーやみーや はんでいとーん。(考え方を変えたので思い悩みから解かれている)。

はんぶぬー 〈半分、半丁〉 【例】とーほーはんぶぬー うていくいれー。(豆腐は半丁売ってくれ)。

ばんみかすん 〈ボタンと音をたてる、思い知らせる〉 【活】ばんみかちゃん、ばんみかさん、ばんみかち 【例】かじぬ ばーばー そーる ばすねー、はしろー みちとーかんねー ばんみかち ていー やますん どー。(風が強いときには、戸は閉めておかないとボタンと急に閉まって手をケガするよ)。まるけーてい ふいーらーぬ をうたくとう、スリッパさーに ばんみかちゃん。(久しぶりにゴキブリがいたので、スリッパで思い切りたたいた)。プロレスぬすーぶをうてい うみちっとう きらってい ばんみかち ちゅーく とーりていん しぐ たちあがいん。うったー どうーや ちやーが なんとーら?(プロレスの試合では思い切り蹴られてバンと強く倒れてもすぐに立ち上がる。あの人たちの体はいったいどうなっているのか)。

はんめー 〈ご飯〉 【例】っやー はんめーや あみ?(あなたのご飯はあるか)。はんめーぬ ちりとーん。(飯米が切れている)。ていがねー さしが、はんめーでーん ちゅーや ねーんたん。(手伝いをしたが、ご飯代も今日はなかったよ)。

ひ、び

びーちゃー 〈もぐらの一種〉【例】びーちゃーぬ なちぐいーや たーち あてい、びちびちーっし なちーねー じんぬ いーん。くちゅくちゅくちゅんでい なちーねー いりわいぬ うきーん de いる しらし やんでい。「びーちゃー」の鳴き声は2つあって、びちびちーと鳴いたらお金が入る。くちゅくちゅくちゅと鳴いたら口論が起こるといふ知らせだっせき。

びけー／びけーじ／びけーん／びかー 〈だけ(限定)〉【例】とーびけー／びけーじ／びけーん (10 だけ)。いくちびけーやが?(どれだけなのか)。セールや ちゅーびけーじどー やいびーん どー。(セールは今日だけです)。うちなーびけーん やさ。(沖縄だけだよ)。っやーびけー やん どー。(あなただけだよ)。あまびけー やさ。(あっちだけだよ)。っまびけー やさ。(そこだけだよ)。

びじゅる／びんじゅる 〈竜宮の神が祭られている拝所の霊石〉

びちー 〈べき〉【例】っやーや いーびちー／しーびちー くとー そーみ?(あなたは言うべき／すべきことをしているか)。ぎんこーんかい あじきびちー むのー やーんかい うかんぐとー むっち っんぢー? やーんかい じん うちきてー ならん どー。(銀行に預けるべきものは家には置かないで持って行ったか。家に現金を置いてはだめだよ)。

ひっくわーすん 〈ひく〉【活】ひっくわー

ちゃん、ひっくわーさん、ひっくわーち 【例】みちなかい まやーぬ くるまんかい ひっくわーさつとーたん。(道路で猫が車に轢かれていた)。

ひやーがいん 〈干し上がる〉【活】ひやーがたん、ひやーがらん、ひやーがてい 【例】うみばたんかい さぎらつとー いちやぐわーや ひやーがてい くふあとーたん。(海端に下げられているイカが干し上がって固くなっていた)。

ひやみかすん 〈気合いを入れる〉【活】ひやみかちゃん、ひやみかさん、ひやみかち 【例】あれー しかしか そーてい いぢりぬ ねーんくとー、ひやみかさーに いぢりぐわー ちきれー。(あの人は落ち着かなくて意気地が無いので気合いを入れて意地をつけなさい)。

ひよーし 〈偶然、機会〉【例】あま っんぢん くま っんぢん むぬ っちゅとー はっちやかいる くとー ひよーしえー やしが、ふいるましー くとー やん。(あっちへ行ってもこっちへ行っても同じ人と出くわすことは偶然だが、不思議だねえ)。ありとー どうしやれー、うちなーぐち ちかいる むー ひよーし やさ。(あの人と友人なら、沖縄語をつかう好い機会だよ)。

びら 〈ネギ〉【例】びらー ちぶるぬ をうたい とうてい、ちりびらーや みーぬ をうたい とういんでい。(ネギは頭の疲れをとって、ニラは目の疲れをとるんだっせき)。すばじる

んかえー びら いりーねー かばく なてい
いっぺー まーさしが、ちりびらーや あね
ー あらん。(そば汁にネギを入れると香ばし
くなってとてもおいしいが、ニラはそうではな
い)。

びんがた 〈紅型〉 【例】 びんがた ちん

あいびーみ?(紅型の着物ありますか)。わんね
ー まーち、だき、っんみぬ びんがたぬ し
ち やん。(私は松竹梅の紅型が好きよ)。

びんしー 〈酒や水を入れる道具、瓶子〉 【例】
びんしー しこーれー。(「びんしー」を準備し
なさい)。

ふ、ぶ

ふいーてい 〈不得意〉【例】 っちゅぬ
めーんかい っんぢーしえー ふいーてい や
さ。(人の前に出るのは得意ではない)。うた
うたいしえー ふいーてい やん。(歌を歌う
のは不得意だ)。

ふいん 〈降る〉【活】 ふたん、ふらん、ふてい
【例】 うみんちゅが いーしえー、くちかじぬ
ふちーねー あみぬ ふいんでい。(漁師が言
うには、東風が吹いたら雨が降るって)。

ふいん 〈掘る〉【活】 ふたん、ふらん、ふてい
【例】 あな／ぢー ふいん。(穴／地面を掘る)。
ふい っんぢやすん 〈掘り出す〉【活】 ~っ
んぢやちゃん、~っんぢやさん、~っんぢやち
【例】 うちなーぬ ぢーんかい なーだ にんと
ーる みくち ふいっんぢやちからどう やー
にんじゅぬ めーんかい けーらりーる／けー
さりーる。(沖縄の地にまだ眠っている遺骨を
掘り起こしてからこそ遺族のもとに帰ることが
できる／返すことができる)。

ふいん 〈振る〉【活】 ふたん、ふらん、ふてい
【例】 しょーがくしーぬ くる ぶーらんこー
ぬやーに、たーが まぎーく ふゆーすがん
でいち すーぶ そーたん。(小学生の頃ブラ
ンコに乗って、誰が大きく振ることができるか
と勝負をした)。ハワイぬ もーえーぬ くし
どうーぶに ふとーる しがたー なみぬ
ゆりとーるぐとう やん。(ハワイのフラダン
スの腰骨を振っている姿は波がゆれている様で
ある)。わんにん まじゅん そーてい っん
ぢとうらしよーんでい どうーんかい しがた

しが、っやーや っちゅいっし をうとーけー
んでいち ふらったん。(私も一緒に連れて行
ってくださいとすがりついたのに、あなたは一
人で居なさいと嫌がられた)。

ふい けーすん 〈(病気が) 再び悪化する〉
【活】 ~けーちゃん、~けーさん、~けーち 【例】
ふいけーしーねー のーいぐりさくとう、どう
ーや ちゃー くくりり よー。(ぶり返すと
治りにくいので、体はいつも用心しなさいよ)。

ふー 〈幸運〉【例】 ぬーが やら あさから
ちむぬ なんかーんたくとう たびんかい い
かんたれー、うぬたびぬ くるまぬ じこぬ
あてい、わんねー ふーぬどう あてーさ。(な
ぜか朝から気が進まな買ったので旅行に行かな
かったが、その旅行の車の事故があって、私は
ほんとに好運だったんだね)。

ふー 〈穂〉【例】 っんにぬ ふーぬぐとう
っちゅにんぢぬん みーぬ いらわ くび を
うーりり。(稲の穂のように人間も実が入れば
首を折るものだ)。

ふー、なれー 〈風習〉【例】 やーぬ／むら
ぬ ふー (家の／村の習わし)。うちなーぬ
なれーや とーからぬ ながりん うふさん。
(沖縄の風俗は中国からの影響も多い)。

ふー 〈帆〉【例】 ふーだかぶにぬ とーりや
っさるぐとう、っちゅにんぢぬん ちむだかー
ないねー ふいられーぐりさん。(帆の高い
船は倒れやすいように、人間も高慢になると付
き合いにくい)。

ふー 〈はい〉 【例】しーじゃー しーじゃ
 なち、「うー」、「ふー」どう すん どー。(年
 上は年上として扱い、尊敬の「うー」「ふー」を
 使うんだよ)。「いー」、「ひー」っし ふいじ
 しん しむん。「(「いー」「ひー」で返事して
 もいい)。うー、やいびーん どー。(はい、そ
 うですよ)。いー、やん どー。(はい、そうだ
 よ)。あぬ やー ふー。(あのですね)。っやー
 さーに いち どうらし よー ひー。(あな
 た、言ってちょうだいね)。っやーから さち
 ゆーふる いれー ひー。(あなたから先に風
 呂に入んなさいよ)。うんじゅから ゆーふる
 さち な(い)みそーり よー ふー。(あな
 たから風呂は先に入ってくださいね)。っやー
 かめー/いけー/くーんけー/いかんけー
 ひー。(あなた、食べなさい/行きなさい/来な
 いで/行かないでね)。

ふーかさー 〈ほら吹き〉 【例】あれー ふ
 ーかさー やくとう、ありが いーしえー が
 っていん すな よー。(あの人はほら吹きだ
 から、あの人が言うことは信用するなよ)。

ふー 〈頬〉

ふー くぶー 〈頬くぼみ〉 【例】っやーや
 わらいねー、ふーくぶーぐわーぬ っんぢー
 ん やー。(あなたは笑うとえくぼが出るね)。

ふー けーいん 〈ふくらむ〉【活】ふーけー
 たん、ふーけーらん、ふーけーてい 【例】むち
 /まーいぬ ふーけーいん。(餅/鞠がふくら
 む)。

ふー けーらすん 〈ふくらます〉【活】ふー
 けーらちゃん、ふーけーらさん、ふーけーらち
 【例】ぶーかーんかい くーき いってい ふ
 ーけーらしえー。(風船に空気を入れてふくら
 ましなさい)。

ふー たい 〈頬たれ〉【活】ふー たやー〈頬
 が垂れている者〉 【例】くぬ いんぐわーや
 ふーたい そーん やー。(この犬は頬が垂れ
 ているね)。

ふーち 〈流行病〉 【例】なま ふーちぬ ふ

えーとーくとう、ていー あらてい、ぬーでい
 ーん がらがらーっし ゆしぢ、ゆー くくり
 り よー。(今流行病が流行っているので、手を
 洗って、うがいをし、注意しなさいよ)。

ふーち 〈モグサ〉 【例】わらび そーいに
 なちぶさー のーするたみに わたんかい ふ
 ーちさーに やーちゅー さったん。(子ども
 の頃に泣き虫を直すためにお腹にモグサでお灸
 をされた)。

ふーぢ 〈流儀、風采〉 【例】くまー くまぬ
 ふーぢさーに すん どー。(ここはこの
 流儀ですよ)。なー めーめー ふーぢ あ
 るぐとう しーよー やー。(各自様になるよ
 うにしなさいよ)。ふーぢえー あるぐとう、す
 がてい あっき よー。(様になるように、装っ
 て外出しなさい)。ふーぢえー ねーらん く
 とー すな よー。(みっともないことはする
 なよ)。ありが しーよー、いーよー ふーぢえ
 ー ねーらん。(あの人の仕方、言い方がみっと
 もない)。

ふーぢー 〈なりふり〉 【例】しんしー/い
 さ/でいきやー ふーぢー やさ やー。(先
 生/医者/秀才の身なりだね)【参】しんしー
 /いさ/でいきやーぎさん(先生/医者/秀才
 のようだね);しんしー/いさ/でいきやーら
 ーさん(先生/医者/秀才のようだね)。

ふーち ばー 〈ヨモギ〉 【例】んかしえ
 ー どうーぢゅーく するたみんでいち、ふー
 ちばー ちちちゃーに んぢゃじる ぬまさっ
 たん。(昔は体を強くするためにとって、ヨモ
 ギをつついて苦汁を飲まされた)。

ふー ぢら 〈頬〉 【例】ゆちぐにぬ わら
 びんちゃーや りんごぬ ぐとう ふーぢらー
 まっかーらぐわー そーん。(雪国の子ども
 たちはりんごのように頬を真っ赤にしている)。

ふーなー 〈ふり〉 【例】でいきやー/しっ
 ちよーる/ないん/わかいん/んーだん/しら

ん ふーなー すな けー。(秀才／知っている／できる／解る／観た／知らないふりをするな)。うしだまてい わからんふーなー そーしが、ぬーんくいーん わかとーん。(おし黙ってわからないふりをしているが、何でもわかっている)。あれー にんとーんふーなーっし はなしえー むる ちちよーたんでい どー。(あの人は寝ているふりをして、話はみんな聞いていたってよ)。っちゅぬ くとう やくとう、んーだんふーなー／ちからんふーなー そーん。(他人のことなので、見ないふり／聞けないふりしている)。ぬーん すしえー ねーん たくとう、しらんふーなーっし やーんかい けーたん。(何もすることはなかったので、知らんふりをして家に帰った)。

ふーび 〈褒美〉【例】まるふいーじーぬ うくねーぬ ゆたさくとう、からだかふーや ぐふーび やさ。(常日頃の行いがいいので、健康なのはご褒美だよ)。

ふーりんなー 〈ほうれん草〉【例】ふーりんなーや とーふとう ししとう っんぶさー しーねー いっぺー まーさん。(ほうれん草は豆腐と肉で煮込みにすると、とてもおいしい)。

ふか 〈外、他〉【例】やー なれーどう ふかなれー。(家庭での行儀が外でもそのまま出る)。っやーふかに たーが ないが? ふかねー たーん をうらん。(あなたの他に誰がいるか。他には誰もいない)。やーぐまいびけーさんぐとう、まるけーていなーや ふかかんかい ちむ とうめーいが っんぢくーわ。(家に閉じこもってばかりいないで、ときには外に出て気分転換しておいで)。あれー やーぬくとうん ならん、をうとうぬ くとうん さん、ふかまーるーびけー そーん。(あの人は家事もできない、夫のこともしない、外出ばかりしている)。

ふかから ちやー 〈外着〉 反意語は、やーから ちやー／やーからー (普段着)【例】ふか

からちやーどう やくとう、やーぬ むんとーまじゅのー あらいな よー。びちぬ ちんから いるぬ ちちやい、ちーち くーなてい ふかから ちちえー あっからん ないん どー。(外着なので、普段着とは一緒には洗うなよ。別の服から色が付いたり、縮んで小さくなって外に着て歩けなくなるよ)。【参】「ふかからー」とも言う。

ふかすん 〈沸かす〉【活】 ふかちゃん、ふかさん、ふかち 【例】やっくわん めしてい ゆー ふかさーに ちゅーかーんかい ちゃーいれー。(やかんに湯を沸かして急須にお茶を入れなさい)。

ふかすん 〈(芋を)煮る、(まんじゅうを)蒸す〉【活】 ふかちゃん、ふかさん、ふかち 【例】っんむ／まんじゅー ふかすん。(芋を煮る／まんじゅうを蒸す)。【参】っんぶすん。

ふがすん 〈穴をあける〉【活】 ふがちゃん、ふがさん、ふがち 【例】ちむ ふがすん。(満足させる)。ちむ ふぢゅん。(満足する)。いんぐわーんかい ちび くーらってい ずぼんに ちゅらーさ みー ふがさったん。(犬にお尻を咬みつかれてズボンにおおきく穴をあけられた)。わらび そーいに はーいさーに ぶーかーふがしえー っし あしだん。(子どものときに針で風船に穴開けして遊んだ)。うさきーぬ じょーのー (=ぐむち) ふがちえーさ やー。ちゃーする ちむえーが やー?(そんなに大きな公金を使い込んでいるね。どうするつもりかねえ)。【参】むら ぐむち (村の公用物)、ぱっちー くわーえー (めんくい取り)、びーだま くわーえー (おはじき取り)。

ふぎーん 〈穴があく〉【活】 ふぎたん、ふぎらん、ふぎてい 【例】くぬ やっくわのー／ゆーわかさーや みじぬ たとーしが、みー ふぎてー をうらに?(このやかんは／湯沸かしは水が垂れているが、穴があいてはいないか)。みー ふがー、ふぎむん (底に穴のあいた道具)。

ぶかりー 〈縁起が悪いこと〉【例】あさん
なーらから／しとうみていから あびやーてい
ーやー しーねー、うぬ ふいーや ぶかりー
ないん どー。(朝っぱらから／早朝から文
句をいうと、その日は縁起悪くなるよ)。ぶかり
ー ないくとう いちむしえー いったー な
らん どー。(縁起が悪くなるから動物は入れ
てはいけないぞ)。

ふぎ 〈欠損〉【例】くんちちえー ぶげー
ねーらに？(今月は欠損はないか)。

ふきーん 〈さえずる〉【活】ふきたん、ふきら
ん、ふきてい【例】とういぐわーぬ ふきてい
ちちぐとう やん やー。(小鳥がさえずっ
て耳に心地よいね)。そーみなーぬ たかぶき
けーちけーち する むのー ちむに ふい
びち ちむん あらーりーんねー すん。(メ
ジロが高鳴きをし合うのは心に響いて心が洗わ
れるようだ)。なーぬ きーぬ っういーをう
てい とういぬ やなぶき そーる ばすねー
はぶぬ をういが すら わからんくとう
ちー ちきり よー。(庭の木の上で小鳥が変
な鳴き声をするときはハブがいるかもしれない
ので、気をつけなさいよ)。

ふきーん 〈くぐる〉【活】ふきたん、ふきら
ん、ふきてい【例】まやーぬ かちぬ みーか
ら ふきーん。(猫が藪の中をくぐり抜ける)。
どうーぬ っういーんかい さわい ないる
くとー どうーくる ふきーる くとうぬ な
ていどう どうーぬ みち ふいらちゆる く
とうん ないさ。(自分の身の上に障害になる
ことは自分自身で抜け出ることができてこそ自
分の道を開くこともできる)。

ふきーん 〈老ける〉【活】ふきたん、ふきら
ん、ふきてい【例】うやぬ ふきーねー っ
くわぬちやーや うや あたらさっし ながぬ
ち みしーるぐとう すしどう うやっくわ
やる。(親が老けると子どもたちは親を大切に
して長生きするようにすることこそが親子であ
る)。

ふく 〈肺〉【例】ふくまーみ(心臓)、たき
ーまーみ(腎臓)、ちむぐわー(肝臓)。うちな
ーをうてー くんちぶすく ないねー、ししぬ
ふく、ふくまーみ、たきーまーみ、ちむぐわ
ーとう ちでーくに、ちりびらー、ふいる ぐ
ー なち、んーすん かたがたーとう いった
い、しんじむん ちゆくやーに くんち ちき
ーん。(沖縄では元気がなくなると、豚の肺、心
臓、腎臓、肝臓とにんじん、ニラ、にんにくを
混ぜて、味噌もたくさん入れて、おつゆにして
元気をつける)。

ふぐい 〈ふぐり〉【例】いん まやー ちか
ないる ばすねー／ばーねー、いん まやーぬ
ふぐい とういん。(ペットとして飼う場合
には犬や猫のふぐりを除去する)。

ふくい 〈ほこり〉【例】ふくいぬ みーんか
い いっち みーぬ やどーん。(埃が目に入
って目が痛い)。ちんぬ ふくい はれーうと
うしえー。(服のほこりを払い落としなさい)。
んなやー なてい、ふくいぶったー そーん
やー。(空き家になって、埃だらけになっている
ね)。みーにん みーらん、ていーにん とうら
らん ふくいぐわー やしが、ていーだぬ あ
たいねー みーに みーゆん。(目にも見えな
い、手にも取れない小さな埃だが、陽がさすと
目に見える)。

ふくいん 〈喜ぶ〉【活】ふきたん、ふくらん、
ふくてい、われーふくいを参照【例】にーびち
っし ふくとーたん。(結婚して喜んでいた)。
しけんに うかてい ふくとーたん。(試験に
合格して喜んでいた)。あまぬ やーや っん
まが もーきてい いっぺー ふくとーたん/
ふくらしゃ そーたん。(あの家は孫を授かっ
てとても喜んでいた)。

ぶくー 〈不器用〉【例】ぶくーな むん(不
器用な者)。ぶくーや まんがたみー。(不器用
は担ぐことだけで精一杯)【参】ていぐま(手
先が器用なこと)、ていーぐまー(手が小さい
者)。

ふくぎー 〈産毛〉【例】なまぬ ういきが
わらびぬ からじえー、たましぬぎてい たっ
ちよーる ばすぬ ふくがーぬ ふくぎーんか
い ゆー／まったち にちよーん。(現代の男
の子の髪は、びっくりして立っている際の烏骨
鶏の産毛によく／そっくり似ている)。

ふぐ すん 〈処分する〉【活】～さん、～さ
ん、～っし【例】てーしちな かちむん どう
ーかっていーさーに ふぐ さったん。(大切
な書き物を自分勝手に処分された)。

ふくたー 〈ボロ〉【例】ちんぬ みーや
くーっし、ボタンぬ ねーん などーらー ボ
タンぐわー ちきてい、やーをうてー ふくた
ー やていん しみどう する。(服の穴は塞
いで、ボタンが無くなっていたらボタンをつけ
て、家ではボロでも構わない)。やーからちや
ーや／やーからーや ふくたー やていん しむ
ん。(普段着はボロでもよい)。

ふくたー むし 〈みの虫〉【例】くーば
ぬぐとう ゆだんかい いーちゅーさーに さ
がとーる ふくたーむしえー、まーから ふく
たー ふいらていっち やーぢゅくい そーが
やー? ふいるましー いちむし やん。(ク
モのように枝に糸で下がっているみの虫はどこ
からボロを拾ってきて家造りをしているのか。
不思議な生き物だ)【参】ふいらいん、かめー
いん(拾う)。

ふくぢ 〈フクギ〉【例】やーぬ まーいん
かい っういーらっとーる ふくぢえー、てい
ーだん くわっくわち かーぎ ちゅくいくと
う しだかじ うくてい、うふかじぬ ばすぬ
ー かじかたかっし やー まむていとうらす
ん。(屋敷の周りに植えてあるフクギは陽を遮
って陰をつくり涼風を送って、台風の際には風
よけになって家を護ってくれる)。

ふくちち 〈悪臭を放つゴミ〉【例】まやーぬ
ふくちちかー そーし きじやーすん。(猫
がゴミだらけなのをかき乱す)。ふくちちえー

ほーちがちっし しじみらんだれー かじや
すん どー。(ゴミは掃いて処理しないと臭
うよ)。ふくちち かじや すん。(ゴミの悪
臭がする)。キャンプぬ あとうぬ ふくちち
かー そーしえー しじみらんねー、まやーぬ
あさぐてい うふやま ちらかさりーん ど
ー。(キャンプのあとのゴミ山は処理しないと、
猫があさってさんざん散らかされるよ)。

ふくっとう すん 〈不服な様をする〉
【活】～さん、～さん、～っし【例】ふくっとう
そーたん。(不服そうだった)【参】類似表現と
して、がっていのー あらんたん(納得しては
いなかった);あねー あらん ちら そーた
ん(そうじゃないという顔をしていた);うむ
さぎさーや しえー をうらんたん(おもしろ
くは思っていなかった);くさみちよーんねー
そーたん(いらだっているようだった);ぷ
ーぷー そーんねー すたん(怒っているよう
であった)。

ふくふく すん 〈いい香りがする〉【活】～
さん、～さん、～っし【例】やーぬ うちまでい
ふくふく そーくとう、なーぬ げっかびじ
んぬ まっくらしん なてい さちえーさや
ーんち しぐ わかたん。(家の中までよい香
りがするので、庭の月下美人が暗くなって咲いた
んだとすぐわかった)。

ふく まーみ 〈心臓〉【例】ししぬ ふ
くまーみ こーやーに しんじてい ぬみーね
ー、どーむち やしく ないん。(豚の心臓
を買って煎じて飲むと、体調がよくなる)【参】
ふく。

ふさ すん 〈欲する〉【活】～さん、～さん、～
っし【例】つくわ／やー／くるま／どうし
ふさすん。(子／家／車／友を欲しく思う)。っ
ちゅにんぢのー っうえーき すしやかー の
ーが ないしどう ふさする。(人間は裕福に
なるよりも名誉を得るのを欲している)。

ふさぢゅん 〈ふさぐ〉【活】ふさぢゅん、ふ

さがん、ふさぢ 【例】ちむぬ ふさぢょーん。
(気持ちがふさぎ込んだ状態である)。ちむふさ
ぢ そーん。(気持ちがふさぎ込んだ状態であ
る)。っちゅぬ みーぬ めー ふさぐなけー。
(人の目の前をふさぐな)。っちゅぬ みちえー
ふさぐなけー。(人の歩む道をふさぐな)。っ
くわぬ くとう しわっし、ちゃー ちむ ふ
さぢょーん。(子のことを心配して、いつも心が
ふさぎ込んでいる)。

ふし 〈星、運氣〉 【例】ななち ぶしえー
にーぶんかい にちょーん。(北斗七星はひし
やくに似ている)。にーぬふあ ぶしえー ゆ
る はらす ふにぬ みあてい なてい にし
ぬ むていをうてい/ぬふあんかい あかがと
ーん。(北極星は夜航行する船の目印となって
北の方角で輝いている)。くとうしえー やく
どうし やくとう うんち ちゅーみらわどう
やる。(今年は厄年なので、運気を強めないとい
けない)。ふしぬ やーうーちー そーる
ばすに うにげーぐとう しーねー かないん
でい どー(流れ星にお願いごとすると叶うっ
てよ)。

ふし 〈節〉 【例】わん みーや ふしぬ み
ーや あらん どー。(私の目は節穴ではない
ぞ)。っやー みーや ふしぬ みーどう や
る あ?(あなたの目は節穴なのか)。

ふしぢゅん 〈防ぐ〉【活】ふしぢゃん、ふし
がん、ふしぢ 【例】でーじ ならん めーに
ふしぢ をうかんとー ならん どー。(大変
なことにならない前に防いでおかないといけな
いよ)。

ふすん 〈干す〉【活】ふちゃん、ふさん、ふし
【例】ちん ふすん。(着物を干す)。うちな
ーぢのー ていーだぶし さんぐとう しだか
じんかい あていてい かーぎぶし すし や
ん。ていーだぶし しーねー、いる ぬぎてい
ちんぬ かたん くーりーん。(沖縄の着物
は陽に干さないでそよ風にあてて陰干しするも

のだ。陽に干すと、色が抜けて着物の型くずれ
する)。

ふし むん 〈干し物〉 【例】なまー ちん
かーらかさーぬ あくとう、ふしむのー ふ
かんかい ふさんていん しむるぐとう など
ーん。(今は乾燥機があるので、干し物は外に干
さなくてもよくなっている)。

ふす 〈へそ〉 【例】てんぶす(出べそ、突起
したへそ)。なちぶさー ないねー てんぶさ
ー ないん どー。(泣いてばかりいると出べ
そになるよ)。っくわ なちやるあとう ふす
ぬ とうりーねー、からじぎーとう ぐー な
ち あたらさっし かじみとーちゅん。(子を
産んだ後へそがとれると、髪の毛と一緒にして
大事にしまっておく)。

ふすく 〈不足〉 【例】うぐわん ぶすく(祈
り不足)、しー ぶすく(やり足りないこと)。
いー ぶすくぬ あてい えーていんかい ち
む とうーさらんたん。(ことば不足で相手に
思いを通せなかった)。うぐわん ぶすくぬ
あいねー、いちみん めーねー あがからん
ないん。(祈り不足があっては、生きている人も
前には進めなくなる)。

ふだ いり 〈投票〉 【参】いりーん。

ふちき 〈繊維くず、髪の毛くず〉 【例】っやー
くしながにんかい からじぶちきぬ たっく
わとーん。(あなたの背中に髪の毛の抜け毛がくっ
付いている)。ちん のーやー やくとう、ふち
きぬ うほーくなー っんぢーさ。(洋裁専門
なので、繊維くずがたくさん出るよ)。

ぶちくん/ぶちげー 〈気を失いそうな状
態〉 【例】くんち ぶらーり そーる ばす
に、ぶちくん/ぶちげー などーんでい いー
ん。(めまいして倒れそうになっているとき、気
を失いそうになっていると言う)。

ふちばんた 〈断崖〉 【例】ふちばんたんか
い たっち しちゃ んーちーねー いっぺー

ふいさはごーさん。(断崖に立って下をみると足下がとてもむずむずする)。

ふちまー 〈さかき(榊)〉【例】ふちまーやかみぎー やくとう、うていらぬ ぼーじえー ふちまーさーに やなむん はらたい、うかみがなしーぬ めーんかい うさぎたい すん。(さかきは神木なので、お寺のお坊さんはさかきで悪霊を払ったり、神前に供えたりする)。

ふちやーいん 〈生い茂る〉【活】ふちやーたん、ふちやーらん、ふちやーてい【例】くぬごーやーや ぢーんかい ほーらちやくとう、ふあーぬ ふちやーてい ふいさん いりらんあたい なてい、ないむのー まーんかいが ならー わからん。(このゴーヤーは地面に這わせたので、葉が茂って足も入れられないほどになって実はいったいどこにあるのか分からない)。うぬ なーや くさぬ ふちやーてい じゃーふえー そーさ。(その庭は雑草が生い茂って困っている)。やまなかー きーぬ ふちやとーくとう、みち まゆいどう する はじ やー。(山の中は木が茂っているので、道に迷うんだね)。

ふちやぎ 〈あずきを表面にくっつけた餅〉【例】じゅーぐやーねー うちちゅーめーんかい ふちやぎ うさぎーん。(旧暦の十五夜はお月様に「小豆の付いた餅」を供える)。

ぶちゅーい 〈発育不良〉【例】ぶちゅーいな わらび(発育の悪い子)。

ふちゆく 〈懐〉【例】うやぬ ふちゆく るんかい だちどう つくわ ふどうっわーさりーん どー、あねー あらん わらびんちやーぬどう ふいんじむん ないん どー。(親の懐に抱いてこそ子は育てられるんだよ、そうではない子がひねくれ者／非行少年になるんだよ)。あれー どうーぬ ふちゆく るんかい どう するばん はんちゅん どー。(あの人は自分の懐に向けてソロバンをはじくよ)。じめん あらぢけーん さん、むぬん あらがみん

さん くらし そーしが、じちえー 「ふちゆくのおーぢめー」 どう やたる。(金使いも荒くない、暴食もしないで、質素な暮らしをしているが、実は「裕福」だった)。

ふちゅん 〈沸く〉【活】ふちゅん、ふかん、ふち 【例】ゆーぬ ふちよーくとう、ちゅーかーんかい ちゃー いりれー。(お湯が沸騰しているので、急須にお茶を入れなさい)。

ふちゅん 〈吹く〉【活】ふちゅん、ふかん、ふち 【例】いーち／はな ふちゅん。(息を切らす／いびきをかく)。ちやたのー ふいらぬ うふさくとう、ふいら ぬぶいんち いーち ふちゅさ。(北谷は坂が多いので、坂を登るのに息が切れる)。たばく すーてい きぶし ふちゅん。(タバコを吸って煙を吐く)。あみ ふいがたーどう やがやー? かじぬ ふちよーさ やー。(雨が降りそうなのかねえ。風が吹いているね)。うふかじ めー なてい、かじぬ ふちよーさ やー。(台風の前なので風が吹いているね)。にんだなんてい うむていん／うむたんてーまん っやーが みみすば をうとーてい はな ふちゅくとう、むる にんだらんたん。(寝ようかと思っても／思ったのになあなたが耳元でいびきをかくので、まったく眠れなかった)。

ふぢゅん 〈満足する〉【活】ふぢゅん、ふがん、ふぢ 【例】あれー ちむ ふがん っちゅやっさー。(あの人は気に食わない人だよ)。ちむ ふがんだらー、さんていん しむさ。(気に入らなければ、しなくてもよい)。くねーだのーらちえーる ちのー いっぺー ちむ ふぢよーん。(この間直してもらった服はとても気に入っている)。っやーが ちむ ふぢゅん っちゅから やらすくとう、っやー すばんかい うちきれー。(あなたが気に入る人から派遣するので、あなたの側に置きなさい)。

ぶちりー 〈不潔(人に対して用いる)〉【例】ぶちりーな むん(不潔な者)、ちりーな っち

ゆ (清潔な人)。あれー ぬーやていんしむるー やてい ぶちりー どー。(あいつは何だっつかまわない奴で不潔だよ)。ぶちりーな ていーさーに くれー さーんな よー。(汚い手ではこれは触るなよ)。しーらー くちからどう いーくどう、ぶちりーな ていーしえー むぬ かむな よー。(障りは口から入るので、汚い手ではものを食べるなよ)。

ふっくいーん 〈ふくれる〉【活】ふっくいたん、ふっくいらん、ふっくいてい 【例】あさふえーくから ゆさんでいまでい ちゃーたちーっし ふいさぬ ふっくいとーん。(朝早くから夕方までずっと立ち通しで足がふくれている)。ふいさぬ ふっくいてい やむん。(足がふくれて痛い)。ていーふいさぬ あかーなてい ふっくいとーくどう、いさぬ やーんかい っんぢくーわ。(手足が赤くなってふくれているので、医者のところに行っておいで)。はしし ふっくいてい むぬん かまらん、にんだらん なてい いっぺー どうーあんまさん。(歯茎がはれてものも食べられなく、眠れなくなっかなり体調が悪い)。ちら ふっくいとーん。(ふくれた顔をしている)。ちら ふっくわー (ふくれている者)。

ぶったらー／ぶったらこー 〈太いもの (大根、しぶい、など)〉 【例】あち ぶったらー (厚着)。くぬ でーくねー ぶったらー そーん やー。(この大根は太いね)。

ぶってー 〈でぶ〉 【参】同義語として、くえーたー、くえーとうー、くえーぶたー。

ぶっとうー 〈でぶ、太いもの〉 【例】まーさむん じょーぐーぬ うふく なてい、ういなぐん ういきがん ぶっとうるー なていちよーしが、ちゃーするくとうん ならん。(食いしん坊が多くなって、男も女もでぶになってきているが、どうにもならない)。

ふとうちゆん 〈ほどく〉【活】ふとうちやん、ふとうかん、ふとうち 【例】いーちゆーぬ

まちぶい ふとうちゆんち なげー かかたん。(糸のからまりを解くのに長くかかった)。

ふとうふとうー すん 〈心配で震える〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】っんまがぬぬとーる PASぬ しんていやーに かーらんかい うていたんでいぬ しらしぬ あてい、いちちよーが すら しちよーが すら わからんくどう、したたか ちむふとうふとうー そーたん。(孫が乗っているバスがスリップして川に転落したという知らせがあつて、生きているのか、死んでいるのかわからないので、とても心配で震えていた)。ゆる ゆなかに やーぬ くさーをうてい むぬ うとうぬっしぬすどうが やら わからんくどう、ちむふとうふとうー さが なー じゆんさ ゆだん。(真夜中に家の裏で物音がして泥棒なのかわからないので、心配でどきどきしながら警官を呼んだ)。あまぬ めーういきがぬ わんとうじっし とうらしが すら、チルグワーやめーなち ちむ ふとうふとうー そーん。(あそこの男性が自分を妻にしてくれるのか、チルグワーは毎日どきどきしている)。ふとうふとうーぐいー (震え声)。

ふどう 〈身体、身長〉 【例】ふどうぬ まぎさん／ふどうぬ ぐまさん。(体が大きい／体が小さい)。ふどう まぎー／ふどう ぐまー (体が大きい者／小さい者)。ふどうぬ たかささん／ふどうぬ ふいくさん。(身長が高い／身長が低い)。ふどう だかー／ふどう ひくー (身長が高い者／身長が低い者)。っやーや あったに ふどうっういーとーん。(あなたは急に体が大きくなっている)。うやー ふどうぐまー やしが、っやーや ふどう まぎさんやー。(親は体は小さいが、あなたは体が大きいね)。あつたー うやっくわー むる ふどうぐー やん やー。(あの家の親子はみんな体が小さいね)。

ふどうーい 〈反対〉 【例】なまから あとー いちいちまでいん いくさー ふどうーい

やん。(今後はずうっと戦争は反対だ)。わったー しまんかえー アミリカーたー しーぐわー ちゆくいしえー ぬーが あたんてーまん ふどうーい すん どー。(私たちの島にはアメリカの巣窟を造るのは何があっても反対するぞ)。

ふどうふどう 〈年頃〉【例】いったー ういなぐんぐわー ふどうふどう などーさに? をうとう むっちー?(あなたの家の娘は年頃になっていないの。結婚はしたのか)。いったー ちゃくしえー ふどうふどう などーさに? とうじ とうめーていー?(あなたの家の長男は年頃になっていないか。結婚はしたのか)。

心に 〈骨、茎〉【例】ぐるくのー あんだんかい あぎーねー、ちぶるから どうーぶにーじゅーまでい むる かまりーん。(グルクンは油にあげたら、頭から骨、尾びれまでみんな食べられる)。うんちえーや ふあーん ふにん むる かまりーしが、なまぬ っちゅぬちやーや ふあーびけー かでい ふねー むるしていとーん。(空心菜は葉も茎もみんな食べられるが、今時の人たちは葉だけを食べて茎はみんな捨てている)。うやに にち、つくわん っんまがん ふにぬ あらさん。(親に似て、子ども孫もがちりしている)。

ふみーん 〈ほめる〉【活】ふみたん、ふみらん、ふみてい【例】わらべー ぬらてい ふどうっわーするむのー あらん。ふみていどうならーさりーる。(子どもは叱って育てるものではない。ほめてこそ教えられる)。ぬらいしえー いんちやく さーに、ふみーしえー ながながーとう すし やん。(叱るのは短くして、ほめるのは長くすることだ)。ふみれー ふみあがい すくとう、くるま むちゆるびけーや うかーさくとう ふみーるむのー あらん。(ほめるとほめあがるので、車の運転ばかりは危いのでほめるべきではない)。

ふみ たっくわすん 〈大げさにほめる〉

【例】あんし っやーや ふみたっくわすしが、どうーぬくとー どうーくる ゆー わかとー っさ。あんだぐちえー さんけー。(あんなにお前は大きさにほめるが、自分のことは自分でわかっているさ。おだてることはするな)。

ふみかすん 〈盛り上げる〉【活】ふみかちやん、ふみかさん、ふみかち【例】ふみかさー、=じゃー むちやー(宴会の引き立て役)。うちなーをうてー うゆえーや うた さんしん っし ふみかすん。(沖縄ではお祝いは歌三線で盛り上げる)。ちゅーや うほーくぬ っちゅぬちやーが あちまてい すじょーっし いっぺー ふみかちよーたん。(今日は多くの人たちが集まって喜んで多いにぎわっていた)。

ふみちゅん 〈蒸し暑い〉【活】ふみちやん、ふみかん、ふみち【例】ちゅーや あんし ふみちよーる やー。(今日はだいぶ蒸し暑いね)。ちゅーや かじん ねーん、ふみちよーん やー。(今日は風もなく熱気でむんむんしているね)。

ふみち 〈熱気〉【例】うちなーぬ まふっくわー じこー/さっこー ふみちぬ ちゅーさくとう、なれー ふかねー っんぢらんしえー まし どー。ていーだぬ さがていから っんぢれー。(沖縄の真昼間は大変な灼熱なので、なるべく外に出ない方がいいよ。日が落ちてから外出しなさい)。あみぬ あがやーに ていーだぬ ていてい ふしがらんあたい ふみちよーん やー。(雨があがって陽が照ってがまんでできないほど蒸し暑いね)【参】ゆーかーぎなていから(夕方になってから)。

ふゆー 〈怠け者〉【例】ふゆー(怠け者)、ぬーん しーぶしこー ねーん ぬー(何もしたくない者)、ふゆーな むん(怠け者)、ふゆーくさー(とんだ怠け者)。ちゃっさ ふいーさくとうんでい いちん みじん ちからんばー、さーらんばー しーねー、ふゆーな むんないん どー。(いくら寒いからといって水を使うのもさわるのも嫌がっていると、怠け者

になるぞ)。

ふらきーん 〈開ける〉【活】ふらきたん、ふらきらん、ふらきてい

ふらちゅん 〈開く、吹かす〉【活】ふらちゃん、ふらかん、ふらち 【例】みー／はな／くちふらちゅん。(目／鼻／口が開く)。とういぬ ぴーよーぐわーや うやどういぬ かみむん むっちちゅーし くちえー がーぶらちっしまっちょーん。(小鳥のヒナは親鳥が食べ物を持ってくるのを大きく口開いて待っている)。くたんでいてい くち ふらち にんとーん。(疲れていて口をあぐりあけて寝ている)。はな ふらち (生意気になって)。

ぶらげー 〈ほら貝、うどの大木〉【例】ふど うん どんどんっし くえーてい あぬ っちょー あんし まぎさる。あれー ぶらげー やん やー。(体が大きくて肥えてあの人は何と大きいことか。あれはうどの大木だね)。あれー たー やが? あぬ ぶらげー なー? (あれは誰か。あのうどの大木のことねえ)。

ふり〜〈限度が過ぎた、バカな〉【例】ふりゆんたく／ふりあびー／ふりわれー／ふりがみ／ふりぬみ／ふりごーい／ふりすがい／ふりばたらち そーん。(バカ話／バカ叫び／バカ笑い／バカ食い／バカ飲み／見境なく買うこと／ふざけた装い／牛馬のような労働をしている)。

ふり ぢから 〈馬鹿力〉【例】っちゅぬぬち まむいる たみねー ふりぢからぬ っんぢーる むん やんでい。(人が命を守るためには馬鹿力が出るものだとき)。ふいるましーくとう やしが、ふりぢからぬ っんぢーねー まるふいーじー たーがん っんぢゅかさらん むん っんぢゅかすん。(不思議なことだが、馬鹿力が出ると普通は誰も動かせない物を動かす)。

ふり むん 〈バカ〉【例】っやーや ふりむんどう やる る? またん めぬ くいけーしっし ちゅけーんなーっし わかりわどう

やる。(あなたはバカか。またも同じくり返しをして一度でわかるべきだ)。

ふりーん 〈惚れる〉【活】ふりたん、ふりらん、ふりてい 【例】ちちぶり (聞き惚れ)、んーぢぶり／みーぶり (見惚れ)。ういきがぬ ういなぐ もーいする しがたー んーち ふりーん やー。(男が女踊りをする姿は見惚れるね)。

ぶり〜〈群〉

ぶり ぶし 〈群星〉【例】「ていぬぬ ぶりぶしや ゆみば ゆまりーしが、うやぬ ゆしぐとうや ゆみや ならん」でいーる うたんかえー うやっくわぬ ちながいぬ ふかさぬ みーゆん。(「天の群星は数えれば数えられるが、親の教えは数えられない」という歌には親と子の絆が見える)。

ふるばすん 〈金銭を踏倒す〉【活】ふるばちやん、ふるばさん、ふるばち 【例】じん からちやくとう、ぬーぬ うとうさたん ねーらん、まーんかい をういが すら わからん、ちゅらーさ ふるばさったん／まちうたったん。(お金を貸したのに、何の音沙汰もない、いったいどこに居るのかわからない、まんまと借金を踏倒された／すっかり裏切られた)。つくわぬやー ふるばすん。(子が家財産を失ってしまおう)。っちゅぬ てーとー いやーに、ぢーから じんまでい むる とうらってい やーや ふるばさったん。(人の保証人になって、お金から土地まですべて取られて家を滅ぼされた)。うやぬ じんから、ぢーから むる っくわんかい うちくわーったん。(親のお金から、土地からすべて子に食いつぶされた)。

ふるみーん 〈古くする〉【活】ふるみたん、ふるみらん、ふるみてい 【例】くぬ さけー ふるみていから ぬむる ちむえー やくとう かじみとーかな やー。(この酒は寝かしてから飲むつもりなのでしまっておこうね)。

ふるむん 〈古くなる〉【活】ふるだん、ふるまん、ふるでい 【例】ちゃっさ ちゅらやー

みーやー やていん っちゅぬ しまんだれー
 たった ふるまーに やーや よーいしん
 たでーま やんでい どー。(いかにきれいな
 家、新しい家でも人が住まないとだんだん古く
 なって家は弱るのもあつという間だよ)。そー
 むんぬ かーっし ちゅくらっとーる かぼの
 ー、ちかいしんでー やふあらし ちけーやし
 く ないん。ふるみねー、いるん どうーぢゅ
 らさぬ っんぢーん。(本皮で作られているカ
 バンは、使うほど柔らかくなって使いやすくな
 る。古くなると、色もつやが出る)。ふるむん
 (古いもの)、ふるむん やー (古本屋、古もの
 屋)、ふるぢん (古着)、ふるしんぶん (古新聞)、
 ふるアルバム (古いアルバム)。ふるさー あ
 しが、なかめー るぬ むん やくとう、じん
 てーち みーむん こーらんぐとう、ふるむ
 んやーんぢ こーいしえー まし。(古くはあ
 るが、中味は同じものなので、お金を費やして
 新品を買わないで古物屋で買った方がいい)。

～ふん <(数詞として、鉛筆などの)～本>
 【例】いっぶん (1本)、にふん (2本)、さんぶ
 ん (3本)、ゆんぶん/しふん (4本)、ごふん
 (5本)、るっぶん (6本)、しちふん (=ななふ
 ん) (7本)、はちふん/はっぶん (8本)、きゅ
 ーふん (9本)、じっぶん (10本)。

ぶん <品格> 【例】あぬ っちょー ぶんぬ

あみしえーくとう、くぬ ちとうめー あぬ
 っちゅ やれー まちげー ねーんさ。(あ
 の人は品位が備わっているの、この役職はあ
 の人なら間違いはないよ)。あれー ぶんむち
 やー なてい たーとうん たーとうん ふい
 ららん。(あの人は気取っていて人を選んでし
 かつき合わない)。

ふんしー <風水> 【例】うちなーや なち
 なれー、ふえーかじぬ ふちゅくとう、ふん
 しー かんげーてい じょーや ふえー んか
 ーさつとーん。(沖縄は夏になれば、南風が吹く
 ので、風水を考えて門は南に向けられている)。

ぶんぢらー/ぶんぢり <棒切れ> 【例】
 ぐわんくーとうすいんかい ぶんぢらー むっ
 ち やーまでい っわーぎらったん。(頑固年
 寄りに棒切れを持って追いかけられた)。【参】
 んかしえー ぼーぬ ふいぢやいにぢりんかい
 をうーき さぎてい みじ かたみとーたん
 どー。(昔は棒の左右に桶を下げ水を担い
 でいたよ)。

ふんでー すん <わがままをする> 【活】～
 さん、～さん、～っし 【例】ちびーぐわー/っち
 ゆいんぐわ なてい、ふんでー そーん。(末っ
 子/一人っ子なので、わがままをしている)。

べ

べー／べーる 〈嫌だ（否定）〉 【例】しか
ん っちゅんかい っわーばぐとう さりーね

一、「べーる」んでいち ちかんふーなー す
ん。（好きでもない人から余計なことをされると、「嫌だ」と聞かないふりをする）。

ほ、ぼ

ぼー／ぶい／ぶち 〈棒／短い棒／細い棒〉

【例】 っちゅぬ をうる とうくまをうてい
ぼー ふいまーち、っちゅんでー どうー や
ましみーねー いちでーじなくとう ないん
どー。(人がいるところで棒を振り回して、人
の体とかを傷つけてもしたら大変なことになる
よ)。ぶい ふいぢャーに てーくぬ ばち
ちゅくたん。(短い棒を削って太鼓打ちの棒を
作った)。んかしえー いーし ちかん わら
びんぢャーや ぶちさーに むむ すぐらった
い ちび すぐらったいっし しちきらった
ん。(昔は言うことを聞かない子どもたちは細
い棒で腿をたたかれたり、お尻をたたかれたり
して躰けられた)。

ほー いん 〈こぼす〉【活】ほーたん、ほー

らん、ほーてい 【例】 むのー ほーらんぐとう
かめー。(食べ物ほこぼさないで食べなさい)。
ちゅちぶ やていん ほーてー ならん。(一
粒でもこぼしてはいけない)。まーみぬ いっ
ちよーんちえー わからん、ぼーきんかい き
っちゃきっし ある うっさ ほーたん。(豆
が入っているとはわからなくて、平底カゴにつ
まづいて一つ残らずこぼした)。むとうぶんち
ゅぬ かみあちねーっし むとうぶくとうばさ
ーに「くみ ほーいみ？」んでい いちやくと
う、なーふあんちゅぬ 「ぬーんち くみ ほ
ーいが？ くみ ほーいねー、ばち かんぢゅ
ん どー」んでい いちやんでい。(本部出身の
人が行商をして本部のことばで「米を買うか？」
と聞いたので、那覇の人は「どうして米をまき
散らすのか。まき散らすと罰があたるぞ」と言

ったとき)。

ほーりいん 〈こぼれる〉【活】ほーりたん、ほ
ーりらん、ほーりてい 【例】 むぬ／くみちぶ／
まーす／うくわーし／まーみ／まーじんぬ ほ
ーりとーん。(もの／米粒／塩／お菓子／豆／
粟がこぼれている)。

ほーいん 〈這う〉【活】ほーたん、ほーらん、

ほーてい 【例】 うさきーなーぬ ちたぬ ほ
ーとーん やー。うれー まーまでいん いち
ゅくとう なま とういしえー まし どー。
(たくさんのツタが這っているね。これはどこま
でも伸びていくので今取るほうがいいよ)。「な
が ぼーやーや すなけー」「うすりていどう
ほーとーいびーん」「寝そべてはいけない
ぞ」「恐れ多くてひれ伏しているんですよ)。

ほー らすん 〈這わせる〉【活】ほーらちや
ん、ほーらさん、ほーらち 【例】 いちゅび ぢ
ーんかい ほーらすん。(イチゴを地面に這わ
せる)。

ほー い がじまる 〈根が這いすぎたガジ
ユマル〉 【例】 なぐぬ ひんぷんがじまるや
ほーいがじまる なてい ゆだ ちっちゃん。
(名護のヒンプンガジユマルは根が這いすぎて
枝を切った)。

ぼーじャー 〈坊主、乳児〉 【例】 あんだく

えーぼーじャー (芝居・義賊「運玉義留」の子
分) 【参】「はー」に関連する例有り。

ほーちやく 〈爆竹〉 【例】 ババンバンバ

ンっし まちりぬ しめー ほーちやくぬ あ
がいでいん。(ババンバンバンと祭りの締めは花火

が上がる)。よーかびーねー げーぬんかい
くわーぎぬ ゆだ ていーち ささーに しば
さし ちゅくてい じょーぬ ふいぢゃいにぢ
り、やしちぬ ゆしめんかい うちぎーん。う
りから ほーちやく ならさーに やなむん
っういーほーいん。(旧暦の八月八日にはス
スキで作った魔除けに桑の木の枝を一本差して柴
指しを作って門の左右、屋敷の四隅に置く。そ
れから爆竹を鳴らして邪気を追い払う)。

ほーちゅん 〈清掃する、ビンタをする〉【活】

ほーちゃん、ほーかん、ほーち 【例】しわーし
えー やー ほーちゃい なー ほーちゃいっ
し いちゅなしく ないん。(師走は家を掃除
したり、庭を掃除したりして忙しくなる)。なー
(ぬ きーぬ ふあー) や ほーかっとーみ?
(庭(の木の葉)は掃かれているか)。やーぬ
ほーちかち すん。(家の中を掃除する)。ちら
ほーかりーん。(ビンタをされる)。

ほーち んちゅん 〈かき込む〉【活】～んち
ゃん、～んかん、～んち 【例】ぬくさんぐとう
ほーちんけー。(残さないでかき込め)。【参】
「はばはば かむん」とも言う。

ぼーちり／ぼーちらー 〈乱暴者〉【例】

＝ちゅぬ いーし ちかんぬー (人の言うこ
とを聞かない者)。あれー ちやくし などー
てい、かみぐとうん とーとーめーぐとうん
うやふあーふじぐとうん ぬーん わからん。
(あの人は長男なのに、神事もお供え事も先祖の
ことも何もわからない)。

ほーとう 〈鳩〉【例】ほーとうや くーが

たーちどう なするんでいる くとうから、っ
ちゅにんぢんぬ たーちゅー なしーねー、ほ
ーとうんぐわ なちえーさ やーんでい いら
っとーたん。(鳩は卵を2個産むということか
ら、人間が双子を産むと鳩のように子を産んだ
ねと言われていた)。

ふあ

ふあー 〈葉〉 【例】はなしえー はな さか
ちよーしが、ありが はなしえー ふあーどう
やさ。(話の花を咲かしているが、あの人の話
は根も葉もない)。じゅーるく、しちぬ ういな
ぐわらびんちゃーや きーぬ ふあーぬ かじ
っし っんぢゅちよーし んーちん ぬー ん
ーちん わらいん。(16、7歳の娘たちは木
の葉が風で動いているのを見ても何を見ても笑
う)。

ふあーふあー 〈火照っていること〉 【例】
ゆーふるんかいどう いっちょーるぐどう、ぬ
ーが やら ふあーふあーそーんねー すっさ
ー。(風呂にでも入っているように、何かしら火
照っているかのような気がする)。いくさ め

ーぬ くとう やしが、どうー ふいじゅらさ
んたみに ふいー めーさーに どうーん ち
らん ふあーふあー さがなー っくわ なす
たんでい。(戦前のことだが、体を冷やさないと
めに火を燃やして体も顔も暖めながらお産した
ってよ)。なんめーん かさびてい ちち、どう
ー ちちどーくとう ぬくたまでい ちらん
ふあーふあー そーん。(何枚も重ねて着て、体
を包んでいるので暖まって顔も火照っている)。

ふあんない すん 〈高熱が噴き出る〉
【活】～さん、～さん、～っし 【例】にちぬ くま
てい ふあんない そーん。(熱がこもって体
が熱い、=にちぬ ぱんぱん そーん)。

ふい

ふいー 〈火〉 【例】かじん かーきとーくと
う、ふいーぬ どうじまえー ちー ちきり
よー。(風も乾いているので、火の戸締まりは気
をつけなさい)。かーきーる しちねー どう
ーぬ かーぬ かさかさ さんぐとう、あんだ
むぬん どういしえー まし やん。(乾燥し
ている季節には皮膚が乾燥しないように脂肪分
を補給すればいい)。ふいー めーさーや マ
ッチから ライターなてい、ちけーやしく な
とーん。(着火器はマッチからライターになっ
て、使いやすくなっている)。

ふいー たったー すん 〈(摩擦熱、やけ
どで) 皮膚がめくれる〉 【活】～さん、～さん、～
っし 【例】ながさる すべりだい ぬやーに
ちペー あちりてい ふいーたったー そー
たん。(長い滑り台に乗ってお尻が熱くなって
ひりひりした)。

ふいー だま 〈火玉〉 【例】ふいーだまや
まーるー あらん、あみなーぬぐとう じゅ
ーぬ あてい、ゆとうゆとうっし よーんなー
とうどーん。おーるーびーとう あかびーぬ
あてい、おーるーびーや っちゅだま やく
とう っちゅぬ まーする しらし、あかびー
や くわじぬ うくいる しらしぬ たま や
んでい。(火玉は丸くはない、メダカのように
尻尾があって、ふわふわとゆっくり飛んでいる。
青火と赤火があって、青火は人の靈魂なので人
が亡くなる知らせ、赤火は火事が起こる知らせ
の玉だって)。

ふいー ちゃーさー 〈消防士〉 【例】わ
ったー をうじゃさーや ふいーちゃーさー

やん。(私のおじさんは消防士だ)。

ふいー らちゅん 〈ひりひり痛む〉 【活】～
らちゃん、～らかん、～らち 【例】まるふいっ
ちー うみんぢ あしどーたくとう、どうーてー
むる やちふいーらち ゆるん にんだらん
たん。(一日中海で遊んでいたの、体中日焼け
してひりひり痛んで夜も眠れなかった)。

ふいー 〈陽、日〉 【例】ふいーぬ さがていか
ら ちゃーびーさ。(陽が落ちて/午後から来
ますね)。はるぬ しでーに ゆていちゃーに
ちかぐろー たった ふいーぬ ながく な
とーんねー すん。(春がしだいに寄って来て
近頃はだんだん日が長くなっている気がする)。
【参】金城(1997, 26-28 頁)に基づく、一日の
区分名称は、あこーくろー(薄暮、夜明け前)、
ゆーあきがた(ほのかに明るくなってくる頃)、
あかちち(暁、夜明け)、すとうみてい(早朝)、
あさ(朝)、まふいる(正午の頃)、まふっくわ
(夏の陽が強い午後)、ゆさんでい(夕方)、ゆー
いりがた(陽が沈む頃)、ゆまんぐい(薄暗く
なる頃)、ゆくねー(宵、ゆくねーくらしん[暗
闇])、ゆる(夜)、ゆなか(夜中)、まゆなか(真
夜中、午前2時~3時頃)のようになる。

ふいー かじ 〈日数〉 【例】わんねー す
るくとうぬ あてい、ふいーかじぬ たらーん
くとう なまー っんぢゅからん。(私はする
ことがあって、日数が足りないので今は動けな
い)。

ふいー かたか 〈日除け〉 【活】ていーだ
かたか 〈日除け〉 【例】あがりむていーんか
い うふやーぬ たっち わったー やーや

ふいー／ていーだ かたか なてい、なまー
あさが やら、ふいるが やら、ゆさんでいど
う などーが わからん あたい などーん。
(東側に大きな家が建って私のうちは日陰にな
って、今は朝なのか、昼なのか、夕方になって
いるのか分からないほどになっている)。

ふいー じー 〈常日頃〉 【例】まるふいー
じーから なーちねーぢねーをうてい しまく
とうば ちからんとー ならんでい うむてー
をうしが、いち やていん まーんぢ やてい
ん ないんでいーる くとうん あらんくとう
うむとーるぐとー ならん。(常日頃から各
家庭でしまくとうばを使わなくてはならないと
思っているが、いつでも何処でもできるとい
うことでもないで思っているようにはできな
い)。

ふいー どうい 〈日取り〉 【例】やー う
ーちー、にーびち、うゆうえー、やー ぢゆく
い、はか ぢゆくい、ぢー こーたい する
ばすねー、ふいーどうゑー かんぬーんでい
ならーしぬ ちゅーさん。(引っ越し、結婚、
お祝い、家造り、墓造り、土地購入する際には、
日取りは大切だという慣わしが強い)。

ふいー びー 〈日々、日常〉 【例】ふいー
びー するくとうぬ まんでい、ちゃー ちも
ー っわーとーんねー すん。(毎日するこ
とが多くて、いつも心は追われているような気
がする)。

ふいー むどうい 〈日帰り〉 【例】くぬ
ゆぬなーかー、いちやびら、ちゃーびらんで
いいち ふいーむどうい ないる っちゆびけ
ーのー あらん。(この世の中は、行って来ま
す、ただいまといって日帰りできる人だけでは
ない)。

ふい よー (さー) 〈日雇い (労働者)〉
【例】ふいーいちにち はたらちゃーに じん
ゐーゆしんかい ふいよーさーんでい いー
ん。(一日働いてお金をもらうのを日雇い労働
者と言う)。

ふい じゅー 〈一日中〉 【例】ちゅーや
なー ぬーん さんぐとう ふいじゅー あふ

あ なちよーちゆさ。(今日はもう何もしない
で一日中ただらだらしているね)。【参】「ふいっ
ちー」とも言う。

ふいー くし 〈欠点〉【活】やな ぐし〈悪
い癖〉 【例】ふいーくし かちみやーや どう
ーぬ っういーや みーらん。(人のあら探し
をする人は自分のことは見えない)。あらん
ふいーくし かきらってい ゐー ちもー さ
んたん。(ありもしない欠点をかけられて、いい
気はしなかった)。

ふいー 〈屁〉

ふいー ふうらー 〈おならをよくする者〉

【例】きじむなーや ふいーふうらー いっぺ
ー うとうるさ すたんでい。(キジムナーは
おならをよくする者をとても恐れていたとき)。
んかしえー まるふいーじーぬ かもむのー
っんむとう とーふ やたくとうどう ふいー
ふうらーぬ うふさたがやー?(昔は通常の食
べ物は、芋と豆腐だったのでおならをする人が
多かったのかねえ)。

ふいーん 〈屁を放る〉【活】ふいっちゃん、ふ
いらん、ふいっち 【例】わたぬ ちゅーさくと
う ふいー ふいーん。(胃腸が強いのでおな
らをする)。はな ふいーねー、やなむんが し
がとーくとう くすくえーんでい いやーに
やなむん はんする まじねーくとうばぬ あ
ん。(くしゃみをする時、邪気がついているので
「くすくえー」と言って邪気を外すまじない言葉
がある)。【参】過去形には、「ふいたん」と「ふ
いーたん」があるが、後者の場合には自分が屁
をしたことにはならない；宮良(2019a, 129-136
頁)。

ふいーうち 〈忌中〉 【例】ふいーうちんで
い いーしえー、っちゆぬ ゆー しぢていか
ら しじゅーくにちまでいぬ くとう やん。
(忌中というのは、人が亡くなってから49日間
のことである)。

ふいーさ 〈寒さ〉

ふいーさ がたがた すん〈寒さで震える〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】ばすぬいる とうくるをうてい ふいーさがたがた さがなー ばすぬ ちゅーし まっちょーたしが、ふしがらんたん。(バス乗り場で寒さで震えながらバスの来るのを待っていたが、耐えられなかった)。

ふいー ぐに〈寒い地域〉【例】あちぐにぬっちょー ふいーぐにんかい いちゆるばすねー、なりてーをうらんくとう ぬくばーていから すじょーしーが いちゆん。(暑い地域の人は寒いところに行くときには、慣れていないので暖かくなってから楽しみに行く)。

ふいーさ うみー〈寒がり〉【例】あれー ふいーさうみー やくとう、ふいーさるばすねー ふかねー っんぢらん、やーんかい をうとーちゅしえー ましんでい うむとーん。(あの人は寒がりなので、寒いときには外には出ない、家に居るほうが良いと思っている)。

ふいーさ ぬー〈悪寒〉【例】ふいーさぬー する ばすねー、くるぎーたーさーに そーがーゆー ちゅくてい ぬみーねー とうまいさ。(悪寒がするときには、黒砂糖でショウガ湯をつくって飲むと止まるよ)。

ふいーさ まがい〈寒さで縮こまること〉【例】ふいーさくとうんち ふいーさ まがい する っちょー ふゆーな むん やん。(寒いといって寒さで縮こまる人は怠け者だ)。

ふいーじゃー 〈山羊〉【例】ふいーじゃー ー がんまり しーねー、わじやーに うーていちゅーん。(山羊にいたずらしたら、怒って追ってくる)。

ふいーじゃー がー 〈湧き水場〉【例】ふいーじゃーがーぬ みじえー ぬーぬ ゆぐりん ねーん、ちゅらみじ やてい ふいじゅってーんっし まーさん。ぬーでいーぬ あらーりーんねーっし ぬちみじどう やる。(湧き水場の水は何の汚れもない、清らかな水で冷たくておいしい。喉が洗われるようでまさに命の水だ)。んかしえー ふいーじゃーがーをう

てい ぬみみじ ください、まかいどーぐ あらたい、あらいむん さい、わらびんちゃーが あみたい さん。(昔は湧き水場で飲み水を汲んだり、炊事道具を洗ったり、洗濯をしたり、子どもたちが浴びたりした)。

ふいーじんとー 〈遊びの一種〉【例】ふいーじんとーんでいーる うやっくわぬ あしびっし、ふいーじんとー、みーみんめー、ちぶる てんてん、いーゆぬ みー、ぼーじゃーんかい ならーすん。「ふいーじんとー」という親子の遊びで、肘、耳、頭、(手のひらと人差し指で)魚の目を幼児に教える)。

ふいーち 〈ひいき〉【例】つくわ びーちゃー (子煩悩、=どうーぬ つくわ いっペー うむやー)、っちゅ びーちゃー (えこひいき)、かた びーちゃー (えこひいき)。ありが うやー つくわ びーちゃー やくとう、あまぬ わらびんちゃーや ぬらーらん どー。(あの子の親は子煩悩だから、あの家の子ども達は叱れないよ)。

ふいーとう 〈いるか〉【例】いくさ うわていちゃーきー やんぼるからぬ かみあちねーさーが 「ふいーとー こーいみそーらに?!」んでい っふいーとう ういが なーふあまでい ちゅーたん。(終戦直後はヤンバルから頭にたらいを乗せた売り子が「イルカを買ってくださいませんか」とイルカを売りに那覇まで来たんだよ)。

ふいーふいー 〈ひゅーひゅー〉【例】いーびさーに ふいーふいー ふちゃーに ゆだしが、っやーや とうんけーらんたん。(指笛を吹いて呼んだんだが、あなたは振り向かなかった)。

ふいーら 〈へら〉【例】ふいーら からちくいり。(へらを貸してくれ)。ふいーら かとーか? かれー。(へらを貸してね。どうぞ)。ふいーら からちよーかん なー?(へらを貸してもらえないかね)。

ふいーらー 〈ゴキブリ〉 【例】 まっくーる
そーる まぎふいーらーんかい とーびーら
ー んでい いち、ぐまふいーらーんかい ア
ミリカふいーらー んでい いちよーしが、た
ーがが あんし なー ちきたがやー?(真っ
黒な大きなゴキブリにトービラーと言って、
小さなゴキブリにはアメリカフィーラーと言っ
ているが、いったい誰がそのように名前をつけ
たのかなあ)。

ふいがん／ふいんがん 〈彼岸〉 【例】
ふいがんねー うやふあーふじんかい うじゅ
ー うさぎてい、やーにんじゅさーに うさん
でー かでい どうーがんじゅーさ にがい
ん。(彼岸には祖先に食べ物を供えて家族でお
供えした物を食べて健康を祈願する)。

ふいさ 〈足〉 【例】 うふえー ふいさー ぐ
ーに そーてい ねーぐねーぐっし あっちぐ
りさ そーん やー。(少しばかり足をびっこ
引いていて、歩きにくそうにしているね)。んか
しぬ わらびんちゃーや からびさーどう や
たくとう、ふいさぬ わたー くふあぼっちら
ー そーたん。(昔の子どもたちは素足だったので、
足の裏は固くなっていた)。あれー ふ
えーぬぐとう ていーふいさ しりしりーっし
あんだぐち たらたら そーん。(あの人は
蠅のように手足をこすっておべっかを使ってい
る)。っやーや っちゅ うしえーむにーっし
どうくから はな ふらちーねー ふいさ
とーさりーん どー。(おまえは人をバカにし
ていい加減にしないと足ごと倒されるぞ)。あ
していびち ちゆくいくとう っわーびさ こ
ーてい くーわ。(「あしていびち」をつくるか
ら豚足を買ってきなさい)。【参】 ちまぐー (蹄
の部分)、とうむぐー (足の付根の部分)。
ふいさ うとう 〈足音〉 【例】 ゆるゆな
かに はしるぐちぬ めーをうてい ふいさうと
うぬ っし たーがなぬ さーし あきらんち
そーたくとう、じこー うとうるさたん。(夜
中に玄関の前で足音がして誰かが鍵を開けよう
としていたので、とても恐かった)。

ふいさ まんち すん 〈正座する〉 【活】～
さん、～さん、っし 【例】 じー ならいぐとう
する とうくるをうてー はじみから うわ
いまでい ふいさまんちー そーん。(字を習
う所でははじめから終わりまで正座している)。

ふいさ だかー すん 〈つま先立ちする〉
【活】～さん、～さん、っし 【例】 みーむん ん
ーぢーが っんぢやしが、っちゅぬ ぐわさぐ
わさ をうてい ふいさだかー さしが んー
だらんたん。(見物に出かけたが、人がたくさん
いてつま先立ちしたが見えなかった)。【参】「と
うんたちー すん」とも言う。

ふいさ もー 〈足のない者〉 【活】／ふいさ
むっこー (ふいさ もーくー) 〈足を失くし
た者〉 【例】 いくさあとー ていーふいさむ
っこー なたる っちゅぬちゃーぬ をうたし
が、いくさ をうていどう あん なたが や
ー?(戦後は手足の無くなった人たちがいたが、
戦争でそうなったのかなあ)。

ふいし 〈栓〉 【例】 なま ぬだる さけー
いーけーりらんぐとう、ふいし そーけー。(今
飲んだ酒はこぼれないように栓をしておけ)。

ふいし／ふいち すー 〈干潮〉 【例】
ふいちすーまでいねー 2じかん かかいくと
う、2じかんめーぬ なまじぶんから はまう
り すしえー まし。(引き潮までには2時間
かかるので、2時間前の今頃から浜に降りる方
がいい)。っちゅにんぢのー みちすーぬ じ
ぶんに っんまりていちゃーに ふいちすーぬ
じぶんに まーすんでい。(人間は満潮時に
産まれて来て干潮時に亡くなるんだって)。う
ちなーをうてー かりーぐとう とういりー
る たみねー みちすーぬ じぶんに うにげ
ーさーに、やなぐとう はんする たみねー
ふいちすーぬ じぶんに うにげーすん。(沖
縄ではめでたいことを取り入れるためには満潮
時分にお祈りして、悪いものを取り除くため
には引き潮時分にお祈りする)。

ふいしーん 〈(厚み、濃さを)薄くする〉 【活】

ふいしたん、ふいしらん、ふいしてい 【例】ちゆーぬ えーむのー んーすぬ うふさくとうなまからー ふいしり よー。(今日の和え物は味噌が多いのでこれからは薄くしなさいね)。

ふいし かーがー 〈透けて見える物陰〉
【例】ふいろー みーらんしが、ゆろー でんきちかいねー、ふいしかーがーぬ みーゆん。(昼間は見えないが、夜は電気を点けると、透けて物陰が見える)。

ふいし やちー 〈薄焼き〉 【例】やまとうしんびーや あんし ふいしやちー さつていまーさる やー。(本土の煎餅は見事に薄焼きにされていておいしいね)。

ふいじ 〈返事〉 【例】ちちゆんかい えーじさりーねー／なー ゆばりーねー、ちむからふいじふいんとーや しー よー。(人に声をかけられたら／名前を呼ばれたら、快く返事しなさいよ)。

ふいじゆいん 〈冷める〉 【活】ふいじゆたん、ふいじゆらん、ふいじゆてい
ふいじゆ らすん 〈冷たくする〉 【活】ふいじゆらちゃん、ふいじゆらさん、ふいじゆらち 【例】むのー ふいじゆらん まーどうかめー。あちらしけーさー しーねー、まーこー ねーん ないくとう やー。(食べ物は冷めないうちに食べなさい。暖め直してはおいしくないからね)。にち ばんばんっし じこー あんまさ そーたしが、どうー いっぺー さき なしてい ふいじゆる あし はらちやくとう、しでーに にちぬ さがたん／ねーん なたん。(高熱でたいへん気分が悪かったが、体中酒を塗り込んで冷や汗を出したのでだけに熱が下がった／なくなった)。しだかじ うくする せんぷーきや、れいぼーとー ちがてい、にんぢゆる みーねー あちかじぬ ちゆーん。(涼風を起こす扇風機は、冷房とは違って、眠るころになって熱風が来る)。なまぐろー あさゆーや ふいじゆいん どー やー。(今頃は朝夕冷えるよね)。

ふいじゆい 〈冷氣〉 【例】ふいじゆい いーくとう、にんぢゆるめーねー からじえー あらいな よー。(冷氣におかされるので、寝る前には髪は洗うなよ)。ふいじゆい いーねー、しーら いーん どー。(冷氣におかされると、病気になるよ)。

ふいじゆってーん すん 〈ひんやりする〉
【活】～さん、～さん、～っし 【例】くぬ ふいじゆってーん そーる しーくわうい かだくとう どうーまでいん しだく などーさ。(このひんやりしたスイカを食べたので体までも涼しくなっているよ)。

ふいじゆるー 〈冷たいもの、冷たい者〉
【例】ふいじゆるコーヒー(冷たいコーヒー)、ふいじゆいかー(とても冷たいさま)、あち こーこー(湯気がでるほど熱いさま)。ぬーでいーかーきてい うぬ ビール よー、ふいじゆってーんっし あんし まーさぬ、いちげーいん ねー すさ／ぬちかんばー やっさー。(のどが渇いてこのビールは冷たくてとてもおいしくて生き返るようだね／すっきりするね)。ちゆくてい ちゃーきぬ ピザや いっぺー まーさるむんぬ、ふいじゆいかー なていからーまーこーねーん。(作ったばかりのピザはおいしいのに、冷たくなってからはおいしくない)。うしろー ふいじゆるかー そーくとう、あちらち かめー。(おつゆは冷めているので、あたたためて食べて)。ていーぬ わたぬ あちさる っちょー ちむふいじゆるーんでい いらっとーしが、うれー ふんとー やみ?(手の内の熱い人は心が冷たい人と言われているが、それは本当か)。

ふいじゆる かんぢやー 〈寒々としているさま、冷え冷えとしているさま〉 【例】あれー いっぺー ちゆらかーぎー やしが、ふいじゆるかんぢやー そーん やー。(あの人はたいそう美人だが、暖かさを感じないね)。やまぬ かーま うくんかい ある やどうんかい ちちやしが、いっぺー ふいじゆるかんぢやーっし をうらりーる むのー あらんたん。(山の奥深いところにある宿に着いたが、とても

冷え冷えして居られるものではなかった)。わったーどうしぬ まっくらしん なていからはかぬ めー とうーたくとう、あつたにふいじゆるかんぢやー すたんでい。(私の友人が真っ暗になってから墓地の前を通ったら、急に悪寒がしたそうだ)。

ふいじゆる むん 〈冷たい食べ物〉 【例】わたぬ やだい くす ふいりー そーる ばすねー、ふいじゆるむのー かむしえー あらん。(お腹が痛かったり下痢をしている時には、冷たいものを食べるものではない)。

ふいじゆる みじ 〈冷たい水〉 【例】ぬーでいーぬ かーきとーる ばすに ふいじゆるみじ ぬみーねー、ぬち もーきたんねー すん。(喉が渴いているときに冷たい水を飲むと、命をいただいたような気がする)。

ふいた 〈下手〉 【例】っやーや ふいじやいぬーでいー なてい あんし うたー ふいたやる。(あなたは音痴でどうしてあんなに歌は下手なのかね)。

ふいだていーん 〈隔てる〉 【活】ふいだていたん、ふいだていらん、ふいだていてい 【例】やーにんじよー ふいだていてー ならん。(家族は隔てがあってはならない)。

ふいだてい 〈隔て〉 【例】いちやりば ちよーでー ぬーぬ ふいだていぬ あが?(出逢えば仲間、何の隔てがあろうか)。っやーとう わんとー ぬーぬ ふいだていぬ/ふいぢやみぬ あが、かたてい あしば。(あなたと私は何の隔てがあろうか、語って遊ぼう)。

ふいぢ 〈髭〉 【例】っわー ふいぢ(鼻ひげ)、しちや ふいぢ(あごひげ)、ふいじ もー(髭のない者、=うとうげー なんどうるー)、やまふいぢやー(ひげの多い者)。んかしえー むぬぐとう をうさみーる っちゆぬちやーやんな っわーふいぢ たていとーたん。(昔は物事を治める人たちは皆んな鼻ひげを生やしていた)。んかしえー うとうすいぬどう ふいーじやーふいぢ みーらちえー をうたしが、

ちかぐろー わかむぬんかいん をうん。(昔はお年寄りが山羊のような髭を生やしていたのだが、近頃は若者にも居る)。あれー ういきがどう やしが、ふいぢもー はーもー やてい、はーめーぢら そーん。(あの人は男だが、髭もなくて歯もなくて、ばあさん顔している)。

ふいぢやい 〈左〉 【例】くぬ テレビんかい っんぢーる ういなごー ふいぢやいから うちーる ちらやか にぢりから うちーる ちらぬどう ちゆらさんねー すっさー。(このテレビに出演する女性は左から映る顔よりも右から映る顔が美しい気がする)。**【参】**ふいぢやいぬーでいー(音痴)、ふいぢやいぐん(飯椀と汁椀の配置を反対にすること)、ふいぢやい うちやーしー(男子の着付けで右のおくみを左のおくみに重ねること)。

ふいぢやい おーぢ めー 〈左うちわ〉 【例】どうーなーや ぬーん さん、っちゆ ちかてい めーあんべー そーる っちゆんかい ふいぢやいおーぢーめーんでい いーん。(自分は何もしないで、他人を使って楽をしている人を左うちわと言う)。

ふいぢやい まちやー 〈つむじが左巻きの者〉 【例】ふいぢやいまちやーとう たーちまちやーや うまくー/ぼーちらーんでい いらっとうーたん。(つむじが左巻きと二つ巻きの者はやんちや/わがままと言われていた)。

ふいぢやい みぐい 〈空回り〉 【例】あれー まくとうな むん やしが、ぬーんちふいじやいみぐい そーがやー?(あの人は誠実な人だが、どうして空回りしているのかね)。

ふいぢや やー/ふいぢやい がってい 〈左きき〉 【例】ふいぢややーや ふいぢやいん にぢりん ちかいるくとうぬ なてい ーうーぐとう やー。(左利きは左も右も使うことが出来てありがたいことだ)。

ふいぢやるー 〈不器用、ばつが悪い〉 【例】わったー ういなぐぬ うやー あみむんからのーいむんから いっぺー じよーじ やしが、わんねー うやんかい にらん、ふいぢや

るー やん。(私の母親は編み物から縫い物から大変上手だが、私は親とは似ていなくて不器用だ)。ぬーんくいん どうーくる かんげー てい すんでいる くとー ならーさんねー、つくわー ふどういーねー ふいぢやるー ないん どー。(何でも自分で考えてすることを教えないと、子どもは大きくなると困ってしまうよ)。

ふいぢやまいん 〈隔たる〉【活】ふいぢやまたん、ふいぢやまらん、ふいぢやまてい【例】わったー むらー むら ていーち ふいぢやまとーん。(私たちの村とは村一つ隔たっている)。

ふいぢやみーん 〈隔てる〉【活】ふいぢやみたん、ふいぢやみらん、ふいぢやみてい【例】うむやーぐわーやーとー かーま ふいぢやみとーん。(恋人の家とは遠く離れている)。

ふいぢゆん 〈削る〉【活】ふいぢやん、ふいがん、ふいぢ【例】かちゆー／でーくに ふいぢゆん／ふいげー。(鯉節／大根を削る／削りなさい)。どうーくる かちゆー ふいぢ、ちゆくたる しろー だしぬ っんぢてい いっぺー まーさたん。(自分で鯉節をけずって、作ったおつゆはダシが出てとてもおいしかった)。

ふいち 〈親戚〉【例】っやーや まーぬ ふいち (や)が?(あなたはどこの親戚か)。しじえー まー やが?(血筋はどこか)【参】っうえーか、はら。

ふいぢやい／ふいちえー 〈額〉【例】っやー ふいぢやえー ふじびぢやい ない あんし ちゆらさる、ちのー ゆー うちやいん てー。(あなたの額は富士のような額でなんとりっぱなことか! 着物はよく似合うね)。んーもーこっこいんてい いーしえー、うやぬ ふいぢやいとう つくわぬ ふいぢやいとう あーち よーんぐわー がんまかち あしぶし やん。「んーもーこっこい」というの

は、親と子の額とを合わせて軽くこつんとやる遊びだ)。

ふいちないん 〈抜ける〉【活】ふいちなたん、ふいちならん、ふいちなてい【例】んなが っういーりきぎさ あしどーる ばすねー どうーちゆい ふいちなてい びんちよーんかい うみはまとーたん。(みんなが楽しそうに遊んでいるときには自分一人抜けて勉強に精を出していた)。

ふいちなすん 〈とって置く〉【活】ふいちなちゃん、ふいちなさん、ふいちなち【例】くぬ くわっちーや うっとうぬちやーんかいん ふいちなちよーき よー。(このごちそうは弟妹たちにもとって置きなさいよ)。

ふいぢやいん 〈光る〉【活】ふいぢやたん、ふいぢやらん、ふいぢやてい【例】っやー ちぶるぬ うっさ ふいぢやとーくとう、いったー やーや あかがえー いらん てー。(あなたの頭はそんなに光っているので、あなたの家は明かりは要らないよね)。

ふいぢやい 〈光り〉【例】わったー なーんかえー ちちぬ ふいぢやいっし さちゆる ちゆらばなぬ あてい、ちゆゆるぬ ぬちどう やる。(私のうちの庭には月の光で咲く美しい花があって、一夜の命しかない)。

ふいちゆん 〈引く、弾く、挽く〉【例】うちなーぐゆみぬ 3ぐわち3にちねー うすぬ ふいちゆる じぶんねー、やーにんじゆ するてい どうーがんにじゆーにげー しーが はまうい すん。(陰暦の3月3日には潮が引く頃になると、家族揃って健康をお祈りしに浜に降りる)。どうー ふいちゆる じぶん ならしーが、なまから あとう しーぶさるくとう ぬ まんでい、ういーりきぎさっし まちかんでいー そーん。(身を引く頃になっているが、これから後したいことがたくさんあり、楽しみに待ちかねている)。まーみ ふいぢやー(豆を挽く器械)、さんしん ふいぢやー(三線弾く者)。

ふいち あていーん 〈引き合わす〉【活】～あていたん、～あていらん、～あていてい 【例】まちげーぬ ねーんが すら たげーに ふいちあていていから っんじゃさ やー。(間違いないのか、お互いに引き合わせてから出そうね)。

ふいっ かかい むっかかい すん 〈ひっかかる〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】なまぬ どうくろー ふいっかかい、むっかかいぬ ねーんくどう さーらない っんぢょーいびーん。(今のところはひっかることもなく、順調に行っている)。

ふいっ かたんちゅん 〈熱中する〉【活】ふいっかたんちゃん、ふいっかたんかん、ふいっかたんち 【例】だいがく あがていから なまー をうどういんかい ふいっかたんちょーん。(大学を卒業してから今は踊りに熱中している)。

ふいち くむん 〈(人)を引き込む〉【活】～くだん、～くまん、～くでい 【例】かみどうくるぬ っちゅ ふいちくどーしえー、まーさるびけー あらん、やーぬ かじゃぬ ゆたさくどう うちやくぬ うほーく ゆしらっとーん。(食事処が人を引き込むのは、おいしいだけではない、雰囲気がいいのでお客が引き寄せられている)。

ふいち けーすん 〈引き返す〉【活】～けーちゃん、～けーさん、～けーち 【例】ありとういちえーが いくけーん ちゃんてーまん をうんでいーる くどうぬ ねーらんくどう またん ふいちけーちゃん。(あの人に会いに何度来ても居るといこともなくまたも引き返した)。

ふいち さがいん 〈(空腹で)元気がなくなる〉【活】～さがたん、～さがらん、～さがてい 【例】ちゅーや していみていむぬん かでーをうらん、やーさぬ ふいちさがとーっさ。(今日は早朝食も食べてはいない、お腹がすいて元気がなくなっている)。

ふいち しみーん 〈引き締める〉【活】～しみたん、～しみらん、～しみてい 【例】むぬぐと

ー ちむ ふいちしみてい すしどう じゅんやる。(物事は心を引き締めてするのが本当だ)。

ふいち たちゅん 〈引き立つ〉【活】～たちちゃん、～たたん、～たっち 【例】うりが すがいよーや、じんかじゃ する ちむん あらんしが、まーんぢ やていん ふいちたっちょーん やー。(あの人の装いは、高級そうな服でもないが、どこででも目立っているね)。

ふいち ちーん 〈引きつる〉【活】～ちたん、～ちらん、～ちてい 【例】たかどうくる うとうるさするっちゅどう まじゅん ひこーきぬたくどう、うりーるまでい ちらー ふいちちーかーちー そーたん。(高所恐怖症の人と一緒に飛行機に乗ったら、降りるまで顔はひきつっていた)。

ふいち どういん 〈引きとる〉【活】～どうたん、～どうらん、～どうてい 【例】うやぬ あちねーぐどう っくわぬ ふいちどうてい ゆくん さけーとーん。(親の商売を子が引き継いでさらに繁盛している)。

ふいち ぬぢゅん 〈引き抜く〉【活】～ぬぢちゃん、～ぬがん、～ぬぢ 【例】おーふあや あまくまから ふいちぬぢーねー、びちぬ ふあーぬ ゆかいん。(若葉はあちこちから引き抜くと別の葉が育つ)。

ふいち ぬばすん 〈引き延ばす〉【活】～ぬばちゃん、～ぬばさん、～ぬばち 【例】くどうしぬ みちじゅねーや うふかじ なてい ふいちぬばさったん。(今年のパレードは台風になって引き延ばされた)。

ふいち のーすん 〈再確認する、改める〉【活】～のーちゃん、～のーさん、～のーち 【例】くぬ すーむん/じん うんじゅさーに なーちゅけーん ふいちのーち くいみそーり。(この書類/お金をあなた様でもう一度改めてください)。どうく くさみかんぐどう なーちゅけーん ちむ ふいちのーしえー。(あまり怒らないでもう一度心を落ち着かせなさい)。

ふいち やーすん 〈引き合わす〉【活】～やーちゃん、～やーさん、～やーち 【例】まーんか

い をうが すら わからんしが、かんなじ
みちなかをうとーてい ふいちやーち くいみ
そーり。(どこにいるかさっぱり分からないが、
必ず道中で引き合わせてください)。ちんぬ
くべー しかっとう ふいちやーち とうらし
よー。(襟はちゃんと引っ張り合わせてちょ
うだいね)。

ふいち やーいん 〈引き合う〉【活】～や
たん、～やーらん、～やーてい 【例】いふいぐ
わーどう もーけー あくとう、みーぶくるん
かい むん いりねー じょーい ふいちや
ーらんでいち、なまぬ あちねーさーぬ ねー
さんたーや くめーきやー なてい みーぶ
くる くいらんばー すん。(少ししか儲けは
ないので、新しい袋にもものを入れるととも引
き合わないといって、今の商売人のお姐さんた
ちはケチって新しい袋をあげようとはしない)。
なーふあんちよー まちぐわーぬ ちかさくど
う、あっちこーいむん ないくとう ふいちや
ーとーん。(那覇の人は市場に近いので、歩いて
買い物できるので互いに助け合っている)。

ふいち やぎーん 〈引き揚げる〉【活】～や
ぎたん、～やぎらん、～やぎてい 【例】じん
もーきんでいち やまとうんかい っんぢやし
が、ゆくん もーきららんたくとう ふいちや
ぎてい ちゃん。(お金を儲けるといって本土
に行ったが、そんなに儲けられなかったので引
き揚げて来た)。

ふいち むん 〈差し押さえ〉 【例】あーっ
ちゆ なれーやーんち っちゆぬ いーるま
ないねー、ふいちむん さりーん どー。(善
人になろうとして人の言いなりになると、差し
押さえられてしまうよ)。

ふいつ ちーん 〈引き切る〉【活】～っちっ
ちゃん、～っちらん、～っちっち 【例】くぬ た
くぬ ふいさ はーさーに かんくーてい ふ
いっちれー。(このタコのゲソは歯で噛んで引
きちぎりなさい)。じん ふいつちらちよーく
とう、たーがな じん からしえー。(お金を切
らしているの、誰か金を貸してくれ)。

ふいつ ちり びっちり すん 〈切れ切

れにする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】
っやー むぬ いーよーや ふいつちりびっち
りっし ぬーんでいが いちよーら むる わ
からん。(あなたのものの言い方は途切れがち
で何と言っているのかまったく解らない)。っ
うえんちゆぬ かでーんねーっし むのー あ
まくま ふいつちりびっちりっし かむな よ
ー。(ねずみの食べたように食べ物はあっち噛
んだりこっち噛んだりして食べるなよ)。ふい
っちりびっちりっし じのー けーすな、すら
ーち むっちくーわ。(切れ切れにお金は返す
な、そろえて持って来なさい)。ちゆけーんか
いねー けーすんちえー さん、ふいつちりび
っちりっし けーすくとう、なまから あとー
ありんかえー じのー からさん。(一回で
返そうとはしないで細切れに返すので、今後は
あの人にはお金は貸さない)。

ふいつ ぱい かつぱい すん 〈引きつ
っている〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】ち
らぬ ふいつぱいかつぱい そーくとう、ちら
んかい くりーむ なしれー、かつぱやーや
とうりーっさ。(顔の皮膚が乾燥で引きつっ
ているので、顔にクリームを塗れば乾燥はとれる
よ)。

ふいちゆん 〈干る、潮がひく〉【活】ふいち
やん、ふいかん、ふいち、 【例】なまじぶのー
あんし あがとーまでい すーぬ ふいちよ
ーる やー。(今時分はあんなに遠くまで潮が
干くんだね)。

ふいち すー 〈干潮〉 【参】ふいし。

ふいつすいふいつすい すん 〈ずき
んずきんする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】
はーぬ ふいつすいふいつすいすん／ふいつ
すいみかすん。(歯がずきんずきんする)。ちぶる
ぬ ふいつすいふいつすいすん／ふいつすい
みかすん。(頭がずきずきする)。【参】ふいつ
すいみかすん(ズキンと痛む、ぎくりとする)、んに
だくだくーすん(胸がどきどきする)、ふと
うふとーすん(ぶるぶる震える)。

ふいっちー 〈いつも、一日中〉【例】ちゅー ふいっちー ていがねー ないが やー？ (今日終日手伝いできるね)。ちら あーしーねー、ふいっちーゆっちー ごーぐちびけー／ゆんたくびけー すくとう、ありからー ふいんぎまーい そーん。(顔を合わすと、いつも文句ばかり／おしゃべりばかりするので、あの人は逃げ回っている)。

ふいっちー **ぐーしー** 〈一日おき〉【活】まるふいっちー 〈一日中〉【例】めーにち あらん、ふいっちーぐーしー やーぬ めー あっちょーん。(毎日ではないが、一日おきに家の前を歩いている)。やーんかい をうる ばすねー、まるふいっちー すむち ゆどーん。(家に居るときには、一日中本を読んでいる)。

ふいっちやていーん 〈ひっぱり上げる〉【活】ふいっちやていたん、ふいっちやていらん、ふいっちやていてい 【例】くるまぬ とぅーいる みちんかい にんとーる ういっちやー たいさーに ふいっちやていてい うかーこーねーん とぅくまんかい どうきなちゃん。(車道に寝ている酔っぱらいを二人でひっぱり上げて安全なところに移した)。

ふいっちえーいん 〈ひっくり返る〉【活】ふいっちえーたん、ふいっちえーらん、ふいっちえーてい

ふいっちえーらすん 〈ひっくり返す〉【活】ふいっちえーらちゃん、ふいっちえーらさん、ふいっちえーらち 【例】みーぬ かしまさたくとう、いさぬやーんかい っんぢやれー、みー ふいっちえーらさつてい、みーがーんかい はーい うたつてい したたか はたはたー そーたん。(目がおもがゆくて病院に行ったら、まぶたをひっくり返されて、まぶたに注射されてがまんできないほど痛かった)。【参】はたはたー そーたん、＝にじらんあたいやむたん、＝にじらん にじー そーたん。

ふいっちえーすん 〈ぶり返す〉【活】ふいっちえーちゃん、ふいっちえーさん、ふいっ

ちえーち 【例】やんめーや ふいっちえーすくとう、なー はしつとう ないるまでー にんたい ほーたいどう すん どー。(病気はぶり返すので、完治するまでは寝たり起きたり(無理せずに)することだよ)。【参】うくりーん(盛り上がる、起こる)。

ふいっちよー／ふいっちえー 〈比較〉

【例】つうえーきんちゆとう ふいんすーむんとー ふいっちよー ならんさ。(金持ちと貧乏人は比較はできない／話にならない)。

ふいっとうんがすん 〈飛び出す〉【活】ふいっとうんがちゃん、ふいっとうんがさん、ふいっとうんがち 【例】わかむんぬ ずぼんぬ くさーぬ ポケットから さいふぬ っんぢやしぢゆーさぬ、なまにん ふいっとうんがしぎさー そーし なーふあぬ まちぐわーをうてい ゆー みーだちゆん。(若者のズボンの後ろポケットから財布が顔出し過ぎて、今にも跳び出してしまいそうなのが那覇の市場でよく目につく)。

ふいないん、ふいーん 〈減る、小さくなる〉【活】ふいなたん、ふいならん、ふいなてい

ふいならすん 〈減らす、小さくする〉【活】ふいならちゃん、ふいならさん、ふいならち 【例】ぬーが んーぢゆる うっペー ふいない むのー あらんむんぬ みしてい とぅらしえー。(なんで、見るだけでは減るものでもないのを見せてくれよ)。「わたぬ ふいなとーんねーすくとう ぬーがな かむみ?」「なーいふいぐわー わたぬ ふいなていから かむさ」「お腹がすいているようなので何か食べるか」「もう少しお腹が減ってから食べるよ」。あっちやーあっちやー そーくとう、いふいぐわー わたぶとー ふいなとーん。(散歩をしているので、少しはお腹が小さくなっている)。どぅー やんだんぐとう よーがりーる はなし やていん、わたぶとう てんてん そーる しんしーからー たーん ちかんさ。まじえ

一、なら一ちょーる しんしーぬ わたぶとう
から ふいならさわどう やる。(健康に痩せ
る話であっても、お腹が出ているお医者さんか
らは誰も聴かないよ。まずは、教えている医者
の出腹から小さくしないとね)。

ふいに一ん 〈ひねる〉【活】ふいにたん、ふ
いにらん、ふいにてい【例】ちむぬ ふいにと
一ん。(心がひねくれている)。「【参】「むでい
一ん」とも言う。

ふいばり一ん 〈ひび割れる〉【活】ふいばり
たん、ふいばりらん、ふいばりてい【例】せめ
んやーや ふるー ないねー、ふいばりてい
ちゅーん。(コンクリート建ての家は古くなる
とひび割れてくる)。

ふいま 〈暇〉【例】いちゆなさる なーかを
うていん ふいまー どうーくる ちゆくいる
むん。(忙しいなかでも暇は自分でつくるも
の)。ちゆちち ちゃー はたらち そーくと
う、ふちかびけー ふいま くいーさ。みっち
やみーねー っちとうらし よー。(ひと月ず
うっと働いているから、二日ばかり休みをあげ
る。三日目には出て来てね)。ゆくいる ふいま
ん ねーん、ちゃー じぬんかい っわーつと
一んねーっし、じん あわり そーん。(休む暇
もない、いつもお金に追われているようで、お
金の苦勞をしている)。ふいま なてー なら
んしがどう やー。どうくから ふいま なて
い やっけー やさ。(暇になってはいけない
んだが。あまりに暇で困ったことだ)。

ふいま だーり 〈暇をつぶすこと〉【活】ふ
いま しー むん〈暇な人〉【例】いちゆなし
むん やたしが、しくち あがたくとう ふい
まだーり そーん。(忙しくしていたが、退職
したら暇をつぶしている)。くららんらー く
ららん どーんち でんわ しえー しむるむ
んぬ、ぬーぬ くとうん ねーん、ふいさ く
んだってい ふいまだーり しみらさったん。
(来れないなら、来れないよと電話すればすむの
に、何の連絡もない、身動きがとれず暇つぶし

をさせられた)。

ふいみち すん 〈喘息でぜいぜいする〉
【活】～さん、～さん、～っし【例】ふいみちさー
に いーちん しーぐるさぬ、くちさぎさ そ
一ん。(喘息で息苦しうである)。

ふいみち 〈喘息〉【例】ふいみちやー (喘
息持ち)。ふいみち ぐすぐす そーん。(喘息
でぜいぜいしている)。ふいみちやー なてい
ぐすぐす そーん。(喘息持ちになってぜい
ぜいしている)。

ふいむん 〈碑文〉【例】ハンドーグラーぬ
ふいむんぬ めーをうてー さしん ぬぢえー
ならん どー ンでいる はっとうぬ あん
でい。(ハンドーグラーの碑文の前では写真を
とってはいけないという注意書きがあるって)。

ふいら 〈坂〉【例】「つうえーき ふいんす
ーや ふいらぬ ぬぶいくだい」んでいーる
いくとうばぬ あくとう、つうえーきんちよー
ふいんすーむん うしえーてー ならん。ま
ーぬ たーがが りっしん すら わからんく
とう やー。(「富裕と貧乏は坂の上り下り」と
いう伝えがあるので、金持ちは貧乏人をバカに
してはいけない。どこの誰が立身出世するの
かまったくわからないからね)。じゃーがるぬ
さくふいらをうてい ぬぶいかんていー そー
る そーべーぐるまー んーちゃん。(謝苺の
急斜面の坂で上るのに四苦八苦しているポンコ
ツ車を見た)。うるくぬ やましちゃんかい
がじゃんびらんでいち うすまさる がじゃん
ぬ ブーンブーン そーたんでいーる とうくる
ぬ あん。(小祿の山下に蚊坂という、たくさん
の蚊がブーンブーンと音を出していたというと
ころがある)。

ふいら～〈平たい〉

**ふいらー、ふいら たっぺー、ふいらべ
ったー、ふいらたー** 〈平たいもの〉【例】
うしるくぶ がっばやーや なちぶさー やて
い、ふいらたっぺーや うふやっさたんでい

んかしぬ っちゅが ゆー いちよーみしえー
たん。ぬーんちがんでい いーねー、ふいっち
ー なちゅくとう だちぐしぬ ちち ちぶろ
ー まっくわんかい うしちきらってー をう
らんくとう、がっぱい やんでい。(後頭部が尖
っている者は泣き虫で、平たい者はおとなしか
ったと昔の人はよくおっしゃっていました。な
ぜかと言うと、よく泣くので抱き癖がついて頭
は枕におしつけられていないので、尖っている
んだって)【参】たっぴーらー(後頭部の平た
い者)。

ふいら きーん <べたっと座る、ぺっしゃ
んこになる>【活】ふいらきたん、ふいらきらん、
ふいらきてい 【例】をうーじとーしぬ なか
ゆくいに ふいらきてい くしゆくいっし、ん
なっし ぬだい かだい する むぬどう い
ちやかん まーさる。(砂糖キビ収穫の休憩時
にあぐらをかいて腰を休めて、皆で飲んだり食
べたりするものがいつもよりおいしい)。きち
ぬ あしえー がっていん ならんでいいち
しまんちよー かなあみぬ めーんかい ふい
らきとーたん。(基地があるのは反対だと言っ
て島の人々は金網の前に座り込んでいた)。あ
ぬ っちょー ぬーんくいん みっち、あんし
どう ちむぬ ふいらきとーさ やー。(あの
人はすべて満ち足りて、なんと心が座っている
ことか)【参】「ふいらく ないん」とも言う。

ふいら かすん <ぺっしゃんこにする>【活】
ふいらかちゃん、ふいらかさん、ふいらかち

ふいら ぐん <三つ編み> 【例】んかしえ
ー ういなぐがくしーや からじ ふいぢやい
にぢりんかい わきてい ふいらぐんっし ゆ
ーとーたん。(昔は女学生は髪を左右に分けて
三つ編みして結っていた)。

ふいら ふあー ぐさ <オオバコ> 【例】
んかしえー ふいらふあーぐさ どうやーに
あらてい ふいーっし あんていから、てい
さーに しりーしりーっし ちんペー くわ
さーに っんペーとーる にーぶたー えーす
るために くすいがわいに ちかたん。(昔は
オオバコを採って洗って火で焙ってから手で擦

って唾をつけて化膿しているデキモノの膿を出
すために薬代わりに使った)。

ふいら やちー <沖縄風チヂミ> 【例】ふ
いらやーちーんでい いーしえー むーじなく
ーんかい ちりびら ちっち いてい ふい
しふいしーとう ふいらやちー しえーる か
みむん やん。(「ふいらやーちー」というのは
小麦粉にニラを切って入れて薄く平焼きしてい
る食べ物だ)。いくさ うわていちゃーきー
わらびんちゃーんかい うやぬ ふいらやちー
ゆー ちゅくてい かますたん。(終戦直後
は子どもたちに親が「ふいらやーちー」をよく
作って食べさせた)。

ふいらいん <つき合う、仕える>【活】ふい
らたん、ふいららん、ふいらてい 【例】あれー
っちゅ/どうし/っうえーかとう ゆー ふ
いらとーん。(あの人は人/友人/親戚とちゃ
んとつき合っている)。たーやかん たんかー
まんかーぬ っちゅぬちゃーとー ゆー ふい
らり よー。(誰よりも隣近所の人とはちゃんと
つき合いなさいよ)。をうとうとう ゆー
ふいらとーん。(夫の面倒をよく見ている)。

ふいれー <つきあい> 【例】っちゅ びれ
ー(人づき合い)、ちゅけーとうない びれー
(隣近所づき合い)、っうえーか びれー(親戚
づき合い)、をうとう びれー(夫づきあい)、
どうし びれー(友人づきあい)、しとう び
れー(しゅうとづき合い)、ちよーでー びれ
ー(兄弟づき合い)、えーじゅー びれー(同僚
づきあい)、むとう びれーぐわー(元恋人)。

ふいらくむん <しびれる>【活】ふいらくだ
ん、ふいらくまん、ふいらくでい 【例】ちんし
んかい たまとーる みじえー ぬぢえー あ
しが、なーだ ふいしふいしーとう ふいらく
でい やむっさー。(膝にたまっている水は抜
いてあるが、まだずきずきとしびれて痛い)。ど
うく ふいーさぬ、いーびぬ ふいらくでい
うめーし かちみん ならん。(あまりに寒く
て、指がしびれて箸のつかみもできない)。

ふいらちゅん 〈開く〉【活】ふいらちゃん、ふいらかん、ふいらち 【例】みみん ふいらち ちゅぬ はなしえー ゆー ちき よー やー。(耳をすまして人の言うことはよく聞きなさい)。

ふいり 〈へり〉【例】たたんぬ ふいりぬ いるがらー いくちん あてい、うりっし で一ん かわいん。(畳の縁の色柄はいくつもあって、それで値段も変わる)。

ふいりーん 〈拾う〉【活】ふいったん、ふいりらん、ふいってい 【例】どうーぬ うとうちえーる ちれー ふいりれー。(自分が落としたゴミは拾いなさい)。ふいってい ちりばくん かい いりれー。(拾ってチリ箱に入れなさい)。
ふいりー がみ 〈つまみ食い〉【例】でばーとうぬ かみむん うとーる とうくまをうてー まじ あじっし まーにんでいち うかっとーる かみむん ふいりーがみ さくとう、あとー ちゅふあーら わた みっちよーたん。(デパートの食品売り場で試食のために置いてある食べ物をつまみ食いしたので、終いにはお腹いっぱいになった)。

ふいり すー 〈干潮〉【例】うちなーぐ ゆみぬ さんぐわちさんにちに ふいりすー ないねー、かわてい すーぬ かーままでい ふいちゆくとう、はまんかい うりてい、あーさ とうたい ちんぼーらー とうたい がに とうたい する っういーりきぐとうぬ あん。(陰暦の三月三日には干潮になると、ことさら遠くまで潮が引くので、浜に下りて、アオサを採ったり巻貝を採ったりカニを採ったりする楽しみがある)。

ふいる 〈にんにく、蒜〉【例】んかしえー ふいるぬ かー んーち さきぢきっし ふいる じゃき ちゆくたん。どうー あんまさる ばすねー、ふいるじゃき ぬだいっし うぬ みーん かなーち かみーねー たでーま はし っとう なたん どー。(昔はニンニクの皮をむ

いて酒漬けにしてニンニク酒をつくった。気分が悪いときにはニンニク酒を飲んだりして、その実も噛んで食べるとすぐに元気になったよ)。

ふいるがいん 〈広がる、繁栄する〉【活】ふいるがたん、ふいるがらん、ふいるがてい 【例】ちゅいんぐわから っんまがぬ さけーてい おーぢ ふいるぎーるぐとう ふいるがてーっ さ やー。(一人っ子から孫が栄えて扇を広げるように繁栄しているね)。

ふいるぎーん 〈広げる、拡げる〉【活】ふいるぎたん、ふいるぎらん、ふいるぎてい 【例】ばんしるーぬ ふあー、かきぬ ふあー、くわーぎぬ ふあー とうやーに、ちやーぬ ふあー ちゆくいんでいち はしるぐちんかい うちゆくいー ふいるぎやーに かーらかちやん。(グアバの葉、柿の葉、桑の葉をとって、茶葉を作るといって縁側に風呂敷を広げて乾燥させた)。ありんかい はなし しーねー、かんだばーぬぐとう まーまでいん ふいるぎーん どー。(あの人に話をすると、芋の葉のようにどこまでも広げてしまうよ)。あとうさち かんげーらんくとう ていー ふいるぎやーに すんじぐとう なたん。(将来のことを考えないで手を拡げて損をした)。

ふいん 〈変、すねること〉【例】ふいんなむん(変なもの、ひねくれ者)。ふいんさー(=ふいん そーる ちゅ、ひねくれ者)。

ふいん すん 〈ひねくれる〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】ふいん そーん。(ひねくれている)。あれー ふいんし やーんぢ にんとーたん。(あいつはひねくれて家で寝ていた)。

ふいん まがいん 〈ひね曲がる〉【活】～まがたん、～まがらん、～まがてい 【例】ちむぬ／はりがにぬ ふいんまがとーん。(心が／針金がひね曲がっている)。

ふいん むでいーん 〈ねじれる〉【活】～むでいたん、～むでいらん、～むでいてい 【例】なまー ちむぬ ふいんむでいとーくとう、ありとー ちゅーごーや ならん どー。(今は心

がねじれているので、あの人とは協議はできないよ)。

ふいん ぬぎーん 〈すり抜ける〉【活】～ぬぎたん、～ぬぎらん、～ぬぎてい 【例】ふくるぬすくぬ やりてい いっちょーる むのーむる ふいんぬぎてい ねーらん。(袋の底が破れていて入っているものはみんなすり抜けてしまった)。「参】やんでいゆん(壊れる)、やりゆん(破れる)、やりぢん(破れた着物)。

ふいんじむん 〈ひねくれ者〉 【例】=ふいんさー。あまー しくちびけーっし やーん っくわん うっちゃんぎーっし ほーとーくとう うやぬ ふちゆくるんかい だかりらん わらべー ふいんじむん ないさ。(あそこは仕事ばかりで家も子も放り出したままなので、親の愛情を感じさせていない子どもは非行少年になる)。

ふいんぎーん 〈逃げる〉【活】ふいんぎたん、ふいんぎらん、ふいんぎてい 【例】ねーぬゆいねー、たかさる とうくまんかい いっさんばーえー ふいんぎり よー。(地震が来たら、高い所に一目散に逃げなさいよ)。くぬよーな しーかた しーねー、とうじえー ふいんぎーん どー。(このようなやり方をすると、妻は逃げてしまうよ)。

ふいんがすん 〈逃がす〉【活】ふいんがちゃん、ふいんがさん、ふいんがち 【例】なーびかちかちーぬ ぬちえー いんちゃさくとう、とうっかちみていん あしだらー ふいんがしよー。(蟬の命は短いので、捕まえても遊んだら逃がしなさいよ)。ふいんがちゃしえー まぎー やたん。(逃がしたのは大物だった)。いゆちっちゃんしが、ぐまさたくとう ふいんがちゃん。(魚を釣ったが、小さかったので逃がした)。

ふいんぎ まーい 〈逃げ歩き〉 【例】むぬじぶん ないねー、こーいむん いーちきりーくとう、ふいんぎまーい そーたん。(ご飯の時間になると買い物と言いつけられるので、逃げまわっていた)。

ふいんぐ 〈皮膚に付いている垢、煤〉 【例】どうー ふいんぐ うとうしえー。(体の垢を落としなさい)。ふいんぐんでい いしえー かーんかい ちちよーる ゆぐりぬ くとう やん。「ふいんぐ」というのは皮膚に付いている汚れのことである)。ゆさんでい なていから あかんぐわ ふかんかい っんぢゃさんとー ならん ばすねー、まじむぬんかい ふいっかからんたみに、なーびぬ ふいんぐ ふいちゃいんかい ちきてい、そーてい あっちょーたん。(夜になってから幼子を外に連れ出さないとならないときには、悪霊が付かないために、鍋の煤を額に付けて連れ歩いていた)。

ふいんがー まやー 〈汚れた猫〉 【例】ゆー わかちやい むぬ にちやい するとうちねー ふいーふちやー ちかとーたくとう、ちらー しーし かんてい ふいんがーまやーぬぐとう などーたん。(湯を沸かしたり物を煮たりするときには、火吹きを使っていたので、顔は煤だらけになって汚れた猫のようになっていた)。

ふいんすー 〈貧乏〉 【例】ふいんすーむのー ちもー ばーき、つうえーきんちよー つうえーき くまさん。(貧乏者の心はザルだが、金持ちは儉約する)。ふいんすーや そーていん、くくろー ゆちく。(貧乏はしても心は豊かに)。

ふいんち 〈急に不機嫌になること〉 【例】ふいんち すん。(不機嫌になって怒り出す)。

ふいんとー 〈返答〉 【例】ちかりーるぐとう ふいじふいんとー しー よー。(聞こえるように返事しなさいよ)。

ふいんぷん 〈前墾〉 【例】んかし うちなーやーや みちから やーぬ なーかぬ みーらんぐとう、やーぬ めーをうてい あーいし むしたい、あかばなーぎー つういーたいっし ふいんぷん そーたしが、なまー しだい さぎてい ふいんぷんがーい そーん。

(昔風の沖縄家屋は道から家の中が見えないように、家の前にあわ石を築いたりブーゲンベリ

アの木を植栽したりして前塀にしていたが、今は簾を下げてその代わりにしている)。

心え

心え一 〈南〉 【例】ふえーむていー（南側）、ふえーんけー（南向き）、ふえーぬ ふあー（南の方角、方位）。っちゅけーん っんぢやるくとー ねーらん くにかいぬ たべー、まーぬ ふえーが やら にしが やら むさっとう わからん。（一度も行ったことのない国への旅はどこが南か北かまったく分からない）。ふえーぬ かじぬ ふちーねー、いっぺー したさん やー。（南風が吹いたら、とても涼しいよね）。ふえーむていーや きー たっくわーち っういーねー かじかたか なゆくとう、かじぬ とうーいみち あきてい っういーゆし どー。（南側は木をくっつけて植えると風を遮るので、風通しの道をあけて植えるものだよ）。

心え一 ない にし ない 〈定まっていないう様〉 【例】あん いちよーがやーんでい うむれー なまー あねー あらん どーんでい いち、ありが ちもー ふえーない にしない そーん。（そう言っているかと思ったら今はそうではないと言って、あの人の心は定まっていない）。あれー あん いー かん いーっし ちもー ふえーない にしないっし。ぬーんでい いちよーが むさっとう わからん。（あの人はああ言ったりこう言ったりして心は定まっていなくて、何と言っているのかさっぱり解らない）。【参】あん いー かん いー っし（ああ言ったりこう言ったりして）。

心え一 ぶちやー 〈夏、南風のそよぐ季節〉 【例】ふえーぶちやーぬ しち ないねー、っういーりきどうくるんかい ゆすぐにから すじよーさーぬ うほーく めんしえーん。（夏

になると、観光地に県外から観光客がたくさんいらっしやる）。【参】すじよーさー=っういーりきどうくるんかい っち すじよー する っちゅぬちやー（観光地に来て楽しむ人たち）、ふえーぶちやー（早口の者）。

心え一 まーい 〈南のなま暖かい風が変わること、雨の兆候〉 【例】ちゅーや かじえー ふえーまーい やてい、あみぬ ふいねー んでいーくとう あらいむのー ふさんしえー まし どー。（今日の風は南回りで、雨が降ったら濡れるので、洗濯物は干さない方がいいよ）。

心え一 〈灰〉 【例】ふえー ちかいーねー なんどうるこー ねーらん なてい しらぎぬ いんちやーぐわーん むる りっばんぐわーぬがりーっさ。（灰を使うと滑りにくくなって白髪短いのもみんなちゃんと抜けるよ）。

心え一 ぬ くすー 〈そばかす〉 【例】アミリカーたーぬ ぐまわらびんちやーや ふえーぬ くすーぬ っんぢとーしが、うりが（あくとう）どう うじらーさる。（アメリカ人たちの幼い子たちはそばかすがあるが、それが（あるから）かわいい）。

心え一 〈蠅〉 【例】ふえー ぶーぶー（蠅がたくさん飛び交っている様）。おーべー（青蠅）。すーまんぼーすー ないねー、しーべーぬ しでいてい かみむぬんかい ゆー しがいくとう、ぬーがな さーに かんしとーけー／うーとーけー。（梅雨になると、小蠅が発生して食べ物によく停まるので、何かで被しておきなさい／覆っておきなさい）。

ふえーい 〈流行〉

ふえーい うた 〈流行歌〉 【例】なまぬ
うたさーや んかしよう ちがてい とうんぢ
ゃーもーやーっし どうー っんぢゆかさな
うたいん。ふえーいうたん ふえーぐちっし
うたいくとう、ぬーぬ ましが やら わっ
たーんかえー むさっとう わからん。(今の
歌手は以前とは違って跳んだり跳ねたりして歌
う。流行歌も早口で歌うので、いったい何が
いのか私たちにはまったくわからない)。

ふえーい くとうば 〈流行語〉 【例】なま
ぬ わかむんぬちゃーぬ ふえーいくとうば
いんちゃく などーしぬ うふさん。(今の
若者たちの流行語は短くなっているのが多い)。

ふえーい やんめー 〈流行病〉 【例】なま
ー ふえーいやんめーぬ あくとう、ちちゆぬ
まじまっとうー とうくるんかえー いちゆ
しえー あらん どー。たーから やんめー
とういが すら わからんくとう やー。(今
は流行の病気があるので、人が集まるところ
には行くんじゃないよ。誰から病気をもらうか
わからないからね)。

ふえー〜〈早〉

ふえー がっていん 〈早合点〉 【例】む
ぬぐとー ふえーがっていん すな よー。っ
ちゆぬ あん いちやくとうんち しぐ 「う
ー」んでいち がっていんさんぐとう、ゆ
かんげーていから いれーたい ふいじさい
しーよー。(物事は早合点するなよ。人があ
あ言ったからといってすぐさま「はい」と承知
しないで、よく考えてから返事しなさい)。

ふえー にーびち 〈早婚〉 【例】ふえーに
ーびちんでいいる くとうばぬ あしが、なま
ーんかしとー ちがてい にーく などーん。
(早婚という言葉があるが、今は昔とは違っ
て遅くなっている)。

ふえー にんぢ 〈早寝〉 【例】ちゅーや
なー くたんでいとーくとう、そーまでい
ーゆーふる あみてい むぬ かみーねー ふ
えーく ゆくいん。(今日はもう疲れているので、

早めに風呂に入って食事したら早く休む)。

ふえー まーし 〈早死に〉 【例】みーち
よー ふえーまーしっし やなっちよー な
がぬち んーぢゆんち ちちよーしが、うん
なくとうぬ あいどう するみ んでいち わ
んにんかい ちちゆる うとうすいぬ めん
しえーたん。(いい人は早死にして悪い人は
長生きすると聞いているが、そんなことが
ほんとにあるのかと私に聞いて来たお年寄
りがいらっしやっした)。

ふえー みーん 〈早める〉 【例】みーく
とー ふえーみり。(いいことは早めなさい)。

ふえー っんまらー 〈早生まれの者〉 【例】
ふえーっんまらーや ていーちえー しー
じゃぬちゃーとう がっこー っんぢーん。
(早生まれの者は1歳上の者たちと学校を
出る／学校に行く)。

ふえーし 〈囃し〉 【例】っんまがぬ
ちゃーぬ うんどーかいんかい っんぢ、
はーえーすーぶー ふえーし たていた
くとう、ぬーでいーや がらがら そ
ーっさー。(孫たちの運動会に出て、かけ
っこを声援したので、喉はかれていますよ)。
ばっペーぐとうんかえー ふえーし た
ていーしえー あらん。(間違っている
ことにははやし立てるものではない)。

ふえー じえー がち 〈処方箋、配剤書
き〉 【例】ふえーじえーがち むち
ゃーにくすいやーをうてい うきとう
みそーり。(処方箋を持って薬局で受け
取ってください)。

ふえー りんちゆん 〈入り込む〉 【活】
ふえーりんちゃん、ふえーりんかん、
ふえーりんち 【例】っういーりきど
うくるをうてー みーむんぬ ある ば
すねー、いばさる なーかんかい わ
いくでい ふえーりんち ちゅーる
っちゆん をうん。(観光地でイベント
があるときには、狭いところに割り込
んで入ってくる人もいます)。ど
うーくる ふえーりんち ちよーてい
っちゆんかい ぶりーなくとう そ
ーん。(自分勝手に入り込んで来て
いて人に迷

惑をかけている)。やーぬ うちんかい どう
いぐわーぬ ふえーりんち ちーねー、やくぬ
いっちょーんでいち うみんかい っんぢや
ーに やくばれー そーたん。(家の中に小鳥
が入り込んで来たら、厄が入っているといって
海に行って厄払いをしていた)。くま あぎー
ねー とういぬ ふえーりんち ちゅーん ど

ー。あみどー みちれー。(ここを開けると鳥が
入り込んで来るよ。網戸を閉めなさい)。

ふえーれー〈追いはぎ〉【例】たこーやまん
かい ふえーれーぬ たい くわっくいとーて
い っちゅ うだーすたんでい。(多幸山に追
いはぎが二人隠れていて人を脅したんだって)。

ぱ、ぴ、ぷ、ぺ、ぽ

ぱーぱー 〈おばあさん〉【例】すーやーぬ
ぱーぱーや わらびぬくろー ういきがんちど
う うむとーたしが、ういなぐどう やみしえ
ーたる。(塩屋のおばあさんは子どもの頃は男
だと思っていたが、女でいらしゃったんだね。
ぬーんち ふぁーふぁーや あらん、ぱーぱー
やんでい いーしえー わからんしが、すー
やーぬ ぱーぱーや うちなーしばいをうてい
ゆー っんぢてい ちゅーん。(どうして「ふ
ぁーふぁー」ではなくて「ぱーぱー」だとい
うのは分からないが、塩屋のおばあさんは沖縄芝
居ではよく登場する)。【参】平安時代の日本語
の「は」行はp音だったということと関連する
のか。

ぱったらげーやー すん 〈抵抗する〉
【例】じゅんさぬ ういっちゆ とうっかちみ
ーんでい そーしが、ぱったらげーやーっし
とういんちかみん ならん。(警官が酔っぱら
いをとり押さえようとするが、抵抗して捕まえ
られない)。【参】ていーんけーすん(手向かう)、
ふいんけーする(口答えする)、げー すん(反
抗する)。

ぴーじゃー なすん 〈ぺっしゃんこにす
る、こらしめる〉【活】～なちゃん、～なさん、～
なち【例】なーふぁぬ うとうるさる にー
にーたーや くさみちーねー 「わんにんかい
げー しーねー(じーぐいひゃーぐい しー
ねー) ぴーじゃー なさりーん どー」んで
い いちよーたん。(那覇の怖いお兄さんたち

は怒ると「俺に反抗すると(文句を言う)こ
らしめてやるぞ」と言っていた)。

ぷちみかすん 〈ぼきんと音をだす〉【活】ぷ
ちみかちゃん、ぷちみかさん、ぷちみかち【例】
ぬびー しーねー、あまくま ぷちみかち な
とーっさー。(背伸びをしたら、あちこちぼきん
と音を出して鳴っている)。

ぺーちん 〈親雲上、位階名〉【例】ぺーちん
ないねー うしゆがなしーめーから ちゅむ
ら るーてい くーじぐとう そーたん。(親
雲上になると国王から領地をもらって公務をし
ていた)。

ぽーぽー 〈小麦粉と油味噌をつかった料理
名〉【例】ぽーぽー ちゆくいる ばすねー
むぢなくー あーち ふいしやちー さーに
うぬ なーかんかい あんだんすー いって
い まちゆん。「ポーポー」を作るときには小
麦粉を混ぜて薄く焼いてその中に油味噌を入れ
て巻く)。

ぽんみかすん 〈ポトンと音をだす〉【活】ぽ
んみかちゃん、ぽんみかさん、ぽんみかち【例】
はしぬ っわーびから かーら んーぢゅんで
い さーに ポケットから けいたいぬ しん
でいてい かーらんかい ぽんみかち うとう
ちゃん。(橋の上から川を覗き込もうとしてポ
ケットから携帯が滑り出て川にポトンと落とし
てしまった)。

ま

ま ～〈真〉 【例】またんかー／まむこー（真向かい）、まゆなか（真夜中）、まふいるま（真昼間）、まふえー（真南）、まにし（真北）、まあがり（真東）、まいり（真西）。いったー やしちぬ まにしえー まー などーが？（あなたの家の真北はどこになっているの）。あつたー やーぬ またんかーや うみ などーん。（あの人の家の真向かいには海になっている）。

～**ま**ー 〈密生していること／もの〉 【例】きーまーとう あちぐにとー ぬーがな かかわいぬどう あが やー？（毛深さと南国とは何か関係があるのかなあ）。きーまーや あちさふいーさから どうー まむらっとーくとう がんぢゅーむんぬ うふさんねー すん。（毛深い人は暑さ寒さから体を守られているので、丈夫な人が多いような気がする）。

まー 〈何処〉

まー **が**な 〈何処か〉 【例】まるけーていーなーや まーがな とぅーさんかい いちぶしく ないん。（時々はどこか遠くへ行きたくなる）。ぢー こーてい どうーぬ やー ぶかなやーんでい うむとーしが、まーがな むー とぅくろー ねーんがやー？（土地を買って自分の家を建てようと思っているが、何処かいいいところはないかねえ）。

まー **む**ていー 〈どの方角〉 【例】アンテナや まーむていーんかい にかーしーねー テレビや ゆー うちーがやー？（アンテナはどの方角に向けたらテレビはよく映るのかねえ）。

まー **り**かー 〈どの辺〉 【例】くしながねー まーりかーぬ ういーごーさが？（背中はこの辺がかゆいの）。あぬ まーさ すばやーや まーりかーんかい あが？（あのおいしいそば屋はどのへんにあるの）。

まーい 〈毬、球〉 【例】くぬ ぼーじゃーや みるくぬぐとう くえーてい だちやっさんやー。（この赤ちゃんは弥勒のように太って抱きやすいね）。なまぬ わらびんちゃーや まーいうちえー さん、まーい なぎたい、とぅばちゃい、きっちゃい する スポーツんかい はまとーん。（今の子どもたちは毬つきはしない、毬を投げたり、飛ばしたり、蹴ったりするスポーツに夢中になっている）。

まーいん 〈回る、すっかり～の状態になる〉

【活】まーたん、まーらん、まーてい 【例】きーむさーぬ なーぬ はーちぬ はんた いくけーん まーいあつちよーしが、んーぢゅる ちちよー みーまーいんねー すさ。（毛虫が庭の鉢の縁を何度も歩きまわっているが、見ている人は目が回るようだ）。くむぬ まっくーるー なてい あみぬ ふいぎさー／ふいがたー まーとーん。（雲が真っ黒くなって雨が降りそうな気配である）。うやんかい ぬらーつてい なちぎさー／なちがたー まーとーん。（親に叱られて泣きそうな気配である）。ういきがびけーぬ がっこーや ふいじゅるかんじやー まーとーてい、ういなぐぬ しんしーや いちぶさー さんでい。（男子校は女っ気がなくて、女性の先生は行きたくないって）。【参】がまぬ なーかんかい いーんでい さくとう、

ふいじゆるかんぢゃー さーに ちむ いふな
ー なたん（洞窟に入ろうとしたので、寒さに
ぞくっとして気分がおかしくなった）。

まーい 〈周り〉 【例】はなりじまとうか、い
なかんぢゃー ふんしーとうかぬ かかわい
から むらぬ まーいや ふくぢっし かくどー
ん。（離島や田舎では風水などの関係で村の周
りは福木で囲んでいる）。ありとう わんとー
とうしえー ちゅまーい ちがいん。（あの
人と私は歳は一回り違う）。

まーおーふあー 〈けしあぢみ〉 【例】ま
ーおーふあーや ふいどうみさちんかい ぐじ
ゆぐじゆ みーとーしが、んぢゃー ちーちき
らんねー ていーふいさ やますん。（けしあ
ぢみは辺戸岬に群生しているが、棘は気をつけ
ないと手足をケガするよ）。

まーぐー 〈皺の寄ったもの〉 【例】とうし
とういねー んな まーぐー ないしが、う
れー わっさる むのー あらん、っんぶらー
さる むんどう やる。（歳をとると皆しわが
寄ってしまうが、それは悪いものではない、重
みのあるものである）。ちんぬ まーぐー そ
ーしが、アイロンっし ぬばちから ふかんか
い っんぢらんねー ふーぢゃー ねーん ど
ー。（服にシワができてはいるが、アイロンで伸ば
してから外出しないとみっともないよ）。

まーぐー ぢら 〈しわくぢゃ顔〉 【例】ブル
ドックんでいーる いのー まーぐーぢらっ
し いっぺー えーそーむち やん。（ブルド
ックという犬はしわくぢゃ顔をしてとても愛嬌
がある）。

まーぐー ふういーぐー 〈しわくぢゃ〉
【例】あとうから ゆむる っちゅん をうくと
う しんぶのー（＝じーがめー） まーぐーふ
いーぐー なすな けー。（後から読む人もい
るので新聞はしわくぢゃにするなよ）。ちんぬ
まーぐーふういーぐー そーくとう のーしえ
ー。（着物がしわがよっているので直しなさい）。

まーじえー 〈くつわ虫〉 【例】やーぬ ま

ーがなんかい まーじえーぬ をうしが、ゆな
か ないねー まぎなち すくとう さーはご
ーさん。（家のどこかにくつわ虫がいるが、夜中
になると大きな音で鳴くので気味が悪い）。

まーじゃーくーじゃー 〈しわくぢゃ〉

【例】くぬ とうし なれーから ちらん まー
じゃーくーじゃー ないさ。（この歳になって
からは顔もしわくぢゃになるよ）。たーがなが
わん てーしちな むん まーじゃーくーじ
ゃーっし うっちゃんぎてーたん。（誰かが私
の大切なものをしわくぢゃにして投げ捨ててあ
った）。

まーす 〈塩〉 【例】あぐにぬ まーす ちか
いーねー、ぢゃぬ よーな むん やていん
まーく ないんでい いらっとうん。（粟国の
塩を使うと、どのようなものでもおいしくな
ると言われている）。

まーす みじ 〈塩水〉 【例】やなむん は
んする ばーねー からまーす やかー まー
すみじえー まし やんでい。（邪気ははずす
場合にはただの塩よりも塩水がいいって）。

まーす にー 〈塩煮〉 【例】なーびんかい
まーすみじ いてい たぢーねー、いゆ
まるまま いてい にち、まーすにーっし
かみーねー いっぺー まーさん。（鍋に塩水
を入れて沸騰すると、魚を丸ごと入れて煮て、
塩煮にして食べるととてもおいしい）。

まーすん 〈死亡する、回す〉【活】まーちゃ
ん、まーさん、まーち 【例】あぬ っちよー
けーまーぢゃしが、っやーや わからんどう
あていー？ だべー っんぢー？（あの人は
亡くなったが、あなたは知らなかったの。告別
式は行ったのか）。【参】みーくーゆん（亡くな
る）、みーうていーすん（亡くなる）、とーんか
い はちゃん（亡くなった）、をうらん ない
ん（亡くなる）、しぬん（（動物が）死ぬ）。

まーたかだーかー 〈肩車〉 【例】ういき
がぬ うやんかい まーたかだーかー さって

い すねー んーちやるくとう なま ちぎて
い うびとーん。(父親に肩車されてパレード
を見たことを今でも覚えている)。

まーち 〈松〉 【例】やんばろー まーちぬ
うふさぬ、みちぬ ふいぢゃい にぢれー ま
ーちぬ みーてい、ちゅらむん やてい みー
むん やん。(ヤンバルは松が多くて、道の両側
は松が生えていて、美しく観ものだ)。まーち
たむん しーねー、あんだぬ うふさくとう
ゆー めーいんでい。(松を薪にすると、油脂が
多いのでよく燃えるんだって)。

まーぬ 〈とんでもない〉 【例】「いったーや
みーとうんだわかり さんでい なー?」「まー
ぬ、っやーや。たーが いーたが?」「あなた
方は離婚したってね」「とんでもない、あんだ。
誰が言ったの)」。

まーふあなちやー 〈仰向けになる〉 【例】
まーふあなちやー すん/そーん。(仰向けに
なる/なっている)。まーふあなちやー な(い)
みそーれー。(仰向けになってください)。まー
ふあなちやー しみそーれー。(仰向けにして
ください)。まーふあなちやーつういーぢとう
いんぐわーつういーぢえー ないしが、ふい
ぢゃい にぢりぬ ていー けーるーげーるー
っし みじかち すしえー ならん。(背泳ぎ
と犬かきはできるが、左手と右手を代わる代わ
る水かきする泳ぎはできない)。

まーみ 〈豆〉 【例】くるまーみ (黒豆)、ぢ
ーまーみ (落花生)、ゐんどーまーみ (えんど
う豆)、たきーまーみ (腎臓)。あかまーみーや
かりーな むん やてい うゆうえーねー
かしちーめー ちゅくてい かむん。(あづき
は嘉例なものでお祝いにはおこわを作って食べ
る)。くらさる とうくるんかい とーふまー
み(=うふちじゃー) みじっし ふどうっわ
ーち、まーみなー ちゅくいん。(暗いところで
大豆を水で育てて、もやしを作る)。たきーまー
みぬ わっさる っちゅんかえー しーくわう

えー いっぺー くすい ないんでい ちちや
る くとうぬ あしが、ちゃーが やー?(腎
臓の悪い人にはスイカがかなり薬になると聞い
たことがあるが、どうかなあ)。

まーみ なー 〈もやし〉 【例】よーがりふ
いーがりっし、ていーだんかい あたたる く
とうぬ ねーんぐとーる いるしるーぬ うい
きがんかい まーみなーぬ ぐとーんでい い
ーん。(痩せ細って、陽にあたったことのないよ
うな色白な男性にもやしのようだという)。

まーみな くー 〈きな粉〉 【例】くじむち
んかい まーみなくー ほーてい かみーねー
まーさん ぞー。(葛餅にきな粉をふって食
べるとおいしいよ)。

まーるー 〈順番〉 【例】くわふーや まー
るー、まっちょーしが いかなしとうん わん
にんかえー まーてー くーん。(果報はまわ
りもの、待っているがどうしても私には回って
こない)。くねーだー っやー まーるー や
た くとう、くぬ あとー わん まーるー
やん。(この間はあなたの番だったから、次は私
の番だ)。

まいん 〈大便、小便をする〉【活】またん、ま
らん、まてい 【例】んかしぬ ういなぐぬう
やー っくわすだていじょーじ やてい っく
わぬ まいーねー、みじっし あらていくいー
たん。なまぬ すいせんトイレぬ さちばい
ゐ?(昔の母親は子育てが上手で子がウンチし
たら、水で洗ってあげた。今の水洗トイレの先
走りかな)。

まかい 〈碗〉 【例】しるまかい (お汁茶碗)、
めーまかい (ご飯茶碗)、うふまかい (どんぶ
り)。

まがいん 〈曲がる〉【活】まがたん、まがら
ん、まがてい 【例】くしながにぬ まがとー
ん。(腰が曲がっている)。こーぐ まがとーん。
(猫背である)。あれー やーんぢ ちんまがと
ーたん。(あの人は家でぢぢこもっていた)。あ

ん ぐとう いーねー あれー ふいんまがい
ん どー。(そんなことを言うとあの人はひね
くれるよ)。

まがやー ふいぐやー すん <曲がりく
ねっている> 【例】っやー ちんぬ くべー
まがやーふいぐやー そーくとう、だー、の
ーさ。(あなたの着物の襟は曲がっているので、
どれ、直そう)。

まかすん <預ける> 【活】まかちゃん、まかさ
ん、まかち 【例】じえーさのー むる ちゃく
しんかい まかちゃん。(財産はすべて長男に
預けた)。

まかねー すん <食事を作る> 【活】～さ
ん、～さん、～っし 【例】していみていむん、あ
さばん、ゆーばん、ちゆくいるむん かんげー
らんとーならんくとう、まかねーさーやか あ
んまさる っちょー をうらん。どうーちゆい
むん やれー、ぬくやー かむしが。(早朝飯、
昼ご飯、夕ご飯、食事を考えないといけないの
で、食事を作る人ほど頭を悩ましている人はい
ない。独身であれば、残り物を食べるんだが。
わんねー どうーくるどう まかねー そーん
どー。(私は自分で食事を作っているよ)。

まかねー やー <食堂> 【例】やぐさみむ
ん やれー、どうーくる ちゆくてい かむし
やかん まかねーやーんぢ かむしどう やし
あがい すがやー? ふかんぢ かみーねー
けーてー たかあがいどう すがやー?(独り
者であれば、自分で作って食べるよりも食堂で
食べるのが安くつくのかなあ。外食すれば、か
えて高くつくのかなあ)。

まがら <内輪> 【例】「まがら」んでい い
ーしえー、ちょーでー、をうじゃさー、をうば
まー、いちゆくぬちゃー、みーつくわ、ういー
つくわぬ くとう やん。「まがら」と言うの
は兄弟、伯叔父、伯叔母、従兄弟姉妹、姪、甥
のことである)。くんどうぬ うゆうえーや
まがらびけーさーに ちゃーぐわー わかしえ

ー っさ やー。(今度のお祝いは内輪だけで
祝おうね)。

まがるーふいぐるー <ひねくれた者>

【例】あれー まがるーふいぐるー どー。(あ
の人はひねくれ者だよ)。

まきーん <負ける> 【活】まきたん、まきら
ん、まきてい

～まき <～負け> 【例】かーぬ ふいっさる
っちょー かんすいまきん ていーだまきん
しー やっさん。(皮膚の弱い人はカミソリ
負けも日焼けもしやすい)。ちからまき すし
やか くちんかい まきーしが、ちむ ふが
ん。(力で負けるのよりも口で押さえつけられ
るのが割り切れない)。ふみちまき すくとう、
なちえー ちゃーん ならん。(暑さ負けする
ので、夏はどうにもならない)。なちまき (夏負
け)、ハジまき (ハゼにかぶれること)、くすい
まき (薬負け)、なーまき (名前負け)、ふじよ
ー まき (不浄負け、葬式などに行つて体に異
変が出ること)。

まぎーん <曲げる> 【活】まぎたん、まぎら
ん、まぎてい 【例】ちちゆぬ かんげー まぎ
ーるくとー ならん どー。(人の考えを曲げ
ることはできないよ)。ありが っやー どう
し まぎていとうらちゃん。(あの人があなた
の友人を負かした)。

まく <わんぱく> 【例】わらばー そーいね
ー はていまく やたしが、なまー あんし
うふやしく なてい やー。(子どもの頃は乱
暴者だったが、今はあんなにおとなしくなつて
ね)。

まぐいん <(皮膚、着物、紙などの)しわがよ
る> 【例】ちんぬ まぐとーくとう のーしえ
ー。(着物のしわがよっているので直しなさい)。

まぐい <顔のしわ> 【例】ちらぬ まぐえー
アイロンっし ぬばさりーる むのー あら
ん、とうしぬ くーどう やくとう。(顔のしわ

はアイロンで伸ばされるものではない、年の功なのだから)。

まくとう 〈本当〉【例】っやーや くとうば はなさかちよーしが、なま いちやる くとうばー まくとう やみ? まちげー ねーん やー。(あなたはことばに花咲かしているが、今言ったことは本当か。間違いはないね)。くれー まくとうぬ くとう やいびーん。(これは本当のことです)。まくとう そーる っちゅんかえー いやー たたん。(正直な人には悪いことは起こらない)。

まくとうー 〈正直者〉【例】ふり まくとうー (お人好し)。うぬ っちよーや まくとうー/まくとうな むん やいびーん。(その人は誠実な人です)。まくとうーや たから。うぬ っういーんかえー いやーや たたん。どうーぬ っういーんかえー どうこー まーてーくーんていん、ゆくゆこー つくわんまが んかえー いんとうくぬ ちゅーん。(正直者は宝。その身には矢は立たない。自分の身には徳は廻って来なくても、そのうち子孫には陰徳が来る)。

まぐらー 〈道義をわきまえない者〉【例】あれー ぬー からちん けーさん、ぬーっし とうらちん っちゅぬ くとー さん、まぐらーどう やる。(あの人は何を貸しても返さない、何をしてあげても人の事はしない、道義をわきまえていない)。

まぐりーん 〈(皮膚、着物、紙などが)しわくちやになる、めくれる〉

まさいん 〈勝る〉【活】まさたん、まさらん、まさてい 【例】っういーぢえー ありがとう まさとーる。(泳ぎはあの人うまい)。

まさい うとうるい 〈優劣〉【例】まさいうとうるいぬ あていどう っちよー うみはまいる くとうん ないん。(優劣があつてこそ人は努力することにもなる)。

まさい むん 〈優れもの〉【例】んかしから くぬ メーカーや まさいむんでい いら

っとーん。(昔からこのメーカーは優れものだとされていた)。

まさかい 〈全盛期〉【例】たー やていん んな まさかえー あしが、とうし とうてい しがたかたちえー かわていん ちもー ちやー わかわかーとう むちゅし やん。(誰でも全盛期はあるが、歳をとって姿かたちは変わっても、気持ちはずっと若くもつものだ)。

まし 〈一方よりまさること〉【例】っやーが まし やしから ていーち、たーち むっちょーけー。(あなたが好きなのから1つ2つ持って行きなさい)。コーヒーや あちこーこーとう ふいじゅるー じろー まし やが?(コーヒーは熱いのと冷たいの、どっちがいいか)。

まじくい 〈交わり〉【例】んかしえー とーぬ っちゅぬちやーとうぬ ふいれーぬ あてい まじくいぬ ちゅーさたん。(昔は中国の人との付き合いがあつて交流が盛んだつた)。「うぬ つくわぬちやーや そーちよーでーどう やる め?」「あいびらん どー。たいや ういきがぬ うやー ちがとーいびーん」「あん やん なー? たちーまじくいぬ をうさやー」「その子ども達は両親を同じくする間柄なのか」「そうではありません。二人は父親は違います」「そうなのか。他からの血が混じっている者が居るんだね)。

ましし/ましさー 〈赤肉〉【例】まししから くいみそーれー。(赤肉からください)。

まじむん 〈積む〉【活】まじだん、まじまん、まじでい 【例】しらびむん すんでいち しゅむち まじまりーる かぢり まじでい あとー しじみーんち あんましく などーん。(調べものをするといつて本を積めるだけ積んで後は片付けるのに煩わしくなっている)。

まじゅん 〈一緒に〉【例】しちぐわち、そーぐわちねー どうじとう まじゅん っうえーかぬ やー まーいん。(旧盆、正月には妻と一緒に親戚の家をまわる)。

まじん 〈束〉 【例】 たむん たまじん (=たばい) どうていっち どうらしえー。(薪二束取って来てくれ)。【参】 普通は「たばい」を使う。

また〜〈無傷な、完全な〉 【例】 たまー ちゅくいむんとう またむのー (=そーむのー) てーげーぬ っちゅがー みーわけー むちかさん。(宝石は偽物と本物は普通の人には見分けがむずかしい)。くぬ ゆーんかえー またっちょー をうらんしが、ありやか などーる っちょー んーちやる くとうぬ ねーらん。(この世には完全無欠な人間はいないが、あの人よりできている人は見たことがない)。

また 〈また、再び〉 【例】 また いちゃらやー。(また逢おうね)。ちぬー まちぐわーをうてい どうしとう いちゃたしが、ちゅーん また むぬ っちゅとう いちゃたん。(昨日市場で友人と出逢ったが、今日もまた同じ人と出逢った)。

また がらし 〈又貸し〉 【例】 からしえー からすしが、またがらし しえー ならん どー。(貸すには貸すが、又貸ししてはだめだよ)。

また にーびち／また むち 〈再婚(主に女性に用いる)〉 【例】 いく けーん またにーびち／またむち しん、しえーうえー ないんでー いららん。(何度再婚しても、幸せになれるとは言えない)。

また どうめーい 〈再婚〉 【例】 あぬ っちょー どうじ をうらん なさーに なげーしからーさぎさ そーたしが、ちかぐる またどうめーい さんでい どー。(あの人は妻をなくして長いこと寂しそうにしていたが、近頃再婚したってよ)。

また 〈股〉

また ぐし 〈股ぐら〉 【例】 どうく くえーれーからー またぐしえー しりやーに はぎてい やむんでい。(あまり太ると股ぐらは擦れてはげて痛いって)。

また ぬい 〈またがって乗ること〉 【例】 なまー ういなぐぬ すばぬい すしえー んーだらんくとう、ういなぐぬ またぬえー ふーぢえー ねーんでい たーがが いーたら？(現在は女性が片方に足をそろえて乗るのは目にするのではないので、女性のまたがって乗るのはみっともないっていったい誰が言ったのか)。

また ばし ごーやく 〈二股かける者〉 【例】 あぬ っちょー ありんかい たっくわい、くりんかい たっくわい する またばし ごーやく やくとう、ゆー くくりてい ふいらり よー。(あの人はあの人にくつつき、この人にくつつくどっちつかずなので、気を付けてつきあいなさいよ)。

まち 〈市場〉 【例】 やしえーまち (野菜市)、ちぶやまち (陶器市)、っわーさーまち (屠殺市)、いゆまち (魚市)、そーぐわちまち (正月市)、ぶんまち (旧盆市)。なーふあぬ まちえー しちぐわち、そーぐわちねー こーいむん さーぬ まんでい いばやーしーちえー そーてーくとう あとうから いちゅしえー ましどー。(那覇の市は旧盆、正月に買い物客が多くてごった返しているの、後で行くのがいいよ)。

まち がしらー 〈市の人気商品〉 【例】 ぶんまちぬ まちがしらー なーくぬ マンゴーやん。(盆市の人気商品は宮古のマンゴード)。

まち がねー 〈場所使用料〉 【例】 まちりぬ まちがねーや ちゃぬ あたい やが やー？(祭りの場所使用料はどのくらいかねえ)。

まち ばた 〈市場のそば〉 【例】 いったーやーや まちばた なたい、あっちん いかりーくとう、こーいむぬん しーやっさぬ、うーぐとう やる むん なー。(あなたの家は市場のそばで歩いても行けるので、買い物もしやすくてよかったね)。

まち や 〈店〉 【例】 ぬーから ぬーまでい ひやくえんさーに こーらりーる まちやぬ なまー あまくまんかい あん。(何から

何まで百円で買える店が今はあちこちにある)。まぎまちやんかい さってい んかしから あたる まちやぐわーぬ なまー ねーん などーん。(大型店に潰されて昔から在る小売り店は今はなくなっている)。

まちーん 〈御霊を祀る〉【活】まちたん、まちらん、まちてい 【例】うやふあーふじぬ ぶちだん まちてい めーなち うちやとうーっし うさぎーん。(先祖の御霊を祀って毎日お茶湯してお供えする)。

まちうちゅん 〈裏切る〉【活】まちうちゅん、まちうたん、まちうちゅん 【例】ありんかい ちゅらーく まちうたったん。(あの人に完全に裏切られた)。

まちげー 〈間違い、過失〉 【例】わーがいーまちげー やてーくとう、くねーてい とうらしえー。(私の言い間違いだったので、許してくださいね)。

まちげー ぐとう 〈道徳的に間違っただこと〉 【例】うんぐとう しーねー ちゃー ないんてい いーるくとうぬ わからん ちゅー まちげーぐとう ないん ぼーん あん。(そんなことをしたらどうなるのかということも解らない人は不道徳なことになるときもある)。

まちぶいん 〈からみつく、肉体関係をもつ〉【活】まちぶたん、まちぶらん、まちぶてい 【例】いーちゅーぬ まちぶいねー ふとうちぐりさくとう、はさんさーに たっちれー。(糸がからみつくとほどけ難いので、ハサミで切り取りなさい)。たくぬ じゅーんかい いーちゅーぬ まちぶてい ちんぶるげーやー さがなうていてい ちゅーっさー。(風のしっぽに糸がからんでくるくる回りながら落ちてくるよ)。わらびぬ まちぶてい ちゅーる ばすねー まじゅん あしでい うやっくわちなぢ すしやん。(子が甘えてくっついてくるときには一緒に遊んで親と子の契りを果たす)。わったーとー ちがてい、ちかぐるぬ ういきがとう

ういなごー あとうさちん ぬーん かんげーらん、まちぶてい あしどーしが。(私たちとは違って、最近の男と女は後先も何も考えないで、くっつきあっているが)。まちぶい すん。(からまる)。ていー ふいさ まちぶい そーん。(足手まといになっている)。

まちやーすん 〈群がる、立ちこめる〉【活】まちやーちゃん、まちやーさん、まちやーち 【例】あみぐわーんかい あいこーぬ まちやーちよーぐとう、しじみれー。(鮎にありがたかっているので取りのぞきなさい)。なーをうてい かりくさ とういちやめーてい めーちやくとう、きぶしぬ まちやーち みーぬ すんくわてい あきららん。(庭で枯れ草をかき集めて燃やしたので、煙が立ちこめて目にしみて痛くて開けられない)。

まちゅん 〈蒔く、撒く〉【活】まちゅん、まかん、まち 【例】うりずんぬ めーに ゴーヤーぬ さに まちーねー ゆー ないん。(うりずんの前にゴーヤーの種を蒔くとよくできる)。あたいぐわーぬ やしえーんかい みじ まちよーけー。(菜園の野菜に水を撒いておきなさい)。

まち ほーいん 〈まき散らす〉【活】～ほーたん、～ほーらん、～ほーてい 【例】せつぶんねー とーふまーみ まち、うに ういーほーいん。(節分には大豆をまき、鬼を追い払う)。

まちゅん 〈待つ〉【活】まっちゃん、またん、まっち 【例】ちゃっさ まっちゃん くーんたくとう けーたん。(いくら待っても来なかったので帰った)。まちゅしがどう うふいよーとういる。(あわてず焦らず機会を待つのが幸運を得る)。

まち あかすん 〈待ち明かす〉【活】～あかちゃん、～あかさん、～あかち 【例】そーぐわちぬ あがいていーだ んーぢゅんち まちあかすん。(初日を見るといって夜を待ち明かした)。

まち うきーん 〈待ち構える〉【活】～うきたん、～うきらん、～うきてい 【例】たー めー

んかい ぼーるぬ どうでいちゅーが すら
わからんくとう、んな ちむわさみち さがな
ー まちうきとーたん。(誰の前にボールが飛
んでくるのか分からないので、みんなドキドキ
しながら待ち構えていた)。

まちゆん 〈巻く〉【活】まちゃん、まかん、ま
ち 【例】かじまーいっし ふにん ぬみくむ
る あたい なみぬ したたか まちよーる
うかーさる とうくまぬ あん。(つむじ風が
吹いて船も飲み込むほど潮も渦巻いている危険
な場所がある)。ちんなのー っんまりたる
とうちから がらー まちよーん。(カタツム
リは生まれたときから殻は巻いている)。【参】
がんしなーなみ (渦潮)。

まちやー 〈つむじ〉 【例】たーちまちやー
や うーまくーんでい いらっとーしが、あん
やがやー?(つむじの2つ巻きはやんちゃと
言われているが、そうなのかなあ)。

まっ〜〈真〉

まっかーら 〈真っ赤〉 【例】うちなーぬ
はながしらー まっかーらっし さちよーる
でいーぐ やん。(沖縄の花の筆頭は真っ赤に
咲いているデイゴだ)。

まっくーる 〈真っ黒〉 【例】がらさーや
ぬーんち まっくーるっし あんし さーはご
ーさる。(カラスはどうして真っ黒でそんなに
薄気味悪いのか)。

まっしーら 〈真っ白〉 【例】うちなーぬ
しなー まっしーらっし ちゅらさん。(沖縄
の砂は真っ白してきれい)。あぬ まっしーら
ぬ らんぬ はなー ちゃっさが?(あの真っ
白の蘭の花はいくらか)。

まっちーる 〈真っ黄色〉 【例】イッペーぬ
はなー まっちーるー やてい、もーきーが
んでい ゆすぐにんかい っんぢやる っちゆ
ぬちゃーが ブラジルから むっちちゃんてい
どー。(イッペーの花は真っ黄色で、出稼ぎに
外国に行った人たちがブラジルから持って来て
よ)。

まっとーばー 〈一徹者〉 【例】あれー
まっとーばー やくとう むちかさん どー。
(あれは一徹者だから難しいよ)。まっとーばー
や ふいぢゃい、にぢれー ねーらん、うぬま
ま まっしーぐ いちゆん。(一徹者は左、右は
なくて、そのまままっすぐ行く)。

まっくわ 〈枕〉 【例】んかしえー きーま
っくわ、むみがらまっくわぬ あたしが、なま
ー はにまっくわ などーん。(昔は木枕、穀
殻枕があったが、今では羽毛枕になっている)。

まったらー 〈ツバメ〉 【例】まったらーや
っちゆぬ やーぬ あまだいんかい しー ち
ゆくてい っくわぐわー ふどうっわーすん。
(ツバメは人の家の軒下に巣を作って子を養う)。

〜までいー 〈無し〉 【例】くぬ くちやぐ
わーや いばさぬ、っんぢゆち むどうるちん
ならん。いーちまでいー すんねー すさ。
(この裏座は狭くて、伸び伸び動けない。窒息し
そうだ)。ねーさーに やーまでいー そーる
っちゆぬちゃーぬ ちむ かんげーいねー
ちゃーん ならん ないん。(地震で家を失っ
た人たちの気持ちを考えるとどうしようもなくな
る)。あぬ っちよー うやまでいー そー
くとう、ありぬ ちむ あきーるまでー さー
てー ならん。(あの人は親を無くしているの
で、あの人が心を開けるまで刺激してはいけな
い)。っくわ までいー (子無し)、そー まで
いー (理性を失うこと)。

まどう 〈暇、隙間〉 【例】しくちぬ いちゆ
なさぬ、わんにんかえー なま あしぶる ま
どうん ねーらん。(仕事が忙しくて、私には遊
ぶ暇もない)。

まどう なんか 〈偶数目の法事〉 【例】ま
どうなんかー っうえーかぬちゃーびけーっし
すくとう、どうしぬちゃーや いかんていん
しむん。(偶数目の法事は親戚だけをするの
で、友だちは行かなくてもよい)。

まどうぬ むん 〈間食〉 【例】とうく ま
どうぬむん とういぢゆーさいねー わた み

っち むの一 かまらん ないん どー。(あまり間食をとり過ぎるとお腹がいっぱいになって食べれなくなるよ)。

まとうまいん 〈まとまる〉【活】まとうまたん、まとうまらん、まとうまてい

まとうみーん 〈まとめる、統一する〉【活】まとうみたん、まとうみらん、まとうみてい
【例】なまからぬ わらびんちゃーんかい まちげー ねーらんぐとう うちなーぐち ならーさんねー ならんくとう うていふん うむんじてい まとうみーしどう かんぬーな くとー あらんが やー。(これからの子どもたちに正しく沖縄語を教えないといけないので、手本を重んじてまとめるのが大切ではないのかなあ)。

まぶい 〈魂〉【例】まぶい／たまし ぬぎーん。(びっくりする)。まぶい／まぶやー うとうすん。(魂を落とす)。まぶゑー んかとーてーさ。(噂をすれば影)。【参】たまし。

まぶい うてい／ぬぎ 〈魂落ち〉【例】くぶ わらべー まぶいうてい／まぶいぬぎ そーくとう、くみらんねー ましえー ならん どー。(この子は魂落ちしているので、入れ込まないとよくはならないよ)。【参】宮良(2019b, 55頁)。

まぶい ぐみ 〈魂込め〉【例】くるまじこ あーたい、たかさる とうくまから うていたい、うみかーらをうてい っんぶっくいたい、むぬかんげーぬ しーぢゅーさるたみに ちむんくくるん ちかりとーるとうちに まぶいぐみ すん。(自動車事故にあったり、高いところから落ちたり、海川で溺れたり、ものを考え過ぎるために精神的にも疲れているときに魂込めをする)。【参】くたんでいーん(重労働で疲れる)、をうたいん(軽い労働で疲れる)、ちかりーん(精神的に疲れる)。【参】宮良(2019b, 55頁)。

まぶい わかし 〈魂分かし〉【例】しんじゅーくにちぬ ゆさんでいに ぐそーとう い

ちみとう ちりわかする うぐわん する くとー 「まぶいわかし」んでい いーん。(49日の夕方に浄土と現世とを切り離す拌みをすることを「魂分かし」と言う)。

まふっくわ 〈真昼間〉【例】まふっくわねー どうーてーぬ みじえー むる ねーん なたい、ぶちくん ないくとう、ふかまーるーや さんしえー まし。(真昼間には体内の水分がまったく不足して、気分が悪くなるので、外出はしない方がいい)。

まま 〈言いなり〉【例】あまぬ みーとうんだー とうじまま／をうとうまま やさ やー。(あそこの夫婦は妻の言いなり／夫のいいなりだね)。あつたー うやっくわー っくわまま やん どー。(あちらの親子は子の言いなりだよ)。っくわまま しみーねー、あとー なたいーん ちきららん ないん どー。(子のわがママを通すと、後ではもう手がつけられなくなるよ)。

まま 〈一緒〉【例】たーが ぬーんでい いちゃんてーまん、ぬーぬ あたんてーまん、うやっくわー まーまでいん まま やさ。(誰がなんと言っても、何があっても、親子はどこまでも一緒だよ)。っやーとう わんとー まま ならんさ。(あなたと私は一緒になれないね)。うむいる まま なたいー?(思いのままになったか)。【参】ないんぐとう やさ。(なるがようにつてことよ)。

まま 〈血縁関係のない、継〜〉【例】ちよーでーや ぐにん やしが、そーちよーでーや みっちゃい やてい あとうぬ たえー まま ちよーでー やん どー。(兄弟姉妹は5人だが、一腹一生は3人で後の2人は血縁関係がないよ)。

ままっくわーすん 〈ごまかす〉【活】ままっくわーちゃん、ままっくわーさん、ままっくわーち 【参】ばばっくわーすん。

まみぢゅん 〈まちがえる〉【活】まみぢゃん、まみがん、まみぢ 【例】にちよーるーぬ あくとう、どうーぬ むんとう っちゅぬ むんとう さしわき さんねー まみぢゅる ばーん あん。(似ているがあるので、自分のものと人のものとを区別しないとまちがえることもある)。
【参】さしわき／みーわき(区別)、いるわき(差別)、いるみーわかすん(差別する)。

まむいん 〈守る〉【活】まむたん、まむらん、まむてい 【例】うやふあーふじからぬ ゆしぐとー いちいちまでいん まむてい いちゅし やん。(祖先からの教えはいつまでも守って行くものだ)。

まむい がみ 〈守り神〉 【例】あまぬ まむいがめー いびどう やいびーる。(あちらの守り神は霊岩／霊木です)。うちなーをうてー くわじ うくさんたみに しーさー、やなむん ぬきーる いしがんとーんでー むんぬきむん(＝まむいがみ)に そーん。(沖縄では火事をおこさないためにシーサー、邪気を退ける石敢當を守りものになっている)。うちなーやかみぬ しま やてい あまくまんかい むんぬきむん(＝まむいがみ)ぬ まちらっとーん。(沖縄は神の島であちらこちらに守り神が祀られている)。

まむこー 〈真正面〉 【例】なかぐしくぐしく あとうぬ まむこーうじょーや ふえーぬ はたどう やんでいる くとー なまぬ なままでいん わからんたん。(中城城趾の正門は南端だということは今の今までわからなかった)。

まやー 〈猫〉 【例】まやーぬ ちら あらいんねー(猫が顔を洗うように)。
【参】福州語の「まやーん」からの借用語か。

まやー ぐち 〈猫舌〉 【例】あれー まやーぐち やくとう、ありが むのー さちなち まかいんかい いってい うちきとーけー。(あの人は猫舌なので、あの人のものは先に碗に入れて置きなさい)。

まやーすん 〈惑わす〉【活】まやーちゃん、まやーさん、まやーち 【例】あれー まくとうな むんどう やたしが、ぬーにが まやーさっとーら、しきん さわがち あっち やー。(あの人は誠実な人だったのに、いったい何に惑わされたのか、世間を騒がしているね)。うちなーをうてー っちゅぬ やなぐとう しーねー、「あれー まやーさってーさ やー」んでー いーん。(沖縄では人が悪い事をしたら、「あの人は何かに惑わされているんだね」などと言う)。

まゆいん 〈迷う〉【活】まゆたん、まゆらん、まゆてい 【例】ちちよー まくとう そーけー なんくる ないぐとう ちむまゆいや すな。(人は誠実にしていればどうにかになるので、惑うことはするな)。

まるちゃ 〈まな板〉 【例】んかしえー はがまぬ ふたぬどう まるちゃ やたんでい。(昔は羽釜の蓋がまな板だったって)。

まる ばい 〈お尻まるだし〉 【例】んかしえー ちび すがすんでいち ぐまわらびんちやーや まるばい そーしぬ うふさたん。(昔はお尻に風を当てるということで小さい子たちはお尻まるだしが多かった)。

まるみーん 〈丸める、心服させる〉【活】まるみたん、まるみらん、まるみてい 【例】うんけーねー うやふあーふじんかい しるだーぐ うさぎてい、うーくいねー くるぎーたーだーぐ うさぎーたん。(お迎え日には先祖に白だんごをお供えして、お送り日には黒砂糖入りだんごをお供えした)。だいがくぬ しんしーんかい まるみらっとーてい なまー うみちとう がくむぬんかい うみはまとーん。(大学の先生に心服していて今はすっかり学問に夢中になっている)。

まるむん 〈まるくなる〉【活】まるだん、まるまん、まるでい 【例】うちなーぐゆみぬ じゅーぐにちねー うちちゅーめーや まるでい あかあかーとうっし いっペー ちゅらさん。

(旧暦の15日にはお月様は円くなって明るく輝きとてもきれいだ)。あれー わかさいねー、ぬーがやら むぬ いーねー しぐ どうつくわいむつくわい むにーどう すたしが、なまねー あねー あらん なてい ちもー まるでいちょーん。(あの人は若いときには、どうしたものか、ものを言うときすぐ言い返してきたが、今はそうではなくなって心がまるくなってきている)。

まんきーん 〈混ぜる〉【活】まんきたん、まんきらん、まんきてい 【例】くりんかえー うさきーなーぬ やしえーぬ まんきらってい／まんち あんし まーさる やー。(これにはそんなにたくさんの野菜が混ぜられて／混ぜられてほんとうにおいしいね)。みじとう あんだー あたらんくとう、まんきーんな けー。(水と油は合わないの、混ぜるなよ)。ぬーんくいーん まんきれー。(何でも混ぜなさい)。【参】っんべーゆん (みそ汁とかが濃いときに湯水で薄める)；んぢゃさる コーヒーんかい ゆーっんべーたくとう めー さくぐわー などーん (苦いコーヒーに湯を混ぜたのでちょうど良い加減になっている)。

まんぐら 〈あたり〉【例】「やくそー まーぬ まんぐらんかい あいびーが?」「こーえんぬ まんぐら やいびーん」「(役場はどのあたりですか)」「公園のあたりです)。

まんぐる 〈頃〉【例】でいーごー うりじんぬ まんぐるから さち はじみーん。(デイゴはうりずんのあたりから咲き始める)。いちぬ まんぐる (いつ頃)。

まんぐわすん 〈惑わす〉【活】まんぐわちゃん、まんぐわさん、まんぐわち 【例】いじ ちゅーく むっち っちゅんかい まんぐわさってー ならん。(意思を強く持って人に惑わされてはならない)。【参】わちやく さーに あり どうまんぐわちとうらさ (いたずらしてあいつを驚かしてやろう)。

まんぐいーん 〈うろたえる〉【活】まんぐいたん、まんぐいらん、まんぐいてい 【例】をうじゃさーぬ けーまーちゃんである しらしぬあてい じこー まんぐいとーん。(叔父が急死したという知らせがあってかなりうろたえている)。

まんじゅーういー 〈パパヤ〉【例】うちなーをうてー まんじゅーういーや ないむんやか かていむんっし かむん。(沖縄ではパパヤは果物よりおかずにして食べる)。

まん〜〈全、万〉

まん だち すん 〈しっかり抱擁する〉

【活】〜さん、〜さん、〜っし 【例】ゆすぐにからけーてい ちやーきぬ どうしとう みちなかをうてい うむいん ゆらん いちやてい、いちちよーる っうえーだに いちやーりーがすら やーんでい うむとーたくとう、あながちさぬ、まんだちさん。(外国から帰ってきたばかりの友人と道でばったり出逢って、生きている間に逢えるかと思っていたので、なつかしくて、しっかりと抱きしめた)。

まん だまし 〈魂のすべて〉【例】あつたに すーじぐわーから っちゅぬ とうんぢてい ちやくとう まんだまし ぬぎたん。(急に脇道から人が飛び出して来てびっくり仰天した)。

まん でー 〈万代〉【例】ゆーでーまんでーまでいん さけーとうらち うたびみしえーびりんでい いちん にがとーん。(幾世万代栄えさせてくださいといつも祈っている)。

まん どりーん 〈多い〉【活】まんどーたん、いきらさん、まんどーてい 【例】じん／じんぶんぬ まんどーん。(お金／知恵が多い)。うちなー やかー やまとー しゅちえー まんどーしが、なだやしこー ねーらん。(沖縄よりも本土は仕事は多いが、容易ではない)。くぬまかねーやーや いるかじぬ かみむんぬ まんどーん。(この食堂は食べ物のメニューが多い)。なちえー やまとうからん、ゆすぐにからん すじよーする っちゅぬちやーが まんど

ーん。(夏は本土からも外国からも観光客が多い)。

まん ぶり すん 〈完全に惚れてしまう〉
【活】～さん、～さん、～っし 【例】まんぶりさりやーに くだってい まーんかいん っんぢららん、あとー いーちまでいーっし かーまんかい ふいんぎたん。(完全に惚れられてしまって拘束されてどこにも出られなくなり、しまいには息苦しくなって遠くに逃げ出した)。あつたー ういなぐんぐわー とうじ をうる ういきがんかい まんぶりそーん。(あの家の娘は妻子ある男に浮かれている)。

まんちゃー ふいんちゃー すん

〈混ぜる〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】くみんかい まーじん、くるまーみ、むぢ まんちゃーふいんちゃーっし にち かみーねーまーさん。(米に粟、小豆、麦を混ぜて炊いて食べるとおいしい)。

まんちゅん 〈混じる〉【活】まんちゃん、まんかん、まんち 【例】ぬーんくいーん まんちよーん。(何もかも混じっている)。ゆすぬ ちーぬ まんちーねー、たちーまじくい そーんでい いーん。(よその血が混じると、他血混入していると言う)。

み

みー 〈中、穴、ところ、時〉【例】みーみーごーごー (穴)。ふいーふちぬ みーから ていんとー をうがまー (火吹き穴から天道拝む人、視野の狭い人)。いららん みーんかい いっち じゃーふえー などーさ。(にっちもさっちもいなくなつて大変なことになっているよ)。ありが／あつたー みーんかい いちゆみ? (あの人のところに行くの)。はいぬ みーんかい いーちゆー ぬちとうらしえー／とうーちとうらしえー。(針の穴に糸を通してくれ)。くさぬ みーから あっちゆる ばすねー、はぶぬ をういがすら わからんくとうちー ちきり よー。(草のなかを歩くときには、ハブがいるかも知れないので気をつけなさいよ)。にんぢゆる みーや にんぢゆるぐとう しーよー やー。(眠る時間は眠るようにしなさいよ)。っやーや ふいっちー ていーだぬ みーから あつちよーら やー。ちらーやきてい あかー などーん。(あなたはいつも陽の下を歩いているんだね。顔は焼けて赤くなっている)。

みー みー 〈ーじー〉〈根掘り葉掘り〉【例】っちゆぬ やーぬ くとう みーみーくーじー ちちゆる むのー あらん。(よその家のことを根掘り葉掘り聞くものではない)。

みー 〈くわーすん〉〈間に合わせる〉【活】〜くわーちゃん、〜くわーさん、〜くわーち 【例】なまから とういが いからんくとう、うりさーに みーくわーちよーけー。(今から取りに行けないので、それで間に合わせておきなさい)。うくりらんぐとう くじまでいねー みーくわ

ーし よー。(遅れないように9時には間に合わせなさいよ)。

みー 〈いっぱい〉【例】わたぬ みー かなん。(お腹いっぱい食べた)。

みー 〈実〉【例】みーぬ いらー くび をうーりり。(実るほどに頭を垂れる稲穂かな)。

みー 〈目〉【例】みーはぎ (ただれ目)、みーぐるぐる (目をきよろきよろすること)、みーぶつくわー (目が腫れていること)。みーがーうくりーん。(元気になって、落ち込んでいたまぶたが盛り上がる)。っやーや にんぢゆる みーや にんとーみ? みーこーがーいっちよーん どー。(寝るときはちゃんと寝ているか? 目がくぼんでいるよ)。みーぬ そーぬ ねーらん なてい ぐぶりー などーさ。(目の精気がなくなってしまって失礼しているよ)。ふいちみーぐわーっし (ウィンクして)。みーから ちーぬ っんぢゆるか はたらちゆん。(目から血が出るくらい働く)。

みー うすい 〈目隠し〉【例】ちゃーうちゆる とうくまんかい あたしがどう わんねー ちぬーや とうめーうーさんたん。みーうすい さつとーてーさ やー。(いつも置いてあるところにあつたのに、私は昨日は探し

みー うすいん 〈目をくらます〉【活】〜うすたん、〜うすらん、〜うすてい 【例】どうーぬ さいふ みーぬ めーんかいどう あしが、どうまんぐいてい あま とうめーい くま とうめーいっし、みー うすいどう さつとーて

ーさ やー。(自分の財布は目の前にあるのに、びっくりしてあちらこちらを探したりして、きっと目をくらまされていたのだね)。

みー うち <まばたき> 【例】うむやーやれー、みーうちさーに うむい とぅーする
くとうん ないん。(恋人であれば、まばたきで思いを伝えることもできる)。

みー くち <表情> 【例】ふいるまさんやー。あまぬ みーとうんだー みーくちまでい にちよーん でー。(ふしぎだね。あちらの夫婦は表情まで似ているね)。うとうすえーとうしぬ くー やてい みーくち やふあやふあーとう むぬ いーん。(お年寄りや年の功で柔らかい表情でものを言う)。

みー くふあくふあー <寝つきの悪いさま> 【例】ぬーやんくいーやん かんげーてい さらゆながた みーくふあくふあーっしいかなしとうん にんだらんたん。(あれこれ考えて一晩中寝つきが悪くてどうしても眠れなかった)。「参」さらふいーっちー(一日中)、さらばんじ(働き盛り、真っ盛り)、さらまくとう(馬鹿正直)。

みー くふあいん <目覚める> 【活】～くふあたん、くふあらん、～くふあてい 【例】ゆなかなぬ ちゃー めぬじぶんねー みーくふあいん。(夜中いつも同じ時刻に目が覚める)。

みー くふあやー <お目覚> 【例】わらびそーいに していみてい うきーねー うやぬ みーくふあやー やさんでい あみぐわーくいーたん。(子どものときに朝早く起きるとお目覚だといって飴をくれた)。

みー くらがん <めまい> 【例】ていーだくわらくわら そーる ばすに 2じかんびけー ながあっち さくとう、あし はていぬーでいー かーきてい みーくらがん そーたん。(太陽がかんかんしている時に2時間ばかり長歩きをしたので、汗をかいて喉が渇いてめまいがしていた)。

みー こーがー <疲れで目がくぼむこと> 【例】わんねー みーこーがー そーら やー?(私は目がくぼんでいるでしょう)。

みー じーんじーん すん <目から火が出る思いをする> 【活】～さん、～さん、～っし 【例】ちぶる はーやーんかい ばんみかさーに
みー じーんじーん すん。(頭を柱にぶつけて目から火が出ているようだ)。

みーぬ くち <目がしら> 【例】なだぬっんぢぎさ そーたくとう、みーぬくち うしちきてい とうみたん。(涙が出そうになったので、目頭を押さえて止めた)。

みーぬ しん <目つき、目の芯> 【例】がくむん そーる っちよー ちらだまし(=ちらうちき)ぬ かわてい みーぬ しぬん かわとーん やー。(学問をしている人は表情が変わって、目つきも変わっているね)。ありがくさみけーから/わじれーから/たんちしえーから、みーぬしんまでい たっち、うとうるさん やー。(あの人は怒ると、目つきまで変わって、怖いね)。

みーぬ ちび <目尻> 【例】あちはていてい みーぬ ちびしん んーぢぶしこーねーん。(あきれ果ててもう見たくもない)。

みー とうるばい <唾然としているさま> 【例】まぎいゆぬ かかてい みーぬ めーまでい あぎとーたしが、ふいっちりてい ふいんがさーに みーとうるばい そーたん。(大きな魚がかかって目の前まであげていたが、ひっ切れて逃がして愕然としていた)。

みー はい ぬすどう <目の前で盗みをはたらくこと、詐欺> 【例】ぬすどうんでい いーしえー しらんふーなーっし すしが、みーはいぬすどー っちゆぬ めーをうてい ぬすどう すん。(盗人は知らんふりしてするものだが、「みーはいぬすどう」は目の前で盗みをはたらく)。

みー ふいちやいん <にらんで目を光らせる> 【活】ふいちやたん、～ふいちやらん、～ふいちやてい 【例】っちゆぬ めーをうてー ぬーん いらんたしが、みーふいちやてい わからすたん。(人前では何も言わなかったが、目のにらんで解らせた)。

みー まゆ <顔立ち> 【例】わん どうし

ぬ しーじゃー ふどうん まぎさぬ、みーまゆん どうとうぬてい ちゆらにーしえー やん。(私の友人のお兄さんは体も大きくて、顔立ちもよくてイケメンだ)。

みー むとう 〈目もと〉 【例】うぬ っちゆぬ ちむぬ でいきとーしえー みーむとうんかい っんぢとーん やー。(その方の人間ができているのは目もとに出ているね)。

みー 心あー 心あー 〈呆然としているさま〉 【例】とうじから あったに うみかきらんくとう いらって、どうしえー みーふあーふあー なたんでい。(妻から急に思いがけないことを言われて、友人は呆然となったって)。

みー よー 〈目くばせ〉 【活】みー よーくち よー 〈目と口で合図すること〉 【例】ちゆぬ めーをうてー いららんくとー みーよーさーに とうーすん。(人前では言えないことは目くばせで伝える)。

みー やみ 〈眼病〉 【例】ななじゅーぐれー ないねー、はくなくいしょーんでいーる みーやみぬ っんぢていちゆーん。しゅじゅつやちゆけーんなくかい たーちえー ならんくとう、ていーちなーどう すんでい。(70歳ぐらいになると、白内障という眼病が現れてくる。手術は1回で2つはできないので、1つずつするんだって)。

みー いんでー 〈ものもらい〉 【例】にぢりぬ みーぬ みーいんでー ないねー、ふいぢゃいぬ うふいーびぬ ちみんかい はーいぬ さちさーに あじまーぬ しるし ちきーねー のーいんでい いらっとうたん。(右の目にもものもらいができたら、左の親指に針の先で十字の印をつけると直ると言われていた)。

みー〜〈新〉 【例】みーぢん(新しい服)、みーじん(新札)、みーじょー(新しい門)、みーやー(新築の家)、みーたたん(新しい畳)、みーぐち(商売の口開け)、みーゆみ(花嫁)、みーむく(花婿)、みーぐつ(新しい靴)。【参】あきまどうし(新年)。

みー いら 〈新入り〉 【例】くとうしぬ みーいらぬ くわいいのー ぬーんくいーんかい ちむ いったい すん。(今年の新会員は何でも心を込めてする)。

みー にし 〈新北風〉 【例】うちなーぐゆみぬ くんぐわちぬ なかぐれーから じゅーぐわちぬ はじみぐれーまでい みーにしぬ ふちゆん。(旧暦の9月中旬から10月の初旬まで新北風が吹く)。

みー むん 〈新品〉 【例】くぬ かぼのー みーむん やさ。っやー めーみ(=めーゆみ)?(このカバンは新品だよ。お前もらうか)。

みーじーくーじー／ごーぐちはーぐち すん 〈ぶつぶつ不平を言う〉

みーとうんだ 〈夫婦〉 【例】みーとうんだー しぢん まじゆん めぬ かーみんかい いーるくとう、「みーとうんだー かーみぬ ちび ていーち」んでい いらっとうん。(夫婦は死んでも同じ骨壺に入るので、「夫婦は一つの甕の底」と言われている)。

みーとうんだ おーえー 〈夫婦げんか〉 【例】わかさる うちにどう みーとうんだおーえーや する。(若いうちにこそ夫婦げんかはするものだ)。

みーとうんだ ぐわー しえー 〈夫婦ごっこ〉 【例】たー やていん くーさいねー みーとうんだぐわーしえー さるくとうぬ あゑー さに?(誰だって幼い頃に夫婦ごっこしたことがあるんじゃないの)。【参】がっこーぐわーしえー(先生・生徒ごっこ)。

みーばい 〈めばる〉 【例】みーばいやかまーさる いよー ねーらんでい うむいさ。(めばるよりおいしい魚はないと思うよ)。

みー むん／みー むなー 〈雌〉 【例】わったー まやーぬ っくわぐわー なち、むる みーむなーどう やしが、いったー めーみ?(私の家の猫が子を産んで、みんな雌なんだけど、お前の家もらうか)。

みーゆん 〈生える〉【活】みーたん、みーらん、みーてい 【例】っんまりてい ぐ、るっかげつびけー ないねー、めーばーぬ しちやから みーてい ちゅーん。(生後5、6か月ばかりすると、前歯が下から生えてくる)。

みー かーい ばー 〈永久歯〉 【例】みーかーいばーや いちち、むーちびけーねー みーかーてい ちゅーん。(永久歯は5歳、6歳頃に生えかわってくる)。

みーゆん 〈見える〉【活】みーたん、みーらん、みーてい 【例】きらまー みーゆしが、まちげー みーらん。(慶良間は見えるが、まつ毛は見えない、灯台もと暗し)。みーたる かーぎん みーらん。(姿が見えない)。みーぐわっちー さびたん。(見ただけでお腹いっぱいになりました)。みーぢたなさん。(見た目に薄汚い感じがする)。

みー あていーん 〈見つける〉【活】～あていたん、～あていらん、～あていてい 【例】とうめーとーたし みーあていたん。(探していたのを見つけた)。

みー うじー 〈見ただけで怖じ気づくこと〉 【例】かまん まーどう うっぴなぬ まかいんかい いりらりれーからー、みーうじーっし なー わた みっちよーん。(食べる前からそんな大きな碗に入れられると、見ただけで怖じ気づいてもうお腹いっぱいになっている)。

みー うびーん 〈見覚えがある〉【活】～うびたん、～うびらん、～うびてい 【例】あぬ っちよー みーうびーぬ ねーらん、(あの人は見覚えがない)。くぬ あかぢん みーうびとーみ?(この赤シャツに見覚えがあるか)。

みー くだー 〈見ても何だかわからないもの〉 【例】ピカソんでいーる しけーをうてい なー うっちよーる めーかちやー やしが、わったーがー みーくだー やん。(ピカソは世界的に有名な画家だが、私たちにはわけが分からない代物だ)。じーぬーをうてい なー うちよーる っちゆから サイン めーたしが、みーくだー じー なてい ゆまら

んたん。(芸能人からサインをもらったが、はっきりしない字で読めなかった)。

みー けーし げーし 〈くり返し見ること〉 【例】しけんねー みーぼっペーしえーをうらんがやーんち みーけーしげーし すし やん。(試験には見間違えていないかとくり返し見返すものだ)。

みー くーめー 〈にらめっこ〉 【例】「みーくーめー さな。わらてー ならん どー。あっぷっぷー」んでいーる うやっくわ あしびぬ あてい、うり んーぢーねー わんまでい っういーりきく ないさ。(「にらめっこしよう。笑ってはだめよ。あっぷっぷー」という親子の遊びがあって、それを見ると私まで楽しくなる)。

みー さぎーん 〈見下げる〉【活】～さぎたん、～さぎらん、～さぎてい 【例】っちゆんかい みーさぎらりーしん どうーぬ ゆい やさ。(人に見下げられるのも自分の所為だ)。

みー しーん 〈顔見知りになる、見知る〉【活】～しっちゃん、～しらん、～しっち 【例】なまから あとうん みーしっちょーてい うたびみしえーびり。(今後ともお見知りおきください)。っやーや うふいなー なてい みちんぢ いちやていん みーしららん などーさ。(あなたはこんなに大きくなって道で逢っても見分けがつかなくなっている)。

みー していーん 〈見捨てる〉【活】～していたん、～していらん、～していてい 【例】ちゃぬよーな くとうぬ あたんてーまん なちえーる っくわ みーしていーる むのー あらん。(どういふことがあっても生んだ子を見捨てるものではない)。

みー ちーん 〈見切りをつける〉【活】～ちっちゃん、～ちらん、～ちっち 【例】あれー ならんしが、わんねー なー みーちっちゃん。(あの人はどうもねえ、私はもう見切りをつけた)。

みー なり ちち なり 〈見たり聞いたりして自然に身につくこと〉 【例】とーきよーや っちゆぬ うふさる とくま やくとーう、みーなりちちなり ふいるみてい うむさ

ん。(東京は人口が多いところなので、見聞を広められておもしろい)【参】「なり」は「なりーん」(馴れる、慣れる)の名詞形。

みー ないん 〈見定める〉【活】～なたん、～ならん、～なてい 【例】ちちゆぬ すし みーなていから じょーじ ないん どー。(人がするのをよく見ることで上手になるんだよ)。

みー ぬがらすん 〈見逃してやる〉【活】～ぬがらちゃん、～ぬがらさん、～ぬがらち 【例】なー わっさたんでい いちよーたくとう みーぬがらしえー。(もう悪かったと言っていたので見逃してやれ)。

みー はていーん 〈見終わる〉【活】～はていたん、～はていらん、～はていてい 【例】かたる ビデオ ぐじかんびけー かきてい みーはていたん。(借りたビデオを五時間ほどかけて見終わった)。

みー ばっぺーいん 〈見間違う〉【活】～ばっぺーたん、～ばっぺーらん、～ばっぺーてい 【例】めーに ぐしんゐんぬーとう みーばっぺーたくとう、にしんゐんぬーや いってーくいーんな よー。(前に5千円札と見間違えたので、2千円札は入れないでね)。

みー はんだー 〈期待はずれ〉 【例】あーちちゆぬ をうくとうんでい いらってい わかういなぐとう ちらあーし さしが、むぬかんげーぬ あーらんたくとう、みーはんだーなたん。(良い人がいるからといって若い女性とお見合いしたが、ものの考え方が合わなくて、期待はずれに終わった)。

みー まんぢゆん 〈見守る〉【活】～まんたん、～まんだん、～まんてい 【例】たび さびーくとう、いちむどうい みーまんとうてい くいみそーり。(旅をするので、道中を見守ってください)。たんかーまんかーぬ ちちゆぬちやーが がっこーんかい いちゆる わらびんちやー みちなかをうてい みーまんとうん。(隣近所の親たちが学校に行く子どもたちを登校中に見守っている)。つくわっんまがぬちやー うやふあーふじぬ ちやー みーまんとうくとう ぬーぬ しわん ねーんさ。(子や孫

たちを御先祖がいつも見守っているの、何の心配もないよ)。まやーぬ いゆ みーまんとくとう ぬくさーに あとうから かましえー。(猫が魚を物欲しそうにみているので、残して後で食べさせなさい)。こーえんぬ いーすぐわーをうてい まーさむん かむんち されー、すばんかい みーちきてい みーまんとーる いんぐわーぬ をうてい かみん ならんたん。(公園のベンチで美味しいものを食べようとしたら、側で見つめて物欲しそうにしている犬がいて食べようにも食べられなかった)。

みー むん 〈催しもの〉 【例】ちゅーや みーむんぬ あしが、まじゆん いちゆみ?(今日は催しものがあるが、一緒に行くか)。

みー やんぢゆん 〈見損なう、見誤る〉【活】～やんたん、～やんだん、～やんてい 【例】ちちゆんかい みーやんだっていん ちちゆ みーやんぢゆる くとー しーぶしこーねーん。(人に見損なわれても人を見誤るようなことはしたくない)。

みうくいん 〈見送る〉【活】みうくたん、みうくらん、みうくてい 【例】やまとうからぬ どうし みうくい さーに なま けーてい ちやる とうくる (=けーてい ちやーき) やさ。(本土出身の友人を見送って帰って来たところだ)。

～みかすん 〈～という音をたてる〉【活】～みかちゃん、～みかさん、～みかち 【例】あんすんでい ちわみれーからー いかな ぬーぬ あていん ひやみかち たちあがいどう する。(そうするって決めたからにはどんなことがあっても気合いを入れて立ち上がるのだ)。っんぶにー かたみとーたくとう なー ふしがらんてい どうさみかち うるちゃん。(重い荷物を担いでいたので、もうたまらなくなってどすと下した)。だっちょーぐわー がさみかしみそーれー。(らっきょうをお召し上がりください)。

みぐいん 〈廻る〉【活】みぐたん、みぐらん、

みぐてい 【例】やーぬ すばふいら みぐいん。(家の廻りをまわる)。たかさる とくろー みーん みぐてい ふいさはごーさん。(高所は目が回り足下がぞくぞくする)。

みぐ い くめぐり 【例】ふいーみぐい(日巡り)、ちちみぐい(月巡り)、にんみぐい(年巡り)。ちちゆぬ うくねーぬ ゆしあしえー／ぢーふぢえー ふいーみぐい、ちちみぐい、にんみぐいっし まーてい ちゅーぐとう ちーちきらんとー ならん。(人の行いの善し悪しは／悪いこと弱いことは日ごと、月ごと、年ごとに廻って来るので気をつけないといけない)。

みぐ らすん <巡らす、回す> 【活】みぐらちゃん、みぐらさん、みぐらち 【例】っやーん とくやーに あまんかい みぐらしえー。(あなたも取って向こうに回しなさい)。せんぷーき みぐらしえー。(扇風機をまわしなさい)。なー いふえー じんぶん みぐらしえー。(もう少し頭を使いなさい)。ちかぐろー じんぬ みぐいぬ わっさっさー。(近頃は金巡りが悪いね)。

みくち <御骨> 【例】ふるばかから みーばかんかい みくち うんちけー すん。(古い墓から新しい墓に御骨をご案内する)。

みしーん <見せる> 【活】みしたん、みしらん、みしてい 【例】「っやーや わんがー ならんでいどう うむとーら やー?」「あんしえー、しーみしり」「あなたは私ができないと思っているのか」「それでは、やってみせろ」。うっとう みしていー? いくち ちげー やが? (二番目は生まれたか。いくつ違いか)。

みしげー <しゃもじ> 【例】うちなーぐちぬ みしげーや めーいりやー やてい、すいをうてー 「いーじえー」んでいん いーん。(沖縄語の「みしげー」はご飯をよそうもので、首里では「いーじえー」ともいう) 【参】なびげー (しゃくし)。

みしがら <身一つ> 【例】ありんくりんぬーんくいーん しててい みしがら ない

ぶさー あしが、しきんぬ あくとう、しーぶさていん いぢぬ っんぢらん。(あれもこれも捨てて身一つになりたいが、世間の目があるので、したくても決心がつかない)。

みじ <水> 【例】ぬすどー むっちいかりーる うっぴどう むっちいちゆる。やしが、みじん くわじん やーしーていー むる むっちはいん。(盗人は持っていけるだけしか持っていかない。しかし、水も火事も家屋ごとすべて持ち去る)。

みし ちぢ <飯粒> 【例】めーまかいぬ みしちぢえー ぬくさんぐとう むる かめー。くみ ちゆくいる ちちゆぬちやーぬ ちやーっし ちゆくとーが わかとーみ?(ご飯茶碗の飯粒は残さないように残らず食べなさい。お米を作る人たちがどのようにして作っているか分かっているか)。

みじゅん <イワシ> 【例】んかしえー みじゅのー ゆー とくらりーたしが、なまー いきらくなてい あんすかー かまんなどーん。(昔はイワシはよく捕れたが、現在は少なくなつてそんなには食べなくなっている)。

みちーん <閉める、満たす> 【活】みちたん、みちらん、みちてい 【例】いんぬ いっちちゅーくとう じょー みちれー。(犬が入ってくるので門を閉めなさい)。はしる／たんす／びんぬ ふた／くるま／かばん／れいぞーこ みちれー。(雨戸／たんす／瓶の蓋／車のドア／鞆／冷蔵庫を閉めなさい)。かーみ みちれー。(甕を満たしなさい)。

みちくみーん <閉じ込める> 【活】みちくみたん、みちくみらん、みちくみてい 【例】うさぢ やーぐわーんかい いってい みちくみとーけー。(ウサギを小屋に入れて閉じ込めておきなさい)。

みち ばっぺー <道で迷うこと> 【例】まーが まー などーがらん わからん ない、みちばっぺー すしえー ういなぐんか

い うふさん。(どこがどこなのかわからなくなって、道で迷うのは女性に多い)。

みちゆん 〈満つ〉【活】みっちゃん、みたん、みっち【例】ありが じんぶの一 みっちあまと一。(あの人の才能は満ち余っている)。みたん からから一ぬ うとうぬ まぎさ。(満たない酒瓶がかえって大きい音がする、大言する者ほど内容が乏しい)。あさばん ちゆふあーら かだくとう、わたみっち ゆーぼの一 あんすかー かまらんたん。(昼はたくさん食べたので、お腹いっぱい夜はそんなに食べられなかった)。

みち すー 〈満潮〉【参】ふいち すー。

みっくわー 〈盲人〉【活】=みーぬ ふじゆーな っちゆ【例】みーぬ ふじゆーな っちよー いーびぬ さちとうか むぬうとうんかい かんぢゆーさん、みみぬ ふじゆーな っちよー ちからんくとう っちゆぬ みーくち ゆむしえー ちゆーく ないん。(目の不自由な人は指先や物音に敏感で、耳が不自由な人は聞こえないので人の表情を読むのに敏感になる)。

みっくわさ すん 〈憎い〉【活】~さん、~さん、~っし【例】っちよー みっくわさ しえー ならん どー。(人は憎んではいけないよ)。っちゆんかい みっくわさ むにー さん どー。(人には憎まれ口をたたくなよ)。みっくわさ むん(憎たらしい者)。

みっちや 〈三日〉【例】うぬ くすいぬ ちちゆみ、ちかにんでい いしえー みっちや みーねー なんくる わかいさ。(その薬が効くか、効かないかは三日目には自然にわかる)。

みっちやい 〈三人〉【例】みっちやい すりれー しきん。(三人集まれば世間)。みっちやいからー しきん。(三人からは世間)。

みっちやかいん 〈満ちる〉【活】みっちやかたん、みっちやからん、みっちやかてい【例】

だむぬ みじえー みっちやかてい なまぬ とうくろー みじぬ しわん ねーらん。(ダムの水はいっぱいになって今のところは水の心配もない)。

みみ 〈耳〉【例】いちむしえー くいー かきーねー みみ ふいくふいくーっし たていーん。(動物は声をかけると耳をそばだてる)。

みみ がー 〈(豚の)耳皮〉【例】みみがーんかい ういぐわー まんきてい、あまじやきとう ぢーまーみー しりたっくわーさーにあーち えーむん ちゆくいねー まーさん。(耳皮にキュウリを混ぜて、甘酒とピーナツを擦り潰して混ぜて和え物を作るとおいしい)。

みみ くじやー 〈耳かき〉【例】あまんかい みみくじやーぬ あくとう とうてい くいれー。(あそこに耳かきがあるから取ってくれ)。

みみぬ ふあー 〈耳全体〉【例】みみぬ ふあーぬ まぎさる っちよー ながぬちんーぢゆん、みみだいぬ まぎさる っちよー っうえーき すんでい いらっとうーしが、あんな やが やー?(耳の大きい人は長命になり、耳たぶの大きい人はお金持ちになると言われているが、そうなのかねえ)。

みん くじらー 〈耳がわるい者〉【例】わんねー みんくじらーや あらんくとう、くーくぐわー あびていん ゆー ちかりーっさ。(私は耳が悪いわけではないので、小さな声でしゃべってもよく聞こえる)。

みみがに 〈理解力〉【例】みみがにぬ ある っちゆ あらんだれー うぬ わじやーじよーい ならん。(理解力のある人でないとその仕事はとてもしるものではない)。

みみじゃー 〈ミミズ〉【例】っやーが ちえーしえー ゆみん ならん どー。みみじゃー じー かし。(あなたが書いたのは読めないよ。ミミズのような字を書くから)。みみじゃーや ちびん くちん むぬ かたー そーくとう、まーが ぬー ならん わからん。

(ミミズは尻も口も同じ形をしているので、どこが何になっているのかわからん)。

みみぢゅん 〈揉む〉【活】みみぢゃん、みみがん、みみぢ 【例】むもー ていーっし みみぢえー くいーんな、んーぢゅる うっぴ しーよーんでい ないむんやーぬ ぬーしが いちよーたん。(桃は手で揉まないで、見るだけにしてくださいと果物屋の主人が言っていた)。

みむち 〈身持ち〉 【例】あぬ っちょー くとうばから すがいから みむちぬ ちゅらさん。(あの人は言葉や身なりから品がある)。

みるく 〈弥勒〉 【例】みるくぬ うかみがなしーめーや むらじゃけー、つくわなしじゃけー、ちゅくいむぢゅくいじゃけー ゆばーに ゆがふー むたらすん。(弥勒の神様は地域の繁栄、健康祈願、豊作を呼んで、繁栄をもたらす)。

みゆんち 〈お顔〉 【例】あやかいぶさいびーくとう、ひゃーく などーる うんじゅなーたんめー／うすめーぬ みゆんち をうがまちくいみそーり。(あやかりたいので、百歳になったお宅のおじいさん／おばあさんを拝顔させてください)【参】「ちら」の敬語。

みんぐいーん 〈濁る〉【活】みんぐいたん、みんぐいらん、みんぐいてい 【例】うふあみぬ

ふいねー うぬ かーらー たでーま しーりぬぐとう みんぐいとーん。(大雨が降るとその川はたちまちどぶのように濁る)。

みんぐわすん 〈かき回す〉【活】みんぐわちゃん、みんぐわさん、みんぐわち 【例】りんご しぶてーしが、かしえー しじみてい っわーじる とういんちどう やくとう、みんぐわさんき よー。(リンゴを絞ってあるが、かすは沈めて上汁を取るなので、かき回さないでよ)。

みんくわーうー 〈作り顔〉 【例】わらびぬ うむっさっし わらいる みんくわーうーや しむしが、やなぢら ちゅくてい うどうるかする くとー さんしえー まし。(子どもがおもしろがって笑う作り顔はいいが、怖い顔をして脅かすことはしない方がいい)。

みんさー 〈布の一種〉 【例】うーべー みんさーうーびぬ ゆー ちかーっとーん。(帯はみんさー帯がよく使われている)。

みんちやむん 〈目に入ったゴミ〉 【例】みんちやむなーぬ いっち やどーくとう ふーみかち まーに。(目にゴミが入って痛いので息を吹きかけてごらん)。

みんな 〈るりはこべ〉 【例】ふいーじゃーぬ まーさむのー わかみんな やん。(ヤギの好物は若いるりはこべだ)。

む

むいん 〈漏れる〉【活】むたん、むらん、むてい【例】ふるやー やくとう、うふあみぬ ふいねー あまむいっし なーびから、バケツから、びんだれーから うちきらっとーん。(古い家屋なので、大雨が降ると雨漏りするので、鍋、バケツ、洗面器が準備されている)。たーん かいん わからってーならん くとう やたしが、いーなぬふえーな／ちゅーちゃん むとーん。(誰にも知られてはいけないことだったが、知らぬ間に／あっという間に漏れている)。【参】情報は「むりーん」、「むりとーん」、「むりたん」を遣う。

むいん 〈もぎ取る〉【活】むたん、むらん、むてい【例】めーにん そーぐわち ないねー くにぶ むいが、いずみんかい っんぢょーん。(毎年正月になるとミカン狩りをしに、伊豆味に行っている)。

むいん 〈盛る〉【活】むたん、むらん、むてい【例】めーじょーぐー やくとう、かていむん やかー めーまかいんかい やまむいっし かむん。(ご飯好きなので、おかずよりはご飯茶碗を山盛りにして食べる)。

むいん 〈子守りをする〉【活】むたん、むらん、むてい【例】わらび そーいに、つくわむやーでー、みじくまーでー、こーいむんでー、ほーちかちでー、すすいかちでーとうっし あかじなー めーとーたん。(子どもの頃、子守り代、水汲み代、掃きそうじ代、雑巾がけ代として小銭をもらっていた)。

むい **にんしーん** 〈守りをして寝かせる〉【活】～にんしたん、～にんしらん、～にんしてい【例】むいにんしーる とうちねー、つくわむやーうた うたいがなー どうー をうーいねー にんていくいーん。(守りをして寝つかせるときには、子守唄を歌いながら体をゆり動かしたら寝てくれる)。【参】をうーいん(ゆすぶる)、をうーてい(ゆすぶって)。

むーちー **びーさ** 〈むーちー(鬼餅)寒さ〉【例】むーちーびーさんでいち あくとう じゅんに ふいるまさん どー やー。(むーちー寒さというのはあるので実に不思議だよねえ)。

むえー 〈模合〉【例】ちちむえーや ちゅちちに ちゅけーんなー すん。(月模合はひと月に1回する)。【参】「ゆれー」とも言う。

むくい 〈恩恵、報い〉【例】あまぬ うやふあーふじえー ちゅゆぬ くとう ゆー そーてーくとう、いんとうくとうっし いちみんかい むくいぬ ちよーっさ。(あそこのご先祖は人のことをよくしていたので、陰徳として現世の人に恩恵が来ている)。わかさる とうちに しえーる やなぐとうぬ むくい なまかんとーん。(若いときにした悪いことの報いを今受けている)。

むげーいん 〈沸騰する〉【活】むげーたん、むげーらん、むげーてい【例】ゆーぬ むげーとーん／わちよーん。(湯が沸いている)。むげーとーらー、かちゅーぶし いってい とうらしえー。(沸いているなら、鯉節を入れてね)。

むさげーいん 〈にぎやかに騒ぐ〉【活】むさげーたん、むさげーらん、むさげーてい 【例】わかむんぬちゃーぬ はまをうてい ゆーる につかまでい むさげーとーたん。(若い者たちが浜で夜遅くまで騒いでいた)。

むし 〈もし〉 【例】ありんかい っしとうらし んでいち たぬめーすしが、むし ならんでい いーねー ちゃー すが?(あの人にしてくれるように頼みはするが、もしできないと言ったらどうするか)。むし みーっわーちち やらー わんにん いちゆさ。(もしもいい天気なら私も行くよ)。

むし 〈虫〉 【例】ありんかえー にーぶやーむし/じんむし/おーやーむし/ういなぐむし/ういきがむしぬ たっくわとーん。(あの人には居眠り虫/お金の虫/けんか虫/女好きの虫/男好きの虫がくっ付いている)。

むし くえー ばー 〈虫歯〉 【例】むしくえーばーぬ やでい ふしがらんくとう はーやーんかい いかんねーならん。(虫歯が痛くてがまんできないので歯医者に行かないといけない)。

むじ くじ 〈ものの道理〉 【例】しめーしっち むじくじん わからん。(学問をしてもものの道理も分からない)。あれー 「むじくじん わからん まちがーぬ ふいむん」 どー。(あの人は何を言い聞かせても分からない人/何を言っているのかも分からない人だよ)。
【参】「文字故事んわからん松川ぬ碑文」とは松川にあった碑文が長い年月で風化し、字が読めなくなったことに由来する。

むじやらくわじやら すん 〈うじゃうじゃする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】くーさる みじたまいをうてい くーがからしでいたる あみなーぬ むじやらくわじやら(=ぐわさぐわさー) さーに ぱったいぱったい そーたん。(小さな水溜りに卵からふ化したオタマジャクシがうじゃうじゃ跳ねていた)。

むじゅむじゅー すん 〈むずむずする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】くしながにぬ むじゅむじゅーさーに いふーなー やたくとう、ていー いったれー きーむさー やたん。(背中がむずむずして変だったので、手を入れたら毛虫だった)。

むすび くーぶ 〈結び昆布〉 【例】むすびくーぼー にーびち、さきむい、しちぐわち、そーぐわち、とうしびーぬ うゆうえーぬ すーじぐとうんかえー かかさらん。(結び昆布は結婚式、結納、盆、正月、生年のお祝いの祝事には欠かせない)。

むたぶん 〈遊びをする〉【活】むただん、むたばん、むたでい 【例】なちえー わらびんちやーや みじ むたべーっし うっさ すん。(夏は子どもたちは水遊びをして喜ぶ)。

～むたーん 〈～遊び〉 【例】わらべーどーるむたーん、みじむたーん、しなむたーんぬ しち やん。(子どもは泥遊び、水遊び、砂遊びが好きだ)。

むち 〈餅〉 【例】じゅーぐやーに あかまーみー たっくわちえーる 「ふちやぎ」んでいーる むち うさぎーん。(十五夜に小豆をくっ付けた「ふちやぎ」という餅を供える)。

むちとう かーさ 〈男女の親密な関係〉【例】いったー たいや むちとう かーさぬ ぐとうどう あさ やー。(あなた方2人は餅とそれを包む葉のように離れられない関係だね)。
【参】たっくわいむっくわいっし(くっ付いて)。

むち 〈漆喰〉

むち ちちゃー 〈漆喰作りの職人〉 【例】ちかぐろー かーらぬ むちちちゃーん むちぬやーん いきらく などーん。(近頃は瓦の漆喰作りも漆喰塗りの職人も少なくなっている)。

むちめー 〈独特〉 【例】うちなーぬ なーしまじま なーむらむらんかえー むちめーぬんかしゆじりぬ くとうばぬ あん。(沖縄

の各地域や各村々には独特の伝統的なことばがある。

むぢゆくいん 〈(芽や蕾が) できかかる〉

【活】むぢゆくたん、むぢゆくらん、むぢゆくてい
【例】うりじん ないねー いるかじぬ
きーんかい むっくーん むぢゆくてい ちむ
ふくふく しみらさりーん。(春になるといろいろな木につぼみが出始めて心ゆたかにさせられる)。

むぢゆく い 〈農作物〉 【例】なちぬ
ちゆくいむぢゆくえー ゴーヤーとう なーべ
ーらー やてい たーやていん ゆー かどー
ん。(夏の農作物はゴーヤーとへちまで誰でもよく食べている)。むぢゆくいや とういりら
んうちえー どうーぬ むのー あらん。(農作物は収穫しないうちは自分のものではない)。
むぢゆくいや ていんぬ っうえーむん。(農作物の出来は天候に支配されているので、農作物は天のお持ちもの)。
【参】っうえーむん(お持ちもの)、「っうえーんす」(お召しもの)のように、「っうえー」は敬語をつくる接頭辞。

むちゅん 〈持つ〉【活】むっちゃん、むたん、

むっち 【例】あみぬ ふいが すら わから
んくとう かさ むっち いき よー。(雨が降るか分からないので、傘を持っていきなさいよ)。
やー むちゃー/やー むち じょーじ
/やー むち むん(家事をしっかりと切り盛りする者)。
ぬちえー なげー むたんどー。(命は長くはもたない)。
なちえー かみむのー
なげー むたんどー。(夏は食べ物は長くはもたない)。
上記の例で代表されるように、「むちゅん」は単に〈持つ、所有する〉だけではなく、〈内から支える、維持する、保存がきく〉を意味する。
ういなごー ななばち かんとーん。(女性は7つの難儀を抱え込んでいる)という言い伝えがあるように、生まれながらに「なんじ
さー」(難儀をする者)として「7つの苦勞」(出産、育児、夫をささえる、嫁としてのつきあい、など)を抱えていると考えられている。女性や妻の社会的役割をよく表わしている表現と

して、をうとう たてーうーさんういなごー
ゆーちらん ねーん。(夫をたてることができ
ない女性は何の役にもたたない)をうとうぬ
あがいしん とうじぬ ゆい やさ。(夫が出
世するの妻のおかげだ)。ちゃー ういきが
ー うふっちゆ どー。(幼くてもいつも男性
はおとなだよ)の例では男女間の社会的役割の
差をよく反映している。ところで、わったー
をうとー やーぬ くとー とうんけーていん
んーだん そーういきが やさ。(私の夫は
家のことは顧みない。亭主関白だよ)「そーう
いきが」(真正の男性)が〈亭主関白〉を意味する
ところに、「ういきが」(男性)に対する見方を
反映されている。「じまま」(わがまま)や「ど
うー がっていー さー」(自分勝手な者)と
は異なる。なーだ をうとう むたに?(まだ
結婚していないのか)は、〈まだ嫁に行かない
のか〉という日本語的発想よりも、〈まだ所帯
をもっていないのか〉を意味する。さらに、「っ
く;わ むっちょーみ?」(子を内に宿している
か)は「かさぎとーみ?」(妊娠しているか)と
同意義なので、日本語の「子を持つ」は意味し
ない。また、「をうとう むっちょーみ?」は言
えるが、「*とうじ むっちょーみ?」は言えな
いので、「むっちょーみ?」における「むちゅん」
には単に〈所有する〉だけの意味ではないこと
が明らかである。もしそうであれば、夫を所有
できても、妻は所有できないことになり、封建
的な考えからするとむしろ逆だからである。そ
れから、「むちゃー」が〈内から支える〉を意味
することから、「やー むちゃー」における「や
ー」は多くの場合〈家〉そのものではなく、〈家
計、所帯、家庭(夫、子)〉を意味するようになる。
その結果、「やー むちゃー」は〈家庭を内
から支える者、やりくり上手、主婦〉を意味し、
女性を指す。それで、「をうとう むっちょー
み?」は〈夫を内助する、結婚している〉の意
味なので女性を対象とするが、「*とうじ むっ
ちょーみ?」における〈男性が妻を内助する〉の
ような意味は成立しない。当然ながら、「やー
むちゃー」における「やー」が〈家〉そのもの

を表わす場合には、〈家の所有者〉を意味する。同様に、「つくわ むちー」(妊婦)、「をうとう むちー」(女性既婚者)はあるが、「*とうじ むちー」(妻帯者)はない。そこから、「とうじえー かめーていー?」(妻は探したか)という表現が使われるようになったと思われる。日本語の「どの面下げて歩けるか」に対する沖縄語は「ちら むっちえー あっからん」になるが、日本語に直訳した「*面を持っては歩けない」は成立しない。沖縄語の「ちら むっちえー」は〈顔を内から支えては〉、すなわち〈面子を保っては〉を意味することになる。

むち くわいん 〈引きずり込む〉【活】〜くわたん、〜くわーん、〜つくわてい 【例】しらびむん すんち むちくわーってい むぬ かむしん にんぢゆしん わしとーん。(調べものをするといつて没頭して寝食を忘れてい。ありが をうとー うしゆがなしーめー なてい、あれー むちくわーしみらさつとーん。(あの人の夫は王様のようにふるまうので、あの人は引きずりまわされている)。

むち すく 〈位牌の守り主〉【例】むちすこー たー やが?(位牌の守り手は誰なのか)。いったー とーとーめーや たーが むちゆが?(あなた方の位牌は誰が守るのか)。

むち つくわ 〈負担加重〉【例】どうーぬ めーぬ くとう やていん あがかん ぼーん あくとう、ちちゆぬ しわまでい かたみーねー むちつくわ なてい ふしがらん ないん。(自分自身のことでもうまくいかない場合もあるので、人の心配事まで背負い込むと負担加重になってたまらなくなる)。**【参】**くわー ないん(し過ぎる)、くわー すん(多過ぎる)。

むち なし 〈手入れ〉【例】んかしぬ で一あがやーぬ かじやいむんぬ むちなしえー ちゃーっし そーが やー? わたい かきたい しえー ならんくとう じこー ちー ちかてい で一じ あらんがやー?(骨董品の手入れはどうしているかね。割ったり、欠けたりしてはならないので、大変じゃないのかね)。

むち にー 〈手荷物〉【例】ひこーじょー をうてい あじきーる むちにーんかえー ぬ がーらりーる まぎさ、つんぶさとう ぬがーららん まぎさ、つんぶさぬ あん。(空港で預ける手荷物には大きさと重さに制限がある)。

むち のーすん 〈持ち直す〉【活】〜のーちやん、〜のーさん、〜のーち 【例】わんにん いふえー くとうばぬ くふあさてーさ。ちもー むちのーちとうらし どー やー。(私も少しことばがきつかったね。気持ちを持ち直してくださいね)。

むち はんていーん 〈持ち崩す〉【活】〜はんでいたん、〜はんでいらん、〜はんでいてい 【例】どうーぬ みあていん ぬーん みーらん なてい どうー むちはんでいとーん。(自分の目標も何もみえなくなって身を持ち崩している)。

むち ばんめー 〈弁当〉【例】しくち ふいちゆるまでい さんじゆーにんぬ っうえー だー ちゆけーんちよーん かかさんぐとう とうじぬ むちばんめー むたちくいーたん。(定年まで30年間一回たりとも欠かすことなく妻が弁当を持たしてくれた)。

むち めー 〈負担額〉【例】ちゆいなー ちゆいなーぬ むちめーや ちゃっさ なー やが?(個人負担はいかほどなのか)。

むち んちゆん 〈持ち込む〉【活】〜んちゃん、〜んかん、〜んち 【例】ふかをうてい こーてーる むのー くまぬ かみどうくるんかえー むちんちえー ならん。(外で買ったものはこの飲食店に持ち込んではいけない)。くまぬ ほんやーや どうーぬ かばん むちんちえー ならん。(この書籍店はカバンの持ち込み禁止だ)。

むち つんぶさ 〈気が重いこと〉【例】ちちゆぬ ちむがかい ちちやーに わーがどう むちつんぶさ そーる。(人の心配事を聞いて私の方が気が重くなっている)。

むちりーん 〈くつつき合う〉【活】むちりたん、むちりらん、むちりてい 【例】ちかぐるぬ

わかむのー っちゆぬ めーをうていん は
じかさん さん、たっくわいむっくわいっし
むちりとーしが、ちゃー うむいが? (近頃の
若者は人前でも恥ずかしくもなく、いちやいち
やしてくっつき合っているが、どう思うか)。

むっくー 〈形状が小さいもの〉 【例】くま
ぬ マンゴーや むっくー やしが、まーさん
どー。(ここのマンゴーは形は小さいが、おい
しいよ)。

むっちやかいん 〈くつつく〉【活】むっち
やかたん、むっちやからん、むっちやかてい
【例】くぬ かーさーむーちーや どうく やふ
あらさぬ、ていーんかい むっちやかてい か
みん ならん。(このカーサー餅はあまりに柔
らかくて、手にくっついて食べられない)。【参】
むっちやいくわったい すん (ねばねばする、
べとべとする)。

むっちよーふいっちよー すん 〈も
たもたする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】
うれー こーらんらー、むっちよーふいっちよ
ー さんぐとう けーちくーわ。(それは買わ
ないなら、もたもたしないで返しておいで)。

むてい 〈方角〉 【例】いったー やーや み
つごしから まーむてい などーが? にしむ
てい やいびーん。(あなたの家は三越からだ
の方角になっているの。北の方角です)。

むでいーん 〈ひねる〉【活】むでいたん、む
でいらん、むでいてい 【例】ふいぢやいぬ な
らんねー すいどーぬ くち にぢりんかい
むでいてい まーに。(左がだめなら水道の栓
を右にひねってごらん)。うやぬ いーし ち
かんねー むでいてい ちんちきりーたんで
い。(親の言うのを聞かないとひねって強かつ
ねられたって)。あれー よー がーぢゅー
なてい ありが ちむ むでいれーからー し
ぐねー のーらん どー。(あれは頑固で、あれ
がひねくれてからはすぐには直らないよ)。む

でいやー (ひねくれ者)。あれー ふいんむで
い とーん。(あの人はひねくれている)。

**むでい けーらすん／むでい とーす
ん** 〈ひねり倒す〉【活】むでいけーらちゃん／む
でいとーちゃん、むでいけーらさん／むでいと
ーさん、むでいけーらち／むでいとーち 【例】
むでいけーらする わじゃー じゅーどーする
っちゆぬちゃーぬ ゆー ちかいん。(ひね
り倒す技は柔道する人たちはよく使う)。

むていわかすん 〈特別待遇する〉【活】む
ていわかちゃん、むていわかさん、むていわか
ち 【例】うやぬ じんむちゃー やくとうん
でいち うったーんかい むていわかする く
とー さん どー。(親が金持ちだからといっ
てその子たちに特別待遇することはしないよ)。

むてーいん 〈盛んになる〉【活】むてーたん、
むてーらん、むてーてい 【例】っちゆぬ あち
まいねー むらー むてーいん。(人が集まる
と村は栄える)。

むてーい さけーい すん 〈栄える〉
【活】～さん、～さん、～っし 【例】しまぐわー
んかい はしぬ かきらっていからー っんぢ
やいちゃい する っちゆぬ うほーく なて
い、しまー むてーいさけーい そーん。(島に
橋が架けられてからは行ったり来たりする人が
多くなって、島は栄えている)。

むとう 〈もとで、元金、元〉 【例】やしうい
すな よー、むとう かんぢゆん どー。(安
売りしないでよ、損失をこうむるよ)。あちねー
さーや むとう とういけーすんでいち あさ
ん ふいるん ゆるん むぬ かむる まどう
ん ねーらん あたい ちゃー はまい そー
たん。(商人はもとでを取り返すといって朝も
昼も夜も食事する間もないほどずうっと一生懸
命だった)。

～むとう 〈(生えている竹の)～本〉 【例】ち
ゆむとう (1本)、たむとう (2本)、みむとう
(3本)、ゆむとう (4本)、いちむとう (5本)、

むむとう (6本)、ななむとう (7本)、やむとう (8本)、くくぬむとう (9本)、とうーむとう (10本)。

むどういん 〈戻る〉【活】むどうたん、むどうらん、むどうてい 【例】あまぬ とうじえー みーとうんだわかり さーに うやぬやーん かい むどうとーん。(あそこの奥さんは離婚して実家に戻っている)。ブーメランや かーまんかい なぎていん どうーぬ めーんかい むどうていちゅーしぬ ふいるまさん。(ブーメランは遠くに投げても自分の前に戻ってくるのが不思議だ)。

むどうすん 〈戻す〉【活】むどうちゃん、むどうさん、むどうち 【例】んなっし ちかいる どーごー ちかれーからー むとうに むどうさんねー ならん。(皆で使う道具は使ったら元に戻さないといけない)。

むどうちゅん 〈さからう〉【活】むどうちゃん、むどうかん、むどうち 【例】うやとう いさんかえー むどうちん むどうからん。(親と医者には逆らえない)。

むとうーいん 〈長続きする〉【活】むとうーたん、むとうーらん、むとうーてい 【例】あぬ ういきがとー むとうーとーみ?(あの男とは長続きしているか)。

むとうーすん 〈長続きさせる〉【活】むとうーちゃん、むとうーさん、むとうーち 【例】わかさいにから あぬ ふるぐるま むとうーちぬてい あっちょーん。(若いときからあの古い車をずっと乗りまわしている)。

むとう びれー (ぐわー) 〈元恋人〉【例】50にんめーぬ むとうびれー やたる っちゅとう いちやたしが、んかし うびっんぢやち ちむぬ かーぬ わかげーんねーすたさ。(50年前の元恋人だった人と出逢ったが、昔を思い出して心の髪が若返るようだった)。

むどうるちゅん 〈視力が衰える、ためらう〉【活】むどうるちゃん、むどうるかん、むどうるち 【例】みーぬ むどうるち、はいぬ みーんかい いーちゅーぬ とうーさらん。(視力が衰えて針の穴に糸が通せない)。

むぬ 〈もの、ことば〉【例】むのー うさが みそーちー?(食事は召し上がりましたか)。むぬ うさがいが めんそーちー?(食事をお召し上がりにいらっしゃいましたか)。むぬ くいーしどう わー うすー。(与えてくれる人こそが我が主人)。むのー かどーていどう いくさー ないる。(腹が減っては戦はできない)。かんげーてい むのー いり よー。(考えてものは言いなさいよ)。いーっくわいーぶすくぬ ねーんぐとう むぬ いーよー っんぢやし どー やー。(言い過ぎや言い不足がないようにものの言い方をしなさいよ)。っやーが むぬ いーしえー、むぬ いー たなりぬ ねーらん、えーていん とうーらんさ。(おまえのものの言い方はことばが足りなくて相手にも通じないよ)。むぬ ゆむしどう しぐとう。(おしゃべりが仕事)。むぬいーぢゅーさん。(ものの言い方がきつい)。むぬかちやー(物書き、作家)、いちんさー(批評家)。

むにー 〈もの言い〉「むぬ いー」から3連続母音の回避により「むにー」が派生される。【参】ゆくし むにー。

むぬ いー ぐいー 〈話し声〉【例】まーからが やら わからんしが、むぬいーぐいーぬ ちかりーん。(何処からかはわからないが、話し声が聞こえる)。

むぬ いー じょーじ 〈話上手〉【例】むぬいーじょーじぬ っちゅぬ めーんかえー っちゅぬ ゆてい ちゅーん。(話し上手な人の前には人が寄ってくる)。

むぬ いー たなり 〈ものの言い方〉【例】あれー むぬいーたなりぬ ねーん っちゅなてい、っちゅおーえーぬ うふさん。(あの人はことば遣いがなっていない人なので、人とのけんかが多い)。

むぬ いー はじみ 〈ことばを話始めること〉 【例】むぬいーはじめー ういなぐわらびが ふえーさん。(ことばを話し始めるのは女の子が早い)。

むぬ いりみ／っんぢり めー 〈収入／支出〉 【例】むぬいりみとう っんぢりめーぬ あーらん なてい じゃーふえー やっさー。くばめー さんとー ならん。(収入と支出が合わなくなってやっかいなことだ。儉約しないといけない)。

むぬ うじ 〈もの怖じ〉 【例】あれー まーんぢん たーとうん むぬうじ する っちょー あらん どー。(あの人は何処でも誰とも物怖じする人ではないよ)。

むぬ うび 〈記憶力〉 【例】ちかぐるー むぬうび(＝うびでー)ぬ ねーん などーん。(近頃は記憶力がなくなっている)。

むぬ うみー 〈思いつめること〉 【例】あれー とうるばいかーばい そーしが、ちむまゆいぬ あてい むぬうみーどう そーが やー？(あの人は心がうつろいだけど、心の迷いがあるって思いつめているのかねえ)。

むぬ くくん あびー 〈ふくみ声〉 【例】むぬくくんあびーや さんぐとう くちえー あきてい あびれー。(ふくみ声はしないで口を開けて話しなさい)。【参】「くくん」は、「くくむん」(口にふくむ)の名詞形「くくみ」の変異形。

むぬ じち 〈もの好き〉 【例】うさきなーぬ びん まーから あちみたが？ っやーや あんし むぬじち やてーる！(そんなにたくさん瓶をどこから集めたのか。あなたはなんと物好きなことか)。

むぬ まいー 〈神隠し〉 【例】むぬまいー さってい まやーさっとーる っちょー、まーが あっちょーら？ ぬーが そーら？ むさっとう わからんでい。(神隠しにあって惑わされている人はいったい何処を歩いているのか、いったい何をしているか、まったくわからないって)。

むぬ ゆまー 〈おしゃべり〉 【例】っやー

や はていぬ むぬゆまー なてい くちから どう っんまりとーる。(あなたはたいへんなおしゃべりだからきつと口から生まれているんだね)。

むぬ わしー 〈もの忘れ〉 【例】あれー むぬわしーする くしぬ あてい ぬーんくいーん していてい あっちょーん。(あの人はもの忘れがあつていつも何もかも捨てている)。

むぬ われー 〈もの笑い〉 【例】っちゅんかえー むぬわれー さらーんぐとう しーよー。(人には笑われないようにしなさいよ)。

むん ぬき むん 〈魔除け〉 【例】シーサー ーん いしがんとーん あじけーん げーぬん さぬん まーすん うちなーをうてー むんぬきむん やん。(シーサーも石巖當もしゃこ貝もゲーンもサンも塩も沖縄では魔除けだ)。

むぬ 〈道理〉 【例】あれー むのー うまーん、はていまく やん どー。(あの人は道理をわきまえない、乱暴者だよ)。

むぬ あかしえー 〈謎解き〉 【例】むぬあかしえー やしが、はるぬ あかぢらーや ぬーやが？ っやーや わかいみ？ うれーちでーくに やさ。(謎解きだが、畑の赤顔は何か。お前わかるか。それはニンジンだよ)。

むぬ かんげー 〈筋道をたてて考えること〉 【例】っやーや いふえー むぬかんげー しーねー うふっちゅ ないさ。(あなたは少し筋道をたてて考えることをしたら大人になるよ)。

むん ならーし 〈しつけること〉 【活】むんなれー 〈しつけを受けること〉 【例】わらび そーいにから ゆー むんならーし そーかんねー あとうから じゃーふえー ないん。(子どものときからよくしつけをしておかないと後から手に負えなくなる)。むんなれー ないっさ。(しつけになるね)。

むぬ 〈食べ物〉 【例】なげー くちにーさたしが、ちかぐるから むぬ かむるぐとう などーん。(長いこと食欲はなかったが、近頃からものを食べるようになっていく) 【参】「くち

にーさん」の反意語は「くちまーさん」(食欲が出て何でもおいしい)。

むぬ くーい 〈物乞い〉【活】むぬ くーやー 〈乞食〉【例】んかしえー むぬくーい する っちゆぬ うふさたん。(昔は乞食が多かった)。

むぬ ぐし 〈食べ物の好き嫌い〉【例】あれー くち くえーとーくとう むぬぐしぬ うふさしが、ありが まーさむのー ぬーが やら やー?(あの人は口が肥えているので好き嫌が多いが、あの人のおいしいものはいったい何なのかなあ)。むぬぐしぬ うふさくとう、ありんかい ぬーん かましぶしこー ねーん。(好き嫌が多いので、あの人には何も食べさせたくない)。むぬぐしぬ ちゆーさい ねー、っちゆんかい しかん さりーん どー。(好き嫌いががはげしいと、人に嫌われるよ)。
【参】むんぢれー(治療のための食事制限)。

むぬ ぐし すん 〈食べ物の好き嫌いをする〉【活】～さん、～さん、～っし【例】っやーや ありん かまん、くりん かまんち、むぬぐし すさ やー。(あなたはあれも食べないこれも食べないといって、好き嫌いをするんだね)。むぬぐし さー(好き嫌いのはげしい人)。

むぬ ふさ すん 〈もの欲しそうにする〉【活】～さん、～さん、～っし【例】っういーりき どうくるをうてい むぬ かどーる ばすに まやーぬ むぬふさっし みーちきとーたん。(行楽地で食事しているときに猫が物欲しそうにして見つめていた)。

むぬ じぶん 〈食事時間〉【活】むぬ いみー 〈ご飯を催促すること〉【例】むぬじぶんに っちゆぬ やーんかい いちゆしえー むぬ いみー そーしとう あぬ むん。(食事時間に人の家に行くのはご飯を催促しているのと同じだ)。

むぬ すがい 〈食事の支度〉【例】むぬすがい さんねーならんくとう さち ないん どー。(食事の支度をしないといけないので先になるね)。

むんぬ ごーぐち 〈食べ物の不平不満〉

【例】むんぬ ごーぐち さんぐとう、ぬーやていん かむる っちゆぬどう ながぬちえー ーんぢゆる。(食べ物の不平不満を言わないで、何でも食べる人が長寿になる)。

むんぬ ゆく 〈食欲〉【例】なちえー あちさまきっし むちゆく、いるゆく、むんぬゆくん ねーん ないん。(夏は暑さ負けて物欲、色欲、食欲もなくなる)。むんぬ ゆこー はんさらんしが、むちゆく いるゆこー ちやーがな ないん むん。(食欲は外せないが、物欲、色欲はどうにかなるもの)。

むむ 〈腿〉【例】わかさる じぶのー むむ まっくわん、うでいまっくわん、わたまっくわん っしくいーたしが、なまー びちぬ じゃーんかいどう にんとーる。(若い時分は腿枕も、腕枕も、腹枕もしてくれたが、今は別室で寝ている)。

むむとう 〈百年、百歳〉【例】っやーとう わんとー むむとう いちいちまでいん やー。(あなたと私は百年もいつまでもよろしくね)。
【参】ちゅとう/たとう ないねー(1年/2年すれば)。

むむん 〈もめる〉【活】むだん、むまん、むでい【例】とうないとう ぢーばーけーっし むどーん。(隣の土地の争いをしてもめている)。

むるさー げーやー すん 〈ごろごろする〉【活】～さん、～さん、～っし【例】やまみちえー いしぬ むるさーげーやーっし あっちぐりさたくとう をうたたん。(山道は石がごろごろして歩き難かったので疲れた)。
【参】いしがっからーみち(石ころ道)。

むるし げーいん 〈かたまりができる〉【活】～げーたん、～げーらん、～げーてい【例】むぢなくー やなあーし しーねー、むるしげーいん どー。(小麦粉をきれいに混ぜないと、かたまりができるよ)。
【参】「むるさー ないん」とも言う。

むる のーい 〈全快〉 【例】 どうー あん
まさぬ むるのーいっし なー ちゃーん ね
ーん。(体の不調が全快してもうどうもない)。

むん 〈もの、道理、食べ物〉 【例】 「むぬ」の縮
約形。かみむん(食べ物)、かちむん(書き物)、
あてい なし むん(思慮のない者)、むん か
まー(食欲旺盛な者)、っちゅ くえー/うし
えー むにー(人をバカにした言葉遣い)。む
ん かみーが いか?(食事をしに行こうか)。
うれー っやー むんどう やみ?(これはあ
なたのですか)。ある むん ねーむん むる
かめー/むっち いけー。(何でも食べなさ
い/持って行きなさい)。

むん がたい じち 〈話好き〉 【例】 わ
らびん うとうすいん むんがたいじち やく
とう、する っちゅん ゐぬ ちむ なてい
っういーりきく ないん。(子どももお年寄り
も話好きなので、する人も同じ気持ちになって
楽しくなる)。

むん がりー 〈飼料〉 【例】 っわーぬ
くえーむのー 「むんがりー」んでい いーん。
(豚の飼料は「むんがりー」と言う)。

むん ぐん 〈文言〉 【例】 むんぐん かち
ゅん/ちゅくいん。(文章を書く/作る)。

むん ざーい 〈蕁麻疹〉 【例】 あったに

ういーごー かし、あかでいちょーしが、む
んざーいどう さがやー?(急にかゆみが出て、
赤くなって来ているが、蕁麻疹にでもなったの
かな)。

むん だに 〈餌食〉 【例】 むんだにんかい
だまさってい、いよー くわいる ちむえー
やしが、くわーりーん。(餌食にだまされて、
魚は喰うつもりだが、逆に喰われる)。

むん 〈よ(終助詞)〉 【例】 えーじ しーねー
いちゅたる むん ぬ。(声をかけたら行っ
たのに)。わんねー いちゅる むん。(私は行
くよ)。わんねー いかん むん。(私は行かな
いよ)。

むんちゅー じゅりー 〈一門の集まり〉
【例】 うちなーぐゆみぬ ぐんぐわち うまち
ーねー むんちゅーじゅりー すん。(陰暦の
5月祭りには一門の集会をする)。

むんちゅー ばか 〈門中墓〉 【例】 うし
ーみーねー むんちゅーばかんかい うさんみ
うじゅー むてい いちゅん。(清明祭には門
中墓に御三味ごちそうの重箱を持って行く)。

むんどー 〈問題、けんか〉 【例】 ありが
またん むんどーふいんどー うくちえーん
どー。(あの人がまたも問題を起こしたよ)。

め

めー 〈前〉 【例】 いったー やーぬ めーん
かえー ぬーぬ あが？(あなたの家の前には
何があるの)。めー しえーきてい すば か
むんな。(目の前のことをさっさと片付けて、周
りのことは構うな)。【参】 かむゆん、かむたん、
かむらん(構う、構った、構わない)。

めー あが いん 〈増長する〉 【参】 めー
あがい すん。

めー あがい すん 〈増長する〉 【活】 ~さ
ん、~さん、~っし 【例】 あり ふみーねー め
ーあがい すん どー。(あれをほめると増長
するよ)。あれー なま くさみちよーくとう、
ぬーん いらんしえ まし どー。ゆくん め
ーあがい すん どー。(あの人は今怒ってい
るので、何も言わない方がいいよ。さらに怒ら
せるよ)。あれー じんぶぬん あてい ぬー
んくいーん ないや すしが、ちゃー めーあ
がい すくとう しからん。(あの人は知恵も
あって何でもできはするが、いつも自惚れるの
で好きになれない)。

めー がい すん 〈前借りする〉 【活】 ~さ
ん、~さん、~っし 【例】 んかしえー はたら
ちよーる とうくるから めーがい さがな
ーやー たしきとーたんでい。(昔は働いてい
るところから前借りしながら家を助けていたっ
て)。

めー かに よーじょー 〈予防〉 【例】
はなしちん あん やしが、やんめーや まる
ふいーじーぬ めーかによーじょーぬどう て
ーしち やる。(風邪もそうだが、病気は日頃の
予防が大切だ)。

めー ごーい 〈前もって買うこと〉 【例】
しばいぬ きっぷ／ふだ めーごーい しーね
ー やしく ないん。(芝居の入場券を前もっ
て買うと安くなる)。

めー しらし 〈前兆〉 【例】 でいーぐぬ
はなぬ さちかんぢーねー うふかじぬ ちゅ
ーんでいーる めーしらし やんでい。(デイ
ゴの花が咲き乱れると台風が来るという前兆だ
って)。

めー ちんたー すん 〈前につんのめるこ
と〉 【例】 っくわ だちよーる とうちねー
めーや ゆー んーち あっかんねー きっ
ちゃき さーに めーちんたーっし わらび
どうー やましみーん どー。(子どもを抱い
ているときには前をよく見て歩かないとつまず
いて前につんのめって子どもの体をケガさせて
しまうよ)。

めー ない ない すん 〈でしゃばる〉 【活】 ~
さん、~さん、~っし 【例】 めーないない すし
えー あらんでい いーちきらっとーたしが、
なまー うぬよーな しちきん さん などー
ん。(でしゃばるものではないと戒められてい
たが、今はそのようなしつけもしなくなってい
る)。

めー ばー 〈前歯〉 【例】 どうく まーさ
ぬ、めーばーん うすいかんていー そーっさ。
(あまりにもおいしくて、前歯も抑えきれないで
いるよ)。

めー ばれー 〈前払い〉 【例】 ていまー
めーばれー する しくちばー なまー ねー
らん。(給料を前払いする職場は今はない)。

めー 〈飯米〉 【例】めーぬ まーさる まか
ねーやーんかえー うちゃこー まんどーんで
い。(飯米がおいしい食堂には客が多いって)。

めー 〈毎〉 【例】めーあさ ふえーうきっし
なーぬ ほーちかち そーん。(毎朝早起き
して庭をほうきで掃いている)。

めー 〈枚(着物、紙、お札を数える単位)〉
【例】っやーや ちのー なんめー むっちょー
が?(あなたは着物を何枚持っているか)。

～**めー** 〈お金〉 【例】ちゅいなー ちゅい
なーぬ むちめーや ちゃっさ なー やが?
(各自の負担分/持ち前はいくらほどか)。はら
い めー(支払い)、っんぢり めー(支出)、
いり めー(収入)。

～**めー** 〈尊敬辞〉 【例】んかしえー をーん
かえー うしゅがなしーめーんでい いちよー
たん。(昔は王様は御主加那志前と言っていた)。

めーいん 〈燃える〉【活】めーたん、めーら
ん、めーてい 【例】かーらちよーる ゆだー
ゆー めーいくとう、うぬまま かーらかちよ
ーけー。なんくる かーらちゆさ。(乾燥して
いる枝はよく燃えるので、そのまま乾かして
おけ。自然に乾燥するよ)。

めーすん 〈燃やす〉【活】めーちゃん、めーさ
ん、めーち 【例】どうーなーっし きーぬ ゆ

だ あちみていちゃーに めーち、むぬ にち
かむしえー わらびんちゃーや っういーり
きさ すん。(自分たちで木の枝を集めて燃や
して、ものを煮て食べるのに子どもたちは楽し
む)。

めーさー 〈燃料〉 【例】めーさーや たむ
ん、たんから しちたんゆー なてい、なまー
でんき、ガス などーん。(燃料は薪、木炭か
ら石油になって、現在は電気、ガスになってい
る)。

めーさー 〈おべっかを使う者〉 【例】うい
きがとうびけー あしぶる ういなごー 「う
いきがめーさー」んでい いやーに みーぬち
はなぬち さつとーたん。(男の子とばかり遊
ぶ女の子は男におべっかを使う女と言って意地
悪されていた)。

めーういきが 〈紳士、殿がた〉 【例】めー
ういきが めーういなぐんでい みーなさりー
しえー ちちよーる ちんからん わかいん。
(紳士淑女は着ている服装からもわかる)。

めーし／うめーし 〈箸〉 【例】ていーん
とうどうかんくとう、うめーしだていー っ
んまんかい なしえー／ゆしれー。(手が届か
ないので、箸立てをそこに寄せてくれ)。

も

もー 〈野〉【例】わったー はろー うっち
ゃんぎとーくとう なまー もー などーん。
(私の家の畑は放ったらかしてあるので、今は荒
れ果てている)。くさぬ みーとーる とうく
まんかえー もーんでい いーん。(草が生え
ているところは野原と言う)。

もー いちゅび 〈野いちご〉【例】もーい
ちゅびぬ みーとーる とうくまんかえー は
ぶぬ まち をうてい うかーさくとう、とう
いが いくな よー。(野いちごの生えている
ところにはハブがとぐろを巻いていて危険なの
で、行くなよ)。

～**もー** 〈無し〉【例】ていーもー (手がない
こと)、ふいさもー (足がないこと)。「参」てい
ーむっこー (手を失った者)、ふいさむっこー
(足を失った者)、むっくー (つぼみ、小さい実)、
ない (大きい実)。

もーいん 〈(即興的に)踊る〉【活】もーたん、
もーらん、もーてい【例】たかぬ もーれー
がらさーん もーいん、(鷹が踊るとカラスも
踊る、人の真似をする人に言う)。うぬ しらし
ちちゃーに どうく うっさぬ あったもー
い さん。(その知らせを聞いて嬉しくて即興
的に踊った)。「参」正式に踊ることは「をうど
ういん」と言う。

もーいん 〈行く、来る(敬語)〉【活】もーち
ゃん、もーらん、もーち【例】へい、にーしえ
ーたー なまどう もーちゃん なー?(青年
諸君、今来たのか)。

もーきーん 〈もうける〉【活】もーきたん、も
ーきらん、もーきてい【例】じん もーきてい
やー ちゅくたん。(お金をもうけて家を造
った)。もーきーしやか あがねーり。(もうけ
るのよりも節約しなさい)。もーきはんしえー
かみはんすん。(もうけそこなうと食べそこ
なう)。っやーが ちゅくてーる むん かま
ーに、ぬち もーきーんねー すき。(あなたが
作ったものを食べて、命を救われたような気が
するよ)。つくわ もーきーん。(子を授かる)。
あれー なーだ しゅちえー かけみてーをう
らんくとう、うぬ とうし なていん もーき
てー かみかみ そーん。(あの人はまだ定職
に就いていないので、この歳になってもその日
暮らしをしている)。

もーき じゅく 〈アルバイト、儲け一本槍〉
【例】じんぬ いらゆー などーくとう、まー
がな もーきじゅこー ねーらんがやー?(お
金が必要になっているので、どこかアルバイト
はないかねえ)。

もーしゃぎ 〈告げ口〉【例】もーしゃぎ
すくとう ありんかえー ぬーん ちかさんし
えー まし どー。(告げ口するので、あの人に
は何も聞かさないほうがいいよ)。「参」「こー
じん」とも言う。

もーどー 〈心が乱れるさま〉【例】あつた
に くるま あーさってい ちむん もーどー
などーたん。(急に車をぶつけられて気が動
転していた)。

や

やー 〈家、屋〉 【例】あしじゃやー（下駄屋）、かんじゃーやー（鍛冶屋）、くすいやー（薬局）、はーやー（歯科医院）、いさぬやー（医院）、くるまやー（自動車販売店）、だんぱちやー（床屋）、ゆーふるやー（風呂屋）、やしえーやー（八百屋）、はなやー（花屋）、いゆやー（魚屋）、とーふやー（豆腐屋）、ないむんやー（青果店）、ししやー（肉屋）、むちやー（漆喰屋）、ちんやー（洋服店）、じゅんさぬやー（派出所）、っんむやー（芋屋）、やーちゅーやー（お灸診療処）、ぶーぶーやー（血を清める処）。だんぱちやーんかい からじ ちみーが いちゅん。（散髪屋に髪を切りに行く）。パーマやーんかい パーマ シーが いちゅん。（美容室にパーマをしに行く）。みしんやーんかい のーしーが いちゅん。（洋裁店に直しに行く）。あまぬ ししやーや ちりー やくとう、あまんぢ こーていくーわ。（あそこの肉屋は清潔だから、あそこで買って来なさい）。ぐけーやー やていん、たかやーんでー いらん、あんし まぎやーふちえーるんでい いーん。（5階建てでも、高い家とは言わない、あんなに大きな家を建てたのと言う）。屋敷の位置や形状を基にして、はんたやー（端っこの家）、まーちぬしちや（松の下の屋敷）、あじまーやー（十字路の家）、はまばたやー（浜端の家）、とうんぐむい（鳥隠りの家敷）など。

やー いぢやー 〈内弁慶〉 【例】ふかんじえー むぬん いらん、くーく なたーしが、やーをうてー うふぬしぬ ぐとうどう あんどー。うんな やーいぢやーや むちかさん。

（外ではものも言わなくて、小さくなっているが、家ではご主人様のような。こんな内弁慶は扱い難い）。

やー うーちー 〈引っ越し〉 【例】やくど うしぬ ばすねー、うんちぬ よーさんでい いらっとーくとう、やーうーちーん やーぢゅくいん すしえー あらん。（厄年のときには、運気が弱くなると言われているので、引っ越しも新築もするものではない）。ふしぬ やーうーちーや またとー んーだらんくとう んーちやる とうちねー まぎ ふーび んーたんねー すん。（流れ星の二度見はないので、見たときには大きな褒美をもらったような気分だ）。

やー うち 〈内々の〉 【例】やーうちぬ はなしどう やくとう っちゅんかえー いちえー ならん どー。（内々の話なので人には言っははいけないよ）。

やー ぐなー 〈家族〉 【例】やーんかい なま まじゅん しまとーる っちゅ（現在一緒に家に住んでいる人たち）をさすが、やーに んじゅ（家族全員、たび いっちょーる っちゅん ふくまりーん）とは少し違う。。

やー ぐま やー 〈家にこもって出歩かない者〉 【活】やー ぐまい 〈家にこもること〉 【例】んかしぬ わらびんちやーや やーんかい けーいねー ふかをうていどう あしぶたしが、なまぬ わらびんちやーや やーぐまやー なたい ゲームびけーん そーん。（昔の子どもたちは家に帰ると外で遊んだものだが、今の子どもたちは家の中にこもってゲームばかりしている）。

やー じしー 〈家に慣れないさま〉 【例】
たびんぢえー やーじしーっし にんぢゆる
みー なていん むる にんだらん。(旅では
宿に慣れなくて寝る時間になってもまったく眠
れない)。

やー たちゃー／やー わかやー 〈分家
した者〉 【例】じなん、さんなのー やーた
ちゃー／やーわかやー、ちゃくしえー やー
んーぢやー。(次男、三男は分家し、長男は家を
みる者)。

やー どうい 〈都落ちをした土族の集落〉
【例】くりかーや やーどうい なやーに たん
かーまんかーや っうえーかぬちゃーぬ まん
どーん。(この辺りは都落ちをした者が集まっ
ていて隣近所は親戚が多い)。

やー なれー 〈家でのしつけ〉 【例】やー
なれーどう ふか なれーんでい いらっどー
くとう、うやー っくわんかい ゆー むぬ
ならーし さねー ならん。ならーする うっ
ぴどう っくわん ない。(家でのしつけは
外でも自然に出るものだと言われているので、
親は子どもによく物事を教えておかないといけ
ない。教える分だけしか子どもはできないのだ
から)。

やーぬ ぬーし 〈家主〉 【例】まぎくーば
ー、やーどうーぬ っんぢていちーねー、うっ
たーや やーぬ ぬーし やさんでい うとう
すいぬ てーふあ すん。(大クモ、ヤモリが出
てくると、そいつらは家主だといってお年寄り
が冗談を言う)。

やーぬ ばーん 〈留守番〉 【例】しらんち
ゆぬ ちーねー、あびてい っういーほーてい
じょーぬ うちんかい いらんくとう、や
ーぬばーん しみてー いのー まし やん。
(知らない人が来たら、吠えて追い払って門の内
に入れないので、留守番させるのは犬がいい)。

やー むちゃー 〈しっかり家計を支えている
女性〉 【例】=やー むち ういなぐ=や
ー むち むん。

やー ン なー 〈屋号〉 【例】いったー
やーんなーや ぬー やが?(あなたの家の屋

号は何か)。うむっさる やーんなーんかえー、
ういっちゃー まてーし、いちやじち うふぐ
しく、っわーさーやー しまぶく、うさー ふ
いぢや、むちぬやー あらかち、んでーぬ あ
ん。(おもしろい屋号には、酔っぱらいの又吉、
イカ好きの大城、養豚業の島袋、牛飼いの比嘉、
漆喰塗りの新垣、などがある)。

やーさ 〈ひもじいこと〉 【例】やーさ まー
さん。(空腹時は何でもおいしい)。

やーさ がみー 〈がつつ食うこと〉 【例】
むぬ かむる ばすねー、よーんなー かむし
どー。やーさ がみーや ぬすどうんかい
っわーっどーんねーっし ふーじえー ねーら
ん。(食事をするときには、ゆっくり食べるんだ
よ。がつつ食うのはいかにも盗人に追われて
いるようでみっともない)。

やーさ じに 〈飢え死に〉 【例】ゆぬなか
ー ゆちくなてー をうしが、なまちきてい
やーさじに する っちゆぬちゃーぬ あんで
いーる あたい をうん。(世の中は豊かにな
っているが、今でも飢え死にする人たちが溢れ
るぐらい居る)。

やーさ のーし 〈空腹の一時しのぎ〉 【例】
うちやとう かってい ちゃわきん かでい
やーさ のーし そーかな。(お茶と一緒に茶
請けでも食べて一時しのぎしておこうかねえ)。

やーどうー、やーるー 〈ヤモリ〉 【例】
うちなーぬ やーぬ くびんかえー やーどう
ーぬ をうてい、ふいんぎーる ばすねー ど
うーくる じゅー ちっち えーていぬ みー
うすい すん。(沖縄の家の壁にはヤモリが
いて、逃げるときには自分で尾を切って相手の目
をくらます)。

やいん 〈破る〉【活】やたん、やらん、やてい
【例】うれー ふかからちやー やくとう、ふえ
ーくなー ちのー けーらんねー ぬーがなん
かい ふいっかきーねー ちん やいん／やん
ぢゅん どー。(それは外出着だから、早く着替
えないと何かに引っ掛けたら着物が破れる／着

物を破ってしまうよ)。【参】やんぢゆん、やーからちやー。

やい ほーいん 〈ずたずたに破る〉【活】～ほーたん、～ほーらん、～ほーてい 【例】とうしぬゆーるめー ないねー、うふほーちかちすしが、あかい はいけーする めーに やいほーいん。(大晦日前になると、大掃除するが、障子を張り替える前にずたずたに破る)。

やきーん 〈焼ける〉【活】やきたん、やきらん、やきてい 【例】っやーや ふいっちー ていーだぬ めーから あっちょーら やー。ちらー やきてい あかー などーん。(あなたはいつも陽の下で働いているのだね。顔も焼けて赤くなっている)。

やか 〈より〉 【例】あり やか くれー まし。(あれよりこれはいい)。あり やか くり どう まし やる。(あれよりこの方がずっといい)。

やから／やからむん 〈しっかり者、頼りがいがある者〉 【例】っやーや やから やさ。(あなたはともしっかり者だね)。うみから いゆ とういねー たんかーまんかーんかい はぢくいたい むらぬ くとんかい いち やていん ちからかしー するぐとう やからむん やてい、「いちまん うみやからー」んでい ゆばっとーたる ういきがぬ をうたん。(海から魚を採ったら隣り近所に配ってくれたり、村のことにいつでも協力するようなしっかり者で、「糸満海やからー」と呼ばれていた男がいた)。

やく 〈厄〉 【例】やーぬうちんかい とうび どういぬ ふえーりんちーねー、うちなーをうてー やくぬ いっちゃんていいち やくばれー するために、かみむん むっち はまをうてい やーにんじゆさーに かだい、うすみじんかい ていーふいさ ちかてい やくばれー すんでいる なれーぬ あたん。(家の中に飛ぶ鳥が入り込んだら、沖縄では厄が入ったと

いって厄払いするために、食べ物を持って浜で家族で食べて、潮水に手足を浸かって厄払いする習慣があった)。

やく 〈役〉 【例】くち ぱくぱくーや／くちがるーや ぬーんでいーる とうちねー ぬーぬ やくん たたん。(口軽者はいざというときには何の役にも立たない)。

やぐさみむん 〈未亡人〉 【例】やぐさみむん なてい なまー どうーぬ しーぶさたる くとうっし いちゆなさ そーん。(独りになって今は自分がしたかったことで忙しくしている)。

やぐみさ 〈恐れ多いこと〉 【例】やぐみさん しらん いちん うんぬきーし ぐぶりー などーいびーん。(恐れを知らない意見を申し上げて申し訳ありません)。

やゑーさに？ 〈～ではないか(確認)〉 【例】あんどう やゑーさに？(そうじゃないのか)。ちちえー んかしから かわいる くとー ねーのー あらに？ かわいやっさる むのー っちゆぬ くくる。(月は昔から変わることはないではないのか。変わりやすいのは人の心)。

やしえー 〈野菜〉 【例】むぬ かむる ばすねー ししん やしえーん まんちきてい かまんとー むし わちゆん。あんすぐとう、むぬ かむる ばそー かたじーや さんぐとう、しし かみーねー やしえー かでい、やしえー かむる ばすにん ししん かつてい かむし やんでい どー。(ものを食べる際には肉も野菜も混ぜて食べないと腹の虫が湧く。それで、食べるときには片一方だけはしないで、肉を食べたら野菜を食べ、野菜を食べるときにも肉も一緒に食べるものだってよ)。

やし がるー 〈痩せてほっそりしている子、人〉 【例】くぬ わらべー やしがるー やくとう、だちやっさん やー。(この子は痩せてほっそりしているので、抱きやすい)。ふどー

まぎさー あしが、やしがるーぐわー やん
やー。(体は大きいが、痩せてほっそりしている
ね)。【参】反意語は、くえーたー(デブちん)。

やし ごーい 〈安く買うこと〉【例】た
ーがん たーがのー むっちえーをうらん ち
ぶ しっちょーるーから やしごーい さん。
(誰とて持ってはいない骨董の壺を知り合いか
ら安く買った)。

やしないん 〈養う〉【活】やしたん、やし
なーん、やしなてい【例】なちやる うやや
か やしないる っちゅぬどう うや やる。
(産んだ親よりも養う人こそ親なのだ)。

やしない ングわ 〈養子〉【例】うちなー
をうてー やしないんぐわー ちーかーから/
まがらから とういん。(沖縄では養子は血族
から/一族から取る)。

やしむん 〈休む〉【活】やしだん、やしまん、
やしでい【例】やーぬ ゆーじゅぬ あてい、
ちゅーや しゅちえー やしだん。(家の用事
があって、今日は仕事は休んだ)。

やすんじーん 〈許してあげる、あきらめる〉
【活】やすんじたん、やすんじらん、やすんじて
い【例】なー わじらんぐとう、やすんじてい
とうらし よー。(もう怒らないで、許してあ
げてね)。ゆすたにぬんかい ぬーんでい い
らったんてーまん わんねー やすんじえーう
ーさん。(誰に何と言われたとしても私はあき
らめきれない)。いちまでいん なちえー/
なちぐえーぐえー さんぐとう やすんじり よ
ー やー。(いつまでも泣きはしないで/泣い
てばかりいないで、あきらめさいよ)。やすんじ
てい とうく とうり。(許してやって自分に
返ってくる徳を取れ)。【参】くねーいん。

やちゅん 〈焼く〉【活】やちゃん、やかん、や
ち【例】かていむんぬ ねーんくとう、くーが
(ぐわー) やち かってい かまな。(おかず
がないので、卵焼いて一緒に食べようか)。やま
とうんちよー あちさる なちに うったーて

い どうーやちーが うちなーんかい ちゅー
ん。(本土の人は暑い夏にわざわざ体を焼きに
沖縄に来る)。

やち むん 〈陶器〉【例】んかしぬ やー
むちどーごー やちむんぬ うふさたしが、な
まー やちむんさーん いきらく なてい う
ちなーぬ やちむのー でーぬ うすまさ あ
がとーん。(昔の日用品は陶器が主だったが、現
在は陶工も少なくなって沖縄の陶器は値段がす
ごく上がっている)。

やちりーん 〈やつれる〉【活】やちりたん、や
ちりらん、やちりてい【例】しわぐとうぬ ま
んでい、わんねー やんめー かかいるひまん
ねーらん、ちむ めしーる ふいーん ねー
らん、よーがりていっち やちりとーさ。(心配
事が多くて、私は病気になる暇もない、心が休ま
る日もなくて、痩せて来てやつれているよ)。

やっくわ 〈高木の上の物見やぐら〉【例】な
ちやしみ なてい やっくわをうてい にんと
ーしが、ちゅんかい うたりーねー、しーら
いーん どー。(夏休みになって物見やぐらで
寝ているが、夜露にうたれると、体に悪いよ)。

やっくわん 〈やかん〉【例】ちび あちら
さってい ふいーふいー なちゅしえー ぬー
やが? うれー やっくわん やさ。(お尻
を熱くされてピーピー泣くのは何か。それはや
かんだよ)。

やっけー 〈世話、困ったこと〉【例】っちゅ
ぬ やっけーびけー なてい、やっけー など
ーっさ。(人の世話ばかり受けて、やっかいな
ことになっているよ)。やーぬ ふるく なてい
あまむいっし やっけー などーっさ。(家
が古くなって雨漏りして困ったことになってい
る)。くるまぬ はーがーぬ ばんくっし っ
ちゅぬ やっけー なたん。(車のタイヤがパ
ンクして人のお世話になった)。あったーや
くにぬ やっけー なていどう かどーん ど
ー。(あの人は生活保護を受けているよ)。

やっちー 〈兄さん(士族)〉【例】あまぬ
やっちー(あそこの兄さん)、わったー やっち
ー(私の家の兄さん)。まーぬ やっちー?(ど
この兄さんか)。いったー やっちー(あなた
の家の兄さん)。

やっぱいん 〈踏ん張る〉【活】やっぱたん、や
っぱらん、やっぱてい【例】っちょー ぬー
ぐとうんかいん まきらんぐとう、やっぱてい
いちち いちゆし やん。(人は何事にも負
けないように、踏ん張って生きて行くものだ)。
いちからん いちち そーる ばすにどう や
っぱいし やん。(どん底の生き方をしている
時にこそ踏ん張るものだ)。「参」くんばいん。

やとう〜〈特大な〜〉【例】やとう むち(特
大な餅)、やとう っわー(特大な豚)。やとう
がち/うふがち(大変な食いしん坊)。やとう
むん/やとうー(大男)。

やとう まぎさん 〈巨大である〉

やとう まぎー 〈巨大なもの〉

やどういん 〈宿泊する〉【活】やどうたん、や
どうらん、やどうてい【例】たびする ばすね
ー、あまぬ どうしぬ やーんかい にんぢゆ
し やかー ホテルんかい やどういしえー
どうーぐりさ さんていん しむくとう まし
やん。(旅するときには、そこの友人の家に泊
まるよりもホテルに泊まるのは気兼ねしなくて
もすむのがいい)。

やどう ちん 〈宿泊代〉【例】やどうちん
やしが、ちゆいがむのー/ちゆーふいっちー
や ちゃっさが?(宿泊代ですが、1人あたり
/1泊はいくらですか)。

やな〜〈嫌、悪〉【例】やなー(上等ではない
もの)。やなあびー(気味の悪い叫び)、やない
み(悪い夢)、やなだくみ(悪だくみ)、やなふ
ーじ(悪い風習)、やなぐる=やなぢむ(悪い
心)、やなぐち(悪口)、やなぐちゃー(悪口を
言う者)、やなかじや(悪臭)、やなかじ(邪悪
な風)、やなかーぎー(不細工)、やなみち(歩

きにくい道)、やなむぬいー(悪口を言うこと)、
やなでいくち(ずるい考え)、やなっちゆ(悪
い人)、やなっわーちち(悪天候)、やなういー
(悪酔い)、やなぢん(質や柄がよくない着物)。
やな がたー 〈悪い形のもの〉【例】うれ
ー やながたー やくとう、やしみーっさ。(そ
れは形が悪いから安くするからね)。

やな がんまり すん 〈ふざける〉【例】
やながんまり しーねー、めーごーさー くわ
ーさりーん どー。(ふざけると、げんこつをお
見舞いするよ)。

やな むん 〈嫌なやつ、悪霊〉【例】とう
いん ちかみん ならん あたいぬ やなむん
なてい、んなから ちらっとーん。(煮ても焼
いても食えないほどの嫌なやつなので、皆から
嫌われている)。ゆるゆなかに あったに に
ちぬ っんぢたくとう、やなむんぬ たつくわ
たがやーんでいち あんまーんかい まーす
はんかったん。(夜中に急に熱が出たので、悪霊
がくつついたのかねえとって母親に塩をまか
れた)。「参」くんちやきゆん(水などの液体を
ひっかける)、くんちやきらったん(ひっかけ
られた)。

やにーん 〈竹を細く削る〉【活】やにたん、や
にらん、やにてい【例】だき やにーん。(竹
を削る)。くー やにーん。(カゴを作る)。「参」
ふいぢゆん(削る)は〈作る〉までは意味しな
い。

やびりーん 〈体が弱くなる、衰弱する〉【活】
やびりたん、やびりらん、やびりてい【例】わ
かさる どうちえー あっさ がんぢゆーむん
やていん、とうし どういしんでー っちょ
ー やびりていっち ちむ しからーしく な
いん。(若いときにはあれほど元気者でも、年を
とるにつれて人は体が弱くなって来てむなしく
なる)。

やびり むん/やびらー 〈体が弱い者〉

【例】やびりむん/やびらー やしが、なまん
がんじゆーさ そーくとう、やふあらがんじゆ
ーむんでいいる くとー あさ やー。(体が弱

いんだが、今でも元気であるので、病弱ものの長生きってことはあるのだね。

やふあた ぐさ 〈紫カタバミ〉【例】んかしわらびんちやーや やふあたぐさ ちでいあらやーに けーうちんかい をうーてい いてい まーす いふいぐわー ほーてい かむたん。(昔の子どもたちは紫カタバミを摘んで洗って小皿に折って入れて塩を少し振りかけて食べたものだよ)。

やふあらちゅん 〈やわらくなる、体が弱る、穏やかになる〉【活】やふあらちゃん、やふあらかん、やふあらち 【例】くー さるばすねー やふあらー やたしが、あんし がんじゅーむん などー。(幼いときは病弱だったが、あんなに健康になっている)。いっぺー ぼーちりむん やたしが、とうしぬ ゆたくとう、やふあらちやーに うふやく なたん。(とても強情者だったが、歳をとって穏やかで温和になった)。くーぼー みじんかい ちきてーたしが、やふあらちよーみ？(昆布は水につけてあったが、やわらくなっているか)。くふあらちえーたしえー やふあらちちよーみ？(凍らせてあったのは解けてきているか)。

やふあらきーん 〈やわらくする、和解させる〉【活】やふあらきたん、やふあらきらん、やふあらきてい 【例】あつたーや いんとうまやー なてい めーがめーなち いりわいびけーっし、たーがな なかんかい いっち やふあらきらんとー ならんさ やー。(あの人は犬と猫の仲で毎日口論ばかりして、誰か仲に入って和解させないとならないね)。

やま 1 〈森林〉【例】やま あっちやー(林業従事者)。やま あっちゅん。(林業に従事する)。

やま 2 〈逸脱した状態〉(人に対して)非嫡出、乱暴；(物に対して)非認可；(状況に対して)混雑、混乱を表わす。【例】やまぬぐわ／やまなしんぐわ(非嫡出子)＝「やまーぐわー」

＝「いなよーぐわー」＝「ちゅんかい いちえーならん っくわ」(人に言うてはいけない子)。やま ちり ぐとう(大変な事態)、やまがっこー(学校をさぼって遊ぶこと)。あれーやまがっこー そーたんどー。(あの子は学校をさぼって遊んでいたよ)。うふやま(＝うーやま) ちらかちえーん。(めちやくちや散らかしている)。あんし やま ちらかち。(あんなにさんざん散らかして)。あきさみよー やま ちゅーちよーさ やー。(あれ大変なことになったね)。やま ちゅーち うすまさ あーさむーさ などーさ。(散らかってびっくりするほど荒れているね)。やま ちやーに じゃーふえー などーさ。(大変なことになって困っている)。わじやーに やま ちゅーちよーん。(怒って大変なことになっている)。わじやーに じゃーふえーていーふえー などーん。(怒ってにっちもさっちも行かなくなっている)。あん しーねー やま ちーん どー。(そんなことしたら大変なことだよ)。あん しーねー やま ちりーん どー。(そんなことしたら大変なことになるよ)。やまがーみー(陸亀)、やまがじゃん(やぶ蚊)、やまふいぢやー(髭もじやの者)、やましし(イノシシ)、やまじさー(イノシシの肉)、やまぐわー(やぶ)、やまししとうやー(イノシシ獲りの者)、やままやー(野良猫)、やまいん(野良犬)。

やま なんかぢ 〈サソリ〉【例】やまんかぢえー どうく むっちよーくとう、ささりーねー でーじ ないん。(サソリは毒をもっている、刺されると大変なことになる)。

やま かーがー 〈人見知りの者〉【例】＝ちゅー うとうるー、ちゅー はじかさー。

やま ぐー 〈乱暴者〉【例】＝ぼーちらー、しむち わるー。あぬひやーや やまぐーどうやん どー。(あいつは乱暴者だよ)。

やま あつたみ 〈イノシシの肉〉【例】「いなむどうち」や「やまあつたみ」ちかてい ちゅくたしが、なまー っわーしし などーん。(「いなむどうち」(肉汁の一種)はイノシシの肉使って作ったが、現在は豚肉になっている)。

【参】ちぬ あったみ(牛肉)、うしぬ しし(牛の肉)。

やますん 〈ケガをする、傷つける〉【活】やまちゃん、やますん、やまち 【例】ていー／ふいさ／どうー やまちやっさー。(手／足／体をケガしたよ)。やまぬぶい そーる っちゆぬ ゆかい しんでいてい どうー やまちやくとう、ヘリコプター ゆだん。(登山者がかなりすべって負傷したので、ヘリコプターを要請した)。わん うしえー ふいさ やまち のーていから うふいどう ないしが、くんどうぬ すーぶねー にばん なてい ゆー ちばたん。(私の牛は足をケガして治ってから間もないが、今度の試合では2番になってよく頑張った)。やくしこー まむいるぐとう さんだれー、やんぢーねー えーていぬ ちむ やますん。(約束は守るようにしないと、破ると相手の心を傷つける)。

やまとう 〈大和、本土日本〉 【例】やまとうんちゆ、やまとうー(本土日本人)、やまとうたび(本土日本への旅)、やまとうむん、やまとうー(本土日本製の商品)。

やまとう ぐゆみ 〈新暦〉 【例】うちなーや うちなーぐゆみっしどう をういめー すくとう、しちぐわち、たなばたー やまとうとー あたらん。(沖縄は陰暦で行事をするので、お盆、七夕は本土とは合わない)。

やまとう じふえー 〈本土日本人の気の早さ〉 【例】やまとうじふえーんでい ちちやるくとう あしが、うちなーじふえーや ちちやるくとー ねーらん。(日本人の気の早さって聞いたことはあるが、沖縄人のせっかちって聞いたことはない)。

やみーん 〈やめる〉【活】やみたん、やみらん、やみてい 【例】さき／たばく／しくち やみーん。(酒／タバコ／仕事をやめる)。

やむん 〈痛める、病む〉【活】やだん、やまん、やでい 【例】くぬ にさんにち どうー っ

んぢゆかちえー ねーんくとう、くしぶに／どうーぶにぬ やどーん。(この2、3日体を動かしていないので、腰骨／体中のあちらこちらが痛くなっている)。あり かんげー くり かんげーっし ちぶる やどーっさ。(あれこれ考えて頭が痛いよ)。ありが はなし ちちやーに わんまでい ちむ やどーっさ。(あの人の話を聞いて私まで心痛めているよ)。っやー はなしえー あちらし／たぢらし けーさーびけーっし みみ やでい ふしがらん。ちちぶしこーねーらん。(あなたの話は人の話を暖め直すことばかりで聞く耳が持てないほどだ。聞きたくもない)。

やみ ち 〈病み気〉 【例】どうーぬ いふなー やっさーんち いさぬやー っんぢやくとう ちゆーしゃさーに ふつかびけーっし まし なてい やーんかい けーてい ちゃん。が、うぬまま うっちゃんぎとーちーねー、やみち とうてい やんめーむん ないる とうくる やたん。(体調がおかしいと病院に行ったら注射して二日ぐらいで良くなって家に帰ってきた。そのまま放っておいたなら、病み気を取り込んで病人になるところだった)。

やん 〈痛み〉 金城(1997, 71-72頁)には、次のような痛みの表現がある。【例】ちぶるぬ がんない がんない すん。(頭ががががする)。わり やん(頭が割れるように痛むこと)、ひっちり やん(ひきちぎられるように痛むこと)、ういーごー やん(むず痒い痛み)、くぢり やん(えぐられるような痛み)、なまちぶる やん(陽に照らされたときなどの痛み)、ひっすい ひっすい(ズキンズキンする痛み)、ふいーらちゆん(ひりひり痛む)、あちびーらちゆん(やけどや腫れ物が熱をもって痛む)、わた ぐち ぐち(おなかがじくじく痛むこと)、わた ぐるぐる(おなかがごろごろして具合悪いこと)。

やむん 〈止む〉【活】やだん、やまん、やでい 【例】みちのーしぬ うとうぬ やだくとう、いっぺー ちむ さーじゃーとう などーん。(道路工事の音が止んだので、とても気持ちやす

っきりしている)。

やらすん 〈遣らす、行かせる〉【活】やらちゃん、やらさん、やらち 【例】くじょー ういなぐ いかちやしが／やらちやしが、くとうしえー ういきが やらすさ。(去年は女性を行かせたので、今年は男性を行かせるよ)。

やりーん 〈(着物や紙が) 破れる〉【活】やりたん、やりらん、やりてい 【例】っやー ちのー やりとーん どー。(あなたの服は破れているよ)。ありが っくわ よー、ちびやりやー／ちびやりかー ちち あっちょーたん どー。(あの人の子はねえ、お尻の破れてるのを着て歩いてたよ)。やりちん(破れ着)。

やんぢゅん 〈こわす、だめにする、破る〉【活】やんたん、やんだん、やんてい 【例】あんしちかさをうてい テレビ んーぢーねー、みー やんぢゅん どー。(あんなに近くでテレビを覗くと目が悪くなるよ)。ありが ちゆくとうばさーに ちゅらーさ ちむ やんだったん。(あの人の一言でひどく心を傷めつけられた)。んかしんちよー ちのー いっぺー あたらさ そーてい やりやー うぬまま うちきーいんでいる くとー さんたん。ちん ふとうち びちぬ むぬんかい ちゆくいけーすたん。(昔の人は着物はとても大切にしている破れものをそのままにできなかった。着物をほどこいて別のものに作り替えたんだよ)。

～やんぢゅん 〈～そこなう〉【活】～やんぢゃん、～やんだん、～やんてい 【例】ちゆくいやんぢゃー(失敗作、できそこないの物)、ちゆくいやんぢ(作るのに失敗していること)。くぬちゆくいやんとーる ごーやーや かーぎぬ わっさぬ、うららんぬー などーしが、こーいらー こーれー、やしみーさ。(この作り損ないのゴーヤーは見かけが悪くて、商品価値がないが、買うなら買って、安くするよ)。ちゅんかい ちゅふあーら しーやんだってい うっちゃんぎらったん。(人にひどい仕打ちを

されて放り出された)。かちやんぢぬ あいびーらー、のーちくいみそーらんがやー?(書き損じがあるのでしたら、直していただきませんか)。かちやんだっとーる とうくるぬ あいびーらー、のーちくいみそーり。(書き足りないところがあるのでしたら、直していただき)。えーていぬ いーやんたらー、ちちのーしえー。(相手が言い間違ったら、(聞く側で)聞き直してあげなさい)。

やんでいーん 〈(物、道具が) 壊れる、破れる、できそこなう〉【活】やんでいたん、やんでいらん、やんでいてい 【例】ちゆくいやんてい やー(失敗作、できそこないのもの)。にーびちぬ やくしくぐとうぬ やんでいてい ならん なたん。(婚約が破談になってできなくなった)。やんでいむのー やしが、まーさー あさ。(できそこないではあるが、味は悪くない)。

やんばる ぶに 〈ヤンバル船〉 【例】いくさあとう なんにんぐれーが やたら、やんばるぶにさーに たむん、やんばるだき、かやなーふあんかい むっちちよーたん。(戦後何年ぐらいだったか、ヤンバル船で薪、ヤンバル竹、茅を那覇に持って来ていた)。

やんむち 〈鳥モチ〉 【例】やんむちえー きーぬ かー ひらべったーいしんかい うちきてい、げんのーさーに わっくわさーに どうるどうる ないるあたい ちゃー ちちちっし ちゆくいん。(鳥モチは木の皮を平たい石に置いて、金槌で解きほぐしてどろどろになるまでずうっと突っついて作る)。んかしえー やんばるだきぬ すーらんかい やんむち たっくわさーに、くりっし さんさなー、なーびかちかちー、しえーぐわー、はーべーるー、そーみなー、ある うっさぬ いちむしえー とうとーたん。(ヤンバル竹の先に鳥モチくっ付けて、それでクマゼミ、アブラゼミ、バッタ、蝶、メジロ、すべての昆虫を採っていた)。

やんめー 〈病気〉 【例】わんねー やんめー かかてい いさぬ やーんかい にゅーいん

そーたん どー。(私は病気になって病院に入院していたよ)。ぬーが っやーや いるぬがー そーてい、やんめー むんぬ ぐとうっし むぬん かまん。(どうしてなのか、あなたは青白くて病人のように食事もしない)。ぬーが っやーや ちゆくち かまーに 「わんねー なー わた いらん さー。なー うっ

さっし しむん」んち やんめーむんぬ ぐとうっし あんし むんぬ いきらさる。くちにーさどう ある め?(どうしてあなたは一口食べて「私はもうお腹に入らない。もうこれだけでいい」と言って、病人のように食が細いのか。食欲がないのか)。



っや

っやー 〈お前、君〉 【例】っやー むのー
わー むん、わー むのー っやー むん。(お
前の物は僕の物、僕の物はお前の物)。

っやー くる／っやん くる 〈あなた自
身で〉 【例】っやーくる しえー／かんげー
れー。(あなた自身でしなさい／考えなさい)。



ゐ

ゐー 〈結い〉

ゐー まーるー 〈助け合い〉 【例】んかしえー ゐーまーるーぬ ちむぐくる むちゃーに っちゅぬ つくわん どうーぬ つくわぬぐとう たげーに ちむ ゆるち ふどうっわーちょーたん。(昔は助け合いの心を持って人の子も自分の子のように互いに心を許して育てていた)。

ゐー〜〈良い〉 【例】ゐーばー(良い機会)、ゐーどうし(親友)、ゐーかんげー(良い考え)、ゐーくとう(良い事)、ゐーむん(良いもの)、ゐーくくち(良い心地)、ゐーふいー(佳日)、ゐーあんべー(良い具合)、ゐーっちゅ(良い人)、ゐーそーぐわち(めでたい正月)。

ゐー ぐくち 〈いい心地〉 【例】むいぬ っういーんかい たっちょーる いったー やーや きーくさん まんてい、ゐーかじん ふち、まーんくいーん みーてい いっぺー ゐーくくち やん やー。(高台に建っているあなたの家は緑も多くて、いい風がそよぎ、あちらこちらが見えてとてもいい心地だね)。

ゐぬ 〈同じ〉 いも(同妹)、いもせ(同背)における「いも」〈母親が同じ〉に対応か。【例】ゐぬ むん／っちゅ／なー／みち(同じもの／人／名前／道)、ゐぬ かんげー／なぎ(同じ考え／長さ)、ゐぬー(同じもの)、ゐぬ ちるみー(同級生)。ゐぬ とうし やん。(同じ歳です)。いーな ゐぬい などーみ?(はやく一年後の) 同じ時節になっているのか)。

ゐーん 〈坐る〉【活】ゐちゃん、ゐらん、ゐち 【例】まじえー ゐやーに はなしえー さな。(まずは坐って話しをしよう)。くぬ わらべーや ゐちやい たっちやいっし うていちちぬ ねーらん。(この子は立ったり坐ったりして落ち着きがない)。くぬ ソファーや あんし ゐーぐくちぬ ゆたさる。ぬーんでい いちやんてーまん でーぬぐとうどう あっさー。(このソファーはなんと坐り心地のよいことか。何と言っても値段がものを言うね)。しわぐとうぬ むる ねーん なてい うみなーく なてい なまねー いっぺー ちむぬ ゐちよーさ。(心配事がなくなって安堵して今はとても心が落ち着いている)。

ゐー ちちゅん 〈適応して落ち着く〉【活】〜ちちゃん、〜ちかん、〜ちち 【例】うちなーんかい っちから なー 3にん なてい かむしん まーさぬ、ふいーさ あちさんかい なりやーに なー ゐーちちよーん。(沖縄に来てからもう3年なって、食べ物もおいしくて、暑さ寒さにも慣れてもう落ち着いている)。ゆみ なてい いけーからー をうとうぬ やーどう やー やくとう、ゐーちち ゆー ちとうみり よー。(嫁に行ってから夫の家が自分の家だから、心落ち着けてよく尽くしなさいよ)。ちむ まゆい さんぐとう うやふあーふじぬ うすばんかい ゐーちち ぢゅらさ しみそーり よーんでい しんじゅーくにちに とーとーめーんかい うにげー さびたん。(心迷いしないように祖先のそばに心落ち着けて暮らさせてくださいと7回忌に仏壇にお祈りしまし

た)。どうしから ゐーたる まやーや なー
ゐーちちよーん。(友人からもらった猫はも
う落ち着いてきている)。

ゐー にーぶい 〈座ったままの居眠り〉
【例】ばすぬ なーかをうてい ゐーにーぶい
さーに、とうないぬ っちゅぬ かたんかい
うっちゃかとーたん。(バスの中で坐ったまま居
眠りして、隣りの人の肩に寄りかかっていた)。

ゐーゆん 〈もらう、もてあそぶ〉【活】 ゐーた
ん、ゐーらん、ゐーてい 【例】 っちゅから む
ぬ ゐーねー、むっちけーさー しみてー な
らん どー。わたる じぶんに えーていん
かい ちむ みしり。(人から物をもったら、
お返しを持たせてはいけない。忘れた頃に相手
に感謝を見せなさい)。ゐーたる じのー ち
じに かみやーに しぐ ちかれー。(もらっ
たお金は感謝してすぐに使いなさい)。

ゐーり むん 〈玩具、もらい物〉 【例】 ゆ
っかぬ ふいーねー うやから ゐーりむんぐ
わー ゐーしえー ぬーやか うっさたん／っ
ういーりきぐとう やたん／まちかんでいー
やたん。(旧暦5月4日には親から玩具をもら
うのが何より嬉しかった／楽しみだった／待ち
遠しかった)。っちゅからぬ ゐーりむのー
にんしらんぐとう ちかいし やん。(人から

のもらい物は放ったらかさないで使うものだ)。

ゐしーん 〈据え置く／落ち着かせる〉【活】

ゐしたん、ゐしらん、ゐしてい 【例】 やっくわ
ん ゐしてい ゆー ふかしえー。(やかんを
置いてお湯を沸かしなさい)。しきてーくとう
ゐしれー／ふいー ちきれー。(炊く準備は
してあるので、スイッチを入れなさい／火を
つけなさい)。ゐしてーみ？(火をつけてあるか、
スイッチを入れてあるか)。ゐしていー？(火
をつけたか、スイッチを入れたか)。ちもー
ゐしらちから なーちゅけーん みぐてい く
ーわ。(気持ちを落ち着かせてからもう一度ま
わっておいで)。ふいむのー にかしえー く
まどう やたしが、なまー あまんかい ゐし
らっとーん。(碑文は昔はここだったが、今はあ
ちらに置かれている)。

ゐん 〈縁故、ゆかり〉 【例】 っやーとう わん
とー ゐんぬ ふかさくとうどう、ふいちゃー
さっとーさ やー。(あなたと私は縁故が深いか
らこそ引き合わされているんだね)。っやーと
う わんとー ゐんぬどう ふかさら？ いか
ゐー？ いか ゐー？んでい いちえーをう
しが、いかなしとうん けーららん さー。(あ
なたと私とは縁故が深いのか。行こうね、行こ
うねと言ってはいるが、帰ろうにも帰れない)。

ゆ

ゆい 〈ユリ〉 【例】めーにん いーじまをうてー ゆいまちりぬ あてい しまぬ まーまでいん かばさ そーん。(毎年伊江島ではユリ祭りがあって島のどこまでも香りが漂っている)。

ゆいん 〈地震が起こる、寄る〉【活】ゆたん、ゆらん、ゆてい 【例】ねーぬ ゆていちよーたしが、わかゆていー? / ちゃーん ねーん ていー? (地震が起こったが、気づいてたか / どうもなかったか)。うちなーんかえー わーがをうくとう うとうるさっし うふねーや ゆてーくーんどう ある はじ。(沖縄には俺がいるので怖じけずいて大地震は起こらないことになっているはずだ)。わーが ちーねー ちびなーりー うちやくぬ ゆていちゆーくとう っういーりきさ さつとーん。(私が来ると続いてお客が来るので、歓迎されている)。

ゆー 〈世〉 【例】ゆーや してていん みーや していんな。(世は捨てても我が身は捨てるな)。

ゆー 〈湯〉 【例】ゆーんかい ちかいねー、をうたいのーし ないん。(湯に浸かると疲れ直しになる)。

ゆー ふる 〈風呂〉 【例】していみてい ゆーふる いーねー、ちゅばちに みーぬ くふあてい いっぺー るー あんべー やん。(早朝風呂に入ると、ぱっと目が覚めてとても快い気持ちである)。

ゆー げーら すん 〈火傷する〉【活】~げーらちゃん、~げーらさん、~げーらち 【例】「ぬ

ーが っやー ていーや みじぶっくわー そーる?」「ゆーげーらさーに、みじぶっくえーなとーっさー」(「なぜあなたの手は水腫れしているの」「火傷して水腫れになってるよ」)。うんな ばすねー どうぐわい たーちんかい あかさーに ゆーげーらちやる とうくまんかい たけーん みけーん しりなしーねー みじぶっくわーねー ならんさ。(そんな時にはアロエを2つに割いて火傷したところに2、3度擦りつけると水腫れにはならない)。

ゆー 〈夕、夜〉

ゆー がらさー 〈夜ガラス〉 【例】がらさーよー がらさー やな なちえー すな よー。やなくとー っやー っういー どー。ゐーくとう かたれー。ゐーくとう かたれー。(カラスよ、カラス、嫌な鳴き方はするなよ。嫌なことはお前の身の上にだよ。善いことを語んなさい。善いことを語んなさい)。

ゆー き 〈夜更かし〉 【例】わかさる うちえー ゆーきん ないたしが、なまんぢえー なー じょーい ならん。(若いうちは夜更かしもできたが、今ではもうとてもできない)。

ゆー まんぐい、ゆまんぐい 〈夕暮れ時〉 【例】ていーだぬ さがてい いちゆる ゆーまんぐえー ぬーが やら しからーさぬ。(太陽が下がって行く夕暮れ時はなぜか寂しくてならない)。

ゆっくわすん 〈夜を明かす〉【活】ゆっくわちゃん、ゆっくわさん、ゆっくわち

ゆっくいーん 〈夜が暮れる〉【活】ゆっくいたん、ゆっくいらん、ゆっくいてい 【例】とう

しぬ ゆーるに あきまどうしぬ あがいてい
ーだ んーぢゆるたみに ふいどうみさちをう
てい ゆー ゆっくわちゃん。(大晦日に初日
の出を見るために辺戸岬で夜を明かした)。

ゆさんでい 〈夕方暗くなる頃〉 【例】ゆさ
んでい なていから くーわ。(夕方なってか
らおいで)。あこーくろー (暗くなりかける直
前、マジムの出る時間帯と言われ不安感がと
もなう)。ゆさんでい/ゆまんぐい なていん
なーだ ふかんぢ あしどーる わらびんち
やーや やーんかい けーらさな。(暗くなっ
てもまだ外で遊んでいる子どもたちは家に帰ら
せようね)。

ゆさんでい あけーい 〈夕焼け〉 【例】ゆ
さんでいあけーいさーに っちゆぬ ちらん、
やーん、きーくさん むる あかー なてい
ちゆらさん。(夕焼けで人の顔も、家も、植物も
赤く染まってきれいだ)。

ゆながた/ゆながたさながた 〈夜通し〉
【例】ゆながた さっくいーっし にんだらんた
ん。(夜通し咳をして眠れなかった)。ゆながた
たんかーぬ いんぬ あびてい にんだらん
たん。(夜通し向かいの犬が吠えて眠れなかつ
た)。ゆながたさながた まやーぬ やななち
っし かしまさぬ、にんだらんたん。(夜通し猫
が気味の悪い泣きかたをしてうるさくて、眠れ
なかった)。

ゆーいん 〈結う〉【活】ゆたん、ゆらん、ゆて
い 【例】からじ ゆーら。(髪を結おうか)。か
らじ ゆーとーけー。(髪を結っておきなさい)。

ゆーちら 〈徳、役〉 【例】っやーや ゆー
ちらん ねーらん。(おまえはどうしようもな
い)。ゆーちらー ねーん=ちやーん ならん。
(どうしようもない)。ちやーん ならん ぬー
(どうしようもない者)。

ゆーな 〈オオハマボウ〉 【例】ゆーなぬ は
なー いっペー ちゆらさしが、ふあーや ち
びぬぐやー なたんでい。(ゆうなの花はとても
きれいだが、その葉はお尻拭きになったって)。

ゆーゆー 〈鶏(小児語)〉 【例】ゆーゆーぐ
わーぬ ちょーくとう、ぬーがな かましえー。
(鶏がくるので、何かやりなさい)。にわとうい
ぐわーんかえー 「ゆーゆーゆー」っし ゆぶ
たん。(鶏に「ゆーゆーゆー」と呼んだものだ)。

ゆかいん 〈作物がよくできる、生い茂る〉【活】
ゆかたん、ゆからん、ゆかてい 【例】いっ
たー ごーやーや ゆー ゆかとーん やー。
くえーや ぬー ちかとーが?(あなたの家の
ゴーヤーはよくできているね。肥料は何を使っ
ているのか)。かんだばーぬ ゆかとーくとう、
ぬーゆー うっさ むっちんぢやーに かめ
ー。(芋の葉が茂っているので、もらうだけ持っ
て行って食べなさい)。ゆー ないる ばさな
いぬ っくわぐわー どうーぬ なーんかい
っういーたしが、ぬーん ゆからん。んーちや
ぬ あたらんばー やさ やー。(よく実がで
きるバナナの株を自分の庭に植えたのだが、何
も茂らない。土が合わないわけだね)。んーちや
ぬ あーとーくとう なーぬ ばさなえー ゆ
ー ゆかいん。(土壌があっているので庭のバ
ナナはよく育つ)。ゆかい ごーやー/まんご
ー/っんむ/しぶい(りっぱなゴーヤー/マン
ゴー/芋/冬瓜)。

ゆかさ 〈床下〉 【例】んかしえー からゆか
んかいどう にんとーたしが、ゆかさぬ みー
から しだかじぐわーぬ いっちっち なちえ
ー にんぢやっさたん。(昔は板間に寝ていた
が、床下の隙間から涼しい微風が入って来て夏
は眠りやすかった)。

ゆがふー 〈豊年満作の年、世果報〉 【例】し
でいがふー やん どーんでい いーる ちむ
にどう ゆがふー/みるくゆーぬ たっくわー
てい ちゆーさ。(感謝の気持ちにこそ豊年は
くつついてくるよ)。

ゆがみーん 〈ゆがめる〉【活】ゆがみたん、ゆ
がみらん、ゆがみてい 【例】あれー ちら ゆ
がみとーてーくとう たぬまんしえー まし
どー。(あの人は顔をゆがめていたので、頼まな

い方がいい、=あれー わじゃんかー そーて
ーくとう たぬまんしえー まし どー)。

ゆかる 〈佳き〉【例】とうしびー やくとう、
ちゅーぬ ゆかる ふいー、まさる つふいー
に どうーぢゅーさ くいみそーりよーんでい
かみにげー さびたん。(厄年なので、今日の
最良の日に健康をくださいとお願いしました)。

ゆく／ゆーく 〈欲〉【例】どうー むち
ゆる たみねー、むちゆく、いるゆく、むんぬ
ゆこー あたいめーぬ みーちぬ ゆく や
ん。(生きて行くためには、物欲、性欲、食欲は
自然な3大欲である)。ゆーく しーねー、むる
ねーん ないん どー。(欲張ったら、全部失
うよ)。っやーや ゆーく すくとう、すんじ
ぐとう ないさ。(あなたは欲張るので、損を
するのさ)。ちゅぬ また はっばいしん
まーまでいん はっばらりーる むのー あら
ん。あん やくとう、ゆくぬ またん どうく
ちゅーく はっばいねー さきてい、まぎす
んじぐとう ないん。(人が股を張るのもどこ
までも張れるものではない。それで、欲の股も
あまりにも強く張ると裂けて、取り返しにつか
ないことになる)。

ゆくいん 〈休む〉【活】ゆくたん、ゆくらん、
ゆくてい

ゆくわーすん 〈休ませる〉【活】ゆくわーち
ゃん、ゆくわーさん、ゆくわーち 【例】ちゅー
や にちよー なてい どうーゆくわーしぬ
とうくる ぐぶりー ないしが。(今日は日曜
で御休息のところ不躰ではありますが)。

ゆくい どうくる 〈休憩所〉【例】やんば
るんかい いちゆる みちなかぬ あまくまん
かい ゆくいどうくるぬ ちゅくらっとうん。
(ヤンバルに行く途中のあちらこちらに休憩所
が造られている)。

ゆくし 〈嘘〉【例】あかゆくさー／そーゆく
しむなー／うふゆくしむなー(まったくの嘘つ
き)、ゆくし むに／ちゅくい むに(嘘)。あ

る くとうん ねーんくとうん むる(=だん
だんぬ くとう／あらざらんくとう) たつく
わーっし むっくわーっし さーに いーたて
いらっとうん。(あることもないこともすべて
くっつけて言い立てられている)。

ゆくし むにー 〈嘘つき(行為)〉【例】ゆ
くしむにーや ぬすどうぬ はじまい。(嘘つ
きは泥棒の始まり)。ゆくしむにーや じょー
までいん とうーらんさ。(嘘は門までも通ら
ない、すぐばれるもの)。

ゆくし むにー さー 〈嘘つき(者)〉
【例】おれおれさぎとう むぬむん、ゆくしむに
ーさーや ちゅん うちくわいん。(オレオ
レ詐欺と同様、嘘つきは人をもおとし入れる)。

ゆく 〈横〉

ゆく ぬーでいー 〈気管〉【例】むぬぬ
ゆくぬーでいーんかい いやーに いーちまで
いーっし くちさたん。(食べ物が気管に入っ
て息が詰まって苦しかった)。

ゆく むにー 〈横から口出すこと、はぐらか
すこと〉【例】っやーや わん はなし ち
ちよーみ? ゆくむにーや すな けー。(あ
なたは私の話を聞いているのか。はぐらかしは
するなよ)。

ゆく ばい すん 〈逸れる〉【例】あれー
ゆくばい そーん。(あの人は逸れている)。

ゆくすん 〈誘う〉【活】ゆくちゃん、ゆくさ
ん、ゆくち 【例】わん うむやーや ゆくさり
ーが しちやら? ちかぐろー わん めーん
かい くーん などーん。(私の恋人は誘惑さ
れてしまったのか、近頃は私のところに来なく
なっている)。

ゆくねー 〈夜中〉【例】ゆくねー ぐらしん
(夜中の闇)。ゆくねーや／ゆるゆなかや きー
くさん にんとーくとう、まぎぐいーっし あ
びんな よー。(夜中は木草も寝ているので、大
声を出すなよ)。

ゆくらすん 〈休ませる〉【活】ゆくらちゃん、
ゆくらさん、ゆくらち 【例】うふいなーや ど

うー ゆくらさんねー なー むたん ないん
どー。(少しは体を休ませないともう持たな
くなるよ)。

ゆぐすん 〈汚す〉【活】ゆぐちゃん、ゆぐさ
ん、ゆぐち【例】ていー ゆぐすくとう てい
ーぶくる さしどう なーぬ わじゃー すん
どー。(手を汚すので手袋をはめて庭仕事を
するんだよ)【参】宮良(2019a, 31頁)に「さ
すん」の用法がある。

ゆぐりーん 〈汚れる〉【活】ゆぐりたん、ゆ
ぐりらん、ゆぐりてい【例】くるまぬ いちむ
どういぬ うふさる みちばたぬ やーや や
ーから、まどがらすから、あんしから なーぬ
きーくさから むる ふくい かんてい い
っペー ゆぐりべーさん。(車の往来の多い道
端の家は家屋、窓ガラス、それに庭の花木もみ
んな埃をかぶってとても汚れるのが早い)。

ゆぐり むん 〈汚れ物〉【例】ゆぐりむの
ー たみらんぐとう ちゃーきなー あらり
よー。(汚れ物は溜めないでその都度洗いな
さいよ)。

ゆし あし 〈善し悪し〉【例】むぬぐとう
ぬ ゆしあし わからんだれー いちかー み
ち ぱっペーいん。(物事の善し悪しを知らな
かったら、いつかは道を誤る)。

ゆしーん 〈諭す、忠告する〉【活】ゆしたん、
ゆしらん、ゆしてい【例】うや ゆし、つくわ
ゆし すん。(親子で諭し合う)。うっさー
わーが ゆしとーちゆさ。(それだけは私が忠
告しておくよ)。

ゆし ぐとう 〈諭すことば、教訓〉【例】
うやぬ ゆしぐとー ゆー ちち ちむに す
みてい、つくわ っんまがぬちゃーんかい ち
てーし やん。(親の諭すことばはよく聞いて
子どもや孫に伝えるものだ)。

ゆしーん 〈寄せる〉【活】ゆしたん、ゆしらん、
ゆしてい【例】がねー まぎはさんっし す
ー ゆしとーる ちむえー やる はじ。(カ

ニは大きなハサミで潮を招いているつもりだろ
う)。うふかじめーや うみんかい いくな
よー。あらなみぬ ゆしていちゆーくとう う
かーさん どー。(台風前には海に行くなよ。荒
波が寄ってくるので危ないよ)。

ゆし どーふ 〈おぼろ豆腐〉【例】ちゆ
くてい ちゃーきぬ ゆしどーふ こーてい
けーいる ばすに、なーびをうてい ゆたゆた
するかーじ まーさかばさぬ ふしがらんた
ん。(作ったばかりのおぼろ豆腐を買って帰
るとき、鍋で揺れ動くたびにおいしい香りがたま
らなかった)。

ゆじーん 〈譲る〉【活】ゆじたん、ゆじらん、
ゆじてい【例】ありんかい ゆじとーけー。(あ
の人に譲っておけ)。くるま はしらする ば
すねー、ちゆいゆじーゆじー する ちむぐく
る むたな。(車を運転する際には互いに譲り
合う心を持とう)。

ゆしぢゅん 〈ゆすぐ〉【活】ゆしちゃん、ゆ
しがん、ゆしぢ【例】むぬ かならー くち
ゆしぎ よー。(ものを食べたら口をゆすぎな
さいよ)。

ゆしむん 〈立ち止まる、思いとどまる〉【活】
ゆしだん、ゆしまん、ゆしてい【例】みーぬ
めーんかい ハブ んーち たましー ぬぎて
い あったに ゆしだん。(目の前のハブを見
てびっくりして急に立ち止まった)。すーじぐ
わーから あったに っちゆぬ っんぢてい
ちゃくとう、あたいが すらんでい うむてい
ゆしだん。(路地から急に人が出て来たので、
ぶつかると思って立ち止まった)。

ゆしみーん 〈立ち止まらせる、思いとどませ
る〉【活】ゆしみたん、ゆしみらん、ゆしみてい
【例】っやーや ぬーんち ゆしみらんたが?
(あなたはどのように引き止めなかったか)。

ゆしりーん 〈寄って来る〉【活】ゆしりたん、
ゆしりらん、ゆしりてい【例】いち やていん
っちゆぬ ゆしりてい ちゆーる ちねーや

いっペー かりーな むん やん どー。(いつでも人が寄って来る家庭は福があるよ)。ちゅーん ゆしりてい/ゆらりてい/ゆらりーが ちゃーびたん。(今日も参りました)。ちゅーん ゆしり あぎやびら。(今日もあがります)。

ゆす 〈他所〉【例】ゆすたにん やていん いちやりば ちよーでー やくとう、んーだんふーなーや すな けー/うっちゃんぎんな けー。(他人であっても出逢えば仲間なのだから、見ないふりはするなよ/放ってはおくなよ)。

ゆすぬ みー/ゆすみ 〈他人の目〉【例】ゆすぬみー ちむねー かきんな よー。ぬーん ならん ないん どー。(他人の目は気にかけるなよ。なにもできなくなるよ)。ゆすみに かかいくとう/ゆすぬみーぬ しぢさくとう、いったー やーぬ まし あらに?(人目に触れるので/人目がかなりあるので、あなたの家がいいではないか)。

ゆだ 〈枝〉大和古語の「よ」と、「万葉の桜」や「四五葉の山」のような「かたまりを数える単位」「葉(だ)」との組み合わせに対応し、〈葉や花房のついた節々〉を意味するのか。【例】さくらぬ さちーねー、っちゅゆだ とうてい むたさな。(桜が咲いたら、一枝取って持たせよう)。ゆだ ふあー(枝葉)。

ゆだい 〈よだれ〉【例】くさりむんぬ ゆだ い/いーちゅー ふいちよーん。(腐れものが糸を引いている)。

ゆだい じーじー 〈生唾が出てきているさま〉【例】まーさむん みーぬ めーんかい あくとう ゆだい じーじー そーん。(おいしいのを目の前にして生唾が出てきている)。

ゆたみちゅん 〈揺れ動く〉【活】ゆたみちやん、ゆたみかん、ゆたみち 【例】ぬーぬー くと うぬ あたんてーまん、ちもー ゆたみちゅな よー。あん さんねー、どうー あがち ならん ないん どー。(何事があったとしても、動揺するなよ。そうしないと、自立できなくなるよ)。

ゆっかぬ ふういー 〈旧暦5月4日〉【参】ハーリー。

ゆったいくわったい すん 〈だぶんだぶんする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】ちぶるんかい をうーき かみてい あっちゅる かーじ みじめ ゆったいくわったいっし いっちょーる みじえー あんでいてい みじがーめー いかなしとうん みっちやかー なしえーうーさんたん。(頭に桶を乗せて歩くたびに水がだぶんだぶんとして入っている水は溢れ出て水甕はどんなにしても一杯にできなかった)。

ゆていーん 〈こぼす〉【活】ゆていたん、ゆていらん、ゆていてい 【参】いーけーらすん。

ゆていりーん 〈こぼれる〉【活】ゆていりたん、ゆていりらん、ゆていりてい 【例】あまみー くま みーっし ちゃー ちぢーねー ゆていりーん どー。(あちこち見ながらお茶を注ぐとこぼれるよ)。

ゆでいーん 〈ゆでる〉【活】ゆでいたん、ゆでいらん、ゆでいてい 【例】なちえー なまじしえー ゆでいていどう かまりーさ。(夏は生肉はゆでて食べるものだよ)。

ゆにぬ うゆうえー 〈米寿(88歳)のお祝い〉【参】とーかちぬ うゆうえー(85歳のお祝い)、かじまやーぬ うゆうえー(97歳のお祝い)。

ゆぶん 〈呼ぶ〉【活】ゆだん、ゆばん、ゆでい 【例】ありんかい ゆーじゅぬ あくとう、ゆでいくいれー。(あの人に用事があるので、呼んでくれ)。

ゆみ 〈嫁〉【例】うちなーをうてー ゆみど いうい むくどうい すんでい いち、ゐーんでー いらん。(沖縄では婿取り嫁取りすると言うが、もらうとは言わない)。むくどうい ゆみどうい すんだれー うや ぬーでい。(婿

取り嫁取りをするのであれば、親を見なさい。
ゆみ なすん。(嫁にする)。

ゆみ いびらー 〈嫁いびりする姑〉 【例】
あまぬ ういなぐしとー つくわびーちゃー
なてい ゆみいびらー やしが、くまー ゆみ
ぬどう あたらさ さっとーる。(あちらの姑
は自分の息子に味方して嫁いびりするが、こ
こは嫁が大切にされている)。

ゆむん 〈読む、数える、詠む〉【活】ゆだん、ゆ
まん、ゆでい 【例】むぬ かむしん わして
い ふいっちー しゅむち ゆどーん。(食事す
るのも忘れて一日中本を読んでいる)。うやぬ
ゆしぐとうや ゆみん ならん。(親の教え
は数えることもできない)。あれー いち や
ていん まーをうていん うた ゆむん。(あ
の人はいつでもどこでも歌を詠む)。

ゆむん 〈悪口を言う〉【活】ゆだん、ゆまん、ゆ
でい 【例】んかしんちゆぬ いくとうばー
あじくーたー やてい、「かじぬ むぬ ゆむ
ん」でい いーねー、「うわさ」ぬ くとう や
ん。(昔の人の語り口は味わい深くて「風が言
いふらす」というと「うわさ」のことだ)。あれ
ー むぬゆまー やくとう ちー ちきり よ
ー。(あの人は言いふらすから気をつけなさい)。
ありが っやー くとう ふしがらん あたい
ゆどーたん どー。(あの人があなたのこと
をさんざん言いふらしていたよ)。ありが わ
じゃー あま はい くまはいっし っちゆぬ
むぬ ゆでい あっちょーん。(あれがやる
ことと言えばあちこちで他人の悪口を言いふら
してばかりいる)。【参】ゆんたかー (おしゃべ
り)、ゆんたくー (おしゃべり好き)、っちゆぬ
ふいーくし かつみやー (他人のあら探しを
する人)、っちゆ ぬらやー (他人のあら探し
をする人)。

ゆゆ／ゆい 〈節から節までの間〉 【例】大
和語では死語の「よ」に対応する。。ゆちく な
てい なまぬ わらびんちゃーや ゆゆぬ な
がさん やー。(豊かになって今時の若者たち

は手足の関節が長いね)。なまぬ わらびんち
やーや ゆゆぬ ながさくとう ふいさー ち
ゆらさん。(今時の若者たちは手足の関節が長
いので、足はすらっとしている)。

ゆらいん 〈分け合う〉【活】ゆらたん、ゆら
ん、ゆらてい 【例】やーにんじゆぬ かじ う
めーし うちよーてい、いってーる むんから
ゆらてい かめー。(家族の人数分箸を置き
ておいてから、入れてあるものから分け合っ
て食べなさい)。

ゆらりーん 〈集まる〉【活】ゆらりたん、ゆ
らりらん、ゆらりてい 【例】ふじんかいんかい
ゆらりーが いちゆん。(婦人会の集まりに
行く)。でいっか ゆらりーが いか。(では集
まりに行こうか)。

ゆるじな くとう 〈余計なこと〉 【例】
ゆるじなくとー すな よー。(余計なことは
するなよ)。

ゆるじな むん 〈間食〉 【例】っやーや
ゆるじなむんぬ うふこー ねーらに？(あ
なたは間食が多くないか)。どうく ゆるじな
むん かみぢゆーさいねー、しぐ くえーてい
じゃーふえー すん どー。(あまりに間食
を食べ過ぎると、すぐ太って厄介なことになる
よ)。

ゆるみーん 〈緩める、放す〉【活】ゆるみた
ん、ゆるみらん、ゆるみてい 【例】あんすかな
ー わじてー くいーんな。ちむ ゆるみてい
とらさん なー？(そんなには怒らないでく
ださいよ。許してもらえませんか)。

ゆれー 〈模合い〉 【例】わんねー くじ や
ふあらー なてい、ゆれーぐわーねー くじ
ふいちゆし ちゃー たぬまっとーたん。(私
はくじ運が強くて、模合いにはくじ引きするの
をいつも頼まれていた)。じのー とうてい
ふいんぎーる っちゆん をうくとう、あちは
ていてい わんねー ゆれーや ていーちんち

よーん いっちえー をうらん。(お金を取って逃げる人もるので、うんざりして私は模合い一口さえも入ってはいない)。

ゆれーいん 〈寄り合う、集まる〉【活】ゆれーたん、ゆれーらん、ゆれーてい 【例】ちゃぬ

ゆーに しーねー まちげーねーんぐとう
わらびんちゃー すだていーるくとう ないが
やーんでいち たんかーまんかー ゆれーてい
はなし さん。(どのようにすれば正しく子どもたちを育てることができるのかと隣近所寄り集まって話をした)。

ゆんかんしーん／ゆみかんしーん

〈しゃべりまくる〉【活】ゆんかんしたん、ゆんかんしらん、ゆんかんしてい 【例】ありんかい
ゆんかんしらちょーけー。(あの人にずっとしゃべらせておけ)。

**ゆんたー ういなぐ、ゆんたー
ふいんたー ういなぐ** 〈おしゃべり女〉

ゆんたく 〈おしゃべり〉

ゆんたくー 〈おしゃべり好き〉 【参】ゆんたかー (おしゃべりな人)。



よ

よーいん 〈弱る〉【活】よーたん、よーらん、よーてい【例】あつたー やーや よーとーしが、ちゅくてい ちゃぬ あたい などーが？(あそこの家は弱っているが、造ってどのくらいなっているか)。ちかぐろー あしくしぬ よーとーくとう、めー さこー なげーや あつからん／ながあつちえー ならん などーっさー。(近頃は足腰が弱っているので、前ほどは長くは歩けない／長歩きはできなくなっているよ)。やーん っちゅぬ しまらんねー たでーま よーいんでい、ちぬん ていー とうーさんねー よーてい いちゅん どー。(家も人が住まないとすぐに弱るって、服も袖を通さないと弱っていくよ)。

よーい むん 〈弱ったもの〉【例】くぬ やしえー／いよー／ししえー よーいむん などーくとう うっちゃんぎれー。(この野菜は／魚は／肉は弱っているので捨てなさい)。

よーがー 〈歪んだもの、まがったもの〉【例】っやーや むぬ いーる ばそー まつとーばいれー。よーがーむにーや すな けー。(あなたはものを言うときには単刀直入に言いなさい。遠回しな言い方はするな)。

よーがー ふいーがー すん 〈曲がっている〉【活】～さん、～さん、～っし【例】っやーや くしぬどう やむる あ？ あつちよーぬ よーがーふいーがー そーん どー。(あなたは腰が痛いのか。歩き方が曲がっているよ)。

よーか びー 〈旧暦8月8日の厄よけ〉【例】よーかびーねー やしちぬ うがみん う

さぎてい、やなむん ばれー するたみに しばさし すん。(旧暦8月8日には屋敷の拝みをして、悪霊払いのために柴差しをする)。

よーがりーん 〈痩せる〉【活】よーがりたん、よーがりらん、よーがりてい【例】いったー いのー っくわぐわー なちから よーがりとーん どー。(あなた方の犬は子犬を産んでから痩せているよ)。

よーがり むん 〈痩せっぽち〉【例】あれー よーがりむんぬ うふがみさー どー。(あの人は痩せの大食いだよ)。

よーし 〈様子、容態〉【例】ちゃぬ ふーじー などーんでい よーしえー いちから くすい あーてい くー よー やー。(どういう具合になっていると症状を言ってから薬をもらって来なさいよ)。ちゃー などーが？ よーし みーが っんぢんーぢゅみ？(どうなっているか、様子を見に行ってみるか)。

よーそーいん 〈かまわずにいる〉【活】よーそーたん、よーそーらん、よーそーてい【例】あとうから なんくる わかいくとう よーそーたん。(後から自然にわかるから、かまわないでおいた)。

よーそーちゅん 〈やめておく〉【活】よーそーちゃん、よーそーかん、よーそーち【例】よーそーけー しむる むんぬ。(やめておけばいいのに)。よーそーき。(やめておけ)。よーそーかん。(ほうってはおかない)。

よーばー 〈弱虫〉 【例】みぬ っちゅどう
やん どり。みぬ っちゅんかい まきーみ？
よーばー なてー ならん どり。(同じ人
間だよ。同じ人間に負けるのか。弱虫になって
はいけないよ)。

よーみ 〈弱いところ〉 【例】わん くるま

ー あっかんばー そーしが、よーみぬどう
いっちょーがやー？(私の車は動こうとしない
が、どこか悪いのかなあ)。どうすい なてい
どう やがやー？ あま やみ くま やみっ
し よーみぬ いっち、じゃーふえー やっさ
ー。(年とったせいなのかなあ。あちらこちら痛
くておかしくなって大変だ)。

ら

～らーさ 〈らしさ〉 【例】 ちなーらーさぬ ねーらん などーん。(沖縄らしさがなくなっている)。あれー ういきが／ういなぐらーさぬ ねーらん。(あの人は男／女らしくない)。うや／うふっちゅらーさぬ ねーん。(親／大人らしくない)。わらびぬ くさぶっくい／うふっちゅむにーっし わらびらーさぬ ねーん やー。(子どもがませて／大人ぶっ

て、子どもらしさがないね)。いったーや うやっくわらーさぬ ねーん やー。うやっくわ などーてい あんし ふいっちー おーえーびけーっし、まくとう っやーが なちえーる っくわ やみ?(あなたたちは親子らしくないね。親子なのにいつもけんかばかりして、ほんとにあなたが生んだ子なのか)。【参】 形容詞「～らーさん」。

り

りー 〈利息〉 【例】たかりーとうやーぬ じんからさーや いちぬ ゆーをうていん をうさ やー。(高利貸しはいつの世でもいるんだね)。たかりーとうやーから じん かいねー、りーぬ ほーてい はらいかんでいー すんでい。(高利貸しからお金を借りると、利息が増えて支払いに四苦八苦するって)。

りー 〈霊〉

りー じん／ぐ りー じん 〈御霊前〉

【例】ぶちだのー とーとーめーんでいん いーしが、うやふあーふじんかえー ぐりーじんぬ めーをうてい ていー あーすん。(仏壇は「とーとーめー」ともいうが、祖先には御霊前の前で手を合わせる)。

りーち 〈荔枝〉 【例】りーちえー とーからぬ ないむん やしが、よーきひん いっぺーしち やたんでい。(荔枝は中国産の果物だが、楊貴妃も大好きだったって)。

りーぢ 〈礼儀〉 【例】なまぬ わかむのー がくむのー ちゅーさしが、りーぢえー わかてーをうらん。(今時の若者は学はあるが、礼儀は分かってはいない)。

りーぢ げーし 〈贈り物のお返し〉 【例】

りーぢげーしえー やまとうぬ なれー やしが、うちなーをうてー むっちけーさーや ぐぶりーやくとう ふいー まっちから すん。(贈り物のお返しは本土の習慣で、沖縄ではその場のお返しは失礼にあたるので日を置いてからする)。

りーぢ さふー 〈礼儀作法〉 【例】まちげーでんわぬ ゆー あしが、ぐぶりー さびたんでいーる ちゆくとうぼぬ ねーらん、りーぢさふーぬ なてーをうらん。(間違い電話がよくあるが、失礼しましたという一言がなくて、礼儀作法がなっていない)。

〜りかー 〈〜のあたり〉 【例】いゆまちえー

まーりかー (=まーむていー) やが? ありかー てー。(魚市場はどのあたりか。あの辺だよ)。くりかーんかい ししまちえー あいびーみ?(このあたりに肉市場はありますか)。ありかー (あのあたり)、うりかー (そのあたり)。

りくち 〈ずる賢いこと〉 【例】さき ぬまー

に じん はらいるとうち ないねー にんたんふーなーっし はな ふちよーしが、じん はらてい ちーねー わからん ふーなーっし うきーん。あれー ちゃー うんぐとうーっし りくち くわとーん やー。(酒を飲んでお金を払うときになると寝ているふりをしていびきをかいているが、支払いして来ると分からないふりをして起きる。あいつはいつもこんなことをしてずる賢いね)。あれー たんちやー やくとう、りくち しーねー うかーさんどー。(あの人は短気者なので、理屈をこねると危ないよ)。

りくちやー 〈ずる賢い人〉 【例】あれー

あん いーねー かん いーっし はていぬ りくちやー やくとう、ならん／しからん さー。(あの人はああ言うところ言う、大変なず

るい人なので、どうしようもない／気にくわない)。

～りば、～れー 〈条件、已然〉 【例】ちゃーしん いからんむん やれー、でんわ しーよー。(どうしても行けないのであれば、その時は電話しなさいよ)。まちかんでいー そーれー、さき めでい ちゃんでいー?(ずうっと待っていたのに、酒を飲んで来たって)。

～りわ、～らー 〈条件、未然〉 【例】ちゃーしん いからんだらー、でんわ しーよー。(どうしても行けないのであれば、前もって電話しなさいよ)。いゆらー むっち いけー、いらんどうん やらー むっちえー いくな。(要るなら持って行け、要らないのであれば持つては行くな)。【参】「行からんどうん あらー」

「要らんどうん あらー」の短縮形式はそれぞれ「行からんだらー」「要らんだらー」になる。

りんち 〈嫉妬〉 【例】どーやか すぐりた、ちゅらさたい そーる っちゅんかい りんち する っちゅんかい 「りんちゃー」んでい いーん。(自分より優れたり、きれいだったりする人に嫉妬する人に「焼きもちや」と言う)。【参】「りんち」は主に男女間の嫉妬に使う。っわーない。

りんくわー 〈防寒用の着物の一種〉 【例】うちなーぬ うとうすえー ふいーく ないねー、やーをうてー りんくわー ちちよーん。(沖縄のお年寄り寒くなると、家では「りんくわー」を着ている)。

る

るー／どうー 〈龍〉 【例】るーや るー
ぐーぬ うかみがなしーめー やてい、うちな
ーをうてー 「るーぐしん」でいち いらっと
ーん。(龍は竜宮の神様で、沖縄では「竜宮神」
と言われている)。

るーか 〈琉歌〉 【例】るーかー るーちゅー
ぬ うた やてい さんぱちるくさーに うた
ーらっとーん。(琉歌は琉球の短歌で8-8-8-6
で歌われている)。

るーちゅー／どうーちゅー 〈琉球〉

【例】んかしゆじりぬ るーちゅーぬ くとうば
ー ちゃー ちかりわどう ぬくてい いちゆ
る。(伝統的な琉球のことばはいつも遣えば残
っていく)。

るぐわい／どうぐわい 〈アロエベラ、竜
舌欄〉 【例】るぐわえー くすいむん やて
い わたぬ やだい、ていー やちやい、ふい
ーに やちやい、ふいさぬ やだい さる ば
すに ちかいん。(アロエは薬草でお腹が痛く
なったり、手を火傷したり、日焼けしたり、足
が痛くなったりした時に使う)。

ろ

ろー 〈ロウソク〉 【例】うふかじに でんきぬ
ちゃーりてい ろー ちかーんねーならん
なてい、まるふいーじーぬ ぐらしをうてー
ちゃーしん あかがえー ねーんとーならんで
いーる くとうぬ ゆー わかたん。(台風の
時に電気が消えてロウソクを使わないといけな
くなって、常日頃の暮らしではどうしても灯り

はないといけないということがよく分かった)。

ろーま 〈もうろく〉 【例】っちょー むる
ゐぬ みちどう あっちゆくとう、ろーま そ
ーる うとうすい わらたい、ぬらたい する
むのー あらん。(人はみんな同じ道を歩む
ので、もうろくしているお年寄りを笑ったり、
叱ったりするものではない)。

わ

わー／わん 〈私〉 【例】わんにんかい (私に)、わんねー (私は)。具志川では「わーみが」(私が)、「わーみぬ」(私の)、「わーみがる」(私こそが)、「わーめー」(私は) のようになる。。わんがどう わっさる。(悪いのは私の方だ)。わー むのー わーむん、っちゅぬ むぬん わーむん。(私のものは私のもの、人のものも私のもの)。

わー どうー 〈我が身〉 【例】ぬちえー たから やくとう、わーどうーぬどう あたらさる。(命は宝なので、我が身こそ大事だ)。

わん くる 〈私自身で〉 【例】どうーぬ くとー わんくる なくとう しむさ。(私のことは私自身でできるので大丈夫)。

わーきー 〈分け前〉 【例】ちゅくい わーきー (一緒に作って利益を分け合うこと)。たんかー わーきー (山分け)。わんが じん っんぢやすくとう、っやーが やしえー ちゅくてい たいっし わーきー さな。(私がお金を出すので、お前が野菜を作って二人で分け合おう)。

わか〜〈若〉 【参】「わかさん」(若い)からの派生。

わか げー いん 〈若返る〉【活】わかげー たん、わかげーらん、わかげーてい 【例】そーぐわちねー わかみじ かみてい わかげーいん。(正月には若水をいただいて若返る)。そーぐわちねー っんぶがーぬ みじ ぬだい ふいちえーんかい みじなでいーっし わかげーいん。(正月には神聖な井戸(産ぶ泉)の水を飲

んだり額に水撫でをして若返る)。

わかさ い に 〈若い時〉 【例】わかさいにぬ なんぢくんぢえー こーていん っし。(若いときの苦労は買ってでもしなさい)。

わか じーら 〈産後の浅いからだ〉 【例】よーみぬ いーくとう、わかじーらねー ちゅちちびけーや みじ ちかてー ならんでい いらっどーたしが、うれー んかしぬ はなし どう やる。(病み気が入るので、産後の浅いからだには一ヶ月ほどは水を使ってはいけないと言われていたが、それは昔の話だ)。

わか しらぎ 〈若白髪〉 【例】わかしらげー くぬ やーぬ たっくいー やんでい どー。(若白髪はこの家の血統だっよ)。

わか なち 〈若夏〉 【例】すーまんぼーすーん あがてい、しださる ふえーかじん ふちよーしが、くぬうち うちなーや わかなち んけーいん。(梅雨もあがって、涼しい南風も吹いているが、まもなく沖縄は若夏を迎える)。

わか みじ 〈若水〉 【例】そーぐわちねー わかみじ かみてい しでいがふーっし、っくわ なしーねー うぶみじさーに あみしみてい どうーがんじゅー にげー すん。(正月には若水をいただいて感謝し、子を産むと初水で浴びせて健康願いをする) 【参】「わかみじ」とは元旦の邪気払いための水。

わか むん 〈若者〉 【例】なまぬ わかむんぬちやーや しまくとうば ならいぶさ そーしぬ うふく なていちよーん。(現代の若者たちはしまくとうばを教わりたいたいと思っている人が多くなって来ている)。

わか ういなぐ 〈若い女性〉【活】わか ういきが 〈若い男性〉 【例】ういなぐぬ わかういきがぐわー をうとう しーねー、「にーしえーぐわー ばーちー」んでい いらりーしが、ういきがぬ わかういなぐぐわー とうじさんてーまん たーが ぬーんでいん いらん。(女性が若い男性を夫にしたら、「姉さん女房」と言われるが、男性が若い女性を妻にしたとしても誰も何とも言わない)。

わかいん 〈わかる〉【活】わかたん、わからん、わかてい 【例】ぬー しえー しむんでい いしえー りくちしえー ゆー わかてーをうしが、どうーぬ うーてー くーん。(何をしたらいいかというのは理屈ではよくわかってはいるが、からだは追いついて来ない)。

わかいん 〈分かれる〉【活】わかたん、わからん、わかてい 【例】つくわぬちやーや にーびちっし やー わかとーん。(子どもたちは結婚して分家している)。参考：やーかやー そーん(借家住まいをしている)。

わかすん 〈沸かす〉【活】わかちゃん、わかさん、わかち 【例】あん すらー ゆー わかすみ?(それならお湯を沸かすか)。なーだ わかかんさ やー。(まだ沸かないね)。なー わちよーさ。(もう沸いたよ)。ちやーぬ わちよーん。(お茶が沸いている)。ちやー わかすくとうめんそーり よー。(お茶を沸かすのでいらっしやい)。ちやー わかしーぐわー すくとうちやー ぬみーが くーわ。(お茶を沸かすから飲みにおいで)。【参】「ふかすん」とも言う。

わかすん 〈分ける〉【活】わかちゃん、わかさん、わかち 【例】いちゅびぬ まぎー、ぐまー わかする くとー、なまー っちゅのーさん、やーまさーに すん。(イチゴの大きいのと小さいのを分けることは、今は人はしない、機械です)。たいが なーか ちりわかすん。(二人を仲違いさせる)。なちぬ あめー っんまぬ くらん くんわかすん。(夏の雨は馬の

鞍の濡れたところとそうでないところをはっきり分ける)。

わかりーん 〈別れる〉【活】わかりたん、わかりらん、わかりてい

わかり 〈別れ〉 【例】わかりぬ しからーさー たー やていん あたていちゅーん。(別れの寂しさは誰でも経験するものだ)。

わかり あちさ 〈最後の暑さ〉 【例】ちぬーや ふしがらん あたい あちさたしが、ちゅーや しだく などーんねーっし、ちぬーや わかりあちさどう やてーさ やー。(昨日は我慢できないほど暑かったが、今日は涼しくなっているようで、昨日は最後の暑さだったんだね)。

わかり びーさ 〈余寒〉 【例】うちなーぬ ふよー いんちゃさしが、みけーんぐれーぬ かんぬ ちゅーさる とうちぬ あてい、「むーちー びーさ」、「とうんじー びーさ」、「そーぐわち びーさ」んでい いらっどーん。うちなーぐゆみぬ にんぐわちから うりじんぬ しち ないるまでいねー ぬくばーたい、ふいーく なたい すしぬ、たけーん、みけーん あしが、うぬ くとうんかい「わかり びーさ」んでい いちよーん。(沖縄の冬は短いが、3回ほどの寒さの厳しいときがあって、「鬼餅寒さ」、「冬至寒さ」、「旧正月寒さ」と言われている。旧暦の2月から春の季節になるまでには暖かくなったり、寒くなったりすることが2、3回あるが、そのことに「余寒(別れ寒さ)」と言っている)。わかりびーさぬ ばすねー、またん にじららん ふいーさぬどう むどうてい ちやがやー んでいーるあたい ふいーく ないん。(余寒の折は、またしても耐えられない寒さが戻って来たのかというほど寒くなる)。

わごー、まるみ 〈和〉 【例】おーえーむ んどーや さんぐとう、えーじゅーわごー とうれー。(けんかはしないで、仲間との和をとりなさい)。

わさわさ すん 〈がやがやする〉【活】～さ

ん、～さん、～っし 【例】くまー わらびんちゃーぬ わさわさそーくとう、むぬかんげーん はなしん ならん。(ここは子どもたちがががやがや騒ぐので、ものを考えることも話もできない)。

わさみちゅん 〈騒ぐ〉【活】わさみちゃん、わさみかん、わさみち 【例】ぬーが やら んにぬ わさみちゅくとう、ちゅーや かーまん かえー いかんしえー まし。(何かしら胸騒ぎがするので、今日は遠くには行かない方がいい)。

わしーん 〈忘れる〉【活】わしたん、わしらん、わしてい 【例】わしてー ならんくとう ちかぐろー ゆー わしーくとう なー うぬ とうし などーがやー。しわ やさ。(忘れてはいけないことを近頃はよく忘れるので、もうそういう歳になっているのかねえ。心配だ)。

わじーん 〈腹をたてる、怒る〉【活】わじたん、わじらん、わじてい

わじわじ すん 〈腹をたてる、怒る〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】あれー うふいぐわー わじとーたん どー。(あの人は少し怒っていたよ)。っやーや ぬーぬ くとうんかい わじとーる ばーが?(あなたは何の事に怒っているのか)。【参】わたむげーゆん。

わした 〈我々(強調)〉 【例】うやふあーふじぬ ちむぐくる うきちぢ わした しま うちなーぬ みるくゆがふー にかゆん。(祖先の精神を受け継いで我々地元の沖縄の繁栄を願う)。

わじゃ 〈仕事、職業〉 【例】ちかぐろー じんぬ みぐいぬ わっさる たみなかい わじゃ ねーん ないる っちゅぬちゃーぬ うふく なてい、ぬーぬ わじゃ やていん さねーならん などーん。(最近是不景気のために失業する人々が多くなって、どんな仕事でもしないといけなくなっている)。

わじゃうえー 〈災い〉 【例】くちえー わじゃうえーぬ むとう やくとう、くちえー くぐにーてい ちかり よー。(口は災いのもとなので、ことばは慎重に使いなさいよ)。

わじら わじら すん 〈今にも怒りそう〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】あれー わじらわじら そーくとう、あぬくとー ぬーん あびらんしえー まし どー。(あの人は今にも腹をたてそうなので、あのことは何も言わない方がいい)。

わじゃむん 〈しわがよる、しかめっつらになる〉【活】わじゃだん、わじゃまん、わじゃでい 【例】どうく ふいーさぬ、ちらまでい わじゃどーん。(あまりに寒くて顔までしかめっ面になっている)。っちゅぬ めーんぢえー わじゃむな けー。(人前ではしかめっ面をするな)。

わじゃみーん 〈しわをよせる〉【活】わじゃみたん、わじゃみらん、わじゃみてい 【参】わじゃんくえー(しかめ食い)。

わじゃんかー すん 〈しかめっ面をする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】っちゅぬ めーんぢえー わじゃんかー すなけー。(人前ではしかめっ面はするな)。んぢやなばーじるとうか、フーチバーじるとうか、ゴーヤージュースとうか ぬみーねー、どうく んぢやさぬ、ちらまでい わじゃんかー ないん。(苦菜葉汁やヨモギ汁やゴーヤージュースを飲むと、あまりに苦くて、顔までしかめっ面になる)。

わた 〈腹〉 【例】なーだ わたびないん さんくとう、むのー なー うふいぐわーっしから かむさ。(まだお腹は減っていないので、食事はもう少ししてから食べるね)。

わた うち 〈腹のなか〉 【例】くちしえー あん いちよーしが、わたうちまでー わからん。(口ではそう言っているが、腹の中まではわからない)。

わたぬ みー 〈腹一杯〉【活】わた なから 〈腹半分〉 【例】むのー わたぬみー かむし

やかにん わたなから かむしぬどう まし
やん。(食べ物は腹一杯食べるよりも腹八分
食べるのがいいのだ)。

わた でー 〈腹持ち〉 【例】むちえー わ
たでーぬ あてい、まーさん。(餅は腹持ちがよ
くて、おいしい)。

わた ぶたー 〈出腹の者〉 【例】くぬぐろ
ー ちゃー ぬだい かだいっし っんぢゅち
ゆるくとうん さんくとう、ちゅらーさ わた
ぶたー などーん。(この頃はいつも飲んだり
食べたりして体を動かすこともしないので、す
っかりお腹が出てきている)。

わた ふっくいー 〈お腹が張ること〉 【例】
かみぢゅーさぬ、わたふっくいーっし ちむい
ふなー そーっさー。(食べ過ぎてお腹が張っ
て気分が悪くなっているよ)。はらいる じの
ー ちゅいぶん やしが、かむしえー ちゃっ
さ やていん かまりーくとう わたふっくい
ー そーっさー。(払うお金は一人分だが、食
べるのはいくらでも食べられるので腹一杯になっ
ている)。

わた ぼんぼん すん 〈お腹がだぶだぶす
る〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】ちゃー
ぬみぢゅーさぬ、わた ぼんぼん そーん。(お
茶を飲み過ぎて、お腹がだぶだぶしている)。

わた むげーゆん 〈はらわたが煮えくり返
る〉【活】～むげーたん、～むげーらん、～むげー
てい 【例】=みーぬ みーらん ないる あた
い わじとーん。(目が見えなくなるほど怒っ
ている)。=たっくるすがやーんでい うむい
る あたい わじとーん。(ぶん殴ってやろう
かと思うほど怒っている)。あれー ゆくしむ
にーっし しらん ふーなー そーくとう、わ
んねー わたむげー そーっさー。(あいつは
嘘をついて知らんふりしているので、私ははら
わたが煮えくり返っている)。

わたいん 〈渡る〉【活】わたたん、わたらん、
わたてい 【例】かじまやーぬ うゆうえーに
ななちぬ あじまー とうーてい やくばれ
ーっし どうー ちゅみーる くとうんかい

「ななちぬ はし わたいん」でい いーん。
(数え98歳のお祝いを7つの十字路を通過
て厄払いして体を清めることに「7つの橋[13、
25、37、49、61、73、85の厄年]を
渡る」という)。

わたすん 〈渡す〉【活】わたちゃん、わたさ
ん、わたし 【例】ていまー いち わたすが?
(手間賃はいつくれるの)。くぬめー はたらち
やる ばすぬ ていまー ちゃー などーが?
(この前働いたときの手間賃はどうなっている
のか)。

わたくし 〈へそくり〉 【例】わたくしぐわー
や うふいぐわーぬ くとうしえー ちかいぶ
しこー ねーらんくとう、たまい しんでー
ゆくん ちかいぶしこー ねーらん ないん。
(へそくりはちょっとしたことでは使いたくな
いので、たまるにつれて余計に使いたくなくな
る)。

わたんぢ 〈船着き場〉 【例】わたんぢえ
ー ちゅーん あみ やてい、たーん をうら
んたん。(船着き場は今日も雨で、誰も居なかつ
た)。

わち ぎー 〈脇毛〉 【例】わちぎーや う
いきがー みーらっていん ぬーんちえー う
まーんしが、ういなごー ふーじえー ねーら
ん。(脇毛は男性は見られても何とも思わない
が、女性はみっともない)。

わちやくいん 〈からかう〉【活】わちやく
たん、わちやくらん、わちやくてい 【例】っ
ちゅ わちやくてい ぬーぬ どうくぬ あ
が?(人をからかって何の得があるか)。っやー
や っちゅびかー わちやくてい あっちよー
しが、なまに まぎく わちやくらりーん ど
ー。(あなたは他人をからかってばかりいるが、
今にすごくいたずらされるよ)。

わちやく すん 〈からかう〉【活】～さん、～
さん、～っし 【例】あぬ たえー ちゃー っ
ういーりきさ そーくとう、いふえー わちや

くっしとうらさ。(あの二人はいつも楽しんでいるから、少しばかりからかってやろう)。

わちゃく 〈からかうこと〉 【例】あれー わん わちゃくそーる／わちゃくとーる ちむえー やさー やー。(あの人は私をからかっているわけだね)。

わちゃらいん 〈わづらう〉【活】わちゃらたん、わちゃらーん、わちゃらてい 【例】いちゆなさんかい わちゃらーってい どうじとうかながなーっとう はなしする まどうん ねーらん。(忙しさにわづらわされて妻とむつまじく話をする間もない)。

わちゃれー 〈わづらい〉 【例】わちゃれーぐとー ないるかぢり はんさーに どうーいぶさん。(煩わしいことはできるだけ外して歩みたい)。

わちゅん 〈湧く〉【活】わちゃん、わかん、わち 【例】みじぬ わちゅる いじゆのー 「ふいーじゃー」んでい いち、うちなーをうてーぬみみじ さい たーぶっくわ なたい そーん。(水が湧く泉は「樋川」といって、沖縄では飲料水にしたり田んぼになったりしている)。

わっくわすん 〈ほぐす〉【活】わっくわちゃん、わっくわさん、わっくわち 【例】まーみなーちゃんぶるーんかえー とーほー ほーちゃーいりーしやかにん ていーさーに わっくわすしどう まーさん。(もやしチャンプルーには豆腐は包丁で切るよりも手でほぐすのがおいしい)。

わっくいーん 〈ほぐれる、分解する〉【活】わっくいたん、わっくいらん、わっくいてい 【例】やまどうをうてい でーだかー くわーしこーていちゃしが、あきてい んーちゃくとーう わっくいとーてい まーこー かまらんなどーたん。(本土で高級菓子を買って来たが、開けてみるとばらばらになっていて美味しくは食べれなくなっていた)。

わったー 〈私たち〉 【例】わったーんかえー あかーとう しるーぬ ちゅらくーいゆぬをうしが、んーちんーぢゆみ?(私の家には赤と白のきれいな鯉がいるが、観てみるか)。
わったー くる 〈私たち自身で〉 【例】わったーくる さびーくとう、うんじょー しわー しみしえーびーんな よー。(私たちですみますので、あなた様はご心配なさらないくださいよ)。

わび 〈詫び〉 【例】どうーぬ わっさんでい うむいねー、しぐ しかっとう わび すん。(自分が悪いと思ったら、すぐにきちんとあやまる)。

わらいん 〈笑う〉【活】わらたん、わらーん、わらてい 【例】をうかさる くとうびけーんかい わらいしえー あらん、うしえーわれーん あん。(おかしいことだけに笑うのではない、人をバカにした笑いもある)。つくわとー わらーりーしが、じんとー わらーらん。(子とは笑い合えるが、お金とは笑い合えない)。たか われー (声に出して笑う)、なち われー (泣き笑い)、みー われー (ほほ笑み)、さー われー (うす笑い)、かたくち われー (せせら笑い)、うふ われー (大笑い)、くー われー (くすくす笑い)、なま われー (にやにやする笑い)、んぢや われー (苦笑い)、あつた われー (急に笑うこと)、なまじゃー われー (生意気な笑い)、なまじら われー (おどけた笑い) うびっんぢやし われー (思い出し笑い)、あじゃむち われー (あざ笑い)。

わらーらん われー 〈無理な笑い〉 【例】うむこー ねーんむんぬ、わらーらん われー すしえー ちむ ふがん。(おもしろくもないのに、無理な笑いをするのは気持ちがすっきりしない)。

われー かんぢゅん 〈にこにこ笑う〉【活】~かんたん、~かんだん、~かんでい 【例】あまぬ まちやぬ ぬーしえー いちゅる かーじ われーかんでい んけーいくとう いちやっさ

ん。(あちらのお店のご主人は行くごとにここにこ笑って迎えるので行きやすい)。

われー ばなし 〈笑い話〉 【例】いちちょーる うちえー くちさたる くとうん あとー うあとー われーばなし ないる くとうん あん。(人生においてはつらかったことも後では笑い話になることもある)。

われー ふくい 〈喜び笑い〉 【例】うっさっし われーかんとーるくとー 「われーふくい すん」でい いーん。(喜んで笑いころげていることを「喜び笑いする」と言う)。

わらび 〈子ども〉 【例】わらび しかすんねーっし しえーくいーんな けー。(子どもをあやすようにしてはくれるな)。わらびあちけーや しえーくいーんな けー。(子ども扱いはしてはくれるな)。うとうすえー わらび ないけーいくとう くめーきてい ふいらてい いちゆし やん。(お年寄りは子どものようになり変わるので注意を払ってつき合っていくべきだ)。わらべー ならーし むん。(子どもはしつけ次第だ)。

わらばー ぐいー 〈子どもの声〉 【例】わらばーぐいーや くいーだかさくとう、なちどう をうが、わらていどう をうが、わかいぐりさん。(子どもの声は泣いているのか、笑っているのか、判りにくい)。

わらび がみ 〈童神〉 【例】わらびぬ くくろー ちゅらみじぬ ぐとう しどーくとう、「わらびがみ」んでいーる くとうばぬ あん。(子どもの心は清水のように澄んでいるので、「わらびがみ」ということばがある)。

わらび ぐいー 〈子どものような声〉 【例】ちらー んーぢーねー とうし っんぢよーん ねー すしが、くいーや わらびぐいー そーん やー。(顔を見ると歳が行っているようだが、声は子どものような声をしているね)。

わらび ぢむ 〈童心〉 【例】んかしえー、ういなごー ちねーんかい くだっとうーたくとう、どうーぬ しーぶさる くとうん うむいる ぐとー ならんたしが、ういきがー い

ちちよーる かぢり わらびぢむ むっち どうーぬ しーぶさる くとう ちゃーしん さん。(昔は、女性は家庭に縛られていたので、自分のしたいことも思うようにはできなかったが、男性は生涯童心を持って自分がしたいことを追求した)。

わらび なー 〈童名〉 【例】あやかりよーんでいち うやふあーふじからぬ なー わらびなーとうっし ちきとーたん。(あやかりなさいとって祖先からの名を童名として付けていた)。

わらび なち 〈子どものように大泣きすること〉 【例】ふいさん しりしりーっし わらびなち そーたる うふっちゅぬ はなし ちちー?(地だんだを踏んで子どものように大泣きしていた大人の話聞いたか)。

わらび んちゃー 〈子どもたち〉 【例】むんならーし しーねー、ぬーやていん ないくとう、わらびんちゃーや ならーしな むん。(ものを教えると、何でもできるので、子どもたちは教え育てるもの)。

わいん 〈割る〉【活】わたん、わらん、わてい 【例】たむん わてい、やっくわん めしてい ゆー ふかちやい、ゆーふる わかちやい する くとうん ねーん などーん。(薪を割って、やかんを置いてお湯を沸かしたり、風呂を沸かしたりすることもなくなっている)。

わりーん 〈割れる〉【活】わりたん、わりらん、わりてい

わり がーみ 〈大酒飲み〉 【例】あれー わりがーみぬぐとう さけー ちゃっさ やていん ぬむん。(あの人は割れ甕のように酒はいくらでも飲む)。

わり むん 〈割れ物〉 【例】わりむん やくとう っんぢゆかする とうちねー ゆーっし よー。(割れ物なので動かすときにはよく注意しなさいよ)。

わんちゃめーいん 〈(物品で) 弁償する〉 【活】わんちゃめーたん、わんちゃめーらん、わ

んちゃめーてい 【例】かたる プレーヤー
やんぢャーに みーむん こーていっち わん
ちゃめーたん。(借りたプレーヤーを壊して新
品を買って来て弁償した)。【参】はちゆん(お
金で弁償する);かたる みーぐるまー やん
ぢャーに なかなかーする あたいぬ じんさ
ーに はちゃん(借りた新車を壊して泣きたく
なるほどのお金を弁償した)。

わんぶー 〈どんぶり〉 【例】わんぶーや
ほーちゅー する とうちに ちかいる まぎ
まかい やしが、すんかんや すば、ていびち、
そーき かむる ばすに ちかいる まかい
やん。「わんぶー」は料理の際に使う大きなど
んぶりだが、「すんかん」はソバ、てびち、ソー
キを食べるときに使うどんぶりだ)。【参】すん
かん(磁器の小さいどんぶり)。

うい

ういー 〈柄〉【例】ほーちゃーぬ ういーぬ
ゆるどーくとう うかーさん。(包丁の柄が
ゆるんでいるので危ない)。

ういーゆん 〈酔う〉【活】ういーたん、うい
ーらん、ういーてい【例】めーや そーぐわち
ねー ういっちゃーぬ うふさたしが、ちかぐ
ろー あんすかー みーらん。(以前は正月に
は酔っぱらいが多かったが、近頃はそんなに見
ない)。ちちゆぬ まんどーる とくまー
ちちゆういーっし ならん さー。(人がたく
さんのところは人酔いしてたまらない)。

ういー なち 〈酔い泣き〉【活】ういー に
んぢ 〈酔い寝〉【例】いるんな さきぐしぬ
あてい、ういーなちやーん、ういーにんぢや
ーん、たーんかい やていん じん くいーる
ういーふりむぬん をうん。(いろいろな酒
癖があって、酔って泣く人も、酔って寝る人も、
誰にでもお金をくれる酔っぱらいバカもいる)。

ういっちやー、ういっちゆ 〈酔っぱらい〉
【例】ういーとーる ちちよー 「ういっちゆ」
やしが、「ういっちやー」んでいん いーん。
(酔っている人は「ういっちゆ」だが、「ういっ
ちやー」とも言う)。「参」「ういっちやー」は
「ういっちゆ」からの派生で、「わらび」から派
生した「わらばー」や「ゆんたく」から派生し
た「ゆんたかー」とは同類。

ういー ばちゆん 〈吐き気を催す〉【活】～
ばちゃん、～ばかん、～ばち【例】ういーばちゆ
くとう、なるびちえー ふにんかえー ぬいぶ
しこーねーん。(吐き気を催すので、なるだけ船
には乗りたくない)。バス ぬていん ういー

ばちゆん、つくわ むちはじみーん ういーば
ちゆん。(バスに乗っても吐き気を催す、つわり
も吐き気を催す)。

ういー ばち かーかー すん 〈吐き気
を催す〉【活】～さん、～さん、～っし【例】ふに
ぬてい ういーばちかーかー そーん。(船
に乗って吐き気を催す)。なーふあぬ まちぐ
わーや ちちゆぬ うふさぬ、ちちゆういーさ
ーに ういーばちかーかー そーん。(那覇の
市場は人が多くて、人酔いで吐き気を催してい
る)。

ういー ふりーん 〈酔って正体を失う〉
【活】～ふりたん、～ふりらん、～ふりてい【例】
ういーふりーる さこー さけー ぬむな け
ー。(酔って正体を失うほどは酒は飲むなよ)。

ういきー 〈男兄弟、男の子〉【例】わんね
ー ういきーぬ たい をうん。(私は男兄弟
が二人いる)。わんねー くわー みっちやい
をうしが、たいや ういきー、ちゆいや を
うない やん。(私は子が三人だが、二人は男の
子、一人は女の子だ)。わんねー くわー たい
をうしが、をうない ういきー やん どー。
(私は子が二人いるが、女の子と男の子ですよ)。

ういきが 〈男〉【例】ういきがー そーき
ぶに ていーち ふすくんでい いちん、うい
きがぬ ちゆくとうばー すーむんがーいんで
いん いらっとーん。(男は肋骨が1つ不足と
言っても、男の一言は証文代わりとも言われて
いる)。ういきがとう ういなごー むちとう
かーさんねー。(男と女は餅とそれを包む広
葉のように、夫婦はいつも仲良く)。

ういきが ふぁーふじ 〈祖父〉【活】ういなぐ ふぁーふじ 〈祖母〉 【例】すいをうてー ういきがふぁーふじえー 「たんめー」、ういなぐふぁーふじえー 「っんめー」んでいーん。(首里では祖父は「たんめー」、祖母は「っんめー」と言う)。

ういきが ふーじー 〈男のような女〉【活】ういなぐ ふーじー 〈女のような男〉 【例】ういきがふーじーぬ ういなぐんでいーいーしえー ういなぐらーさぬ ねーらん ういなぐやてい、ういなぐふーじーや ういきがらーさぬ ねーらん ういきが やん。(「ういきがふーじー」と言うのは女らしさがない女性で、「ういなぐふーじー」は男らしさのない男性だ)。

ういきが やぐさみ 〈男やもめ〉【活】ういきが まさい 〈男勝り〉、ういきが んぐわ 〈男の子〉、ういきがぬ うや 〈父親〉、ういきが しーじゃ 〈兄〉、ういきが しとう 〈しゅうと〉、ういきが うっとう 〈弟〉、ういきが わらび 〈男の子〉

ういなぐ 〈女〉 【例】ういなごー っんまりや っちゆくに、すだちや なくに。(女性は産まれの国は1つだが、育つ国は7つ)。ういなごー やーぬ かじとうい。(女性は家庭の舵取り、家庭内のことは女性に任せて家庭円満)。

ういなごー いくさぬ さちばい。(女性は戦の先駆け、いざという時には女性の方が強い)。

ういなぐ だち 〈女所帯〉 【例】ういなぐだちんでいーいーしえー、ういきがぬうやぬをうらん ちねー やん。(女所帯といのは、父親のいない家庭である)。

ういなぐ ぬーし 〈女主人〉 【例】でーでー うきちがとーる やどうねー ぬーがやら ういきがぬーし やかにん ういなぐぬーしぬ うふさん。(代々受け継いでいる旅館にはどうしてなのか男主人よりも女主人が多い)。

ういなぐ むちり 〈女狂い〉 【例】ういきがぬ ういなぐんかい むちりーる くとうんかい、ういなぐむちり そーんでいーいーん。(男が女に夢中になっていることを、女狂いという)。

ういなぐ めーさー 〈女の子におべっかを使う者〉 【例】ういなぐめーさーん をうくとう ちー ちきり よー。(女の子におべっかを使う者もいるので、気を付けなさいよ)。

ういなぐんぐわ 〈女の子〉【活】ういなぐぬ うや 〈母親〉、ういなぐ しーじゃ 〈姉〉、ういなぐ しとう 〈しゅうとめ〉、ういなぐ うっとう 〈妹〉、ういなぐ わらび 〈女の子〉

をう

をうー 〈芋〉 【例】をうーんでい いーしえー ばさーぬ ふに やてい、っわーがー、なかがー、うーくがーから などーん。っわーがーや はぢゃーに をうーあたいぬ くえーなすん。なかがーとう うーくがーや にじかん びけー にやーに しださる とうくまん かい かーぎぶし すん。うーくがーや まっしーるーぬ じょーとうー いーちゅー ないん。をうー ちんぢゆてい ばさーぢん ちゆくいん。(芋というのは糸芭蕉の茎で、上皮、中皮、奥皮からなっている。上皮は剥いで芋畑の肥料にする。中皮と奥皮は2時間ほど煮て涼しいところに陰干しをする。奥皮は真っ白い上質の糸になる。芋を紡いで芭蕉布をつくる)。

をうー 〈緒〉 【例】わらびんちゃーぬ ふすぬ をうー あたらさっし かじみてーん。(子どもたちのヘソの緒を大切にしまっている)。

をうー 〈雄〉
をうー ぢる 〈雄弦〉 【例】さんしぬんかえー をうーぢる、なかぢる、みーぢるぬ あてい、をうーぢろー あらさくとう つんぶらーさる うとうぬ つんぢーん。(三線には雄弦、中弦、雌弦があって、雄弦はどの弦よりも太いので重々しい低い音が出る)。

をうーどうい 〈雄鶏〉

をうー むなー、をうー むん 〈雄〉
【例】ないむん ないる きーや をうーむんとう みーむん っういーねー ゆー みーぬ ちちゆんでい。(果物がなる木は雄木と雌木を植えるとよく実が付くんだって)。

をういみ／をうゆみ 〈四季折々の祝日〉

【例】うちなーぬ をういめー たーがん ならーちやる むのー あらん、まーいぬ うみ、やま、あみ、かじ、ぢー、きーくさ、いちむしんでーからぬ ならーしさーに をういみぬ はじまたん、まくとう ふいるましーむん やー。(沖縄の祝日は誰が教えたものでもない、周囲の海、山、雨、風、地、植物、動物などからの教えで祝日は始まった、本当に不思議なことだね)。

をういみ しちび 〈年間行事〉 【例】うちなーや をういみしちべー うちなーぐゆみさーに うさぎてい、っちゆぬ くらしがた まむたい、ゆがふー にがたい そーん。(沖縄は年間行事は陰暦でお供えをして、人々の暮らしを守ったり、豊年を願ったりしている)。

をうーいん 〈折る〉【活】をうーたん、をうーらん、をうーてい 【例】きーぬ かりゆだ をうーてい たむん さん。(木の枯れ枝を折って薪にした)。あみふいに しんでいてくるばーに ていー をうーたん。(雨降りに滑って転んで手を折った)。

をうーりーん 〈折れる、我を折る〉【活】をうーりたん、をうーりらん、をうーりてい 【例】みーぬ いらー くび をうーりり。(実れば首を垂れる稲穂かな)。

をうーいん 〈揺り動かす〉【活】をうーたん、をうーらん、をうーてい 【例】んかしえー っくわむやーや っくわ をうーていどう しかすたしが、なまー あかんぐわぬ ちぶる あ

んすか をうーてー ならんでい いらっとーん。(昔は子守りは子を揺れ動かしてなだめたが、今は赤ん坊の頭をそんなに揺れ動かしてはいけないと言われている)。**【参】** っういーちゅん (地震で揺れ動く)。

をうーい わっくわすん <揺すぶってばらばらにする> **【活】** ~わっくわちゃん、~わっくわさん、~わっくわち **【例】** とーふ をうーい わっくわちえー ならん どー。ちーちきてい よーんなー むっちくー よー。(豆腐を揺すぶってばらばらにしてはいけないよ。気をつけてゆっくり持って来なさいよ)。

をうーじ <砂糖きび> **【例】** をうーじぬ する にやーに ちゅくてーる くるじゃーたーさーに いるかじぬ まーさぐわーしぬ なまー みーくに っんぢとーん。(砂糖きびの汁を煮詰めて作ってある黒砂糖でいろいろなおいしいお菓子が今は出てきている)。

をうーじーん <応じる、承諾する> **【活】** をうーじたん、をうーじらん、をうーじてい **【例】** あれー んーばする くとー わからん、ちゅぬ いーしえー いちん 「うー、うー」 っし をうーじてい、あとー うっちゃんぎやーに ふいんぎまーい すん。(あの人は断ることは知らない、人が言うのはいつも「はい、はい」と応じて、終いには投げだして逃げ回っている)。

をうがむん <拝む> **【活】** をうがだん、をうがまん、をうがでい **【例】** だきだきみやみや をうがでい うにげーさくとうどう なしむぬ っくわに みぐまりやびたる。(あちらこちらの御嶽やお宮を拜んでお願いしたから子宝に恵まれたんでしょう)。「ちゅー をうがまびら!!」 や やーぬ ふかをうていぬ えーさち やたんでい いーしが、なまー やーぬ なかをうていん ちかいる っちゅぬちやーん うふく などーん。「こんにちは!!」は屋外での挨拶だったというが、現在は屋内でも使う人たちが多くなっている)。うんじゅが かなさ そー

る ちぶやぬ やちむん ちゅけーん やていん をうがまち うたびみそーり。(あなた様がとても大事にしている壺屋の陶器を拝見させていただきます)。なげーさ をうがまん、うがんじゅー あみしえーていー?(お久しぶりですが、お元気でいらっしやいましたか)。うなーや をうがだる うびぬ あいびーん。(お名前は聞いた覚えがあります)。けんちじぬめーとう っういーちえー をうがますくとう しわーし みそーんな。(県知事とお会いさせますからご心配はなさらないで)。

をうがりーん <飢える> **【活】** をうがりたん、をうがりらん、をうがりてい **【例】** なまぬ ゆー やていん かみむぬん ねーらん をうがりじに する わらびんちやーん まんどーんでい。(現在の世でも食べるものもなく飢死する子どもたちがたくさんいるって)。あれー じぬんかい をうがりてい、むぬんかいん をうがりてい、あとーあとー ちゃー ないがすら?(あの人はお金に飢え、物にも飢えて、終いにはいったいどうなることか)。

をうさまいん <収まる> **【活】** をうさまたん、をうさまらん、をうさまてい **【例】** ふいぬ ちゃーりてい くわじん をうさまとーしえー。(火も消えて火事もおさまっているじゃないか)。うふかじん ふいんぎてい をうさまとーん やー。(台風も行ってしまっておさまっているね)。たんかーぬ みーとうんだおーえーん しじか なてい をうさまとーさやー。(向かいの夫婦喧嘩も静かになっておさまっているね)。

をうさみーん <収める、しつける> **【活】** をうさみたん、をうさみらん、をうさみてい **【例】** あまぬ うやー っくわぬちやー ゆー をうさみとーん やー。(あそこの親は子どもたちをよくしつけているね)。

をうじゃさー <叔父> **【活】** をうんちゅー <叔父> **【例】** いったー をうじゃさーや ま

一んかい くらちよーみしえーが？(あなたの叔父さんはどこに住んでいらっしゃいますか)。をうんちゅーや いくたい をうが？(叔父さんは何名いるか)。

をうたいん 〈疲れる〉【活】をうたたん、をうたらん、をうたてい 【例】かぎぬん わからん、まるはんちち なーぬ ほーちかち さーに いっぺー をうたたん。(加減することなく、半日も庭の掃除をしてとても疲れた)。たびから けーていちゃしが、をうたとーたくとう ふえーく にんたん。(旅行から帰って来たが、疲れていたのて早く寝た)。

をうっていー 〈おととい〉 【例】をうっていーや をうどういぬ ちーく そーたん どー。(おとといは踊りの練習をしていたよ)。

をうとう 〈夫〉 【例】ういなぐんかえー をうとう むちゅんてい いーしが、ういきが んかえー どうじ どうめーいんてい いーん。(女性には夫を支える [=結婚する] というのが、男性には妻を見つけるという)。をうとう ゆし どうじ ゆし。(夫と妻は助け合い、譲り合う)。

をうどういん 〈踊る〉【活】をうどうたん、をうどうらん、をうどうてい 【例】をうどういぬ んすとう ありが をうどういぬ ゆーうちやてい いっぺー みーむん やたん。(踊りの衣装とあの人の踊りがよく合ってとても見応えがあった)。

をうどうい 〈踊り〉 【例】をうどういんかえー にーしえーをうどうい、わかしゅーをうどうい、ういなぐをうどういぬ あしが、をうどうえー むとうむとう ういきがぬ する むん やたん。(踊りには、青年踊り、若衆踊り、女踊りがあるが、踊りは元来男性がするものであった)。

をうどうい さー 〈舞踊家〉【活】しばい しー／しばい さー 〈役者〉 【例】をうどうい

さーとー ちがてい、うちなーぬ しばいしー／しばいさーや うた、をうどうい、しばいぬ みーち なりわどう やる。(舞踊家とは違って、沖縄の役者は歌、踊り、芝居の3つができないといけない)。

をうどうい にんじゅ 〈舞踊団、劇団〉 【例】ちかぐるー わらびんちやーぬ をうどういにんじゅぬ をうどういする ひよーしぬ うふまていちよーん。(最近では児童舞踊団が踊りをする機会が多くなって来ている)。

をうない 〈姉妹〉 【例】をうなえー ういきがぬ まむいがみ などーるぐとう、をうないとう ういきが ならびーる ばすねー、「をうない ういきが」んでー いーしが、「ういきが をうない」んでー いらん。(姉妹は兄弟の守り神になっているように、姉妹と兄弟を並べる際には、「姉妹 兄弟」とは言うが、「兄弟 姉妹」とは言わない)。

をうない げーい 〈兄弟の二人で姉妹の二人を妻にすること〉 【例】をうないげーい んでいしえー、ういきがちよーでーさーに をうないぬ しーじゃ、えーねー うっとう どうじ する くとう やん。(‘をうないげーい’というのは兄弟の二人で姉妹のいずれかを妻にすることである)。

をうばまー 〈伯母〉 【例】いったー をうばまーや がんぢゅー そーみ？(あなたの伯母さんは元気か)。

をうん 〈恩〉 【例】をうんぬ ある っちゅぬ をうんぢ わしーねー、やみぬ ゆー やん。(恩のある人の恩義を忘れたのなら、世は闇)。

をうん 〈居る〉【活】をうたん、をうらん、をうてい 【例】はぶぬ をういが すら わからん くとう、ゆー くくりり よー。(ハブがいるかどうか分からないので、よく注意しなさいよ)。

を

を一じ 〈王子〉 【例】うしゅがなしーめーぬ
ういきぐわんぐわ、さちうすがなしーめーぬ
ういきぐわんぐわんかい を一じんでい い

一ん。あんしから、うしゅがなしーめーんかい
ちぢゆる くれーんかいん を一じんでい
い一ん。(王様の息子、先王の息子に王子とい
う。それから、王に次ぐ位にも王子という)。

っわ

っわー 〈豚〉 【例】しまっんまりぬ あぐー
んでいーる っわーぬどう まーさんでい い
らっとーん。(原産のアグーという豚がおいしい
と言われている)。っわーじしえー うちな
ーをうてー をういみしちびぬ かみむん ち
ゆくいる ばすねー かななじ ちかいる む
ん やん。(豚肉は沖縄では年間行事の料理を
作る際には必ず使うものだ)。

っわー〜〈上〉

っわーび がー 〈表面の皮〉 【例】りんご
ぬ っわーびがー んち じょーじえー はじ
みから なー ないるまでい ちらさんぐとう
んちゅん。(リンゴの皮剥き上手は始めから
終わりまで切らさないで剥く)。

っわー しば 〈上唇〉 【例】っわーしばぬ
ふいっさる っちゅん をうれー、ぶったら
ー そーしん をうん。(上唇が薄いひともい
れば、厚ぼったいのもいる)。

っわー ぢ 〈外出着〉 【例】ふかから け
ーいねー、っわーぢ はぢてい ちのー け
ーりわどう ゆくらりーる。(外から帰ると、外出
着を脱いで着替えてからがくつろげる)。【参】
ふかからちやー。

っわー ぢらー 〈うわべだけの面構え〉
【例】くちしえー ちゅらむにー そーしが、ち
もー あねー あらん、っわーぢらーどう や
る。(口では飾った言葉を使っているが、心はそ
うではなく、うわべだけの面構えだ)。

っわー ふうじ 〈口ひげ〉 【例】しんにん
ぬ ぐとう っわーふうじん、しちやふうじん
みーらちよーしが、ていーいりすしえー あ

んましこー ねーん がやー?(仙人のように
口ひげもあごひげも生やしているが、手入れを
するのは面倒ではないのかねえ)。

っわーぎーん 〈追う、追いはらう〉【活】っ
わーぎたん、っわーぎらん、っわーぎてい 【例】
あれー いちん やながんまりっし あんまー
んかい っわーぎらっとーたん。(あの人はい
つもいたずらをしてお母さんに追われていた)。
いちん なんどうちん ねーん っちゅぬ や
ーんかい ふえーりんちちゅーくとう、ありが
ちーねー っわーぎり よー。(いつ何時でも
人の家に入り込んでくるので、あの人が来たた
ら追い払いなさいよ)。

っわーすん 〈成長させる、増やす〉【活】っ
わーちゃん、っわーさん、っわーち 【参】ふど
うっわーすん。

っわーち 〈おしゃれ〉 【例】ういきが や
ていん、ちゃっさ どうし っんぢん、っわー
ち すし やん。(男性でも、いくら年をとって
も、おしゃれするものだ)。

っわーちち 〈天候〉 【例】ちきゅーぬ い
ふいぐわーなー たった あちく なてい ち
よーくとう、ちかぐろー っわーちちぬ いふ
なー なていちよーん。(地球が少しずつだん
だん暖まってくるので、近頃は天候がおかしく
なってきた)。

っわーちみしえーん 〈お元気でいらっし
やる〉【活】っわーちみそーちゃん、っわーちみ
そーらん、っわーちみそーち 【例】「うんじよ

ー っわーちみしえーみ?」「っやーん あっち
 ゅていー?」「(貴方はお元気でいらっしやいま
 すか)」「お前も元気だったか)。

っわーない 〈やきもち、嫉妬〉【例】ちょ
 ーでーどうーさーぬ っわーなえー まーんか
 い やていん あしが、どうくから やいねー
 ましえー あらん。(兄弟姉妹同士のやきも
 ちは何処の家でもあるが、度が過ぎるのはよく
 ない)。

っわーば 〈余計〉【例】っわーば ぐと
 ー／っわーばー (余計なことをする人)。っ
 わーばー さん けー。(余計なことはするな)。
っわーば ぐと 〈余計なこと〉【例】い
 ーる くとー めーくと ー やしが、っわーば
 ぐと ー ゆまーに しめーねー ゆーちらー
 ねーん ないん。(言っていることは好い事
 なのだが、余計なことをしゃべって終いには何
 のかいもなくなる)。えーていぬ たみ うむ
 てい っしとうらちよーしえー わかえー す
 しが、っわーばぐと ー さりーねー やっけー
 やん。(相手のために思ってしてくれている
 のは分かりはするが、余計なことをされると迷
 惑だ)。

っわーば じん 〈無駄なお金〉【例】ぬー
 んくいーん でーぬぐとどう ー あくと、っ
 わーばじん してい すな よー。でーあがや
 ーから こーていくーわ。(何でも値段通りだ
 から、無駄に金を捨てるようなことをするなよ。
 値段の高いのから買っておいで)。

っわーば しわ 〈余計な心配、とりこし苦
 勞〉【例】くれー わったー ちねーぬくと
 うどう やくと、っやーまでい しわ しー
 ねー っわーばしわどう ー ないん どー。(こ

れは自分たち家族のことなので、あなたまで心
 配したらとりこし苦勞になるよ)。【参】「っわ
 ーば うみー」とも言う。

っわーば ぢけー 〈無駄使い〉【例】ちか
 いる むんどう こーいる、ぬーやーくいーや
 ー ふさくとうんち こーいねー、っわーばぢ
 けー ないん どー。(使う物こそ買うのであ
 って、何でもかんでも欲しいからといって買う
 と、無駄使いになるよ)。

っわーば ぢむ 〈余計な考え〉【例】りん
 ち すしえー、どうーなーが ー じしんぬ ねー
 んくとう、うぬ よーに っわーばぢむ むち
 ゅん。(ねたむのは、自分が自信がないので、そ
 のような余計な考えをもつ)。

っわーび 〈表面〉

っわーび ぢゅらー 〈外見をつくろう者〉
 【例】「っわーびぢゅらーが ー うちくんじよー」
 ん あくと、かーぎんかい まんぶりー し
 ーねー、あとー でーじ ないん どー。(「外
 見は美しくても内心は根性悪」ということもあ
 るので、容姿にぞっこん惚れ込んだら、終い
 には困ったことになるよ)。

っわーび なんどうるー 〈表面はつつ
 づつしているもの〉【例】んなぢえー っわー
 びなんどうるー やてい、とういんちかみん
 ならん。(ウナギは表面がぬるぬるしていて、と
 っつかめない)。

っわーりーん 〈追われる〉【活】っわーりた
 ん、っわーりらん、っわーりてい【例】なまー
 しくちんかい っわーとーてい どうく
 いちゅなさぬ。(今は仕事に追われてあまりに
 も忙しい)。

っうい

っういー 〈上〉

っういー むてい 〈川上〉 【例】かーらぬ
っういーむていから うすまさ まぎむむぬ
ゆったいくわったい ながりてい ちゅーた
ん。(川上からすごく大きな桃がゆらりゆらり
と流れてきた)。かーらぬ っういーむていぬ
みじえー しんちりてい ふいじゅってーん
っし まーさん。(川上の水は澄んで冷たくて
おいしい)。

っういーちえー をうがむん 〈お会

いする〉【活】～をうがだん、～をうがまん、～を
うがでい 【例】しまくとうば ふいるみーる
はなし するたみに けんちじんかい っう
いーちえーをうがむん。(県知事にしまくとう
ばを普及する話をするためにお会いする)。

っういーちゅん 〈揺れ動く〉 【例】ぢー

ぬ っういーちよーしが、まぎねーどう やが
やー?(地面が揺れているが、大きな地震なの
かねえ)。

っういーぢゅん 〈泳ぐ〉【活】っういーぢや

ん、っういーがん、っういーぢ 【例】やまとう
ぬ わかむんぬ っういーぢやーんかえー し
けーをうていん いーびんかい いーるあたい
ぬ むんぬ をうん どー。(日本本土の若者
の水泳選手には世界でもトップの者がいるよ)。

っういーちよー 〈ウイキョー〉 【例】っ

ういーちよーや くすいむんとうっし なまー
ゆー ちかーっとーん。(ウイキョーは薬草
として現在はよく使われている)。

っういー ぬぢゅん 〈追い抜く〉【活】～

ぬぢゃん、～ぬがん、～ぬぢ 【例】どうーぬ め
ーんかい などーる っちゅ みっちやい っ
ういーぬぢ いちばん なたん。(自分の前に
なっている人を三人追い抜いて一番になった)。

っういー ほーいん 〈追い払う〉【活】～

ほーたん、～ほーてい、～ほーてい 【例】むぬ
うやー っういーほーいしえー ちゃー しえ
ー まし がやー?(物売りを追い払うにはい
ったいどうすればいいのかねえ)。

っういー まーすん 〈追い回す〉【活】～

まーちゃん、～まーさん、～まーち 【例】わん
が にぢりんかい っんぢん、ふいぢやいんか
い っんぢん、うーやーからからっし あんす
か なー っちゅ っういーまーすな けー。
(私が右に行っても左に行っても人を追っかけ
て来て、そんなにもう人を追い回すな)。

っういーゆん 〈老いる〉【活】っういーた

ん、っういーらん、っういーてい 【例】くぬ
やーしえーや っういーとーくとう まきてい
くみそーれー。(この野菜は成長し過ぎてい
るので安くしてください)。

ふどう っういーゆん 〈成長する〉【活】～

っういーたん、～っういーらん、～っういーてい
【例】いったー とういぐわーや ふどうっ
ういーとーん やー。(あなたのうちの雛は大き
くなっているね)。

っういっちゅ 〈お年寄り〉 【例】っういっ

ちゅ あたらさ さわどう ながぬち んーぢ
ゆる くとうぬ ないる。(お年寄りを大切に

してこそ長生きしてもらうことができる)。【参】
ういっちゆ (酔っぱらい)。

っういーゆん <植える>【活】っういーた
ん、っういーらん、っういーてい 【例】ないむ
んぬ きー っういーてい みーぬ ないし
まちかんでいー そーん。(果物の木を植えて

実がなるのを楽しみに待っている)。

っういー やんぢゆん <成長し過ぎて悪く
なる>【活】～やんたん、～やんだん、～やんてい
【例】っちゆん、いちむしん、ないむぬん っう
いーやんていちゆーしえー しかたー ねーら
ん。(人も動物も果物も成長し過ぎると悪くな
ってくるのは仕方がないことだ)。

っうえ

っうえーか 〈親戚〉 【例】かーま っうえーかどう やる め？(遠い親戚なのか)。いふいぐわーぬ っうえーかどう やる め？(ちょっとした親戚なのか)。ちかさる っうえーかどう やる め？(近い親戚なのか)。まぎっうえーかどう やる め？(大きな屋敷の親戚なのか)。

っうえーか はろーじ 〈親類縁者〉 【例】あつたーや わつたーとう っうえーかはろーじ などーん。(あの家の人たちは私たちの親類縁者になっている)。

っうえーか びれー 〈親戚付き合い〉 【例】なまから あとー なーふいん っうえーかびれー さ やー。(これからはもっと親戚付き合いをしようね)。

っうえーき 〈富裕〉 【例】くみ あちねーさーに っうえーき すん。(米屋の商売で裕福になる)。っうえーきふいんすーや ふいらぬ うりぬぶい。(貧乏金持ちは坂の上り下りのようにいつもそうだとは限らない)。

っうえーきー／っうえーき んちゅ 〈金持ち〉 【例】あつたーや うすまさ っうえーきー どー。(あのうちはすごい金持ちだよ)。

っうえーく 〈權〉 【例】っうえーくさーにくーぢゆる ふにん なまー いきらく などーん。(權で漕ぐ舟も今は少なくなっている)。

っうえーだ 〈合間〉 【例】はなしぬ っうえーだなかい うきふいんとーぬ じかぬん いてい うむっさ しみーん。(話の合間に質問に答える時間も入れておもしろくさせる)。

っうえーま 〈間〉 【例】くぬ まちやーあさぬ じゅーじから ゆさんでいぬ ごじまでいぬ っうえーまー あちよーん。(この店は朝の10時から夕方5時までの間は開いている)。いちにんぬ っうえーまなかい いくけーんぬ やしみぬ あが？(一年の間に何回の休みがあるのか)。

っうえんちゅ 〈ネズミ〉 【例】なまぬ まやーや っちゅなり そーくとうが やら、かみむぬん まんどーくとうが やら、っうえんちよー とうらん などーん。(今の猫は飼っているからなのか、食べ物が多いせいなのか、ネズミを捕らなくなっている)。

っうえんちゅ やーまー 〈ネズミ捕り〉 【例】ちかぐるー っうえんちゅやーまーや んーだらん などーん。(近頃はネズミ捕りは見えなくなっている)。

っうえんみ 〈降参〉 【例】「なー っうえんみ すみ？」「あーあー、なーだ」(「もう降参か？」「いや、まだ」)。

ん

んかし んちゆ 〈昔の人〉【例】んかし
んちゆぬ じんぶの一 んかしばなしとうか
んかしぬ いくとうばんかい うほーく ちま
ーっとーん。(昔の人の知恵が昔話や昔の格言
にたくさん詰まっている)。

んかぢ 〈ムカデ〉【例】ぬーんち んかぢえ
ー うっさきーぬ ふいさぬ ねーんねー な
らん がやー?(どうしてムカデはそんなにた
くさんの足がないといけないのかなあ)。

んけー はな 〈会うなり〉【例】んけーは
なから あっく する むの一 あらんしが、
ふしがらん あたい またさってい、にじらら
ん なてい うすまさ ぬらたん。(会うなり
怒鳴りつけるものではないが、いやというほど
待たされて、がまんできなくなって激怒した)。

んじ 〈刺〉【例】ちゅらばなんかえー んじ
ぬ あん。ちゅらかーぎーんかけー うちくん
じょーぬ あんでい。(きれいな花には刺があ
る。美人には変なプライドがあるって)。

んかいん 〈向かう〉【活】んかたん、んかーん、
んかてい【例】ぬーが やら わからんしが、
ちむぬ んかいる とうくるとう んかーん
とうくるぬ あん。(どうしてかわからないが、
気持ちが向かうところと向かわないところがあ
る)。

んきーん 〈向ける〉【活】んきたん、んきら
ん、んきてい【例】やーぢゆくい する ばす
ねー じょーや ふえーとうか あがりんかい

んきーん。(家造りするときには門は南や東
に向ける)。

んきーん 〈剥ける〉【活】んきたん、んきらん、
んきてい【例】はまをうてい なげー てい
ーだぶーい そーたくとう、かーぬ んきてい
ふいーらちやんっし にんだらんたん。(浜
で長いこと日向ぼっこしたので、皮がむけてひ
りひり痛くて眠れなかった)。はぼー まぎー
ないる かーじ かーぬ んきーん。(ハブ
は大きくなるたびに脱皮する)。

んけーいん 〈迎える〉【活】んけーたん、ん
けーらん、んけーてい【例】ゆすぐにから ち
ゅーる どうし んけーが ひこーじょーんか
い っんぢやん。(外国から来る友を迎えに空
港に行った)。

んじゅ／んーじゅ 〈溝〉【例】なまぬ
んーじゅぐわーや ふたぬ ちちよーくとう
ちゃーきなーや されーるくとー ならん な
たん。(現在の溝は蓋が付いているので、すぐ
にはさらうことはできなくなった)。

んす 〈味噌〉【例】やーうーちー する ば
すねー、まじえー んす、まーすから しむん
かい うちきとーちゆん。(引越すするとき
には、まずは味噌、塩から台所に置いておく)。

んす 〈御衣〉【例】ぢのーんぬ むいぬかー
んかえー とうびんすはにんすぬ ちてーばな
しぬ あん。(宜野湾の杜の涌泉には羽衣伝説
がある)。

んぞ 〈恋人〉 【例】ういきがぬ うむやーぐ
わーんかえー んぞんでい いち、ういなぐぬ
うむとーる っちゅんかえー さとうんでい
いーん。(男性の恋人に「んぞ」言って、女性
が心を寄せている男には「さとう」と言う)。

んだ 〈どれ、こら〉 【例】んだ、みしれー。(ど
れ、見せなさい)。んだ、んーち んーだ。(ど
れ、見てみよう)。んだ、あんしえー かでい
んーだ。(どれ、それでは食べてみようか)。ん
だ、くまんかい ちまーに。(こら、ここに来
い)。

んだすん 〈濡らす〉【活】んだちゃん、んださ
ん、んだち 【例】ぬみむん いーけーらさー
に ゆどーる しゅむち んだち ねーらん。
(飲み物をこぼして読んでいる本を濡らしてし
まった)。

んち くーが 〈剥き卵〉 【例】やまとう
から ちやる あぬ ういなごー いるん ま
っしーらっし はだん んちくーがぬ はだ
そーん。(本土から来たあの女性は色も真っ白
で肌も剥き卵の肌をしている)。

んちや／んーちや 〈土〉 【例】うふあみ
ぬ ふいねー、あかんーちやぬ うみんかい
ながりてい ちゅらうめー ゆぐさってい な
らんさ やー。(大雨が降ると、赤土が海に流れ
て美しい海は汚される、しょうがないね)。やん
ぼるぬ んーちやー ないむぬん ゆーできて
い はなん ゆー さかすん やー。(山原の
土壌は果物がよくでき、花もよく咲かすね)。

んちや 〈なるほど〉 【例】んちや、あん や
さ。(なるほど、そうだ)。

んぢや 〈苦〉 【参】「んぢやさん」(苦い) か
らの派生。

んぢや ゆー 〈凶年〉 【参】あま ゆー(豊
年)。

んぢや われー 〈苦笑い〉 【例】うぬ っ
ちゅぬ めーをうてい ふみたつくわーちやく

とう、んぢやわれー そーたん。(本人の前で褒
めちぎったので、苦笑いしていた)。

んぢや がみ 〈まずそうに食べること〉

【例】んぢやがみ そーしが、まーこーねーんどう
う あみ?(まずそうに食べているが、おいし
くないのか)。

んぢや むん 〈苦い食べ物、飲み物〉 【例】
ゴーヤー、んぢやな、フーチバーや んじやむ
ん やしが、んぢやさくとうどう くすいむん
やる。(ゴーヤー、苦菜、よもぎは苦いものだ
が、苦いからこそ滋養なのだ)。

んぢやり むん 〈根性悪い者〉 【例】あれ
ー したたか んぢやりむん やくとう、どう
しえー さんしえー まし どー。(あの人はか
なりの悪なので、友人にはしない方がいいよ)。

んぢやちゅん 〈磨く〉【活】んぢやちゃん、
んぢやかん、んぢやち 【例】かがんぬ ゆぐり
とーくとう んぢやけー。(鏡が汚れているの
で、磨きなさい)。

んぢやりーん 〈乱れる、散らかる〉【活】ん
じやりたん、んじやりらん、んじやりてい 【例】
うふかじぬ あとー、なーぬ きーぬ ゆだん
をうーりてい、あっちゆる みち はばかて
い、ちやーっし しじみれー しむが わから
ん あたい んぢやりとーたん。(台風一過、庭
の木の枝も折れて、歩く道もふさがって、どの
ようにして片付ければいいのか分からないほど
散らかっていた)。

んちゅ 〈おとし〉 【例】っやー つくわー
んちゅなていぬ なちんちゅなていぬ なち
どうどう いちやたしが、あつたに うふっ
ちゅ などーんねー すさ やー。(あなたの
息子に会ったのはおととしの夏だったが、急に
大人になったようだね) 【参】「んちゅ」(3年)
はその年から数えて3年なので、実際は〈一昨
年〉を意味する。

んちゅん／んーちゅん 〈剥く〉【活】ん
ちゃん、んかん、んち 【例】でーくに／しぶ

い／じゃがいも／くにぶぬ かー んちゅん。
 (だいこん／冬瓜／じゃがいも／みかんの皮を
 むく)。くにぶぬ かー んち うむやーぐわ
 ーんかい かまちゃくとう、ぬー やかにん
 くわっちー ないさんでいる いるぬ みーと
 ーたん。(恋人にミカンの皮を剥いて食べさせ
 たら、何よりの御馳走だと言わんばかりの顔つ
 きをしていた)。

～んちゅん 〈～込む〉【活】～んちゃん、～ん
 かん、～んち 【例】なぎんちゅん (投げ込む)、
 うしんちゅん (押し込む)、ふえーりんちゅん
 (入り込む)、さしんちゅん (差し込む)。ふく
 るんかい いーる うっさっし 100 彘ん
 やくとう、まーみなー なーふいん ちみんけ
 ー。(袋に入るだけ100円なので、もっともや
 しを詰め込みなさい)。うちなーすがいんかえ
 ー ふかから うーび ちかーんぐとう うし
 んちーっし ちーる しーよーぬ あん。(琉
 装には外側から帯を使わないで押し込む着付け
 もある)。

んぢゅん／んーぢゅん 〈見る〉【活】ん
 ーちゃん、んーだん、んーち

んでいーん 〈濡れる〉【活】んでいたん、ん
 でいらん、んでいてい 【例】みち あっちょー
 るばすに あったに あみぬ ふやーに んで
 いたくとう、しぶーとう などーたん。(道を歩
 いているときに急に雨が降って濡れたので、び
 しょぬれになった)。

んでー 〈でも、など〉【例】やーしく なて
 い むぬんでー かでいんーだ。(お腹がすい
 て食べ物でも食べてみるか)。コーヒー、ちゃー
 んでーぬ あしが、じろー まし やが?(コ
 ーヒー、お茶などがあるが、どれがいいか)。

んな 〈皆〉【例】んなっし わたれー、うとう
 るしこーねーらん。(皆で渡れば、恐くはない)。

んな ～〈空っぽな〉

んな うっさ 〈ぬか喜び〉【例】いっとー
 しょー あたたしが、くりんかえー いふえー
 じんぬ かかいんでい わかてい んなうっ
 さ しみらさったん。(一等賞当たったが、これ
 にはお金が少しかかると分かってぬか喜びさせ
 られた)。

んな くち 〈何も食べさせないさま〉【例】
 ちゅーらー ちゅーんどー んでいち くれー
 しむるむんぬ、あつたに ちゃくとう んな
 くち しみてい ちむ やどーん。(来るなら
 来るよと行って来ればいいのに、不意に来たの
 で何も食べさせないで気にしている)。【参】ん
 なくち しみてい=かますしん ねーらんくど
 う (食べさせるのもないので)。

んな ぐるま 〈空車〉【例】こーこーやき
 ゆーぬ ぜんこくたいくわいぬ うふみーむん
 ぬ ばすねー、すーぶぬ うわいるまでい た
 くしーや んなぐるまっし あっかちよーんで
 い。(高校野球の全国大会の大きな対戦の際に
 は、試合の終わるまでタクシーは空車で走らせ
 ているんだって)。

んな たるがき 〈空頼み〉【例】じんむち
 ちゃー うや やていん いちまでいん たるが
 きらりーる むのー あらん、いちかー んな
 たるがき ないくとうん あん。(金持ちの
 親であってもいつまでも頼れるものではない、
 いつかは空頼みになってしまうこともある)。

んな でいー から でいー 〈手ぶら〉
 【例】たびから んなでいーからでいーっし け
 ーいしえー ちむがかいん すしが、どうーぬ
 にーん あくとう、なーぎむん こーてい
 むっちゅーしえー あんまさん。(旅行から
 手ぶらで帰るのは気が引けるが、自分の荷物も
 あるので、お土産を買って持ってくるのは面倒
 だ)。

んな どうー 〈身一つ〉【例】んかしえー
 じんぬ ねーらんたくとう にーびち しん
 んなどうーっし をうとうぬ とうくるんか
 い っんぢやん。(昔はお金がなかったので、結
 婚しても身一つで行った)。

んな なんぢ 〈徒労〉【例】たーからん

うしちきらってい そーる むのー あらん、
 どうーぬ しーぶさ あていどう そーくど
 う、ボランティアんかい んななんぢんでい
 いーしえー あたらん。くれー じんしえー
 こーららん くとうどう やる。(誰から押し
 つけられてしているものではない、自分がした
 くてしているのだから、ボランティアに徒労と
 いうのは適当ではない。これはお金では買えな
 いことなのだ)。

んな まち 〈むなしく待つこと〉 【例】い
 くさ あとー いちちが をうら、しちが を
 うら わからん をうとう んなまち そーる
 とうじぬチャーが まんどーたん。(戦後は
 生きているのか、死んでいるのか分からない夫
 をむなしく待っている妻たちがたくさん居た)。

んな ばい 〈ぼんやり目を見開いているこ
 と〉 【例】あれー ちゃー みーん んなばい
 そーてい まーん んちえーをうらん、どう
 しぬ みーぬ めーから とうーていん わか
 らん、ちちゆぬふいさ くんぴたい、まやーぬ
 じゅー くんぴたい そーん。(あの人はぼ
 んやりしていてどこも見えてはいない、友人が目
 の前を通っても分からない、他人の足を踏んづ
 けたり、猫のしっぽを踏みつけたりしている)。

んな ゐー 〈ただ座っていること〉 【例】
 ふいさ やでい あっからんくとう、んなあー
 そーてい ちちゆぬ とうーいし んーちゃ
 い、くるまぬ とうーいし んーちやいっし
 ゆくとーん。(足が痛くて歩けないので、ただ座
 っていて人が通るのを見たり、車が通るのをみ
 たりして休んでいる)。

んな わた 〈空腹〉 【例】んなわた やれ
 ー ぬー やていん かむん。やーさぬどう
 まーさる。(空腹であれば何でも食べる。お腹が
 すいているから何でもおいしい)。

～んなーら 〈～のそんなに早く〉 【例】ぶ
 かりー ないくとう、あさんなーらから ちち
 ゆぬ やーんかい じん いみーが ちゅーる
 むのー あらん。(縁起が悪いので、朝早くか
 ら人様の家に集金に来るものではない)。あか

ちちんなーらから (夜明けから)、そーぐわち
 んなーらから (正月早々から)。

んに 〈胸〉 【例】むとうびれーとう あちゃ
 ー いちやらりーくとう んに だくみかち
 にんだらんたん。(元カノと明日会えるので胸
 をときめかして眠れなかった)。ちゃっさ た
 ぬまっていん ならんくとー あいどう すく
 とう、くとうわてい けーていちやしが、なま
 なたい んに やどーん。(いくら頼まれて
 もできないことはあるので、断って帰って来た
 が、今になって胸を痛めている)。

んに ぎー 〈胸毛〉 【例】うちなーをうて
 い ういきがぬチャーぬ んにぎーや ふいる
 ましーくどー あらん。(沖縄では男性の胸毛
 は珍しいことではない)。

んに ぐち 〈みぞおち〉 【例】んにぐち ふ
 いじさーに ちかりやーに いーちまでいー
 っし しなーしなー そーたん。(みぞおちを
 肘で突かれて息が止まって死にそうになった)。
 ちかぐろー んにぐち やだい、ながにぬ や
 だい するとうちぬ あしが、やんめー やが
 やー？(最近のみぞおちが痛かったり、背中が
 痛むときもあるが、病気なのかなあ)。

んに じーら 〈心労、心痛〉 【例】っやー
 はなし ちちやーに わんまでい んにじー
 ら いっちょーんねー すさー。(あなたの話
 を聞いて私までも心が締め付けられるようだ)。

～んねー 〈～のよう〉 【例】っやー ちの
 ー ぬーじんねーぬ いるがら やん やー。
 (あなたの着物は虹のような色柄だね)。はぶぬ
 ぐとう そーる なーぬ みちんかい あた
 くとう たましぬぎたん。(ハブのような縄が
 道にあったのでびっくりした)。ありが どう
 ー っんぢゆかしよーや みじぬ ながりーん
 ねーどう やっさ やー。(あの人の体の動か
 し方は実に水が流れるようだね)。

んぱ／んーぱ 〈いや、否〉 【例】くり し
 えー。んぱ！(これをしなさい。いや)り。んぱん
 ぱ そーん。(いやがっている)。「ぬーが っ

やーや ふいじふいんとーぬ ねーんしが、しーぶしこーねーんどう ある む?」「をうーをうー、んぱー あいびらん どー」(「どうしてあなたは返答がないが、したくはないのか」「いいえ、いやではありませんよ」)。

～んぱー 〈～を嫌がるさま〉 【例】ぬーがっやーや いかんぱー／かまんぱー すが／する?(どうしてあなたは行く／食べるのを嫌がるのか)。ぬーんち っやーや こーらんぱー／ちからんぱーどう そーみ?(どうしてあなたは買う／使うのを嫌がっているの)。いちゆんでい いちから、なー ないねー いかんぱー そーん。(行くと言っていたのに、いざとなつて行くのを嫌がっている)。なーぬ ほーちかち しえーんでい いちやしが、んぱーんぱー さがなー そーん。(庭の掃除をしなさいと言ったが、嫌々ながらしている)。

んぱな ぐみ 〈御花米〉 【例】うぐわん

ぬ ばすねー、んぱなぐみとう うじゃきさーに うかみがなしーんかい うとうーし かきーん。(祈願の際には、御花米と御酒で神様に申し立てる)。

んもー こっこい／んもー がっくい 〈ごつつんこ〉 【例】「んもーこっこい」 んでいいーしえー、わらびとう たんかー なたい ふいちえーとう ふいちえー あーする あしび やん。(「んもーこっこい」というのは、子どもと向き合っておでことおでこを合わせる遊びだ)。

んーぢゆん 〈見る〉【活】んーちゃん、んーだん、んーち 【例】っちゆぬ じゃーふえー そーしえー んーだんふーなーや すな けー。(人が困っているのを見ないふりはするな)。ありが くとー んーちやい ちちやいっしゆー しっちょーん。(あの人のことは見たり聞いたりしてよく知っている)。

っん

っんがーっんがー 〈おぎゃーおぎゃー〉

【例】うちなーぬ あかんぐわー っんがーんっ
がーんでい なちゅん。(沖縄の赤ちゃんはッ
ンガーッンガーと泣く)。

っんぢ 〈ほんとか? (確認)〉 【例】っんぢ、あ

ん やみ?(そうなのか)。っんぢ、いったーや
にーびち さんでい なー?(あなた方は結
婚したって、ほんとか)。っんぢ、いったーや
ぼーぢャー なちゅんでい なー?(あなた方
は赤ん坊が産まれたって、ほんとか)。っんぢ、
いったーや まぎゃー ふちゅんでい なー?
(あなた方は大きな家を建てたって、ほんとか)。

っんぢーん 〈出る〉【活】っんぢたん、っん
ぢらん、っんぢてい

っんぢ いり 〈出入り〉 【例】くんぢちえ
ー じんぬ っんぢいりぬ うふさん。(今月
はお金の出入りが多い)。

っんぢてい／っんぢとーてい 〈～のくせ
に／～でありながら〉 【例】わらびぬ っんぢ
てい くさむにーっし っちゅんかい わらー
りーん どー。(子どものくせに偉そうな口を
きいて人に笑われるよ)。ゆちやぬむんぬ っ
んぢとーてい ゆー うんなくとう いらりー
たる。ふいるまさっさ。(いい歳をした者がよく
そんなことを言えたものだ。解せないことだ)。

っんぢ たちゅん 〈出発する〉【活】～たっ
ちゅん、～たたん、～たっち 【例】っんぢたちゅ
る ふいー やしが、うふかじさーに ちゅら
ーさ あしどうみ かかたん。(出発する日だ
が、台風ですっかり足止めをくらった)。

っんぢ たち 〈出発〉 【例】っんぢたちぬ

20ふん めーねー ひこーきんかい ぬい
るくとう などーん。(出発の20分前には搭
乗することになっている)。

っんぢ しこーい 〈出発準備〉 【例】ひこ

ーきぬ っんぢたちぬ 40ふん めーねー
っんぢしこーいぬ はじまいん。(飛行機の出
発の40分前には出発準備が始まる)。

っんぢ すがい 〈外出支度〉 【例】とうじ

えー っんぢすがいぬ ふえーさん。(妻は外
出支度がはやい)。

っんぢり めー／っんぢふあ 〈出費、支

出〉 【例】わったーや いりめーや いきらさ
しが、っんぢりめーや どうく うふさぬ、な
ー ちーちー すさ。(私の家は収入は少ない
が、支出はあまりに多くて、もう動きがとれな
い)。【参】「いり めー／いりふあ」の反義語。

っんぢやい ちやい すん 〈行ったり

来たりする〉【活】～さん、～さん、～っし 【例】
うぬ どうし なれーからー いさぬ やーと
う どうーぬ やーとう っんぢやいちやいび
けーどう そーん。(こんな歳になってからは
病院と家を行ったり来たりばかりしている)。

っんぢやすん 〈出す〉【活】っんぢやちゅん、

っんぢやさん、っんぢやち 【例】じんぬ たら
ーんくとう、っやーさーに たしめーとーてい
っんぢやちよーき よー。(お金が足りないので、
あなたで立て替えて出しておいてね)。す
びゆーうえー (=やーちゅくい うゆうえー)
ぬ うすでー っんぢやちやしが、しむさんで

いち どうらんたん。(新築祝いの祝儀を差し出したが、いいよと言って受け取らなかった)。

っんぢやに／っんぢやな一 〈どもり／どもる者〉 【例】あれ一 っんぢやに すん や一。(あの人のはどもるね)。

っんぢやる 〈去る〉 【例】っんぢやる ぐんぐわちぐにちに はじみてい いちまんぬ ハーリー ミーが っんぢやん。(去る5月5日に初めて糸満ハーリーを見に行った)。

っんぢゆちゆん 〈動く、行動する〉【活】っんぢゆちやん、っんぢゆかん、っんぢゆち 【例】なま一 っちょ一 っんぢゆかん、ちぶるん ちか一ん なてい、きかいぬどう っんぢゆちよ一くとう、ながぬちえ一 しーう一さん ないん ど一。(現代は人は動かない、頭もつかわなくなって、機械が動いているので、長生きはできなくなるよ)。くちから っんぢやしーね一 しぐ っんぢゆちゆん。(有言実行)。わん とうち一や こ一ていから な一 50にん など一しが、なま ちきていん ちゃ一ん さん、っんぢゆちよ一ん。(私の時計は買ってから50年になっているが、今でもどうもしなくて、動いている)。っちょ一 めぬ じんぶん どう やん ど一。ないみ、ならんしえ一 ちやぬ あたい っんぢゆちゆみ、っんぢゆかに、さ一に わかいさ。(人の頭の働きは一緒だよ。できるか、できないのはどの程度積極的に動くのか、動かないのか、で分かるものだよ)。

っんぢゆち 〈行動的〉 【例】っんぢゆちぬ あん。(行動的である)。**【参】**うぐちむち(積極的な人)。

っんなび一 〈砕け米〉 【例】んかしんちよ一 っんむ かだい っんなび一 かだい っしどう ふどうううい一てい ちやる。(昔の人は芋を食べたり砕け米を食べたりして大きくなってきた)。

っんに 〈稲〉 【例】たまぐしくぬ うきん じゅはいんじよ一 うちな一んぢ はじみてい

っんにぬ っうい一らったる とうくま やん。(玉城村の受水走水は沖縄で初めて稲が植えられた場所だ)。

っんば 〈クジラの油脂〉 【例】っんば一 くじらぬ あんだ やしが、そ一ぐわちぬ くわ っち一ぬ てい一ち やん。「っんば」はクジラの油脂だが、正月のごちそうの1つである)。

っんばし 〈クワズイモ〉 【例】っんばしえ一 かまらんしが、くすいむん ないん。ふあ一や しちぐわちぬ う一くい するばすに ちとう ちちむる うちゆくい一とうっし ちかいん。(クワズイモは食べられないが、薬草になる。葉は盆の送りをするときのみやげを包む風呂敷として使う)。

っんび一ん 〈怯える〉【活】っんびたん、っんびらん、っんびてい 【例】まぢりぬ はなびぬ まぎさとう うとうぬ まぎさんかい ぐまわらびが っんび一てい なちよ一たん。(祭りの花火の大きさと音の大きさに幼い子どもが怯えて泣いていた)。

っんぶつくい一ん 〈溺れる〉【活】っんぶつくいたん、っんぶつくいらん、っんぶつくいてい 【例】さけ一 めむしどう やる。さきんかえ一 っんぶつくい一て一 ならん。(酒は飲むものだ。酒には溺れてはならない)。

っんぶすん 〈煮物にする〉【活】っんぶちやん、っんぶさん、っんぶち 【例】ナーベ一ラー や っんぶち どう一じるぐわ一 っんぢやさ一に かめ一。(ヘチマは煮物にして野菜のエキスを出して食べなさい)。

っんぶさ一 〈煮物、野菜炒め〉 【例】「っんぶさ一」や どう一じるぬ っんぢ一る や一しえ一ぬ いっちょ一てい、と一ふとう っわ一じし ぐ一 なち ちゆくいる かみむん やん。「っんぶさ一」は元汁が出る野菜が入っていて、豆腐と豚肉を混ぜて作る食べ物だ。ふ一りんな一っんぶさ一／かんだば一っんぶさ一

／うんちえーっんぶさー しえー。(ほうれんそう／芋の葉／空心菜の炒め物にきなさい)。

っんぶ〜〈重〉【参】っんぶさん(重い)からの派生。

っんぶ し〈重し〉【例】ちきむんぬ っんぶしえー っんぶいしぬ ちかーつとーん。(漬け物の重しは重い石が使われている)。

っんぶ にー〈重荷〉【例】ちちゆぬ いちちゆる みちえー っんぶにー かたみてい あっちゆるぐとう やん。(人生は重荷を担いで行く如し)。

っんぶりーん〈蒸れる〉【活】っんぶりたん、っんぶりらん、っんぶりてい【例】くぬ あちさー っんぶりーるぐとうどう ある。(この暑さは蒸れるような暑さだ)。

っんぶらすん〈蒸らす、暖める〉【活】っんぶらちゃん、っんぶらさん、っんぶらち【例】ぬくいむんぬ っんむ、むち、めーや っんぶらちから かむしが、うりんかい っんぶらしけーさーんでい いーん。しろー あちらちから／たぢらちから かむん。(残り物の芋、餅、飯は蒸らしてから食べるが、それに蒸らしかえしという。おつゆは暖めてからから食べる)。

っんべーいん〈化膿する〉【活】っんべーたん、っんべーらん、っんべーてい【例】とういぬ ししとう ばいのー さくいぬ っんべーいくとう かまんしえー まし。(鶏肉とパイは切り傷が化膿するので、食べない方がいい)。

っんべーいん〈ぬるくする〉【活】っんべーたん、っんべーらん、っんべーてい【例】くぬ ゆーや どうく あちさくとう みじ いてい っんべーり よー。(この湯はあまりに熱いので水を入れてぬるくしなさい)。

っんま〈馬〉【例】っんまー にかしえー くるまがーい やたん。(馬は昔は車代わりだった)。

っんまぬ うやっくわ 〈お馬の親子〉

【例】1. っんまぬ うやっくわ かながなー とうかなとう いちやていん まーじゅーん パッカイ パッカイ あっちゆんどー 2. っんまぬ あんまー ちむぢゆらさる あんまー っんまぐわー とうんけー みーみー パッカイ パッカイ あっちゆんどー (玉那覇朝子訳)。

っんま すーぶ〈競馬〉【例】うちなーをうてー うしおーらしえーや あしが、っんま すーぼー ふえーてー をうらん。(沖縄では闘牛はあるが、競馬は流行っていない)。

っんま むちやー〈馬主〉【例】んかしとー かわてい、っんまむちやーや じんむちやー、っんま ぬやーん すくぶん などーてい なー あぎれー まぎじんぬ いっちちゆーん。(昔とは変わって、馬を持っている者は金持ち、騎手は職業になっていて有名になると大金が入って来る)。

っんま っういー〈馬場〉【例】あやじょーうふみち、さちやま、うふなー、なちじんなかばるぬ っんまっういーや なー うच्चよーたん。(綾門大路、崎山、大名、今帰仁仲原の馬場は有名だった)。

っんま〈午〉【例】っんまぬ ふあーや ふえー やん。(午の方角は真南である)。

っんま〈そこ〉【例】っんまー まー やが?(そこはどこか)【参】っやーや まーぬが?(あなたはどこ出身か)。

っんまり かー〈その辺り〉【参】うりかー(その辺り)、あまりかー／ありかー(あの辺り)、くまりかー／くりかー(この辺り)。

っんまが〈孫〉【例】っんまがー やまとうをうてー みーんかい いていん やまんでい いらつとーしが、うちなーをうていん っんまがなかえー ちゃー ふとうきぢら ないん。(孫は本土では目に入れても痛くないと言われているが、沖縄でも孫にはいつも仏顔になる)。

っんますん 〈熟ます、熟させる〉【活】っん
 まちゃん、っんまさん、っんまち 【例】まんじ
 ゆーういんかえー ないむんとう やーしえー
 ぬ あしが、ないむのー とうていちゃーきや
 か、いふえー うちきとーてい っんまちから
 どう かまりーる。(パパヤには果物と野菜用
 があるが、果物は採ったばかりより、しばらく
 置いて熟させてからの方が食べられる)。

っんまりーん 〈生まれる〉【活】っんまりた
 ん、っんまりらん、っんまりてい 【例】っんま
 りらん っんまり そーん。(不遇の生まれを
 している)。

っんまり じま 〈故里〉 【例】っんまり
 じまぬ くとうば わしーねー くに わしゆ
 ん。っんまりじまぬ くとうばん わからん
 わかむんぬちゃーや ぬーぬ あていが あ
 ら?(故里のことはを忘れると故郷も忘れる。故
 里のことはも知らない若者たちはいったいどう
 いう当てがあるのか)。

っんまり ぢむ 〈生まれつきの心根、天性〉
 【例】うふっちゆ なていん いちまでいん
 むちめーぬ っんまりぢむ みーらん なてー
 ならん。(大人になってもいつまでも独自の
 生まれつきの心根を見失ってはいけない)。

っんまり びー 〈誕生日〉 【例】っやー
 っんまりびーや いち やが?(あなたの誕生
 日はいつか)。

っんまれー 〈生まれ〉 【例】っやー っん
 まれー まー やが?(あなたの生まれはどこ
 か)。

っんみー 〈ねえさん〉 【例】ういなぐしーじ
 や みっちやいぬ なかをうてい しーじゃ
 ないしんでー うふっんみー、っんみー、っん
 みーぐわーんでい などーん。(三人の姉のな
 かで、年上順に大姉、中姉、小姉となっている)。

っんむ 〈芋〉 【例】っんもー はるさーやー
 をうてー かかさらん かみむん やたしが、
 なまー まどうぬむん などーん。(芋は農家
 では主食だったが、現在はおやつになっている)。
 っんむからー っんむにー、っんむくじぶつと

うるー、っんむじゃきぬ ちゆくらりーん。(芋
 からは芋練り、芋くず湯、焼酎が作られる)。

っんむ うふ すー 〈芋大公〉 【例】ぬぐ
 にそーくわんや、1605にんに とーから っん
 むぬ ねー むっちっち、ぢーましんじょーが
 うちなーんかい っんむぢゆくい ふいるみ
 たくとう、やーさ する っちゆぬちゃーぬ
 いきらく なたんでい。やくとう、っんむうふ
 すーんでいーる なーぬ たっちょーん。(野
 国総管は、1605年に中国から芋の苗を持ってき
 て、儀間真常が沖縄に芋の栽培を広めたので、
 ひもじい思いをする人が少なくなったって。そ
 れで、芋大公という俗称が生まれている)。

っんむ くじ 〈芋くず〉 【例】うちなーを
 うてー っんむくじっし っんむくじあんだぎ
 ー、っんむくじぶつとうるー ちゆくてい ゆ
 ー かむん。(沖縄では芋くずで芋くずてんぷ
 ら、芋くず練りを作ってよく食べる)。

っんむ くじ ぶつとうるー 〈芋料理の
 一種〉 【例】っんむくじぶつとうるー ちゆ
 くいる ばすねー、っんむぬくーんかい かち
 ゆー だしじる いってい ちりびらーとう
 かまぶく ぐまぢりっし かちゃーち ふらい
 ばぬんかい あんだ しち ふいらやーちー
 すん。「っんむくじぶつとうるー」を作るとき
 には、澱粉に鰹出し汁を入れてニラとかまぼこ
 を小さく切ってかき混ぜてフライパンに油を敷
 いて平たく焼く)。

っんめー 〈おばあさん(士族)〉 【例】っん
 めーや ていーぬ なーとう いーびんかい
 はじち いっとーてい、からじんかえー じー
 ふあー さち、いちん ちゆらすがい そーた
 ん。(ばあちゃんは手の甲と指に入れ墨をして
 いて、髪にはかんざしを挿して、いつも着飾っ
 ていた)。っんめーや まるけーていなー な
 がからじ さばちやい、ふゆぬ しち ないね
 ー さっくいーん さっこーびん さい すた
 ん。(おばあさんは時々長い髪を梳いたり、冬の
 季節には咳もしゃっくりもしたりした)。
 【参】「はんしー」とも言う。はーめー(平民のおばあ
 さん)。

形容詞編



あ

あちさん 〈熱い、暑い〉 【例】 そーなち
なてい うすまさ あちさん。(本格的な夏に
なるとても暑い)。

あちさん 〈厚い〉 【例】 あちあちーとう
そーし (厚いもの、=あちぶったらー)。

あたらさん 〈大切である〉 【例】 むの一
あたらさっし ちかいねー、いちまでいん ち
かーりーん。(物は大切に使うと、いつまでも
使える)。ちちよー たーんでい いらんぐと
う あたらさ しー よー。(人は分け隔てな
く大切にしなさいよ)。あんぬ あていどう
どうしん などーる はじ やくとう、どうし
えー あたらさっし ふいらていいちゆし や
ん。(縁があってこそ友になっているはずなの
で、友は大事にしてつき合っていくものだ)。

あらさん 〈太い、荒い、粗い〉 【例】 あま
ー ふにぬ あらさる たっくいー やさ や
ー。(あの家は骨が太い家系だね)。うんちえー
ぬ しん あかさーに くーく ちっち いら
ちゃー しーねー かまりーくとう、むぬ か
みーよーぬ あらさん。(空心菜の芯を裂いて
小さく切って炒めれば食べられるので、食に対
する考えが粗雑だ)。

あんまさん 〈気分が悪い、やっかいな、面倒
な〉 【例】 にち っんぢてい あんまさ そー
てい にんとーたん。(熱が出て気分を悪くし
て寝ていた)。わん すばふいらをうてー は
なしち かかとーる っちゆぬ をうたしが、
うちーが さら うふえー あんまさん。(私
の周囲には風邪をひいている人がいたが、うつ
ったのかすこし気分が悪い)。【参】 うちーが
すらんち しわそーん (うつるのかと心配して
いる) ; とうるばとーしが、まーがな あんま
さどう ある め? (ぼんやりしているが、ど
こか悪いの) ; むんどーぐとうぬ あやーに
ひっかかいむっかかいっし あがかん なてい
うむいぬぐとう ならん。あんまさる くと
う などーっさー (面倒な事があってじゃまし
て前に進まなくて思っているようにならない。
やっかいなことになっているよ) ; どうく を
うたとーくとう、むぬ いーしん あんましく
などーん (あまりにも疲れて、ものを言うの
も面倒になっている) ; みーぬめーぬくとう
てーげーしー しーねー、あとー あんましく
ないん どー (当座を簡単にすますと後でや
っかいなことになるよ)。

い

いーだたーさん 〈大げさである〉 【例】

うれー いーだたーさん やー。(それは大げさだね)。

いきらさん 〈少ない〉 【例】 ちかぐろー

しわ する あたい つくわぬ いきらく
などーくとう、つくわなさーんかい かかいる
じぬん むる いちゃんだ ないる くとう
ん かんげーらりーん。(近頃心配するほど子どもが少なくなっているの、妊婦にかかる診察代は全部無料になることも考えられる)。あれー むぬいーぬ いきらさぬ／うふさぬ やー。(あの人は口数が少ない／多いね)。

いちがたなさん 〈行きにくい〉 【例】 ゆ

めー をうとうぬ うやぬ やーんかえー ぬ
ーがやら いちがたなさん。(嫁は夫の親の家にはどういうわけか行きにくい)。

いちぢらさん 〈息苦しい〉 【例】 れいぼ

ーぬ っんぢていから はしるぐちん たかま
どうん まーんくいー みちくみてい いちぢ
らさぬ。(冷房機が出てから出入り口も高窓も密閉して息苦しくてならない)。

いちゃさん 〈惜しい〉 【例】 てーげーむん

びけー こーてい じのー いちゃこー ねー
らに？(価値のない物ばかり買ってお金は惜しくないのか)。【参】 いちゃさ すん。

いちゆなさん 〈忙しい〉 【例】 しくちぬ

たみに やまとうんかい いかんねーならん
なてい、ありくり しじみかち すんでいち

いちゆなさ そーん。(仕事のために本土に行かなくてはならなくなって、あれこれ整理するといつて忙しくしている)。ふいま すし やかー いちゆなさ しえー ましどう やる。ふいっちー やーぐまい しーねー どうーよーいん。(暇するより忙しくするのがいい。一日中家にばかりいると体が弱る)。

いばさん 〈狭い〉 【例】 くぬ ちのー

どうーくる (=どうーっし) あらたくとう う
すまさ いばく なてい じゃーふえー そー
っさー。(この服は自分で洗ったのでだいぶ縮んで困っているよ)。【参】 いばいばーとう、ふえーりんちゆん。

いふーな 〈変わった〉 【例】 っちゆぬ い

ーしえー むる ちかん、いふーな っちゆ
やん やー。(人の言うことはすべて聞かない、変わった人だね)。あれー しまんちゆ などーてい、アメリカーぬ すんねーっし いふーな しーよー すん やー。(あの人は地元なのに、アメリカ人のするような変わった仕方をするね)。

いみがしまさん 〈夢見が悪い〉 【例】 ち

かぐろー いふーな いみびかー んーち い
みがしまさっさー。(近頃は変な夢ばかり見て夢見が悪い)。

いるぢゆらさん 〈(人、花、器が)色が美しい〉 【例】 んかしえー

いるぢゆらーや ち
ゆらかーぎーんでいち はん うさっとーたしが、なまー んーぢゆる みーぬ かわとーて

いぬーぬ ちゅらさんでーいららん。(昔は色白は美人だと決まっていたが、現在は見る目が変わっていて何がきれいとは言えない)。

いるみーやっさん 〈喜怒哀楽が顔に表れやすい〉 【例】あれー まっとーばー やてい、いっぺー いるみーやっさん やー。(あの人は正直者だから、喜怒哀楽がすぐに顔に表れ

やすいね)。

いんちゃさん 〈短い〉 【例】ういきがぬうやぬ ふどう いんちゃー やくとう、っやーん ふどー いんちゃさん やー。(父親の背が低いので、あなたも背は低いね)。からじえー いんちゃく しん うちやとーしえー。(髪は短くしても似合っているさ)。

う

うかーさん 〈危ない〉 【例】 っちゅびけーん あっちゆる みちはたから ぶーるない じてんしゃ はらしーねー うかーさん どー。(歩道を勢いよく自転車を走らせると危ないよ)。うかーさたくとう、うびらじに うふあびーさん。(危なかったので、思わず大声を出した)。ありんかい かむらしーねー、ちゃー ないが すら わからんくとう うかーさん どー。(あの人にまかすと、どうなるのかわからないので危険だよ)。ありんかい じん みしーねー／むたしーねー、うかーさん どー。(あの人の札を見せると／持たせると、危ないよ)。

うじらーさん 〈かわいい〉 【例】 くぬ ぼーじゃーや あんし うじらーさる！(この幼児はなんとかわいいことか)。

うじらーさぎさん 〈きれい、かわいい〉 【例】 アナウンサーや むる うじらーさぎさしが、っちゅんかい んーだっとーんでいーる ちむぬ あくとうどう あん なんとーがやー？(アナウンサーはみんなきれいだが、人に見られているという意識があるのでそうなっているのかねえ)。

うすまさん 〈ものすごい〉 【例】 やーん くるまん むる うーみじんかい ながさって い うぬ ちからー うすまさる むん やっさー。(家も車もみんな洪水に押し流がされてその力はものすごいね)。しまくとうば ふいるみーる たいくわいんかいぬ にんじゅぬすなわいや うすまさたん。(しまくとうばを普及する大会の人数はものすごかった)。あぬっ

ちよー うすまさ ぬーでいー まぎさん やー。(あの人はとても声が大きい)。

うっさぎさん 〈嬉しそうだ〉 【例】 わらびぬ ぬーやかん しちゆる むん にぢやーに うっさぎさ そーん。(子どもが何よりも好きなものを握って嬉しそうにしている)。**【参】** にじやーに (我慢して)。

うっさん 〈嬉しい〉 【例】 っちゅぬ いちちよーしえー うっさ なちかさぬ くいけーしやん。(人が生きているのは悲喜こもごもだ)。

うとうるさん 〈怖い、怖い〉 【例】 うとうるさむんぬ みーぶさむん。(怖いもの見たさ)。

うびちかなさん 〈よく思い出せない〉 【例】 んかしぬ はなし やくとう、ありが なーや ぬーんでい いちよーたが うびちかなさん。(昔の話なので、あの人の名前はなんと覚えていたかよく思い出せない)。

うふさん 〈多い〉 【例】 まちりねー、っういーりきぐとうぬ うふさくとう、あまくまから うほーくぬ っちゅぬちゃーが あちまいん。(祭りには楽しいことが多いので、あちらこちらから多くの人々が集まる)。ぬー やていん うふされー ましんでいーる くとーあらん、むぬんかい ゆいん どー。じん していーぐとう ないしえー こーてーくいーんな。(何でも多ければいいということではない、ものに依るんだよ。お金を捨てることになるようなものは買ってはくれるな)。うふさに かたじきるー、(多数決で決める場合の遊びのル

ール)。うふ どうんもーい (びっくり仰天)、うふ げー (豚の胃)、うふ やーにんじゅ (大家族)、うふ われー (大笑い)、うふ そー (むん) (まぬけ)、うふ むにーさー (ほら吹き)、うふ まーるー (どっしりかまえた人)。
【参】まぎー (大きい物、者) はあるが、「うふー」とは言わないように、後者には一般的に抽象的なニュアンスがともなうので、親族や格式などを表わす際によく遣われる。それで、まぎ っちゅ (大男、大女) / うふ っちゅ (大人)、まぎ みち (大きな道) / うふ みち (大通り)、まぎ いーび (大きな指) / うふ いーび (親指)、まぎ やー (大きな家) / うふ やー (本家) のように対比される。

うふやっさん <おとなしい、やさしい>
【例】うふやっさる っちょー、むぬかんげーぬ

ちゅーさぬ、そーわじー しーねー はていー ないん。(おとなしい人は、物事をよく考えているので、本当に怒ると止められなくなる)。
【参】「っうえんださん」とも言う。

うむっさん <おもしろい> 【例】ちかぐる ぬーがな うむっさる はなしぬ あみ? (近頃何かおもしろい話があるか)。

うるさん <足りない、不充分である> 【例】じんぶんぬ うるさいねー、ぬーぐとうん てーげーしー ないん。(知恵が足りないと、何事も中途半端になる)。

うれーまさん <羨ましい> 【例】っちゅうれーまさ すしやかん どうーん はまてい はたらちゆる むん やん。(人を羨ましく思うよりも自分も努力して働くものだ)。

お

おーさん 〈青い、緑色をしている〉 【例】う
ちなぬ うみん すらん おーさくとう、あ
まくまから すじょー しーが ちゅーる っ

ちゆぬちゃーぬ まんどーん。(沖縄の海も空
も青いので、あちこちから観光に来る人たちが
多い)。

か、が

かしまさん 〈うるさい〉 【例】ういなぐぬ
みっちゃい すりーねー、かしまさんでい。
(女性が三人揃えば、うるさいってよ)。なーふ
あぬ まちえー いち やていん っちよー
まんでい かしまさん。(那覇の市場はいつで
も人は多くて騒々しい)。いったー やーや
うふみちぬ はた なてい、きゅーきゅーしゃ
から パトカー、しょーぼーしゃんでー くる
まぬ うとうぬ かしましこーねーらに？(あ
なたの家は大通りの側で、救急車からパトカー、
消防車など車の音がうるさくないのか)。っち
ゆぬ ゆくいる じぶん なていから きちぬ
なーかをうてい ひこーき いちむどうやー
しみてい かしまさぬ にんだらん。(人が
寝る頃になってから基地の中で飛行機を離着陸
させて、うるさくて眠れない)。

かたさん 〈中身がある、濃い〉 【例】かたぢ
ゃー ぬでい みーぐふあい そーん。(濃い
茶を飲んで目が醒めている)。みーまゆぬ か
たさん。(まゆげが濃い)。んーすぬ かたさん。
(味噌が濃い)。かたしーっちゅ (堅い人、実直
な人)。

～がたー 〈まさに～しようとしている〉 【例】
しにがたー などーん。(まさに死のうとして
いる)。のーいがたー やん どー。(まさに治
ろうとしている)。なちがたー まーとーん/
などーん。(まさに泣こうとしている)。あみぬ
ふいがたー まーとーたしが/やたしが、は
りたん やー。(まさに降ろうとしていたが、晴
れたね)。うぬ やーや ふるく などーてい

ていんじよーぬ うていーがたー なーとー
ん/そーん。(その家は古くなって天井がまさ
に落ちそうになっている/である)。

かぢよーさん 〈風が強い〉 【例】なまど
う パーマやーんかい っんぢっち りっぱん
ぐわー っしちえーるむんぬ、ふかんかい っ
んぢたくとう かぢよーさぬ、わん からじえ
ー あーさむーさ などーさ。(今さっき美容
室に行って来てきれいにしてきたのに、外に出
たら風が強くて、私の髪はぐしゃぐしゃになっ
ているよ)。

がちらーさん 〈食いしん坊そうに見える〉
【例】がちらーさくとう、くちぬ まーいんかい
ふいち ぬばすしえー やみれー。(食いし
ん坊そうに見えるので、口の回りに髭を伸ばす
のはやめなさい)。

かっさん 〈(お産、病気などが) 軽い〉 【例】
うんじゅなーたー ゆめー っくわなしがっさ
いびーん やー。(あなたの家の嫁はお産が軽
いね)。やんめーや かっさくとう、あんすか
しわー さんき よー。(病気は軽いので、そん
なに心配はしないでね)。あれー くちえー
かっさん/くちがるー どー。(あの人は口が
軽いよ)。

がっさん 〈(重量が) 軽い〉 【例】うぬ に
ーや いっぺー がっさん やー。(この荷物
はとても軽いね)。

かなさん 〈愛らしい〉 【例】わー かなし
んぐわ (愛しい我が子)。わったー たいや

かなしーぐわー やさ。(私たち2人は親しい仲だよ)。

かばさん 〈香りがある〉 【例】みじぬ まーさる とうくまからぬ ちゆくいむぢゆくいやくとう、いっぺー かばさん やー。(水がおいしいところからの農作物なので、とても香りがいいねえ)。たー かば やさ やー、ぬーぬ かば やさ やー、んでいーるくとう あていうーする はなぬ ちゅーさる っちゆぬをうんでい どー。(誰の匂いだ、何の香りだということを当てることができる鼻の効く人が居るんだってよ)。あらてい ちゃーきぬ からじえー かばさん。(洗ったばかりの髪は良い匂いだ)。【参】あらてい ちゃーきぬ からじえー ほろほろーっし/するするーっし む

ーあんべー やー (洗ったばかりの髪はほぐれて良い感じだね)。

かまらさん 〈気難しい〉 【例】あれー どうか かまらさくとう ふいれーぐりさん。(あの人はあまりにも気難しくて付き合いにくい)。

かみぐりさん 〈食べにくい〉 【例】いりばーぬ あたらん なてい むのー かみぐりさくとう、はーやーんかい いかんとー ならん。(入れ歯が合わなくなって食べ物は食べにくいので、歯医者に行かないといけない)。なりらん っちゆぬ めーんぢえー ゐんる さーにかみぐりさん。(慣れない人の前では遠慮して食べにくい)。【参】うけーいうみー (遠慮)、うけーいうみー すん (遠慮する、ためらう)。

き、ぎ

～ぎさん／～ぎさー 〈～らしい、～しそ
うだ(外見からの判断)〉 【例】ういきがぎさ
さん(男らしい)、ういなぐぎさん(女らしい)、
しんしーぎさん(先生らしい)、がちぎさん(食
い意地が張っていそう)。ふくふくーとう／く
えーぐえーとうっし っうえーきぎさー やん
やー。(まるまるとしてお金持ちのようだね)。
まーさぎさる マンゴー(おいしそうなマンゴ
ー)、うとうるさぎさん(怖そう)、ちりーぎ
さん／ゆぐらーぎさん／くささぎさん(清潔そ
う／汚そう／臭そう)、あちさぎさー そーん
(暑そうにしている)。ばさーじん やくとう
しださぎさん やー。(芭蕉布なので涼しそう
だね)。くぬ うもーぶとんや いっぺー ぬ
くさぎさん やー。(この羽毛布団は実に暖か
そうだね)。くまぬ そーきすばー まーさぎ
さっさー。(ここのソーキそばはおいしそうだ
ね)。をうらんぎさん(居なそう)、ねーらんぎ
さん(無さそう)、やみぎさー そーん(痛そう
にしている)、のーとーいぎさん(直っていそ
う)。なまにん あみぬ ふいぎさー やっさ

ー。(今にも雨が降りそうだね)。なまにん 笑
いぎさー そーん。(今にも笑いだしそうだ)。
なまにん ふいんぎぎさー そーん。(今にも
逃げそうだ)。なまにん しーぎさー そーん。
(今にもしそうだ)。なまにん ちーぎさー そ
ーん。(今にも来そうだ)。のーとーいぎさー
やたん どー。(なおっていそうだったよ)。あ
ん やいぎさー やたん どー。(そのようだ
ったよ)。はなしち かかいぎさー やくとう
ふえーくなー けーてい ゆくらな。(風邪
をひきそうだから早く帰って休もう)。

きぶさん 〈煙い〉 【例】んかしえー たむ
ん めーすくとう しもー ちゃー きぶさた
ん。(昔は薪を燃やすので台所はいつも煙かっ
た)。めーらんめーい そーくとう ふいーふ
ち ちかてい ふいー うくすんでい すし
が、どうく きぶしぬ きぶさぬ、みーなだん
っんちとーん。(燃えないでくすぶっている
ので火吹きを使って火をおこそうとするが、あ
まりにも煙たくて、涙が出ている)。



く、ぐ

くーさん 〈小さい、幼い〉 【例】くーく あびれー。(小さい声でしゃべって)。あれー あんし ふどー くーさる やー。(あの人はそんなに体は小さいんだね)。くーてーんぐわーや わんにんかいん くいり よー。(少しは私にもくれよ)。うっぴぐわーぬ くとうっし くさみち すくとう、あれー ちもー くーさん やー。(それだけのことで腹立てるので、あの人は心は小さいんだね)。くーさいにからまがいる きーぬどう まがいる。(幼い時から曲がる木ほどよく曲がるもので、幼児期のしつけが大切)。くーさ がなさ。(小さいのはかわいい)。【参】うっぴなー／うふいなーぬ いゆ／っんむ (そんなに多くの魚／イモ) に対して、うっぴぐわー／うふいぐわーぬ いゆ／っんむ (数量の小さい魚／イモ)。

くーすーらーさん 〈小さくてかわいらしい〉 【例】っんまりてい ちゃーきぬ いちむしぬ っくわぐわーや くーすーらーさん。(産まれたばかりの生き物の子は小さくてかわいらしい)。

くささん 〈臭い〉 【例】いゆ じょーぐー やしが、いゆ かじゃー くささぬ、ちゃーん ならん。(魚好きだけど、魚の匂いは臭くて、どうしようもない)。

くしふいじゆるさん 〈背筋が寒くなる〉 【例】ひこーきぬ とうだい、うりたい する ばすねー くとうに くしふいじゆるさん。(飛行機が離陸したり、着陸したりする際には特に背筋がぞくぞくする)。

くしよーさん 〈心細い〉 【例】たいぬ うやぬ をうらん なてい くしよーさぬ、うやぬ っしとうらちやる くとうぬ まぎさー なまどう わかいる。(両親が居なくなって心細くて、親がしてくれてきたことの大きさは今になってわかる)。

くちさん 〈苦しい〉 【例】いーぶさる くとう いららんし やか くちさるくとー ねーらん。(言いたいことを言えないことより苦しいことはない)。うっさー いーぶさー あしが いららん くとう やてい、ちもー ちまてい くちさ そーん。(とても言いたくはあるが言えないことなので、心は張り裂けそうになって苦しんでいる)。てーふいー ながいる うむいぬ くにぬ っういーぬ っちゆぬ ちゃーんかい とうーらんくとう、ちむん ちーぢーとう なてい さっこー／じこー くちさ そーん。(平和を願う思いが国の要人に通らないので、心も消え消えになって深く苦しんでいる)。っちょー ぬーんくいーん くちさ しわどう にんぢん ないさ。(人はあれこれ苦しんでから人間になるんだ)。ひこーきぬ なーかをうてー なげー めち まーにん っんぢらんくとー くちさん。(飛行機の中で長く座ってどこにも出られないのは苦しい)。ゆくぬーでいーんかい むち ちまらしーねー くちさぬ いーちん ならん。(気管に餅を詰まらせると苦しくて息もできない)。

くちさびっさん 〈口の中が寂しい〉 【例】くちさびっさくとう ぬーがな ぬむみ／かむ

み？(口の中が寂しいので、何か飲むか／食べるか)。あみぬ ふいねー まーにん っんぢららんくとう、ぬーが やら くちさびしくないん。ふいらやーちー やていん かまな。(雨が降るとどこにも出られないので、なぜか何かを口にしたいくなる。チヂミでも食べるか)。

くちにーさん 〈食欲がなくておいしくない〉

【例】どうーぬ あんまさる ばすねー むぬかめーやーんでいん うまーらん。くぬくとー 「くちにーさん」でい いーん。(体調不良のときにはものを食べようとも思わない。そのことは「くちにーさん」という)。

くちはごーさん 〈口汚い〉 【例】やなぐち

する っちゅんかい くちはごーさんでいーる くとうば ちかいん。(悪口を言う人に口汚いという言葉遣う)。

くちべーさん 〈早口である〉 【例】あれー

くちべーさくとう／ふえーぐち やくとう、ゆー ちちよーかんねー ちちはんすんどー。(あの人は早口なので、よく聞いていないと聞きもらすよ)。

くちまーさん 〈食欲が出て何でもおいしい〉

【例】どうー っんぢゆかちやる あとー ぬー やていん くちまーさん。(体を動かした後は何でも食欲が出ておいしい)。

くちやかまさん 〈口うるさい〉 【例】ごー

ぐちひやーぐち する っちゅんかい くちやかまさんでい いーん。(不平不満を言う人に口うるさいと言う)。

くちういーごーさん 〈口がえぐい〉

【例】かみぶしこー ねーらん むん っちゅんかい ししみらってい けどしが、くちういーごーさぬ ふしがらんたん。(食べたくない物を人に勧められて食べたが、口がえぐくてたまらなかった)。いよー あんだんかい あぎねー ぬーん あらんしが、につけっし かみー ねー くちういーごーく ないん。(魚は油で

揚げるとなんともないが、煮付けにすると口がえぐくなる)。

くふあさん 〈硬直しているさま〉 【例】く

ぬ いちやー／たこー くふあさん。(このイカは／蛸は硬い)。コーヒー ぬだくとう みーぐふあい そーっさ。(コーヒーを飲んだので目が冴えている／醒めている)。うやっくわ／みーとうんだ／ちよーでー ぐふあさん。(親子／夫婦／兄弟姉妹の仲が悪い)。とうんじーじゅーしーねー ちでーくに、ちぬく、っわーじしんでー くーくぐわー ちっち くふあじゅーしー ちゆくてい、うやふあーふじんかい うさぎーん。ふーちばーん いりーねー まーさん。(冬至雑炊にはニンジン、しいたけ、豚肉を細かく切って、固めの雑炊をつくって先祖に差し上げる。ヨモギも入れたらおいしい)。くふあちぶるー／くふあむん やてい ふいれーぐりさん。(頑固者でつきあいにくい)。くふあぐちやー なてい むぬん いららん、はなんふいららん。(きつい言葉の人なのでももの言えない、くしゃみもできない)。くふあ むにー (きつい言いかた)、くふあ むにー さー (きつい言いかたの人)、くち ぐふあー (ことばのきつい人)。がんじゅーむんぬ くふあどーり。(元気者が突然倒れること)。ふいれーぐふあさん (つき合いにくい、ふいれーやっさん)。ふいれー ぐふあー (付き合いにくい人、ふいれーやしー)。

くまさん 〈つつましい〉 【例】っうえーき

くまさん。(お金持ちほどつつましい)。ふいーじーや くまさ そーてい、うゆうえーんかえー うみちっとう ちかいん。(いつもは節約して、お祝いには思いっきり使う)。

ぐまさん 〈小さい、細かい〉 【例】バスぬ

なーかをうていん ぐまむにー さん っちゅん をうん。(バスの中でも小声で話さない人もいる)。

くらさん 〈暗い〉 【例】むぬぐとー かんげ

ーよーどう やくとう、ちやー まし ないん

ぐとう、めーんかい あがちゆるぐとう さん
ねー、ちらまでい くらく ないん どー。(物
事は考え方しただから、常によくなるように、
前に進むようにしないと、顔まで暗くなるよ)。

～ぐりさん 〈～し難い〉 【例】ふいさぬ
やでい あっちぐりさん。(足が痛くて歩きに
くい)。ぬーでいーぬ やでい ぬみうとうし
ぐりさん。(喉が痛くて飲み落としにくい)。ど
うく あちさぬ、にんぢぐりさん。(あまりに暑

くて寝にくい)。ありが はなしえー わかい
ぐりさん。(あの人の話は解りにくい)。なまー
むる じんがかいびけー すくとう、くらし
ぐりさん。(現在はすべてお金で解決するので、
暮らしにくい)。

くるさん 〈黒い〉 【例】うみあっちゃーや
ていーだぬ しちやをうてい わじゃ そー
くとう、いるぬ くるさん。(漁師は陽のもとで
仕事をしているので、色が黒い)。



こ、ご

こーいうじらーさん 〈買い物上手である〉【例】いりゆーな むんぬ ふすくぬ ねーんぐとう、じん していぐとうん さんぐとう、こーいむん ないる っちゆんかい 「こーいうじらーさん」でいる くとうばん ちかたしが、なまー 「こーいじょーじ」んでい

いちょーん。(必要なものに不足がないように、お金を捨てるようなことをしないように、買い物ができる人に「こーいうじらーさん」という言葉も遣ったが、現在は「こーいじょーじ」と言っている)。【参】うじらーさん(かわいい、賢い)。

さーだかさん 〈神通力がある〉 【例】 さーだか（さる）っんまりぬ っちょー くとうぬ うきーる めーに かんとういる くとうぬ ないん。（神通力のある生まれの人は事が起こる前に感じ取ることができる）。

さーはごーさん 〈うす気味悪い〉 【活】 さー〜〈すこしばかり〉 【例】 うりかーや きーぶりだちゃーっし ぬーがな さーはごーさんやー。（この辺は鳥肌が立って何だか気持ちが悪いね）。あこーくろー そーる ばすに

がらさーぬ なちーねー あんし さーはごーさる やー。（薄暗くなる時に、カラスが鳴いたらなんともうす気味が悪いね）。【参】毛群り立ちちゃー（鳥肌が立つこと）。

さくさん 〈もろい、壊れやすい〉 【例】 んーちゃぬ さくさくとう、うふあみぬ ちぢちーねー やーしーていー むる ながさりーん。（地がもろいので、大雨が続くと家ごとすべて流される）。

し、じ

しーさん 〈酸っぱい〉 【例】シークァーサーや しーさしが、たんかのー いっペー するん うふさぬ あまさん。(シークァーサーは酸っぱいが、タンカンはとてもジューシーで甘い)。

しーびーさん 〈薄ら寒い〉 【例】ちかぐるー しーびーく なてい やー。ちーねー あちさんねーっし、はぢーねー ふいじゆるさんねーっし いふーな むん やさ。(近頃は薄ら寒くなっているね。着ると暑くて、脱ぐと冷えて変な具合だね)。

しかさん 〈臆病である〉 【例】っやーや しかさぬ。いふいぐわーぬ うとうんかいん しかみどう すくとう やー。(あなたは臆病だ。少しの物音にも怖じ気づくからね)。

しからーさん 〈寂しい、わびしい〉 【例】どうし やたる っちゅぬちやーぬ をうらん なてい どうーちゅいぐわー ぬくさって いっペー しからーさん。(友人だった人たちが居なくなって独り残されてとても寂しい)。いったーが やーうーちーっし っんぢやくとう なまー しからーしく などーん どー。(あなたたちが引越してしまったので、今は寂しくなっているよ)。やぐさみむのー あんし しからーさる！(独り者はなんとわびしいことか)。しんぶぬんかい ぬとーる だびぬ しらし んーぢーねー、あぬちるみーぬ うふさんねー すくとう、わんまでい しからーしく ないっさー。(新聞に掲載されている死亡欄

をみると、同年代が多いようなので、私まで侘しくなるよ)。

しじだかさん／しーだかさん 〈神聖な、霊高い〉 【例】うぐわんじゅ、うたきぬ あるとうくろー しじだかさくとう、いーる ばすねー いさーかーいる むのー あらん。(拝所、御嶽があるところは霊高いので、入所の際にははしゃぐものではない)。

しださん 〈涼しい〉 【例】ばさーぢのー／あさぢのー ぬい いっていどう ちーくとう しださん。たっくわらんくとうどう ちーや っさる。(芭蕉着／麻の着物は糊づけして着るので涼しい。くつつかないので着やすい)。いったー やーや ふえーぬ はたんかえー かたか そーる むんぬ ねーんくとう しださん やー。(あなたの家は南側に遮っているものがないので涼しいね)。

したなさん 〈不浄である〉 【例】やしちぬ をうがめー したなむん、したなかじ(＝ふじよーまき) ぬきーるために すん。(屋敷の拝みは不浄のものや不浄の邪気を取り除くためにする)。

しぷさん 〈粘り強い、弾力がある〉 【例】くぬ ししえー しぷさぬ、かみん／かなーしん ならんさ。(この肉は弾力性があって、食べられない／噛めない)。

しぷからさん 〈塩辛い〉 【例】くれー しぷからー やくとう うほーこー かまらん さー。(これは塩辛いので、たくさんは食べ

れないよ)。からすぐわーや しぶからさしが、
とーふとう かってい かみーねー いっペー
まーさん。(塩辛は塩辛い豆腐に添えて食
べるととてもおいしい)。

しぶたいあちさん 〈蒸し暑い〉 【例】か
たぶい そーがやー? しぶたいあちさん や
ー。(片降りしているのかねえ。蒸し暑いね)。
しぶたいあちく などーっさー。あみぬどう
ふいがやー?(蒸し暑くなっているね。雨がふ
るのかねえ)。

しんじちらーさん 〈模範的である〉 【例】
あれー ちらー うとうるさぎさ そーしが、
ちむくくるぬ でいきてい しんじちらーさん
どー。(あの人は顔は恐そうだが、心持ちがで
きていて模範的だよ)。

じんみーやっさん 〈金回りがよい、暮ら
しやすい〉 【例】ちゃー そーみんとう っ
んむびけー かどーしが、わったーんかいん
じんみーやっさる しちん ちゅーが やー?
(いつも素麺と芋ばかり食べているが、私のうち
にも金回りがいい時が来るのかねえ)。

す

すーぢゅーさん 〈塩辛い〉 【例】うぬ か
ていむのー すーぢゅーさぬ かまらん。(こ
のおかずは塩辛くて食べられない)。【参】「し
ぷからさん」とも言う。

すーらーさん 〈かわいらしい、きれい、品

がある〉 【例】すーらーさる ういなぐんぐ
わ そーとーる うとうすえー たー やみし
えーが？(かわいらしい女の子を連れているお
年寄りほどなた様ですか)。すがいちゅらーぬ
ういなごー すーらーしく みーん。(着付
けの美しい女性はきれいに見える)。

そ

そーらーさん 〈しっかりしている〉 【例】
ゆみどうい、むくどういや そーらーさる っ
ちゅから。(嫁取り、婿取りはしっかり者から)。

かにはんでいーらー、そーらーしくどう はん
でいーる。はんぶん はんていーっし なー?
(ぼけるならしっかりぼけるものよ。半ぼけなの
か)。

た、だ

だるさん 〈だるい〉 【例】 っんぶにー む
ちち ていーだるく などーっさー。(重い荷
物を持って手が疲れている)。しゅむち うっ
ちんとうーっし ゆどーたくとう くびだるく

などーん。(本をうつむいて読んでいたので、
首が疲れている)。ちゃー あっち さーに
ふいさだるく などーん。(ずうっと歩いて足
が疲れている)。みーだるさん(眼が疲れてい
る)。だるー＝やなだるーぐわー(役立たず)。

ち、ぢ

ちびがっさん 〈気軽に動く、無節操な〉

【参】ちびっんぶさん（なかなか動こうとしない）、みむちぢゅらさん（節操のある）。

ちびらーさん 〈素晴らしい〉 【例】ちび

らーしく うちなーぐち ちかいる うらんだ一ぬ をうてい くくる うっちゃん。（素晴らしい沖縄語を使う西洋人がいて感動した）。

ちむあささん 〈浅はかである〉 【例】ま

ちがたをうてー っちゅびれ一ぬ あささくとう、ちむまでいん あさく ないさ。（都会では人付き合いが浅いので、心までも浅くなるよ）。

ちむあんまさん 〈心が落ち込んでいる〉

【例】ありがくとう うむいぢゅーさぬ、ちむあんまさそーん。（あの人のことを思い過ぎて、心が落ち込んでいる）。

ちむいちゃさん 〈心苦しく思う〉 【例】

まるふいーじーぬ はなしむぬがたい そーるばすに、えーていぬ ちむ やまचार くとうぬ あとから わかてい、なま ちむいちゃさ そーん。（普段のおしゃべりしているときに、相手の心を傷つけたことが後でわかって、今心苦しく思っている）。

ちむがなさん 〈愛しく思う〉 【例】まー

をうていん、いち やていん、っやー くとー ちむがなさくとう ちむがかい そーん どー。（どこでもいつでも、あなたのことが愛しくて気掛かりだよ）。

ちむぐーさん 〈小心者である〉 【例】あ

りが ちもー はーいぬ みーんちょーん ね

一ん、したたか ちむぐーさん どー。（あの人の心は針の穴ほどもない、とても小心者だよ）。

ちむ ぐまー（小心者）。

ちむぐりさん 〈かわいそうである〉 【例】

ありが くとー ちむぐりさぬ、わんまでい ちむん ちーぢーとう なてい ちむやどーん。（あの人のことはかわいそうで、私までも胸が詰まって心の痛みを感じずにいられない）。

ちらはごーさん 〈面映ゆい〉 【例】うほ

ーくぬ っちゅぬちゃーぬ めーんかい っんぢーんでいーる くとー ன்னんかい んーだりーくとう、ちらはごーさん やー。（多くの人たちの前に出るということは皆から見られることなので、面映ゆいね）。

ちむふいじゅるさん 〈心が冷え冷えする〉 【例】

っちゅにんぢんぬ ちむぐくる むたん っちゅぬ むぬ いーよーや わんまでいん ちむふいじゅるく なたんねー すん。（人の心を持たない人のものの言い方は私までも心が冷えたような気がする）。みーぬ めーをうてい くるまぬじこ んーぢャーに ちむふいじゅるく ないたん。（目の前で車の事故を見て肝を冷やした）。

ちむべーさん 〈機敏である〉 【例】あれ

ー ちむべーさくとう、しくち しみていん ふえーさん。（あの人はきびきびしていて、仕事をさせても早い）。

ちらみっくわさん 〈顔を見るだけで憎らしい〉 【例】

しばいどう やしが、ままうや

ぬ ままっくわ ちらみっくわさっし しちき
ーし んーぢーねー わじわじーすん。(芝居
なのに、継母が継子を憎んでいじめるのを見た
ら腹立たしくなる)。ありが くとー ちちぶ
しくん ねーん、ちらー わらとーていん ち
むうちえー ぬーが かんげーとーら わから

ん。ちらみっくわさどう やる。(あいつのことは聞きたくもない、顔は笑っていても心の中ではいったい何を考えているのか分からない。顔を見るだけで憎たらしい)。【参】ちら みーぶしくん ねーん (顔も見たくない)。

っち

っちゅちむぐりさん 〈人情がある〉

【例】あぬっちょー っちゅちむぐりさっし ゆ

くん あくん ねーん。(あの人は人情があっ
て欲も悪もない)。

てい、でい

ていーあらさん 〈ものの扱い方が荒っぽい〉 【例】 あれー ていーあらさぬ、ぬーやていん からしぶしこーねーらん。(あの人は扱い方が荒っぽくて、何であつても貸したくはない)。

ていーだるさん 〈手がだるい〉 【例】 っんぶにー むっち さーし あきらんでい さくとう、なげー かかてい ていーん ふしがらん あたい だるく などーたしが、にじてい ちゃーがな しむまでい はくだん。(重い物を持って鍵を開けようとしたが、長くかかって手も我慢できないほどだるくなっていたが、我慢してどうにか台所まで運んだ)。

ていーにーさん 〈仕事が遅い〉 【例】 っやーや あんし ていーにーさぬ、はーぎしぎしーっし ならんさ。なー しむさ。わんがすさ。(お前はあまりにも仕事が遅くてがまんできない。もういいよ。僕がするよ)。

ていーはごーさん 〈もどかしくて手出しをせずにはおられない〉 【例】 しくち すしぬ どうんなさいねー、「っやーが すしえー、ていーはごーさぬ。だー、わーが すさ」んでいち ぬらーったん。(仕事をするのが遅いと、「おまえがするのはもどかしくて。どれ、私がする」といって叱られた)。どうく にーさぬ、ていーはごーさく なてい わんが さん。(あまりにも遅くて、手をださずにおられなくなって私がした)。

ていーべーさん 〈手早い〉 【例】 あれー ていーべーさくとう、たぬまー まんどーん。(あの人は手早いので、依頼者はたくさんいる)。っやー ういなぐぐわー みしーねー、あれー ていーべーさくとう けーとうらりーん どー。(あなたの恋人を紹介したら、あの人は手早いのですぐに取られるよ)。ていーべーさぢゅらさ。(手早く仕上がりもきれい)。

とう、どう

とうーさん 〈遠い〉 【例】とうーさる っ
うえーかやか ちかさる ちゆけーとうない。
(遠くにいる親戚よりも近い他人)。

どうーがんぢゆーさん 〈健康である〉
【例】いしぬ ぐとう、かにぬ ぐとう、どうー
がんぢゆーく しみらちくいみそーり よー。
(石のように鉄のように健康な体にして下さい)。

どうーむちぐりさん 〈自活し難しい、自己統制できない〉 【例】とうすい ないねー、
ねんきんびけー やくとう、どうーむちぐりさ
ぬ。(年寄りになったら、年金だけなので、自活
するのがむつかしくて)。さちざちん かんげ
ーらんぐとう、ぬーんくいーん ていー っん
ぢゃさーに あとー じゃーふえー なてい
どうーむちぐりさ そーん。(先々のことも考
えないで、何もかも手を出して、後は始末に終
えなくなって自分を持てあまして)。

どうーむちぢゆらさん 〈りっぱに自活

している〉 【例】やぐさみむのー やしが、あ
んし どうーむちぢゆらさる やー。(独り者
だが、なんとりっぱに自活していることか)。

どうーやふあらさん 〈体が弱い〉 【例】
どうーやふあらーぬ がんじゆーむん。(体が
弱い者の長生き)。がんじゆーむんぬ くふあ
どーり。(元気者の急死)。

どうーっんぶさん 〈体が重い〉 【例】ど
うーっんぶさたくとう、みちあっちゃーあっち
やー そーる っうえーだに どうーがるく
なとーたん。(体が重かったので、散歩している
うちに体が軽くなっていた)。

とうるさん 〈のろい〉 【例】ぬー しみて
いん とうるさぬ、かしーかしー ならん。(何
をさせてものろくて、てきぱきできない)。とう
るさぬ、ぬー しみていん にーさん、なま
ないしん あちゃーまでい かがいん。(のろ
くて、何をさせても遅い、今できることも明日
までかかる)。

ちゅ

ちゅーいべーさん／ちゅーいにーさん 〈発育が早い／遅い〉 【例】くぬ わらべーや ちゅーいべーさん／ちゅーいにーさん。(この子は成長が早い／成長が遅い)。

ちゅーさん 〈強い〉 【例】にんりち／うんち／にーたさ(=うらはごーさ)／やちぬ ちゅーさん。(気力／運氣／妬み／嫉妬が強い)。

ちゅらさん 〈美しい〉 【例】っやーや いち んーちん、まーから んーちん ちゅらさん やー。(あなたはいつ見ても、どこから見てもきれいだね)。っやーや やまとうんちゅぬぐとう はだちゅらさん やー。(あなたは本土の人のように肌がすべすべしているね)。

な

ながさん 〈長い〉 【例】びんだれーんかい
みじ いったい うふいーちっしから ちら
うしんち いーちながーすーぶっし あしだ
ん。(洗面器に水を入れて大きな息をしてから
顔を突っ込んで息の長さの勝負をして遊んだ)。

なだやっさん 〈容易い〉 【例】むちかし
こーねーらん どー。ちゃーん ねーんさ、な
だやっささ。(難しくはない。何でもないよ、簡
単だよ)。なだやしこー がっていのー さん
くとう、ちゃぬ よーに っんぢーねー まし
やが やー?(簡単には承諾しないので、ど
のように出たらいいのかねえ)。

なだよーさん 〈涙もろい〉 【例】とうし
とういねー なだよーく ないん。(歳をと
ると涙もろくなる)。

なちかさん 〈悲しい〉 【例】うちなーぐち
はなする っちゆぬ いきらくなてい いっ
ペー なちかさん。(沖縄語を話す人が少なく
なってとても悲しい)。

なまさん 〈無神経だ〉 【例】あれー なま
さん どー。(あの人は無神経だよ)。

なんどうるさん 〈滑りやすい、いい加減〉
【例】あれー なんどうるさくとう、ありんか
えー たぬまんしえー まし どー。(あの人
はいい加減だから、あの人には頼まない方がい
い)。あみ ふいねー、みちえー やんでいてい
なんどうる みち なたい、あっちゃがな
しんでいとーたん。(雨が降ると、道は壊れて
滑りやすくなるので、歩きながら滑っていた)。

に

に一さん 〈遅い、まずい〉 【例】ありんかいぬー いらちん どうく に一さぬ、やーしこーねーん なてい ふしくん ねーん ないん。(あの人に何を料理させてもあまりにも遅くて、ひもじくなくなり欲しくもなくなる)。はなしち かかとーいねー くちに一さぬ ぬーん かまらん。(風邪を引いている時は食欲がなくて何も食べられない)。ゐぬ しくち しみていん っちゅんかえー に一さふえーさぬ あん。(同じ仕事をさせても人には遅い速いがある)。わんねー ちかぐろー っんぢゅちしん あっちゅしん にく などーさ。(わ

たしは近頃は動くのも歩くのものろくなっているよ)。

に一たさん 〈恨めしい〉 【例】っわーない、りんちえー あとうあとー に一たさ ないん。(嫉妬、ねたみは後々恨めしくなる)。

にんぢぶさん 〈眠たい〉 【例】にんぢぶさしが、んーぢぶさん あん。(眠たいが、見たくもある)。にんぢ たらーんくとう、ちゅーやぬーん さんぐとう、にんだりーる かぢりにんぢぶさん。(寝不足なので、今日は何もしないで、眠れるだけ眠りたい)。

ぬ

ぬくさん 〈暖かい〉 【例】ていーだぬ み
ーや ぬくさくとう、っんまから はなりぶし
こー ねーらん。(陽のあたるところは暖かい
ので、そこから離れたくない)。

ぬるさん 〈ぬるい〉 【例】しろー あちこ
ーこーどう まーさしが、くぬ しろー ぬる
さぬ、まーこーねーん。(おつゆは熱いのがおい
しいのに、このおつゆはぬるくて、おいしくな
い)。

は

はがなさん 〈足りない〉 【例】 ちゃー も
ーきぐわーぬ／くえーむんぬ はがなさん。
(いつも稼ぎが／食べ物が足りなかった)。

はごーさん 〈汚れている、汚い〉 【例】 っ
んまー さーらん けー、はごーさん どー。
(そこは触るな、汚いよ)。くまんかえー ふい
らきらん けー、はごーさん どー。(ここには
座り込まないで、汚れているよ)。ありが アパ
ートー ほーちかちん さんくとう はごーさ
ん。(あの人のアパートは掃除もしないので汚
い)。んかしぬ っわーぬやーや はごーさた
しが、なまー まーん ちりー などーん。(昔
の豚小屋は汚かったが、今はどこも清潔になっ
ている)。はごー むん (心が汚れている者)。

はじかさん 〈恥ずかしい〉 【例】 はじかさ
うみー (恥ずかしがりや)。あれー はじかさ
うみー なてい うちやくぬ めんそーちん
っちゆぬ めーんかえー っんぢてーくーん。
(あれは恥ずかしがりやでお客さんがいらっし
やっても人前には出て来ない)。

はちこーさん 〈くすぐったい、ごわごわし
ている〉 【例】 ふいさわたー はちこーさく
とう、さーらん けー。(あしの裏はくすぐった
いので、触らないで)。わんねー はちこーうみ
ー やくとう、さーらん けー。(私はくすぐつ
たがりやなので、触らないで)。ぼさーぢのー
はちこーさん。(芭蕉着はごわごわする)。

ひ

びなさん 〈(知力、体力が) 弱い〉 【例】 び
な一 (病弱者)。あれ一 びなさくとう、あたい

め一ぬ っちゅぬぐと一 ならん ど一。(あ
の人は虚弱体質なので、普通の人のようにはで
きないよ)。

ふい

ふいーさん 〈寒い〉 【例】ちゅーや ふいーく などーさ やー。(今日は寒くなっているね)。ちゅーや ふいーさっさ やー。(今日は寒いね)。

ふいさだるさん 〈足がだるい〉 【例】ながあっち さーに ふいさだるく などーん。(長歩きして足がだるくなっている)。むい うりたぬぶたい さくとう ふいさぬ だりやん そーん。(山を登ったり降りたりしたので、足がだるくて痛くなっている)。

ふいさはごーさん 〈足下がぞくぞくする〉 【例】たかどうくる をうてい うかーさ わじゃ そーる かーらふちやーぬ っちゅぬちやーや ふいさはごーこーねーんがやー?(高所で危険な仕事をしている瓦職人は足下がぞくぞくしないのかね)。ぐしちぬ ふちやーてい、ハブぬ をういがすら わからんくとう、ふいさはごーく ないん。(ススキが茂って、ハブが居るのかも知れないので、足下がぞくぞくする)。まーんくいーん みーてい ちびらーさー あしが、どうく たかさぬ、しちや ーんちーねー ふいさはごーく ないん。(どこもかも見えて素晴らしいが、あまりに高くて、下を見ると足下がぞくぞくしてくる)。【参】ていーはごーさん、ちらはごーさん。

ふいじゆるさん 〈冷たい、冷えている〉 【例】ちゅーや ふいじゆるさっさー やー。(今日は冷えているね)。ちゅーや ふいじゆるく などーさ やー。(今日は冷えるね)。

ふいっさん 〈薄い〉 【例】っやー ちゃーや ふいっさくとう かたがたーとう いったいらしえー。(あなたの入れるお茶は薄いので、濃めにしてくれ)。うしぬ ししえー ふいっさし やかにん あちあちーとう そーしどう まーさん。(牛肉は薄いよりも厚めにしたのがうまい)。からじぬ/かびぬ ふいっさん。(髪が/紙が薄い)。んーそー ふいっさんねー すん。(味噌は薄い気がする)。きーびすー (髪の毛が薄い者)。ふいしーぐわー (=ふいしふいしーとう そーし) ちーん。(薄着をする)。【参】あちぶったらー (厚着)。「かたさん」、「あちさん」の反意語。

ふいらさん 〈平たい〉 【例】ふいらく (平たく)。【参】ふいらきーん。

ふいりぐささん 〈生臭い〉 【例】あばさーじる にーねー、いっぺー まーさしが、やーぬ ふいりぐさく なたい ふしがらん あたい やん。(アバサー汁を煮ると、とてもおいしいが、家が生臭くなってがまんできないほどだ)。あばさー よー、 あばさー! っやーや いっぺー まーさー あしが、ぬーんち あんし ふいりぐささる やー。(針千本さんよ! お前はんにおいしいのに、どうしてこんなに生臭いのかねえ)。いゆ にちやくとう やーぬ うちえー ふいりぐさく なたい まーんくいーん あきてい かじゃ ふいんがちやん。(魚を煮たので家の中も生臭くなって、何処もかも開けて匂いを逃がした)。

ふいれーぐりさん 〈付き合いにくい〉

【例】 ふいれーぐりー (付き合いにくい者)。あ き合いにくいよ)。
れー ふいれーぐりさん どー。(あの人は付

ふえ

ふえーさん 〈早い〉 【例】 むのー ふえー
がみ さんぐとう ゆー かなーち よーんな
ー かみ よー。(ものは早食いしないでよく
噛んでゆっくり食べなさいよ)。っやーや ぬ

すどうんかい っわーっどーんねーっし ふえ
ーがみっし、よーんなー かめー。(あなたは泥
棒に追われているかのように早食いして、ゆっ
くり食べなさい)。



ま

まーさん 〈おいしい〉 【例】 やーさどぅ
まーさる [=やーさいねー ぬー やていん
まーさん] (お腹がすいていれば何だっておい
しい)。いっぺー／じこー／でーじな／したた
か まーさたん。(とっってもおいしかった)。ち
かぐろー むぬぬ まーさぬ、わた つんぢて
い くえーていちよーくとう、むぬ かみよー
ちー ちきてい ふいならする かんげー
さんとー やー。(近頃は食欲があつて、お腹が
出て太ってきているので、食事に気をつけて減
量することを考えないとね)。

まぎさん 〈大きい〉 【例】 むのー まぎさし
えー めーくとうどう やしが、まぎされー
しむる むのー あらん。(ものは大きいのは
いいことだが、大きければ済むものではない)。

くちぬ まぎさる っちょー さたん なら
ん。(大げさに言う人には話もできない)。まぎ
ぐいー やかん ぐまぐいーぬどう ちちやっ
さる くとうん あん。(大きい声よりも小さ
い声が聞き取りやすいこともある)。

またさん／またしー 〈完全である〉

【例】 あぬ っちょー まちげーねーらん また
しーむん やん どー。(あの方はまちがいな
く信頼のおける人だよ)。

まちなげーさん 〈待つのが長い〉 【例】

まぎいさぬやーや かかとーる っちゆぬちゃ
ーぬ どうく まんでい、どうーぬ なーぬ
ゆばりーるまでい まちなげーさん。(大きな
病院は通院している人があまりにも多くて、自
分の名前が呼ばれるまで待つのが長い)。



み

みーさん 〈新しい〉 【例】くるまー みーさしどう こーたる。(車は新車を買った)。やーや みーやーどう こーたる。(家は新築を買った)。

みーどうーさん 〈久しく逢っていない〉
【例】みーどうーさいびーたしが、がんぢゅーさそーいびーたん なー?(久しく逢っていませんが、お元気でしたか)。

みーふいちゃらさん 〈まばゆい〉 【例】ちゅーぬ つわーちちえー ゐーつわーちちやしが、みーふいちゃらさる あたい やっさー。(今日の天気はいい天気だが、まばゆいばかりだ)。

みーやっさん 〈見るにたえられる〉 【例】ちかぐるんでー いるぬがーっし よーがりていん をうたしが、なまねー くえーていっちいるぐわーん っんぢてい みーやしく などーっさ。(近頃は顔色も青ざめてやせてもいたが、今は体重も増えて来て血色もよくて見られるようになっていよ)。

みっくわさん 〈憎い〉 【例】どうーくるあん いやーに さん っちよー みっくわしく ないん。(自分でそう言ってしない人は憎くなる)。うっさ すんでいち めーどういそーてい ぬーん しえー ねーらん っちよー みっくわしく ないん。(あんなにするといって前金を取っていながら何もしていない人は憎たらしくなる)。

みねーぢゅらさん 〈身ぎれいだ〉 【例】あぬ っちよー ちゃー ちゅらすがいっしみねーぢゅらさん やー。(あの人はいつも着飾って身ぎれいだね)。

みみがしまさん 〈うるさい〉 【例】ばすぬ なかをうてい わかむんぬちゃーが うふあびー さい、たかわらい さいっし みみがしまさたくとう、うんてんしゅんかい あびらっとーたん。(バスの中で若者たちが大声を出したり、高笑いしたりしてうるさいので、運転手に怒られていた)。
【参】「みんちゃさん」とも言う。



む

むちかさん 〈難しい〉 【例】うとうすえー
あさ わらとーていん、ゆさんでい ないね
ー にちぬ っんぢていちゅーる くとうん
あくとう、やーにんじょー とうんじやくぬ
いっペー むちかしく ないん。(お年寄り
は朝笑っていても、夜になると熱が出てくる
こともあるので、家族の介護がとても難しく
なる)。

むちさん 〈粘っこい〉 【例】ちぬんかい ぬ
いぢき すんでい そーしが、ちゅーぬ むの
ー あんすかー むちこーねーん さー。(衣
類に糊付けしようとしているが、今日のは
そんなに粘っこくない)。【参】むち。

むちのーしえーうーさん 〈回復はでき
ない〉 【例】むちのーしえーうーしみそーら
んてーさ やー。(ご愁傷さまでした)。

むぬうみーぎさん 〈思いつめているよう
だ〉 【例】むぬうみーぎさっし みーとーる
はじ やしが、わんねー ぬーん かんげーて
ー をうらん どー。(思いつめているように
みえるかも知れないが、私は何にも考えていな

い)。【参】むぬうみー そーんねー すん (物
思いをしているようだ)。

むぬはちぶさん 〈吐き気がする〉 【例】ち
ぬーぬ ゆろー さき ぬみぢゅーさぬ むぬ
はちぶさん。(昨日の夜は酒を飲み過ぎて吐
き気がする)。あれー むぬはちぶさ そーん
どー。(あの人は吐き気を催しているよ)。【参】
「むぬ はかーはかー すん」とも言う。

むぬふさぎさん 〈もの欲しそうにする〉
【例】あれー っちゅぬ むん ぬーんくいん
うれーまさっし むぬふさぎさっし ふーぢ
えー ねーん やー。(あの人は人のもの何
でも羨ましくてもの欲しそうにしているよう
でみっともないね)。

むぬよーぎさん 〈弱々しい、きゃしゃであ
る〉 【例】あぬ っちょー よーがりかーっ
し むぬよーぎさる っちゅ やしが、はなし
ちん かからん がんぢゅーむんどう やる。
(あの人は痩せ過ぎてきゃしゃな人だが、風邪も
ひかない元気者だ)。

や

やがまさん 〈面倒だ〉 【例】やくぼんかい
っんぢやする むのー ちゅけーんねー と
うーらん、ふいっかかかかかかかかぬ あてい
あまはいくまはい しみらさってい やがま
さん。(役場へ提出するものは一回では通らな
い、あれこれあってあちらへ行ったりこちらへ
行ったりさせられて面倒だ)。

やふあらさん 〈柔らかい、病弱である〉
【例】やふあら むち(柔らかい餅)、やふあら
むん/やふあらー(病弱者)、やふあらがんじ
ゅー(病弱なのに重い病気にもかからなくてそ
れなりに不自由なく暮らしている者)。ちんぬ
くじゅーしー、かんだばーじゅーしーや やふ
あらじゅーしー しーねー まーさん。(里芋
雑炊、芋の葉雑炊は柔らか雑炊にすればおいし
い)。ありが むぬ いーよーや やふあって
ーんぐわー そーくとう、たー やていん ち
ちゅん。(あの人のことば遣いは柔らかいので、
誰だって耳を傾ける)。やふあらむんにどう
ちりんあくたん たっくわーていちゅーんでい
ち あん どー。(病弱な者にこそどんなもの
もくっついてくるんだってよ)。あれー にん

ぢのー いっぺー やふあらさん どー。(あ
の人の人間性はとてもやさしいよ)。**【参】**どう
ーやふあらさん。反意語は「くふあさん」。

やっさん 〈安い〉 【例】でーぬ やっされ
ー しなむぬん わっさくとう、やっさくとう
んでいち こーいる むのー あらん。(値段
が安いと品物も悪いので、安いからといって買
うものではない)。

~やっさん 〈~易い〉 【例】ばきーむのー/
あさぢのー しださぬ、ちーやっさん。(芭蕉着
/麻着は涼しくて着やすい)。なまー くるま
ぬ あてい あっかんでいん しむくとう、じ
かぬん かからん、いっぺー くらしやすく
なとーん。(現代は車があって歩かなくてもよ
いので、時間の短縮にもなって、とても暮らし
やすくなっている)。

やなみっくわさん 〈とても憎たらしい〉
【例】あれー いふーな っちゅ なてい、やな
みっくわさん。(あの人は変な人で、ほんとに憎
たらしい)。

ゆ

ゆたさん 〈良い、善い、よろしい〉 【例】っやーが そーる くどー ゆたさみ？(あなたがしていることは正しいか)。ゆたさ わっさ (善し悪し)。

ゆゆぢゅらさん 〈手足がすらっとしている〉 【例】モデルぬちゆぬちやーや ていーふいさん ながさい、ふどうん まぎさぬ、ゆゆぢゅらさくとう、ぬー ちちん うちやてい ちゅらさん。(モデルの方たちは手足が長くて、体も大きくて、すらりとしているので、何を着ても似合って美しい)。うちなーぢゅらーぬ っちゆぬちやーや ちぶるん ちち、ふどうたきん あてい、ゆゆぢゅらさん あてい、かーぎん まんでい、あー っんまり そーん やー。(沖縄美人の人たちは頭もよくて、身長も高くて、手足もすらっとしていて、顔立ちもよく

て、良い生まれをしているね)。

ゆるさん 〈緩い〉 【例】っやー むのー しーよーぬ なーだ ゆるさん/よーさん。(あなたの物事はやり方がまだ手ぬるい/弱い)。

ゆんがしまさん 〈とても(忌み)うるさい〉 【例】あれー っちゆ ぬらいる やなぐしぬ あてい ゆんがしまさぬ、くーんしえー まし。(あの人は人を叱る悪い癖があつてとてもうるさくて、来ない方がいい)。

ゆんはごーさん 〈とても(忌み)汚い〉 【例】こーえんぬ トイレんでーぬ ゆんはごーさいねー、ちかいる っちゆぬちやーまでいん やなくくち ないん。(公園のトイレなどがとても汚いと、使用する人たちまでも嫌な気持ちになる)。

よ

よーさん 〈弱い〉 【例】 なー いふえー
ちゅーく いれー まし やる むんぬ。いー

よーぬ よーさくとう ちかんさ。(もう少し
強く言えばいいのに。言い方が弱いので聞か
ないさ)。

ら

～らーさん 〈～らしさが出ている〉 【例】あ
ぬ っちょー みみたいん まぎさぬ、ちらん
ふくふくとうっし んーちん っうえーきん
ちゅらーさん やー。(あの方は耳たぶも大き
くて、顔立ちもふくよかで見ただけでもお金持
ちらしいね)。ちわまてい っちゆぬ っうい
ーんかい たちゆる っちゆぬちゃーや まる
ふいーじーぬ っちゆぬちゃーとー ちがてい
ちらん くわんくわんっし あんし っんぶ

らーさみしえーる！(決まって人の上に立つ人
たちは一般の人とは違って顔つきも重々しくな
んと品格が備わっていらっしやることか)。う
いきがらーさる ういきがぬ いきらく など
ーんねー すん。(男らしい男が少なくなっ
ている気がする)。しんしーらーしこーねーん
むぬいーよー やん やー。(先生らしくない
発言だね)。うちなーんちゅらーさん(沖縄の人
らしい)、ういきがらーさん(男らしい)。【参】～
ぎさん。

わ

わたうふさん 〈お腹いっぱい〉 【例】わたうふく なてい なー かみゆーさん どー。
(お腹いっぱいでもう食べられない)。わたうふく なてい うふえー あっかんとーならん。(満腹で少し歩かないといけない)。

わっさん 〈悪い〉 【例】くーさる ばすから うやー ゆたさわっさー ゆー ならーす

し やん。(小さいときから親は善し悪しはよく教えておくべきだ)。ゆたさわっさー ちゆい たれーだれーっし ふいらてい いちゆるむん やん。(善し悪しはお互い補い合いながらつき合っていくものだ)。あれー したたかしむちぬ わっさん どー。(あの人はとても性格が悪いよ)。

うい

ういーごーさん 〈かゆい〉 【例】がに
かまーに あたていが をうら、まーんくいー

ん ういーごーく などーん。(カニを食べて
あたっているのか、どこもかもかゆくなっている)。

をう

をうかさん 〈おかしい〉 【例】 っちゆぬ
をうかさし わらとーる っちゆぬどう をう
かさる。(人のおかしいのを笑っている人こそ
おかしい)。

をうがんどーさん 〈ご無沙汰をしている〉 「みーどーさん」(久しぶりである)の
敬語 【例】 をうがんどーさ そーいびーたし
が、うあちみしえーびていー?(ご無沙汰して
おりましたが、お元気でいらっしゃいますか)。

っうい

っういーらーさん 〈老けて見える〉【例】

あぬ っちよー っういーらーしく みーしが、じちえー みーふあぬ ぐとー どうしえー っんぢえー をうらん。(あの人は老けてみえるが、実は見かけほど歳はとってはいない)。

っういーりきさん 〈おもしろい〉【例】

あぬ っちゆぬ はなしえー いっぺー っういーりきさ あてい たみ ないん。(あの人の話はとてもおもしろくてためになる)。っう

いーりきさっし まっちょーん どー。(楽しみにして待っている)。

っういーりきぎさん 〈おもしろそうである、楽しそうである〉【例】あぬ っちよー

っういーりきさぎさ そーたん どー。(あの人は楽しそうだったよ)。あぬ ゑいがー いっぺー っういりきさぎさっさー。(あの映画はとてもおもしろそうだよ)。

ん

んじょーさん 〈愛しい、(子供が) かわい
い〉 【例】 どうーぬ つくわぬ ぐとう か
なさる っちゅんかい 「んじょーさん」でい
いーん。(自分の子どものように愛しい人に

「んじょーさん」と言う)。ういなぐぬ うやー
どうーぬ なちえーる つくわぬちゃーや
ゐぬぐとう んじょーさん どー。(母親は自
分が産んだ子どもは分け隔てなくかわいいんだ
よ)。【参】 かなさん、うじらーさん。

っん

っんぶらーさん 〈品格がある〉 【例】 っちゆぬ っういーんかい たちゆる っちよー っんぶらーさ ありわどう やる。(人の上に立つ者は品格もないといけない)。【参】「っんぶ(さん)」と「～らーさん」の合成か。

っんぶさん 〈重い〉 【例】 わったーが わらび そーいに かみあちねー そーる っちゆぬちゃーや たーれーんかい ういむん いったい っんぶさぎさーっし あっちよーたん。(私たちが子どものときに頭に乘せて行商

している人たちはるタライに売り物を入れて重そうにして仕事していた)。

っんまりだかさん 〈尊い生まれである〉 【例】 んかしえー っんまりだかさる っちよー っちゆぬ っういーんかい たちゆしえー まちげー ねーらんたしが、なまぬ ゆーや あねー あらん。(昔は尊い生まれの人は立身出世していくのは約束されていたが、現代はそうではない)。

副詞編



あ

あがとー／うがとー 〈あんなに遠く／そんなに遠く〉 【例】っやーや あがとー／うがとーまでい ちゅーる ばー なー？(君はあんなに／そんなに遠くまで来るのか)。あがとー／うがとー までー いかん どー。(あんなに／そんなに遠くまででは行かないよ)。

あからくわーら 〈豪華で派手なさま〉 【例】ありが ちのー ちゃー あからくわーら そーん やー。(あの人の服はいつも派手だね)。をーさまぬ っうえーんそー あからくわーら そーん。(王様のお召し物は豪華絢爛たるものだ)。

あたい 〈くらい(程度)〉 【例】うぬ／あぬ／くぬ あたい なちかさる ばー め？(それ／あれ／これほど悲しいのか)。うぬ／あぬ／くぬ あたい くちさどう ある め？(それ／あれ／これほどつらいのか)。わた くふ あいる か／あたい わらたん。(お腹が痛くなるほど／くらい笑った)。くいーかさー ない か／あたい うた うたたん。(声がかかるほど／くらい声を歌ったよ)。

あちだん 〈なかなか〉 【例】ちゅーやんめー かがてい ありくり ちくちん あちだん ましえー ならん。(重い病気にかかってあれこれ尽くしてもなかなか良くなるらない)。

あつたに 〈急に〉 【例】あつたに(*ちゅーちゃん) っちゅ うどうるかち、たまし ぬぎーさ。(急に人を驚かせて、びっくりするじゃないか、「*ちゅーちゃん」はここでは使えな

い)。くすい ぬだくとう、あつたに まし などーさ。(薬を飲んだので急によくなっている)。あつたあびーっし っちゅ どうまんぐ わち なー？(急に大声を出して人をびっくりさせてねえ)。むぬん あつたがみっし っやーや やーさどう ある め？(急いだ食べ方をしてお前は腹でもすかせているのか)。くぬ わらべー あつたなちっし まーがな やみどーう すがやー？(この子は急に泣き出してどこが痛いのかねえ)。くまんかい ちえー をう たしが、あつたに をうらん などーん。(ここに来てはいたが、急に居なくなっている)。ゆーじゅ うびっんぢやさーに あつたに けーたん。(用事を思い出して急に帰った)。**【参】**ちゅーちゃん(すぐに)。

あるうっさ／あるうっぴ 〈ありったけ〉 【例】あるうっさ むる むっち っんぢ ぬーん ぬくてー をうらん。(ありったけ持って行って何も残ってはいない)。

あるかしか 〈いっさいがっさい〉 【例】くぬめーぬ とーほくぬ しがりなめー ふにん、やーん、くるまん、きーん あるかしか むる むっちはち ねーん。(この前の東北の津波は船も家も車も木もいっさいがっさいすべて持ち去ってしまった)。

ありかー／くりかー 〈あのあたり／このあたり〉 【例】うりかーんかい ちゅーる ばすねー(このあたりに来る際には)。「うりかーんかい ふいがさんでいる っちゅぬ めん しえーびーがやー？」「うりかーをうてー をう

らんさー」(「このあたりに比嘉さんという人がいらっしやいますか」「このあたりにはいないよ」。ありかー あらに?(あのあたりじゃない)。ありかーんかい っんぢ まーに?(あのあたりに行つてごらん)。

あん <そう> 【例】 あんどう やていー?(そうだったの)。いーな あん などーみ?(もうそうになっているか)。

あんすか <そんなに> 【例】 あんすか でーじ やみ?(そんなに大変なの)。あんすかなー なちかさる ばー め?(それなにも悲しいのか)。あんすかー やまん どー。(そんなに痛くないよ)。あんすかー ふいーこーねーん。(そんなには寒くない)。あんすかー あらんさ。(それほどではないよ)。あんすかー まーこーねーらん。(そんなにはおいしくない)。

い

いーばーしーちえー 〈所狭しと〉 【例】
ゐーりむんぬ はくんかい みっちゃかーっし
／いーばーしーちえーっし いっちょーん。(おも
ちやが箱にいっぱい／所狭しと入っている)。
くーこーぬ っんぢぐちぬ みーんかい いー
ばーしーちえーっし ならでい ちじぬ けー
ていちゅーし まっちょーたん。(空港の出口
付近に所狭しと並んで知事が帰って来るのを待
っていた)。

いーなぬふえーなー／いーなー 〈そ
んなに早く／もう〉 【例】いーなぬふえーな
ーや くーんけー。(そんなに早くは来ないで)。
ふえーぶに やくとう、いーなぬふえーなー／
たでーま ちちえーさ やー。(快速船なので、
そんなに早く／もう着いたんだね)。つうえーか
ぬちゃーんかえー いーなー っんぢ ちー？
(親戚の家にはもう行って来たの)。くわいしや
ー しんぐわちにどう いっचारる むんぬ、
いーなー やみたんでいー？(会社は4月に入
社したばかりなのに、もう辞めたんだって)。

いかな 〈いかに〉 【例】いかな／ちゃっさ
ゴーヤーや しかん てーまん、ちちゆぬ や
ーんぢ っんぢやさりーねー、いふい やてい
ん くちえー ちきーっし やんでい。(いかに
ゴーヤーは好きでなくても、人の家を出され
ると少しでも口はつけるものだよ)。

いかなしん 〈どうしても〉 【例】いかな
しん／ちゃーしん うむいぬぐとう ならん。
(どうしても思いのままにならない)。

**いっペー／じこー／したたか／で
ーじな／さっこー** 〈とても、ひどく〉
【例】いっペー／じこー／したたか をうたとー
ん。(とても疲れている)。いっペー／じこー／
したたか ういーとーん。(ひどく酔っている)。
いっペー／じこー／したたか ぬらーったん。
(ひどく怒られた)。いっペー／じこー／したた
か すぐらったん。(ひどく叩かれた)。じこー
／したたか／*いっペー っんでいたん。(ひ
どく濡れた)。いっペー／じこー／したたか
やなかーぎー (ひどい不細工)。いっペー／じ
こー／したたか／でーじな／さっこー よーさ
ん。(とても弱い)。さっこー とうーさっさー。
(とても遠いね)。いっペー／じこー／さっこー
やむん。(とても痛い)。いっペー／じこー／
さっこー いちゆなさん。(とても痛い)。いっ
ペー／じこー／さっこー まーさん。(とても
おいしい)。いっペー／じこー／さっこー う
とうるさん。(とても怖い)。さっこー をうた
てい よー。(とても疲れてねえ)。さっこー
なんぢ やたん。(とても大変だった)。さっこ
ーな すがい そーさー。(みずぼらしい格好
しているよ)。さっこー ふいーさん。(とても
寒い)。さっこー んぢやさたん。(とても苦か
った)。**【参】**あれー さっこー やっさー(あ
いつはひどいよ)。

**いちゃいちゃーとう／っんぢやっ
んぢやーとう** 〈こっぴどく〉 【例】く
ぬ わらべー／うーまくーや／ふりむのー／ふ
らちなむん／ぶらげー、いちゃいちゃーとう／
っんぢやっんぢやーとう いーちきてい なら

ーさわどう やる。(この子は／このわんぱくは／バカは／不埒な者は／役立たずは、手厳しく言って教えないといけない)。【参】あていなしむん (あどけない者、無邪気な者)。

いちゆたー 〈ちょっと、しばらく〉 【例】いちゆたー つんまが んーちよーてい どうらさに?(ちょっと孫をみていてくれないか)。っやーや いちゆたー じん からちくいらんなーんでい いちよーしが、っやー いちゆたーや ちゃぬ あたいぬ いちゆた やが?(あなたはしばらくお金を貸してくれないかと言っ

ているが、あなたのしばらくとはどの位のしばらくなのか)。

いばいばーとう 〈こじんまりと〉 【例】やーぬ どーぐぬ うちよーに ゆてー、くーくぐわー そーる やーん ふいるびるーとう なたい、まぎやーん いばいばーとう なたい すさ。(家具の配置しだいで、狭い家も広々となったり、大きな家も狭く感じたりする)。

いふい 〈少し〉 【例】いふいどう わかいる。(少しはわかる)。

う

うーしえーくるばしえーっし 〈押し合いへし合いして、押しつけ合って〉【例】うーしえーくるばしえーっし すりたる うまんちゆぬ なーかから ちゆいびけーん いらばったん。(押し合いへし合いして集まった人々の中から1人だけ選ばれた)。

うしうしに 〈無理に〉【例】わんねー しーぶしこー ねーらんたしが、じんがみー うしうしに しみらったん。(私はしたくなかったが、会計を無理にさせられた)。

うっさ 〈それだけの量〉【例】ちゅーや さけー うっさどう ない。(今日は酒はそれだけしか飲めない)。

うちゃたいかなたい 〈似合っているさま〉【例】あぬ たえー いっぺー うちゃたいかなたい そーん やー。(あの二人はともにお似合いだね)。

うびらじに 〈思わず〉【例】たんかーぬ っちゆぬ はなしぐいーぬ ちかりてい ちちゆんちえー あらんたしが、くいーぬ まぎさぬ、はなしん うむさたくとう、うびらじに わらたん。(隣の人の話し声が聞こえて聞くともりはなかったが、声が大きくて、話がおもしろかったので、思わず笑ってしまった)。

うふうふーとう 〈たっぷり〉【例】みる さんぐとう、うふうふーとう いったい かめー。(遠慮しないで、たっぷり入れて食べなさい)。いびらーいりー さんぐとう、うふうふ

ーとう いったい かめー。(ケチケチしないで、たっぷり入れて食べなさい)。

うみちっとう 〈強く〉【例】うぬ わかむんぬちやーや ぐてーぬ ねーんどう あがやー? なーふいん うみちっとう どうーぬ めーんかい ゆしれー しむるむんぬ。(あの若者たちは体力がないのか? もっと自分の前に寄せればいいのに)。くぬ わらばー ちゃっさ いちん ちかんくとう、うみちっとう ぬられー/しちきれー/ならーし よー。(この子はいくら言っても聞かないので、強く叱りなさい/躰けなさい/教えなさいよ)。

うみなーく 〈ほっと安堵するさま〉【例】しーかきとーたる むんぬ むる なー なてい うみなーく などーん。(手がけていたものがみんな終わってほっとしている)。

うん 〈そんなに〉【例】うん にんていん なーだ にんぢ たらーんどう ある め?(そんなに寝てもまだ眠り足りないのか)。うんなくんな そーちーねー、じゃーふえーていーふえー そーん どー。(そんなことをしていると、大変なことになるよ)。

うんなげー 〈そんなに長く〉【例】どうーぬ くとう やるむんぬん、うんなげー かんげーていん わからん なー?(自分ことなのに、そんなに長く考えてもわからないの)。うんなげー にんてい ゆろー にんだらんさ。(そんなに寝て夜は眠れないよ)。うんなげー かんげーていん わからに?(そんなに長く考

えてもわからないのか)。うんなげー あみ
ふとーる やー。(こんなにも長く雨が降って
いるね)。うんなげー みーらんたん／くーん

たん やー。(こんなにも久しぶりだった／長
く来なかったね)。

か、が

か 〈ほど、程〉 【例】わたぬ くふあいるかわらたん／かだん。(お腹が痛くなるほど笑った／食べた)。げんの一さーに いーび たっぴらかちやくとう、しぬるか やむたん。(ハンマーで指を叩き付けの、死ぬほど痛かった)。しぬるかぬ あわり しみらさったん。(死ぬほどの難儀をさせられた)。っやーや どうくふいさぬ (=あっちゆしぬ) ふえーさぬ、っちゆぬ うふさる とうくまをうてい みーらんかみーらんか そーたくとう とうめーう一さんたん。(あなたはあまりにも足が速くて、人が多いところで見えなくなったりしていたので探せなかった)。

～**かー** 〈程度のはなはだしいさま〉 【例】しったいかー そーる かさー (=しったい がさー) かさいりやーんかい いっとーちみそーれー。(びしょぬれの傘は傘立てに入れておいて下さい)。くぬ ふるぐるまーや どうしから めーたしが、やんでいかー そーん。(この中古車は友人からもらったのだが、あちこち壊れている)。

かしーかしー 〈さっさと〉 【例】わじやさがなー ゆんたくふいんたくびけー さんぐとう、かしーかしー さんだれー、ちゅーないしん あちゃー ないん どー。(仕事しながらおしゃべりばかりしないで、さっさとしないと、今日できるのも明日になるよ)。かしーかしー しこーれーんでいち あわていらかすくとう、むぬん うまーらん などーさ。(さっさと準備しなさいといってせき立てるので、物

事をちゃんと考えられなくなっている)。【参】「よーんなー」の反義語。

かじてい 〈決まって〉 【例】あぬ っちょーやくすく しーねー、かじてい ちゅーんどー。(あの人は約束したら間違いなく来るよ)。っやーや くちぬ ぐとうっし かじてい っちくいーん やー。(あなたは口にしたようにちゃんと来てくれるね)。

かたがた 〈たまたま〉 【例】わんにん いっペー いちぶさー あたしが、かたがた しくちぬ あてい いからんたん。(私も行きたかったが、たまたま仕事で行けなかった)。

かながなーとう 〈仲むつまじく〉 【例】あったーや みーとうんだぬ ぐとう かながなーとう そーん やー。(あの人たちは夫婦のように仲むつまじくしているね)。たえーちーそー／えーそーぬ あーていどう かながなーとう そーん やー。(二人は気質／相性があるって仲むつまじくしているね)。

がふあがふあ 〈かくしゃくと〉 【例】あまぬ うとうすえー がふあがふあ そーみしえーん。(あちらのお年寄りがかくしゃくとしていらっしやる)。

がさっとう 〈げっそりと〉 【例】あれーがさっとう なてい なまにん とーりぎさそーん。(あいつはげっそりして今にも倒れそうだ)。

かるーがるーとう 〈軽く〉 【例】みしげ一さーに うしちきらんぐとう かるーがるー

とう いったい とうらし よー。(しゃもじで押し付けなくて軽く入れてくださいね)。か
るーがるーとう むっちゃくとう どうーぬ
にーやかー がっさんでい うむてい けーる
ー さくとう わーむん やかん ゆくん っ
んぶむん やたん。(軽々と持ったので自分の
荷物より軽いと思って換えたら私のよりも余計
重いものだった)。

かわてい 〈格別に〉 【例】なちえー かわ
てい ぬーでいーぬ かーきーっさ やー。あ
んすくとう、ぬみむのー はなさらん。(夏は格
別に喉が渇くね。だから、飲み物は離せない)。

かななじ 〈必ず〉 【例】かななじ しー/
くー よー。(必ずしなさいよ/来なさいよ)。

き、ぎ

きつさ <さっき、もう> 【例】うんじゆな一た
一や きつさ めんそーちえーさ やー。わん

やか さち など一みそーてーさ やー。(あ
なた方はもういらっしやっていたんですか。私
より先にみえていらっしやたんですね)。

く、ぐ

くーてーんなー 〈少しずつ〉【例】むぬ
かむるくとう などーる わらびんかえー く
ーてーんなーどう かますん どー。っちゆけ
ーんなかい うほーく かましーねー わたや
んぢゆん どー。(食べ物を食べられるように
なった子どもには少しずつ食べさせるんだよ。
一度でたくさん食べさせるとお腹をこわすよ)。

くじゃ 〈粉々に〉【例】でーだかーぬ ちぶ
やたしが、ぼっぺーてい うとうち くじゃ
なち、かなさるむんぬ ねーん なてい な
まー ちむしからーしく などーん。(高価な
壺だったが、間違っって落として粉々になって、
大切なものを失くして今は悲しい)。

くさきー 〈こんなにたくさん〉【例】いり
みー／っんぢりみーぬ くさきー はやがとー
ん／しぢとーん。(収入/支出がこんなにたくさ
んある)。っういーりきどうくるんかい くさ
きーぬ っちゆぬちゃーや まーから ちゃが

やー?(イベント会場にどこからこんなにたく
さんの人たちは来たのかなあ)。

〜くとう 〈〜ので〉【例】さけー しかんく
とう ぬまん。(酒は好きでないので飲まない)。

くとうかじ 〈ことごとに〉【例】ちゅーる
くとうかじ んなでいーからでいーしえー
くーんくとう、ちゃー すがんでい うむとー
ん。(来ることごとに何かを持ってくるので、ど
うしようかと思っている)。

くりーぐりー 〈狂わんばかりに悩んで〉
【例】わんねー どうーくる かんげーてい さ
な やーんでい うむてー をうたしが、ちゃ
ーん ならん、ちぶろー くりーぐりー しー
がたー まーとーくとう、っやー じんぶぬん
からち とうらさに?(私は自分で考えよう
と思っではいたが、どうしようもない、頭が今
にもおかしくなりそうなので、あなたの知恵も
貸してくれないか)。

け、げ

けーてー 〈かえって、むしろ〉 【例】 けー
てー うれー さんしえー まし やてーん
やー。(かえってそれはしなかったほうがよか

ったんだね)。けーてー うれー さんしどう
やたる。(むしろそれはしてはいけないこと
だった)。けーてー あまぬどう まし やて
ーっさー。(むしろあちらがよかったんだね)。



くわ、ぐわ

くわたくわた 〈ぐつぐつ〉 【例】「うーにー」ぬ くわたくわた たぢてい にーかじゃ そーくとう、でいー かまな。(煮物がぐつぐつ煮えて匂いがしているので、さあ食べようか)。【参】うーにー (お祝いの煮込み料理)。

くわーらくわーら 〈ゴロゴロ〉 【例】かんないぬ くわーらくわーら ないねー、ふすとうらりーくとう、どうまんぐいてい わたくわっくわちゃん。(雷がゴロゴロなるとへそを取られるので、びっくりしてお腹を隠した)。

くわらくわら 〈ギラギラ照りつける様子〉

【例】ていーだぬ くわらくわら そーん。(陽がかんかんと照りつけている)。

くわんくわん 〈威厳で輝いている様子〉

【例】あぬ ぎんこーぬ うふぬーしぬ ちらーくわんくわんっし つんぶらーさん やー。(あの銀行の頭取の顔は威厳で輝いて見えるね)。

ぐわんぐわん 〈(ドラ、鉦、太鼓で)にぎやかな様子〉 【例】ハーリーがにぬ ぐわんぐわん ないねー ちむん うていちかん。(ハーリー鉦がガンガン鳴ると心がはやる)。



くい、ぐい

くいーりくいーり <ぎいぎいときしんで
いるさま> 【例】はーやぬ くいーりくいー

り すしが、なーかんかい むしぬどう いっ
ちよーがやー？(柱がぎいぎいときしんでいる
が、中に虫でも入っているのかねえ)。



くえ、ぐえ

くえーぐえーとう <でっぷり> 【例】あれーぬーぬ まーさむん かどーが すら、しまとうやーぬ ぐとう くえーぐえーとう そーん やー。(いったいどんなおいしい物を食べているのか、あの人はでっぷり太っているね)。

くえんくえん <ゆらゆら> 【例】うちなーぬ なちぬ うめー ていーだぬ あたいねー ふいちゃてい くえんくえんとうっし ちゆらさん。(沖縄の夏の海は陽があたると光がゆらゆらとしてきれいだね)。



さーじゃーとう 〈さっぱりと〉 【例】み
 っちやぬ っうえーだどう やしが、ありんく
 りん うさぎらんとー ならんくとう、しちぐ
 わちん うわれーからー ちむん さーじゃー
 とう ないん。(3日間だけだが、あれもこれも
 お供えしなければならぬので、旧盆が終わる
 と気持ちもさっぱりする)。なちえー あしは
 い みじはい すくとう、ていーさーじっし
 ぬぐいねー いっぺー さーじゃーとう ない
 ん。(夏は汗をかくので、タオルで拭うととても
 さっぱりする)。なま さんねー ならんく
 とうぬ なー うわてい さーじゃーとう なら
 ーん。(今すべきことがもう終わってしまって、
 すっきりしている)。ゆーふる いっちやくと
 とう、さーじゃーとう なたい めー あんべー
 そーっさー。(風呂に入ったので、さっぱりし
 て気持ちがいい)。やなぐち しーぶさる と
 うちねー うみんかい にかてい まぎぐいー
 っし はちっんぢやしーねー ちむさーじゃー
 とう ないんでい。(悪口を言いたいときには
 海に向かって大声で吐き出すと気持ちがすっきり
 するんだって)。

さこー 〈～するくらいなら、ほどには〉 【例】
 あびーる さこー (ごーぐち ひゃーぐち
 する さこー) さん けー。(文句を言うぐら
 いならするな)。くさらち していーる さこ
 ー うほーく なー こーらん けー。(腐ら
 せて捨てるくらいならこんなにたくさんは買
 うな)。おーいる さこー (ちゅーる かーじ
 おーえーむんどー うくする さこー) くま
 んかい くーん けー。(けんかするくらいな

ら(来るたびにけんか事を起こすくらいなら)
 ここには来るな)。さんばー する さこー
 しえーくいーんな けー。(したくないのなら
 しないでくれ)。

～っさ 〈数量の程度(一般的に)〉 【例】うっ
 さなー (そんなに多い)、うっさぐわー (そんな
 に少ない)。くっさなー (こんな多い)、くっさ
 ぐわー (こんなに少ない)。あっさなー (あんな
 に多い)、あっさぐわー (あんなに少ない)。ち
 やっさなー (どれほど)、*ちやっさぐわー。ち
 やっさん わたんかい いーん。(いくらでも
 お腹に入る)。ちやっさん ふさん/くいーん。
 (いくらでも欲しい/くれる)。うっさぬ くる
 ま/さき/むぬ よー。(こんなにたくさんの
 車/酒/ものがあるなあ)。うっさぬ さき
 よー。くれー いくたい しんかつし ぬむが
 やー。(こんなにたくさんの酒があるな。これ
 は何人の仲間飲むのかね)。うっぴぬ さき
 だろー んーちえーんーだん やー。(こんな
 に大きい酒樽は見たことはないね)。うっさき
 なーぬ くるまぬ ちまとーてい なー うれ
 ー やーんかい けーいねー ゆなかさなか
 ないんどー。(こんなに車が渋滞しているから、
 もうこれは家に帰ったら夜中になるね)。ちやっ
 さきーぬ/ちやっさなーぬ っちゅ/むぬ や
 たが?(どんなに多くの人/ものだったのか)。
 くっさ/あっさ たかく とうどーる やー。
 (こんなに/あんなに高く飛んでいるね)。くさ
 きーなー/あさきーなー たかく (こんなに/
 あんなに高く)。くっさなー/あっさなー み
 ーぬ などーる やー。(こんなにも/あんな

にも実がなっているね)。ちゃっさ たかく
とうどーが?(どれほど高く飛んでいるの)。ち
やっさきーなー たかく(どれほど高く)。ちゃ
っさなー みーぬ などーが?(どれほど実が
なっているの)。ちゃっさなー あたが?(どれ
ほどあったか)。ちゃっさんかっさん こーて
いあとー むちうーさん などーん。(どれも
これも買った後には持てなくなる)。【参】 ちゃ
ぬあたい みーぬ などーが?(どのくらい実
がなっているのか); ちゃぬあたい あたが?
(どのくらいあったのか); うっぴ よー(それ

っぼちだよ); くっぴ よー(これっぼちだよ)。

さららんしー 〈嫌々ながら〉 【例】さら
らんしー する さこー さん けー。(嫌々
するぐらいならするな)。

さんじゃんくんじゃん 〈めちゃくちゃ〉
【例】ぬすどうんかい さってい たんしぬ
ふいちっんぢやしーや さんじゃんくんじゃん
などーん。(盗人に入られて、タンスの引き出
しはめちゃくちゃになった)。【参】「あーさむ
ーさ」とも言う。

し

しーてい 〈無理に〉 【例】しーていまでい
っやーや いちぶさ すしが、ぬーがな ゆー
じゆぬ あいどう する め？(無理にでもあ
なたは行きたがるが、何か用事でもあるのか)。
っちゆぬ かまんばー すしえー しーていま
でい かめー かめー すな けー。(人が食
べたくないと言っているのを無理に食べなさい
食べなさいと言わないで)。

～しーていー 〈～ごと、～ぐるみ〉 【例】っ
んむじょーぐーや かーしーていー かむん
どー。(芋好きは皮ごと食べるよ)。ぐるくのー
ちゅーく あぎーねー、ふにしーていー か
まりーくとう、どうーぬ ふにん ちゅーく
ないん。(グルクンはよく揚げると、骨ごと食べ
られるので、体の骨も強くなる)。

しかっとう 〈しっかりと、ちゃんと〉 【例】
いち やていん、ぬー やていん、するくとー
しかっとう すし やん。(いつでも、何で
も、することはちゃんとすべきだ)。はたちから
ー うふっちゅ やくとう、しかっとう かん
げーてい っし いちゆし やん。(二十歳か
らは大人なのだから、しっかりと考えて行くべ
きだ)。

しぐ 〈すぐ〉 【例】うわいねー、しぐ けー
ていくー よー。(終わったら、すぐ帰っておい
でよ)。【参】ちゃーき。

じこー 〈ずいぶんと〉 【例】じこー あみぬ
ふてい んでいーぶしこー ねーんたくとう
いかんたん。(ずいぶんと雨が降っていて濡
れたくなかったので行かなかった)。

しでー (しでー) に 〈次第(しだい)に〉
【例】しまぬ くらしえー しでーしでーに
まし などーん。(村の生活は次第しだいによ
くなっている)。

じふい 〈是非〉 【例】ちゅちびけー やま
とうんかい やくとう、に、さんにち うちね
ー じふい っちくいり よー。(一ヶ月ほど
内地なので、二三日のうちには是非来てくださ
いよ)。

しぶしぶーっとう 〈びっしょり〉 【例】
はーえー さくとう あし はてい しぶしぶ
ーっとう などーん。(走ったので汗をかいて
びっしょりしている)。

じゆんに 〈ほんとうに〉 【例】じゆんに
ちむ どうまんぐいたん。(ほんとうにびっく
りした)。

じょーい 〈どうてい〉 【例】っやーが ちゃ
っさ さんてーまん ありんかえー じょーい
うゆばん。(あなたがどうやってもあの人には
どうてい及ばない)。ぬーんでい いちん
なま じょーい わらびどう やる。(何とい
ってもまだとても子どもだ)。たーが たぬま
わん ありがー じょーい さん どー。(誰
がどんなに頼んでもあの人はやらないよ)。あ
りがー じょーい ならん。(あの人にはとて
もできない)。

～しん ちょーん 〈～のさえも、動詞
に付属〉 【例】むぬ かむしんちょーん わ
しとーん。(食事をするのさえも忘れてる)。

みーぬ めーぬ くとうんちよーん ならんむ
んぬ、っちゅぬくとー じょーい ならん。(目
の前のことさえできないのに、他人のことはど
てもできない)。

～しんでー 〈～次第〉 【例】っやーや と

うし どういしんでー がーぢゅー なてい
やー。(あなたは歳をとるごとに強情なってる
ねえ)。はなぎぬ ちーしんでー、はげー。(花
木が来次第、配りなさい)。しくち うわいしん
でー、けーてい しむん どー。(仕事を終わり
次第、帰っていいよ)。

す

すそーん 〈粗末にするさま〉 【例】うやんかい すそーん さったる っくわ やていん、うやー うや なち あたらさ すしぬ しじやさ。(親に邪険にされた子でも、親は親だとして大切にするのが道理だ)。

するするー 〈ざらざらとしている様〉 【例】するするー ふいちぐわーん みーていっち、なー うふっちゅ などーさ やー。(ざらざらとした髭も生えてきて、もう大人になっているね)。

そ

そーそー 〈じゃーじゃー、だくだく〉 【例】
なーぬ きーくさんかい みじ そーそー か
きーん。(庭の植物に水をじゃーじゃーかける)。
なちかさぬ なだ そーそー はたん。(悲し
くて涙が溢れ出した)。どうー っんぢゆかち
やくとう あし そーそー はたん。(体を動
かしたので汗がだくだく流れた)。

そーぬぎてい 〈急いで、一刻も早く〉 【例】
あまたっち くまたっち さんぐとう、そーぬ
ぎてい くーよー やー。(あちらこちら歩き

回らないで、一刻も早く来なさいよ、あまたっ
ち くまたっち=あまみー くまみー)。ねー
ん なてー ならんくとう、そーぬぎてい っ
んぢ くーわ。(なくなってはならないので、一
刻も早く行って来なさい)。

そーるそーる 〈するする、淀みなく〉 【例】
ハブぬ そーるそーる ほーいん。(ハブがする
すると這う)。あんし はなしぬ そーるそーる
っんぢてい ちゅーる むん なー。(あんなに話がよどみなく出てくるものなんだねえ)。

た、だ

たった 〈だんだん、ますます〉 【例】ありが
しーよーや たった ちじ などーん。(あ
の人のやり方はますます悪くなっている)。と
うし かさないしんでー からじぎーぬ たっ
た いきらく などーん。(年を重ねるごとに
髪がだんだん少なくなっている)。

たで一ま 〈すぐに、とっさに、急ぎの、もう〉
【例】たで一ま けーていちゅーさ。(すぐに
帰ってくるよ)。たで一ま ちょーさ。(もう来
ているよ)。たで一ま っんぢちー?(もう行っ
てきたの)。くわっちーぬ たで一ま ねーら
ん などーん。(ご馳走がすぐになくなった)。
っんぢたる ふにぬ たで一ま みーらん な
とーん。(出航した船がすぐに見えなくなった)。
ぬーが やー、なまさちどう はじみーたる
むんぬ、たで一ま うわたん なー?(どうし
たの、今さっき始めたのに、もう終わったの)。
をうたとーるばすねー／あんまさるばすねー
むぬ かまーに にんとーけー。たで一ま ま
し ないさ。(疲れているときには／気分のす
ぐれないときにはなにかを食べて寝ていなさ

い。すぐに良くなるよ)。たで一まぬ じんぶん
(とっさの知恵)、たで一まぬ しくち(急ぎの
仕事)。【参】ちゅーちゃん。

だてーん 〈うんと、大きく〉 【例】あれー
だてーんなー あびとーたん どー。(あの
人は大声で叫んでいたよ)。とうてーる むん
だてーんなー はちゃん。(穫ったものをた
くさん配った)。だてーん あみ?(たくさんあ
るか)。【参】反義語は、「いふいぐわー／くーて
ーん」。

だらだら 〈垂らしているさま〉 【例】くぬ
あかんぐわー ゆだい だらだらっし ゆだ
いかきー しみそーれー。(この赤ん坊はよだ
れをたらしているの、よだれかけをしてくだ
さい)。

だんじゅ 〈まことに〉 【例】だんじゅ か
りゆしや いらでい さしみしえーる ふにぬ
ちな とうりば かじや まとうむ。(まこ
とにめでたい日を選んでお導きになる 船の
綱を取れば 風は順風)。

ち、ぢ

ちむぐりぎーなー 〈かわいそうに〉 【例】
ゆる まちなーかんぢ ちむぐりぎーなー み

っちやいゆったいさーに っちゆ すぐいくる
ばち そーたん。(夜、街中で、かわいそうなこ
とに三、四人で人を殴り倒していた)。

て、で

でーじな 〈ひどく〉 【例】 でーじな やむ ん／わじとーん／むちかさん。(ひどく痛む／怒っている／難しい)。

とう

とうっそーはっそー 〈そわそわ、落ち着かないさま〉 【例】っんまがー あちやーぬ
ゑんそくびけーんかい ちむ とうらってい
とうっそーはっそー そーん。(孫は明日の遠足のことをあれこれ考えてそわそわしている)。

とうるばいかーばい 〈しょげているさま、ぼんやりしているさま〉 【例】たーりー
が あたらさ そーたる ちぶ わやーい、い
ーんいららん とうるばいかーばい そーん。

(父親が大切にしている壺を割ってしまい、言うに言えなくてしょげている)。まぶやーが
うとうちやら とうるばいかーばい そーん。
(魂でも落としたのかぼんやりしている)。

とうるとうる 〈うとうと〉 【例】をうた
とーたくとう、つくえぬ めーをうてい とう
るとうる そーたん。(疲れていたなので、机の前でうとうととしていた)。

ちゃ

ちゃー 〈どう、如何〉 【例】ちゃーが?(どうか、どうだ)。ちゃーが さい/たい?(いかがですか)。ちゃーが やら?(いったいどうなのか)。ちゃーん ねーらん。(どうもない、何ともない)。ちゃーん ならん。(どうにもならない)。ちゃー すが?(どうするか)。だー、ちゃー なたが?(それで、どうなったか)。ちゃー しん いちゅん/すん/ならん/わからん/にんだらんたん/とうめーらん/かちえーうーさん。(どうしても行く/する/できない/解らない/眠れなかった/探せない/書けない)。ちゃーしんかーしん ならん。(どうしてもできない)。ちゃー(=いかな) しん うむいぬぐとう ならん。(どうしても思うようにならない)。ちゃーっし すが?(どのようにするか)。ちゃーる ばーが?/ちむえーが?/くとうが?/っちゅが?(どういうわけか/意味か/ことか/人か)。だー、なー、ちゃーする ばーが?(それで、どうするつもりか)。ちゃーしえー しむが?(どうすればよいのか)。ちゃんぐとーる あんべーが?(どういう具合か)。ちゃんぐとーる くとう ならん/ちゃーんぐとーる ならん/が?(どういうことになっているか、ちゃんぐとーる=ちゃーる)。ちゃんねーるー (や)が?(どういうものか)。ちゃんねーるーぬ あが?(どういうのがあるか)。ちゃぬ よーな くとう/むぬ/っちゅ やいびーが?(どういうこと/物/人なのか)。っやーや ちゃぬむん(=ぬー さる むん)(や)が?(おまえは何様か)。ちゃぬ あたい あが?(ど

れほどあるか)。ちゃなぎ あが?(どの長さあるか)。ちゃぬ さくぬ くどー あらん。(どうってことはない)。

ちゃーき 〈すぐ、~してすぐ〉 【例】ちゃーき ちゃーき しー よー。(さっさとしなさいよ)。くれー なま むていちゃーき やき。(これは今もいだ(=もぎりとった)ばかりだよ)。にんていちゃーき うくさりやーに みーぐふあ いっし ありから にんだらんたん。(寝入ってすぐ起こされてあれから眠れなかった)。なま にんぢゅがやーんでい ふとぬんかい いっちちゃーき やたん。(今寝ようかと布団に入ったところだったよ)。なま こーていっちちゃーき どー。(いま買って来たばかりだよ)。なま かでいちゃーき やくとう、なー わたー いらん。(今食べたばかりなので、もうお腹に入らない)。っしちゃーきどう やくとう、なーだ うわてーをうらん。(し始めたばかりなので、まだ終わってはいない)。わんにん なま っちちゃーきどう やん どー。(私も今来たばかりだよ)。っんぢていちゃーきどう やくとう、ぐ、るくじかのー けーてい ちゃーびらん どー。(出たばかりなので、5、6時間は帰って来ませんよ)。うれー なま さーんな よー。かちちゃーき どー。(これは今触るなよ。書いてすぐだから)。みー かじゃぐわー すん やー。なま ちゅくていちゃーき やいびーん どー。(作りたてのにおいがするね。今作ったばかりです)。ふくちちえー ちゃーきなー かじゃ すん。(ゴミはすぐに臭う)。

ちゅ

ちゅーくねーん 〈強く、きつく〉 【例】またん めぬくとう そーさ やー。ちゅーくねーん いらん むんぬ。(またも同じことをしているね。きつく言わないとね)。

ちゅーちゃん 〈すぐに〉 【例】わたぬ やむしえー くすい めみーねー、ちゅーちゃん (*あつたに) /たでーま まし ないさ。(お腹が痛いのは薬を飲めば、すぐに/たちまち良くなるよ)。ちゅーちゃんなかい (*あつたに) かむたん どー。(またたく間に食べてしまったよ)。ちやがやーんでい うむたれー、ちゅーちゃん (=しぐ) けーたん。(来たかと思っただらすぐに帰った)。【参】たでーま。

ちゅばちに 〈いっきに、一撃で、一発で、一投で〉 【例】うふあみ ふいねー、ちゅばちに みじんかい うちくわーりーくとう、ふかんかい っんぢーしえー あらん。(大雨が降ったら、あっという間に水に飲み込まれてしまうので、外には出るものではない)。しがりなめー ちゅばちに やーから っちゅから むるぬみくむん どー。(津波はいっきに家も人

もみんな飲み込んでしまうよ)。

ちゅふあーら 〈腹一杯、充分〉 【例】なーちゅふあーら んーちえーくとう けーら。(もう充分観たので帰ろう)。ちゅーや なーちゅふあーら たいきよくけんぬ ちーく しえーくとう、ちゅらーさ をうたとーん。(今日はもうずいぶん太極拳の練習をしたので、すっかり疲れた)。

ちゅらーく、ちゅらーさ 〈みごとに、すっかり、きれいさっぱり〉 【例】っやー たんじょーび ちゅらーさ わしとーたさ。(あなたの誕生日をすっかり忘れていたよ)。ちゅらーく ちゅらーく ぬらーったん。(ひどく怒られた)。ちゅらーく ゆぐさってい よー。(すっかり汚されてしまってね)。ちゅらーく あびらってい よー。(すごく大声を出されてね)。ちゅらーく ぬすまっていねーん。(すっかり盗まれてしまった)。ちゅらーさ うちかでいねーん。(すっかり食べてしまった)。ちゅらーく ねーんなたん。(きれいさっぱり無くなった)。

な

な一 〈もう (限定詞)〉 【例】 な一 なてい
一? / うわと一み? (もうできたか)。 な一 な
と一み? な一 やさ。 (もうできているか。も
うすぐだよ)。 なまんぢえ一 な一 にかしぬ
くとう やしが。 (今ではもう昔のことだが)。
な一 うっさっし など一ん ど一。 (もうす
こしでできるよ)。「いち まんぐれ一ぬ はな
し やが?」「うれ一 な一 にじゅ一にんびけ
一 ないん ど一」(「いつぐらいの話なのか?」
「それはもう20年ばかり前になるよ」)。 な一
ちゅけ一ん (もう一度)。 な一 ちゃ一ん な
らん。 (もうどうにもならない)。 な一 っんぢ
く一? (もう行ってくるね)。

な一 〈ずつ、ほど〉 【例】 あんさ な一 (同
量ずつ)、く一て一ん な一 (少しずつ)、てい
一ち な一 (1つずつ)。

～な一 〈副詞表現を強める〉 【例】 よ一んな
一 (ゆっくり)、く一て一ん / いふいぐわ一な一
(ほんの少し)。 ふえ一くな一 く一わ。 (早く来
い)。 あみぬ うていていちゅ一くとう、ふえ一
くな一 かさ はれ一。 (雨が降ってくるので、
はやく傘を差しなさい)。 うさき一な一 あた
いみ? (そんなにたくさん配分があるの)。 ちゃ
っさな一 やいび一が? (どれほどですか)。 し
こ一いむこ一いぬ あくとう、うぬ ふえ一さ
な一や く一んていん しむさ、ふい一 さが
ていから く一わ。 (準備があるので、そんなに
早くは来なくてもいいよ。 陽が下がってから来
なさい)。

な一 〈確認の終助詞〉 【例】 「うれ一 た一

がな っしとうらさんがや一?」「た一とう よ
一。 わ一 ちゅいさ一に な一? っや一が一
ならに?」(「誰かそれをやってくれないか」
「誰と。 私一人でなのか。 あなたではできないの
か」)。 っや一ん いちゅん な一? (あなたも
行くのか)。 くり な一? (これなのか)。

な一だ 〈まだ〉 【例】 くぬ わじゃ一 な一
だ とうじみらって一 をうらん。 (この仕事
はまだ終了してはいない)。

な一ふいん 〈さらに〉 【例】 じの一 も一
きしんで一 な一ふいん も一きぶしく ない
ん。 (お金は儲ければ儲けるほどもっと儲けた
くなる)。 ありやか一 くぬ らんぬ はなぬ
どう な一ふいん ちゅらさる。 (あれよりは
この蘭の花がもっと美しい)。

な一や一 〈もはや〉 【例】 な一や一 かん
なれ一から一 ちゃ一ん ならんさ。 やすん
ぢれ一。 (もはやこうなってからはどうしよう
もない。 気持ちを切り替えなさい)。

～なぎ一 〈頃、あたり〉 【例】 ちゅ一なぎ
一 (今日あたり)、や一んなぎ一 (来年あたり)。
あちゃ一なぎ一 / あちゃ一まんぐれ一 / あちゃ
一ね一 ぬくく ないさ。 (明日あたり暖か
くなるよ)。 【参】 まんぐれ一。

なげ一 〈長く〉 【例】 「ちゃんなげ一 まっ
ちん く一んたが?」「な一 ちゅ一や く一ん
さ」(「どんなに長く待っても来なかったのか」
「もう今日は来ないよ」)。 なげ一 しまと一く
とう くまから一 っんぢゅちぶしこ一 ね一ら

ん。(長く住んでいるので、ここからは移りたくない)。

なるびち 〈なるだけ〉 【例】いちゆなさるばすねー ならんていん しむしが、なるびちえー っし とうらし どー。(忙しいときにはできなくてもいいですが、なるべくしてくださいね)。

などうってーん 〈なめらか〉 【例】あぬ っちゆぬ くいーや などうってーんぐわー っし ちちやっさん。(あの人の声はなめらかで聞きやすい)。

なんくる 〈ひとりでに〉 【例】くぬ ないむんぬ きーや わんが っういーたる むのー あらんしが、とういぐわーぬ まやーにさに うとうちやるあとう、なんくるみーっし どう ふどうっういーとーる。(この果物の木

は私が植えたものではないが、小鳥が糞をして種を落とした後、自生して成長している)。ちゃーしが しむら わからんてい うっちゃんぎてーたくとう、なんくる などーたん。(どうしたら良いか分からなくなって放っておいたら、なんとかなっていた)。っんまー ぬてい どう わかいる、っちよー ふいらいーねー なんくる わかいさ。(馬は乗ってこそ分かる、人はつき合えば自然に分かる)。

なんじゅ 〈大して〉 【例】っんまぬ すばやーや なんじょー あらん さー。(そのそば屋は大したことないよ)。ありが うたー なんじょー あらん。(あの人の歌は大したことない)。あぬ っちよー イギリスぐちえー なんじょー でいきらん。(あの人は英語は大してできない)。

に

につか 〈遅く〉 【例】 いちゆなきたくとう
いれーふいじぬ につか などーん。(忙しか

ったので返事が遅れている)。なー につか
などーくとう けーら やー。(もう遅いので
帰るね)。

ぬ

ぬーいちんくいーいちん 〈何を言おうと〉 【例】っやーが ぬーいちんくいーいちん わんが しーぶさる くとー すん。(あなたが何を言おうと私はしたいことをする)。

ぬーぬくいーぬんでい 〈何やかんや〉 【例】っやーや ぬーぬくいーぬんでい いちん ちゃーん ならんさ。(あなたが何やかんや言ってもどうにもならない)。

ぬーとうんがなし 〈ふとしたはずみに〉 【例】ぬーとうんがなし わかさるとうちぬ アルバム うびっんぢやち んーぢゆるくとうん あん。(ふとしたはずみに若い時のアルバムを思い出して見ることがある)。

ぬーとうんくいーとうん 〈何とでも〉 【例】っちゅぬ くとう やれー ぬーとうん くいーとうん いらりーっさ。(人のことであれば何とでも言えるさ)。

ぬーぬくいーぬんでいち 〈何のかんのといて〉 【例】ぬーぬくいーぬんでいち くーららんでい いーたん どー。(何のかんのといて、来られないと言ってたよ) 【参】「ぬーやんくいーやんでいち」とも言う。

ぬーやていんくいーやていん 〈何だつて〉 【例】ぬーやていんくいーやていん しむさ。わんが いーし ちち そーちーねー

まちげー ねーんさ。(何だつていいさ。私が言うことを聞いておれば間違いはないよ)。

ぬーやんくいーやん 〈何だかんだ〉 【例】ぬーやんくいーやん いち っやーや みった かしまさん。(何だかんだ言うあなたは実にうるさい)。

ぬーん 〈なにも〉 【例】ぬーん ねーん。(何も無い)。
ぬーん あらん。(何でも無い)。
ぬーん うとうるしこーねーらん。(何も怖くはない)。

ぬーんくいーん 〈何もかも〉 【例】みーとうんだー ぬーんくいーん にち ちゅーん。(夫婦は何でも似てくる)。

ぬとうぬとう 〈ぬるぬる〉 【例】みじんかい ちきてーる くーぼー ぬとうぬとうっし あらいぐりさん。(水に浸けた昆布はヌルヌルして洗にくい)。
っんなぢえー ぬとうぬとう そーくとう くしれーぐりさん。(ウナギはヌルヌルしているのでさばきにくい)。

ぬるんとうるん 〈うとうと〉 【例】あれー ぬるんとうるん そーしが、っちゅぬ はなしえー しかつとう ちちよーがやー?(あの人はうとうとしているが、人の話をちゃんと聞いているのかねえ)。

は、ば

ばーばー 〈短気なさま〉 【例】あれー たん
ちえー ばーばー、りんちえー ぷーぶーっし、
っわーない ぢゅーさる っちゅ やん。(あ
の人は短気で、嫉妬深くて、大変なやきもちや
きだ)。

はしっとう 〈元気なさま、しゃんと〉 【例】

やんめーぬ まし なてい、みーがーん うく
りてい なー はしっとう などーん。(病気が
良くなって、まぶたもふっくらしてもうすっ
かり元気になっている)。んぢやさていん ぬ
みわどう はしっとう ないん。(苦くても飲
めば元気になる)。

ひ、ぴ、び

ぴーぴー（かーかー）〈貧しくて困り果
てているさま〉 【例】あぬ みーとうんだー
っくわなしはんじょー そーしが、じんぬ
ふしがらんくとう ちゃー ぴーぴーかーかー
そーん。（あの夫婦は子宝に恵まれているが、
出費が多くていつも困窮している）。

ひーひーとうー／なーなー 〈なし崩
し〉 【例】ありんかい じん からちえーし
が、ちゃっさ いみていん しらんふーなーっ
し、うぬまま ひーひーとうー／なーなー な

する さんみん やがやー？（あの人にお金を
貸したが、いくら催促しても知らん顔をして、
そのままなし崩しにするつもりなのかねえ）。

ぴりんぱらん 〈ぺちやくちゃ〉 【例】い
ち やていん、まーんぢ やていん、たーとう
やていん うちなーぐちさーに ぴりんぱら
ん ないるぐとう ないぶさん やー。（いつ
でも、どこでも、誰とでも沖縄語でぺちやくち
やおしゃべりできるようになりたいねえ）。

っぴ

～っぴ 〈数量の程度〉 【例】うっぴなー、うっぴぐわー（それっぽち）。くっぴなー、くっぴぐわー（これっぽち）。あっぴなー、あっぴぐわー（あれっぽち）。ちゃびなー、*ちゃっぴぐわー（どれほど）。ちゃっぴなーぬ くいー やたら？（どれほどの大きい声だったのか）。ちゃっぴなーぬ しぶい／でーくに やたくとう。

（どんなに大きい冬瓜／大根だったから）。ちゃっぴ やが？（どれほどなのか）。ちゃっぴ あが？（どれほどあるのか）。っんもー むる こーいくとう、ちゃっぺー あが？（芋は全部買うので、どれほどあるのか）。ちゃっぺーるーぬ むん やが？（どれほどのものなのか）。ぴーちゅーぐわー どー。（ほんのちょっぴりだよ）。

ぷ

ぷーるぷーる 〈ぶくぶく空気が抜けるさま〉

【例】すいそーぬ なかをうてい さんそ っ
んぢやする むんぬ ぷーるぷーるっし あー
ふちよーる なーか いるかじぬ いゆぬ
っういーぢよーし んーぢゆしぬ しちゆん。
(水槽の中で酸素を出す機械がぶくぶくと泡を
吹いている中を色々な魚が泳いでいるのを観る

のが好きだ)。

ぷとうぷとう 〈団子状〉 【例】そーみん

ぷっとうるーや にーくたー なてい、ぷとう
ぷとう さーに まーこーねーん。(そうめん
炒めを煮過ぎて、団子状に固まっておいしくな
い)。【参】むるさー。

ふい

ふいっすいふいっすい 〈ずきんずきん〉

【例】ゆながた はーぬ ふいっすいふいっすいっし やでい にんだらんたん。(夜中歯がずきんずきんと痛み眠れなかった)。はーぬ ふいっすいふいっすいっし ふしがらん やむくとう、はーやーんかい っんぢゃん。(歯がずきんずきんとがまんできないほど痛むので、歯医者に行った)。

ふいたに 〈ひたすら〉 【例】ふいたに じん

もーき するびけーい かんげーいねー どうー うしないしん みーらん ないん どー。(ひたすら金儲けすることだけを考えると自分を見失うよ)。

ふいっちー 〈始終〉 【例】くーさいにから

ふいっちー やーぬ ていがねーっし にーびちん につか などーん。(幼少の頃からずっと家の手伝いをして結婚が遅くなっている)。

ふいらってーん／ふいらたー／ふいらたっぺー 〈平たく、ペしゃんこに〉

【例】ふいらさん (平たい)、ふいら やーちー (平焼き、チヂミ)。ふいらたー／ふいらたっぺー／ふいらー そーしえー (ペしゃんこになっているさま／もの)。ていんぴらまんじゅーや ふいらってーんぐわーっし まーさん どー。(天妃前饅頭は平たくておいしいよ)。なーこー たきむいん ねーん、ふいらたー／ふいらたっぺー そーん。(宮古は山もなくて、平たい)。ふいらく ならな。(あぐらをかこう)。ふいらく めーん。(あぐらをかいて座る)。

ふえ

ふえーく 〈早く〉 【例】 なー いふえー ふえーく ならに？(もう少し早くできないか)。なー いふえー ふえーく うきれー／くーわ。(もう少し早く起きなさい／来なさい)。ふえーく いか やー。(早く行こうね)。ふえーくなー ふえーくなー しーねー、どうすえー どうまんぐいてい きっちゃき しみーん

どー。(早く早くとせかすと、年寄りをあわててつまづくよ)。

ふえーべーとう 〈早々と〉 【例】 しこーいむこーいぬ うふさくとう、ふえーべーとう っちとうらし よー。(準備がたくさんあるので、早めに来てくれよ)。



ま

まーくまーく 〈おいしく〉 【例】むぬぐし さんぐとう まーくまーく かみわどう どうーぢゅーく ないん どー。(好き嫌いせずおいしく食べてこそ健康になるのだよ)。

まーどう 〈～の前に〉 【例】くむぬ まっくーるー なてい ふしむのー いりらんとー ならんくとう、あみぬ ふらん まーどう けーらな。(雲が黒くなって洗濯物を入れなといけないので、雨が降らないうちに帰ろう)。ありが くーん まーどう そー けー。(あの人に来ないうちにしておけ)。しゅむち かれーからー ぬーしから いみららん まーどう けーし よー。(本を借りたなら持ち主から催促されないうちに返しなさいよ)。

まーんくいーん 〈どこもかも〉 【例】たーちゅーや まーんくいーん にちどう をうがやー?(双子はどこもかも似ているのかねえ)。

まぎまぎーとう 〈大きく〉 【例】ぬじゅめー どうーぬ ないる うっぴどう むたりーしが、ちゃー まぎまぎーとう むちゆる むん どー。(望みは自分ができる範囲でしか持てないが、いつも大きく持つものだよ)。

まじ 〈まず〉 【例】をういが すら をうらんが あら わからんくとう、まじ でんわ いっていから いき よー。(居るか居ないのかわからないので、まず電話をしてから行きなさいね)。

まったち 〈まったく〉 【例】あぬ ういっちょー がにぬ あっちょーんかい まったち

にちょーん やー。(あの酔っぱらいはカニの歩き方に本当に似ているね)。

まってーん 〈まるまると〉 【例】うぬ ういなごー しまとうやーぬぐとう どうーん ちびん まってーん そーん どー。(その女性性は相撲取りのように体もお尻もまるまるとしているよ)。うぬ はなし そーたくとう、うどうるちゃーに みーん まってーん などーたん。(その話をしたら、驚いて目をまるくしていた)。

～まま 〈まるごと〉 【例】はくまま むっちくーわ。(箱ごと持ってきなさい)。くんだっとーるまま むっちくーわ。(括られた分まるごと持ってきなさい)。いっちょーるまま むっちくーわ。(入っている分まるごと持ってきなさい)。

まるけーてい 〈たまに〉 【例】まるけーていぬ やしみねー どうーぬ っんまりじまんかい っんぢ うやとう かたれー すん。(たまの休みには故郷に帰って親と語り合う)。まるけーていなーや にんじふりてい ゆさんでい みーくふあいる ばーん あん。(たまには寝過ごして夕方目が覚めるときもある)。あれー がっこーんかい めーにちえー あらん、まるけーていどう いちゆる。(あいつは学校には毎日ではなく、ときたましか行かない)。まるけーてい いちやいる どうしとうぬ はなしえー っういーりきさん。(たまに逢う友人との話は楽しい)。



み

みーく (に) 〈新しく〉 【例】くぬ かてい
むのー みーくに ちゆくてーし やさ。まじ
ゆーん かまな。(このおかずは新しく作った
ものだよ。一緒に食べようか)。ちのー みーく
みーく、ぬちえー ながながーとう。(着物は
新しく、命は長く)。

みーさげーねーらん 〈ひっきりなしに〉
【例】みーさげーねーらん すーまんぼーすー
ぬ ふいちぢちゆんねーっし うすめーとう
はーめーが ゆんたくふいんたく そーん。(ひ
っきりなしに梅雨が降り続くようにお爺さん
とお婆さんが語り合っている)。

みーらんか みーらんか 〈かすかに見
えるさま〉 【例】んぞが ぬたる ひこーきぬ
みーらんか みーらんか そーたしが、みー
らん なていあとー なたぬ うていーたん。
(恋人が乗った飛行機がかすかに見えていたが、
見えなくなった後には涙で頬が濡れていた)。

みしかってーん 〈密かに〉 【例】っちゆん
かい しらりーねー ならんくとう、みしかっ
てーん わんにんかい いちくいーたん。(人

に知られてはならないので、密かに私に言って
くれた)。

みしがみし 〈わかっていながら〉 【例】あ
ん ねーるーんでい わかどーてい わんにん
みしがみし まちうたったん。(そういう人だ
とわかっていながら私はみすみす裏切られた)。

みった 〈めったに〉 【例】あれー ちむぬ
ふいるさくとう、みったな くとうしえー わ
じらん どー。(あの人は心が広いので、めった
なことでは怒らないよ)。

みっちゃかーん 〈いっぱい〉 【例】さ
かぢちんかい さきぬ みっちゃかーん いら
らってい あんでいらくんでいら そーっさ。
(酒盃に酒がいっぱいに入れられて溢れそうに
なっている)。

みるみる 〈みすみす〉 【例】ぬすどう み
るみる ふいんがちゃん。(泥棒をみすみす逃
がした)。わらばー みるみる どうー やま
しみたん。(子どもにみすみすケガさせた)。

め

めーかにてい 〈前もって〉 【例】めーか にてい いちよーけー しむる むんぬ。(前もって言うておけばいいのに)。

も

もーい くわんくわん 〈髪が乱れて〉

【例】うふかじぬ めー なてい かじぬ ちゅーさぬ りっぱんぐわー しえーる からじん

もーい くわんくわんっし ふーじえーねーん などーさ。(台風前の風が強くて、きれいにした髪が乱れてみっともなくなっているよ)。

や

やがてい 〈やがて、もう少しで〉 【例】みちわたとーる ばすに くるまぬ うしんち ちゃーに やがてい (=なー いふいぐわー しーねー) しぬたん。(道を横断しているときに車が突っ込んで来てあやうく死ぬところだった)。

やしてーん 〈簡単に〉 【例】ちゅばちに ないさ。やしてーんぐわー やさ。(あっという間にできるよ。簡単さ)。

やしやしーとう 〈やすやすと〉 【例】し

わー ねーんさ。やしやしーとう なさりーん どー。ふどうっわーすしどう でーじ どー。(心配はないさ。呆気なく産めるよ。育てるのが大変だよ)。

やふあやふあーとう / やふあってーん 〈やわらかに、やさしく〉 【例】っやーや むぬ いーよーぬ ちゅーさくとう やふあやふあーとう / やふあってーんぐわー むのー いらい よー やー。(あなたはものの言い方がきついで、おだやかにものを言いなさいね)。

ゆ

ゆー 〈よく〉 【例】 っちゅんかえー ゆー
しー よー やー。(人にはよくしなさいよ)。
ちもー ねーん っちゅぬ ゆーさー ふーな
ー そーん。(心がない人が好人ぶっている)。
ゆー しーねー あちゃー わかいさ。(もし
かしたら明日分かるかもよ)。ゆー さんだれ
ー ししえー くさりとーん どー。(ひよっ
とすると肉は腐っているかもしれない)。

ゆかい／ゆかいに 〈よほど、思ったより
もさらに〉 【例】 じん ゆかいうっさ たぶ
とーっさ／たぶてーっさ。(お金をよっぽど貯
め込んでいるのだね)。あれー ゆかいねー
ふいまぬ あさ やー。(あの人はよほど暇な
んだねえ)。あまー みーぐるま こーていあ
とう、いふいぐわーっしから やーん ちゅく
いのーちょーしが、ゆかいに じんむち やて
ーさ。(あの人は新車を買った後、少ししてか
ら家も改築してしているが、よほどお金持ちだ
ったんだね)。くぬ なまちゃーや むぬ い
ーよーから しーよーまでい、ゆかいに っち
ゅ うしえーとーる ばー やさ やー。(こ
の生意気な奴は口のきき方から仕草にいたるま
で、よっぽど人をばかにしているつもりだね)。
ゆかいに あんまさん やー。(結構わずらわ
しね)。ゆかいに とうーさてーん やー。(よ
ほど遠かったんだね)。あれー ゆかいに か
にはんでいとーん やー。(あの人は思ったよ
りももうろくしているね)。ゆかいに よーと
ーん やー。(思ったより弱っているね)。ゆか
いに あちさん やー。(思いのほか暑いね)。
だむぬ みじぬ ゆかいうっさ ふいなどー

ん。(ダムの水がかなり減っている)。

ゆくゆく 〈よくよく〉 【例】 こーいむん
する ばすねー まーんぢ ちゅくらっとーる
むん やがやーんち、ゆくゆく んーちから
こーいし やん。(買い物をする際にはどこ
で作られているものなのかをよくよく見てから
買うものだ)。

ゆくん 〈さらに、もっと〉 【例】 「っやーや
ちゅらさん やー」「あん やいびーみ ふー？
うんじゅがどう ゆくん ちゅらさどう あ
いびーん どー」「(あなたはきれいだね)」「そ
うですかねえ？ あなたの方がもっとおきれい
ですよ」。あっちゅーさくとう、やむたる
ふいさー ゆくん ちじ などーん。(歩き過
ぎて、痛かった足がさらに悪くなっている)。く
んちりみち さーに いちゆる ちむえー や
たしが、くるまぬ くでい けーてー (=ゆく
ん) につかどう なたる。(近道して行くつ
もりだったが、渋滞でかえって遅くなった)。

ゆるっとう 〈ゆるりと〉 【例】 あぬ しく
ちん なー しーなちゃくとう、いっぺー ゆ
るっとう なたん。(あの仕事はもう仕上げた
ので、とてもほっとしている)。

ゆるゆるーっとう 〈締め付けないさま〉
【例】 にんじゅるばすねー いばむん ちーね
ー、ちーぬ まーいぬ わっさくとう、ゆるゆ
るーとうぐわー そーる ちん ちり よー。
(寝るときにはきついのを着ると血のめぐりが
悪くなるので、締め付けない服を着なさいよ)。

よ

よーがーふいーがー 〈よたよたと〉

【例】あまぬ おじーや さき ぬでい ぶー
らーさっさいっし なぐぬ ななまがいぬぐと
うっし よーがーふいーがーあっち そーたん
どー。(あそこのお爺さんはお酒を飲んでふ
らふらと名護の七曲がりのような千鳥足になっ
ていたよ)。よーがーふいーがーがち そーん。
(ミミズのような字で書いている)。

よーん(ぐわー) 〈軽く、そっと、やわらかく〉

【例】ぼーじゃーや くさーんかい う
ーふあどう する。めーんかい だち きっち
やきする ばすねー、ぼーじゃーや よーんぐ

わー うちきていから っやー くるべー ひ
ー。(乳児は後ろにおんぶするものだ。前に抱い
てつまづくときには、乳児をそっと置いてから
転ぶことだね)。ありんかえー よーんぐわー
いり よー やー。(あの人にはやわらかく
言いなさいね)。

よーんなー 〈ゆっくり〉 【例】けーすしえ

ー よーんなーっし しむさ。(返すのはゆっ
くりでいいよ)。むのー よーんなー かめー。
(食べ物はゆっくり食べなさい)。くるまー よ
ーんなーどう あっかすし どー。(車はゆっ
くりと走らせるのだよ)。

わ

わかってーん 〈若々しく〉 【例】くぬ
むらぬ うとうすえー はるしくち さい む
えー さいっし わかってーん そーん。(こ
の村のお年寄りはお仕事をしたり模合をしたり
して若々しい)。

わじゃっとう 〈故意に〉 【例】あれー
わかとーてい わじゃっとうどう あん そー
がやー? えーねー、わからんぬどう そーが
やー? わからんぬどう あん しえーる む

ん やらー、ぬびり よー。(あの人は分かって
いて故意にそうしているのか。それとも分から
なくてそうしているのか。わからなくてそうし
ているのなら、斟酌しなさいよ)。

わじゃわじゃ 〈わざわざ〉 【例】いらん
ていん しむるむんぬ、わじゃわじゃ いーっ
んぢやち むんどー などーん。(言わなくて
もいいのに、わざわざ言い出して問題を起こし
ている)。

う え

う えーう えー 〈わーわー〉 【例】まーが

なぬ わらびぬ うえーうえー なちよーん
やー。(どこかの子がわーわー泣いているね)。

ん

んじゃんじゃーとう 〈思いっきり、ずけずけと〉 【例】 うっくるび んじゃんじゃーとう ふいさぬ かー はちゃん。(転倒して思いっきり足の皮を擦りむいた)。ゆくしむに一っし すーんかい んじゃんじゃーとう ぬらーったん。(嘘をついて父親に思いっきり叱られた)。

んちゃ 〈本当に、なるほど〉 【例】 んちゃ っやーや うんなくとう すてーさ やー。(本当にあなたがそんなことをしでかしたんだね)。んちゃ あん やさ。(本当にそうだよ)。

～んなーら 〈早く〉 【例】 あさ んなーら (朝早く)、あかちち んなーら (夜明け前の早く)、していみてい んなーら (早朝早く)。

っん

っんぢはなに 〈出たとたんに〉 【例】っ
んぢはなに でんわぬ なてい、まーからがや
ーんでい うむてい あわていてい むどうた
ん。(出かけようとしているところに電話が鳴
って、どこからかと思ひ急いで戻った)。

っんまがさがさくまがさがさ 〈あち

こちを忙しく〉 【例】にーけーんかい しま
どーる っちよー っうえんちゆう めぬむ
ん。ゆる につかまでい っんまがさがさくま
がさがさ ほーちかち そーん。(二階に住ん
でいる人はネズミと一緒に。夜遅くまであちこち
を忙しく掃除をしている)。

附録

1 沖縄語の拍

沖縄語における拍を表にする。ここでは、日本語から借用した語彙にしか見られない拍は除く。「新たに仮名を創り出すことはできる限り避ける」という大前提のもとで、日本語の歴史的仮名遣いにおける「ゐ」(wi)、「ゑ」(we)を使って、沖縄語では「ゐ」(ji)、「ゑ」(je)として表わすことにする。「ゐ」、「ゑ」がそれぞれ漢字「為」、「恵」と関係づけられるし、日本語の「わ」行「い」段と「え」段が沖縄語の「や」行「い」段と「え」段と対応することからは両言語の同一系統関係も見えて来る。「をう」については『那覇の方言』(1994)以来、今なお幅広く採用されている。「じ」、「ぢ」については3.5.4節を参照。表1に加えて、詰まる音「っ(k, p, t, s, ʃ)」があり、破裂や摩擦をともなう同一の無声子音(すなわち、無声阻害音)の前で一拍を保持する。

声門破裂音「っ(?)」で始まる拍は、きこえ音(すなわち、有声非阻害音)と共に語頭においてのみ見られる。母音で始まる語は、実際のところ「っあま」(あそこ)のようになっているが、語頭における母音の前では「声門破裂音「っ(?)」が表記上簡略化され得ることについては、3.5.5節を参照。語頭における「っ(?)」は「っやー(?jaa)」(君、お前)、「っわー(?waa)」(豚)、「っんま(?mma)」(馬)などの語にみられる。

一方、「いやー」「うわー」の表記も度々散見される。その語頭音表記の「い」「う」については、(イ)実際は声門破裂音という子音にもかかわらず母音的な表記になっていることと、(ロ)沖縄語は二連続子音(?j, ?w)や三連続子音(?mm, nnd)を語頭に許すという点で音声配列において日本語とは明白な違いがあるにも関わらず、それを無視しているということと適切ではない。さらに、(ハ)新たな表記を創り出すこと(ここでは語頭だけに限られる小書きの「い」「う」)はできるだけ避けるという点においても好ましくない。それに、(ニ)「っんま」は認めているのに、「っやー」「っわー」は認めないというのであれば、一貫性に問題があると言わざるを得ない。日本語では「いやー、まいった」「うわー! すごい」のように母音を使って表記するのは、語頭においては子音連続を許さないという音声配列上の特性によるものなので、「いやー」「うわー」は日本語式表記の安易な踏襲でしかない。

2 沖縄語の表記法(要約)

沖縄語の表記にあたっては、以下の事項を基本とする。

1. 平仮名を基本とするが、人名、動植物名、料理名、伝統行事名、外来語などには片仮名を用いることができる。《例》ナビー、ムーチャー
2. 音引きを表わす記号として「ー」を採用する。《例》ていー(手)、じゅーしー(雑炊)、じょー(門)
3. 詰まる音は、小書きの「っ」で表わす。《例》っくわ(子)、っちゅ(人)、っんむ(芋)、うっさ(それだけ)

表 1: 沖縄語の表記法

あ (a)	い (i)	う (u)	え (e)	お (o)	は (ha)	ひ (çi)	-	-	ほ (ho)
か (ka)	き (ki)	く (ku)	け (ke)	こ (ko)	ひゃ (ça)	-	ひゅ (çu)	-	ひょ (ço)
が (ga)	ぎ (gi)	ぐ (gu)	げ (ge)	ご (go)	ば (ba)	び (bi)	ぶ (bu)	べ (be)	ぼ (bo)
さ (sa)	し (ji)	す (su)	-	そ (so)	びゃ (bja)	-	びゅ (bjü)	-	びょ (bjo)
しゃ (ja)	-	しゅ (ju)	しえ (je)	しよ (jo)	ぱ (pa)	ぴ (pi)	ぷ (pu)	ぺ (pe)	ぽ (po)
じゃ (ça)	じ (çi)	じゅ (çju)	じえ (çe)	じよ (çjo)	ま (ma)	み (mi)	む (mu)	め (me)	も (mo)
ぢゃ (ça)	ぢ (çi)	ぢゅ (çju)	ぢえ (çe)	ぢよ (çjo)	みゃ (mja)	-	みゅ (mju)	-	みょ (mjo)
ちゃ (tja)	ち (tji)	ちゅ (tju)	ちえ (tje)	ちよ (tjo)	や (ja)	ゐ (ji)	ゆ (ju)	ゑ (je)	よ (jo)
た (ta)	てい (ti)	とう (tu)	て (te)	と (to)	ら (ra)	り (ri)	る (ru)	れ (re)	ろ (ro)
だ (da)	でい (di)	どう (du)	で (de)	ど (do)	わ (wa)	うい (wi)	をう (wu)	うえ (we)	を (wo)
な (na)	に (ni)	ぬ (nu)	ね (ne)	の (no)	くわ (kwa)	くい (kwi)	-	くえ (kwe)	-
にゃ (nja)	-	にゅ (nju)	-	によ (njo)	ぐわ (gwa)	ぐい (gwi)	-	ぐえ (gwe)	-
ふあ (fa)	ふい (fi)	ふ (fu)	ふえ (fe)	-	ん (n, m, ŋ)				

表 2: 沖縄語の表記法 (声門閉鎖音)

っあ (?a)	っい (?i)	っう (?u)	っえ (?e)	っお (?o)
っゃ (?ja)	-	っゅ (?ju)	-	-
っわ (?wa)	っうい (?wi)	-	っうえ (?we)	-
っん (?n, ?m)				

4. 「ぢ」と「じ」を区別する。《例》ぢー（地）、じー（字）：みーぢん（新しい服）、みーじん（新札）：にぢゆん（握る）、にじゆん（耐える）
5. 母音で始まる語の場合には、常に詰まる音「っ」をとみなうので、その「っ」は表記しない。《例》いん（犬）、あま（あそこ）
6. 「わ」行音に「うい」「うえ」「をう」を加える。《例》ういなぐ（女）、っうえーきんちゆ（金持ち）、をうん（居る）
7. 「や」行音に「ゐ」「ゑ」を加える。《例》ゐー（結、絵、良い）、エイサー
8. 「くあ」ではなく、「くわ」で表わす。《例》シークワサー
9. 使用する漢字は、語源的な正確さは求めずに現代語における漢字表現にし、その場面に応じて最も適切な意味を表わす漢字を選んで、必要があればルビを振る。《例》顔、装い、美ら海、清らさん
10. 送り仮名は、一貫性を原則とするが、それよりも読み易さを優先する。《例》来ゆーん、来ゃん、来よーん、っ来、話物語い、話し聞ちゆん、話すん、語ゆん：願事、神願げー
11. 上記10の原則に従い、音引き「ー」は仮名に続くものとし、漢字に直接は続けない。《例》山まー、x山ー
12. 上記11における送り仮名の実行ができない場合に限って、音引きを実際の母音「あ」「い」「う」「え」「お」のいずれかで表わす。《例》来い？、来うん
13. 文や節の切れ目を表わす句読点「、」「。」の他に、疑問符「?」、感嘆符又は間投符「!」を用いる。

3 沖縄語の表記法（解説）

3.1 表記法の必要性について

表記法とは、ことばを文字で書き表わす際の決まりをまとめたものである。世界には文字をもたない言語も数多いことから、言語とはもとより話し言葉で、音声を媒介とする。話し手の口を通して聞き手の耳に伝わるのが音声なので、音声は何度使用してもその場には残らないで消えていく性質のものである。それで、原則として、音声言語にはまず特定の話し手が居て、特定の場面を共有する聞き手の存在が想定される。一方、文字を媒介とする書き言葉であれば、書き手が読み手を選ぶこともないし、書き手と読み手が共有する特定の場面を選ぶこともしないので、書き言葉は誰でもいつでもどこでもその言語と接する機会を提供する。その点において、文字を媒介とする書き言葉はすぐれている。

言語は、単なる意思伝達的手段ではなく、先祖代々受け継がれてきた暮らしの知恵、それに根ざした価値観、そこから生まれた芸能・芸術などの文化の基盤であり、そのなかで培われたアイデンティティー形成とも深くかかわっている。どのような言語でも記録しないことには後世に残せない。「しまくとぅば」は、琉球列島においてこれまで一千年以上にわたり先祖代々受け継いできた伝統的なことばであるが、これまでは書き言葉が確立していない。それで、その言語文化を正しく記録し後世に残すには、その地で醸成された言語の独自性をできるだけ正確に表記しておく必要である。現在は書き言葉がないために、誰でもいつでもどこでも伝統的なしまくとぅばと文字を媒介として接するという機会を生み出すこともなく、個別の独立言語として日本語、中国語、英語などとも対等に肩を並べることもできないままである。

3. 沖縄語の表記法（解説）

2009年2月21日にユネスコ（UNESCO）が発表した危機言語のなかに、琉球諸語の奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語が加えられ、しまくとぅばが独立した言語だとの見解が示されているので、琉球諸語はすでに世界の言語の仲間入りをしている。日本語とは姉妹語の関係にあり、日本語の方言では決してない。そのことを裏付けるように、国立国語研究所とドゥ・グロイター・ムートン社が提携して2015年に出版された『Handbook of the Ryukyuan Languages—History, Structure, and Use』（1-723頁）を通して、世界の言語学の舞台に初めて琉球諸語として登場している。

県民が祖先から受け継いだ伝統文化に対する誇りと自信を持ちながら、文化交流や翻訳などを通して他の言語文化との共存・共栄を押し進めていくためにも、文字を媒介とする書き言葉は何としても必要である。その文字がたとえ日頃から慣れ親しんでいる仮名や漢字を用いたとしても、歴史や暮らしや文化が違えば、その意味するところもはっきりと違ってくる。例えば、日本語という借り物による「森の川」や「首里城正殿」ではものごとが正確には伝わってこない。羽衣伝説発祥の地は「杜ぬ湧泉」、首里城内の歴史的建造物は「御百浦添御殿」とすべきところである。単語一つをとってもこのような明確な違いがある以上、沖縄語独特の単語と単語の組み合わせ方に基づく文章表現ともなれば、独自のものの見方考え方は沖縄語の世界でしか表現できないのは明らかである。それで、「組踊」などの世界文化遺産であれば、借りものの日本語ではなく沖縄語で直接「組踊」で登録すべきである。沖縄語の内容紹介によって、沖縄の文化の一部であることを広く世界に知らしめることができるので、そこには大きな意義がある。このように、日本語という借りものの器では私達の伝統も文化も十分に盛ることができないため、沖縄語独自の表記法による書き言葉を確立する必要がある。

言語そのものや、言語を基層とする伝統文化を正しく教えるには教材が必要になるが、文字なくして教材は作れない。それに、抽象的で精神的な事柄を昇華させていくのには一過性の音声言語では即座にまとめ切れないので、推敲を重ねていく機会を創り出すための手段として文字化が必要になってくる。以上のように、文字を媒介とする沖縄語の書き言葉は、伝統文化を正しく記録し後世に残すことを可能にするだけでなく、主要な世界の言語や文化との対等な関係を確保し、暮らしや文化の中により深く浸透してアイデンティティ形成に寄与し、その言語を学習する有効な手段を与えるばかりでなく、味わい深くて豊かな言語表現や抽象的な概念を新たに創り出す手段を提供してくれるという意義をもつものである。

3.2 沖縄語の本表記法について

本表記法は、NPO 沖縄語普及協議会（編）（2010）にほぼ基づくが、玉那覇（2015）も参考にしている。『竹取物語』を沖縄語に翻訳し、本表記法を実践した読み物に宮良（2019b）がある。

3.3 「沖縄語」とは？

「沖縄語」とは、沖縄本島中南部地域において千年以上にわたり受け継いできた伝統的なことばが指し、「沖縄語」と書いて、「うちなーぐち」と読むことにする。

3.4 本表記法の目的

以下に提案する表記法は、原則として、意思を表明し、状況や出来事を説明・報告・伝達することを目的とし、音数律を基調とする琉歌とか、その他の特別な意図がある場合は除く。

3.5 仮名表記法の解説

沖縄語の仮名表記法を定めるにあたって、以下の5つの原則を基準とする。

- 原則1 表音性
- 原則2 一貫性
- 原則3 簡潔性
- 原則4 親しみ易さ
- 原則5 使い易さ

表音性とは、音声をいかに客観的に表わしているのかという原則である。音声記号¹さえ用いれば最も望ましい表記が達成できるのは当然であるが、それでは普及は望めないで、

音声記号は用いなくてもいかに仮名を工夫すれば、《音声記号による表記の達成度に近づけられるのか》

すなわち、表音性を第一の原則としている。また、今後の幅広い普及につなげるためには、上記の原則4、5により、ワープロなどで変換が容易な文字にし、変形文字に限らず新たに考案された仮名の使用や、細かな記号化などは避ける。

以下に表記の基本的な事項を列挙する。

3.5.1 仮名書き

平仮名を基本とするが、人名、動植物名、料理名、外来語などには片仮名を用いることができる。例として、「ナビー」「ハブ」「フーチバー」「ムーチャー」「チャンプルー」など。

3.5.2 音引き「ー」

音引きを表わす記号として「ー」を採用する。「うちなー」のように音引きの「ー」を使い、「うちなあ」「うちなぁ」のようにはしない。

(理由1) 語尾の母音を引き延ばすことにより人やものを表わす語を造りだすという規則性を「ー」で簡潔に表記できる。それで、「しま」「ちゅらかーぎ」「ゆんたく」「やまとう」から、「しまー」「ちゅらかーぎー」「ゆんたくー」「やまとうー」ができる。しかし、音引きの「ー」を使わなければ、「しまあ」「ちゅらかあぎい」「ゆんたくう」「やまとうう」のようになり、その規則性を簡潔に表わせない。

(理由2) 「ー」を使わない表記は表音性と一貫性を欠く場合がある。例えば、日本語の「おうとう」（応答）における「う」の表記の仕方は、「おとうさん」「よもう」「とうきょう」における「う」と同じだが、実際の発音は「う」ではなく「お」なので、表音性に問題がある。さらに、「おう（とう）」における「おう」は「おお（きい）」（大きい）における「おお」と同じ発音であり、「（おう）とう」における「とう」は「とおす」（通す）、「とおい」（遠い）における「とお」と同じ発音なので表記の仕方が一貫していない。それで、日本語の平仮名表記におけるこのような側面をそのまま踏襲するのは賢明ではない。

¹音声記号とは、言語音の発声メカニズムや音声そのものを研究する分野（すなわち、音声学）で用いられている記号である。どのような言語音でも音声記号で表わすことができるように工夫されていて、言語学では広く支持されている記号である。

(理由3) 「にー」(荷)、「ていー」(手)、「ふえー」(南風)、「ふー」(幸運)のように、「ー」で終わる語は少なくとも二拍になるので、「助詞の一部を除き、自立語はすべて2拍以上から構成される」という沖縄語における音配列上の特徴を音引きの「ー」は簡潔にとらえている。

(理由4) 理由3と関連して、音引きを使わない「いいあすん」(談合する)よりも、「いーあーすん」の方が読み易くて、親しみ易い。

(理由5) 「でいーぐ」(デイゴ)、「しえーく」(大工)は、「ー」を用いないと「でいいぐ」、「しええく」のようになるので、親しみ易さに難がある。

3.5.3 小書きの「っ」

詰まる音は、小書きの「っ」で表わす。語や不定詞の出だしでは、次のように(イ)同一子音が重なる場合に詰まる音「っ」が現われる。

- (1) 「っちゅ」(人)、「っくわ」(子)、「っし」(で/して)、「っち」(来て)

さらに、(ロ)語頭において半母音や鼻音が声門破裂音をともなう場合である。

「っやー」(お前) (参照:「やー」(家))

- (2) 「っわー」(豚) (参照:「わー」(私))

「っんに」(稲) (参照:「んに」(胸))

他にも、「っわーび」(うわべ)、「っわーちち」(天気)、「っわーすん」(成長させる)などがある。さらに、「んーちゃ」(土)、「んーす/んす」(味噌)、「んかし」(昔)、「んぢゃさん」(にがい)などに対立して、声門破裂音で始まる「っんま」(馬)、「っんぶしー」(料理名)、「っんむ」(芋)、「っんぶさん」(重い)、「っんぢゃすん」(出す)などがある。詰まる音「っ」とは、(イ)では破裂や摩擦をともなう子音(すなわち、阻害音)が同一子音連続(C₁C₂)を形成する際の頭子音(C₁)であり、(ロ)における声門破裂音は阻害音を除く音声(鼻音、半母音、母音)の直前にあらわれている。このように、(イ)の阻害音と、(ロ)の阻害音以外の音声(=きこえ音)はお互いに重なり合うことのない相補分布を成しているので、「っ」の表記が(イ)の阻害音か、(ロ)の声門破裂音のどちらなのかは音声環境から常に予測できる。それで、(イ)と(ロ)の両者を同一仮名「っ」(詰まる音)として表記することに関しては、言語学的な見地からも特に問題はない。

3.5.4 「ぢ」と「じ」

「ぢ」と「じ」を区別する。沖縄語における「ち」に連濁が適用された場合には、連濁の他の事例と同様、次のように「ぢ」を表記する必要がある。

- (3) イ 「ちる」(臆)、「あどうぢる」(アキレス臆)「ちゃー」(茶)、「かたぢゃー」(濃い茶)「ちち」(月)、「ゆんぢち」(閏月)

ロ 「ちん」(衣/着物)、「ちゅらぢん」(美しい着物)「ちむ」(心)、「ちゅらぢむ」(きれいな心)

沖縄語における「ち」/「ぢ」は、(3-イ)のように日本語の「た」/「だ」行子音に由来するものだけでなく、(3-ロ)のように「か」/「が」行子音(きぬ、きよらか、きも)に由来するものもある。それで、沖縄語の「ちち」(月)のように大和ことばの「つ」にも「き」にも一般的に「ち」が対応するので、「ぎしき」の場合には、一貫性からすると「じしち」ではなく「ぢしち」(儀式)にすべきである。仮に、「じしち」にすると、

「き」との対応は「ち」なのに、「ぎ」との対応は「じ」となってしまうので、一貫性が維持できない。同様に、「みがく」の「が」に対応するのは「んじゃちゅん」ではなく「んぢゃちゅん」（磨く）にすべきである。以上のように、大和ことばの「か／が」行音に由来する場合にも「ち／ぢ」にすべきである。

さらに、表示上の一貫性を維持するという積極的な理由で、「じゃ」ではなくぢゃ」が選択される場合がある。過去形の「とうたん」（取った）、「ぬだん」（飲んだ）、「かちゃん」（書く）では、「～た(ん)」「～だ(ん)」「～ちゃ(ん)」で終わることから、「はじゃん」ではなく「はぢゃん」（剥ぐ、配る）にすべきである。そうすれば、〈過去時制は「た」「だ」「ちゃ」「ぢゃ」のいずれかで表示される〉という一般性を確保できる。

一方、上述の(3-イ)や(3-ロ)のような場合とは違って、(4)のように「ぎ」行子音に由来するものには「じ」を用いる。

- (4) 「じゃー」（座）、「じゃー」（蛇）、「じぶん」（時分）、「じゅーぐやー」（十五夜）、「じゅーしー」（雑炊）、「じゅーばく」（重箱）、「じっちやく」（勢理客）、「じょー」（門）、「じゃーふえー」（やっかいなこと）、「じこー」（ひどく）、「じょーい」（どうてい）、「じんとー」（本当）、「んーじゅ」（溝）

(3)と(4)における「じ」と「ぢ」では実際の発音には変わりはないので表音性に難があるのは認めるが、上記の「ぢ」と「じ」の遣い分けは、大和ことばとの系統性と関連づけながら親しみ易さを損なうことなく、動詞活用に関する表示上の一貫性を維持できる点で優れている。

その結果、「ぢー」（土地、地面）と「じー」（字）、「みーぢん」（新しい着物）と「みーじん」（新しいお金）、「にぢーん」（握る）と「にじーん」（我慢する）などの区別ができるようになるので、本表記法のメリットとして生かすことができる。

3.5.5 「っ」の省略

母音で始まる語の場合には詰まる音「っ」をともなうことが常に予測されるので、その「っ」は省いて簡素化する。「っいん」、「っあん」、「っうむゆん」のように、沖縄語では‘母音で始まる語’の場合は常に「っ」がともなう。例えば、‘沖縄県内’の電話番号（098-xxx-xxxx）における（098-）は常に予測できるので、簡素化して省略しても通話するのにまったく支障がない。それと同様に、‘母音で始まる語’の「っ」の場合は簡潔性の原則を適用して、「いん」（犬）、「あん」（在る）、「うむゆん」（思う）のように表記することで親しみ易くする。このような‘予測可能な余剰の特徴’は一般的な言語分析においても簡素化の対象となる。

3.5.6 「わ」行配列

「わ」行音に「うい」「うえ」「をう」を加える。例として、「ういなぐ」（女）、「ういきが」（男）や、「っうえんちゅ」（ネズミ）、「っうえーか」（親戚）や、「をうどうい」（踊り）、「をうない」（姉妹）、「をうとう」（夫）、「をうーじ」（さとうきび）などがある。それにより、「をうらん」（居ない）と「うらん」（売らない）も区別できる。「ウィスキー」の例からも、親しみ易く、使い易さがあると思われる。

3.5.7 「や」行配列

「や」行音に「ゐ」「ゑ」を加える。大和ことばにおける「ゐ」「ゑ」は本来「わ」行音であったが、沖縄語では「や」行音として採用する。例として、「ゐー」（絵、結）、「ゐれー」（座れ）、「ゐーむん」（もらい物）、「ゐぬむん」（同じもの）、「ゐーゐー」（いいえ）： 「エイサー」（盆踊りの一種）、「ゑーま」（八重山）「ゑいが」（映画）、「ゑんぴつ」（鉛筆）などがある。

3. 沖縄語の表記法 (解説)

現在動詞形「とうゆん」(取る)や「はじみゆん」(始める)の語尾「~ゆん」は、時と場合によって「とうみん」、「はじみーん (=はじみいん)」である。その場合、語尾に限っては「ゐ」と「い」の違いは余剰的なので、簡潔性を考慮して広い分布をもつ「~いん」で統一できる。

結果として、「ゐん」(縁)と「いん」(犬)、「ゐれー」(座れ)と「いれー」(入れ)が区別でき、3.5.6節に基づき「ゐーゆん」(もらう)と「ういーゆん」(酔う)の区別や、「ゐーちゅ」(善い人)と「ういーとーるちゅ」(酔っぱらっている人)と「っういーとーるちゅ」(年老いている人)などの区別もできるようになる。

3.5.8 「くわ」

「くあ」ではなく、「くわ」で表わす。どちらかと言うと、「シークワサー」(ヒラミレモン)、「まやーぐわー」(愛猫)の方がこれまで親しまれているとの理由で、「シークァーサー」「まやーぐあー」とはしない。「くい」「くえ」と対比するとき、「くあ」の表記の方に一貫性はあるが、親しみ易さをここでは優先している。

3.5.9 その他

上記以外は標準日本語における仮名表記法に準ずる。

漢字と仮名を混ぜた表記 漢字を使うことによって、「ちー」(血/乳/気)や「ちちゆん」(聞ちゆん/付ちゆん/着ちゆん/効ちゆん)のような同音異義語を区別できるだけでなく、「車やれー、何やていん済むさ。」(車であれば、何だっつかまわない)のように語、句、節を区切ることができる。それに、沖縄語では日本語の「を」のように目的語の表示がないために、「縞糸間違ぐな」「動物ぬ命大切にすん」は「縞糸 間違ぐな」「動物ぬ命 大切にすん」のようにすれば読み易くなるので、日本語と比べて分かち書きが多くなるのは言語の違いから当然である。漢字の使用については、まず読み易さが基本である。

原則6 読みやすさ

その原則に基づき、どの漢字をあてるのか、ルビと送り仮名をどうするのかを以下に示す。

3.5.10 漢字とルビ

漢字を使用する場合は、語源的な正確さは求めないで、現代日本語における漢字の意味表現にならって、その場面に最も適切な意味を表わす漢字にする。ルビは原則として必要な場合にのみ振る。「ちら」「とうじ」「ちん」「ぐすーよー」に対しては、語源的にはそれぞれ「面」「刀自」「衣」「御総様/御衆様」であろうが、現代語的な漢字表現の「顔」「妻」「着物/服/衣服」「皆様」のようにする。「ちゅらさん」にしても、語源的には「清らさん」であろうが、「美ら海」「美ら容姿」「美ら装い」「清ら装い」「清ら泉」のように漢字を当てたり、「容姿」、「美貌」、「美人」、「今帰仁美人」、「杜ぬ湧泉」、「井戸」のようにルビを振る。「清ら肝」よりも、語源を追求しない「清ら心」の方が解りやすいことになる。「ちむぐる」に対しては、語源を追求した「肝心」よりも、「ちむ心」とか「肝ぐる」のようにして読み易くする。「うふっちゅ」については、時と場合により「大人」「成人」などが可能となる。

さらに、「伝統」は「んかしゆじり」、「協力」は「ちむじゅりー/ちむあーし」、「新聞」は「じーがみ」、「文化」は「ていーかた」等のような工夫も今後は必要になるだろう。

沖縄語における「くち」は「くちぬ解らん」(ことばが通じない)、「くち追ゆん」(ことばを追いかけて現実となる)などの他に、「やまとうぐち」(大和語、日本語)、「ウランダぐち」(西洋語、オランダ語)、「アミ

リカぐち」（米語）からも分かるように、「うちなーぐち」における「ぐち」は語やことばを表わしている。それで、「沖縄口」ではなく、「沖縄語」にする。

3.5.11 送り仮名

送り仮名は、一貫性を原則とするが、それよりも読み易さを優先する。「明り」「明るい」「明ける」「夜明け」、「話」「話す」、「恥」「恥ずかしい」の場合のように、日本語では一貫性よりも読み易さを優先している。沖縄語でも同様に、「昔話」との対比から「願事」も考えられるが、その一方で「話聞ちゅん」では読みづらいので、「話すん」「語ゆん」との対比から「話し聞ちゅん」にすれば読み易くなる。さらに、時と場合によっては、「作法習れー」との対比から読み易さを優先して「話物語い」「神願げー」なども考えられる。

3.5.12 漢字と送り仮名

音引きの「ー」は原則として仮名に続き、漢字に直接は続けない。ただし、小書きについてはその限りではない。「山や」が縮約されて「やまー」になるときは、読み易さを第一に考えて「やまー」のように表わし、「山ー」のようにはしない。音引き記号自体は一般に表音文字として仮名の母音部分を引き伸ばす表記なので、そのような音声情報を本来の目的としない表意文字の漢字には直接「ー」で送らない。それにより、「山まー」におけるルビは「や」だけにはなるが、読み易くなる。漢字に続く小書きの例として、「歩っちゅん」「来やん」「来ゆーん」「来よーん」「来えーさ」などが考えられる。

3.5.13 音引きと送り仮名

前節における送り仮名の実行がどうしてもできない場合に限って、音引きは実際の母音「あ」「い」「う」「え」「お」のいずれかを用いる。例えば、「ちー？」（来たか）のように、「来」にルビ「ち」を振ると「ー」が直接続いて「来ー？」になるような場合に限って、「来い？」（来たか）と表記する。他にも、「何んでい言いたが？」（何と言ったか）、「来うん」（来ない）、「来うわ」（来なさい）などが考えられる。

仮に「言たが？」（言ったか）にすると、「言ちゃん」（言った）、「言らん」（言わない）のような本来の読みの「言」に基づき「いたが？」と読んでしまう恐れがある。それで、「言たが」のような、本来の読みの「言」の反例を作り出すことは避けて、「言いたが」にする。

3.5.14 句読点、符号

文や節の切れ目を表わす句読点「、」「。」の他に、疑問符「?」、感嘆符又は間投符「!」を積極的に用いて、読み易くする。例として、疑問文「ちゃっさ儲きてい来やが？」や、感嘆文「くぬすばーあんし美味さる!」があり、事実を述べたてる文「仁王や仕事んかい行ぢゃん。」と対比される。

参照文献

- 外間美奈子 (1994) 「那覇方言の音声資料の収集とテキスト化」, 沖縄言語研究センター (編) 『那覇の方言 I』
沖縄言語研究センター研究報告 3, 16-168 頁.
- 金城和彦 (1997) 『沖縄の昔面影』, 那覇: 那覇出版社.
- 国立国語研究所 (編) (1963) 『沖縄語辞典』 大蔵省印刷局.
- 宮良信詳 (2019a) 『うちなーぐち しくみと解説』 那覇: 沖縄時事出版.
- 宮良信詳 (2019b) 『竹取やー御主前ぬ物語』 那覇: 琉球新報社.
- NPO 沖縄語普及協議会 (編) (2010) 「沖縄語の仮名表記法」 創立十周年記念誌 『世界報』, 73-78 頁.
- 玉那覇朝子 (2015) 『うちなーぐちぬ羅針盤』 那覇: でいご印刷.
- 月野美奈子・島田優子 (1994) 「沖縄芝居脚本のテキスト化」, (真喜志康忠作「多幸山」, 「くちなしの花」
の脚本), 沖縄言語研究センター (編) 『那覇の方言 III』 沖縄言語研究センター研究報告 5, 1-234 頁.
- 山内範正 (2008) 『百ぬ琉歌ぐるる 第二集』, 名護: うらわ印刷.

NINJAL Language Variation Division

10-2 Midori-cho Tachikawa City, Tokyo, 190-8561 JAPAN

Dictionary of the Practical Use of Okinawan

Author: Shinsho Miyara

Published in Tokyo, Japan by Language Variation Division, National Institute for Japanese Language and Linguistics

Printed in Tokyo, Japan by Junbunsha

うちなーぐち活用辞典

発行日	2021年3月26日(初版)
著者・編者	<small>みやら しんしょう</small> 宮良 信詳
出版者	国立国語研究所 言語変異研究領域 190-8561 東京都立川市緑町 10-2 0570-08-8595 https://www.ninjal.ac.jp
印刷所	絢文社
ISBN	978-4-910257-06-8 C3581
